高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成１９年６月

高松工業高等専門学校

目　次

Ⅰ 高等専門学校の現況及び特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ 目的・・ 2

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
基準２　教育組織（実施体制）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
基準３　教員及び教育支援者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
基準４　学生の受入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
基準５　教育内容及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
基準６　教育の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
基準７　学生支援等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285
基準８　施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 441
基準９　教育の質向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 471
基準 10　財務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 551
基準 11　管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 563

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

1　現況

（1）高等専門学校名

高松工業高等専門学校

（2）所在地

香川県高松市

（3）学科等の構成

学科：機械工学科、電気情報工学科
制御情報工学科、建設環境工学科

専攻科：機械電気システム工学専攻
建設工学専攻

（4）学生数及び教員数（平成１９年５月１日現在）

学生数

本科：機械工学科		２１０人
電気情報工学科		２０４人
制御情報工学科		１９９人
建設環境工学科		１８４人
	計	７９７人
専攻科：		
機械電気システム工学専攻		４７人
建設工学専攻		１１人
	計	５８人

教員数

専任教員		６０人
助手		２人
	計	６２人

2　特徴

高松工業高等専門学校（ 以下「本校」という。）は、国立高専の１期校として昭和３７年４月に設置された。当初は、機械工学科（２学級）、電気工学科（１学級）の２学科構成であったが、昭和４１年には土木工学科が増設され、平成２年には、機械工学科１学級を改組し制御情報工学科が新たに設置された。平成６年には土木工学科を建設環境工学科に改組し、平成１３年には電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。平成１１年には準学士課程卒業生を対象に高度な技術者教育を実施する、機械電気システム工学専攻（３コース）及び建設工学専攻の２専攻（４コース）からなる専攻科が設置された。平成１７・１８年度には専攻科の機械工学コース、電気情報工学コース、制御情報工学コース、建設工学コースの各コースに対応した４つの技術者教育プログラムがＪＡＢＥＥ（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、国際的な学士課程レベルの教育が行われていることが認められた。

本校は、香川県内唯一の工科系高等教育機関として創設されたこともあり、当初から地域に根ざし、産業界のニーズに応える創造性豊かな実践的技術者の育成に努めてきている。

教育面では、校訓である「自彊・独創・和敬」の教育理念のもとに、Ａ　広い視野と技術者としての倫理観（倫理）、Ｂ　科学技術の基礎知識と応用力（知識）、Ｃ　課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）、Ｄ　論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）の４つの学習・教育目標を掲げ、これらを身につけた我が国の目指す科学技術創造立国の一翼を担う優れた技術者の育成を目指している。

技術者を目指す学生の総合的な人間力を養うため、課外活動についても積極的に取り組んでおり、低学年の学生は高校総体や高校野球でも活躍するとともに、高専大会では多くの種目で全国大会にも出場するなど優秀な成績を収めている。また、国際社会で活躍できる技術者となるための一助とするため、１８年度からは地元企業の支援も受けて学生の海外語学研修も開始した。

研究面では、教育内容の改善向上を図り、新技術創成につながる基礎研究に積極的に取り組んでいるが、宇宙溶接技術の開発に成功するなど世界レベルの研究も行われている。

産業界との連携の面では、昭和６２年の高機能化技術教育研究センターの設置を契機として、技術交流会や高度技術者養成研修などを実施するとともに、共同研究や受託研究の推進、さらに企業との包括協定の下での技術者の指導など積極的な取組みを進めている。平成１７年度からは研究・地域連携推進室を設置して推進体制を整えた。

地域との連携・交流においても、近隣小・中学生を対象としたサイエンスフェスタや商店街でのミニサイエンスフェスタの開催、オープンキャンパス、中学校への出前授業の実施など、地域のニーズに応じて継続的に活動を行っており、好評を博している。

Ⅱ　目的

１．本校の使命

本校の使命は，準学士課程においては「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」こと，専攻科課程においては「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導する」ことである。

２．校訓（理念）

本校の校訓は「自彊・独創・和敬」であり，自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としている。

３．養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者を育成する。

４．本校の学習・教育目標

準学士課程及び専攻科課程を通じて，次に示す４つの学習・教育目標（大目標）を掲げている。

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）

（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

５．卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力

（１）準学士課程

前記の大目標のもと，準学士課程卒業までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【全学科共通】

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。

（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）

自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。

（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。

（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

【機械工学科】機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，課題に取り組み，考え解決することができる。

【電気情報工学科】　高度化・多様化するエレクトロニクス、情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ、論理的な思考により継続的に学習を行うことができる。

【制御情報工学科】　機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。

【建設環境工学科】　基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

（２）専攻科課程

前記の大目標のもと，専攻科課程修了までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【両専攻共通】

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。

（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）

自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる。

（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

自ら課題を発見して，自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。

（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。

【機械電気システム工学専攻】

機械工学コース：機械工学をベースとした幅広い知識を身につけ，自主的，継続的に技術的問題に取り組み，創意工夫して実践することができる。

電気情報工学コース：電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と，それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける。

制御情報工学コース：機械工学，電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と，それをメカトロニクス分野の「モノづくり」に応用する力を身につける。

【建設工学専攻】（建設工学コース）

構造物の耐震・耐久設計，防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して，準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける。

６．教育研究などの諸活動を行う上での基本方針

本校教職員は，本校の使命を果たし，学習・教育目標の実現に努める。次の基本方針のもとに教育研究などの諸活動を行う。

（1）学校全般の運営に関すること

①教育活動などを円滑に行うために，各種委員会を設置して企画・調整及び支援を行う。

②教員会議で全体的な意思疎通を図る。

（2）学生の学習・教育に関すること

①入学者受け入れ方針を掲げ，その方針に沿って学生の受け入れに努める。

②「学生による授業評価」，「シラバスの充実」，「教員相互の授業参観」などを実施し，授業改善に努める。

③学生に基礎学力を身につけさせるため，カリキュラム改善に努める。

（3）学生支援に関すること

①学生の心身の成長・発達のために，学生の自発的活動（学生会，クラブ，寮生活）のサポートや学生へのカウンセリングなどの教育的配慮に努める。

②学生の就職・進学の支援を行う。

（4）研究活動及び地域社会貢献に関すること

①教育内容を学術の進展に即応させるため，必要な研究が行われるように努める。

②研究活動や公開講座の開催を通して，地域社会に貢献する。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　目的として，高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の使命は学則に本校の目的として掲げており（資料１－１－①－１），教育理念として，「自彊・独創・和敬」の校訓 （資料１－１－①－２）を掲げている。これら使命及び教育理念を踏まえ，本校では平成１３年度に，「倫理」，「知識」，「実行力」，「コミュニケーション」の４項目から成る学習・教育目標を設定し（資料１－１－①－３），養成する人材像について提示するとともに（資料１－１－①－４），課程ごとに，卒業または修了時までに身につけるべき学力や資質・能力について具体的に定めている（資料１－１－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校では，学則において，高等専門学校の使命について明確に定めるとともに，学校としての教育理念や学習・教育目標，養成すべき人材像を定めているほか，卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力を定め，達成しようとしている成果等を明確にしている。

以上のことから，本校は，高等専門学校としての目的を明確に定めている。

資料１－１－①－１　本校の使命

高松工業高等専門学校学則（抜粋）

第１章　本校の目的

第１条　本校は，教育基本法の精神にのつとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第８章　専攻科

第41条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

（出典：高松工業高等専門学校学則）

資料１－１－①－２　本校の校訓

本校の校訓は，「自彊・独創・和敬」です。自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としています。

（出典：高松工業高等専門学校学校要覧）

資料１－１－①－３　本校の学習・教育目標

倫　理　…　広い視野と技術者としての倫理観
（本　科）社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。
（専攻科）人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。

知　識　…　科学技術の基礎知識と応用力
（本　科）自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。
（専攻科）自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる。

実行力　…　課題解決の実行力と豊かな創造力
（本　科）課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。
（専攻科）自ら課題を発見して，自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。
互いに協力しあって課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。

コミュニケーション　…　論理的なコミュニケーション能力
（本　科）自分の考えを日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。
（専攻科）物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校学校要覧）

資料１－１－①－４　養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者。

（出典：高松工業高等専門学校学校要覧）

資料１－１－①－５　卒業（修了）時までに身につけるべき学力や資質・能力

【準学士課程】

〔機械工学科〕

機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，与えられた課題に取り組み，考え解決することができる。

〔電気情報工学科〕

高度化・多様化するエレクトロニクス，情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ，理論的な思考により継続的に学習を行うことができる。

〔制御情報工学科〕

機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。

〔建設環境工学科〕

基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などになどに関する基礎知識を身につける。

【専攻科課程】

〔機械電気システム工学専攻〕

(機械工学コース)

機械工学をベースした幅広い知識を身につけ，自主的，継続的に技術的問題に取り組み，創意工夫して実践することができる。

(電気情報工学コース)

電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と，それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける。

(制御情報工学コース)

機械工学，電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と，それをメカトロニクス分野の「モノづくり」に応用する力を身につける。

〔建設工学専攻〕

(建設工学コース)

構造物の耐震・耐久設計，防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して，準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校各学科シラバス，教員の手引き）

観点１－１－②：　目的が，学校教育法第７０条の２に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。

（観点に係る状況）

本校では，学則において，「教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定めており，明確に学校教育法の規定を踏まえて規定されている。校訓に掲げる教育理念，学習・教育目標も本校の最上位の規定である学則に掲げる本校の目的を踏まえて定めている。養成する人材像や卒業時に身につけるべき学力や資質能力についても「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」という高専の目的に沿った内容となっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の学則に掲げる目的，校訓に掲げる教育理念，学習・教育目標，更には卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力についていずれも学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて定められている。

以上のことから，本校の目的は，学校教育法に規定された目的から，はずれるものではない。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，学校要覧（資料１－２－①－１）や本校ホームページ（資料１－２－①－２）に掲載している。日常の意識向上のため，学習・教育目標については，各教職員の名札や教室等へ掲示し（資料１－２－①－３），周知徹底を図るとともに，新任の教員に対しては，新任教員研修会において，非常勤講師に対しては，「非常勤講師との懇談会」において，周知を図っている（資料１－２－①－４）。また，学生に対しては，学生便覧（資料１－２－①－５）やシラバス（資料１－２－①－６）などに掲載するとともに，教室にも学習・教育目標を掲示し，周知徹底を図っている。新入生に対しては，オリエンテーションの中で，適切に指導・説明をしている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の目的については，学校要覧，本校ホームページ，学生便覧へ掲載するとともに，学習・教育目標については，教室にも掲示するなど周知を図っている。さらに，新規採用された教職員や非常勤講師に対しては研修会等において，新入生に対してはオリエンテーションにおいて説明等を行っており，いずれも，積極的に目的の周知が図られている。

以上のことから，本校の目的は，学校の構成員に周知されている。

資料１－２－①－１　本校の校訓，養成する人材像，学習・教育目標（学校要覧）

学習・教育目標

Educational Objectives

■校訓

本校の校訓は「**自彊**（じきょう）**・独創・和敬**」です。自ら努め励み（自彊）、豊かな創造性をもち（独創）、人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としています。

■養成する人材像

豊かな教養と広い視野、および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え、コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者。

■学習・教育目標

	〔本　科〕	〔専攻科〕
倫　理 … 広い視野と技術者としての倫理観	社会や文化に関心を持ち、社会人としての責任感と倫理観を養う。	人類、世界、文化に広く関心を持ち、視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち、責任感と倫理観を養う。
知　識 … 科学技術の基礎知識と応用力	自然科学と専門技術の基礎を身につけ、それを基本的問題に適用できる。	自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ、それを具体的問題に応用できる。
実行力 … 課題解決の実行力と豊かな創造力	課題に自発的に取り組み、創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。	自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者、創造力豊かな技術者になる。
コミュニケーション … 論理的なコミュニケーション能力	自分の考えを日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。	物事を論理的に考え、それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述、表現が行える語学力を身につける。



3 ● Takamatsu National College of Technology

（出典：2007年度高松工業高等専門学校学校要覧）

資料１－２－①－２　本校の校訓，養成する人材像，学習・教育目標（ホームページ）

学習教育目標

校訓

本校の校訓は「**自彊（じきょう）・独創・和敬**」です。自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としています。

養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者



学習教育目標

本　科	専　攻　科
倫理 … 広い視野と技術者としての倫理観　Engineering Ethics	
To be engineers with a broad range of views and interests in global matters and cultures.	
社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。	人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。
知識 ･･･ 科学技術の基礎知識と応用力　Knowledge	
Not only to have basic knowledge of science and technical skills but also to be able to apply them to practical problem solutions.	
自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。	自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる。
実行力 ･･･ 課題解決の実行力と豊かな創造力　Creative Designing	
To be always aware of technical problems, tackle them in cooperation with others and come up with creative solutions.	
課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。	自ら課題を発見して，自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。
コミュニケーション ･･･ 論理的なコミュニケーション能力　Communication	
Not only to be able to express ourselves logically in both spoken and written Japanese but also to be able to communicate in English.	
自分の考えを日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。	物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校ホームページ）

資料１－２－①－３　本校の学習・教育目標（名札，教室掲示）





資料１－２－①－４　本校の学習・教育目標（非常勤講師との懇談会）

非常勤講師との懇談会資料

平成１８年5月１０日
教務主事・学生主事

1.「教育理念」　：本校の教育理念は校訓：自彊　独創　和敬　に謳われている。
・自彊　：自ら努め励むことのできる人材の育成
・独創　：豊かな創造性をもった人材の育成
・和敬　：相互の和を尊び、互いに尊敬の念を抱きながら調和・協力する人材の育成

2.「学習・教育目標」：ＪＡＢＥＥ対応の学習・教育目標（全プログラム共通）
高松高専は５年間の一貫した教育により,豊かな教養と高度な専門技術を身につけた技術者を育成することを目的としています。学習教育目標として,次の４つを掲げています。
（1）広い視野と技術者としての倫理観(倫理)
人類,世界,文化に広く関心を持ち,視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち、責任感と倫理観を養う。
（2）科学技術の基礎知識と応用力(知識)
自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ,それを具体的問題に応用できる力を身につける。
（3）課題解決の実行力と豊かな創造力(実行力)
自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力し合　って課題に取り組める技術者,創造力豊かな技術者になる。
（4）論理的なコミュニケーション能力(コミュニケーション)
物事を倫理的に考えてそれを日本語の文章と口頭で表現できる力を身につける。
英語による基本的な記述、表現が行える語学力を身につける。

（出典：非常勤講師との懇談会資料）

資料１－２－①－５　本校の学習・教育目標（学生便覧）

学習・教育目標

高等専門学校は５年間の一貫した教育により，豊かな教養と高度な専門技術を身につけた技術者を育成することを目的としています。この目的を達成するために，学習・教育目標として，次の４つを掲げています。

(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。

(B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）
自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。

(C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。

(D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）
自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校学生便覧）

資料１－２－①－６　本校の目的（シラバス）

本校の目的

1．使　命

「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」(学則第１条)

2．校　訓（理　念）

「自彊・独創・和敬」

自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者。

3．養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者。

4．学習・教育目標（卒業時までに身につけるべき学力や資質・能力）

【全学科共通】

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。

（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）

自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。

（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。

（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

【機械工学科】

・機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，与えられた課題に取り組み，考え解決することができる。

【電気情報工学科】

・高度化・多様化するエレクトロニクス，情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ，理論的な思考により継続的に学習を行うことができる。

【制御情報工学科】

・機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。

【建設環境工学科】

・基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校各学科シラバス）

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）
本校の目的などはホームページに掲示するとともに，学校要覧などにより学外に公表されている。また，オープンキャンパスや地元の中学校などへの訪問の際には，学校要覧や学校案内などを配布して説明している。地元企業へは技術交流会等，企業が来校した際や企業訪問の際に学校要覧などを配布している。

（分析結果とその根拠理由）
適切である。
本校のホームページ及び学校要覧等に掲載するとともに，地元中学校や企業などに対しては様々な機会を通じて学校要覧などを配布し説明するなどしている。
以上のことから，本校の目的は，社会に広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
学校要覧，本校ホームページ，学生便覧へ掲載するとともに，各教職員の名札や教室にも掲げるなど，本校の構成員に周知を図るとともに，様々な機会を通じて外部にも広く公表されている。

（改善を要する点）
特になし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，学則において，高等専門学校の使命について明確に定めるとともに，学校としての教育理念や学習・教育目標，養成すべき人材像を定めているほか，卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力を定め，達成しようとしている成果等を明確に定めている。
これら，学則の規定をはじめとする本校の目的については，学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて定められており，はずれるものではない。
本校の構成員に対しては，学校要覧，本校ホームページ，学生便覧へ掲載するとともに，教室にも掲示するなど，積極的に周知を図っている。さらに，新規採用された教職員や非常勤講師に対しては研修会等において，新入生に対してはオリエンテーションにおいて説明等を行っており，本校の構成員に十分周知されている。
また，本校の目的は，ホームページ及び学校要覧等に掲載しているのをはじめ，オープンキャンパスや中学校訪問時の説明，各種行事の際などに資料の配布説明を行うなど，社会に対して，広く公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程は、「教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成すること」（高松高専学則第1条）を使命として掲げ，機械工学科、電気情報工学科、制御情報工学科、建設環境工学科の４学科で構成されている。（資料２－１－①－１）　本校の使命に述べた「職業に必要な能力」を具体化したものが，学習・教育目標（資料２－１－①－２）として規定されており，全学科共通目標と学科ごとの目標が定められている。この学習・教育目標を達成するために，教育課程（資料２－１－①－３）が編成され，学科ごとに「職業に必要な能力」を育成することができるようになっている。また，一般教育及び専門教育の専任教員構成（資料２－１－①－４）は，設置基準を満たすとともに，「深く専門の学芸を教授」できる構成となっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各学科は，学習・教育目標として「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」を定め，このために適切な教育課程をもつ学科で構成されている。また，「深く専門の学芸を教授」するための教員も適切に配置されている。

資料２－１－①－１　学科，学級数及び入学定員

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	４０人
電気情報工学科	1	４０人
制御情報工学科	1	４０人
建設環境工学科	1	４０人

２ 前項の規定にかかわらず，教育上有益と認めるときには，異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

（出典：高松高専学則）

資料２－１－①－２　学習・教育目標

学　　科	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力
全 学 科 共 通	(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理） 社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。 (B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識） 自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。 (C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力） 課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。 (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション） 自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。
機 械 工 学 科	機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，課題に取り組み，考え解決することができる。
電気情報工学科	高度化・多様化するエレクトロニクス、情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ、論理的な思考により継続的に学習を行うことができる。
制御情報工学科	機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。
建設環境工学科	基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

（出典：平成 19 年度シラバス）

資料２－１－①－３（１／３）　教育課程（一般教育）

別表第1

教　育　課　程

一般教育課（各学科共通）

区分	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	国語		7	3	2	2			
	文学		2				2		※
	社会	地理	2	2					
		歴史Ⅰ	2	2					
		歴史Ⅱ	2		2				
		公民Ⅰ	2		2				
		公民Ⅱ	2			2			
	数学	基礎数学Ⅰ	3	3					
		基礎数学Ⅱ	3	3					
		微分積分	4		4				
		代数・幾何	3		3				
		数学解析Ⅰ	3			3			
		数学解析Ⅱ	3			3			
	理科	物理・同実験	6	2	4				
		化学・同実験	5	3	2				
	保健・体育		10	2	2	2	2	2	
	芸術		2	2					音楽又は美術とする。
	外国語	English Ⅰ	4	4					
		English Grammar	2	2					
		English Ⅱ	3		3				
		English Reading	2		2				
		English Ⅲ	2			2			
		English Writing & Speaking	2			2			
		English Ⅳ	3				3		
	キャリア概論		1			1			1～3年で履修
	修得単位計		80	28	26	17	7	2	
選択科目	人文科学Ⅰ		2				2		1科目選択
	人文科学Ⅱ		2				2		
	人文科学Ⅲ		2				2		
	ドイツ語Ⅰ		2			2			1科目選択
	TOEIC Listening		2			2			
	TOEIC Reading		2			2			
	ドイツ語Ⅱ		2				2		
	環境化学		2				2		※ 1科目選択
	物理化学基礎		2				2		※
	English Ⅴ		2					2	
	海外英語演習		1					1	
	社会科学Ⅰ		2					2	
	社会科学Ⅱ		2					2	1科目選択
	社会科学Ⅲ		2					2	
	開設単位計		27			6	12	9	
	修得単位計		8			2	4	2	
開設単位合計			107	28	26	23	19	11	
修得単位合計			88	28	26	19	11	4	

備考欄に※印のある科目の単位は、高等専門学校設置基準第17条第４項により認定される。１単位あたり45時間の学修により単位認定を行う。

（出典：平成 19 年度学生便覧）

資料２－１－①－３（２／３）　教育課程（機械工学科，電気情報工学科）

別表第２

専門科目（機械工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学入門	1	1					
	基礎力学	1		1				
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料力学Ⅲ	1					1	
	弾性力学	1					1	
	加工学	2			2			
	機械要素設計Ⅰ	1			1			
	機械要素設計Ⅱ	2				2		
	材料学Ⅰ	2				2		
	材料学Ⅱ	1					1	
	振動工学	2					2	
	熱力学	2				2		
	伝熱工学	1					1	
	水力学	2				2		
	流体力学Ⅰ	1					1	
	電気工学	2			2			
	電子工学	2				2		
	コンピュータ工学	2				2		
	メカトロニクス機構学	1					1	
	システム工学Ⅰ	1					1	
	制御工学	2					2	
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	数値計算法	2				2		
	計算力学	2					2	
	機械設計製図Ⅰ	2	2					平成16年度以降の入学生は必修得科目とする。図学を含む
	機械設計製図Ⅱ	2		2				必修得科目とする
	CADⅠ	3			3			
	CADⅡ	4				4		
	技術科学英語Ⅰ	1					1	
	工作実習Ⅰ	3	3					平成16年度以降の入学生は必修得科目とする
	工作実習Ⅱ	3		3				必修得科目とする
	工作実習Ⅲ	2			2			必修得科目とする
	工学実験Ⅰ	3				3		必修得科目とする
	工学実験Ⅱ	3					3	必修得科目とする，電気電子工学実験を含む
	卒業研究	9					9	必修得科目とする
	小計	85	6	8	16	27	28	
選択科目	技術科学英語Ⅱ	1					1	
	材料強度学	1					1	
	先端材料学	1					1	平成19年度は開講しない
	熱機関	1					1	
	システム工学Ⅱ	1					1	
	流体力学Ⅱ	1					1	
	計測工学特論	1					1	平成19年度は開講しない
	接合工学	1					1	平成19年度は開講しない
	特別講義Ⅰ	1					1	
	特別講義Ⅱ	1					1	
	特別講義Ⅲ	1					1	
	校外実習	1				1		
	小計	12				1	11	
開設単位合計		97	6	8	16	28	39	

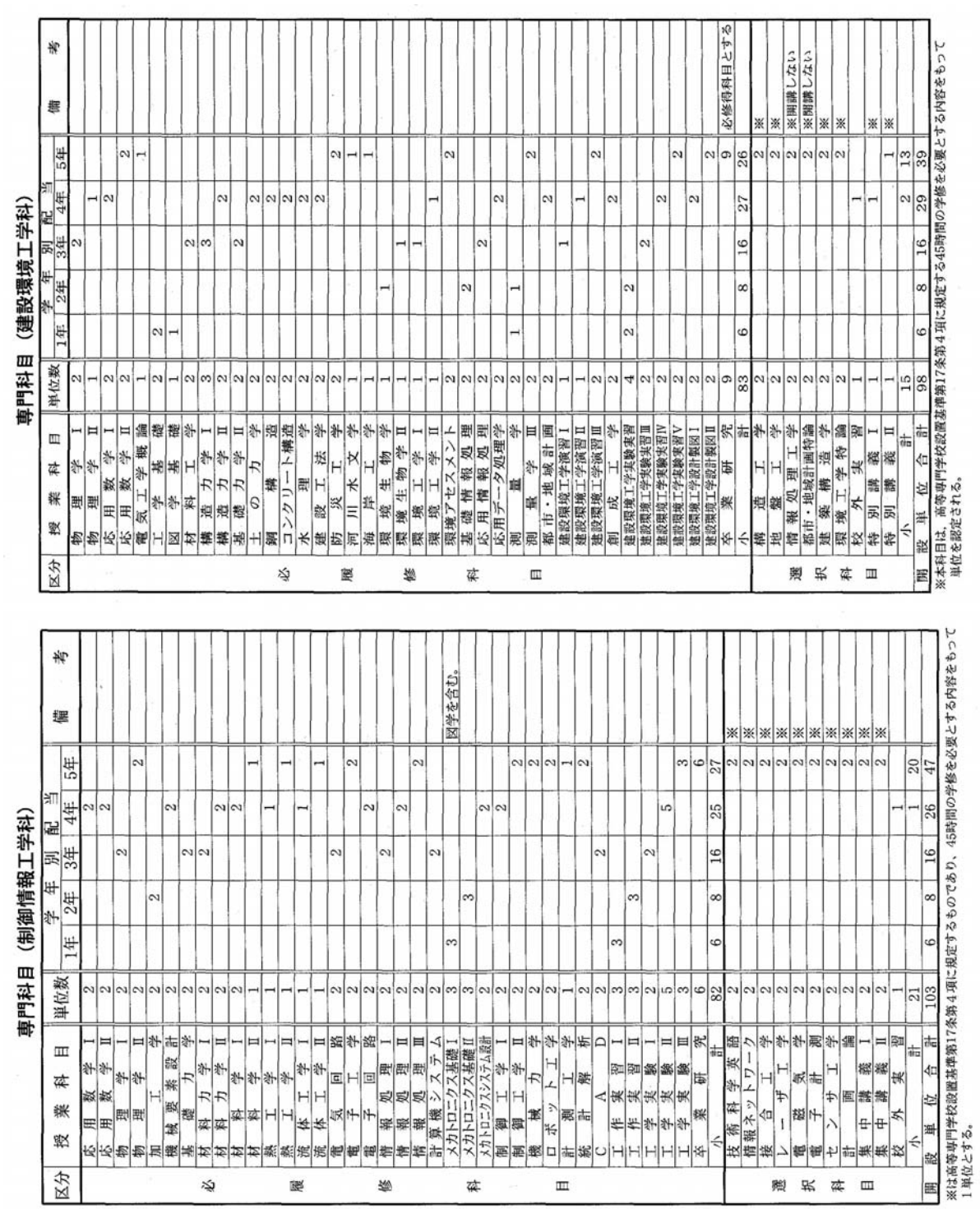
専門科目（電気情報工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2			2			
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用数学Ⅲ	2				2		
	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	2				2		
	電気基礎数学	2	2					
	電気基礎Ⅰ	2		2				
	電気基礎Ⅱ	2			2			
	電磁気学Ⅰ・同演習	3				3		必修得科目とする
	電磁気学Ⅱ・同演習	3				3		
	電気回路Ⅰ・同演習	3				3		必修得科目とする
	電気回路Ⅱ・同演習	3				3		
	電気物理	1		1				
	電子工学	2			2			
	電子回路Ⅰ	4				4		
	計測工学	2			2			
	通信工学	2					2	
	制御工学	2					2	
	情報数学	1		1				
	論理回路	1			1			
	ディジタル計測制御	2					2	
	情報処理基礎	2	2					
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	アルゴリズム	2				2		
	オペレーティングシステム	2				2		
	情報理論	2					2	
	統計データ処理	2					2	
	信号処理	2					2	
	情報通信ネットワーク	2					2	
	科学技術英語	2					2	
	エネルギー環境工学	2					2	
	電子情報基礎実習	2	2					
	工学基礎実験	2		2				必修得科目とする
	電子情報工学実験Ⅰ	3			3			必修得科目とする
	電子情報工学実験Ⅱ	3				3		※必修得科目とする
	電子情報工学応用実験	3					3	※
	特別実習	1					1	※4,5年通年科目
	卒業研究	6					6	※
	必修修得単位合計	87	6	8	16	29	28	
選択科目	固体物理	2				2		並列開講
	計算機アーキテクチャ	2				2		
	電気電子材料	2					2	並列開講
	インターフェース	2					2	
	電子回路Ⅱ	2					2	並列開講
	マルチメディア工学	2					2	
	電子デバイス	2					2	並列開講
	コンピュータシミュレーション	2					2	
	電子回路設計	2					2	※並列開講
	論理回路設計	2					2	
	校外実習	1				1		※
	特別講義	1					1	
	選択開設単位合計	22				5	17	
専門科目開設単位合計		109	6	8	16	34	45	

4，5年で開設する科目の単位は、実験・実習科目（備考欄に※印のあるもの）を除きすべて高等専門学校設置基準第17条第４項により認定される。１単位あたり45時間の学修により単位認定を行う。

（出典：平成 19 年度学生便覧）

資料２－１－①－３（３／３）　教育課程（制御情報工学科，建設環境工学科）



専門科目（制御情報工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	2					2	
	加工学	2		2				
	機械要素設計	2				2		
	基礎力学	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料学Ⅰ	1				1		
	熱工学Ⅰ	1				1		
	流体工学Ⅰ	1				1		
	流体工学Ⅱ	1					1	
	電気回路	2			2			
	電子回路	2				2		
	情報処理Ⅰ	2			2			
	情報処理Ⅱ	2				2		
	計算機システム	2			2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3					図学を含む。
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3		3				
	メカトロニクス設計	2				2		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2					2	
	機械力学	2					2	
	ロボット工学	2					2	
	計測工学	1					1	
	統計解析	2					2	
	C A D	2			2			
	工作実習Ⅰ	3	3					
	工作実習Ⅱ	3		3				
	工学実験Ⅰ	2			2			
	工学実験Ⅱ	5				5		
	工学実験Ⅲ	3					3	
	卒業研究	6					6	
	小計	82	6	8	16	25	27	
選択科目	技術科学英語	2					2	※
	情報ネットワーク	2					2	※
	接合工学	2					2	※
	レーザ工学	2					2	※
	電磁気学	2					2	※
	電子計測	2					2	※
	センサ工学	2					2	※
	計画論	2					2	※
	集中講義Ⅰ	2					2	※
	集中講義Ⅱ	2					2	※
	校外実習	1				1		
	小計	21				1	20	
開設単位合計		103	6	8	16	26	47	

※は高等専門学校設置基準第17条第4項に規定するものであり，45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

専門科目（建設環境工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	1				1		
	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	電気工学概論	1					1	
	工学基礎	2	2					
	図学基礎	1	1					
	材料工学	2			2			
	構造力学Ⅰ	3			3			
	構造力学Ⅱ	2				2		
	基礎力学Ⅱ	2			2			
	土の力学	2				2		
	鋼構造	2				2		
	コンクリート構造	2				2		
	水理学	2				2		
	建設工法学	2				2		
	防災工学	2					2	
	河川水文学	1					1	
	海岸工学	1					1	
	環境生物学Ⅰ	1		1				
	環境生物学Ⅱ	1			1			
	環境工学Ⅰ	1			1			
	環境工学Ⅱ	1					1	
	環境アセスメント	2					2	
	基礎情報処理	2		2				
	応用情報処理	2			2			
	応用データ処理学	2				2		
	測量学	2	1	1				
	測量Ⅲ	2					2	
	都市・地域計画	2				2		
	建設環境工学演習Ⅰ	1			1			
	建設環境工学演習Ⅱ	1				1		
	建設環境工学演習Ⅲ	2					2	
	創成工学	2				2		
	建設環境工学実験実習	4	2	2				
	建設環境工学実験実習Ⅱ	2			2			
	建設環境工学実験実習Ⅲ	2				2		
	建設環境工学実験実習Ⅳ	2					2	
	建設環境工学設計製図Ⅰ	2				2		
	建設環境工学設計製図Ⅱ	2					2	
	卒業研究	9					9	必修得科目とする
	小計	83	6	8	16	27	26	
選択科目	構造工学	2					2	※
	地盤工学	2					2	※
	情報処理工学	2					2	※開講しない
	都市・地域計画特論	2					2	※開講しない
	建築構造学	2					2	※
	環境工学特論	2					2	※
	校外実習	1				1		
	特別講義Ⅰ	1				1		※
	特別講義Ⅱ	1					1	※
	小計	15				2	13	
開設単位合計		98	6	8	16	29	39	

※本科目は，高等専門学校設置基準第17条第4項に規定する45時間の学修を必要とする内容をもって単位を認定される。

（出典：平成 19 年度学生便覧）

資料２－１－①－４　一般教育及び専門教育の専任教員構成

学　科	教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
一 般 教 育 科	6 (1)	9 (2)	5 (2)	0 (0)	0 (0)
機 械 工 学 科	4 (4)	5 (2)	2 (1)	1 (0)	0 (0)
電気情報工学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (0)
制御情報工学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	2 (1)	0 (0)
建設環境工学科	4 (4)	3 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (0)

（　）内は博士号取得教員数

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の使命は「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門知識と技術を教授し，その研究を指導すること」（高松高専学則第41条）である。専攻科は，機械電気システム工学専攻と建設工学専攻の２専攻（資料２－１－②－１）で構成されており，さらに，機械電気システム工学専攻は機械工学コース，電気情報工学コース，制御情報工学コースの３コース，建設工学専攻は建設工学コースの１コースで構成されている。それぞれのコースが，機械工学科，電気情報工学科，制御情報工学科及び建設環境工学科と対応しており，本科５年間と専攻科２年間の一貫教育を実現できる構成となっている（資料２－１－②－２）。

専攻科の目的を達成するために，全専攻共通の教育目標と各コース独自の教育目標を修了時に身につけるべき学力や資質・能力として定めている（資料２－１－②－３）。　教育課程は資料２－１－②－４のように編成されている。また，４コースがそれぞれ日本技術者教育認定機構の認定を受けており，専攻科の目的を達成するために適切な構成となっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

専攻科は「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門知識と技術を教授し，その研究を指導すること」を使命としている。この使命を果たすために，専攻科には，本科の4学科に対応する４つのコースが設置されており，適切な教育課程が編成され，それぞれのコースが日本技術者教育認定機構の認定を受けている。

資料２－１－②－１　専攻科の入学定員

第42条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入　学　定　員
機械電気システム工学専攻	１２人
建　設　工　学　専　攻	４人

（出典：高松高専学則）

資料２－１－②－２　専攻科のコース構成と学科との対応

専　攻　科		工　学　科
機械電気システム工学専攻	機械工学コース	機械工学科
	電気情報工学コース	電気情報工学科
	制御情報工学コース	制御情報工学科
建設工学専攻	建設工学コース	建設環境工学科

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料２－１－②－３　修了時に身につけるべき学力や資質・能力

専　　攻		修了時に身につけるべき学力や資質・能力
全専攻共通		(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理） 人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。 (B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識） 自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる。 (C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力） 自ら課題を発見して，自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。 (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション） 物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。
機械電気システム工学専攻	機械工学コース	機械工学をベースとした幅広い知識を身につけ，自主的，継続的に技術的問題に取り組み，創意工夫して実践することができる。
	電気情報工学コース	電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と，それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける。
	制御情報工学コース	機械工学，電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と，それをメカトロニクス分野の「モノづくり」に応用する力を身につける。
建設工学専攻	建設工学コース	構造物の耐震・耐久設計，防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して，準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける。

（出典：平成 19 年度シラバス）

資料２－１－②－４　専攻科教育課程

別表第３

機械電気システム工学専攻

区分		授業科目	単位数	学年別配当 1年	学年別配当 2年	備考
教養科目	必修	経営論	2	2		
		実践英語	2	2		
	選択	法学	2		2	
		古典文学	2		2	
工学基礎科目	必修	技術者倫理	2	2		
		数学特論Ⅰ	2	2		
	選択	現代物理学	2	2		
		知的財産権	2	2		
		工業英語	2	2		
		数学特論Ⅱ	2	2		
		物理化学	2	2		
		分析化学	2		2	
		応用物理学	2	2		
		建設工学概論	2		2	
開設単位計			28	20	8	
修得単位計			必修8単位を含む16単位以上			
専門科目	必修	工学実験・実習Ⅰ	2	2		
		工学実験・実習Ⅱ	2	2		
		特別研究	16	6	10	
		輪講	4	2	2	
	選択	伝熱工学特論	2	2		
		内燃機関工学	2	2		
		計算力学特論	2	2		
		動力学特論	2	2		
		弾塑性力学	2		2	
		最適化論	2	2		
		スペクトル解析	2		2	
		先端接合工学	2	2		
		材料強度学特論	2	2		
		振動工学特論	2	2		
		信頼性工学	2		2	
		薄膜工学	2	2		
		半導体物性	2		2	
		デバイス工学	2	2		
		音響情報工学	2	2		
		情報通信工学	2	2		
		オプトエレクトロニクス	2		2	
		電磁気学特論	2	2		
		知能ロボット工学	2	2		
		知能制御工学	2		2	
		制御工学特論Ⅰ	2	2		
		制御工学特論Ⅱ	2		2	
		メカトロニクス	2	2		
		画像処理工学	2	2		
		電子回路特論	2	2		
		ディジタル信号処理	2	2		
		電気回路特論	2	2		
		ディジタル工学	2		2	
		学外実習	2	2		
	開設単位計		82	54	28	
	修得単位計		必修24単位を含む46単位以上			
開設単位合計			110	74	36	
修得単位合計			必修32単位を含む62単位以上			

建設工学専攻

区分		授業科目	単位数	学年別配当 1年	学年別配当 2年	備考
教養科目	必修	経営論	2	2		
		実践英語	2	2		
	選択	法学	2		2	
		古典文学	2		2	
工学基礎科目	必修	技術者倫理	2	2		
		数学特論Ⅰ	2	2		
	選択	現代物理学	2	2		
		知的財産権	2	2		
		工業英語	2	2		
		数学特論Ⅱ	2	2		
		物理化学	2	2		
		分析化学	2		2	
		応用物理学	2	2		
		建設工学概論	2		2	
開設単位計			28	20	8	
修得単位計			必修8単位を含む16単位以上			
専門科目	必修	建設工学実験・実習Ⅰ	2	2		
		建設工学実験・実習Ⅱ	2	2		
		特別研究	16	6	10	
	選択	設計システム工学Ⅰ	2	2		
		設計システム工学Ⅱ	2	2		
		建設材料特論	2		2	
		連続体力学	2	2		
		コンピュータ構造解析	2		2	
		環境防災工学Ⅰ	2	2		
		環境防災工学Ⅱ	2		2	
		流体力学特論	2	2		
		建設数理計画学	2	2		
		建設環境計測学	2	2		
		情報システム	2	2		
		建設工学演習	2	2		
		建設工学セミナー	2		2	
		環境倫理・マネージメント	2		2	
		学外実習	2	2		
	開設単位計		50	30	20	
	修得単位計		必修20単位を含む46単位以上			
開設単位合計			78	50	28	
修得単位合計			必修28単位を含む62単位以上			

（出典：平成 19 年度学生便覧）

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして，コンピュータサイエンスセンターと高機能化技術教育研究センターを設置している。

１）コンピュータサイエンスセンターは，「情報処理教育及び学術研究の推進に寄与することを目的」（資料２－１－③－１）として設置されている。コンピュータサイエンスセンターは，集合教育演習システムを採用した113台のVID(Virtual Image Distributor)方式のコンピュータが3つの演習室に設置され，コンピュータリテラシー教育，プログラミング教育及び工学系アプリケーションソフト(Matlabなど)を使った演習・授業などに使われている。また，Visual Studio(VB,VC++等)，Office(Word，Excel等)，MathematicaやMatlab等のアプリケーションソフトをインストールしたパソコンで，学生が関連科目の演習を行うこともできるようになっている（資料２－１－③－２）。コンピュータサイエンスセンターの大演習室と第１演習室は，情報処理教育，英語教育等の授業や実験・演習に利用されており（資料２－１－③－３），本校の目的である「職業に必要な能力を育成」（学則第１条）や専攻科の目的である「高度な専門的知識と技術を教授」（学則第４１条）を達成する上で不可欠なものとなっている。

２）高機能化技術教育研究センターは，「高機能化技術に関する教育研究及び先端技術開発に関する教育研究を推進し，技術教育研究の発展に資することを目的」（資料２－１－③－４，５）としている。高機能化技術教育研究センターには６つの研究開発室が置かれ，主に５年生の卒業研究や専攻科生の特別研究の指導の場として活用されている他，工学実験等の一部の実技科目授業でも利用されており，教育の目的を達成するために活用されている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

全学的なセンターとして，コンピュータサイエンスセンターと高機能化技術教育研究センターが設置されている。コンピュータサイエンスセンターは，「情報処理教育及び学術研究の推進に寄与することを目的」として設置されており，また，高機能化技術教育研究センターは，「高機能化技術に関する教育研究及び先端技術開発に関する教育研究を推進し，技術教育研究の発展に資することを目的」として設置されており，本校の使命である「職業に必要な能力を育成すること」及び専攻科の使命である「精深な程度において工業に関する高度な専門知識と技術を教授し，その研究を指導すること」を達成する上で適切なものとなっている。

資料２－１－③－１　コンピュータサイエンスセンター管理運営規程

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター管理運営規程

昭和６３年２月２２日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則（ 以下「規則」という。）第１７条第２項の規定に基づき、高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（目的）
第２条　センターは、高松工業高等専門学校（ 以下「本校」という。）における情報処理教育及び学術研究の推進に寄与することを目的とする。
（センター長）
第３条　規則第１７条第１項に定めるコンピュータサイエンスセンター長（以下「センター長」という。）は、教授又は助教授をもつて充てる。
２ センター長は、校長が任命する。
３ センター長は、教務主事及び学科長と連絡を密にし、センターの業務を掌理する。
４ センター長の任期は、１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（特別研究員）
第４条　センターに特別研究員を置くことができる。
２ 特別研究員は、校長が選任する。
３ 特別研究員は、情報処理教育に関する研究及びセンター長から付託された特別な事項についての研究を行うとともにセンターの円滑な運営に協力するものとする。
（委員会）
第５条　センターの円滑な運営を図るため、センターに高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２ 委員会に関する事項は、別に定める。
（組織）
第６条　センターに管理部及び研究部を置く。
２ 管理部に次の３室を置く。
　一般管理室
　ワークステーション室
　ネットワーク室
３ 研究部に次の２室を置く。
　ＣＡＥ研究室
　ＩＳＥ研究室
（室長及び室員）
第７条　センターの管理部及び研究部の各室に室長及び室員を置く。
２ 室長及び室員は、本校教職員のうちから校長が任命する。
３ 室長は、センター長の命を受け、所属の各室に関する業務を掌理する。
４ 室員は、室長の下に各室の業務を処理する。
（事務）
第８条　センターに関する事務は、学生課において行う。
（その他）
第９条　この規程に定めるもののほか、センターの運営及び利用に関し必要な細則は、別に定める。

附則
１ この規程は、昭和６３年４月１日から施行する。
２ 高松工業高等専門学校学内共同利用データステーション管理運営規程（昭和５５年４年１日制定）は、廃止する。
附則
この規程は、平成４年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成６年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成８年６月３日から施行する。
附則
この規程は、平成９年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成１０年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成１７年４月１日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－１－③－２　コンピュータサイエンスセンターの概要

コンピュータサイエンスセンター　URL http://www.takamatsu-nct.ac.jp/~CS/

Computer Science Center

専攻科を含めて全学の情報処理教育、及び教職員の学術研究のための共同利用施設であり、以下のシステムより成り立っています。

Computer Science Center (CS Center) provides resources for education on computer literacy and academic research needed by students and faculty. It is equipped with the following facilities.



大演習室　Computer literacy room

校内ネットワークシステム

センター内の一室に Gigabit Ethernet Switch A を置き、スター状のトポロジー配線によって専攻科棟、各学科及び事務部（医務室,学生寮を含む）、コンピュータサイエンスセンターをそれぞれ結んでいる。校内のこれらの7つのサイトにギガスイッチを置き、1Gbpsの高速回線速度でマルチメディア情報をお互いに転送できる。外部にはSINETにIP（Internet Protocol）接続を行っていて、インターネットの利用が可能である。また、VODサーバーにより映像配信サービスが提供されている。

■ネットワーク管理室　Network management room

- ●GIGAスイッチA：2台
  Gigabit switches : 2sets
- ●ファイアウォール装置：1台
  Firewall system : 1set
- ●サーバ装置（WWW、ファイル、メール）：4台
  Servers(WWW,file,mail) : 4sets
- ●GIGAスイッチC：1台/7
  GIGA switch C : 1set/7
- ●ネットワーク監視装置：1台
  Network monitoring system : 1set
- ●VODサーバマシン：1台
  Video on demand server machine SG1 Origin300 : 1set

Campus LAN system

Gigabit Ethernet Switches located CS Center are connected with 7 gigabit switches which are placed at General education, Mechanical Engineering, Electronics & Computer Science engineering, Electro-Mechanical Systems Engineering, Civil Engineering, Bureau (a dispensary and a student dormitory are included), Advanced Course and CS center. The transfer rate is 1 Gbps. The users are able to exchange not only characters but also photos and animation. Gigabit network is connected by IP (Internet Protocol) to an exterior network SINET. We are able to access to the Internet and the other computation centers. VOD server provides video streaming services.



第１演習室　First training room

集合教育演習システム

133台のVID（Virtual Image Distributor）方式のコンピュータが3つの演習室に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフト（Matlabなど）を使った演習授業などに使われている。

■サーバー室　Server room

- ●マネージメントサーバ：5台、イメージマネージメントサーバ：4台
  Management server 5sets,　Image management serve 4sets

■大演習室　Computer literacy room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：50台
  VID client computer 50 sets (Mint Wave ridotto4)

■第1演習室　First training room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：16台
  VID client computer 16 sets (Mint Wave ridotto4)

■マルチメディア教室　Medier room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：47台
  VID client computer 47 sets (Mint Wave ridotto4)

Computer literacy training system

Three training rooms are equipped with 133 client computers that uses VID (Virtual Image Distributor) methods. These computers are used for computer literacy education, the programming education, and the training classes that use the engineering application software (Matlab etc.).



マルチメディア教室　Medier room

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料２－１－③－３　教室使用状況（平成１９年度前期）

		図書館			第一講義室	CS1センター		機械棟			建設棟			専攻科棟				
		第二講義室	ＬＬ	図工室		大	第１	演習室	製図室	CAD	建設製図室	情報実験室	第５講義室	ミックス	マルチ	大講義室	個別学習室	講義室
月	1		2E			4E	AS2			2S		3C		5全	5全	SC1		13
			2M			4E	AS2			2S		3C		5全	5全	SC1		13
	2				12	4E	AS1			2S		5C		5M	5S	AS2		11
					12	4E	AS1					5C		5M	5S	AS2		11
	3					3E	AS1						5E	2C		SC2		4S
						3E	AS1			4S			5E	2C		SC2		4C
	4					4M	AS1			4S	4C	4C		5E	5E			
						4M	AS1			4S	4C	4C		5E	5E			
火	1	134	3ES	134		3ES	5E				5C	2C				SC1	AS2	
		134	3ES	134		3ES	5E	2S			5C	2C			5S	SC1	AS2	
	2	112	3MC	112		3MC	AS1	2S	2M					5E	5S	SC2		AS1
		112	3MC	112		3MC	AS1	2S	2M					5E	5S	SC2		AS1
	3		3C			5M	5M			1S				3C	1E			4E
			3C			5M	5M			1S	1C	1C		3C	1E			4E
	4		3S		4全	5M	5M			1S	1C	1C		3S	5S	AS1	AS1	AS2
			3S		4全									3S	5S	AS1	AS1	AS2
水	1	5ME	2C		14	2E	AS1					4C5C		AS1		SC2		5ME
		5ME			14	2E	AS1		3M	3M		4C5C		AS1		SC2		5ME
	2	5SC			13	2M	AS1		3M	3M		4C			4S	AS1	AS2	5SC
		5SC			13	2M	AS1		3M	3M		4C			4S	AS1	AS2	5SC
	3					3E			4M	4M		3C		5E	5S	SC1		14
						3E			4M	4M		3C		5E	5S	SC1		14
	4					3E			4M	4M		3C		5E	AS1	AS1		12
			4E						4M	4M		3C		5E	AS1	AS1		12
木	1	4EC	SC1		4EC							5C		5E		AS2		
		4EC	SC1		4EC	1M						5C		5E		AS2		
	2	4MS	2S		4MS	1E	AS1		1M	3S	5C			AS2	5E	AS2		3E
		4MS			4MS	1E	AS1		1M	3S	5C			AS2	5E	AS2		3E
	3		4M		11	4E					2C							
					11	4E					2C							
	4	4全									2C							
		4全																
金	1		3M							4S		4C			5M	SC1		AS2
			3M			4M				4S		4C			5M	SC1		AS2
	2		3E		2C	4M	5E			4S		5C		2E	3S	AS12		
			3E		2C	4M	5E			4S		5C		2E	3S	AS12		
	3	11	11			3M	5E							2S	4M			4S
		12	12			3M	5E							2S	4M			4S
	4	14	14		2S	4E	5E							2M	4S			4C
		13	13		2S	4E	5E							2M	4S			4C

（出典：学生課資料）

資料２－１－③－４　高機能化技術教育研究センター管理運営規程

高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター管理運営規程

昭和６３年２月２２日制定

（趣旨）
第１条　この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則（ 以下「規則」という。）第１７条第２項の規定に基づき、高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（目的）
第２条　センターは、高機能化技術に関する教育研究及び先端技術開発に関する教育研究を推進し、技術教育研究の発展に資することを目的とする。
（使命）
第３条　センターは、教員の自由な発想に基づく研究を助成又は促進するとともに学生の教育の推進に資することを使命とする。
（センター長）
第４条　規則第１７条第１項に定める高機能化技術教育研究センター長（以下「センター長」という。）は、教授又は助教授をもつて充てる。
２ センター長は、校長が任命する。
３ センター長は、センターの業務を掌理する。
４ センター長の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員会）
第５条　センターの円滑な運営を図るため、センターに高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２ 委員会に関する事項は、別に定める。
（研究開発室）
第６条　センターにおけるプロジェクト研究（ 以下「プロジェクト研究」という。）を推進するため、センターに次の研究開発室を置く。
新材料研究開発室
材料利用技術研究開発室
新エネルギー技術研究開発室
環境防災研究開発室
メカトロニクス研究開発室
教育技術研究開発室
２ 各研究開発室にそれぞれ室長を置き、当該研究開発室に所属する者の互選により選出する。
３ 室長は、所属の研究開発室の業務を掌理する。
（　センターの利用）
第７条　本校の教員は、学術研究のため、センター長に対しプロジェクト研究を提案することができ、又はいずれのプロジェクト研究にも参加し若しくは参加せずにセンターを利用することができる。
２ プロジェクト研究に参加し研究しようとする者は、その旨をセンター長に申し出、研究内容により、第５条第１項に定めるいずれかの研究開発室に所属の上、行うものとする。
（事務）
第８条　センターに関する事務は、庶務課において行う。
（その他）
第９条　この規程に定めるもののほか、センターの運営及び利用に関し必要な細則は、別に定める。
附則
１ この規程は、昭和６３年４月１日から施行する。
２ 高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター管理運営規程（昭和６２年３月６日制定）は廃止する。
３ この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第４条第４項の規定にかかわらず昭和６４年３月３１日までとする。

附則
この規程は、平成元年７月１日から施行する。
附則
この規程は、平成４年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成５年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成６年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成１７年４月１日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－１－③－５　高機能化技術教育センターの概要

高機能化技術教育研究センター

Research Center for Advanced Technology

高機能化技術教育研究センターは昭和62年4月1日に発足した学内共同利用の研究施設であり、自由な発想に基づく教員研究をはじめ学生の先端技術教育の充実促進を図ることおよび地元企業との技術交流や技術開発援助を通して地元産業の発展に寄与することを目的としています。本センターは主に、試作室、計測室、試験室、クリーンルーム等で構成されており、次の6つの研究開発室（プロジェクト研究）で運用されています。企業との受託研究、試験研究、共同研究の制度があります。

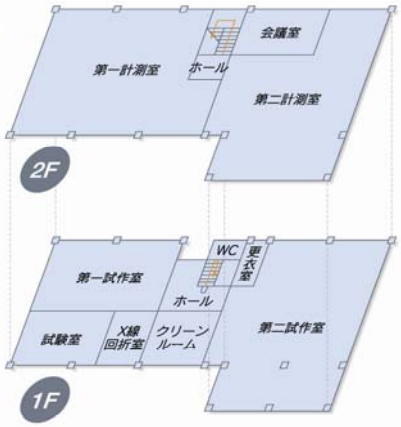
●計　測　関　係:オージェ電子分光分析装置、走査型電子顕微鏡、引掻試験機、エリプソメータ、X線回折装置、全温度領域物性測定装置、原子吸光分光光度計、他

●試作・試験関係:高真空蒸着装置、イオンプレーティング、ホットプレス、デュアルイオンビームスパッタリング装置、大気圧コールドプラズマ発生装置、他



高機能化技術教育研究センター外観
Reserch Center for Advanced Technology

The Center was established in 1987 with the goal of developing new technologies. The important function of the Center is not only to produce a new trend of creative engineers, but also to coordinate interdisciplinary research activities on campus and serve as an intermediary local industry. There are six Research & Development Divisions for Advanced Materials Science, Applied Material Science, Advanced Energy Science, Environment and Disaster Prevention Mechanical and Electronics, and Educational Technology.



■平面図（606㎡）

●研究室

高機能化技術教育研究センター（センター長:土居　正信）

①新材料研究開発室（室長:鹿間　共一）

②材料利用技術研究開発室（室長:福井　智史）

③新エネルギー技術研究開発室（室長:吹田　義一）

④環境防災研究開発室（室長:多川　正）

⑤メカトロニクス研究開発室（室長:逸見　知弘）

⑥教育技術研究開発室（室長:重田　和弘）

Research & Development Division
Research Center for Technology [Director : D.Eng. M.DOI]
①Advanced Materials Science R & D Division [Head : D.Eng. K.SHIKAMA]
②Applied Material Science R & D Division [Head : M.Eng. S.FUKUI]
③Advanced Energy Science R & D Division [Head : D.Eng. Y.SUITA]
④Environment and Disaster Prevention R & D Division [Head : D.Eng. T.TAGAWA]
⑤Mechanical and Electronics R & D Division [Head : D.Eng. T.HENMI]
⑥Educational Technology R & D Division [Head : D.Eng. K.SHIGETA]



クリーンルーム　Clean Room



オージェ電子分光分析装置
Auger Electrin Sppectroscopic Analyzer



X線回折装置
X-ray Diffractmeter



多目的真空装置
Multi-purpose High Vacuum Chamber



走査型電子顕微鏡
Scanning Electron Microscope

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

観点２－２－①：　教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況）

本校の内部組織は高松工業高等専門学校内部組織規則（資料２－２－①－１）によって定められており，組織図（資料２－２－①－２）に示す構成となっている。

企画運営会議は，校長，３主事，２校長補佐，専攻科長，４学科長，総務・広報室長，研究・連携推進室長及び事務部長から構成されており，「校長の諮問に応じ、高松工業高等専門学校の運営に係る重要事項を審議」している（資料２－２－①－３）。この会議は行事予定表（資料２－２－①－４）に従って，ほぼ毎月一回の頻度で開催されている。

教育課程全体を企画調整するための委員会として，技術者教育の推進と点検・評価を行う技術者教育推進委員会（資料２－２－①－５），準学士課程の教務に関する事項を審議する教務委員会（資料２－２－①－６），専攻科に関する事項を審議する専攻科委員会（資料２－２－①－７）が設置されている。各委員会の関係は資料２－２－①－８に示す通りであり，本校の教育課程を有効に展開するための検討・運営体制となっている。また，これらの委員会の開催状況は資料２－２－①－９に示す通りである。

教育課程全体を有効に展開するための体制としては，学科毎に学科会議及びプログラム運営会議が頻繁に開催されており，上記の委員会で決まった方針の下に，教育課程を有効に展開するための検討及び学科運営を行っている。また，校長，専任の全教員及び事務部長で構成される教員会議は，「校長の諮問に応じ，高松工業高等専門学校の運営にかかる事項について協議し，校内の連絡調整にあたることを任務」（資料２－２－①－１０）とし，行事予定表（前述資料２－２－①－４）に従ってほぼ月に１度の頻度で開催され，教員間の意思の疎通をはかる上で重要な役割を果たしている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

校長を議長とする企画運営会議が本校の全ての活動を統括しており，教育課程全体を企画調整するために技術者教育推進委員会，教務委員会及び専攻科委員会が，また，教育課程を有効に展開するために学会会議，教員会議などが整備され必要な活動を行っている。

資料２－２－①－１　内部組織規則(抜粋)

高松工業高等専門学校内部組織規則

昭和 63 年２月 22 日制定

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は，高松工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条の規定に基づき，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織（事務部組織を除く。）について定める。

第２章　教員組織

（教員組織）

第２条　本校に，次の学科等（以下「学科」という。）の教員組織を置く。

一般教育科
機械工学科
電気情報工学科
制御情報工学科
建設環境工学科

２ 本校の教員は，前項に定めるいずれかの組織に属するものとする。

第３章　校務組織

（主事）

第３条　本校に，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第１項及び学則第９条第１項の規定に基づき，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

（専攻科長）

第３条の２ 学則第 40 条に定める専攻科に専攻科長を置く。

（学科長）

第４条　第２条第１項に定める各組織にそれぞれ学科長を置く。

（図書館長）

第５条　本校に，図書館を置き，館長を置く。

２ 図書館に関する事項は，別に定める。

（教育相談室長）

第６条　本校に，教育相談室を置き，室長を置く。

２ 教育相談室に関する事項は，別に定める。

（主事補）

第７条　教務主事，学生主事及び寮務主事のもとに，それぞれ教務副主事，学生副主事及び寮務副主事並びに教務主事補，学生主事補及び寮務主事補を置く。

（専攻主任）

第７条の２ 専攻科に，機械電気システム工学専攻主任及び建設工学専攻主任（以下「専攻主任」という。）を置く。

（学年主任）

第８条　第１学年，第２学年及び第３学年にそれぞれ学年主任を置く。

（学級担任）

第９条　各学級ごとに，学級担任を置く。

（一般科目教科主任）

第 10 条　一般科目の各教科にそれぞれ教科主任を置く。

（学内共同利用施設長）

第 11 条　本校に，学内共同利用施設として，次の施設を置き，それぞれに施設長を置く。

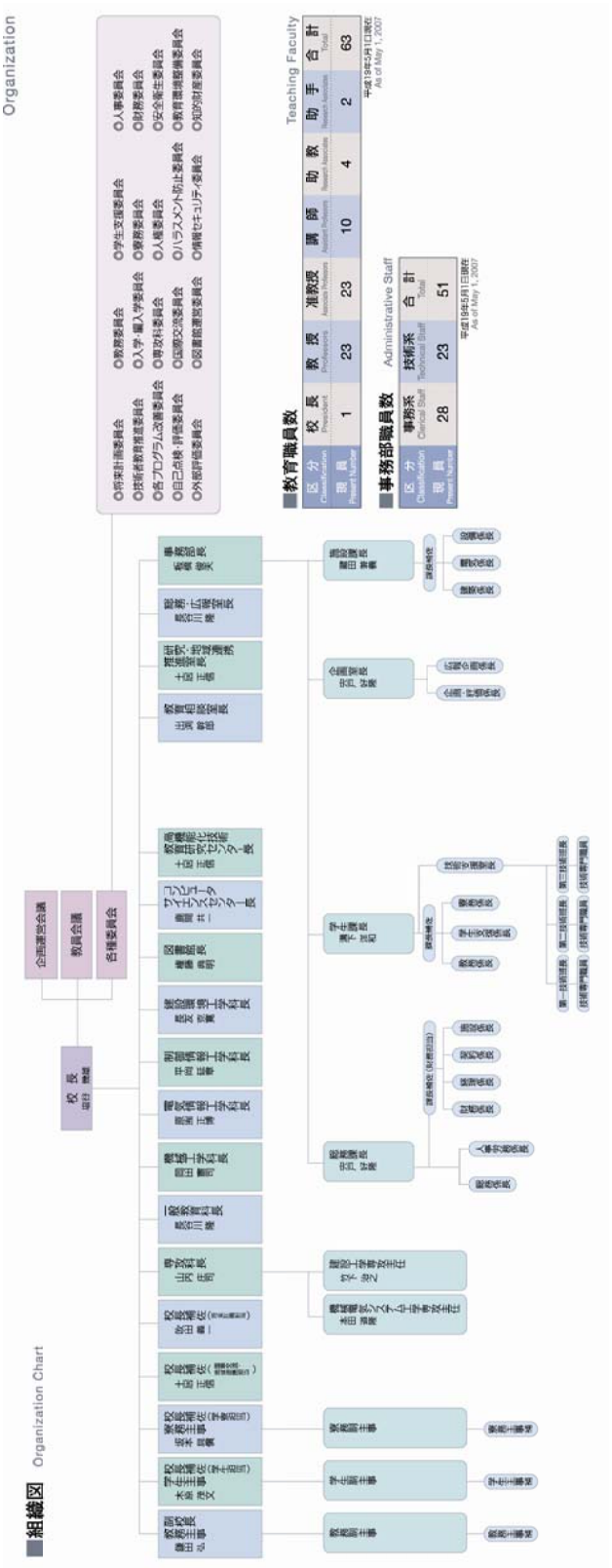
コンピュータサイエンスセンター
高機能化技術教育研究センター

２ 学内共同利用施設に関する事項は，別に定める。

（以下省略）

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－①－２　内部組織図



（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料２－２－①－３　企画運営会議規程

高松工業高等専門学校企画運営会議規程

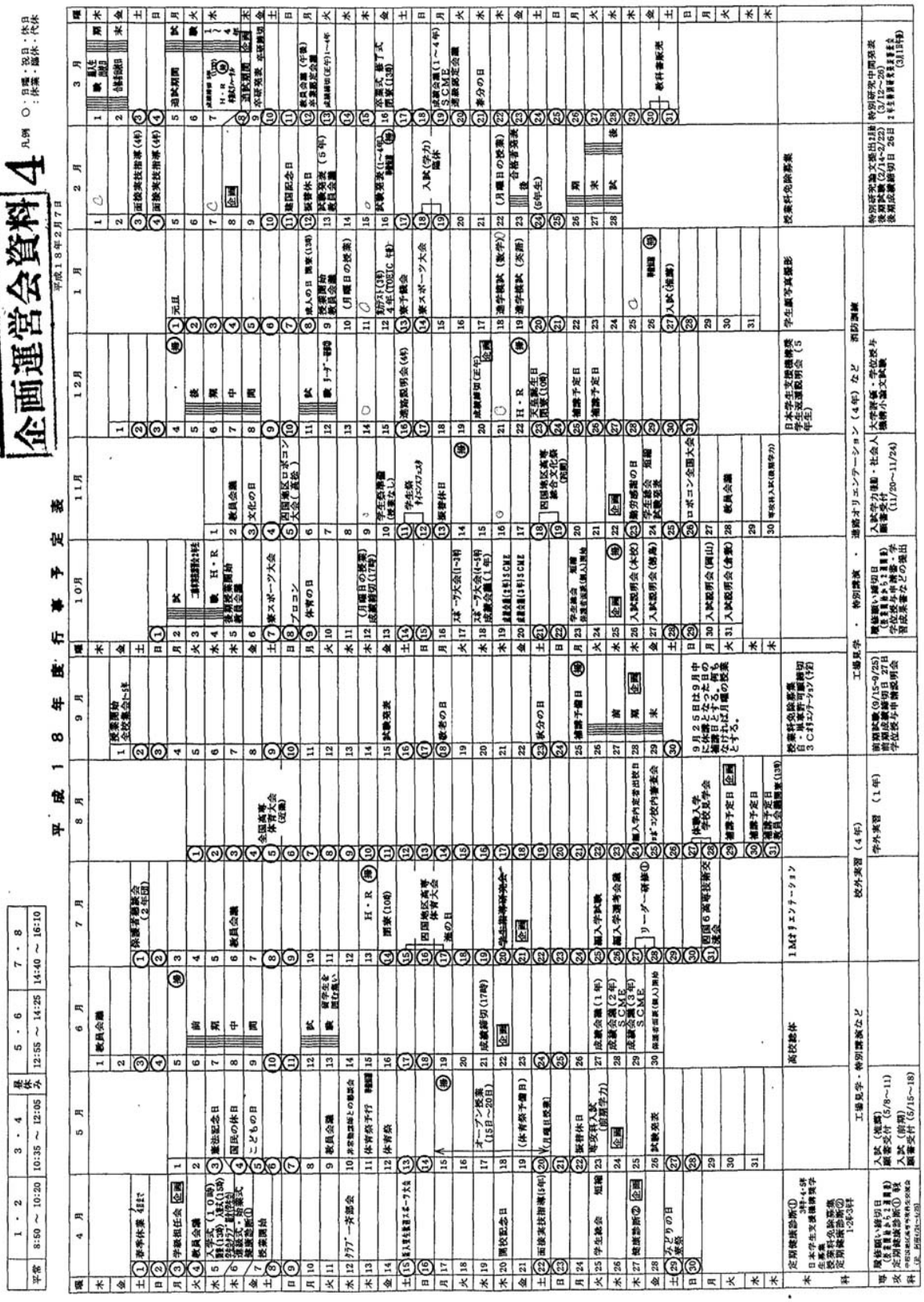
昭和 63 年２月 22 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 18 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校企画運営会議（以下「企画運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　企画運営会議は，校長の諮問に応じ，高松工業高等専門学校の運営に係る重要事項を審議する。
（組織）
第３条　企画運営会議は，次の構成員をもつて組織する。
一　校長
二　各主事
三　各校長補佐
四　専攻科長
五　各学科長
六　総務・広報室長
七　研究・連携推進室長
八　事務部長
（運営）
第４条　企画運営会議は，校長が招集し，議長となる。
２　校長に事故あるときは，あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。
（構成員以外の者の出席等）
第５条　校長が必要と認めたときは，構成員以外の者を企画運営会議に出席させ，説明又は意見を聴くことができる。なお，図書館長，コンピュータサイエンスセンター長，高機能化技術教育研究センター長，教育相談室長は，議題の提案ができるものとする。
（幹事）
第６条　企画運営会議に幹事を置き，総務課長，学生課長及び施設課長をもつて充てる。
（事務）
第７条　企画運営会議の事務は，総務課において処理する。

附則
１　この規程は，昭和 63 年４月１日から施行する。
２　高松工業高等専門学校主任連絡会規程（昭和 44 年４月１日制定）は，廃止する。
附則
この規程は，平成４年４月１日から施行する。
附則
この規程は，平成７年４月 12 日から施行する。
附則
この規程は，平成８年４月１日から施行する。
附則
この規程は，平成 11 年４月１日から施行する。
附則
この規程は，平成 17 年４月１日から施行する。
附則
この規程は，平成 18 年４月１日から施行する。
附則
この規程は，平成 18 年 11 月１日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－①－４　行事予定表



（出典：企画運営会議資料）

資料２－２－①－５　技術者教育推進委員会規程

高松工業高等専門学校技術者教育推進委員会規程

平成 17 年３月 10 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 19 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校技術者教育推進委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は，技術者教育の推進及び点検・評価に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学習・教育目標に関すること。
二　学習・教育目標達成度の総合評価に関すること。
三　教育課程の基本方針に関すること。
四　教育課程の点検・評価に関すること。
五　ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の基本方針に関すること。
六　認証評価機関の認証評価及び日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査等に関すること。
七　その他技術者教育の推進に関する必要な事項
（組織及び任期）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。
一　専攻科長
二　各専攻主任
三　各主事
四　プログラム責任者
五　一般教育科長
六　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員
七　事務部長
２　委員は，校長が委嘱する。
３　第１項第６号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（運営）
第４条　委員会に委員長を置き，専攻科長をもつて充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（事務）
第６条　委員会の事務は，学生課において処理する。
（その他）
第７条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が定める。
附　則
この規程は，平成 17 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成 19 年４月３日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－①－６　教務委員会規程

高松工業高等専門学校教務委員会規程

平成 17 年３月 10 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 37 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は，教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科教育課程の編成・実施に関すること。
二　本科の科目履修・成績処理に関すること。
三　授業の一環としての学校行事に関すること。
四　本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。
五　大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。
六　入学生の受入に関すること。（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を含む。）
七　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること。（留学生の教育課程を含む。）
八　学生の授業評価に関すること。
九　その他本科教務に関する必要な事項
（組織及び任期）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。
一　教務主事
二　教務副主事
三　教務主事補
四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員
２　委員は，校長が委嘱する。
３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（運営）
第４条　委員会に委員長を置き，教務主事をもつて充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（　委員以外の者の出席）
第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（事務）
第６条　委員会の事務は，学生課において処理する。
（その他）
第７条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附則
１　この規程は，平成 17 年４月１日から施行する。
２　高松工業高等専門学校教務委員会規程（昭和 63 年２月 22 日制定）は廃止する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－①－７　専攻科委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校専攻科委員会規程

平成 17 年３月 10 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 37 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　委員会は，専攻科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　専攻科教育課程の編成・実施に関すること。
二　専攻科学生の履修・学位申請に関すること。
三　専攻科入学者選抜の基本方針に関すること。
四　専攻科入学者選抜の運営に関すること。
五　その他専攻科教育に関する必要な事項
（組織及び任期）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。
一　専攻科長
二　各専攻主任
三　各主事
四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員
五　事務部長
２　委員は，校長が委嘱する。
３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（運営）
第４条　委員会に委員長を置き，専攻科長をもつて充てる。
２　委員長は，委員会を召集し，その議長となる。
３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（事務）
第６条　委員会の事務は，学生課において処理する。
（その他）
第７条この規定に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が定める。

附則
１　この規程は，平成 17 年４月１日から施行する。
２　高松工業高等専門学校専攻科委員会規程（平成 11 年４月１日制定）は，廃止する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－①－８　教育改善ループ

学習・教育の点検・改善システムについて

教育システムの点検および改善は，別図の体制で実施する。

(1) 校長を議長とする企画運営会議が本校の全ての活動を統括する。

(2) 将来計画委員会は，本校の長期にわたる計画，将来像について検討し立案する。

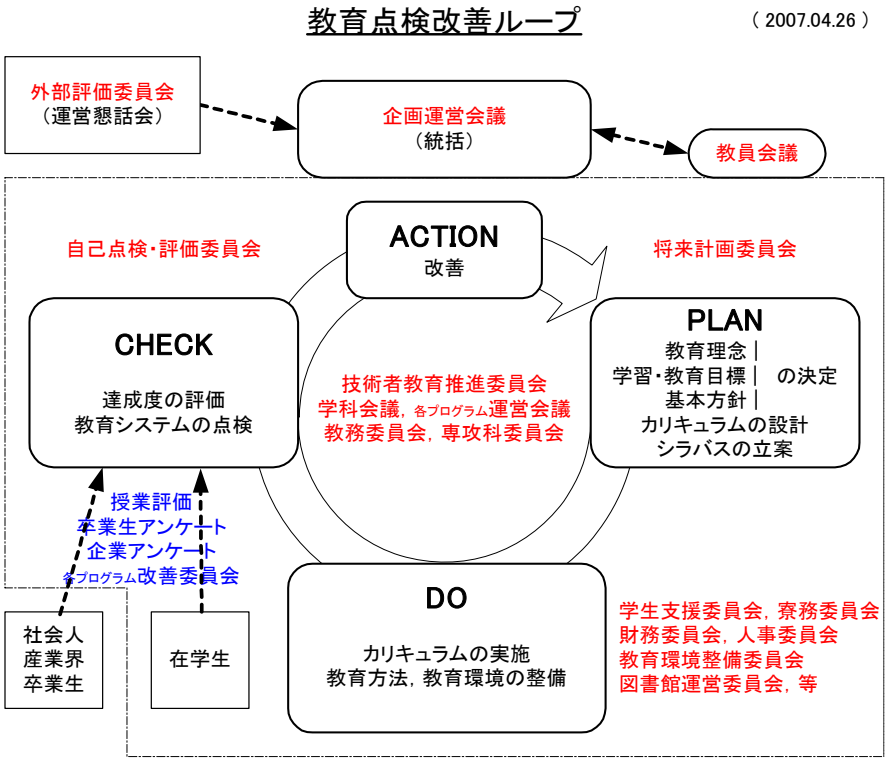
(3) 学内に本科各学科４，５学年および専攻科両専攻・各コースを通じた複数の技術者教育プログラムを設け，各分野での技術者教育推進と改善に当たる。

(4) 技術者教育推進委員会はそれら技術者教育プログラムをまとめ，本科 1～３学年を含めて本校全体の技術者教育の基本計画に当たる。

(5) 専攻科委員会および教務委員会は基本計画に沿って，その具体化と実現に関する全学共通の事項を検討して実施する。各学科，各プログラムに関する事項は，各プログラム運営会議（または各学科）が検討し実施する。特定の施設または特定の問題に関わる事項は，対応する学内各委員会等が検討し実施する。学内各委員会等は実施結果を点検し改善する。

(6) 自己点検・評価委員会は，学習・教育システム全体に関して点検と評価を実施し，問題点の指摘，改善策に関する勧告等を行う。

(7) 企画運営会議は自己点検・評価委員会の点検結果等を受け，それを外部評価委員会へ提出し，第３者からの点検・評価を受ける。



（出典：技術者教育推進委員会議事録）

資料２－２－①－９　平成 18 年度各種委員会の開催状況

	教務委員会	技術者教育推進委員会	専攻科委員会
第 1 回	4 月 26 日	5 月 16 日	4 月 25 日
第 2 回	5 月 24 日	12 月 8 日	7 月 4 日
第 3 回	6 月 21 日		8 月 23 日
第 4 回	7 月 14 日		11 月 28 日
第 5 回	8 月 31 日		
第 6 回	9 月 20 日		
第 7 回	10 月 11 日		
第 8 回	11 月 15 日		
第 9 回	12 月 22 日		
第 10 回	1 月 17 日		
第 11 回	2 月 14 日		
第 12 回	3 月 14 日		

（出典：内部資料）

資料２－２－①－１０　教員会議規程

高松工業高等専門学校教員会議規程

昭和 63 年２月 22 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 36 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教員会議（以下「教員会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（任務）
第２条　教員会議は，校長の諮問に応じ，高松工業高等専門学校の運営にかかる事項について協議し，校内の連絡調整にあたることを任務とする。
（組織）
第３条　教員会議は，校長，専任の教員及び事務部長をもつて組織する。
（運営）
第４条　教員会議は，校長が招集し，議長となる。
２ 校長に事故あるときは，あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。
３ 教員会議の議事，運営については，校長が定める。
（幹事）
第５条　教員会議に幹事を置き，総務課長及び学生課長をもつて充てる。
２ 幹事は，所掌事項について説明することができる。
（事務）
第６条　教員会議の事務は，総務課において処理する。

附則
１ この規程は，昭和 63 年４月１日から施行する。
２ 高松工業高等専門学校教員会議規程（昭和 44 年４月１日制定）は廃止する。

附則
この規程は，平成 18 年４月１日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，一般科目及び専門科目を担当する教員の代表によって構成されたカリキュラム特別委員会が設置され，平成12年度から教育課程についての審議を行った。第1回の議事録を資料２－２－②－１に，平成14年度カリキュラム特別委員会自己点検報告を資料２－２－②－２に示す。この他に，平成16年度まで学生指導研究会と学生指導協議会（資料２－２－②－３）が開催され，一般科目及び専門科目を担当する教員が協力して学習教育プログラムの検討を行っていた。その検討内容については報告書にまとめられている（資料２－２－②－４）。

その後，平成18年12月8日に開催された技術者教育推進委員会において，教科の内容に関する検討会を定例化することが決定した（前述　資料２－２－①－５）。　平成18年度においては，理科，社会，数学及び英語教育に関して一般科目及び専門科目を担当する教員が出席しての意見交換会が開催された（資料２－２－②－５）。　理科教育に関する意見交換会の開催案内とその会議で出された意見を資料２－２－②－６及び資料２－２－②－７に示す。また，数学と専門学科の意見交換会の議事録を資料２－２－②－８に示す。

また，4つの技術者教育プログラム（機械，電気情報，メカトロニクス技術者教育プログラム及び建設工学コース）ごとに教育内容を点検・改善するための改善委員会が設置されており，専門科目担当教員，一般科目担当教員，技術職員，学生，卒業生等で構成されている。

このように，カリキュラムについては継続的に見直しがなされており，その学習内容については大きな問題はないと考えている。しかしながら，学生の学力及びモチベーションを向上させるための効果的な対策についてはいまだに暗中模索の状態にあり，今後も一般科目及び専門科目を担当する教員間の緊密な連携によって有効な対策を見いだしていく必要がある。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携によって，カリキュラムについては継続的な見直しがなされている。また，一般科目について，担当教員と学科間の意見交換会が開催され議論がなされている。このように，一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われている。

資料２－２－②－１　カリキュラム特別委員会第１回議事録

カリキュラム特別委員会(第１回)議事要録

日時：平成 12 年 12 月 22 日(金) 14:00～16:00
場所：第２会議室
出席：春本，坂本，中村，寺西，堀江，権藤，福井，鹿間，山内，工藤，大池，
(欠席：向谷)
討議内容：

(1) 中学学習指導要領改訂に関する対処について
H15 年度以降，中学の新学習指導要領の下で学習した中学生が入学し，学力の低下が懸念される。これに対する対策について討議した。検討範囲は，必要なカリキュラムの改訂に加え，教育方法の見直しや教育目標(学習到達の目標)の修正にも及ぶ可能性もある旨，了解された。また，中学の 5 時間授業と本校入学後の７時間授業との格差に対する対策の必要性も指摘された。これらについて，平成 13 年度前期末頃を目途に，委員会としての結論を出す。
次回までに下記事項について調査して，検討用資料として提出する事とした。
一般教育各教科(国語，社会，数学，理科，保健･体育，英語)において，
①新指導要領において削除(変更)された内容。
②本校の現状の到達度を維持するとした場合に必要とされる授業時間数。
専門学科の 1～3 年の科目において，
①一般科目，特に数学，理科に関連した内容を教えている学年，科目名と内容。

(2) その他
上記議題以外に，環境教育，技術者倫理，コンピュータリテラシー等を踏まえたカリキュラム検討の必要性も指摘された。
次回より議事要録を委員の輪番で作成する。

次回は，２月 15 日(木)の予定。
上記資料は２月９日(金)午前中までに大池へ提出する。

(出典：カリキュラム特別委員会議事要録)

資料２－２－②－２　平成 14 年度カリキュラム特別委員会自己点検報告

平成 15 年 3 月 31 日

平成 14 年度カリキュラム特別委員会自己点検報告

カリキュラム特別委員会委員長
山 内 庄 司

１．前年度までの経緯

平成 14 年度から中学校の学習指導要領が改訂され，平成 15 年 4 月より新学習指導要領に基づく新入生が入学することになる。総合的な学習時間を設ける等により，生きる力，自ら学び自ら考える力の育成を強調している反面，各教科で教える内容が 3 割程度削減されている等，本校の低学年の学習教育に何らかの影響を与えることが懸念されてきた。

カリキュラム委員会では，この問題を検討するために，平成 12 年度後半から平成 13 年度末までに 10 回の委員会を重ね，概ね以下のような結論を得ていた。

(1) これまで本校の目指してきた学習到達度は基本的に維持するものとし，教えるべき内容の精選や教科間の連携，教育方法の改善工夫等を行うことが必要である。
(2) 国語については，高等学校での時間数(16 時間)に比べて，本校(8 時間)は絶対的に少なく，また専門学科からは，文章力に対する強い要望があり，時間を 1 時間程度増やす必要がある。
(3) 社会科では特に大きな問題はないが，国際的な技術者資格に関連して，人類の幸福や技術者倫理について理解判断する力が求められており，4，5 年の人文科学，社会科学のあり方について検討を要する。
(4) 数学では重要な項目を含めて 18%程度が中学新学習指導要領から割愛されている。これまでの本校の授業でも微分方程式や多変数の微積分等が学科によっては実施できておらず，関連教科の理解に大きく影響していると危惧される。これまでの消化不良を軽減するためにも，授業時間を 1 時間増やすのが望ましい。
(5) 理科については，中学で削除された項目(全体で 8～17%)は従来から本校でも重複して教育している内容であり，直ちに支障があるわけではないが，基本的な概念の理解が遅れることが予想される。物理の基礎的理解を補うために，3 または 4 年で授業時間を増やすのが望ましい。また，本校学生の化学のレベルは普通高校レベルに達していないため，化学も 1 時間増やす必要がある。
(6) 英語については，単語数や時間が 10%削減されているが，コミュニケーション重視の方向が強く打ち出されており，これは本校の方針に合致している。単語数等の削減に対しては，入学後の授業で工夫することにより対応できるものと思われる。
(7) 1,2 学年について，専門科目の開設数は学科間で揃える。3 年生以上については不揃いとなる場合が生じてもやむを得ないが，クラブ活動等も考慮して，大きな時間差は生じないようにする。
(8) JABEE の時間数に関する基準に照らすと，人文社会系科目の時間数がやや不足しており，4，5 年の該当する科目の時間数を増やす必要がある。

以上の検討結果を踏まえ，一般科目の学年配置について検討し，低学年(1 年)の専門科目を 1 ないし 2 時間削減し，1 年生で非公式に実施している「総合演習(数学，物理化学，国語)」を廃止することにより，巻末のような学年配置案がまとまった。

２．平成１４年度の検討内容

前年度の結果を受けて，各専門学科で低学年の専門科目の変更策について検討した。その結果，1 年の専門科目を 1 時間少なくして 6 時間とすることで，全学科対応できることとなった。また，1 年の「総合演習」については，特に数学科から存続の強い要望があったが，できるだけ数学の授業の中で対処することとし，それがうまくいかない場合には専門科目でも協力して対応することになった。15 年度問題に関連したカリキュラムの改訂箇所を巻末の表に示す。

この改訂のうち，4，5 年関する部分は 14 年度から実施したが，特に 4 年生の週 3 日の 8 時間授業が問題となった。教務主事の要請を受け，当委員会でもこの点を再検討した。その結果，非常勤講師の都合で 2 時間連続で開設しているドイツ語Ⅱと化学特論の並列選択(自由選択)科目を，次年度以降は 8 時間目に 1 時間ずつ開講するよう時間割編成することとした。これにより，当該科目を選択しない学生は 8 時間授業の曜日が減ることとなり，過密感が解消されるものと思われる。担当者の負担を考慮した開設方法について，科目担当者と教務間で検討している。

３．今後の課題

学習指導要領改訂に伴うカリキュラムの検討については，14 年度までで一応終了した。新指導要領による新入生を迎えたうえで，この対策で十分か否か，また総合演習を廃止した影響等について見守る必要がある。

また，JABEE に関連して各プログラムで詳細なカリキュラムの検討がなされるはずであり，重複した検討は必要ないと思われる。当委員会としては，そこから提起される共通の問題，特に一般科目に関する問題を中心として，必要に応じて検討する方針で臨みたい。

(出典：平成 14 年度カリキュラム特別委員会自己点検報告)

資料２－２－②－２　平成 14 年度カリキュラム特別委員会自己点検報告（続き）

現行の一般系科目(関連科目のみ記載，＊は選択科目)

学年	人文科学，社会科学			数学，自然科学，IT		計	専門
	外国語	国語･芸術	社会	数学	理科		
1	英語Ⅰ 3 英語Ⅱ 3	国語 4	地理 2 歴史Ⅰ 2	基数Ⅰ 3 基数Ⅱ 3	物理 2 化学 2	24	7
2	英語Ⅰ 3 英語Ⅱ 2	国語 2 芸術 2	歴史Ⅱ 2 公民Ⅰ 2	微積分 4 代幾 2	物理 3 化学 2	24	8
3	英語Ⅰ 2 英語Ⅱ 2 *英/独 2	国語 2	公民Ⅱ 2	解析Ⅰ 3 解析Ⅱ 3	応物Ⅰ 2	16 *2	
4	英語Ⅰ 3	*文/独/化 2	*人文科学 1	応数Ⅰ 2		5 *3	
5	*英語Ⅳ 2		*社会科学 2	応数Ⅱ 2	応物Ⅱ 2	4 *4	
計	18 *4	10 *2	10 *3	22	13	73 *9	

(1) 応用数学，応用物理の実施学年は学科により異なる。
(2) 3 年の英語/独語，4 年の文/独/化，人文科学，5 年の社会科学は並列開設必修選択。
(3) 5 年の英語Ⅳは専門科目と並列選択。

改訂後の一般系科目(関連科目のみ記載，＊は選択科目)

学年	人文科学 社会科学			数学,自然 科学,IT		計	専門
	外国語	国語･芸術	社会	数学	理科		
1	English Ⅰ 4 English Grammar 2	国語 3 芸術 2	地理 2 歴史Ⅰ 2	基数Ⅰ 3 基数Ⅱ 3	物理 2 化学 3	26	6
2	English II 2 English Reading 2	国語 2	歴史Ⅱ 2 公民Ⅰ 2	微積分 4 代幾 3	物理 4 化学 2	24	8
3	English III 2 English Writing & Speaking 2 *(TOEIC Listening 2 / TOEIC Writing 2) *独語 2	国語 2	公民Ⅱ 2	解析Ⅰ 3 解析Ⅱ 3	応物Ⅰ 2	16 *6	
4	English IV 3 *独語 2	文学 2	人文科学 2	応数Ⅰ 2	*化学特論 2	9*4	
5	*English V 2		社会科学 2	応数Ⅱ 2	応物Ⅱ 2	6*2	
計	18 *8	11	14	23	15 *2	81*12	

(1) 応用数学，応用物理の実施学年は学科により異なる。
(2) 4 年の独語と化学特論は並列開設して自由選択とする。
(3) 5 年の英語Ⅳは専門科目と並列開設する。
(4) 4,5 年については，平成 14 年度より改定実施。
(5) 1～3 年は平成 15 年度入学生から学年進行で実施。

（出典：平成 14 年度カリキュラム特別委員会自己点検報告）

資料２－２－②－３　学生指導研究会及び学生指導協議会の実施要領

平成 14 年度　　学生指導研究会実施要領

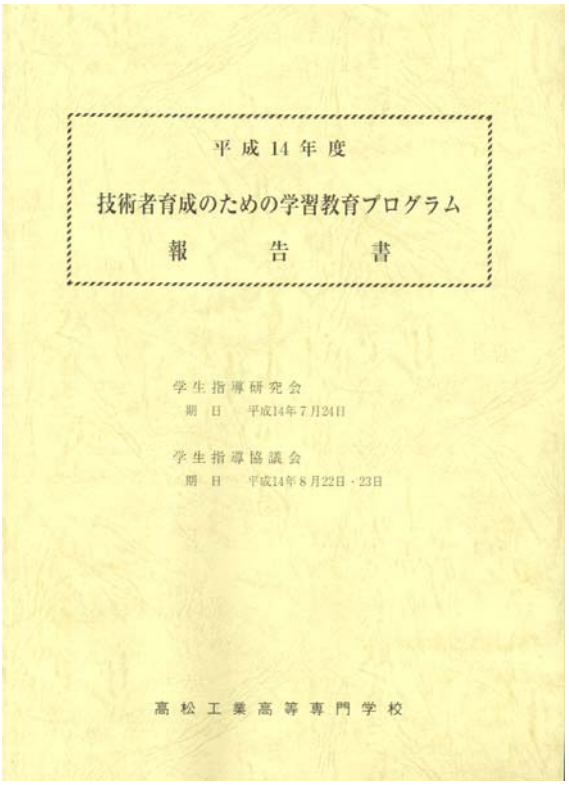
1　目　的
　技術者教育において高松高専が学生に求める資質・能力を明確にし，それを達成するための学習教育プログラムを具体的に検討する。同時に，専門学科と一般教育科の意志疎通を図り，学習教育プログラムの効果をあげるための方法を探す。
2　期　日　　平成 14 年 7 月 24 日（水）
3　場　所　　第一・第二会議室，専攻科棟 2 階講義室，専攻科棟 4 階大講義室
4　参加者　　校長，三主事，全教官
　　事務部長，学生課長，学務専門員，教務係長，学生係長
5　日　程
　(1) 開会（全体会，第一会議室）　　司会：学生課長
　　9：00　～　　9：10
　　開会の挨拶　校長
　　テーマ　「技術者育成のための学習教育プログラム」
　　9：10　～　　9：20　　移動
　(2) 討議Ⅰ「一般教育科の学習教育プログラム」（2 分科会方式）
　　9：20　～　10：50
　　①自然科学（数学）分科会（第一会議室）
　　司会：高橋宏　記録：堀江，中瀬
　　②人社科学（英語）分科会（専攻科棟 2 階講義室）
　　司会：梅田　　記録：児島加，田村
　　10：50　～　11：10　　休憩
　　11：10　～　　12：10
　　①自然科学（物理）分科会（第一会議室）
　　司会：岡野　　記録：鹿間，藤澤
　　②人社科学（国語）分科会（専攻科棟 2 階講義室）
　　司会：長谷川　記録：吉澤，喜田
　(3) 昼食，休憩
　　12：10　～　13：00
（以下省略）

平成 14 年度学生指導協議会実施要領

1　目　的
　学生指導研究会で討議された「高松高専の学習教育プログラム」に基づき，具体的な実行策を協議し全学的な基本指針を提示する。さらに，継続して検討すべき事項があれば，それについても討議する。
2　期　日　　平成 14 年 8 月 22 日（木）　9 時 00 分から
　　平成 14 年 8 月 23 日（金）　13 時 40 分まで
3　場　所　　塩江宿泊所
4　日　程　　別紙日程表のとおり
5　研究討議議題
　協議Ⅰ「一般教育科の学習教育プログラム」
　　(1) 数学の学習教育プログラム
　　(2) 英語の学習教育プログラム
　　(3) 物理・化学の学習教育プログラム
　　(4) 国語・社会の学習教育プログラム
　協議Ⅱ「専門学科の学習教育プログラム」
　　(1) 機械工学科の学習教育プログラム
　　(2) 電気情報工学科の学習教育プログラム
　　(3) 制御情報工学科の学習教育プログラム
　　(4) 建設環境工学科の学習教育プログラム
（以下省略）

（出典：平成 14 年度技術者育成のための学習教育プログラム報告書）

資料２－２－②－４　学生指導研究会及び学生指導協議会の報告書


平成14年度

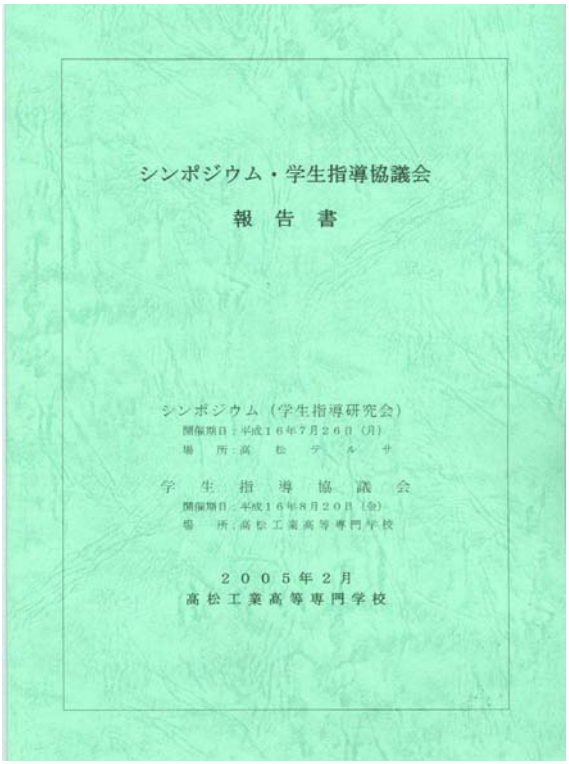
技術者育成のための学習教育プログラム

報　告　書

学生指導研究会
期　日　平成14年7月24日

学生指導協議会
期　日　平成14年8月22日・23日

高松工業高等専門学校


シンポジウム・学生指導協議会

報　告　書

シンポジウム（学生指導研究会）
開催期日：平成16年7月26日（月）
場　所：高松テルサ

学生指導協議会
開催期日：平成16年8月20日（金）
場　所：高松工業高等専門学校

２００５年２月
高松工業高等専門学校

（出典：学生指導研究会及び学生指導協議会の平成 14 及び 16 年度報告書）

資料２－２－②－５　一般科目と専門科目担当教員による会議等の開催状況（平成 18 年度）

開催日	会議名
6 月 6 日	理科教育に関する意見聴取会
7 月 20 日	社会科と専門学科の意見交換会
12 月 7 日	数学科と専門学科の意見交換会
12 月 26 日	専門学科と英語科の意見交換会

（出典：内部資料）

資料２－２－②－６　理科教育に関する意見聴取会の開催案内

Subject: 理科教育に関する意見聴取会の案内
Date: Tue, 23 May 2006 15:20:01 +0900

教員　各位

かねてから専門学科と一般教育科との連携を深めることが求められておりますが、このたび理科の方から低学年の理科教育に関する専門学科の先生方の率直な意見をお伺いする会をもちたいとの申し出がありました。

つきましては各専門学科の先生方のご参加をよろしくお願いします。各学科長におかれましては、少なくとも１名以上の参加になりますように、ご配慮をお願いします。

一般教育科長　権藤典明

下は理科主任岡野先生からの案内文です。

記

下記の日程で、理科教育に関する意見聴取会を実施します。
各学科最低１名（多くてもかまいません）をお願いします。

１．日時：６月６日（火）１５：３０－１６：３０
２．場所：第１会議室
３．趣旨：低学年の理科教育（物理、化学）システム改善のため、理科教育に関する、要望や問題点を意見聴取する。
４．参加者：一般教育科長、理科担当教員、各学科参加希望者（１名以上）
５．その他：当日は意見聴取のみを実施し、出された意見に対する回答や今後の改善策については、日を改めて報告することとします。当日参加できない方は、岡野（理科主任）まで電子メールなどで意見をいただければ追加します。
また、会議中の出入りも自由としますので、多くの方の参加をお願いします。

以上

（出典：学内メール）

資料２－２－②－７　理科教育に関する意見聴取会での意見

所属学科	意見
C	４年の応用物理は 1 単位減ったため、授業についていくのがしんどいという学生がいる。１～３年を含めて授業内容を精選し、減らす勇気も必要なのではないか。物理実験は時間の割に内容が多くて、学生の対応がルーチンワーク化しているように思う。２７テーマは多すぎないか。
C	3，4 年の物理については、低学年の内容とのつながりを考慮してほしい。
C	高知高専は、テクノフェローの制度を導入しているし、高知大学はボランティアで退職教員が授業を行っていると聞く。実験などは退職教員などにサポートしてもらってはどうか。専攻科学生の TA は可能か？
C	授業内容について、学科の特性を生かすため、専門学科の教員と情報交換すればよい。
E	高学年で、有効数字の演算、誤差計算が身についてない学生が見られる。たとえば、累乗計算の電卓計算結果をそのまま書く学生がいる。
E	専門の授業と物理の授業で同じ分野（光波）を教えているが、あまり身についていない模様。一方で、専門の物理と重複している部分の整理も必要ではないか。
E	低学年のうちに、MKSA 単位系の話も教えてほしい。
E	どういうレベルの学生にターゲットをあてて、教えているのか。
E	電気材料の授業中に、エネルギー保存則などの基本的事項が身についていないと感じる。受験勉強が必要ないのだから、基礎、概念を身につけさせてほしい。
E	物理式は良く知っているが、何でそうなるのか、という点を理解していないように思う。この点に、教育の重点を置いてはどうか。
E	学生に、低学年のうちからから、計算量を増やすなどの負荷をかけるべき。よいくせをつける必要がある。
E	学生実験も、ただやらせるのではなく、考えながらやらせるべきだ。
E	普通高校に比べ、演習量がぐっと少ないと思う。やっておかないとダメなのではないか。連立方程式はたてるが、これが解けない、というのが実態だ。
E	（物理実験のレポートが穴埋め、誘導式であることに対して）学生に、失敗を経験させるのも必要である。
E	すこしいやらしい問題も出して、学生に考えさせる必要がある。考えることが大切だ、ということを、学生のもっと積極的に気づかせることも必要。
E	正弦波とはどんな波か？1000Hz の音はどんな音か？と聞かれてイメージできない。実体験などをなるべく多く導入してもらえたらよい。
E	低学年で、反復練習が不足しているのではないか。一方で、「覚える」ではなく、「考える」力が必要。試験問題については、考える問題、理解しているかどうかを問う問題が必要。
E	低学年の理科のシラバスの内容については、特に問題ない。
E	専門との連携だけでなく、一般教育科内（数学と理科など）での話し合いも必要。３年から専門が入ってきているが、物理を良くわからないまま受講している。制度的にまずいのではないか。
E	クラス内で成績の２極化の傾向に対応するため、各教科での対応というより、全学的に対応すべき。
E	（一般的に）学生を客観的に評価できる試験になっていないのではないか。
E	（定期試験は範囲が限られているため、一夜漬けでもクリアできる場合がある。）たとえば、３年から４年に進級する際に簡単な進級試験を行うのは良い。（これは、JABEE の精神でもある）
E	進級試験の内容は、教科書の章末問題レベルで十分。
E	高専と高校を比較すると、人文系（国語、社会など）を削って、専門の授業を入れているに過ぎないが、果たしてこれでいいのか。学科で、議論してほしい。
E	低学年の教育には、学生に興味を抱かせる役目もあるのではないか。
G	４年生への進級時に、基礎・基本の定着度をチェックする試験は賛成。試験の前だけ勉強して、クリアーする、という実態が問題。問題の解き方のみを覚えて試験を受けるのみ。考えることが抜けている。
M	3 年の力学を教えているが、この内容はすでに習っている、という学生がいる。１～２年の力学を、また繰り返して教えている、という印象を受ける。
M	よく理解できている学生への対応をどうすればよいか。
S	検定教科書を使っているのであれば、低学年で（微積分など）高度な内容も入れたらどうか。
S	専門の先生も、低学年の（数学、理科の）教科書を見てみる必要がある。少なくとも、数学と理科は各科に１部ずつ配布してもらえたらありがたい。

（出典：学内メール）

資料２－２－②－８　数学と専門学科の意見交換会議事録

数学と専門学科の意見交換会議事録

12/7/06（木）13：30～15：30、第一会議室において開催
出席者（敬称略、順不同）
機械工学科：木原、橋本、高橋(義)、福井、小島、吉永、高橋(洋)、岡田
電気情報工学科：原圃、本田、鹿間、重田、荻原、太良尾、漆原、榎本
制御情報工学科：山内、平岡、由良
建設環境工学科：向谷、太田、田川
一般教育科：権藤、有道、宇野、市川、鎌田、上原、中川、高橋（宏）

○「応用数学１」の内容について
・制御科の JABEE 審査で、応用数学１の確率に高校レベルの内容が含まれており内容の充実が望まれる旨の指摘があった。
・３年の数学解析で講義している偏微分と入れ替える案も考えられるが、その場合どちらの教科も細切れになりすぎる嫌いがあるという数学科の意向があり、とりあえず来年度は内容はこのままでシラバスの記述で配慮することになった。
・再審査で指摘を受ければもう一度考慮する。
○数学特論について
・本科での応用数学２の内容が学科ごとに違っており、共通科目で何を教えるかは難しい。また、専攻科設置当時の経緯を引きずってきた部分もある。来年度からは基本的にどの教員でも行なえる内容にしたい。
・現状では、線形代数続論+演算子法と複素関数論を行なっているが、来年度は教員の専門の関係で演算子法は外れるだろう。
・内容の候補として、統計、ベクトル解析、特殊関数、統計、フーリエ関係などがあがったが、議論の結果、来年度は大学院入試対策も含めて最も一般的と思われる線形代数と複素関数で行くことになった。
・線形代数の中にデータ解析などに使われる一般化逆行列などを含めることを検討する。
・内容から考えて数学「特論」の名称は疑問との意見があった。（検討）
○低学年（１～３年）の数学について、その他の議論（一部順不同）
＜専門学科からの意見と数学科の回答＞
・データ処理や統計などをもっとやってほしい
→現状の時間数ではこれ以上内容を増やすのは困難。何か削ってもよいものがあれば挙げてほしい。
・小中学校の新指導要領に伴って数学を１単位増やしたが、それで対応できているか。
→内容は一応カバーできている。ただし、入学してくる学生のレベルや学力像の変化に伴い今後次第に困難が増していくだろう。（一部のクラスではすでに兆候がある）
・数学の定期試験の平均は高いが、それに伴った実力、特に応用力が着いていない。試験が易しすぎる場合や模擬問題の弊害があるのではないか。
→特に低学年で試験を難しくしすぎると現在の進級基準では大量の留年者が出る恐れがある。そうなると中学生により敬遠されるのではないか。また模擬問題については、得点の水増しのためにやっているのではなく、学生に学習の焦点をしぼらせるためや授業で説明できなかった応用への導入として手間をかけてやっている。
・問題集などを与えてそれを日頃からやらせれば模擬問題は必要ないのではないか。少なくとも模擬問題の量を増やしてもっと演習をさせたほうがよいのではないか。
→問題集は数年前から与えている。あまり量を増やすと全くやらない、または自力では手がつかない学生が多くいることを理解してほしい。現在の模擬問題も効果は上がっていると思う。
・数学科内で話し合って改善をしてゆく動きはないのか
→やっている。実力テストの再開、問題集の導入などいろいろ取り組んでいる。成果もある程度出ている（出ていた）と思うが、特に学力の定着について十分な効果が上がっていないところがあるかもしれない。
＜数学科からの意見と専門学科の反応＞
・実力テストの平均点の推移を説明した。開始当初から平均点は大きく上昇した。これは数学演習などとともに、専門学科と数学の連携が効果があったと思われるが、授業時間確保などの理由で実施が途切れ２年後に数学科独自で再開した時には平均点は大きく下がった。学生のモチベーションの差が主原因だと思う。実力テストを設けることのメリットはこのデータが実証しているので、数学科だけではなく広く協力してほしい。
→実力テストの配点をもっと上げてはどうか（→検討）
・学力の定着や応用力に問題があるのは確かだが、現状で数学科に要求されていること（１～３年+応用数学１で偏微分、重積分、微分方程式、固有値などを終わらせる）をこなそうとすると、それだけで手一杯でそのようなことまで手が回らない。
・定着に問題があるのは受験がないことも大きく影響している。
・このような大きな会議は一般の各教科まとめて夏休みにでも一度にやってしまってはどうか。あわせて代表者を決めてもう少し頻繁に少人数の集まりを持った方が具体的な行動につながりやすいのではないか。
→大きな会議は他学科の意見も聞けるのでよい。（→検討）　　（以下省略）

（出典：数学と専門学科の意見交換会議事録）

観点２－２－③：　教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育活動を円滑に行うために，すべての学級に学級担任を置き，第１，２，３学年には学年主任を置いている（資料２－２－③－１）。また，すべての教員が課外活動の指導に関わっている。学年主任，学級担任及びクラブ指導教員の配置状況を資料２－２－③－２に示す。

教員の教育活動を円滑に行うために，「教員の手引き」（資料２－２－③－３）と呼ばれるファイルが全教員に配布され活用されている。この「教員の手引き」には，教務，学生支援，寮務等に関する詳細な指示が書かれている。また，学級担任の業務内容を詳細に記述した「学級担任のしおり」（資料２－２－③－４）も毎年改訂されたものが担任に配布されクラスの運営に活用されている。

新任教員に対しては，学校業務に関する研修を行う体制が整備されるとともに，指導，助言を行うためにベテランの教員が初任者研修担当者として任命されている（資料２－２－③－５）。

学生，保護者及び教員等からの教育相談に対応するために教育相談室（資料２－２－③－６）が設置されている。教育相談室では，第１，３，５月曜日に臨床心理士の資格を持つ専門のカウンセラーが対応するほか，ベテラン，若手及び女性教員等の幅広い教員が相談に対応している（資料２－２－③－７，８）。

事務部学生課は，教育活動に直接関係する事務組織として，資料２－２－③－９に示すような授業時間割の作成，成績処理等の幅広い支援業務を行っている。また，技術支援室は，各学科からの支援要請に基づいて，学生の実験・実習における実技指導を担当し教員の授業を支援している。

教育活動を支援する学外の組織としては，保護者で組織された教育後援会があり，学生の面接実技指導や教員の課外活動の指導の際の交通費支給など各種の支援活動を行っていただいている（資料２－２－③－１０，１１）。

課外活動の指導を補充するために学外コーチに指導をお願いしている（資料２－２－③－１２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

教員の教育活動を円滑に行うために，「教員の手引き」が全教員に，「学級担任のしおり」が学級担任に配布され活用されている。新任教員に対しては，研修体制が整備されるとともに，ベテラン教員が初任者研修担当者として任命されている。教育相談室が設置され，月に３回ほど専門家によるカウンセリングも行われている。また，成績処理等の事務を学生課が，実習の実技指導等を技術支援室が支援している。教育後援会が各種の支援活動を行っている。

資料２－２－③－１　学年主任と学級担任

（学級担任及び学年主任）

第 14 条　各学級ごとに，学級担任を置く。

２　学級担任は，教授，准教授，講師又は助教をもつて充て，校長が任命する。

３　学級担任は，校長の命を受け，各主事，学級所属の学科長及び当該学年の学年主任と連絡を密にし，学級における次の各号に掲げる事項を処理する。

一　教務に関すること。

二　学生指導に関すること。

三　特別活動に関すること。

四　管理運営に関すること。

五　その他校長の指示する事項

第 15 条　第１学年，第２学年及び第３学年にそれぞれ学年主任を置く。

２　学年主任は，当該学年の学級担任のうちから校長が任命する。

３　学年主任は，校長の命を受け，各主事及び当該学年の学級担任と連絡を密にし，担当する学年の運営に関することを処理する。

第 16 条　学級担任及び学年主任の任期は，１年とする。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（出典：内部組織規則）

資料２－２－③－２　学級担任及びクラブ指導教員

平成18年度　学年主任及び学級担任

学年	M（機　械）	E（電気情報）	S（制御情報）	C（建設環境）	学年主任
1	1　有道　祐子	2　上原　成功	3　市川　　緑	4　中瀬巳紀生	中瀬巳紀生
2	岡野　　寛	堀江　賢治	加藤　清考	中川　征樹	岡野　　寛
3	福井　智史	荻原　昭文	川田　和男	土居　正信	川田　和男
4	高橋　義一	樋口　弘志	逸見　知弘	向谷　光彦	4・5年は置かない
5	吉永　慎一	鹿間　共一	十河　宏行	太田　貞次	

平成18年度　クラブ指導教員

クラブ名	指導教員名
写真部	○岡野　寛
	樋口　弘志
ブラスバンド部	○吉永　慎一
E・S・S	○宇野　光範
	荻原　昭文
	市川　　緑
軽音楽部	○高橋　宏明
	岡田　憲司
	中川　征樹
電算機クラブ	○堀江　賢治
	重田　和弘
自動車研究部	○川田　和男
美術部	○加藤　清考
	市川　　緑
合唱団フローエ・テーネ	○鹿間　共一
	本田　道隆
O・C・S	○堀江　賢治
書道部	○酒井　　孝
	岡田　憲司
アマチュア無線部	（休部）
ロボット研究会	○山崎容次郎
	川田　和男
	漆原　史朗
茶道部	○松原　三郎
	長友　克寛
	吹田　義一
バレーボール部	○中瀬巳紀生
	由良　　論
	高橋　宏明
バスケットボール部	○※坂本具儀
	高橋　洋一
	漆原　史朗
	土居　正信
	榎本　崇宏
	橋本　良夫
サッカー部	○権藤　典明
	真鍋　知久
	平岡　延章
卓球部	○出渕　幹郎
	（上代　良文）
	岩田　　弘
	※木原茂文
ソフトテニス部	○與田　　純
	高橋　義一
	鶴本　良博

クラブ名	指導教員名
柔道部	○多川　　正
	長友　克寛
	中治　弘行
陸上競技部	○太田　貞次
	向谷　光彦
	逸見　知弘
	正箱信一郎
水泳部	○小島　隆史
	福井　智史
	加藤　清孝
野球部（高学年）	○村上　幸一
	岡野　　寛
野球部（低学年）	○吉澤　恒星
	多良尾浩生
	田口　　淳
	渡辺　貴史
	服藤　憲司
	※鎌田　弘
ヨット部	○十河　宏行
	山内　庄司
	宇野　光範
	松原　三郎
剣道部	○長谷川　隆
	河野　通弘
	荻原　昭文
バドミントン部	○吉永　慎一
	神内　教博
	有道　祐子
サイクリング部	○吹田　義一
	春本　　繁
テニス部	○徳永　和秀
	竹下　治之
	酒井　　孝
ハンドボール部	○上原　成功
	山崎容次郎
	中川　征樹
山岳部	（休部）
ラグビー部	（休部）
囲碁将棋同好会	○重田　和弘
	本田　道隆
スポーツ空手同好会	○河野　通弘
	原圃　正博

（　）は文部科学省在外・内地研究員
○は主となる指導教員　※は主事である教員

（出典：高松高専だより 100 号）

資料２－２－③－３　「教員の手引き」教務関係目次（抜粋）

教　務　関　係

〈 目　次 〉

学業成績の評価・評定並びに卒業の認定に関する規則 ・・・・・・・・・・・・ 1
学業成績の評価等に関する規則の解説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
履修と不履修の定義とその取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
休講と補講の関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
選択科目の履修願・辞退届 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
定期試験実施要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
定期試験を受けなかった者について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
単位追認試験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
成績処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
成績順位のつけ方について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
卒業研究・校外実習の評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
他の高等専門学校との連携・交流事業について ・・・・・・・・・・・・・・・ １２
受験心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２
不正行為の定義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２
医務室受験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
特別活動の成績について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
キャリア概論の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
重み付き評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４
学業成績による留年の基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
出席状況が良好と判定される基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６
卒業要件について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６
各学年の修了認定について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
特別活動及び学校行事について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
校外実習について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７
海外英語演習について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
休学について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
再入学について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
転科について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９
出席簿の取扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２０
欠席・欠課等について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２
欠課１２０時間の取扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２３
成績会議について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４
退学願の取扱いについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４

（出典：教員の手引き）

資料２－２－③－４　「学級担任のしおり」目次

目　　次

学級担任の心得・心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
学生指導の心得・心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
学年始めのＨＲでの業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
学級担任の主な業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１　学年始めの業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
２　各試験前後の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
３　学年末の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
４　日常の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
５　その他の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
大学受験・再入学について ・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
専攻科進学，技術科学大等編入学推薦基準 ・・・・・・・・・１５
進級・卒業認定基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
成績会議について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
成績評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
成績不振者等への対応及びＨＲ教室の管理と美化について ・１９
学生指導要録記載要領について ・・・・・・・・・・・・・・２０
平成１８年度行事予定（学級担任関係）

（出典：平成 18 年度学級担任のしおり）

資料２－２－③－５　新任教員に対する指導，助言について

＜新任教員に対する指導，助言について＞

1　試用期間（採用後 6 か月）の間，新任教員のための初任者研修を行う。
(1) 三主事と事務部は新任教員に対し適宜次のような研修を行う。
　① 教務，学生，寮務に関する基本的事項
　② 服務規程等，事務一般に関すること。
　③ その他，本校における教育や研究についての質疑や相談に応じる。
(2) 一般教育科の新任教員にあっては所属教科，専門学科の新任教員にあっては各専門学科の中から，学科長はそれぞれ新任教員の指導，助言をするための初任者研修担当者を定め，校長に報告する。初任者研修担当者は，新任教員に対して適宜次のような指導，助言を行う。
　① 教授法について
　② 新任教員の行う研究授業について
　③ 本校における教育，研究について
　④ 本校における課外活動等の指導について
　⑤ その他，新任教員の質疑や相談について
2　新任教員は試用期間修了後，速やかにこの期間中に受けた指導，助言及び研修の内容についての感想，反省点，問題点などをまとめて，校長に報告する。

（出典：高松高専「教員の手引き」）

資料２－２－③－６　教育相談室運営規程

高松工業高等専門学校教育相談室運営規程

昭和 63 年２月 22 日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則（以下「規則」という。）第６条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教育相談室（以下「教育相談室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（目的）
第２条　教育相談室は，学生，父兄等からの個人的問題について相談に応じ，その解決のための適切な指導を行い，もつて学生の勉学条件の維持向上を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　教育相談室は，前条の目的を達成するため，次の各号に掲げる業務を行う。
一　学生の個人的問題に関する相談
二　父兄及び教職員からの教育相談
三　学生の勉学意欲に関連する健康相談
四　その他教育問題に関する研究討議
（組織）
第４条　教育相談室に室長及び室員を置く。
（室長）
第５条　室長の資格，任命及び職務については，規則第 20 条、第 21 条及び第 22 条に定めるところによる。
（室員）
第６条室員は，本校教員のうちから校長が任命する。
２ 校長は，必要に応じ，学外の学識経験者を室員として委嘱することができる。
３ 室員は，室長の下に教育相談室の業務を処理する。
（連絡調整）
第７条　室長及び室員は，教育相談室の業務を遂行するにあたっては，学生主事，学年主任及び学級担任等関係教員と連絡を緊密にするものとする。
（その他）
第８条　この規程に定めるもののほか，教育相談室に関し必要な事項は，室長が定める。

附則
この規程は，昭和 63 年４月１から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料２－２－③－７　教育相談室について

平成18．5．26　　高 松 高 専 だ よ り

教 育 相 談 室 に つ い て



1　第１・第３・第５月曜日は黒河内（くろこうち）先生のカウンセリングです

前期は，以下の日に放課後５時～６時と６時～７時まで図書館３階教育相談室でカウンセラー（臨床心理士）黒河内美鈴先生が本校学生とその保護者及び教職員を対象にカウンセリングを行います。秘密は厳守しますので先生や家族に相談できないような悩みでも気軽に相談して下さい。

希望者がかち合わないよう日時の調整が必要ですから，希望する学生は担任の先生か相談室員，相談室長（英語科出渕）まで申し出て下さい。

４／17(月)　５／１(月)　５／15(月)　５／29(月)
６／５(月)　６／19(月)　７／３(月)　９／４(月)
９／19(火)←注意

2　毎週金曜日は本校教育相談室員による相談日です

毎週金曜日の昼休み12：15～12：45と放課後４：15～６：00には本校教育相談室員が交代で図書館３階教育相談室において学生からの相談を受け付けています。雑談でもかまいませんので相談室員と話してみたい学生は利用して下さい。教員室では他人の耳があって相談しにくいようなことでも気にせず相談できます。

3　セクハラなど

女子学生に対するセクハラなど，女子学生の悩みで，男性の相談室員には話しにくい事は女性相談室員の有道先生や看護師の岡田さんに相談して下さい。有道先生は一般教育棟の２階，岡田さんは自彊会館１階の医務室にいます。

4　保護者の方へ

子どもさんのことで心配なことがおありでしたら，秘密厳守で対応いたしますので（原則として相談内容は相談者と相談を受けている者との間だけの秘密で，相談者の了承なしには絶対に誰にも他言はいたしません）遠慮なく相談室を御利用ください。また１に書きましたように保護者の方も黒河内先生のカウンセリングの対象者となっておりますので，御希望がおありでしたら学級担任の先生や相談室員に御相談ください。



出渕　幹郎（一般教育科）

教育相談室長の出渕です。私のところは，どちらかと言えば絶対に秘密を守って欲しい相談事や，じっくり時間をかけて解決しなくてはならない相談事が多いと思います。そういう悩みで困っている人は是非一度来室してみて下さい。秘密厳守で相談に応じます。またそういったこと以外の相談，雑談ももちろんOKです。

第１・第３・第５月曜日は黒河内先生の来校日です。黒河内先生は普段は香川県精神保健福祉センターでカウンセラーとして勤務なさっています。どんな悩みにでもゆっくり優しく対応して下さり，先生に話を聞いていただいただけで気持が楽になるという相談学生は大変多いです。こじれた悩みでも時間をかけて相談者といっしょにゆっくりときほぐして下さいます。学校の先生は多かれ少なかれ知人の範疇に入る人ですから，そういう人には話せない悩みも多々あることと思います。そういう悩みを持った時，遠慮なく黒河内先生に相談してみて下さい。また本校相談室員に持ち込まれた悩みで，室員では対応しきれないと判断した時には，相談学生に黒河内先生と話してみることを勧めています。



長谷川　隆（一般教育科）

「Ｉ（アイ）よりΠ（パイ）を！」　その心は何でしょうか？　私のところは，セルフサービスですが，コーヒー無料サービス中です。雑談でも教育論でもかまいません。一般教育棟及び講義棟２階の国語教員室で待っています。昼休みか１８時以降だったら部屋にいる確率が高いでしょう。「その心」も教えます。なお，「Π」の小文字はπですが，円周率ではありません。



田口　淳（一般教育科）

皆さんの中には，日々いろいろな悩みと直面しながら，一喜一憂している人も多いと思います。辛いときは，一人で悩まずに気軽に相談に来てください。気分転換のための雑談でもかまいません。自分の心が楽になるためにどんどん利用してください。ジュースやお菓子を用意してお待ちしています。



有道　祐子（一般教育科）

教育相談室員３年目の有道祐子です。高専は女子学生が少ないため，女子学生は入学当初からいろいろな悩みを抱えていると思います。私の部屋にはいつも学生がいて，入りづらいかもしれませんので，今年は教育相談日を設けることにしました。毎週火曜日の放課後はいつも部屋を空けてお待ちしています。特に女子学生の皆さん，ストレスを感じたら話に来てくださいね。



高橋　洋一（機械工学科）

今年度から教育相談室の担当となりました。私自身も高松高専の卒業生なので皆さんの気持ちはよくわかります。悩み事や相談事，雑談でもかまいませんので気軽に教員室に来てください。部屋は，実習工場の1階です。工場内の壁に大きく掲げてある「安全第一」の標語が目印です。少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いします。



村上　幸一（電気情報工学科）

悩みごとを一人で抱え込むのは，結構つらいです。ですから，もし悩みごとや相談ごとがあれば，気軽にご相談ください。別に部屋に来られなくても，授業の合間や，廊下ですれ違ったとき，ちょっとした時なんかでも，別に構いません。気軽にどうぞ。



徳永　秀和（制御情報工学科）

今年から教育相談室員になりました。１，２年の授業を持っていないし，部屋も北の端なので来にくいかも知れませんが，制御情報工学科特有の問題などがあれば，私の所に来てください。また，学生時代は不良学生でしたので，不良学生特有の問題をお持ちの方もご訪問下さい。



中治　弘行（建設環境工学科）

4月から教育相談室員となりました中治です。どんな悩みも，自分一人で抱え込まないで，誰かに話すだけでも気が楽になることがあるでしょう。アドバイスをしようとか，悩める若者を救ってやろうとか，そんなエラソーなことはまったく考えていませんので，気軽に世間話をしに来てください。よろしくお願いします。

＊緊急な相談，人に絶対知られたくない相談があれば教育相談室長に直接電話かメールを下さい。秘密厳守で早急に対応します。

出渕直通電話　087-869-3848 (平日昼)
　　0877-44-2418 (夜間・休日)
メールアドレス　idebuchi@takamatsu-nct.ac.jp か
　　plastic@mail4.kbn.ne.jp

（出典：高松高専だより　100 号）

資料２－２－③－８　教育相談室相談人数及び件数

	年度	男子				女子				保護者		その他	
		低学年		高学年		低学年		高学年					
		人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数
対人関係	16	2	4	4	22	5	21	6	49	1	1		
	17	1	3	3	15	4	25	3	35				
いじめ	16			1	4	1	5			2	1	1	4
	17					2	7						
身体不調	16	2	3	5	14	12	46	11	28				
	17	1	3	5	13	10	31	7	17				
長期欠席	16	3	37	2	34	1	3			2	19	2	31
	17	2	49	2	58	1	27			2	14	4	18
成績不振	16	4	21	4	27	4	14	3	14	4	30	3	14
	17	5	28	4	19	3	16	2	9	3	21	2	9
進路	16	5	33	19	31	8	32	5	21	3	8		
	17	7	42	30	76	7	31	4	16	4	7		
その他	16			1	10	1	31					1	1
	17	2	26									2	3
合計	16	16	98	36	142	32	152	25	112	12	59	7	50
	17	18	151	44	181	27	137	16	77	9	42	8	30

（出典：内部資料）

資料２－２－③－９　学生課の業務内容（抜粋）

（学生課の所掌事務）
第 14 条　学生課に課長補佐及び次に掲げる係並びに技術支援室に技術班を置く。
教務係
学生係
寮務係
図書係,
技術支援室　　第一技術班
　　第二技術班
　　第三技術班
2 学生課長補佐は、課長を補佐し、学生課の事務を処理するとともに，次の事務をつかさどる。
一　専攻科に関すること。
二　技術者教育の認定に関すること。
三　学生関係の規則制定等に関すること。
3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生課の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
二　学生募集及び入学者選抜に関すること。
三　学生の修学指導に関すること。
四　教育課程の編成、授業及び試験に関すること。
五　学生の学業成績に関すること。
六　学生の指導要録の整理、記録及び保管に関すること。
七　学生の入学、転学、留学、休学、退学及び卒業に関すること。
八　学生の校外実習及び工場見学等に関すること。
（途中省略）
4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生及び学生団体の指導監督に関すること。
二　学生の課外活動に関すること。
三　学生のカウンセリングに関すること。
四　学生の表彰及び懲戒に関すること。
五　入学料、授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
六　奨学金及び経済援助に関すること。
七　学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
八　学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
（途中省略）
5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生の入退寮に関すること。
二　寄宿料の債権発生及び消滅に関すること。
三　寄宿料の免除に関すること。
四　寮生の給食に関すること。
五　寮費等の経理に関すること。
六　寮生の指導監督に関すること。
七　寮生の生活相談に関すること。
八　学生寮の生活環境の整備に関すること。
（途中省略）
6 図書係においては、次の事務をつかさどる。
一　図書館情報資料の受入れ、整理及び保存に関すること。
二　図書館情報資料の閲覧、貸出し等利用に関すること。
三　図書館における教育研究活動及び情報サービスに関すること。
四　研究紀要に関すること。
五　図書費の経理に関すること。
六　図書費の契約に関すること。
七　図書の寄附受入れに関すること。
八　読書指導及び図書館の利用に関すること。
（途中省略）
7 技術支援室の技術班においては、教育研究支援のため、次の業務をつかさどる。
一　第一技術班　　ア　製造・加工等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項
二　第二技術班　　ア　電気・情報等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項
三　第三技術班　　ア　測定・分析等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項

（出典：事務組織及び事務分掌規程）

資料２－２－③－１０　教育後援会会則

高松工業高等専門学校教育後援会会則

（名称）
第１条 この会は、高松工業高等専門学校教育後援会と称し、その事務所を同校内に置く。
（目的及び事業）
第２条 この会は、学生の育成を全うするため、学校の教育事業を助成することを目的とする。
第３条 この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
一 学校と家庭との連絡
二 学生の補導、厚生事業の助成
三 学校の教育諸施設整備充実
四 就職あっ旋事業の助成
五 その他この会の目的を達成するために必要な事業
（組織）
第４条 この会は、次の会員をもって組織する。
一 正会員 本校学生の保護者
二 賛助会員 この会の事業に賛助する者
（役員）
第５条 この会に次の役員を置く。
会長１名 副会長２名 理事若干名 監事２名
第６条 会長は、この会を代表し、会務を総理する。
２ 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。
３ 理事は、会務運営の企画を立て、かつ、必要に応じて会務を分担する。
４ 監事は、会務の監査に当たる。監事は、他の役員を兼ねることができない。
第７条 会長、副会長及び監事は、総会の決議によって、正会員のうちからこれを選任する。
２ 理事は、正会員のうちから会長がこれを委嘱する。
第８条 各役員の任期は、１か年とし、欠員を生じた場合の後任者の任期は前任者の残任期間とする。ただし、重任を妨げない。
第９条 この会に顧問若干名を置くことができる。
２ 顧問は、会長の諮問に応ずる。
３ 顧問は、総会の承認を経て、会長がこれを委嘱する。
第 10 条 この会の事務を処理するため、事務職員を置くことができる。
（会議）
第 11 条 総会は毎年１回、４月にこれを開く。ただし、必要あるときは、臨時にこれを開くことができる。
２ 総会は、会長がこれを召集する。
３ 総会は、次の事項を審議決定する。
一 事業計画並びに予算決算
二 役員の決定
三 会則の改廃
四 議題の審議
五 その他重要事項
４ 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
第 12 条 役員会は、会長が必要と認めるとき、これを開く。
２ 役員会は、総会に提出する議案、この会の運営に関する具体案を審議決定する。
３ 緊急の際は、役員会をもって総会に代えることができる。この場合は、総会の事後承認を得なければならない。
４ 役員会の召集及び議決については、前条第２項及び第４項の規定を準用する。
第 13 条 この会は、適宜地域分会の組織をもつことができる。
（会計）
第 14 条 この会の運営に要する経費は、正会員の入会金、会費、体育文化活動費及び寄附金をもってこれに充てる。
第 15 条 入会金は、５，０００円とし、入学の際に納付するものとする。なお、本校の本科から引き続き専攻科に入学する者及び外国人留学生は納付を要しないものと する。
２ 会費は、年額１２，０００円とし、年度当初に一括又は４月及び１０月に半期分を納付するものとする。
３ 体育文化活動費（本科生のみ）は、年額１０，０００円とし、４月に納付するものとする。
４ 休学中は前２項については免除する。
なお、特別な事情により、会費の納付が著しく困難であると認められる場合は、免除することができる。
（入学料免除の基準等に準ずる。）
第 16 条 会計年度は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

（出典：教育後援会会則）

資料２－２－③－１１　教育後援会だより

平成18．5．26　　高松高専だより

教育後援会だより

◆教育後援会会長就任にあたり



教育後援会会長
福　家　敏　雄

この度，平成18年度教育後援会会長に選任されました福家です。会員の皆様には，日頃より教育後援会に対して深いご理解とご支援，ご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

本年度の教育後援会でも昨年度に引き続き力を入れていますのは，２年団保護者懇談会，４年・５年生の面接実技指導を計画しております。その他の活動については，例年通り進めてまいりたいと思いますので，ご協力のほどよろしくお願いいたします。

振り返れば長いと思われる５年間の高専在学期間は，あっと過ぎますので就職か進学かの進路を決める目的意識を持って，後悔の無い学生生活を過ごすために，少しでも父兄として，支援ができたらと考えていますので，役員と協力してより良い環境づくりを応援してまいります。

会員の皆様には，意見，提案，不満等，何でも結構ですから，遠慮なく言って頂き，より良い教育後援会にしたいと思いますので，今後ご指導，ご協力をお願い致します。

平成18年度高松高専教育後援会総会報告

さる４月５日，平成18年度入学式に続き，午後１時50分から平成18年度高松工業高等専門学校教育後援会総会が開催されました。

次の３案について審議され満場一致で承認されました。

(1) 平成17年度会計報告及び同会計監査報告
(2) 事業概要説明及び平成18年度予算(案)
(3) 平成18年度役員の改選

◆面接実技研修に同席して

教育後援会副会長　大　西　正　人

過日，教育後援会事業の一環として本科４年生と専攻科１年生を対象とした「面接実技研修」を実施いたしました。

この研修の趣旨は，学生にとって人生の岐路ともいえる就職活動において，学科試験に合格するも面接試験で不合格となる無念を回避することにあります。

研修の方法は，学外講師，教員，後援会役員を相手に本番さながらの模擬面接を行います。普段見慣れない大人から矢継ぎ早に出される質問を，瞬時に理解して丁寧な言葉で返答することは，かなりの苦しさを伴い，学力よりもまさに胆力勝負といえます。そして一人終了するごとに，面接に臨む心構えや，入室から退室までの動作姿勢や目線，表情など，本人の気づいていない注意すべき点の指導を行って完了となります。

この研修に同席した者として伝えたいことは，面接試験は，学校での成績の善し悪しを問うているものではないということです。本人の人柄や適応性，ものの見方や受け止め方などのいうなれば，ともに戦う仲間として受け入れることが出来るかどうかを推し量っているのです。臆せず，落ち着いて思いを伝えようとすれば，相手は安心感や信頼感を持ちます。立派な返答を求めているのではありません。但し，学外講師から指摘された世間一般との感覚のズレは，素直に改めて欲しいと思います。

最後に，この研修については，就職・進学の区別はなくぜひとも全員が履修して欲しいと考えています。経験や体験をすることが，成功や失敗という結果に現れて記憶に残ります。この記憶の積み重ねこそが，考える力となって自信に繋がります。まさに「経験こそ力なり」です。

（出典：高松高専だより　100 号）

資料２－２－③－１２　学外コーチの指導による課外活動計画調書

平成18年度学外コーチの指導による課外活動計画調書一覧

クラブ名	指導期間	H18計画時間数 ①	H18実施計画案 ②
E.・S・S	H18.5.19～H19.2.16	32	10
合唱団ﾌﾛｰｴ･ﾃｰﾈ	H18.4.1～H19.3.31	200	30
	H18.5.1～H19.11.30	10	5
茶道部	H18.4.14～H19.2.13	72	25
ソフトテニス部	H18.4.15～H18.8.14	40	35
柔道部	H18.4.1～H19.3.31	80	15
陸上競技部	H18.4.1～H19.3.31	180	60
野球部	H18.4.1～H19.3.31	30	30
ヨット部	H18.4.29～H18.11.30	168	30
ハンドボール部	H18.6.14～H19.1.14	40	30
	合計	852	270

平成18年度予算 [redacted]

※上記①・②の説明
① クラブ顧問から提出された平成18年度年間計画時間数。
② 平成18年度の年間実施計画時間数の案。（原則は，この時間数を超えて支給しないが，予算が余った場合は支給する事は可能。）

（出典：内部資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教員の教育活動を円滑に行うために，教務，学生支援，寮務等に関する詳細な指示書「教員の手引き」が全教員に配布され活用されている。また，学級担任の業務内容を詳細に記述した「学級担任のしおり」も担任に配布されクラスの運営に活用されている。保護者で組織された教育後援会が，学生の面接実技指導や教員の課外活動の指導の際の交通費支給など各種の支援活動を行っている。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を図るために，必要に応じて，数学，理科，英語に関して一般科教員と学科教員が意見を交換する会議を開催している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程においては，機械工学科，電気情報工学科，制御情報工学科，建設環境工学科の4学科が設置され，本校の使命である「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ために，学科毎に「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」が定められている。また，各学科の教育課程，教員構成は学校の目的を達成する上で適切なものとなっている。

専攻科は機械電気システム工学専攻と建設工学専攻の2専攻で構成されており，機械電気システム専攻は機械工学コース，電気情報工学コース，制御情報工学コースの3コース，建設工学専攻は建設工学コースの1コースで構成されている。これらの4コースは準学士課程の4学科にそれぞれ対応しており，準学士課程の基礎の上に，専攻科の目的「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度の専門知識と技術を教授し，その研究を指導する」を実現するために適切な構成となっており，4コースそれぞれが技術者教育プログラムの認定を受けている。

全学的なセンターとして，コンピュータサイエンスセンターと高機能化技術教育研究センターが設置されており，本校の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として企画運営委員会と技術者教育推進委員会が設置され機能している。また，教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として，教務委員会，専攻科委員会が設置され有効に機能している。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を図るために，必要に応じて，数学，理科，英語に関して一般科教員と学科教員が意見を交換する会議を開催している。

教育活動や課外活動を円滑に実施するために，担任制度，クラブ顧問制度が整備され有効に機能している。その他に，教務，学生支援，寮務等に関する詳細な指示が書かれた「教員の手引き」と呼ばれるファイルが全教員に，学級担任の業務内容を詳細に記述した「学級担任のしおり」が担任に配布され教育活動に活用されている。また，事務的側面からは学生課に教務係，学生支援係，寮務係，技術支援室が設置されており，教育活動，課外活動，学生の学校生活，寮生活を支援している。また，保護者で組織された教育後援会が各種の支援活動を行っている。

基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における全学科共通の目的（資料３－１－①－１）を達成するために，一般科目を担当する一般教育科に20名の専任教員（教授6，准教授10，講師4）が配置されており設置基準を満たしている。その他にも20名の非常勤講師（2名が外国人講師）が一般科目の教育に携わっている。科目毎の教員の配置は資料３－１－①－２の通りである。各科目と学習教育目標の関連は資料３－１－①－３に示す通りであり，各科目を担当する教員の配置は資料３－１－①－４の通りである。専任教員の専門分野は資料３－１－①－５の通りである。また，専任及び非常勤講師の授業時間割は資料３－１－①－６に示す通りであり，適切な時間配分となっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

一般科目を担当する一般教育科には20名の専任教員が配置されており設置基準の18人を超えている。この他に20名の非常勤講師（2名が外国人講師）が一般科目の教育に携わっている。また，それぞれの専門分野を考慮し授業科目を担当している。このように，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

資料３－１－①－１　**準学士課程の目的**

１．本校の使命

本校の使命は，準学士課程においては 「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」 こと，専攻科課程においては 「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導する」ことである。

２．校訓（理念）

本校の校訓は「自彊・独創・和敬」であり，自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としている。

３．養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者を育成する。

４．本校の学習・教育目標

準学士課程及び専攻科課程を通じて，次に示す４つの学習・教育目標（大目標）を掲げている。

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）
（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

５．卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力

（１） 準学士課程

前記の大目標のもと，準学士課程卒業までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【全学科共通】

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
　　社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。
（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）
　　自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。
（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
　　課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。
（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）
　　自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007)）

資料３－１－①－２　**一般教育科目担当教員数，専任教員の学位取得状況・職歴**

科目	国語	社会	数学	物理	化学	体育	英語	芸術
専任教員	2	4	5	2	1	2	4	0
非常勤講師	2	2	5	1	1	2	5（2）	2

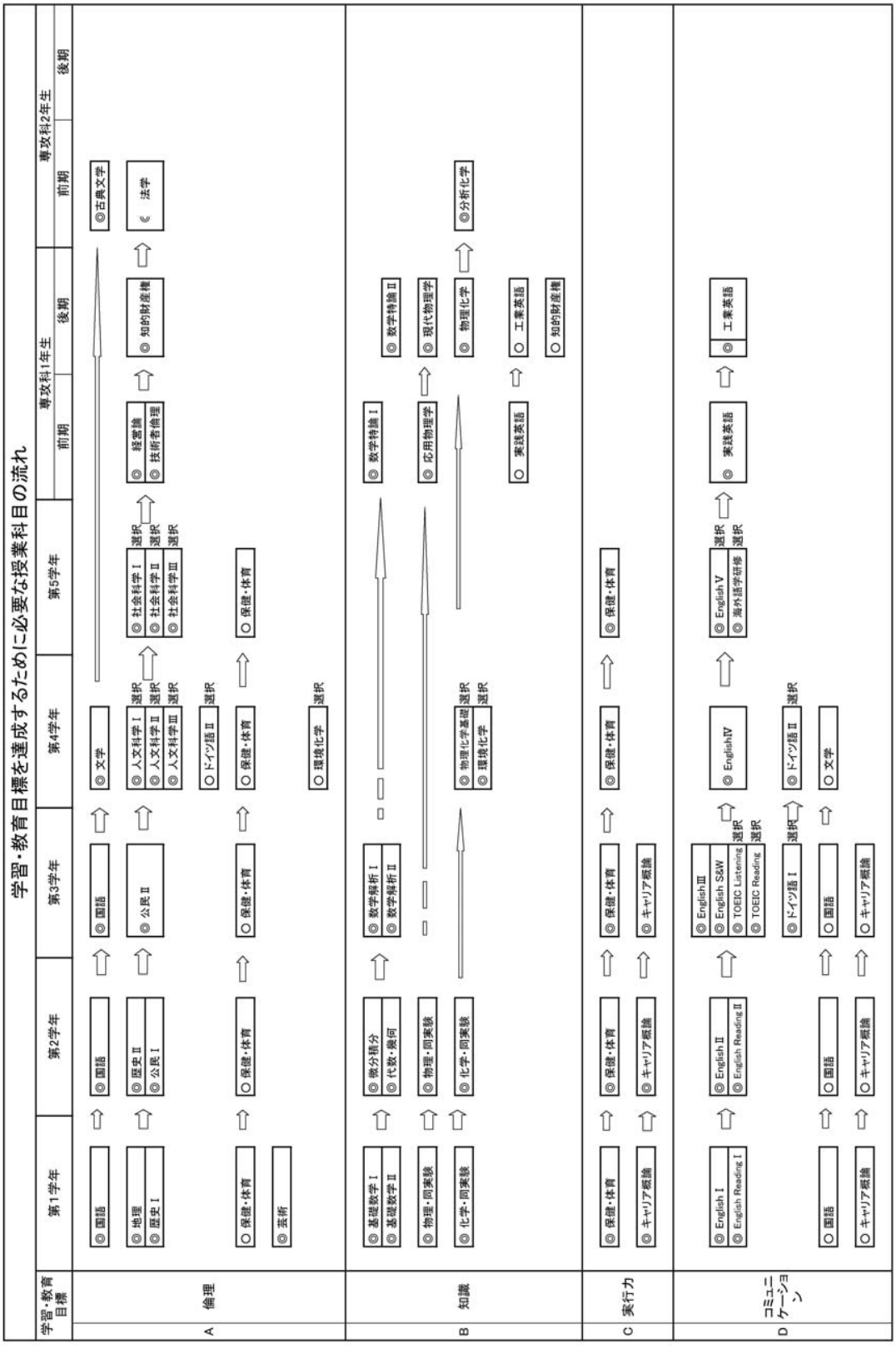
（　）内は外国人教員数

一般科目担当専任教員の学位取得状況	
修士取得者	博士取得者
18	5

一般科目担当専任教員の職歴			
他の大学等	他の高校	民間企業等	研究機関
3	5	3	0

（出典：内部資料）

資料３－１－①－３　**学習教育目標と一般科目の関連**



（出典：平成 19 年度各学科シラバス）

資料３－１－①－４　**教育課程（全学科共通）**

■教育課程（各学科共通）　Curriculum(Common to Each Department)　【平成19年度】

区分 Classification		授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	担当教員 Faculty【*非常勤】
必履修科目 Compulsory Subjects	国語		Japanese	7	3	2	2			長谷川、坂本、山本*
	文学		Literature	2				2		長谷川、坂本
	社会 Society	地理	Geography	2	2					権藤
		歴史Ⅰ	History Ⅰ	2	2					與田
		歴史Ⅱ	History Ⅱ	2		2				権藤、與田
		公民Ⅰ	Civics Ⅰ	2		2				河野、田口
		公民Ⅱ	Civics Ⅱ	2			2			河野、田口
	数学 Math	基礎数学Ⅰ	Mathematics Ⅰ	3	3					寺田
		基礎数学Ⅱ	Mathematics Ⅱ	3	3					高橋、上原
		微分積分	Calculus	4		4				高橋、上原
		代数・幾何	Algebra and Geometry	3		3				鎌田、武丸*、笹岑*
		数学解析Ⅰ	Advanced Calculus Ⅰ	3			3			笹岑*、神野*
		数学解析Ⅱ	Advanced Calculus Ⅱ	3			3			中川
	理科 Science	物理・同実験	Physics	6	2	4				服藤、加藤、塚本*
		化学・同実験	Chemistry	5	3	2				岡野、三浦*、塚本*
	保健・体育		Health and Physical Education	10	2	2	2	2	2	中瀬、吉澤、横山*、伊藤*
	芸術		Arts (Music or Fine Arts)	2	2					漆原*、永井*
	外国語 Foreign language	English Ⅰ		4	4					宇野、倉本*、Holguin
		English Reading Ⅰ		2	2					市川
		English Ⅱ		3		3				出渕、小林*
		English Reading		2		2				出渕、宇野
		English Ⅲ		2			2			有道
		English Writing & Speaking		2			2			Arnold*、藤原*、小林*
		EnglishⅣ		3				3		出渕、市川
選択科目 Elective Subjects	人文科学Ⅰ		Human Science Ⅰ	2				2		権藤
	人文科学Ⅱ		Human Science Ⅱ	2				2		田口
	ドイツ語Ⅰ		German Ⅰ	2			2			田口
	TOEIC Listening			2			2			宇野
	TOEIC Reading			2			2			藤原*
	ドイツ語Ⅱ		German Ⅱ	2				2		河野、與田
	環境化学		Environmental Chemistry	2				2		三浦*
	物理化学基礎		Principles of Physical Chemistry	2				2		岡野
	英語Ⅳ		EnglishⅣ	2					2	有道
	海外英語演習		English Exercise	1					1	有道、宇野、岡野
	社会科学Ⅰ		Social Science Ⅰ	2					2	河野
	社会科学Ⅱ		Social Science Ⅱ	2					2	河野良*
	社会科学Ⅲ		Social Science Ⅲ	2					2	村山*

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－①－５　**一般教育科専任教員の研究テーマ**

■教員の研究テーマとその内容　Research Field of Faculty

職名 Title	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
教授 Professors	理学士 B.Sc.	鎌田　弘 KAMADA, Hiroshi	教育工学 Educational Technology	①数学授業におけるWeb上の簡易補習システムの開発 Development of a Web-based Supplemental Learning System in Mathematical Classes. ②数学授業における効果的な構成主義的学習法に関する研究 Study of Effective Learning Method on Constructivism in Mathematical Classes.
	文学修士 M.Litt.	権藤　典明 GONDOU, Noriaki	人文地理学 Human Geography	①明治期における村の研究 Study on the Villages in the Meiji Period. ②香川県における灌漑システムの研究 Study on the Irrigation System in Kagawa Prefecture.
	文学修士 M.Litt.	長谷川　隆 HASEGAWA, Takashi	説話文学、軍記物語 Oral Literature, Tale of War	①平家物語の研究 The Study of Heikemonogatari. ②説話文学の研究 The Study of Oral Literature.
	法学修士 LL.M.	河野　通弘 KONO, Michihiro	刑事法、憲法 Criminal Law & Procedure, Constitution	①令状主義 Warrant Requirement in Criminal Procedure. ②適正手続 Due Process and Criminal Procedure.
	工学博士 D.Eng.	服藤　憲司 HATTATUJI, Kenji	半導体物理 Physics of Semiconductors	①半導体デバイスの物理機構 Physics of Semiconductor Devices. ②半導体材料の分子モデリング Molecular Simulation of Semiconductor Materials.
	文学修士 M.Litt.	坂本　具償 SAKAMOTO, Tomotsugu	中国古代思想史 The history of ancient chinese thoughts	①漢代春秋学の研究 Study of Chun-qiu春秋 Learning in Han漢 period.
准教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	堀江　賢治 HORIE, Kenji	数学、解析 Mathematics, Real Analysis	①実解析の研究 Real Analysis. ②Convolution代数の研究 Convolution Algebra.
	文学士 B.Litt.	出渕　幹郎 IDEBUCHI, Mikiro	英語教授法 Methodologies of Teaching English	①外国語としての英語教授法 Teaching English as a foreign Language. ②第2言語としての英語教授法 Teaching English as a second Language.
	理学修士 M.Sc.	高橋　宏明 TAKAHASHI, Hiroaki	位相幾何学、数理物理 Topology, Mathematical Physics	①場の量子論的手法による低次元位相幾何学 Quantum field theoretical methods in low dimensional topology. ②位相幾何学における楕円コホモロジー等の形式群的アプローチ Elliptic cohomology and related formal group approach in algebraic topology.
	博士(工学) D.Eng.	岡野　寛 OKANO, Hiroshi	無機材料化学、薄膜工学 Inorganic Materials Chemistry Thin Film Engineering	①機能性薄膜の作製に関する研究 Preparation of Functional Thin Films. ②弾性表面波デバイス用材料に関する研究 Development of new materials for Surface Acoustic Wave Devices.
	教育学修士 M.Ed.	田口　淳 TAGUCHI, Jun	教育思想史 History of Educational Thought	①ヘルバルトの教育思想の形成に関する研究 Formation of Herbart's educational thought. ②ドイツにおけるヘルバルト主義運動の発展に関する研究 Development of the Herbartian Movement in Germany.
	修士（体育学） M.Phys.Ed.	中瀬 巳紀生 NAKASE, Mikio	運動方法学、コーチ学 Sports Methodology, Coach Methodology	①バレーボールのラリーポイントに関する研究 The study on the rally point system in volleyball game. ②バレーボールのサーブと勝敗に関する研究 The study on the relationship between service points/faults and the game result in volleyball game.
	修士（体育学） M.Phys.Ed.	吉澤　恒星 YOSHIZAWA, Kousei	スポーツトレーニング理論 Theory of sports training	①野球投手のトレーニング・技術指導 Coaching & training of baseball pitchers. ②集団スポーツにおけるコーチング理論 Coaching theory about team sports.
	修士(文学) M.Litt.	與田　純 YODA, Jun	西洋史 European History	①イギリスのナショナリズム Nationalism in Britain. ②イギリスの歴史教育 History Teaching in Britain.
	博士(理学) D.Sc.	上原　成功 UEHARA, Shigenori	幾何学的トポロジー、位相空間論 Geometric Topology General Topology	①無限次元多様体の位相 Topology of infinite-dimensional manifolds. ②集合値関数空間の位相 Spaces of multi-valued functions.
講師 Assistant Professors	教育学修士 M.A.(Ed.)	有道　祐子 ARIMICHI, Yuko	外国語としての英語教育 English as a Foreign Language Education	①コミュニケーション活動についての実践研究 An Empirical Study of Effective Communication Activities. ②実践的英語能力を高めるための指導法の工夫 A Study of Procedures to Enhance Students' Practical Communication Competence in English.

職名 Tatle	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
講師 Assistant Professors	文学修士 M.Litt.	市川　緑 ICHIKAWA, Midori	イギリス文学 English Literature	①イギリスのモダニズム文学・文化研究 Study of English Modernist Literature and Culture ②文学理論 Literary Theory.
	修士(文学) M.Litt.	宇野　光範 UNO, Mitsunori	現代英米哲学 Contemporary Anglo-American Philosophy	①ゲーデルの哲学 Philosophy of Godel ②心と機械 Minds and Machines
	博士(理学) D.Sc.	加藤　清考 KATO, Seiko	素粒子論、場の理論 Elementary Particle Physics Field Theory	①Yang-Mills理論の低エネルギー有効理論 Low-energy effective theory of Yang-Mills theory. ②3次元イジング模型のストリング表現 String representation of D=3 Ising model.
	博士(理学) D.Sc.	中川　征樹 NAKAGAWA, Masaki	代数的位相幾何学 Algebraic Topology	①Lie群と等質空間の位相幾何学的研究 Topology of Lie groups and homogeneous spaces.

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－①－６　**一般教育担当教員時間割(平成１９年度前期)**

		国語				芸術		社会						数学										物理			化学		体育				英語							
		長谷川	坂本	大山鈴	山本	漆原美	永井	権藤	河野	田口	與田	河野良	村山	鎌田	堀江	高橋宏	上原	中川	武丸	大山見	笹岑	神野	寺田	加藤	服藤	塚本	岡野	三浦	中瀬	吉澤	伊藤	横山	出渕	有道	市川	宇野	小林	アーノルド	ハルグイン	藤原	倉本
月	1		12						3M	2C									2M				11			4C				14			2E	5全	13					
									3M	2C						14			2E				12			4C							2M	5全	13	11				
	2		4S					2E			12								4M		2C		14	2M		13			3C						11					
			4S					2E			12					13			4M		2S		14	2M									2C	3C	11					
	3							11	SC2					2C		2S	2E						13	14		3C									4S	12				
								11	SC2					2C		2S	2E						13	14		3C				12				3S	4C					
	4																												5M			4E							
		4E																											5M										
火	1		11			134	134			3ES								SC1				3C				12	2E		2M						3ES				3ES	
						134	134			3ES								SC1				3C				12	2E			11			2M		3ES				3ES	
	2	SC2	SC2			112	112			3MC								3E						2S		4E	2C			14					3MC	2E			3MC	13
		SC2	SC2			112	112			3MC								3E						2S		4E	2C			13			4M		3MC	2E			3MC	14
	3		3M																			3S				3E	2M		2C						2E	2S	3C		3C	
			3M																							3E	2M		2E				2C			2S	3C		3C	
	4								4全		4全																2S		3M	3E						3S			3S	
									4全		4全							3M									2S							3E			3S			3S	
水	1	13	3C	留				12	5ME	3E	14	5ME	5ME												11		SC2			5S		2C			2S	2M				
			3C	留				12	5ME	3E	14	5ME	5ME			13									11		SC2		2C		5S					2M				
	2		3S		14				5SC		13	5SC	5SC				2E								12		11				5E	4M				2C				
			3S		14				5SC		13	5SC	5SC				2E								12		11				5E	4M				2C				
	3	2C			11			13								2S	2M	3S	4S						SC1				2E			4C			14	12				
		2C			11			13								2S	2M		4S						SC1	12			3S			4C			14	2E				
	4	14						HR	HR	HR							11									13							4E		12	HR				
																14										13									12	11				
木	1	2M		留				4EC	2S	4EC				3E		2C		3S							2E									SC1			SC1				
		2M		留				4EC	2S	4EC				3E		2C		3S							2E									SC1			SC1				
	2							4MS		4MS							2M	3C							2C							4E	2S	3M						
								4MS		4MS							2M				3M			2C	2C				2S		4E		3C							
	3	4M						2M	2E		11						12	3M	4C		3E			2S						13		4S		3S						14
								2M	2E		11						12	3M	4C					2S	2S			14		3S		4S	4M	3E						13
	4															HR									HR		4全	5C	HR					HR						
																											4全	5C												
金	1	2S	3E	留						2M						14	11						12	13													3M	3M			
		2S	3E	留						2M							11						12	13													3M	3M			14
	2	4E			12			14	3C		2C			2E				5S					11	2M										3M		2S	3E	3E			13
					12			14	3C		2C			2E		13		5S					11	2M	2M			2S	3M			4E					3E	3E			
	3	2E	4C		13									2S			12	3C			3E	3S			2C			14				2M	11	4S				11		
		2E	4C		13									2S				3C			3E	3S			2C		11	14	2M				12	4S				12		
	4	4M								3S	2S			2M		2C					3M	3C	13		2E				3E	11				14	4C	12			14		
										3S	2S			2M		2C		3E			3M		14	2E	2E				3C	12			4M	13	4C	11			13		

凡例
M 機械工学科
E 電気情報工学科
S 制御情報工学科
C 建設環境工学科
SC 専攻科
11 1年1組

(出典：学生課資料)

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的（前述資料３－１－①－１）を達成するために，4学科に資料３－１－②－１に示す教員が配置されている。同じ資料に示した専任教員の学位取得状況及び職歴から「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成」できる構成となっている。

また，卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（資料３－１－②－２）が学科毎に設定されており，それを具現化するための教育課程とその担当教員，専任教員の専門分野の詳細は下表の各資料に示している。

学科名	教育課程とその担当教員	専任教員の専門分野
機械工学科	資料３－１－②－３	資料３－１－②－４
電気情報工学科	資料３－１－②－５	資料３－１－②－６
制御情報工学科	資料３－１－②－７	資料３－１－②－８
建設環境工学科	資料３－１－②－９	資料３－１－②－１０

また，平成19年度前期時間割（資料３－１－②－１１）に示す通り，各専門科目担当教員の授業配分は適切なものとなっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

4学科に専任教員40名（助手を除く）が配置され設置基準を満たしている。この他に，助手2名，非常勤講師7名が配置されている。専任教員の学位取得状況・職歴から，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成」できる構成となっており，教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が各学科に適切に配置されていると判断できる。

資料３－１－②－１　**各学科の教員数，専任教員の学位等取得状況・職歴**

学　科	教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	非常勤講師
機械工学科	4	5	2	1	0	2
電気情報工学科	4	4	1	1	1	2
制御情報工学科	5	2	1	2	0	0
建設環境工学科	4	3	1	0	1	3

専門科目担当教員の学位等取得状況			
学科名	修士取得者	博士取得者	技術士
機械工学科	11	7	0
電気情報工学科	10	10	0
制御情報工学科	9	9	0
建設環境工学科	8	7	2

専門科目担当教員の職歴				
学科名	他の大学等	他の高校	民間企業等	研究機関
機械工学科	4	0	5	0
電気情報工学科	2	0	9	0
制御情報工学科	2	0	3	0
建設環境工学科	4	0	2	1

（出典：内部資料）

資料３－１－②－２　**卒業時に身につけるべき学力や資質・能力**

学　　科	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力
全学科共通	(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理） 社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。 (B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識） 自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。 (C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力） 課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。 (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション） 自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。
機械工学科	機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，課題に取り組み，考え解決することができる。
電気情報工学科	高度化・多様化するエレクトロニクス、情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ、論理的な思考により継続的に学習を行うことができる。
制御情報工学科	機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。
建設環境工学科	基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

（出典：平成 19 年度各学科シラバス）

資料３－１－②－３　**機械工学科教育課程**

■教育課程　Curriculum

【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject【*必修得とする Credit Required】		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	担当教員 Faculty【*非常勤】
必履修科目 Compulsory Subjects	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	2				2		武丸*
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	2					2	橋本
	応用物理Ⅰ	Applied Physics Ⅰ	2			2			岩田
	応用物理Ⅱ	Applied Physics Ⅱ	2				2		橋本
	機械工学入門	Introduction of Mechanical Engineering	1	1					岡田,木原,橋本
	基礎力学	Mechanics	1		1				福井
	材料力学Ⅰ	Strength of Materials Ⅰ	2			2			酒井
	材料力学Ⅱ	Strength of Materials Ⅱ	2				2		岡田
	材料力学Ⅲ	Strength of Materials Ⅲ	1					1	岡田
	弾性力学	Theory of Elasticity	1					1	木原
	加工学	Working Technology	2			2			岩田
	機械要素設計Ⅰ	Machine Element Design Ⅰ	1			1			福井
	機械要素設計Ⅱ	Machine Element Design Ⅱ	2				2		福井
	材料学Ⅰ	Engineering Materials Ⅰ	2				2		酒井
	材料学Ⅱ	Engineering Materials Ⅱ	1					1	酒井
	振動工学	Dynamics of Machinery	2					2	岩田
	熱力学	Thermodynamics	2				2		小島
	伝熱工学	Heat Transfer Engineering	1					1	小島
	水力学	Hydraulics	2				2		髙橋義
	流体力学Ⅰ	Fluids Dynamics Ⅰ	1					1	上代
	電気工学	Electrical Engineering	2			2			吉永
	電子工学	Electronic Engineering	2				2		吉永
	コンピュータ工学	Computer Engineering	2				2		石原*
	メカトロニクス機構学	Mechanism	1					1	髙橋義
	システム工学Ⅰ	Systems Engineering Ⅰ	1					1	吉永
	制御工学	Control Engineering	2					2	石原*
	情報処理Ⅰ	Information Processing Ⅰ	2		2				吉永
	情報処理Ⅱ	Information Processing Ⅱ	2			2			小島
	数値計算法	Numerical Methods	2				2		酒井
	計算力学	Computational Mechanics	2					2	橋本
	機械設計製図Ⅰ*	Mechanical Design & Drafting Ⅰ	2	2					福井、図学を含む Including Drawing
	機械設計製図Ⅱ*	Mechanical Design & Drafting Ⅱ	2		2				上代
	CADⅠ	Computer Aided Design &Drafting Ⅰ	3			3			上代
	CADⅡ	Computer Aided Design &Drafting Ⅱ	4				4		福井、岩田
	技術科学英語Ⅰ	Technical English Ⅰ	1					1	上代
	工作実習Ⅰ*	Manufacturing Exercise Ⅰ	3	3					木原、高橋洋
	工作実習Ⅱ*	Manufacturing Exercise Ⅱ	3		3				木原、高橋洋
	工作実習Ⅲ*	Manufacturing Exercise Ⅲ	2			2			木原、高橋洋
	工学実験Ⅰ*	Mechanical Experiment Ⅰ	3				3		
	工学実験Ⅱ*	Mechanical Experiment Ⅱ	3					3	電気工学実験を含む Including Electrical
	卒業研究*	Graduation Reseach	9					9	
選択科目 Elective Subjects	技術科学英語Ⅱ	Technical English Ⅱ	1					1	橋本
	材料強度学	Strength & Fracture of Materials	1					1	堀口*
	熱機関	Heat Engines	1					1	小島
	システム工学Ⅱ	Systems Engineering Ⅱ	1					1	吉永
	流体力学Ⅱ	Fluids Dynamics Ⅱ	1					1	上代
	特別講義Ⅰ	Special Lectures on Engineering Ⅰ	1					1	髙橋義
	特別講義Ⅱ	Special Lectures on Engineering Ⅱ	1					1	疋田*
	特別講義Ⅲ	Special Lectures on Engineering Ⅲ	1					1	集中講義:堀口* An Intensive Course
	校外実習	Job Training	1				1		

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－４　**機械工学科教員の研究テーマ**

教員の研究テーマとその内容

Research Field of Faculty

職名 Title	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	岡田　憲司 OKADA, Kenji	信頼性工学、材料強度学 Reliability Engineering, Strength & Fracture of Materials	①疲労強度データベースによる金属材料の確率疲労特性の解析 Statistical Fatigue Properties of Metallic Materials Based on JSMS Database. ②プラスチック製短下肢装具の耐久信頼性評価に関する研究 Development and Application of Ankle-foot Orthoses Testing Machine.
	博士(工学) D.Eng.	木原　茂文 KIHARA, Shigefumi	応用力学 Applied Mechanics	①焼結現象のシミュレーション技術に関する研究 A Study on Simulation Technology of the Sintering Process. ②成形シミュレーション（鍛造、スピニング加工） Forming Process Simulation.(Forging,Spining)
	博士(工学) D.Eng.	岩田　弘 IWATA, Hiromu	振動工学、機械力学、ソーラーカー Vibration, Dynamics, Solar Vehicle	①機械力学の産業応用に関する研究 Research on Industrial Application of Dynamics. ②ソーラーカーの試作研究 The Design and Improvement in Solar-car Works.
	博士(工学) D.Eng.	橋本　良夫 HASHIMOTO, Yoshio	振動工学 Vibration Engineering	①可変系の振動解析に関する研究 Vibration Analysis of Rheolinear Systems. ②振動する物体から発生する音による振動特性の同定に関する研究 Vibration Characteristics Identification from Sounds Radiated by Vibrating Objects.
准教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	高橋　義一 TAKAHASHI, Yoshikazu	流体工学 Fluid Engineering	①平板後流の特性 Characteristics of the Wake on a Flat Plate. ②エコカーの設計・製作 Design and Production of economy car.
	工学修士 M.Eng.	山崎 容次郎 YAMASAKI, Yojiro	ロボティクス、機械制御工学 Robotics, Machine Control Engineering	①多自由度ロボットの位置と力の制御に関する研究 Study on position and force control of Multi-DOF robot. ②超小型HSTの開発と機構への応用制御に関する研究 Development of a Mini-HST and research on application control of it to a mechanism.
	工学修士 M.Eng.	福井　智史 FUKUI, Satoshi	材料工学 Materials Science	①薄膜被覆鉄鋼材料の疲労強度特性に関する研究 Study of Fatigue Property of Steel Coated with Thin Film. ②PVD成膜法により作成したTiN薄膜の解析と評価 Analysis and Evaluation of TiN Thin Films Prepared by PVD Coating Method.
	博士(工学) D.Eng.	小島　隆史 KOJIMA, Takafumi	熱工学 Thermal Engineering	①エンジン燃焼室内における燃焼のモデリングと数値解析 Numerical Simulation and Modeling of Combustion in an Engine Combustion Chamber. ②圧縮着火エンジンの有害排出物低減に関する研究 Reduction of Exhaust Emission in Compression Ignition Engines.
	博士(工学) D.Eng.	吉永　慎一 YOSHINAGA, Shinichi	制御工学 Control Engineering	①内部モデル同定を含む適応サーボ系設計 Adaptive Servo Controller Identifying Internal Model. ②遺伝的アルゴリズムを用いた制御系の構成 A Construction of Control Systems Using Genetic Algorithm.
講師 Assistant Professors	工学修士 M.Eng.	上代　良文 JODAI, Yoshifumi	流体工学 Fluid Engineering	①平板後縁近傍の乱流境界層の特性 Characteristics of the Turbulent Boundary Layer on a Flat Plate Near the Trailing Edge. ②長平板背後の渦構造に関する研究 Vortex Structure behind a Long Flat Plate
	博士(工学) D.Eng.	酒井　孝 SAKAI, Takashi	材料工学 Materials Science and Engineering	①単結晶・多結晶金属材料の結晶粒微細化と方位特性の解明 Crystallographic Orientation and Mechanical Properties of Fine Grained Metals. ②各種構造用金属材料の曲げ加工性に及ぼす微視組織の影響の解明 Microstructures and Bending Properties of Structural Materials.
助教 Research Associate	修士(工学) M.Eng.	高橋　洋一 TAKAHASHI, Yoichi	精密加工学 Precision Machining	①粉末焼結技術に関する研究 A Study on Powder Sintering Technique. ②鍛造加工における数値シミュレーション Numerical Simulation in Forging Processes.

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－５　**電気情報工学科教育課程**

教育課程　Curriculum　【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	担当教員 Faculty【*非常勤】
必履修科目 Compulsory Subjects	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	2			2			高橋(宏)
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	2				2		原囿
	応用数学Ⅲ	Applied Mathematics Ⅲ	2				2		原囿
	物理学Ⅰ	Physics Ⅰ	2			2			塚本*
	物理学Ⅱ	Physics Ⅱ	2				2		塚本*
	エネルギー環境工学	Enegy Engineering in Environment	2					2	樋口
	電気基礎数学	Fundamental of Electric Mathematics	2	2					太良尾、榎本
	電子情報基礎実習	Electronics and Information Training	2	2					荻原、村上
	電磁気学･同演習Ⅰ	Electromagnetics&Exercise Ⅰ	3				3		太良尾
	電磁気学･同演習Ⅱ	Electromagnetics&Exercise Ⅱ	3				3		太良尾
	電気基礎Ⅰ	Electrical Fundamentals Ⅰ	2		2				鹿間、村上
	電気基礎Ⅱ	Electrical Fundamentals Ⅱ	2			2			本田、太良尾、辻
	電気回路･同演習Ⅰ	Electrical Circuits&Exercise Ⅰ	3				3		漆原
	電気回路･同演習Ⅱ	Electrical Circuits&Exercise Ⅱ	3				3		漆原
	計測工学	Measurement Engineering	2			2			辻
	論理回路	Logic Circuits	1			1			本田
	電子デバイス	Electronic Device	2					2	荻原
	制御工学	Control Engineering	2					2	漆原
	電気物理	Electrical Physics	1		1				荻原
	電子工学	Electronics	2			2			荻原
	電子回路Ⅰ	Electronic Circuits Ⅰ	2				2		辻
	通信工学	Commnunication Engineering	2					2	辻
	情報通信ネットワーク	Information and Commnunication Network	2					2	重田
	情報処理基礎	Fundamentals of Information Processing	2	2					榎本
	情報数学	Computer Mathematics	1		1				本田
	情報処理Ⅰ	Informatin Processing Ⅰ	2		2				重田
	情報処理Ⅱ	Informatin Processing Ⅱ	2			2			重田
	アルゴリズム	Algorithms	2				2		重田
	オペレーティングシステム	Operation Systems	2				2		原囿
	信号処理	Signal Processing	2					2	原囿
	情報理論	Information Science	2					2	浮名*
	工学基礎実験	Fundamental Experiments on Engineering	2		2				荻原、村上、榎本
	電子情報工学実験Ⅰ	Experiments on Electronics and Computer Science Ⅰ	3			3			村上、榎本
	電子情報工学実験Ⅱ	Experiments on Electronics and Computer Science Ⅱ	3				3		鹿間、村上、榎本
	電子情報工学応用実験	Applied Experiments of Electronics and Computer Science	3					3	全教員
	特別実習	Special Practice	1					1	4･5年共通
	卒業研究	Thesis Research	9					9	全教員
選択科目 Elective Subjects	固体物理	Solid State Physics	2				2		鹿間
	計算機アーキテクチャ	Computer Architecture	2				2		本田
	電子回路設計	Design of Electronic Circuits	2					2	樋口
	論理回路設計	Design of Logic Circuots	2					2	本田
	電子物性	Solid State Electronics	2					2	鹿間
	マルチメディア工学	Multimedia Engineering	2					2	重田
	エネルギー変換工学	Energy Conversion Engineering	2					2	橋本*
	ディジタル計測制御	Digital Instrumentation and Control	2					2	榎本
	コンピュータシュミレーション	Computer Simulation	1					1	原囿
	パワーエレクトロニクス	Power Electronics	1					1	漆原
	現代制御理論	Modern Control Theory	1					1	漆原
	インターフェイス	Interface	1					1	本田
	校外実習	Job Practice	1				1		4年担任
	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1					1	疋田*

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－６　電気情報工学科教員の研究テーマ

■教員の研究テーマとその内容　Research Field of Faculty

職名 Title	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	樋口　弘志 HIGUCHI, Hiroshi	電子情報、通信情報 Electronics, Communication and Computer Science	①ディジタル信号駆動方式によるディジタルスピーカシステムに関する研究 Fabrication of Digital Speaker System Driving by Direct Digital Signal ②光ファイバを用いた光通信システムの構築に関する研究 Construction of Optical Communication Systems on Optical Fiber
	工学博士 D.Eng.	原囿　正博 HARAZONO, Masahiro	情報応用工学、音響情報工学 Applied Information Engineering, Acoustical Information Engineering	①超音波反響定位の応用に関する研究 Research on Application of Bio-Sonar (Echolocation) ②振動・騒音問題のディジタル処理に関する研究 Research on Digital Processing of Vibration and Noise Problem
	博士（情報学） D.Eng.	本田　道隆 HONDA, Michitaka	画像工学、医用放射線工学 Imaging Technology, Medical Radiation Physics and Technology	①ディジタルX線画像診断における低被曝化と画質向上の研究 Digital Method for Improving X-ray Image Quality with Low-dose ②ピアノ・音楽分析と自動採譜システムの研究 Intormatic Aralysis of Piano Music,and Study of Automatic Transcription
	工学博士 D.Eng.	鹿間　共一 SHIKAMA, Tomokazu	半導体物性、薄膜工学 Semiconductor Physics, Thin Films Engineering	①大気圧低温プラズマを用いたZnO薄膜の作製 Deposition of ZnO films by using atomospheric pressure cold plasma
准教授 Associate Professors	工学博士 D.Eng.	荻原　昭文 OGIWARA, Akifumi	光エレクトロニクス、レーザ計測、電子デバイス Optoelectronics, Laser Measurement, Electronic Device	①液晶と高分子材料へレーザ干渉露光技術を適用した微細光学素子の作製に関する研究 Study of holographic optical element using polymer dispersed liquid crystal based laser interferometers ②ホログラム素子を用いた情報セキュリティへの応用に関する研究 Study of information security using holographic optical element
	博士（工学） D.Eng.	重田　和弘 SHIGETA, Kazuhiro	情報通信工学、教育工学 Information and Communication Engineering, Educational Technology	①立体ディスプレイを用いた効果的な3次元映像提示の研究 Study of Effective Presentation on a 3D Display ②マルチメディア学習システムにおける映像と音声の適切な提示速度に関する研究 Appropriate Presentation Speed of Animation and Narration for Learning
	博士（工学） D.Eng.	漆原　史朗 URUSHIHARA, Shiro	モーションコントロール Motion Control	①リニアDCモータの位置決めシステム設計 Design of Linear DC Motor Positioning System ②ホッピングロボットの跳躍パターン生成 Generation of Hopping Motion Patterns of Hopping Robot
	博士（工学） D.Eng.	太良尾 浩生 TARAO, Hiroo	電磁環境工学、生体電磁気学 Electromagnetic Compatibility, Bioelectromagnetics	①100kHzまでにおける変動磁界曝露の実態調査 Surveys of Magnetic Fields below 100kHz ②変動磁界による体内誘導電流の解析 Numerical Analysis of Induced Currents in Human Exposed to Time Varying Magnetic Fields
講師 Assistant Professor	博士（工学） D.Eng.	辻　正敏 TUJI,Masatoshi	マイクロ波工学 Microwave Engineering	①小形フェイズドアレーアンテナの研究 Research on Miniaturized Phased Array Antenna ②マイクロウエーブセンサの研究 Research on Microwave Sensor
助教 Research Associate	博士（工学） D.Eng.	榎本　崇宏 EMOTO, Takahiro	医用生体工学 Biomedical Engineering	①ニューラルネットワークを用いた無呼吸症候群に関する新しい診断方法の開発 Neural networks for the novel diagnosis method based on clinical snoring sound analysis in apnea ②独立成分分析を用いた状態解析 Tracking the state of system using ICA
助手 Research Associate	学士（理学） B.Sc.	村上　幸一 MURAKAMI, Yukikazu	教育工学 Engineering Educational Technology	①マニュアルの自動生成法に関する研究 Research on automatic generation of manual

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－７　制御情報工学科教育課程

■教育課程　Curriculum

【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	担当教員 Faculty (*非常勤)
必履修科目 Compulsory Subjects	応用数学Ⅰ	Applied Mathematics Ⅰ	2				2		(一般教育　数学)
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	2				2		神内
	物理学Ⅰ(電磁気学)	Physics Ⅰ	2			2			平岡
	物理学Ⅱ(現代物理学)	Physics Ⅱ	2					2	平岡
	加工学	Working Technology	2		2				正箱、吹田
	機械要素設計	Machine Element Design	2				2		十河
	基礎力学	Foundamental Mechanics	2			2			山内
	材料力学Ⅰ	Strength of Materials Ⅰ	2			2			吹田
	材料力学Ⅱ	Strength of Materials Ⅱ	2				2		吹田
	材料学Ⅰ	Engineering Materials Ⅰ	2				2		吹田
	材料学Ⅱ	Engineering Materials Ⅱ	1					1	吹田
	熱工学	Thermal Engineering	2				1	1	山内
	流体工学	Fluied Engineering	2				1	1	山内
	電気回路	Electric Circuits	2			2			由良
	電子工学	Electronics	2					2	真鍋、平岡
	電子回路	Electronic Circuits	2				2		神内
	情報処理Ⅰ(演習を含む)	Information Processing Ⅰ	2			2			徳永、真鍋
	情報処理Ⅱ(演習を含む)	Information Processing Ⅱ	2				2		徳永
	情報処理Ⅲ(演習を含む)	Information Processing Ⅲ	2					2	徳永
	計算機システム	Computer System	2			2			逸見
	メカトロニクス基礎Ⅰ(図学を含む)	Fandamental Mechatronics Ⅰ (Including Drawing)	3	3					十河、由良、真鍋
	メカトロニクス基礎Ⅱ	Fandamental Mechatronics Ⅱ	3		3				逸見、正箱
	メカトロニクスシステム設計	Mechatronics System Design	2				2		平岡、十河、由良、正箱
	制御工学Ⅰ	Control Engineering Ⅰ	2				2		逸見
	制御工学Ⅱ	Control Engineering Ⅱ	2					2	逸見
	機械力学	Dynamics of Machinary	2					2	山内
	ロボット工学	Robotics	2					2	十河
	計測工学	Measurement & Instrumentation	1					1	吹田、正箱
	統計解析	Statistial Analysis	2					2	神内
	CAD	Computer Aided Design & Drafting	2			2			十河
	工作実習Ⅰ	Manufacturing Exercise Ⅰ	3	3					正箱、真鍋、吹田
	工作実習Ⅱ	Manufacturing Exercise Ⅱ	3		3				正箱、真鍋、吹田
	工学実験Ⅰ	Experiment on Engineering Ⅰ	2			2			平岡、由良、真鍋
	工学実験Ⅱ	Experiment on Engineering Ⅱ	5				5		平岡、十河、由良、正箱
	工学実験Ⅲ	Experiment on Engineering Ⅲ	3					3	山内、吹田、徳永、逸見
	卒業研究	Graduation Research	6					6	
選択科目 Elective Subjects	技術科学英語	Technical English	1					1	
	電子計算機特論	Advanced Computer Engineering	1					1	徳永
	接合工学	Welding & Joining	1					1	吹田
	レーザー工学	Laser Engineering	1					1	勝村*
	計測工学特論	Advanced Lecture on Measurement & Instrument	1					1	–
	動力学	Dynamics	1					1	–
	電磁気学	Electromagnetism	1					1	由良
	電子計測	Electronic Measurements	1					1	真鍋
	センサ工学	Sensor Engineering	1					1	神内
	情報理論	Information Science	1					1	徳永
	計画論	Planning	1					1	丸山*
	集中講義Ⅰ	Closely-packed lecture Ⅰ	1					1	石原
	集中講義Ⅱ	Closely-packed lecture Ⅱ	1					1	–
	校外実習	Job Training	1				1		4学年担任

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－８　**制御情報工学科教員の研究テーマ**

■教員の研究テーマとその内容　Research Field of Faculty

職名 Title	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	山内　庄司 YAMAUCHI, Shoji	熱工学、混相流 Thermal Engineering, Multiphase Flow	①蒸発管内の流動と伝熱に関する研究 Flow and Heat Transfer in Evaporating Tubes ②熱と流れの数値シミュレーションに関する研究 Numerical Simulation of Flow and Heat Transfer
	工学博士 D.Eng.	吹田　義一 SUITA, Yoshikazu	溶接・接合工学、宇宙加工学 Welding & Joining, Processing in Space	①宇宙での材料加工技術 Material Processing Technology in Space ②新材料の接合技術 Welding & Joining of Advanced Material
	博士(工学) D.Eng.	平岡　延章 HIRAOKA, Nobuaki	メカトロニクス Mechatronics	①ステッピングモータを用いた機械システムの制御に関する研究 Study on Control of Mechanical Systems Driven with Stepping Motor
	博士(工学) D.Eng.	十河　宏行 SOGO, Hiroyuki	機械力学、モーションコントロール Dynamics, Motion Control	①機械システムの非線形制御 Nonlinear Control of Mechanical Systems ②画像処理に基づく物体形状認識システムの開発 Development of Shape Recognition System by Image Processing
	学術博士 Ph.D.	神内　教博 JINNAI, Michihiro	音響デジタル信号処理 Digital Signal Processing	①パターン認識に関する研究 Study on Pattern Recognition ②パターン間の類似性尺度に関する研究 Study on Similarity Scale between Two Patterns
准教授 Associate Professors	博士(工学) D.Eng.	徳永　秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	計算論的学習、Webマイニング Computational Learning Theory, Web Mining	①進化論的計算手法によるロボットの行動学習 Robot Behavior Acquisition using Evolutionary Computation ②Webからの情報抽出 Information Extraction from the Web
	博士(工学) D.Eng.	由良　諭 YURA, Satoshi	制御工学 Automatic Control Engineering	①神経細胞モデルの制御手法への応用に関する研究 Study on Application of Nerve Cell Model for Control Method ②モーションコントロール Motion Control
講師 Assistant Professor	博士(工学) D.Eng.	逸見　知弘 HENMI, Tomohiro	制御工学 Control Engineering	①鉄棒ロボット 'Acrobot' を用いた制御実験装置の開発 Development of an Experimental Control System using a Horizontal Bar Robot 'Acrobot'
助教 Research Associates	博士(工学) D.Eng.	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	溶接工学、プラズマ工学 Welding, Plasma Physics	①低圧下でのアーク放電の熱源特性に関する研究 Characteristics of Vacuum Arc Plasma as Heat Sources
	工学修士 M.Eng	真鍋　知久 MANABE, Tomohisa	電子工学・画像処理 Electronics・Image Processing	①画像処理を用いた物体の距離・形状認識 Distance and shapes Recognitions of the Objects by Image processing

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－９　**建設環境工学科教育課程**

■教育課程　Curriculum

【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	担当教員 Faculty【*非常勤】
必履修科目 Compulsory Subjects	物理学Ⅰ～Ⅱ	Physics Ⅰ-Ⅱ	3			2	1		(一般)、加藤、新野
	応用数学Ⅰ～Ⅱ	Advanced Mathmathics	4				2	2	鶴本、中川(一般) 武丸*
	電気工学概論	Advanced Electrical Engineering	2					2	栗原*
	工学基礎	Introduction to Civil Engineering	2	2					長友
	図学基礎	Basic Drawing	1	1					太田
	基礎力学Ⅰ～Ⅱ	Introduction to Mechanics Ⅰ-Ⅱ	4		2	2			土居
	材料工学	Structural Materials	2			2			竹下、松原、水越
	構造力学Ⅰ～Ⅱ	Structural Mechanics Ⅰ-Ⅱ	5			3	2		長友、春本*
	土の力学	Soil Mechanics	2				2		土居
	鋼構造	Bridge Engineering	2				2		太田
	コンクリート構造	Design of Concrete Mechanics	2				2		長友
	環境工学Ⅰ～Ⅱ	Environmental Engineering	2			1	1		多川
	環境生物学Ⅰ～Ⅱ	Construction and Ecology	2		1	1			太田、鶴本
	水理学	HydroMecahnics	2				2		鶴本
	環境アセスメント	Environmental Impact Analysis	2					2	多川
	防災工学	Disarters of Prevetion and Engineering	2					2	向谷
	建設工法学	Construction Methods	2				2		竹下
	基礎情報処理	Introduction to Computer Programming	2		2				長友
	応用情報処理	Advanced Computer Programming	2			2			鶴本
	応用データ処理学	Advanced Data Processing Methods	2				2		向谷
	測量学Ⅰ～Ⅳ	Surveying Ⅰ-Ⅳ	4	1	1		1	1	土居、向谷、水越、松原
	都市･地域計画	Urban and Regional Planning Theories	2				2		森下*、井上*
	建設環境工学演習Ⅰ～Ⅲ	Practice in Civil Engineering Ⅰ-Ⅲ	4			1	1	2	全教員
	河川水文学	River Hydrology	1					1	鶴本
	海岸工学	Coastal Engineering	1					1	鶴本
	創成工学	Engineering Study with Creative Training	2				2	1	全教員
	建設環境工学演習設計製図Ⅰ～Ⅱ	Design and Drafting Ⅰ-Ⅱ	4				2	2	太田
	建設環境工学実験実習Ⅰ～Ⅴ	Laboratory Ⅰ-Ⅴ	10	2	2	2	2	2	竹下、太田、土居、鶴本、向谷、水越、多川、松原
	卒業研究	Graduation Study	9					9	全教員
選択科目 Elective Subjects	構造工学	Structural Engineering	2					2	－
	地盤工学	Geotechnical Engineering	2					2	向谷
	情報処理工学	Computer Science	2					2	－
	測量学特論	Advanced Surveying	2					2	－
	都市地域計画特論	Advanced Urban and Regional Planning	2					2	－
	建築構造学	Structural Design in Architecture	2					2	長友
	環境工学特論	Advanced Environmental Engineering	2					2	多川
	校外実習	Practice Outside of Campus	1				1		学科長
	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1					1	清水*
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	1					1	－

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

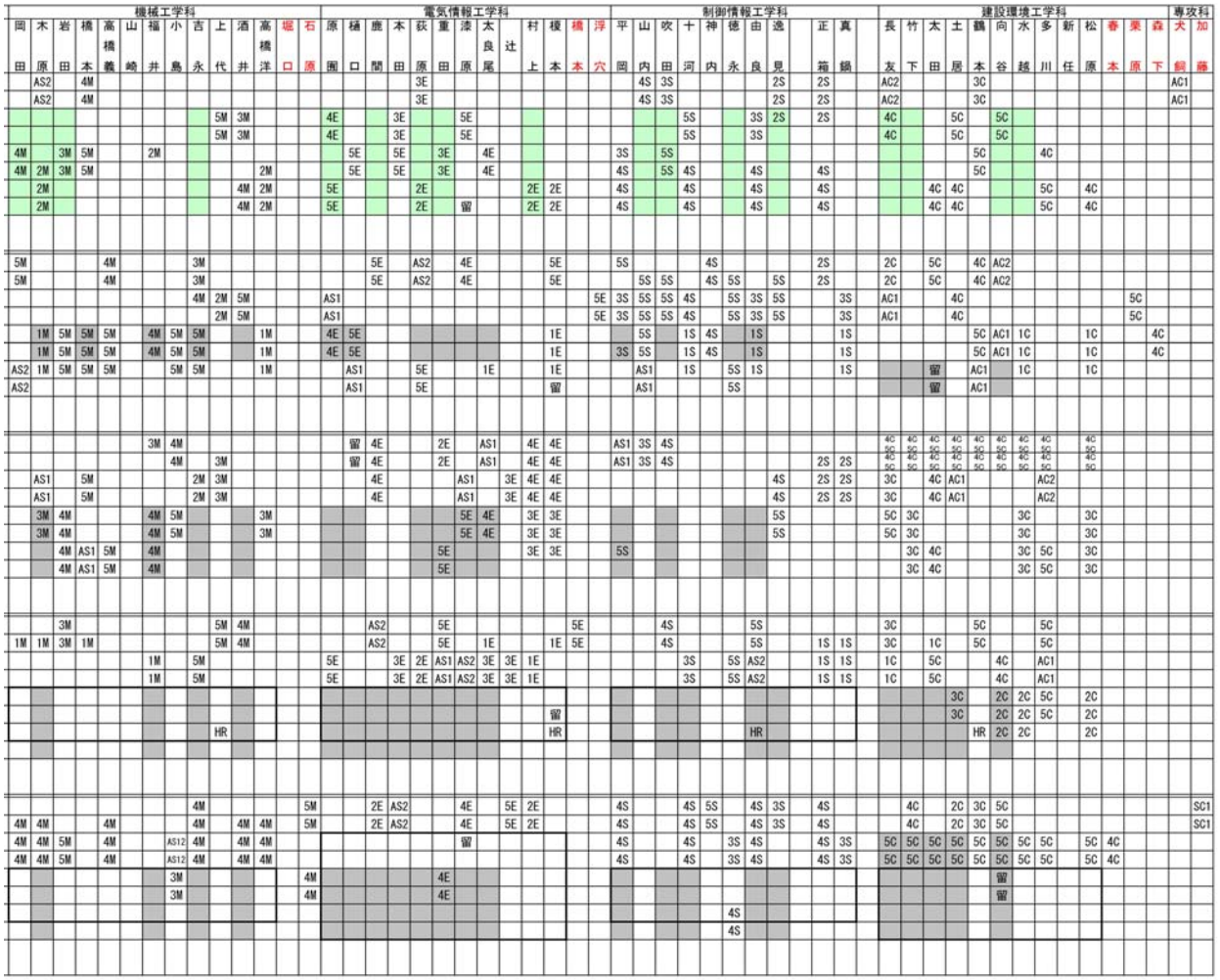
資料３－１－②－１０　**建設環境工学科教員の研究テーマ**

■教員の研究テーマとその内容　Research Field of Faculty

職名 Title	学位 Degree	氏名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	竹下　治之 TAKESHITA, Haruyuki	材料工学、施工学 Materials Engineering, Construction Engineering	①コンクリート廃棄物のリサイクルに関する研究 Study on New Manufacturing Method of Concrete Aggregate from Scrapped Concrete ②粒径粒度の優れたコンクリート用人工骨材の製造に関する研究 Development of New Manufacturing Machine of Concrete Aggregate with Excellent Grain Shape and Grading
	工学博士 D.Eng.	長友　克寛 NAGATOMO, Katsuhiro	材料工学、構造力学 Materials Engineering, Structual Mechanics	①コンクリート構造の補強・補修方法の提案およびその力学的性能の評価 Reinforcing and Repairing Methods for Concrete Structures ②プレキャストコンクリート製品の構造設計法の提案とその評価 Structural Design methods for Pre-cast Concrete Products
	博士(工学) D.Eng.	土居　正信 DOI, Masanobu	地盤工学、岩盤力学 Geotechnical Engineering, Rock Mechanics	①土・岩盤構造物の安定性評価 Evaluation of Stability of Rock and Soil Structure ②岩盤不連続面のせん断強度特性 Shear Strength Characteristics of Rock Joint
	博士(工学) D.Eng.	太田　貞次 OTA, Teiji	橋梁工学、合成構造 Bridge Engineering, Composite Structure	①橋梁の維持管理に関する研究 Study of maintenance and rehabilitation of bridges. ②硬質ウレタンを充填した鋼・コンクリート合成部材の構造物への適用に関する研究 Study on application of steel-concrete composite members filled with rigid Urethane to structures.
准教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	鶴本　良博 TSURUMOTO, Yoshihiro	流体力学、海岸工学 Hydromechanics, Coastal Engineering	①波動境界値問題の解析 The analysis of the wave boundary value problem
	博士(工学) D.Eng.	向谷　光彦 MUKAITANI, Mitsuhiko	地盤工学、地域災害 Geotechnical Engineering, Region Disaster Science	①軟らかい地盤材料（粘土と砂）の力学及び調査 Mechanical characteristics and surveying of soft soils ②地域環境のIT化戦略 IT-island in Shikoku area from view point on the environmental ground
	博士(工学) D.Eng.	水越　睦視 MIZUKOSHI, Mutsumi	材料工学,コンクリート工学 Materials Engineering, Concrete Engineering	①繊維補強コンクリートのひび割れ抵抗性に関する研究 Cracking Resistance of Fiber Reinforced concrete ②軽量コンクリートの高性能化に関する研究 Performance Enhancement of Light weight concrete
講師 Assistant Professors	博士(工学) D.Eng.	多川　正 TAGAWA, Tadashi	衛生工学、環境工学 Sanitary Eng., Environmental Eng.	①嫌気性微生物による産業廃水処理システムの開発 Development of an industrial wastewater treatment system by anaerobic microorganism. ②有機性廃水・廃棄物からのバイオマスエネルギー回収技術の開発 Development of the biomass energy recovery system from the organic waste and wastewater.
助手 Research Associates		松原　三郎 MATSUBARA, Saburo	測量学、材料工学 Surveying, Materials Engineering	①高専における実験実習の補助機器改良に関する研究 Study on assistive device improvement of experiments in the technical college

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－②－１１　専門科目担当教員時間割（平成１９年度前期）



凡例
M 機械工学科
E 電気情報工学科
S 制御情報工学科
C 建設環境工学科
AS 機械電気システム工学専攻
AC 建設工学専攻

（出典：学生課資料）

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科の目的（資料３－１－③－１）を達成するための教育課程における授業科目と担当教員の対応は，資料３－１－③－２と資料３－１－③－３に示すとおりである。教養科目・工学基礎科目の中で，経営論，技術者倫理及び知的財産権については学外の専門家を非常勤講師として配置している。（資料３－１－③－４）　その他の専門科目については，すべて本校の専任教員が担当している。さらに，特別研究を指導するため，十分な研究実績を持つ教員を配置している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

授業科目の経営論，技術者倫理及び知的財産権については，学外の専門家に非常勤講師を依頼しているが，その他の授業科目はすべて本校の専任教員が担当している。また，十分な研究実績を持つ教員を特別研究指導教員として配置している。このように，専攻科の目的を達成するために必要な授業科目担当教員が適切に配置されている。

資料３－１－③－１　**専攻科の目的**

１．本校の使命

本校の使命は，準学士課程においては 「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」 こと，専攻科課程においては 「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導する」ことである。

２．校訓（理念）

本校の校訓は「自彊・独創・和敬」であり，自ら努め励み（自彊），豊かな創造性をもち（独創），人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としている。

３．養成する人材像

豊かな教養と広い視野，および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え，コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者を育成する。

４．本校の学習・教育目標

準学士課程及び専攻科課程を通じて，次に示す４つの学習・教育目標（大目標）を掲げている。
（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）
（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

５．卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力

（２）　専攻科課程
前記の大目標のもと，専攻科課程修了までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【両専攻共通】
（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
　人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。
（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）
　自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる。
（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
　自ら課題を発見して，自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。
（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）
　物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。

【機械電気システム工学専攻】
機械工学コース：　機械工学をベースとした幅広い知識を身につけ，自主的，継続的に技術的問題に取り組み，創意工夫して実践することができる。
電気情報工学コース：　電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と，それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける。
制御情報工学コース：　機械工学，電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と，それをメカトロニクス分野の「モノづくり」に応用する力を身につける。

【建設工学専攻】（建設工学コース）
　構造物の耐震・耐久設計，防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して，準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける。

（出典：平成 19 年度専攻科シラバス）

資料３－１－③－２　専攻科教育課程（専門科目）

●機械電気システム工学専攻　Advanced Course of Mechanical Electrical Systems Engineering　【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade				担当教員 Faculty
				1年 1st		2年 2nd		
				前期 1st Semestar	後期 2nd Semestar	前期 1st Semestar	後期 2nd Semestar	
必修科目 Compulsory Subjects	特別研究	Thesis Research	16	2	4	4	6	全教員
	工学実験・実習Ⅰ	Experiments and Practice Ⅰ	2	2				全教員
	工学実験・実習Ⅱ	Experiments and Practice Ⅱ	2		2			全教員
	輪講	Seminar	4	1	1	1	1	全教員
選択科目 Elective Subjects	伝熱工学特論	Advanced Heat Transfer	2	2				山内
	内燃機関工学	Internal Combustion Engine	2	2				小島
	計算力学特論	Computational Mechanics	2	2				木原
	動力学特論	Advanced Dynamics	2	2				十河
	弾塑性力学	Elasticity and Plasticity	2			2		木原
	最適化論	Optimization Theory	2	2				徳永
	スペクトル解析	Spectrum Analysis	2			2		神内
	先端接合工学	Advanced Joining Technology	2		2			吹田
	材料強度学特論	Strength and Fracture of Materials	2		2			岡田
	振動工学特論	Matrix Vibration Analysis	2	2				橋本
	信頼性工学	Reliability Engineering	2			2		岡田
	薄膜工学	Thin Film Technology	2		2			鹿間,福井
	知能ロボット工学	Intelligent Robotics	2		2			
	メカトロニクス	Mechatronics	2	2				平岡
	制御工学特論Ⅰ	Advanced Control Engineering Ⅰ	2		2			逸見
	制御工学特論Ⅱ	Advanced Control Engineering Ⅱ	2			2		由良
	知能制御工学	Intelligent Control Engineering	2			2		漆原
	音響情報工学	Acoustic Information Engineering	2	2				原囿
	情報通信工学	Information and Communication Engineering	2	2				重田
	画像処理工学	Image Processing Engineering	2		2			本田
	ディジタル信号処理	Digital Signal Processing	2		2			原囿
	ディジタル工学	Digital Technologies	2			2		本田
	オプトエレクトロニクス	Optical Electronics	2			2		荻原
	半導体物性	Semiconductor Physics	2			2		鹿間
	デバイス工学	Device Engineering	2		2			荻原
	電子回路特論	Advanced Electronic Circuit	2	2				樋口
	電気回路特論	Advanced Electrical Circuits	2	2				漆原
	電磁気学特論	Advanced Electromagnetics	2	2				太良尾
	学外実習	Internship	2	2				専攻主任

●建設工学専攻　Advanced Course of Civil Engineering　【平成19年度】

区分 Classification	授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade				担当教員 Faculty
				1年 1st		2年 2nd		
				前期 1st Semestar	後期 2nd Semestar	前期 1st Semestar	後期 2nd Semestar	
必修科目 Compulsory Subjects	建設工学実験・実習Ⅰ	Experiments and Practice Ⅰ	2	2				竹下,長友,向谷,松原
	建設工学実験・実習Ⅱ	Experiments and Practice Ⅱ	2		2			土居,鶴本,多川
	特別研究	Thesis Research	16	2	4	4	6	全教員
選択科目 Elective Subjects	設計システム工学Ⅰ	Structural Design Ⅰ in Civil Engineering	2		2			水越
	設計システム工学Ⅱ	Structural Design Ⅱ in Civil Engineering	2	2				長友
	コンピューター構造解析	Computational Analysis in Civil Engineering	2		2			長友
	連続体力学	Continuum Mechanics	2		2			太田
	環境防災工学Ⅰ	Prevention of Natural Disasters Ⅰ	2	2				土居
	環境防災工学Ⅱ	Prevention of Natural Disasters Ⅱ	2			2		向谷
	流体力学特論	Advanced Hydromechanics	2	2				鶴本
	情報システム	Information Technology and Systems	2	2				向谷
	建設環境計測学	Environmental Surveying	2	2				多川
	建設材料特論	Advanced Structural Materials	2			2		竹下
	環境倫理・ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ	Environmental Ethics and Management	2		2			多川
	建設数理計画学	Mathematical Planning in Civil Engineering	2	2				向谷
	建設工学演習	Exercise on Civil Engineering	2		2			建設工学専攻教員
	建設工学セミナー	Seminars on Civil Engineering	2		2			建設工学専攻教員
	学外実習	Internship	2	2				専攻主任

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－③－３　**専攻科教育課程（教養科目・工学基礎科目）**

●教養科目・工学基礎科目　General Education, Basic Education　【平成19年度】

区分 Classification		授業科目 Subject		単位数 Number of Credits	学年別配当 Grade 1年 1st 前期 1st Semestar	1年 1st 後期 2nd Semestar	2年 2nd 前期 1st Semestar	2年 2nd 後期 2nd Semestar	担当教員 Faculty【*非常勤】
教養科目 General Educations	必修科目 Compulsory Subjects	経営論	Strategy and Organization	2	2				犬飼*
		実践英語	TOEIC Preparation	2	2				出渕、宇野
	選択科目 Elective Subjects	法学	Jurisprudence	2			2		河野
		古典文学	Classical Literature	2			2		長谷川、坂本
工学基礎科目 Basic Educations	必修科目 Compulsory Subjects	技術者倫理	Engineer Ethics	2	2				加藤*
		数学特論Ⅰ	Topics in Mathematics Ⅰ	2	2				中川
	選択科目 Elective Subjects	知的財産権	Intellectual Property Rights	2		2			山内*
		工業英語	English for Technical Purposes	2		2			有道
		数学特論Ⅱ	Topics in Mathematics Ⅱ	2		2			高橋、上原
		応用物理学	Applied Physics	2	2				服藤
		現代物理学	Modern Physics	2		2			加藤
		物理化学	Physical Chemistry	2		2			三浦*
		分析化学	Analytic Chemistry	2			2		岡野
		建設工学概論	Introduction to Civil Engineering	2			2		建設工学専攻教員

（出典：高松工業高等専門学校要覧 2007）

資料３－１－③－４　**専攻科の非常勤講師配置**

担当科目	講師名	所属・職名
経営論	■■■■	香川大学経済学部・准教授
技術者倫理	■■■■	(財)かがわ産業支援財団高温高越流体技術研究所・研究参与
知的財産権	■■■■	■■■■特許事務所・弁理士

（出典：内部資料）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の専任教員の年齢構成は資料３－１－④－１に示す通りであり，30代，40代，50代の教員数がほぼ同数の構成となっている。本校では，教員の採用及び昇任における選考基準を定めた「教員選考の基準に関する申合せ」において，「教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため，教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないように配慮するものとする」ことが定められている。（資料３－１－④－２）　実際の教員公募の際にも年齢に関する条件を明記しており（資料３－１－④－３），均衡ある年齢構成を実現するための配慮がなされている。

その他に，この「教員選考の基準に関する申合せ」においては，教員の資格として，学位，大学等における教員としての経歴，学校・研究所等における教育若しくは研究に関する実績，工場等における技術に関する業務についての実績などを配慮することが定められており，教員公募の際に研究業績等に関する条件を課している。

本校においては，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則による表彰の他に，独自の教員業績顕彰制度を設けている。この教員業績顕彰実施要項（資料３－１－④－４）に基づいて，平成 16 年度 2 名（資料３－１－④－５），平成 17 年度該当者なし，平成 18 年度 2 名が教員会議の場で表彰された。

教員の教育研究活動を活性化するために行われている内地留学及び在外研究の派遣の最近 10 年程度の実績を資料３－１－④－６に示す。

このように教員組織の活動をより活発化させるための措置が講じられている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校では，「教員選考の基準に関する申合せ」において，教員の年齢構成，教育経歴，実務経験を配慮することが定められており，実際の教員公募の際にも年齢や研究業績に関する条件を設けている。また，内地留学及び在外研究への派遣により教員の教育研究活動を支援するとともに独自の教員業績顕彰も導入している。このように，本校の目的に応じて教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

資料３－１－④－１　**教員年齢構成表**

学科名	２０～２９	３０～３９	４０～４９	５０～５９	６０～
一般教育科	0	8	5	6	1
機械工学科	1	4	4	3	1
電気情報工学科	1	3	4	2	1
制御情報工学科	2	1	3	4	0
建設環境工学科	0	3	1	4	1
合　　計	4	１９（2）	１７	１９	4

（出典：事務部内部資料）

資料３－１－④－２　**教員選考の基準に関する申合せ(抜粋)**

教員選考の基準に関する申合せ

平成 15 年 8 月 26 日
人事委員会決定
企画運営会議承認

本校における教員の資格及び選考基準について，次のとおり定める。

教員の資格

（教授の資格）

第 1 教授となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

二 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し，当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

三 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授，助教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

四 学校，研究所，試験所，調査所等に在職し，教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し，技術に関する業務についての実績を有する者

五 特定の分野について，特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（途中省略）

（その他）

上記職種の専任教員は，本校以外における教育研究活動その他の活動の状況を考慮し，本校において教育研究を担当するに支障がないと認められる者でなければならない。

選考基準

（総則）

教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため，教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないように配慮するものとする。

以下に示す基準は，新規採用，昇任のいずれにおいても最低基準を示しているものである。

（教授の基準）

第 5 教授となることができる者は，第 1 に該当し，かつ，次の各号の一に該当する者とする。

一 査読付き論文（共著を含む。以下同じ。）が，5 編以上又はそれに準ずる研究業績がある者。ただし，学内昇任する場合にあっては，上記 5 編は現職での論文数であるが，最近 10 年間の査読付き論文数から 3 編を差し引いた論文数を上記 5 編に数えることができる。

二 教育実践が特に優れており，教育内容・教育方法等に関するものを含めて著書・論文（共著を含む。以下同じ。）等を最近 10 年間で 5 編以上有する者

三 企業等における顕著な実績を有する者

四 主事，副主事，主事補，施設長等※の経歴が通算 4 年以上の者で，教育研究業績が特に優れている者

（以下省略）

（出典：企画運営会議資料）

資料３－１－④－３　**教員公募案内（例）**

1.	職名及び人員	教授、准教授、講師又は助教1名 （職種は、年齢、業績等を考慮して決定します）
		※「准教授」とは、学校教育法の一部改正により平成１９年４月１日から置く職で、「専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授する」者をいう。
		※「助教」とは、学校教育法の一部改正により平成１９年４月１日から置く職で、「専攻分野について、教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授する」者をいう。
2.	所属学科	建設環境工学科
3.	専門分野	構造力学系分野
4.	担当科目	構造力学、実験実習、設計製図、情報処理、工業数学等の当該専門分野に関する本科及び専攻科の科目
5.	応募資格	下記の全てに該当する者 (1)工業高等専門学校の教育、学生指導、研究に熱意をもつ者 (2)博士の学位を有する者又は着任時までに取得予定の者 (3)構造力学系分野に関連する研究業績を有している者 (4)採用時における年齢が50歳程度以下の者
6.	採用予定日	平成19年4月1日
7.	提出書類	(1)履歴書(市販用紙に本人自筆、写真貼付) (2)研究業績一覧(A4用紙、様式自由) (3)主要論文の概要 (A4用紙、様式自由、1編につき1000字以内、別刷り又はそのコピーでも可、業績一覧表と対応した番号を記入) (4)工業高等専門学校の教育・研究に携わる抱負 (A4用紙、様式自由、1000字以内) (5)課外活動に関する指導の希望及び抱負 (A4用紙、様式自由、1000字以内)
8.	応募期限	平成19年1月9日(火)必着
9.	選考方法	1次選考:書類審査 2次選考:面接:書類審査合格者に直接連絡(平成19年1月中旬予定) (面接に係る旅費・宿泊費等は個人負担)
10.	書類提出先	高松工業高等専門学校総務課人事労務係 〒761－8058　香川県高松市勅使町355番地 応募書類は、封筒に「建設環境工学科教員応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留で郵送のこと。なお、原則として提出書類は返送いたしません。
11.	問合わせ先	高松工業高等専門学校 建設環境工学科　学科長　長友　克寛 TEL:087－869－3920 FAX:087－869－3929 E-mail: naga@takamatsu-nct.ac.jp
12.	本校URL	http://www.takamatsu-nct.ac.jp

（出典：高松高専ホームページ）

資料３－１－④－４　**教員業績顕彰実施要項**

高松工業高等専門学校教員業績顕彰実施要項

１ 趣旨
　本校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに本校の管理運営や社会貢献にも果たすべき役割がある。このような観点から，顕著な業績を上げている教員を顕彰することにより，本校における教育研究の充実・向上とともに，地域社会への貢献を目指すものである。
２ 顕彰基準
　本校における教育（学生支援），研究，校務，社会貢献等において，顕著な業績があったと認められる者（３名程度）とする。
３ 顕彰方法
(1)　業績優秀賞と副賞（教育研究活動費）とする。
(2)　顕彰は，教員会議の席上で行う。
４ 選考方法
校長・３主事が，候補者案を作成し，人事委員会に諮る。
５ 選考資料
(1)　本校の「教員の活動報告書」
(2)　独立行政法人国立高等専門学校機構の実施する「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づく教員の自己採点集計表
（参考資料として，教員の相互評価・学生による教員の評価）

附則
この要項は，平成１６年１２月９日から実施する。

（出典：高松高専規則集）

資料３－１－④－５　**教員業績顕彰実施例**

高松高専教員業績顕彰について

高松高専では、今年度から、本校おいて、教育(学生支援)、研究、社会貢献等において、顕著な業績があったと認められる教員（教授を除く）に対して、業績優秀賞をおくることとなりました。

平成16年度の業績優秀賞として、２名の教員が1月11日開催の教員会議席上で顕彰されました。

一般教育科　助教授　岡野　寛
建設環境工学科　助教授　向谷　光彦

（出典：高松高専だより　第 96 号）

資料３－１－④－６　**内地留学及び在外研究の派遣実績**

氏　名	職名	当時の職名	研修開始年月日	研修修了年月日	出張先	旅費の出所	研究テーマ
福井智史	准教授	講師	平成８年５月１日	平成９年２月28日	立命館大学理工学部	国費	イオンビーム併用エキシマレーザ PVD 法による高強度ステンレス鋼の疲労強度の改善効果に関する研究
由良　諭	准教授	講師	平成８年５月１日	平成９年２月28日	徳島大学工学部	国費	インテリジェント制御を用いた二慣性系の位置決めに関する研究
坂本具償	教授	助教授	平成９年９月１日	平成10年２月27日	広島大学文学部	国費	漢代春秋学の研究
山崎容次郎	准教授	助教授	平成９年５月１日	平成10年２月27日	同志社大学工学部	国費	多自由度リンク機構の解析とその制御系の設計
吉永慎一	准教授	講師	平成10年５月１日	平成11年２月26日	岡山大学工学部	国費	適応制御手法を用いた外乱除去制御に関する研究
出渕幹郎	准教授	助教授	平成10年８月27日	平成10年12月26日	カリフォルニア大学サンタバーバラ校（アメリカ合衆国）	国費	「外国語としての英語」教授法
河野通弘	教授	助教授	平成11年９月１日	平成12年２月29日	関西学院大学法学部	国費	令状主義における令状資料開示請求権について
徳永秀和	准教授	講師	平成11年５月６日	平成12年２月25日	徳島大学工学部	国費	XML による技術解説記事データベースの研究
田口　淳	准教授	助教授	平成13年５月１日	平成14年２月28日	オルデンブルク大学（ドイツ連邦共和国）	国費	ヘルバルト教育学に関する研究
岡野　寛	准教授	助教授	平成17年３月13日	平成18年３月５日	シドニー技術大学・ニュー・サウス・ウェルズ大学（オーストラリア連邦）	大学改革推進補助金	国際交流協定に基づくキャリア教育の推進（液相法による薄膜作製技術を習得）
上代良文	講師	講師	平成18年５月１日	平成19年２月28日	徳島大学工学部	自己収入	流体力学の乱流現象について

（出典：内部資料）

観点３－２－①：　教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用は，高松工業高等専門学校教員選考規則（資料３－２－①－１）に基づき，人事委員会（資料３－２－①－２）に候補者の選出を付託し，校長が決定する。選考を適正に実施するために，公募により候補者を募集し，人事委員会に置かれる人事審査会において，書類選考及び面接により適任者を決定している（資料３－２－①－３）。 公募情報は，関係機関に文書で送付するほか，学会誌，高松高専のホームページ及び独立行政法人科学技術振興機構の研究者人材データベースのホームページに掲載され誰でも見ることができるようになっている。教員の採用及び昇任における選考基準は，「教員選考の基準に関する申合せ」（資料３－２－①－４）に教員の資格と選考基準（最低基準）が定められている。

次の観点３－２－②で述べる通り，教員の教育，研究，社会貢献及び学務に関する活動状況を把握するために，専任教員は教員活動報告書と研究業績報告書を毎年提出している。この教員活動報告書は，各教員による自己評価と学科長及び校長による評価を記入するようになっており，昇任の審査等に参考にされる。

非常勤講師の採用については，「非常勤講師採用基準」（資料３－２－①－５）が定められている。数学の非常勤講師の公募例（資料３－２－①－６）に示すとおり，採用基準に則った応募資格が課せられている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

教員の採用及び昇格に関する手順は，「教員選考規則」及び「人事委員会規定」に定められており，採用・昇格は，専任教員については「教員選考の基準に関する申し合わせ」に，非常勤講師については「非常勤講師採用基準」に基づいて行われている。教員の採用は公募によって行っており，研究者人材データベースや高松高専ホームページに，採用基準に則った応募資格などを明記した公募情報を掲載している。また，教員の昇任等においては，専任教員が毎年提出する活動報告書等を参考に決定される。このように，教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされている。

資料３－２－①－１　**教員選考規則**

高松工業高等専門学校教員選考規則

平成１４年４月４日制定

（趣旨）
第１条　高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考は，独立行政法人国立高等専門学校教職員就業規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６号）によるもののほか，この規則に定めるところによるものとする。
（定義）
第２条　この規則において「教員」とは，本校において，主に教育，研究の業務に従事する教授，助教授，講師（常時勤務する者に限る。），助手をいう。
２ この規則において「選考」とは，教員の定員増又は退職等による欠員補充のため，教員の採用，昇任又は配置換のために行われる選考をいう。
（申し出）
第３条　各学科長又は人事委員会委員は，欠員を補充する時は，校長に教員の選考を申し出るものとする。
（選考）
第４条　教員の選考は，校長が行う。
２ 校長は，教員の選考にあたって，候補者の選出を本校人事委員会（以下「人事委員会」という。）に付託するものとする。
（人事委員会の設置）
第５条　本校に，教員選考の適正な実施のため，人事委員会を置く。
２ 人事委員会に関し必要な事項は，校長が別に定める。
（面接）
第６条　校長は，候補者について教務主事及び当該学科長と合同で，必要に応じて面接を行うものとする。
（適任者の決定）
第７条　校長は，人事委員会で選考し候補者として推薦のあった者の中から，適任者を決定し，人事委員会に報告するものとする。
（その他）
第８条　この規則に定めるもののほか，教員の選考に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附則
この規則は，平成１４年４月１日から施行する。

附則
この規則は，平成１６年１１月２５日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料３－２－①－２　**人事委員会規程**

高松工業高等専門学校人事委員会規程

平成１４年４月４日制定

（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校教員選考規則（平成１４年４月４日制定）第５条第２項に基づき，高松工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）
第２条　委員会は，校長の諮問に応じ，教員の選考に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教員配置計画の基本方針に関すること。
二　教員採用・昇任に関すること。
三　教員貢献度の点検・評価に関すること。
四　教員の表彰に関すること。
五　その他教育・研究に係る人事に関すること。
２ 委員会は，原則として候補者を複数選考し，校長に推薦するものとする。

（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　各主事
二　校長補佐（国際交流・地域連携担当）
三　専攻科長
四　各学科長
五　事務部長
２ 委員は，校長が委嘱する。

（運営）
第４条　委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。
２ 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３ 委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（議事）
第５条　委員会は，委員の３分の２以上が出席しなければ，議事を開き，議決することができない。
２ 委員会の議事は，無記名投票によって決するものとし，かつ，出席した委員の３分の２以上の同意を要するものとする。

（委員以外の者の出席）
第６条　委員会は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（人事審査会）
第７条　委員会に，応募者の資格審査を行うため，人事審査会を置く。
２ 人事審査会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一　人事委員会委員（選考を行おうとする学科(以下「当該学科」という。)以外の学科）１名
二　当該学科の教授２名
３ 人事審査会に主査を置き，人事委員会委員をもって充てる。
４ 主査は，人事審査会を招集し，その議長となる。
５ 人事審査会は，応募書類の審査を行い，人事委員会に審査結果を報告するものとする。

（事務）
第８条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（その他）
第９条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が定める。

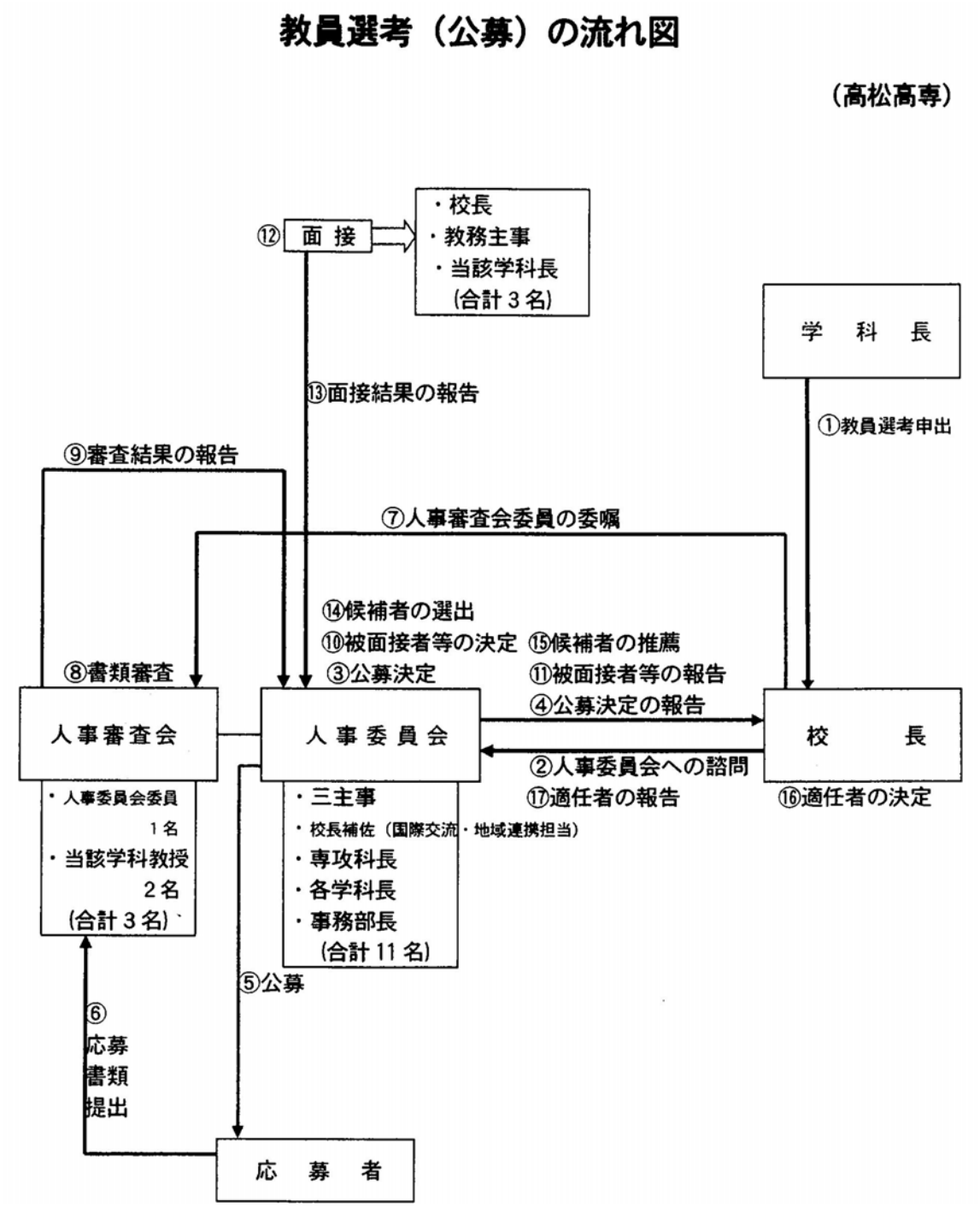
附則
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。

附則
この規程は，平成１７年４月１日から施行する。

附則
この規程は，平成１８年４月１日から施行する。

（出典：高松高専規則集）

資料３－２－①－３　教員選考の流れ図



（出典：内部資料）

資料３－２－①－４　**教員選考の基準に関する申合せ(抜粋)**

教員選考の基準に関する申合せ

平成 15 年 8 月 26 日
人事委員会決定
企画運営会議承認

本校における教員の資格及び選考基準について，次のとおり定める。

教員の資格

（教授の資格）

第 1 教授となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

二 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し，当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

三 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授，助教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

四 学校，研究所，試験所，調査所等に在職し，教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し，技術に関する業務についての実績を有する者

五 特定の分野について，特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（助教授の資格）

第 2 助教授となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 第 1 各号のいずれかに該当する者

二 大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者

三 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

四 特定の分野について，優れた知識及び経験を有すると認められる者

五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（講師の資格）

第 3 講師となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 第 1 又は第 2 に規定する教授又は助教授となることのできる者

二 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（助手の資格）

第 4 助手となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者

二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（その他）

上記職種の専任教員は，本校以外における教育研究活動その他の活動の状況を考慮し，本校において教育研究を担当するに支障がないと認められる者でなければならない。

選考基準

（総則）

教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため，教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないように配慮するものとする。

以下に示す基準は，新規採用，昇任のいずれにおいても最低基準を示しているものである。

（教授の基準）

第 5 教授となることができる者は，第 1 に該当し，かつ，次の各号の一に該当する者とする。

一 査読付き論文（共著を含む。以下同じ。）が，5 編以上又はそれに準ずる研究業績がある者。ただし，学内昇任する場合にあっては，上記 5 編は現職での論文数であるが，最近 10 年間の査読付き論文数から 3 編を差し引いた論文数を上記 5 編に数えることができる。

二 教育実践が特に優れており，教育内容・教育方法等に関するものを含めて著書・論文（共著を含む。以下同じ。）等を最近 10 年間で 5 編以上有する者

三 企業等における顕著な実績を有する者

四 主事，副主事，主事補，施設長等※の経歴が通算 4 年以上の者で，教育研究業績が特に優れている者

（以下省略）

（出典：企画運営会議資料）

資料３－２－①－５　**非常勤講師採用基準**

高松工業高等専門学校非常勤講師採用基準

平成 13 年 11 月 1 日
校　　長　　裁　　定

本校非常勤講師の採用については，下記の基準によるものとする。

記

第 1　専門的知識・技術を必要とする授業の実施及び授業内容の一層の充実を図るため，非常勤講師を採用することができる。
2　前項の採用員数は，必要最小限とする。
第 2　非常勤講師は，次の各号のすべてに該当するものとする。
一　教員選考の基準に関する申合せに定められた講師以上の資格を有する者
二　本校の教育及び学生指導に情熱を有し，健康で勤務に支障のない者
三　年齢が当該年度末において 68 歳以下の者
2　前項の規定にかかわらず，校長が特に必要と認める者については，この限りでない。
第 3　非常勤講師採用候補者の選考にあたっては，人事委員会で審議し，校長に推薦する。
2　校長は，前項の推薦を受けて，採用を決定する。

附　則
この基準は，平成 13 年 11 月 1 日から施行する。
附　則
この基準は，平成 16 年 11 月 11 日から施行する。

（出典：内部資料）

資料３－２－①－６　**非常勤講師公募の例**

1.	職名及び人員	非常勤講師　若干名
2.	所属学科	一般教育科
3.	担当科目	数学、又は応用数学
4.	応募資格	下記の全てに該当する者 (1)工業高等専門学校の教育に熱意をもつ者 (2)理工系学科の修士課程修了者(採用までに修了見込みも可)、又は高等学校などの教育経験が相当年数ある者 (3)採用時における年齢が65歳以下の者 (4)週2日以上授業ができる者
5.	採用予定日	平成19年4月
6.	任期	原則として1年間
7.	提出書類	(1)履歴書(市販用紙に本人自筆、写真貼付、E-mail アドレスも記入) (2)工業高等専門学校の教育に携わる抱負(教育実績のある方は、そのことを含めて記述。A4用紙、様式自由、2000字以内)
8.	応募期限	平成18年12月15日(金)必着
9.	選考方法	1次選考:書類審査 2次選考:面接:書類審査合格者に直接連絡(日時は未定) (面接に係る旅費・宿泊費等は個人負担)
10.	書類提出先	高松工業高等専門学校総務課人事労務係 〒761－8058　香川県高松市勅使町355番地 応募書類は、封筒に「非常勤講師(一般教育科数学)応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留で郵送のこと。なお、原則として応募書類は返送しません。
11.	問合わせ先	高松工業高等専門学校 一般教育科　数学科主任　高橋　宏明 TEL:087－869－3855 FAX:087－869－3819 E-mail:　htaka@takamatsu-nct.ac.jp
12.	本校URL	http://www.takamatsu-nct.ac.jp/

(出典：高松高専ホームページ)

観点３－２－②：　教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

授業の改善のために，教務委員会が中心となって，オープン授業，学生による授業評価等を定期的に行っている。

オープン授業は，5月中の1週間の期間にわたって教員及び保護者が自由に授業を参観できる制度である。オープン授業が実施されることは，あらかじめ保護者と教員に通知される（資料３－２－②－１）。教員は，他教員の授業を2教科以上参観し，それについての報告書を提出することが義務づけられている。その後，教員と保護者から提出された報告書のファイルが，全教員に回覧される。

準学士課程における学生による授業評価は，前期終了後に，指定した科目についてマークシート方式で行われる（資料３－２－②－２，資料３－２－②－３）。専攻科における学生による授業評価は，全科目について前期，後期の2度実施されている。授業評価の集計結果は，教科担当教員に渡され，授業評価結果について学生との対話を行うことになっている。その結果を教員と学生の双方が報告書として提出して授業改善につなげている。また，総合評価が5段階で2.5未満の教員については授業改善報告書の提出が義務づけられている。授業評価の結果は高松高専のホームページに掲載され，科目毎の評価結果がすべて公表されている（資料３－２－②－４）。

教員の教育，研究，社会貢献及び学務に関する活動状況を把握するために，教員の活動報告書を毎年提出している（資料３－２－②－５）。この活動報告書は，学生の授業評価を一部反映した各教員による自己評価と学科長及び校長による評価を記入するようになっている。その後，100点満点評価による評価結果が資料３－２－②－６の形で各教員に返却される。この評価結果には総合評点の分布が示されており，自分のおおよその順位が分かるようになっている。この評価結果は，高専機構及び本校の教員顕彰などに反映されている（資料３－２－②－７，資料３－２－②－８）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

他教員，保護者等が授業参観報告書を提出するオープン授業や学生による授業評価が行われている。学生による授業評価は，高松高専ホームページに科目毎の評価結果がすべて公表されており，その総合評点が2.5未満の教員については授業改善報告書を提出することが義務付けられている。教員の教育，研究，社会貢献及び学務に関する活動状況を把握するために，教員自身が自己評価した活動報告書を毎年提出し，その後，学科長と校長による評価を加えた評価結果が各教員に返却されている。この結果は，教員の顕彰などに反映されている。

資料３－２－②－１　**オープン授業の実施依頼**

Subject: オープン授業実施について
Date: Thu, 11 May 2006 13:21:52 +0900

各　位
　このことについて、5 月 15 日(月）～5 月 20 日(土）まで
実施されます。
　オープン授業参観報告書（２教科以上の参観をお願いします）
　オープン授業実施報告書を添付ファイルにて送付しますので、
ご利用ください。

なお、保護者への案内は１～３年生は文書にて
４～５年生はモバイルキャンパスにていずれも
学生を通じて案内しています。

（出典：学内メール）

資料３－２－②－２　**学生による授業アンケート（評価）記入要領**

学生による授業評価実施要領（担任用）１８年度

【資料および配布物】
(1)　　授業評価実施要領（担任用，１枚）
(2)　　授業評価実施教科一覧表　（担任用 ，１枚）
(3)　　学生による授業評価項目（学生用 ，学生数）
(4)　　マークシート（学生用 ，実施科目数 × 学生数）

上記（1）、（2）については、メール添付ファイルにてお送りします。
（3）、（4）については、教務係に取りに来て下さい。

【授業評価手順】
①　　学生に授業評価の目的と取り扱いを周知してください。（下記参照）
②　　授業評価を実施する教科数のマークシートを学生に配布してください。
③　　別表実施教科一覧表の青色の教科は受講生だけに配布してください。
④　　次のアナウンスを行ってください。
・　　本年度から出席番号をマークすること。
・　　出席番号から記入者が特定できるが、内容により不利益を被らないこと。
・　　記入は鉛筆またはシャープペンを使用し、ボールペンは使わないこと。
・　　マークシートの左上に教科担当教員名を記入すること。
・　　一部の学生のみが回答する教科もあるので、教科名、担当教員名に十分注意すること。
⑤　　授業評価を行う際、黒板に「教科番号」、「教科名」、「担当教員」を記載してください。
⑥　　マークシートの裏面に自由記述を行うよう指導してください。
⑦　　１教科ごとに授業評価を実施し、記入を終えたらその都度回収してください。
⑧　　１教科ごとに輪ゴムでまとめ、全て終了後に教務係に提出してください。

【授業評価の目的および評価結果の今後の取り扱い】
（学生に口頭で周知してください）
①　　授業評価は授業改善を目的に行います。
②　　授業評価の結果は、教務係で整理した後に教科担当教員に返却されます。
③　　教科担当教員は、後日授業評価の結果について授業時間の中で学生に報告するとともに、その場で学生との対話を行います。
④　　教科担当教員と学級委員は対話報告書（後日配布）に対話内容を記載して教務係に提出します。学級委員はクラスの意見を集約して対話報告書を作成します。
⑤　　授業評価の結果については本校ホームページ上で公開されるとともに、授業評価の結果と対話報告書は学校長のもとに集約され、授業改善の資料として活用されます。

以　上

（出典：教務委員会資料）

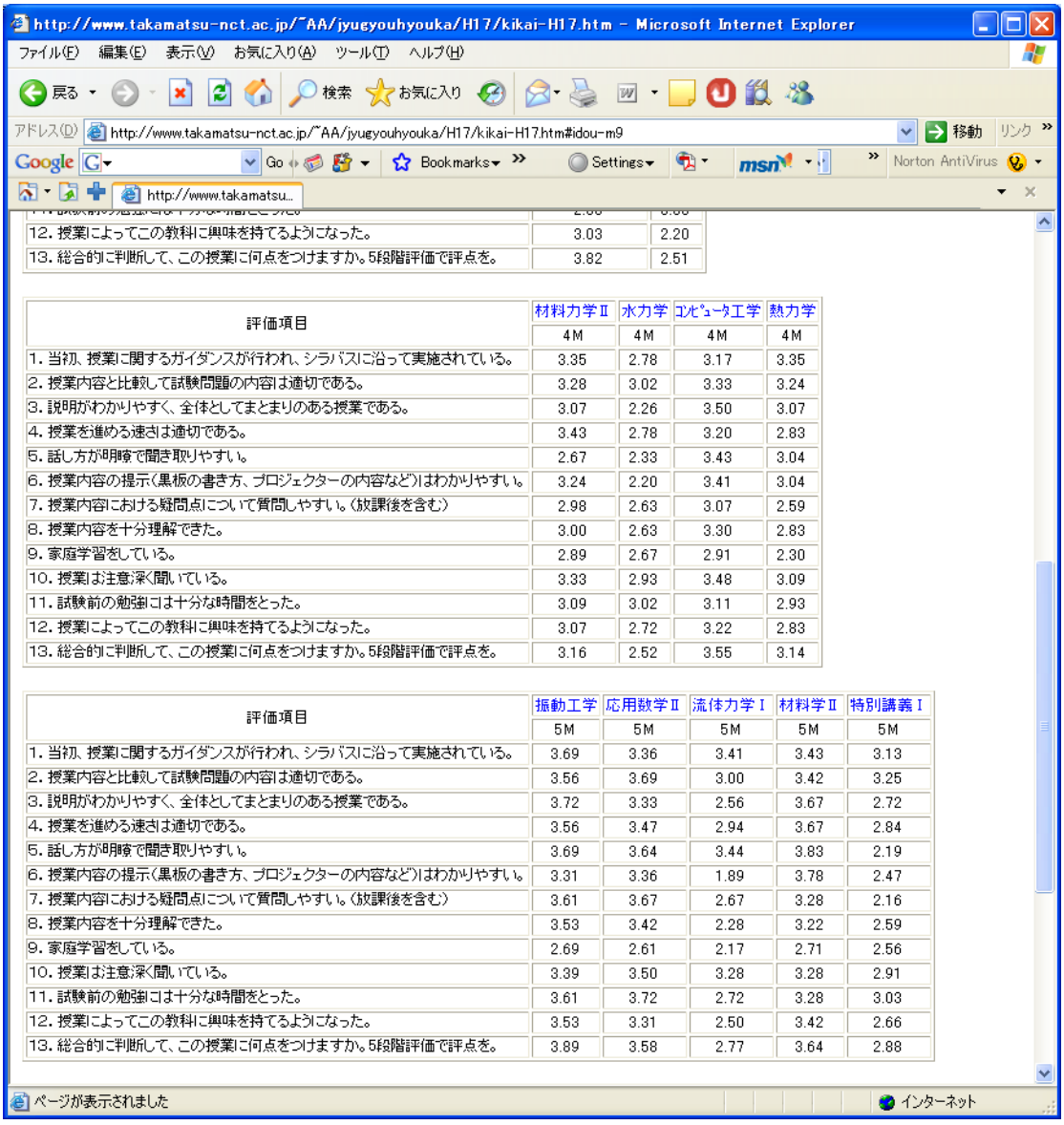
資料３－２－②－３　学生による授業アンケート（評価）実施科目

授業評価実施教科一覧表(平成18年度)

			1	2	3	4
1年	1組	教科番号	06101	06107	06109	06110
		教科名	国語	化学	音楽	美術
		担当教員	大山	岡野	赤羽	永井
	2組	教科番号	06111	06106	06109	06110
		教科名	English1	物理	音楽	美術
		担当教員	有道	服藤	赤羽	永井
	3組	教科番号	06111	06104	06108	
		教科名	English 1	基礎数学Ⅰ	体育	
		担当教員	倉本	高橋	中瀬	
	4組	教科番号	06111	06105	06106	
		教科名	English1 L&S	基礎数学Ⅱ	物理	
		担当教員	マスタラー	上原	加藤	
機械	2年	教科番号	05114	05117	05207	
		教科名	歴史2	数学演習	工作実習Ⅱ	
		担当教員	與田	大林	木原	
	3年	教科番号	04124	04129	04209	04212
		教科名	公民 2	English W&S	材料力学Ⅰ	電気工学
		担当教員	河野	藤原	酒井	吉永
	4年	教科番号	03139	03141	03216	03221
		教科名	人文1	人文3	応用数学Ⅰ	熱力学
		担当教員	権藤	土屋	武丸	小島
	5年	教科番号	02229	02231	02232	02251
		教科名	応用数学Ⅱ	振動工学	材料力学Ⅲ	特別講義1
		担当教員	橋本	岩田	岡田	堀口
電気	2年	教科番号	05122	05117	05308	
		教科名	Reading	代数幾何	工学基礎実験	
		担当教員	出渕	鎌田	村上	
	3年	教科番号	04129	04129	04125	04310
		教科名	English W&S	English W&S	数学解析Ⅰ	物理学Ⅰ
		担当教員	小林	アーノルド	菅田	新野
	4年	教科番号	03139	03137	03319	03321
		教科名	人文1	体育	電気回路Ⅰ	電磁気Ⅰ

（出典：教務委員会資料）

資料３－２－②－４　学生による授業評価結果（抜粋）



http://www.takamatsu-nct.ac.jp/~AA/jyugyouhyouka/H17/kikai-H17.htm - Microsoft Internet Explorer

12. 授業によってこの教科に興味を持てるようになった。	3.03	2.20
13. 総合的に判断して、この授業に何点をつけますか。5段階評価で評点を。	3.82	2.51

評価項目	材料力学Ⅱ	水力学	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ工学	熱力学
	4M	4M	4M	4M
1. 当初、授業に関するガイダンスが行われ、シラバスに沿って実施されている。	3.35	2.78	3.17	3.35
2. 授業内容と比較して試験問題の内容は適切である。	3.28	3.02	3.33	3.24
3. 説明がわかりやすく、全体としてまとまりのある授業である。	3.07	2.26	3.50	3.07
4. 授業を進める速さは適切である。	3.43	2.78	3.20	2.83
5. 話し方が明瞭で聞き取りやすい。	2.67	2.33	3.43	3.04
6. 授業内容の提示（黒板の書き方、プロジェクターの内容など）はわかりやすい。	3.24	2.20	3.41	3.04
7. 授業内容における疑問点について質問しやすい。（放課後を含む）	2.98	2.63	3.07	2.59
8. 授業内容を十分理解できた。	3.00	2.63	3.30	2.83
9. 家庭学習をしている。	2.89	2.67	2.91	2.30
10. 授業は注意深く聞いている。	3.33	2.93	3.48	3.09
11. 試験前の勉強には十分な時間をとった。	3.09	3.02	3.11	2.93
12. 授業によってこの教科に興味を持てるようになった。	3.07	2.72	3.22	2.83
13. 総合的に判断して、この授業に何点をつけますか。5段階評価で評点を。	3.16	2.52	3.55	3.14

評価項目	振動工学	応用数学Ⅱ	流体力学Ⅰ	材料学Ⅱ	特別講義Ⅰ
	5M	5M	5M	5M	5M
1. 当初、授業に関するガイダンスが行われ、シラバスに沿って実施されている。	3.69	3.36	3.41	3.43	3.13
2. 授業内容と比較して試験問題の内容は適切である。	3.56	3.69	3.00	3.42	3.25
3. 説明がわかりやすく、全体としてまとまりのある授業である。	3.72	3.33	2.56	3.67	2.72
4. 授業を進める速さは適切である。	3.56	3.47	2.94	3.67	2.84
5. 話し方が明瞭で聞き取りやすい。	3.69	3.64	3.44	3.83	2.19
6. 授業内容の提示（黒板の書き方、プロジェクターの内容など）はわかりやすい。	3.31	3.36	1.89	3.78	2.47
7. 授業内容における疑問点について質問しやすい。（放課後を含む）	3.61	3.67	2.67	3.28	2.16
8. 授業内容を十分理解できた。	3.53	3.42	2.28	3.22	2.59
9. 家庭学習をしている。	2.69	2.61	2.17	2.71	2.56
10. 授業は注意深く聞いている。	3.39	3.50	3.28	3.28	2.91
11. 試験前の勉強には十分な時間をとった。	3.61	3.72	2.72	3.28	3.03
12. 授業によってこの教科に興味を持てるようになった。	3.53	3.31	2.50	3.42	2.66
13. 総合的に判断して、この授業に何点をつけますか。5段階評価で評点を。	3.89	3.58	2.77	3.64	2.88

（出典：高松高専ホームページ）

資料３－２－②－５　**教員の活動報告書の提出依頼**

平成１８年５月３０日

教　員　各　位

学　校　長

教員の活動報告等について

このことについて、教育・研究等の活動を把握したいので、下記により、「**教員の活動報告書**」「**研究業績報告書**」を作成の上、平成１８年６月１３日（火）までに人事労務係にメールで提出願います。

また、「高松高専ホームページ」に掲載している「**教育研究活動データベース**」については、平成１８年６月３０日（金）までに更新願います。

記

１　教員の活動報告書

各　自

① エクセルの回答用紙に点数・記述等について入力

② 入力後、メールで回答用紙を、６月１３日（火）までに人事労務係に送信

③ 入力後、印刷した回答用紙を、６月１３日（火）までに各学科長に提出

学科長

④ 提出された回答用紙の学科長評点記入欄に、点数を記入の上、学科分を取りまとめ、６月２０日（火）までに人事労務係に提出、取りまとめ後校長に提出

校　長

⑤ 学科長から提出された回答用紙の校長評点記入欄に、点数を記入の上、６月２７日（火）までに人事労務係に提出

集　計

⑥ 個人の集計結果については、各人にフィードバックします。

⑦ 全体の集計結果は、統計データ（５段階評価等）で公表します。

２　研究業績報告書

・研究業績報告書を作成の上、６月１３日（火）までに人事労務係にメールで送信願います。

・著書・論文・研究発表等（本校研究紀要を含む）、業績と考えられるものは、すべて記入してください。

・報告書はエクセル様式ですが、３研究業績（研究論文等）以降の項目（２頁目の内容）については、別様式（様式自由、Ａ４縦、横書き、PDF ファイル）で作成し、提出可能です。

＊作成等に関し、不明な点は人事労務係にお問い合せください。

（内線　３８１２　メールアドレス jinji@takamatsu-nct.ac.jp）

（出典：総務課資料）

資料３－２－②－６　教員の活動報告書による評価結果の書式

18.9.28
企画運営会資料2

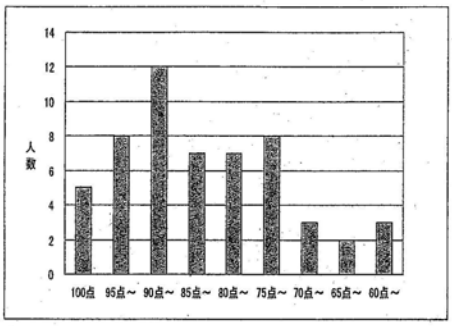
平成１７年度教員の活動報告書

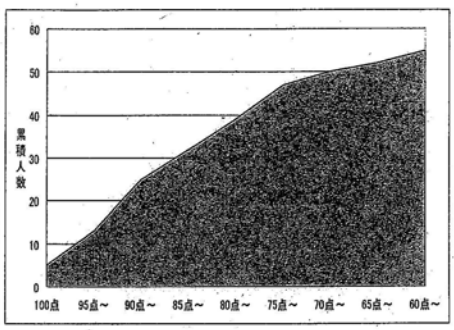
A．各人の評価

個人番号	職　名	学　　科	氏　　名
«F2»	«職名»	«学科»	«氏名»

教育・学生指導	研　　究	校　　務	社会貢献	特記事項
«F8»	«F9»	«F10»	«F11»	«F12»
総　合　評　点		«総合計»点		

B．総合評点分布図





C．各活動における，評価及び評価点

1．教育・学生指導		
点　数	評価	評点
150点以上	A	10
149～130点	B	9
129～110点	C	7
109～80点	D	5
79～ 0点	E	3

2．研　　究		
点　数	評価	評点
80点以上	A	10
79～40点	B	8
39～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

3．校　　務		
点　数	評価	評点
120点以上	A	10
119～60点	B	7
59～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

4．社会貢献		
点　数	評価	評点
30点以上	A	10
29～15点	B	8
14～ 5点	C	6
4～ 1点	D	2
0点	E	1

5．特記事項		
点　数	評価	評点
40点以上	A	10
39～20点	B	7
19～10点	C	5
9～ 5点	D	3
4～ 0点	E	0

D．総合評点

[redacted]

（出典：企画運営会議資料）

資料３－２－②－７　**教員業績顕彰実施要項**

高松工業高等専門学校教員業績顕彰実施要項

１ 趣旨
　本校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに本校の管理運営や社会貢献にも果たすべき役割がある。このような観点から，顕著な業績を上げている教員を顕彰することにより，本校における教育研究の充実・向上とともに，地域社会への貢献を目指すものである。
２ 顕彰基準
　本校における教育（学生支援），研究，校務，社会貢献等において，顕著な業績があったと認められる者（３名程度）とする。
３ 顕彰方法
(1)　業績優秀賞と副賞（教育研究活動費）とする。
(2)　顕彰は，教員会議の席上で行う。
４ 選考方法
校長・３主事が，候補者案を作成し，人事委員会に諮る。
５ 選考資料
(1)　本校の「教員の活動報告書」
(2)　独立行政法人国立高等専門学校機構の実施する「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づく教員の自己採点集計表
（参考資料として，教員の相互評価・学生による教員の評価）

附則
この要項は，平成１６年１２月９日から実施する。

（出典：高松高専規則集）

資料３－２－②－８　**教員業績顕彰実施例**

高松高専教員業績顕彰について

高松高専では、今年度から、本校おいて、教育(学生支援)、研究、社会貢献等において、顕著な業績があったと認められる教員（教授を除く）に対して、業績優秀賞をおくることとなりました。

平成16年度の業績優秀賞として、２名の教員が1月11日開催の教員会議席上で顕彰されました。

一般教育科　助教授　岡野　寛
建設環境工学科　助教授　向谷　光彦

（出典：高松高専だより　第 96 号）

観点３－３－①：　学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

事務部は，総務課，学生課，施設課及び企画室から構成されている。各課の係の構成及び人数は資料３－３－①－１の通りである。事務部の組織及び分掌については，事務組織及び事務分掌規程（資料３－３－①－２）によって定められている。学生の教育に直接関係する学生課の職務内容は資料３－３－①－３に示す通りである。企画室の業務内容は資料３－３－①－４，技術支援室の業務内容は資料３－３－①－５に示すとおりである。技術支援室には，各種資格取得や講習を修了した職員が配置され（資料３－３－①－６），専門技術に応じて3班に分かれ各学科からの支援要請に基づいて，技術職員が学生の実験・実習における実技指導の支援を行っている。各技術職員の実技指導状況を，技術支援室実験・実習担当表（資料３－３－①－７）に示す。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

事務部に事務系32名(看護師1名，司書資格取得者2名を含む)，技術系22名の職員が適切に配置されている。技術系職員の内13名は技術支援室に配置されており，各種資格を有する職員が，各学科からの技術支援要請に応じて，学生の実験・実習における実技指導等の支援を適切に行っている。

資料３－３－①－１　**事務部職員数**

	課　名	係　名		人　数
事務部長	総務課 （課長１，課長補佐１）	総務係		3
		人事労務係		2
		財務係		4
		経理係		2
		契約係		3
		施設係		2
	学生課 （課長１，課長補佐１）	教務係		3
		学生支援係 （看護士1名，司書2名）		6
		寮務係		2
		技術支援室	第一技術班	6
			第二技術班	4
			第三技術班	3
	施設課 （課長１，課長補佐１）	建築係		2
		電気係		1
		設備係		2
	企画室	企画・評価係		1
		広報企画係		1

（出典：事務部内部資料）

資料３－３－①－２　**事務組織及び事務分掌規程(抜粋)**

高松工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

平成１８年４月１日制定

（目的）
第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第９条、第１１条及び高松工業高等専門学校学則第１１条の規定に基づき、高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。
（組織）
第２条　本校に事務部を置く。
２ 事務部に総務課、学生課、施設課及び企画室を置く。
３ 課及び室に係を置く。
４ 学生課に技術支援室を置く。
（職制）
第３条　事務部に事務部長を置く。
２ 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を掌理する。
第４条　課に課長を置く。
２ 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
第５条　課に課長補佐を置くことができる。
２ 課長補佐は、課長を補佐し、課の事務を処理する。
第６条　企画室に室長を置く。
２ 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。
第７条　技術支援室に技術専門員及び技術専門職員を置くことができる。
２ 技術専門員は、上司の命を受け、極めて高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。
３ 技術専門職員は、上司の命を受け、高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。
第８条　係に係長を置く。
２ 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
第９条　課及び室に主任を置くことができる。
２ 主任は、上司の命を受け、課又は室の事務を処理する。
第 10 条　課員又は室員は上司の命を受け、課又は室の事務に従事する。
第 11 条　技術支援室に室長を置く。
２ 室長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
３ 室長は、上司の命を受け、技術支援室の事務を処理する。
第 12 条　技術支援室に班長及び班員を置く。
２ 班長は、技術専門職員をもって充てる。
３ 班長は、上司の命を受け、班の業務を処理するとともに、班員の技術力向上に努める。
４ 班員は、上司の命を受け、班の業務に従事する。

（以下省略）

（出典：高松高専規則集）

資料３－３－①－３　学生課の所掌事務(抜粋)

第14条　学生課に課長補佐及び次に掲げる係並びに技術支援室に技術班を置く。
教務係
学生係
寮務係
図書係
技術支援室　　第一技術班
　　第二技術班
　　第三技術班
2 学生課長補佐は、課長を補佐し、学生課の事務を処理するとともに，次の事務をつかさどる。
一　専攻科に関すること。
二　技術者教育の認定に関すること。
三　学生関係の規則制定等に関すること。
3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生課の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
二　学生募集及び入学者選抜に関すること。
三　学生の修学指導に関すること。
四　教育課程の編成、授業及び試験に関すること。
五　学生の学業成績に関すること。
六　学生の指導要録の整理、記録及び保管に関すること。
七　学生の入学、転学、留学、休学、退学及び卒業に関すること。
八　学生の校外実習及び工場見学等に関すること。
九　研究生及び聴講生に関すること。
十　外国人留学生に関すること。
十一　学生の諸証明に関すること。
十二　所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
十三　その他、他の係の所掌に属しないこと。
4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生及び学生団体の指導監督に関すること。
二　学生の課外活動に関すること。
三　学生のカウンセリングに関すること。
四　学生の表彰及び懲戒に関すること。
五　入学料、授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
六　奨学金及び経済援助に関すること。
七　学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
八　学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
九　学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
十　独立行政法人日本スポーツ振興センター等に係る災害共済給付契約及び給付金の支払い請求に関すること。
十一　学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
十二　所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
十三　その他、学生支援に関すること。
5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
一　学生の入退寮に関すること。
二　寄宿料の債権発生及び消滅に関すること。
三　寄宿料の免除に関すること。
四　寮生の給食に関すること。
五　寮費等の経理に関すること。
六　寮生の指導監督に関すること。
七　寮生の生活相談に関すること。
八　学生寮の生活環境の整備に関すること。
九　学生寮の厚生保健に関すること。
十　学生寮の郵便物の接受に関すること。
十一　学生寮における教員の宿日直勤務に関すること。
十二　学生寮における外国人留学生の指導に関すること。
十三　所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
十四　その他、学生寮の管理運営に関すること。
6 図書係においては、次の事務をつかさどる。
一　図書館情報資料の受入れ、整理及び保存に関すること。
二　図書館情報資料の閲覧、貸出し等利用に関すること。
三　図書館における教育研究活動及び情報サービスに関すること。
四　研究紀要に関すること。
五　図書費の経理に関すること。

(出典：高松高専事務組織及び事務分掌規程)

資料３－３－①－４　**企画室の所掌事務**

第16条　企画室に次に掲げる係を置く。
　企画・評価係
　広報企画係
２ 企画・評価係においては、次の事務をつかさどる。
　一　将来構想、改革等に関する企画立案及び連絡調整に関すること。
　二　自己点検・評価及び認証評価機関等による第三者評価に関すること。
　三　地域連携及び研究協力（経理に関することを除く。）に関すること。
　四　科学研究費補助金（経理に関することを除く。）に関すること。
　五　法人文書の管理、個人情報の保護及び情報公開の総括に関すること。
　六　所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
３ 広報企画係においては、次の事務をつかさどる。
　一　広報に係る企画立案及び連絡調整に関すること。
　二　公開講座に関すること。
　三　事務の情報化に関すること。
　四　所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

（出典：高松高専事務組織及び事務分掌規程）

資料３－３－①－５　**技術支援室業務**

第 14 条　学生課に課長補佐及び次に掲げる係並びに技術支援室に技術班を置く。
（途中省略）
７ 技術支援室の技術班においては、教育研究支援のため、次の業務をつかさどる。
　一　第一技術班　　ア　製造・加工等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項
　二　第二技術班　　ア　電気・情報等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項
　三　第三技術班　　ア　測定・分析等に関連する実験・実習に関すること。
　　イ　その他室長が必要と認める事項

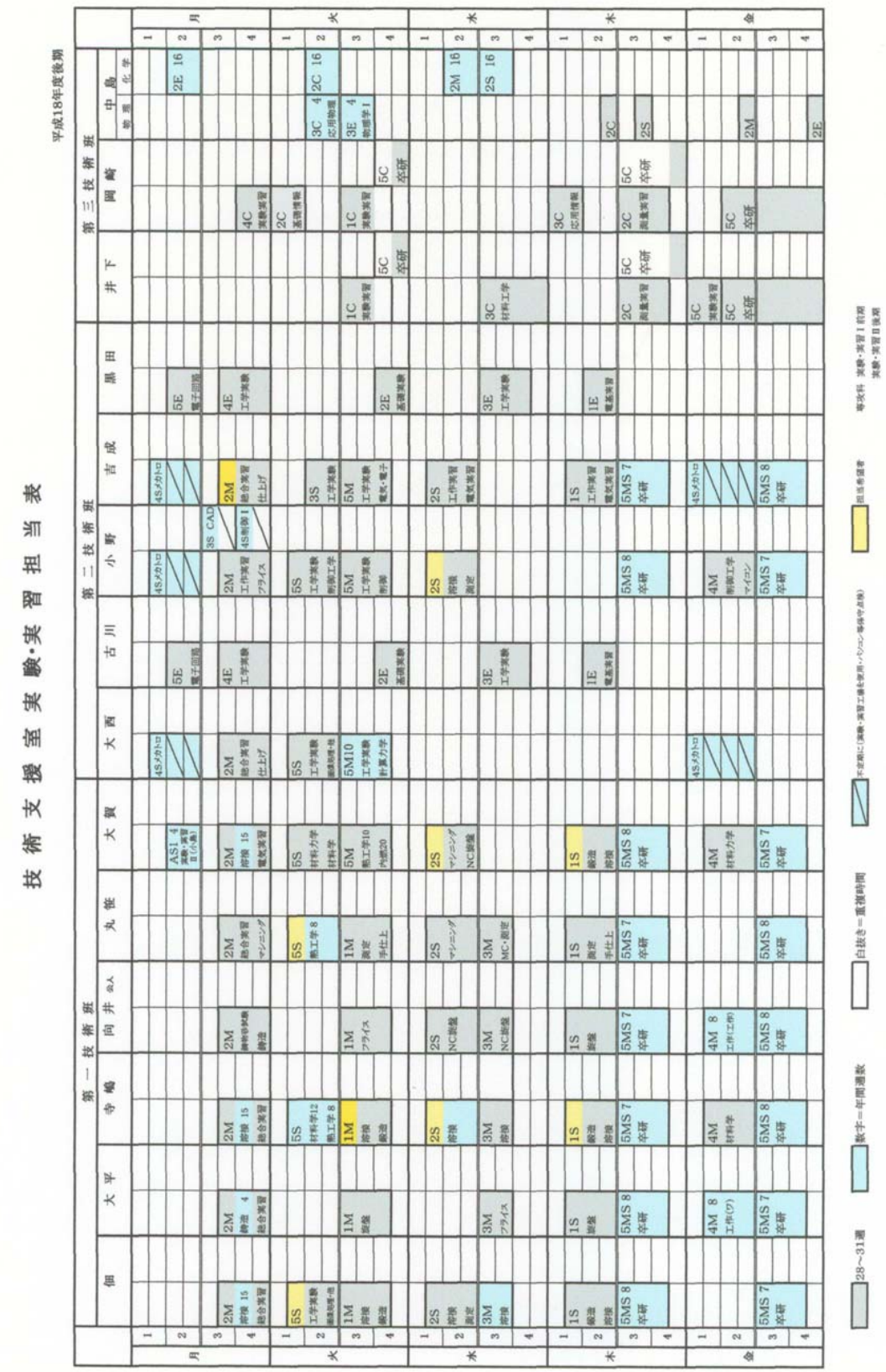
（出典：高松高専事務組織及び事務分掌規程）

資料３－３－①－６　**技術支援室職員の資格等取得状況**

資格名	人数
１級溶接技術者資格認定	1
２級ボイラー技士	1
２級機械加工（普通旋盤作業）の技能検定の実技試験合格	1
アナログ第Ⅲ種合格	1
インターネット実務検定３級試験合格	1
ガス溶接技能講習修了	8
ガス溶接作業主任者免状	1
クレーン運転士	1
フォークリフト運転技能講習修了	1
安全衛生推進者養成講習修了	1
危険物取扱者免状（乙種第４類）	2
危険物取扱者免状（甲種）	1
危険物取扱者免状（丙種）	1
危険物取扱主任者（乙種第４類）	1
技術士一次試験（機械部門）	1
技能士補試験合格	1
玉掛技能講習修了	1
計算技術検定３級合格	1
研削といし特別教育修了	3
工事担任者資格アナログ第３種	1
高圧ガス保安講習会受講	1
情報技術検定２級合格	1
全商ワープロ実務検定１級合格	1
全商硬筆検定２級合格	1
測量士補試験合格	2
第二種電気工事士免状徳島県	1
宅地建物取引主任者資格試験合格（香川県）	1
動力プレスの金型等の取付け，取外し又は調整の業務に係る特別教育学科講習修了	1
動力プレス機械及びシャー業務特別教育修了	2
日商日本語文書処理技能検定３級合格	1

（出典：事務部内部資料）

資料３－３－①－７　**技術支援室実験・実習担当表（平成１８年度後期）**



（出典：技術支援室内部資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

授業改善の取り組みとして，他教員，保護者等が授業参観報告書を出すオープン授業や学生による授業評価を定期的に行っている。特に，学生による授業評価結果は，高松高専のホームページに科目毎の結果を公表している。また，教員の教育，研究，社会貢献及び学務に関する活動状況を把握し，高松高専独自の教員顕彰が行われている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準３の自己評価の概要

一般科目を担当する教員については，専任教員20名，非常勤講師20名を配置し，また， 4つの専門学科においては，機械工学科14名（専任12，非常勤2），電気情報工学科13名（専任11，非常勤2），制御情報工学科10名（専任10），建設環境工学科12名（専任9，非常勤3）の教員を配置しており，教育の目的を達成できるような体制が整えられている。さらに，専攻科においては，経営論，技術者倫理及び知的財産権の授業科目を非常勤講師に依頼している以外は，すべて専任の教員が担当している。

教員組織を活発化させるため，教員の採用時に年齢制限を設けるなどして，教員の年齢構成の均衡が保てるように配慮している。教員の採用や昇格の手順は，教員選考規則及び人事委員会規程に定められており，選考・昇格基準は教員の選考に関する申し合わせに定められ適切な運用がなされている。

教員の教育活動に関しては、他教員及び保護者が授業参観報告書を出すオープン授業や学生による授業評価が毎年実施されており，特に学生による授業評価結果については，評価結果が高松高専ホームページに公表されている。さらに，教員の教育，研究，社会貢献及び学務に関する活動状況を把握するために，教員自身が自己評価した教員活動報告書を毎年提出し，その後，学科長と校長による評価を加えた評価結果が各教員に返却されている。この結果は，教員の顕彰などに反映されている。

事務職員・技術職員などの教育支援者は、事務部に事務系32名(看護師1名，司書資格取得者2名を含む)，技術系22名の職員が適切に配置されている。技術系職員の内13名は技術支援室に配置されており，各学科からの技術支援要請に応じて，学生の実験・実習における実技指導の支援を適切に行っている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像や入学者選抜（例えば，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，留学生選抜，専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜（準学士課程入学者の推薦・学力選抜，編入学者の選抜，専攻科入学者の推薦・学力選抜）のいずれにおいても，本校の教育目的に沿った求める学生像や選抜方法等の基本方針が定められ，募集要項（入学者募集要項，編入学生募集要項，専攻科学生募集要項）に記載されている。また，学校案内，入学案内にも求める学生像について記載されている。（資料４－１－①－１～３）

募集要項，学校案内および入学案内は，教員会議等にて本校教員および関係職員に配布・周知されている。また，準学士課程の入学者募集要項は，香川県，岡山県，徳島県の中学校，四国内および岡山県の教育委員会，県内の学習塾等へ，編入学生募集要項は工業系の高校へ，専攻科学生募集要項は全国の高等専門学校へ配布されている。各募集要項は本校ウェブサイト（http://www.takamatsu-nct.ac.jp/）へも掲載されており，将来の入学希望者を含め広く社会に公表，公開されている（資料４－１－①－４～７）。

準学士課程の入学者募集要項および学校案内の内容は，中学校の進路指導担当教諭や学習塾対象の入試説明会を開催して周知するとともに，中学校主催の説明会への出席や中学校訪問を通して中学生とその関係者に説明を行っている（資料４－１－①－８～１０）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

教育の目的に沿った求める学生像や選抜方法等の基本方針が明確に定められており，本校教職員に周知され，募集要項等の配布やウェブサイトへの掲載により社会に広く公表されている。入試説明会や中学校訪問等で入学者選抜の基本方針を説明し，中学生やその関係者への周知も行っている。

資料４－１－①－１　入学者募集要項（平成１９年度抜粋）

平成19年度　入学者募集要項

国立 高松工業高等専門学校
〒761-8058 香川県高松市勅使町355
TEL (087) 869－3832 (学生課直通)

入学者受入方針

本校では，次のような人を広く求めています。
・技術者への夢を持っている人
・数学や理科に興味があり，持続的に勉学に取り組める人
・自主性と協調性があり，何事にも積極的に取り組める人

募　集　人　員

学科別の募集人員は，下表のとおりです。

学　　科	入学定員	
機械工学科	40名	推薦による募集人員は，各学科とも入学定員の40%程度以内です。
電気情報工学科	40名	
制御情報工学科	40名	
建設環境工学科	40名	
計	160名	

選　抜　方　法

入学者の選抜は，**学力検査**によるものと，**推薦**によるものの二つの方法で行います。

学力検査による選抜

1　出　願　資　格

(1)　中学校を卒業した者又は平成19年３月に中学校卒業見込みの者

(2)　中等教育学校の前期課程を修了した者又は平成19年３月に前期課程修了見込みの者

(3)　中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（学校教育法施行規則第63条に該当する者）

(2) **志望学科及び検査場について**

願書及び調査書に**第二志望学科まで記入し，第二志望学科を希望しない場合は必ず斜線を引いてください。願書受付後の志望学科の変更は認めません。**

検査場については，**高松・倉敷**のいずれかを○で囲んでください。

(3) 中学校長は，別に下記の書類を**２月15日(木)正午**までに必ず提出してください。

学習成績等一覧表	１部	平成19年度の各県公立高等学校入学者選抜実施細目によって作成したもの。(過年度卒業者は当該年度のもの。)

※学習成績等一覧表は，学習成績等一覧総括表及び学習成績等一覧個表より成る。

4　選抜の方法等

選抜は，学力検査，調査書及び面接を総合して行います。
学力については，下記の(1)と(2)の合計で評価します。

(1) **学力検査**

学力検査は，筆記検査で行います。学力検査の実施教科は，国語，社会，数学，理科，英語の５教科で，各教科100点満点で採点し総計(500点満点)で評価します。

(2) **調査書の「学習の記録(5段階評定)」**

中学校第2学年及び第3学年における9教科の合計点（90点満点）に，中学校第2学年及び第3学年における5教科の合計点(50点満点)を加算した総計(140点満点)で評価します。

なお、5教科とは国語，社会，数学，理科，英語であり，9教科とはさらに音楽，美術，保健体育，技術･家庭を加えたものです。

(3) **面　接**

個人面接で行います。なお，面接は調査書等を資料とし，入学者受入方針により評価することを目的としています。

5　検査日時及び場所

月　日(曜)	教　科　等	時　　間	場　　所
２月18日(日)	集合・注意 理　　科 英　　語 数　　学 国　　語 社　　会 面接用調査表記入	午前９:15 午前９:30～午前10:20 午前10:40～午前11:30 午前11:50～午後０:40 午後１:30～午後２:20 午後２:40～午後３:30 午後３:50～午後４:10	**高松工業高等専門学校** (香川県高松市勅使町355) **倉敷市児島文化センター** (岡山県倉敷市児島味野2丁目8番30号)
２月19日(月)	集合・注意 面　　接	午前９:15 午前９:30～	

－3－

推薦による選抜

1　推薦募集人員

各学科とも入学定員の40％程度以内です。

2　出願資格及び推薦要件

下記の各要件を満たしており，当該受検生の在籍する中学校の校長が推薦する者

(1)　平成19年３月に中学校卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を修了見込みの者

(2)　本校入学の意志が特に強固な者

合格した場合は，入学することが確実であること。

(3)　志望学科に対して適性及び興味・関心を有する者

(4)　心身両面で本校の勉学に支障のない者

(5)　**中学校第２学年及び第３学年における５教科（国語，社会，数学，理科，英語）の５段階評定の合計が42以上，または音楽，美術，保健体育，技術・家庭を加えた９教科の５段階評定の合計が76以上である者**

3　入学願書受付期間及び受付場所

(1)　受　付　期　間

平成19年１月15日(月)から１月17日(水)まで。郵送の場合も１月17日(水)までに必着のこと。受付時間は，午前９時から午後４時までです。

(2)　受　付　場　所

〒761-8058　香川県高松市勅使町355　高松工業高等専門学校　学生課教務係

(イ)　**願書受付後の志望学科の変更は認めません。**

(ウ)　提出書類に事実と異なる記載があった場合は，入学を取り消します。

5　選抜の方法等

選抜は，推薦書，調査書及び面接を総合して行います。

なお，推薦書は在籍する中学校の校長から提出された推薦書をさします。

(1)　**調査書の「学習の記録（5段階評定）」**

中学校第2学年及び第3学年における9教科の合計点（90点満点）に，中学校第2学年及び第3学年における5教科の合計点(50点満点)を加算した総計(140点満点)で評価します。

なお，5教科とは国語，社会，数学，理科，英語であり，9教科とはさらに音楽，美術，保健体育，技術・家庭を加えたものです。

(2)　**面　接**

集団及び個人面接で行います。なお，面接は推薦書，調査書等を資料とし，入学者受入方針により評価することを目的としています。

6　面接の日時及び場所

月　日（曜）	項　目　等	時　　間	場　　所
1月20日(土)	集　合　・　注　意	午前9：00	高松工業高等専門学校 (高松市勅使町355)
	面接用調査票記入	午前9:15～午前9:35	
	面　　接	午前10:00～	

注意　「推薦による選抜」の面接場所は，上記の検査場のみで行い，**倉敷検査場では行いません。**

7　選抜結果の通知

選抜の結果を，中学校長及び受検生全員に文書で**１月23日(火)**に郵送します。

（本校での掲示は行いません。なお、電話による問い合わせにも応じません。）

8　入学確認書の提出

合格内定通知を受けた者は，**２月１日(木)正午**までに，**「入学確認書」**を在籍中学校長を経て提出してください。

入学確認書を提出しない者は，本校に入学の意志がないものとみなし合格内定を取り消します。

－7－

（出典：平成19年度入学者募集要項）

資料４－１－①－２　編入学生募集要項（平成１９年度抜粋）

平成19年度　編入学生募集要項

高松工業高等専門学校
〒761-8058 香川県高松市勅使町355番地
TEL (087)869－3832(学生課教務係)
Internet http://www.takamatsu-nct.ac.jp/

1　編入学を実施する学科，募集人員及び編入学年次

学　　科	募集人員	編入学年次
機械工学科	若干名	第４学年
電気情報工学科		
制御情報工学科		
建設環境工学科		

2　アドミッションポリシー

本校では，次のような学生を求めています。

(1) 技術者になることへの自覚と責任感を持っている人
(2) 科学技術に興味があり，持続的に勉学に取り組める人
(3) 自主性と協調性があり，何事にも積極的に取り組める人

3　学習・教育目標

本校は，次の４つの項目を身につけることを学習・教育目標として掲げています。

(1) 広い視野と技術者としての倫理観(倫理)
(2) 科学技術の基礎知識と応用力(知識)
(3) 課題解決の実行力と豊かな創造力(実行力)
(4) 論理的なコミュニケーション能力(コミュニケーション)

4　出願資格

工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者とします。(平成19年３月卒業見込みの者を含みます。)

5　志望学科

志望学科は出身校における所属学科と同系統とします。(詳細は本校学生課教務係に問い合わせてください。)

－1－

6　編入学願書受付期間及び受付場所

(1) 受付期間

平成18年７月10日(月)から7月14日(金)まで。郵送の場合も７月14日(金)までに必着のこと。
受付時間は，土・日曜日を除き，午前９時から午後４時までです。

(2) 受付場所

高松工業高等専門学校　学生課教務係

7　出願手続

出願者は，次の書類等を一括して在学(又は出身)高等学校長を経て提出してください。
郵送する場合は，封筒に「編入学願書在中」と朱書し，書留で送ってください。

①編入学願書	本校所定の用紙に必要事項を記入したもの。
②調査書	高等学校所定の用紙により学校長が作成したもの。
③写真	出願日以前３か月以内に撮影した上半身・正面・脱帽・バック無地のもの。(５cm×４cmの写真を願書の写真票に貼ってください。)
④卒業証明書又は卒業見込証明書	高等学校所定の用紙により学校長が作成したもの。
⑤返信用封筒(定形23.5cm×12cm)	受検票等を送付するためのものですので，本人のあて名及び郵便番号を明記して430円(簡易書留料を含む)切手をはったもの。(願書を直接持参する場合はいりません。)
⑥入学検定料	16,500円(郵送のときは郵便為替とし，為替の受取人欄は記入しないこと)
⑦検定料納付用紙	志願者本人の氏名を記入すること。
⑧受検許可書	本校所定の用紙により所属長が作成したもの。(現に就職している者のみ)

8　選抜方法

学力検査，調査書及び面接を総合して選抜を行います。

(1) 学力検査科目

一般科目(各学科共通)

国　語 …… 作文
数　学 …… 数学Ⅰ，数学Ⅱ(微分・積分を含む)，数学Ａ(場合の数と確率)，数学Ｂ(数列，ベクトル)
英　語 …… 英語Ⅰ，Ⅱ(第3学年第1学期終了程度)

専門科目

機械工学科 …… 物理Ⅰ(運動とエネルギー)，物理Ⅱ(力と運動)
電気情報工学科 …… 電気・情報基礎(半導体と電子回路を含む)
制御情報工学科 …… 機械設計，機械工作，電気基礎(三相交流は除く)
建設環境工学科 …… 土木設計Ⅰ，水理，土質

(2) 検 査 日 時

月　日	時　間　割				
7月25日(火)	9:00~9:50	10:00~11:30	11:40~12:30	13:20~15:20	15:30~
	国語(作文) (50分)	数　学 (90分)	英　語 (50分)	専　門 (120分)	面　接

(3) 検　査　場

高松工業高等専門学校

9 合 格 者 発 表

平成18年７月31日(月)午前10時，本校に掲示するとともに，在学(又は出身)高等学校長及び本人に合否を文書で通知します。(電話による問い合わせには応じません。)

また，本校ホームページにも合格者受検番号を掲示します。

〔http://www.takamatsu-nct.ac.jp/〕

10 個人情報について

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は，入学者選抜の資料として利用するとともに，次の目的のためにも利用します。

(1) 入学後の教育・指導

(2) 入学料，授業料の免除申請の審査

(3) 奨学金申請の審査

(4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

11 注 意 事 項

(1) 受検票は，編入学願書を受理したのち本人あてに交付若しくは郵送します。
この受検票は検査当日必ず持参してください。

(2) 受検心得は，受検票の裏面に記載してありますが，検査当日監督者の指示に従ってください。

(3) 出願書類は，本校学生課教務係で交付を受けたものを使用してください。郵送を希望する者は，返信用封筒(A4形31.2cm×22.8cmに住所・氏名を明記して，270円切手をはったもの)を同封のうえ請求してください。

(4) 一度受理した出願書類及び入学検定料は，いかなる理由があっても返しません。

(5) 不明な点は，本校学生課教務係に問い合わせてください。

(出典：平成19年度編入学生募集要項)

資料４－１－①－３　専攻科生募集要項（平成２０年度抜粋）

平成２０年度　専攻科学生募集要項

Ⅰ．募集定員

機械電気システム工学専攻・・・・・・・・・・・１２名
建　設　工　学　専　攻・・・・・・・・・・・　４名

Ⅱ．アドミッションポリシー

高松高専専攻科では倫理，知識，実行力，コミュニケーション（詳細は学習・教育目標を参照）からなる四つの学習・教育目標を設定し，自発的問題解決能力，創造的技術開発能力を持つ実践的技術者の育成を目指しています。

そのために，当専攻科では，次のような学生を求めています。

１）自主性があり，勉学・研究意欲の高い人
２）語学および自然科学の基礎を修得した人
３）高度な技術および工学を学ぶために必要な基礎知識を修得した人

Ⅲ．選抜の方法

入学者の選抜は，推薦による選抜，学力による選抜（前期・後期）及び社会人特別選抜とし，下記の日程で行います。

選抜区分		選抜期日	合格発表日
推薦による選抜		書類選抜	平成１９年５月１５日（火）
学力による選抜	前期	平成１９年　５月２２日（火）	平成１９年５月２４日（木）
	後期	平成１９年１１月３０日（金）	平成１９年１２月４日（火）
社会人特別選抜		平成１９年１１月３０日（金）	

③　郵送する場合は，書留郵便とし，封筒に「専攻科出願書類在中」と朱書すること。
④　出願書類提出後は，記載事項の変更は認めません。
⑤　受理した出願書類並びに検定料は，いかなる理由があっても返還しません。

３．選抜の方法

入学者の選抜は，在籍学校長から提出された推薦書及び調査書の内容を審査する書類選抜で行います。

４．合格者の発表

合格者の発表は，平成１９年５月１５日（火）午前１０時に本校構内に掲示するとともに，合格者には「合格通知書」を送付します。参考までに，本校ホームページにも掲載します。

なお，電話等による合否の照会には一切応じません。

５．入学手続

合格者あて平成２０年３月頃別途通知します。

６．入学確認書の提出

合格通知を受けた者は，「入学確認書」を平成１９年５月２５日（金）までに高松工業高等専門学校学生課教務係へ提出すること。

なお，期限までに「入学確認書」を提出しない者は，入学の意志がないものとして取り扱います。

７．推薦による選抜に合格とならなかった場合の取り扱い

「推薦による選抜」の結果，合格とならなかった者で「学力試験による選抜」を希望する者は，再度Ｖの学力による選抜の書類を整え，所定の期間内に手続きを行うこと。（調査書，あて名票，外国人登録済証明書の提出は必要ありません。）

Ⅴ．学力による選抜

１．出願資格

① 高等専門学校を卒業した者（平成２０年３月卒業見込みの者を含む）

② 短期大学を卒業した者（平成２０年３月卒業見込みの者を含む）

③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第８２条の１０の規定により大学に編入学することができる者（平成２０年３月修了見込みの者を含む）

④ 外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者（平成２０年３月修了見込みの者を含む）

⑤ その他本校の専攻科において，高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※ 本校出身者以外で，上記出願資格により出願しようとする者は，ＪＡＢＥＥ（日本技術者教育認定機構）の基準に対応する教育プログラムでの学習に適することを判定する必要がありますので，必ず出願前に学生課教務係に照会してください。

２．出願手続

(1) 願書受付

前期日程　平成１９年５月１４日（月）から平成１９年５月１７日（木）まで
郵送の場合も平成１９年５月１７日（木）までに必着のこと。

後期日程　平成１９年１１月１９日（月）から平成１９年１１月２２日（木）まで
郵送の場合も平成１９年１１月２２日（木）までに必着のこと。

時　間　午前９時から午後４時まで。

場　所　高松工業高等専門学校　学生課教務係
〒761－8058　高松市勅使町３５５
ＴＥＬ（087）869－3832

(2) 出願に必要な書類等

志願者は，次の書類等をとりまとめ，提出すること。

書　類　等	摘　　要
入　学　願　書 （学力選抜用）	本校所定の用紙に必要事項を記入したもの。
受　験　票 写　真　票 （学力選抜用）	本校所定の用紙に必要事項を記入の上，写真を所定の位置に貼付すること。写真は，上半身・脱帽・正面向き（縦 5 ㎝×4.5㎝）で出願日以前３か月以内に撮影したもの。

調　査　書	本校所定の用紙に出身学校長が作成し厳封したもの。ただし，出願資格③により出願する者は，専修学校が発行する修業年限２年以上で，かつ，修了に必要な総授業時間数が１７００時間以上の専門課程を修了したことを証明する証明書も併せて提出，なお，④により出願する者は，資格にかかる最終学校の成績証明書をもって代えることとする。
検　定　料	１６，５００円 郵送のときは郵便為替とし，受取人欄及び裏面の委任欄は記入しないこと。
あ　て　名　票	本校所定の用紙に合格通知書を受ける住所・郵便番号・氏名等を記入すること。
返信用封筒 (定形23.5×12cm)	受験票等の送付に使用しますので，本人のあて名及び郵便番号を明記して４３０円（簡易書留料を含む）切手を貼ったもの。 （願書を直接持参する場合は必要ありません。）
検定料納付用紙	志願者本人の氏名を記入すること。
そ　の　他	現に日本国に在住している外国人は，市区町村長発行の外国人登録済証明書を提出すること。

(3) 出願に関する注意事項

① 出願書類の不備なものは受け付けません。

② 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は，入学後であっても入学を取り消すことがあります。

③ 郵送する場合は，書留郵便とし，封筒に「専攻科出願書類在中」と朱書すること。

④ 出願書類提出後は，記載事項の変更は認めません。

⑤ 受理した出願書類並びに検定料は，いかなる理由があっても返還しません。

３．選抜の方法

入学者の選抜は，学力試験，面接の結果並びに出身学校長からの調査書の内容を総合して行います。

学力試験による選抜の日時及び場所

期　　日	科 目 等	時　　間	場　　所
前期日程 ５月２２日(火) 後期日程 １１月３０日(金)	英　語 数　学 専門科目 面　接	９：３０～１０：３０ １０：５０～１１：５０ １３：００～１４：３０ １５：００～	高松工業高等専門学校

◎試験当日は，午前９時１０分までに専攻科棟１階玄関ホールに集合し，係員の指示に従うこと。

◎専門科目の出題範囲は，次のとおりである。

専　攻　名	出　題　範　囲
機械電気システム工学専攻	(出身学校によって，下記Ａ～Ｃのいずれか１グループを選択する。) Ａ：機械系出身者（材料力学，水力学，熱力学） Ｂ：電気系出身者（電磁気学，電気回路） Ｃ：制御情報系出身者（基礎力学，材料力学，電気回路）
建　設　工　学　専　攻	建設環境系出身者（構造力学，水理学，地盤工学）

４．合格者の発表

合格者の発表は，前期日程については平成１９年５月２４日（木），後期日程については１９年１２月４日（火）午前１０時に本校構内に掲示するとともに，合格者には「合格通知書」を送付します。参考までに，本校ホームページにも掲載します。

なお，電話等による合否の照会には一切応じません。

５．入学手続

合格者あて平成２０年３月頃別途通知します。

６．入学確認書の提出

合格通知を受けた者は，「入学確認書」を前期日程については平成１９年６月７日（木）までに，後期日程については平成１９年１２月１４日（金）までに，高松工業高等専門学校学生課教務係へ提出すること。

なお，期限までに「入学確認書」を提出しない者は，入学の意志がないものとして取り扱います。

－７－

Ⅵ. 社会人特別選抜

１．出願資格

所属する企業等の長が勤務成績，人物ともに優れていると認め推薦する者で，次のいずれかに該当する者

① 高等専門学校を卒業した者

② 短期大学を卒業した者

③ 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第８２条の１０の規定により大学に編入学することができる者

④ 外国において，学校教育における１４年の課程を修了した者

⑤ その他本校の専攻科において，高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※ 本校出身者以外で，上記出願資格により出願しようとする者は，ＪＡＢＥＥ（日本技術者教育認定機構）の基準に対応する教育プログラムでの学習に適することを判定する必要がありますので，必ず出願前に学生課教務係に照会してください。

２．出願手続

(1) 願書受付

期　間　平成１９年１１月１９日（月）から平成１９年１１月２２日（木）まで。
郵送の場合も平成１９年１１月２２日（木）までに必着のこと。

時　間　午前９時から午後４時まで。

場　所　高松工業高等専門学校　学生課教務係
〒761－8058　高松市勅使町３５５
ＴＥＬ（087）869－3832

(2) 出願に必要な書類等

志願者は，次の書類等をとりまとめ，提出すること。

③　郵送する場合は，書留郵便とし，封筒に「専攻科出願書類在中」と朱書すること。
④　出願書類提出後は，記載事項の変更は認めません。
⑤　受理した出願書類並びに検定料は，いかなる理由があっても返還しません。

3．選抜の方法

入学者の選抜は，出身学校長からの調査書及び所属する企業等の長からの推薦書の内容，並びに面接の結果を総合して行います。

社会人特別選抜の日時及び場所

期　　日	実施方法	時　　間	場　　所
１１月３０日（金）	面　接	１５：００～	高松工業高等専門学校

◎試験当日は，１４時４０分までに専攻科棟１階玄関ホールに集合し，係員の指示に従うこと。

4．合格者の発表

合格者の発表は，平成１９年１２月４日（火）午前１０時に本校構内に掲示するとともに，合格者には「合格通知書」を送付します。参考までに，本校ホームページにも掲載します。

なお，電話等による合否の照会には一切応じません。

5．入学手続

合格者あて平成２０年３月頃別途通知します。

6．入学確認書の提出

合格通知を受けた者は，「入学確認書」を平成１９年１２月１４日（金）までに高松工業高等専門学校学生課教務係へ提出すること。

なお，期限までに「入学確認書」を提出しない者は，入学の意志がないものとして取り扱います。

Ⅶ．出願にあたっての注意

本校には本科４，５年と専攻科を合わせた複数の技術者教育プログラムがあり，本専攻科入学時に出身学科に応じたいずれかのプログラムを選択して履修者となります。このため，入学までに修得しておくべき科目がありますが，これが不足する場合は，別途認定試験を行うことになります。入学案内をご参照ください。

（出典：平成20年度専攻科学生募集要項）

資料４－１－①－４　入学者募集要項送付先（平成１９年度）

このことについて，下記のとおり作成してよろしいか伺います。

記

平成１９年度入学者募集要項	印刷部数１，５００部
入学者募集要項・入学案内	１冊
入学願書・写真票・受検票・調査書 推薦書 推薦の場合の送り状・推薦入学選抜の結果通知 入学確認書の送り状 検定料納付用紙	１冊

上記の書類を別綴りとする。

配布内訳

・香川県内中学校	８００部（別紙配布先へ希望数配布）
・岡山県内中学校	３００部　〃
・徳島県内中学校	８０部　〃
・機構及び国立高専	５５部（機構1部，各高専1部）
・香川・岡山・徳島・愛媛・高知県教育委員会	１０部（各２部）
・進学塾等	２１部
・報道関係	１８部
・入試説明会用	８０部
・教員会議	８０部
・その他	５６部

（出典：学生課資料）

資料４－１－①－５　編入学生募集要項送付先（平成１９年度）

（ 伺 ）

このことについて、下記のとおり作成してよろしいか伺います。

記

１．平成１９年度編入学生募集要項
２．平成１９年度高松工業高等専門学校編入学願書
３．検定料納付用紙
４．受験許可書

以上を１冊の綴り込みとし、内容は別紙のとおり

○印刷部数　　２５０部

配布内容

・ 独立行政法人国立高等専門学校機構本部	１部
・ 香川、岡山、徳島、愛媛、高知県の各教育委員会（各１部）	５部
・ 香川県下工業高校（４校）、普通科高校「工業科有」（３校）（各３部）	２１部
・ 岡山県下工業高校（７校）、普通科高校「工業科有」（９校）（各３部）	４８部
・ 徳島県下工業高校（５校）（各３部）	１５部
・ 愛媛県下工業高校（５校）、普通科高校「工業科有」（５校）（各３部）	３０部
・ 高知県下工業高校（５校）（各３部）	１５部
・ 大阪府下工業高校（３校）（各３部）	９部
・ 九州地域工業高校（２校）（各３部）	６部
・ 報道関係（各１部）	１８部
・ 本校教員等	５０部
・ その他予備	３２部

（出典：学生課資料）

資料４－１－①－６　専攻科生募集要項送付先（平成２０年度）

送　付　先　一　覧

◎平成２０年度専攻科募集要項

国立高等専門学校機構

香川県	教育委員会教育長	〒760-8582	高松市天神前６－１
徳島県		〒770-8570	徳島市万代町１－１
愛媛県		〒790-8570	松山市一番町4-4-2
高知県		〒780-0850	高知市丸の内1丁目7番52号
岡山県		〒700-8570	岡山市内山下２－４－６

教育研究助成会（２８）

四国電力（株）総合研修所社員研修課　〒 701-0113　高松市屋島西町 1850-1

各国立高等専門学校（５４）

報道機関

◎平成１８年度専攻科特別研究論文集

各国立高等専門学校（５４）

教育研究助成会（２８）

◎高松高専だより第１０２号

教育研究助成会（２８）

各国立高等専門学校（５４）

報道機関

◎平成１９年度学生便覧

各国立高等専門学校（５４）

（出典：学生課資料）

資料４－１－①－７　入学案内ウェブページ

入学案内

［最終更新日　07/04/23］

募集要項

- 平成19年度(PDF)
- 平成18年度(PDF)
- 平成17年度(PDF)
- 入学者選抜学力検査問題

入学試験志願者状況

- 平成19年度
- 平成18年度
- 平成17年度
- 平成16年度
- 平成15年度

体験入学・学校見学会

- 平成18年度

編入学生募集要項

- 平成19年度(PDF)

研究生募集要項

- 平成19年度(PDF)

科目等履修生募集要項

- 平成19年度(PDF)

専攻科生募集要項

- 平成20年度(PDF)

PDFファイルを見るためのソフトが必要な方は Get Adobe Reader をクリックしてください。

高松高専のページへ

（出典：高松高専ホームページ，http://www.takamatsu-nct.ac.jp/）

資料４－１－①－８　入試説明会実施要領（平成１９年度）

入試説明会実施要領

１．本　　校

(1)日　　時　　平成１８年１０月２６日(木)　１３：３０～１６：００
(2)場　　所　　第二講義室
(3)対　　象　　各中学校の進路指導担当教諭
(4)参 加 校　　別紙の中学校　７９校(昨年４９校)
(5)日　　程(内容)　　司会　学生課長

12:45 ～ 14:00	受付　本館１階学生玄関	
13:30 ～ 13:45(15)	学校長あいさつ	校長
13:45 ～ 14:00(15)	学校紹介(VTR)	教務係長
14:00 ～ 14:40(40)	入学者募集要項・資料説明	教務主事 教務係長
14:40 ～ 15:00(20)	学生指導の現況説明	学生主事
15:00 ～ 15:10(10)	学寮の現況説明	寮務主事
15:10 ～ 15:20(10)	質疑応答・その他	
15:20 ～ 16:00(40)	個別面談(希望者)	

○個別面談 ---------- 教務主事、教務副主事、教務主事補
出身学生の成績等の周知についての面談は、教育相談室

◎徳　島　会　場
(1)日　　時　　平成１８年１１月１日(水)　１４：００～１６：００
(2)場　　所　　脇町福祉センター研修室
(3)対　　象　　各中学校の進路指導担当教諭
(4)参 加 校　　別紙の中学校　３０校(昨年１２校)
◎岡　山　会　場
(1)日　　時　　平成１８年１０月３０日(月)　１４：００～１６：００
(2)場　　所　　まきび会館(洋室)
(3)対　　象　　各中学校の進路指導担当教諭
(4)参 加 校　　別紙の中学校１２０校(昨年１０校)
◎倉　敷　会　場
(1)日　　時　　平成１８年１０月３１日(火)　１４：００～１６：００
(2)場　　所　　倉敷商工会議所　第２会議室
(3)対　　象　　各中学校の進路指導担当教諭
(4)参 加 校　　別紙の中学校１２０校(昨年　６校)

○　日　程　(内容)　　司会　学生課長

14:00 ～ 14:05(5)	教務主事あいさつ	教務主事
14:05 ～ 14:50(45)	入学者募集要項・資料の説明	教務主事 教務係長
14:50 ～ 15:10(20)	学生指導及び学寮の現況説明	教務主事
15:10 ～	質疑応答・個別面談 (出身学生の成績等の周知についての面談)	

○　出張者　　教務主事，学生課長，教務係長
○　配布資料
　平成１９年度入学者募集要項等、学校案内、入学案内、学校要覧、
高松高専Ｑ＆Ａ、高専だより(H18.10.23 発行)
　ポスター　-------- 本校の場合視聴覚教室の机の上へ置いておく
　　他の会場の場合はその会場の机の上へ置いておく
○　附属資料
　平成１９年度入学者募集要項等(各校必要部数) ------　受付で配布

(出典：学生課資料)

資料４－１－①－９　入試説明会案内・実施要領（学習塾対象，平成１９年度）

高工専学発第６９号
平成 18 年 10 月 20 日

各　　位

高松工業高等専門学校長
塩　　谷　　幾　　雄
（公　印　省　略）

入試説明会の開催について（ご案内）

謹啓　ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
本校の入学者募集につきましては，平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて，学習塾を対象として、本校の現状について一層のご理解と進路指導のご参考にしていただくために，下記のとおり入試説明会を開催いたします。
つきましては，ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが，是非ご出席下さるようご案内申し上げます。
なお，お手数ですが同封の出欠票にご記入のうえ１１月６日（月）までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

謹言

記

1　日　時　　平成１８年１１月１６日(木)　１４：００～
2　場　所　　本校第二講義室
3　内　容　　(1)　入学者募集要項について
(2)　高松高専の現況について
(3)　質疑応答

入試説明会実施要領

１．本　　校

(1)日　　時　　平成１８年１１月１６日(木)　１４：００～

(2)場　　所　　第二講義室

(3)対　　象　　学習塾の進路指導担当者

(4)日　　程(内容)

13:30 ～ 14:00	受付　図書館１階談話室	
14:00 ～ 14:15(15)	学校紹介(VTR)	教務係長
14:15 ～ 15:00(45)	学校案内説明	教務主事
15:00 ～ 15:10(10)	質疑応答・その他	
15:10 ～ 16:00(50)	個別面談(希望者)	

○個別面談 ---------- 教務主事、教務副主事、教務主事補

（出典：学生課資料）

資料４－１－①－１０　高校進学説明会招待校一覧（平成１９年度）

平成１８年度高校進学説明会招待校

平成１８年１１月２７日現在

日　付	説明時間	説　明　中　学	出席者名	返 事	配布物	配 車	礼 状
１０月							
１２(木)	16:00～16:15	高松市立国分寺中学校	鎌田	10/3	10/3	15:30	10/20
１６(月)	13:55～14:10	多度津町立多度津中学校	鎌田	9/13	10/5	12:50	10/20
１７(火)	14:25～14:40	さぬき市立志度中学校	鎌田	10/3	10/11	13:25	10/20
１８(水)	13:20～13:35	高松市立一宮中学校	鎌田	10/5	10/5	12:55	10/20
１８(水)	13:35～13:50	高松市立協和中学校	加藤	10/11	10/11	13:00	10/20
１８(水)	13:05～13:20	高松市立香東中学校	権藤	10/5	10/5	12:45	10/20
１９(木)	15:25～15:40	高松市立龍雲中学校	鎌田	10/5	10/5	14:55	10/20
２０(金)	13:35～13:50	丸亀市立綾歌中学校	太田	10/13	10/13	12:35	10/23
２０(金)	14:45～15:00	丸亀市立西中学校	太田	9/27	10/13	12:35	10/23
２２(日)	11:15～11:30	高松市立玉藻中学校	加藤	10/16	10/13	10:55	10/24
２５(水)	13:50～14:05	高松市立古高松中学校	鎌田	10/16	10/13	13:00	10/31
２５(水)	14:45～14:55	高松市立木太中学校	由良	10/16	10/13	14:10	10/31
２５(水)	15:30～15:45	坂出市立白峰中学校	鎌田	9/13	10/13	14:50	10/31
２７(金)	13:15～13:25	高松市立城内中学校	鹿間	10/27	10/13	12:25	10/31
２７(金)	13:15～13:30	高松市立光洋中学校	小島	10/27	10/13	12:35	10/31
２７(金)	13:40～13:55	高松市立山田中学校	向谷	10/27	10/13	13:00	10/31
２７(金)	13:50～14:00	高松市立桜町中学校	木原	10/19	10/13	13:20	10/31
２７(金)	15:10～15:20	高松市立太田中学校	小島	10/19	10/13	14:45	10/31
３０(月)	14:20～14:40	高松市立塩江中学校	高橋義	10/24	10/13	13:30	10/31
１１月							
１(水)	15:15～15:30	高松市立屋島中学校	高橋義	10/27	10/26	14:15	11/8
２(木)	13:05～13:20	善通寺市立西中学校	鎌田	10/13	10/26	12:05	11/8
６(月)	14:15～14:30	まんのう町立満濃中学校	重田	10/5	10/11	13:15	11/8
７(火)	13:55～14:10	附属高松中学校	鹿間	11/7	10/5	13:30	11/8
７(火)	14:30～14:45	丸亀市立南中学校	鎌田	10/5	10/5	13:45	11/8
７(火)	15:10～15:25	高松市立香川第一中学校	権藤	10/24	10/26	14:30	11/8
９(木)	14:30～14:45	丸亀市立東中学校	由良	10/13	10/13	13:30	11/13
１９(日)	10:20～10:30	高松市立紫雲中学校	鎌田	10/31	10/26	9:50	11/21
２２(水)	13:40～13:55	高松市立香南中学校	坂本	10/31	10/26	13:00	11/27
２２(水)	15:10～15:20	高松市立勝賀中学校	坂本	10/31	10/26	14:40	11/27

（出典：学生課資料）

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

学生の受入方法は，募集要項等に記載された求める学生像や選抜方法等の基本方針に沿い，以下のように適切に実施されている。

準学士課程入学者の推薦選抜は，入学者募集要項の記載内容に従い，調査書の内申点の合計点により高得点の者から順位を付けて面接評価を含めた総合評価をしている。面接評価では，志望動機，入学後や将来の目標等を確認するとともに，本校の求める学生像に合致しているかどうかを総合的に評価している。準学士課程入学者の学力選抜では，入学者募集要項の記載内容に従い，学力検査成績に調査書に記入された内申点の合計点を加えた総合得点の上位者から面接評価を参考に総合評価をしている。面接評価では，推薦選抜と同様に本校の求める学生像に合致しているかどうかを総合的に評価している（資料４－２－①－１）。

工業系高校生対象の編入学生学力選抜は，編入学生募集要項の記載内容に従い，数学，英語，国語および専門学科が指定した科目の学力検査成績と調査書および面接の評価を総合して実施している。

専攻科課程入学者の選抜は，専攻科学生募集要項の記載内容に従い実施している。推薦選抜では，調査書および推薦書による書類選抜とし，その記載内容から本校専攻科の求める学生像に照らして総合的に評価している。学力選抜は年間２回実施し，英語，数学および各コースの指定する専門科目の学力試験成績と面接および調査書をもとに，本校専攻科の求める学生像に照らして総合的な評価を実施している。

留学生の編入学受入の基本方針は明文化されていないが，文部科学省の資格審査に合格した外国人留学生について，国際交流委員会および企画運営会議で受入決定を報告している（資料４－２－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

募集要項に記載されている求める学生像や選抜の方法に沿って学生の受入方法が決められており，実際の入学者選抜もそれに従って適切に実施されている。

資料４－２－①－１　入試面接用調査表（平成１９年度）

面接用調査表（推薦選抜用）

※回答は選択肢のあるものには番号に○をつけ，その他は記述してください。

[1] 受検番号と氏名を書いて下さい。

受験番号		氏　名	

[2] 体験入学・学校見学会に参加したことがありますか。
1. 体験入学・学校見学会ともに参加　2. 体験入学に参加　3. 学校見学会に参加　4. 不参加

[3] [2] 以外に，本校での行事に参加したことがありますか。(複数回答可)
1. 学生祭に参加　2. サイエンスフェスタに参加　3. 公開講座に参加
4. 参加したことはない　5. その他(　　)

[4] 本校を受検した理由は何ですか。(複数回答可)
1. 専門教育が充実している　2. 早期に専門教育が受けられる　3. 学びたい専門学科がある
4. 設備・施設がよい　5. 本校専攻科進学を希望している　6. 就職率がよい
7. 大学進学率がよい　8. 学生寮がある　9. 勉学と部活動が両立できる
0. その他(　　)

[5] 本校受検を誰に勧められましたか。(複数回答可)
1. 自分で決めた　2. 中学校の先生　3. 塾の先生　4. 家族・親戚の人
5. 知人・友人　6. その他(　　)

[6] 興味がある教科は何ですか。(複数回答可)
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. 音楽　7. 美術　8. 体育
9. 技術家庭　0. なし

[7] 苦手な教科は何ですか。(複数回答可)
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. 音楽　7. 美術　8. 体育
9. 技術家庭　0. なし

[8] 入学したら，どのような卒業後の進路を予定していますか。
1. 就職(県外)　2. 就職(県内)　3. 専攻科に進学　4. 大学に編入　5. 家業を継ぐ
6. 未定　7. その他(　　)

[9] 自分の性格をどう思いますか。(複数回答可)
1. 自主性がある　2. 協調性がある　3. 積極的である　4. 明朗活発である
5. 根気強い　6. 好奇心旺盛　7. 創造性がある　8. リーダー性がある
9. 誠実である　0. その他(　　)

[10] あなたの夢は何ですか。どのような技術者になりたいですか。

[11] 自分をＰＲ(自分の自慢のあること・特技等)して下さい。

[12] 高専に入学したら，どんなことに打ち込みたいですか。

[13] 中学校で特に頑張ったことは何ですか。

[14] 中学校でしていた委員名と部活名を書いて下さい。

	1年	2年	3年
委員名 (生徒会役員含む)			
部活名			

[15] 部活動で，県大会または地区大会で3位以内に入賞したものを書いて下さい。

[16] 趣味や技能的なもので，取得した資格や入賞したものがあれば書いて下さい。

[17] 差し支えなければ，併願している公立および私立高校名を書いて下さい。
公立（　　高校）
私立（　　高校）　（　　高校）

面接用調査表（学力選抜用）

※回答は選択肢のあるものには番号に○をつけ，その他は記述してください。

[1] 受検番号と氏名を書いて下さい。

受検番号		氏　名	

[2] 体験入学・学校見学会に参加したことがありますか。
1. 体験入学・学校見学会ともに参加　2. 体験入学に参加　3. 学校見学会に参加　4. 不参加

[3] [2] 以外に，本校での行事に参加したことがありますか。（複数回答可）
1. 学生祭に参加　2. サイエンスフェスタに参加　3. 公開講座に参加
4. 参加したことはない　5. その他(　　)

[4] 本校を受検した理由は何ですか。（複数回答可）
1. 専門教育が充実している　2. 早期に専門教育が受けられる　3. 学びたい専門学科がある
4. 設備・施設がよい　5. 本校専攻科進学を希望している　6. 就職率がよい
7. 大学進学率がよい　8. 学生寮がある　9. 勉学と部活動が両立できる
0. その他(　　)

[5] 本校受検を誰に勧められましたか。（複数回答可）
1. 自分で決めた　2. 中学校の先生　3. 塾の先生　4. 家族・親戚の人
5. 知人・友人　6. その他(　　)

[6] 学力試験はどの教科が難しかったですか。（複数回答可）
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. なし

[7] 学力試験はどの教科がやさしかったですか。（複数回答可）
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. なし

[8] 興味がある教科は何ですか。（複数回答可）
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. 音楽　7. 美術　8. 体育
9. 技術家庭　0. なし

[9] 苦手な教科は何ですか。（複数回答可）
1. 数学　2. 理科　3. 国語　4. 社会　5. 英語　6. 音楽　7. 美術　8. 体育
9. 技術家庭　0. なし

[10] 入学したら，どのような卒業後の進路を予定していますか。
1. 就職(県外)　2. 就職(県内)　3. 専攻科に進学　4. 大学に編入　5. 家業を継ぐ
6. 未定　7. その他(　　)

[11] 自分の性格をどう思いますか。（複数回答可）
1. 自主性がある　2. 協調性がある　3. 積極的である　4. 明朗活発である
5. 根気強い　6. 好奇心旺盛　7. 創造性がある　8. リーダー性がある
9. 誠実である　0. その他(　　)

[12] あなたの夢は何ですか。どのような技術者になりたいですか。

[13] 自分をＰＲ（自分の自慢のあること・特技等）して下さい。

[14] 高専に入学したら，どんなことに打ち込みたいですか。

[15] 中学校で特に頑張ったことは何ですか。

[16] 中学校でしていた委員名と部活名を書いて下さい。

	1年	2年	3年
委員名（生徒会役員含む）			
部活名			

[17] 部活動で，県大会または地区大会で３位以内に入賞したものを書いて下さい。

[18] 趣味や技能的なもので，取得した資格や入賞したものがあれば書いて下さい。

[19] 差し支えなければ，併願している公立および私立高校名を書いて下さい。
公立（　　高校）
私立（　　高校）　（　　高校）

（出典：平成19年度入試面接用調査表）

資料４－２－①－２　外国人留学生選考資料例（平成１９年度）

平成１９年度大使館推薦による国費外国人留学生（高等専門学校留学生）採用候補者一覧

個人番号	国名	氏名	性別(M/F)	配置学校(高)	配置学科(高)	配置分野(高)		予備教育機関	受入可否	備考
						分野	当な専門等			
[redacted]	[redacted]	[redacted]	M	高松工業高等専門学校	電気情報工学科	情報・通信・ネットワーク	コンピュータネットワーク	日本学生支援機構東京日本語教育センター	可	

（出典：平成19年度外国人留学生選考資料）

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の入学者について，受入れた学生が本校の求める学生像に合致しているかどうかの検証は十二分ではないが，その把握には努めており、入学者選抜の改善は入学・編入学委員会にて主導的に行われている。例えば，本校の求める学生像に適合する人材の確保を促進するため，面接要領を見直したり，推薦選抜による募集人員を入学定員の４０％程度以内に拡大するなどの改善が実施されている。また，中学校主催の説明会への出席や中学校訪問，本校在校生の出身中学への訪問，県内学習塾対象の説明会などを積極的に実施し，本校の求める学生像を周知するとともにその人材確保の努力をしている（資料４－２－②－１）。

専攻科課程の入学者については，専攻科委員会にて各教育プログラムの履修条件を充足しているかどうかを確認しており，ほとんどの受入学生が履修条件を満たしていることから，専攻科の受入方針に沿った選抜が行われていると判断できる（資料４－２－②－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

準学士課程では，受入れた学生が本校の求める学生像に沿っているかどうかの具体的な検証は十二分とは言えないが，その把握に努め、入学者選抜制度の見直しや広報活動の活性化等の改善を継続的に行っている。専攻科課程では，入学者に対し各教育プログラムの履修条件を充足しているかの確認を行っており，受入れた学生が専攻科の求める学生像に沿っていると判断できる。

資料４－２－②－１　入学・編入学委員会議事録抜粋（平成１８年度）

第２回入学・編入学委員会議事要旨

日　時　平成１８年５月 26 日（金）１６時２５分～１７時 38 分

出席者　教務主事　教務副主事　山内　本田　竹下　奥田　山崎　荻原　由良　太田
　　板橋　米山　三好　寺尾

議事

（1）　平成 19 年度　学生募集要項について

募集要項の変更、訂正等の字句等については前回、審議されたとおり今後は教務委員、教務小委員会で審議し決定して行く事とする。

（2）　入学者選抜方法について

①内申書

・ 従来の内申点による傾斜配分による総合順位の算出方法は今年度から見直す事とする。
・ 中学校からの調査書の内申書をそのまま加味して、情報公開に向けて説明しやすいものとする。

②面接について

・ 面接について点数化するか、従来の [redacted] とするか議論したが次回までの検案事項とした。
・ 面接の取り扱いが不確定なら面接の廃止を？
・ 面接については実施する事として議論する。
・ 従来の方法では情報開示で説明しがたい。
・ 個人情報開示、説明責任を考慮すると点数化したほうが良い。
・ 情報開示の方法（様式）等機構本部、大学、他高専の情報を把握する。

③調査書内申点の取り扱いについて

調査書の９教科（5×9 教科＝45 点）の内申点をそのまま加味する方向で。

内申点の加味について慎重に審議した結果、昨年の推薦選抜の方法を学力にも取り入れ 2、3 年生の内申９教科（45 点×2＝90 点）とアドミションポリシー等を考慮して５教科（25×2＝50）を加え 140 点満点とする。

④推薦選抜の日程について

最近の高校選抜の自己推薦や他高専の現状を考慮して人材確保の観点から本校の推薦選抜日程を従来より１週間前倒しする事とした。

推薦枠は従来どおり [redacted]

第５回入学・編入学委員会議事要旨

日　時　平成１８年９月 29 日（金）14 時 30 分～１５時 40 分

出席者　教務主事　教務副主事　山内　本田　竹下　奥田　山崎　由良

　　板橋事務部長　　三好　寺尾

欠席者　太田　荻原

議事

○　平成 19 年度　入学者募集要項について

「平成 19 年度入学者募集要項」を配布し、誤り等あれば連絡をお願いした。

○　入学試験の選考資料について

推薦、学力の様式について昨年からの変更点等主事から説明があり、一部訂正、数値等の確認をする事として了承された。

○　入学試験における面接の質問事項について

・　推薦の場合は集団面接において入学者受入方針に沿った質問がなされていることを確認した。

・　学力の個人面接についても推薦の集団面接のような入学者受入方針に沿った質問例を列挙する事として、次回までに案を作成する事とした。

・　面接は[redacted]

○　その他

入学試験等について以下の点について意見交換があった。

・選考の際の[redacted]

・入学者の育成、指導について

・入学試験における作文の可否について

（出典：平成18年度入学・編入学委員会議事録）

資料４－２－②－２　専攻科委員会議事録抜粋（平成１９年度）

第１回　専攻科委員会議事要録

日　時：平成 19 年 4 月 25 日（水）１７時 10 分～18 時 45 分

場　所：第二会議室

出席者：山内委員長、本田委員、竹下委員、鎌田教務主事、坂本寮務主事、市川委員、
酒井委員、吹田委員、板橋部長

議　題

１．１年生の指導教員の確認について

山内委員長から会議資料１に基づき説明があった。

[redacted]、次回までに機械で議論していただきバックアップとなる人を選ぶか、とりあえず機械に任すこととする。

[redacted]

２．１年生のプログラム履修条件充足の確認について

資料により各コース委員から以下のとおり説明があり確認された。

機械：指定科目未修得の者２名は単位認定試験等で対応し充足予定。他は問題なし。

電気：指定科目未修得の者１名については、科目等履修生で対応している。
社会人選抜の[redacted]については、成績証明書、シラバス等調査したしたが問題なし
他の者は問題なし。

メカトロ：資料のとおり全員問題なし

建設：[redacted]は専攻科での学外実習の単位取得を条件とし、クリアすれば充足する。
他は特に問題なし。

3.専攻科入試（前期：学力）について

山内委員長から推薦、学力の選考日程、場所等について説明があった。

続いて委員長から学力問題の出題について、公開も視野に入れて慎重に、難易度をそろえる等、今一度の見直しについて依頼された。

4.特別講演会について

本田委員からパンフレットにより説明、案内、協力依頼があった。

外部者を 40 名ほど予定し本校教員、専攻科生を併せ 100 名ほど予定。

5.その他

・資料３として指導の参考に２年生の成績一覧表を配布。

・専攻科棟３Ｆ北の個別学習室にこの度コンピュータ 13 台、ソフト等整備しているので利用出来る旨説明があった。また、鎌田教務主事から専攻科棟 2Ｆ、3Ｆは専攻科棟設置の際、面積としては本科のスペースを利用しているので当然本科としても個別学習室等使用できる旨発言があった。

・専攻科生が本科の科目を履修する際、授業料等の無料化について協議されたが、現在は各プログラムで対応することとして、今後他高専の状況をきいて対応していく事とした。

（出典：平成19年度専攻科委員会議事録）

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における各学科の入学定員４０名に対し，過去３年間の実入学者数はどの学科も４０～４２名となっており，入学定員に対して適切な実入学者数となっている（資料４－３－①－１）。

高校からの編入学生については，若干名の募集人員に対して過去３年間の実入学者数が１～４名となっており，適切な入学者数である（資料４－３－①－１）。

専攻科課程の過去３年間の実入学者数は，機械電気システム工学専攻が入学定員１２名に対して１８～２９名，建設工学専攻が入学定員４名に対して４～７名となっており，入学定員より多くの学生を受入れている。これは，専攻科設置当初より準学士課程学生からの強いニーズと学校側の受入体制強化によるもので，教育にも支障はなく，学校全体の活性化につながっている（資料４－３－①－１）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

準学士課程における実入学者数は入学定員に対して適切な数である。専攻科課程では，実入学者数が入学定員を超過しているが，教育にも支障はなく，学校全体を活性化させる利点になっている。

資料４－３－①－１　入学志願者と入学者数（平成１８年度学校要覧抜粋）

学　生

Students

■学生数

Number of Students

●本科　Depertment

区分 Classification		入学定員 Admission Capacity	現員 Enrollment 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	計 Total
学科 Department	機械工学科 Mechanical Engineering	40	40(1)	41(2)	42(1)	46	41(1),〈2〉	210(5),〈2〉
	電気情報工学科 Electrical and Computer Engineering	40	41(5)	42(4)	42(4),〈1〉	45(4),〈1〉	33(2),〈1〉	203(19),〈3〉
	制御情報工学科 Electro-Mechanical Systems Engineering	40	41(3)	40(4)	46(3)	37(4)	42(2)	206(16)
	建設環境工学科 Civil Engineering	40	41(9)	40(13)	39(6),〈1〉	31(6),〈1〉	34(3)	185(37),〈2〉
計 Total		160	163(18)	163(23)	169(14),〈2〉	159(14),〈2〉	150(8),〈3〉	804(77),〈7〉

●専攻科　Advanced Course

区分 Classification		入学定員 Admission Capacity	現員 Enrollment 1年 1st	2年 2nd	計 Total
専攻名 Course	機械電気システム工学専攻 Advanced Course of Mechanical Electrical Systems Engineering	12	24	18(1)	42(1)
	建設工学専攻 Advanced Course of Civil Engineering	4	5	4	9
計 Total		16	29	22(1)	51(1)

※（ ）内は女子学生で内数。Female,
＜ ＞内は外国人留学生で内数 Overseas Students

平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

■出身中学校所在地別学生数

Hometown Classification of Students

区分 Classification		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	計 Total
香川県 Kagawa Pref.	高松市 Takamatsu City	83	92	89	74	90	428
	坂出市 Sakaide City	18	17	15	13	14	77
	丸亀市 Marugame City	19	8	10	11	8	56
	善通寺市 Zentsuji City	3	1	0	2	1	7
	観音寺市 Kanonji City	0	1	1	0	0	2
	三豊市 Mitoyo - City	1	1	1	2	1	6
	さぬき市 Sanuki City	7	1	7	4	3	22
	東かがわ市 Higashikagawa City	1	4	5	2	2	14
	小豆郡 Shozu - gun	5	1	1	4	0	11
	木田郡 Kita - gun	0	6	4	4	3	17
	香川郡 Kagawa - gun	0	0	0	1	0	1
	綾歌郡 Ayauta - gun	6	8	5	10	6	35
	仲多度郡 Nakatado - gun	2	8	8	9	3	30
岡山県 Okayama Pref.	岡山市 Okayama City	3	2	4	5	3	17
	倉敷市 Kurashiki City	7	4	9	7	6	33
	玉野市 Tamano City	1	1	1	0	4	7
	その他 Others	1	0	2	0	0	3
徳島県 Tokushima Pref.		4	8	4	9	2	27
その他府県 Other Pref.		2	0	1	0	1	4
計 Total		163	163	167	157	147	797

◎他に留学生7名

平成18年5月1日現在 As of May. 1, 2006

■入学志願者と入学者

Applicants and Enrollment

●本科・専攻科　Depertment, Advanced Course

年度 Year	区分 Classification	本科 Department 機械工学科 Mechanical Eng.	電気情報工学科 Electrical and Computer Eng.	制御情報工学科 Electro-Mechanical Eng.	建築環境工学科 Civil Eng.	計 Total	専攻科 Advanced Course 機械電気システム工学専攻	建設工学専攻 Advanced Course of Civil Engineering	計 Total
平成16年度（2004年度）	志願者数 Applicants	86	56	80	61	283	35	7	42
	入学者数 Enrollments	42	42	41	41	166	29	7	36
	倍・率 Rate	2.15	1.40	2.00	1.53	1.77	2.92	1.75	2.63
平成17年度（2005年度）	志願者数 Applicants	49	70	58	54	231	27	4	31
	入学者数 Enrollments	40	41	41	41	163	18	4	22
	倍率 Rate	1.23	1.75	1.45	1.35	1.44	2.25	1	1.94
平成18年度（2006年度）	志願者数 Applicants	51	64	50	48	213	31	8	39
	入学者数 Enrollments	40	41	40	41	162	24	5	29
	倍率 Rate	1.28	1.60	1.25	1.20	1.33	2.58	2.00	2.44

■高校からの編入学者

Transfer Students from High School

年度 Year	区分 Classification	学科 Department 機械工学科 Mechanical Eng.	電気情報工学科 Electrical and Computer Eng.	制御情報工学科 Electro-Mechanical Eng.	建築環境工学科 Civil Eng.	計 Total
平成16年度（2004年度）	志願者数 Applicants	2	5	3	0	10
	入学者数 Enrollments	2	2	0	0	4
平成17年度（2005年度）	志願者数 Applicants	1	4	1	1	7
	入学者数 Enrollments	1	0	0	0	1
平成18年度（2006年度）	志願者数 Applicants	1	4	0	0	5
	入学者数 Enrollments	0	1	0	0	1

◎第4学年編入・昭和52年度から編入学制度導入

■外国人留学生

Overseas Students

国籍 Country	性別・人数 Sex・Number	学年 Year	所属学科 Department	留学種別
マレーシア Malaysia	男・2名 Man・Two	5年 5th	機械工学科 Mechanical Eng.	政府派遣
バングラディシュ Bangladeshi	男・3名 Man・Three	5年 5th	電気情報工学科 Electrical and Computer Eng.	国費
		4年 4th		
		3年 3th		
ラオス Laos	男・1名 Man・One	4年 4th	建設環境工学科 Civil Eng.	
ウガンダ Uganda	男・1名 Man・One	3年 3th		

（出典：平成１８年度学校要覧）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育の目的に沿った求める学生像や選抜方法等の基本方針が明確に定められ，適切に実施されている。

（改善を要する点）

準学士課程では，受入れた学生が本校の求める学生像に沿っているかどうかの具体的な検証は十分とは言えないが，その把握に努め、入学者選抜制度の見直しや広報活動の活性化等の改善を継続的に行っている。

（３）基準４の自己評価の概要

本校の入学者選抜（準学士課程入学者の推薦・学力選抜，編入学者の選抜，専攻科入学者の推薦・学力選抜）のいずれにおいても，教育の目的に沿った求める学生像や選抜方法等の基本方針が明確に定められており，本校教職員に周知され，募集要項等の配布やウェブサイトへの掲載により社会に広く公表されている。入試説明会や中学校訪問等で入学者選抜の基本方針を説明し，中学生やその関係者への周知も行っている。また，募集要項に記載されている求める学生像や選抜の方法に沿って学生の受入方法が決められており，実際の入学者選抜もそれに従って適切に実施されている。

準学士課程では，受入れた学生が本校の求める学生像に沿っているかどうかの具体的な検証は十分とは言えないが，その把握に努め、入学者選抜制度の見直しや広報活動の活性化等の改善を継続的に行っている。専攻科課程では，入学者に対し各教育プログラムの履修条件を充足しているかの確認を行っており，受入れた学生が専攻科の求める学生像に沿っていると判断できる。

準学士課程における実入学者数は入学定員に対して適切な数である。専攻科課程では，実入学者数が入学定員を超過しているが，教育にも支障はなく，学校全体を活性化させる利点になっている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば，一般科目及び専門科目のバランス，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程の編成について，各学科とも低学年において一般科目を多く配置し，学年が上がるにしたがい，専門科目の比重が高まるという楔型の科目配置となっている（資料５－１－①－１）。

専門科目の体系性について，各学科とも基礎となる一般科目を低学年に，専門基礎科目，専門科目を高学年に配置している。さらに，職業に必要な能力の育成については，全学科ともに全ての学年で実験・実習科目を配置している（資料５－１－①－２）。

科目の内容は，学科ごとに定めている「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」を最終的な到達点として，第５学年における授業の内容が具体的に定められている。また，第４学年以下の科目の内容についても，これに到達するまでの段階的な内容が各科目で設定され，シラバスに明示されている（資料５－１－①－３，４）。

学校の教育の目的に沿った体系性について，本校の目的のうち，「論理的なコミュニケーション能力」に沿って見ると，英語教育に関しては，全ての学科で，低学年時に基礎的な文法等を重視した講義を中心とした授業科目を配置し，高学年になるにしたがい専門性を高めた講義や会話力の育成を図る科目構成としている（資料５－１－①－２，５）。

次に，本校の目的のうち，「広い視野と技術者としての倫理観」に沿って見ると，特別活動を９０単位時間以上配置し，豊かな人間性の育成に貢献している。また，人文科学系・社会科学系の一般科目等においても，技術者として社会へ貢献する意識と展望といった視点をその内容に組み込んでおり，個々の授業においては，具体的な題材の選択等に反映させている（資料５－１－①－６）。

また，本校の目的のうち，「科学技術の基礎知識と応用力」に沿って見ると，低学年では物理，化学，数学といった科学技術に関する基礎・基本となる一般科目，専門基礎科目を配置し，応用力を身につけさせるための専門科目は高学年に配置している。

本校の目的のうち，「課題解決の実行力と豊かな創造力」に沿って見ると，全学科ともに全ての学年で実験・実習科目を配置している。また，高学年に進むにつれて設計製図，演習や卒業研究を配置している。

なお，機械工学科では，学科独自の目的である「機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，課題に取り組み，考え解決することができる」に沿って，低学年では実践的技術教育に重点をおき，設計製図の基礎知識と技法，ものづくりに必要な加工・工作の基礎，情報処理の基礎を実習・演習科目において習得させる。高学年では，機械工学の主要科目である材料力学，流体力学，熱力学，振動工学とその理解に必要な自然科学を体系的に教授するよう配置している。

電気情報工学科では，学科独自の目的である「高度化・多様化するエレクトロニクス，情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ，論理的な思考により継続的に学習を行うことができる」

に沿って，低学年から基礎科目を重要視したカリキュラムを構築し，高学年において専門基礎科目や専門応用科目を設定して，系統的な学習効果が得られるように配慮している。そして，高学年では選択科目を多く設定し，エレクトロニクス・ハードウェア系またはマルチメディア・ネットワーク系のいずれかを主体的に学べるように配置している。

制御情報工学科では，学科独自の目的である「機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，モノづくり（開発・設計・製作・検査）に応用できる」に沿って，第３学年までの専門科目でメカトロニクスに関する実践的基礎知識を学び，第４学年のメカトロニクスシステム設計で総まとめを行う。第５学年の専門科目では，応用科目および周辺的科目を開講して知識の充実を図り，創造力を養う卒業研究を配置している。

建設環境工学科では，学科独自の目的である「基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける」に沿って，低学年から工学基礎，基礎力学を配置し，力学系の導入を行っている。また，高学年では構造力学，土の力学，水理学等の建設力学系の中心科目を学び，設計製図や卒業研究につながるように配置している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

学校教育法上の目的である「深く専門の学芸を教授し」及び「職業に必要な能力を育成する」について，「広い視野と技術者としての倫理観」，「科学技術の基礎知識と応用力」，「課題解決の実行力と豊かな創造力」，「論理的なコミュニケーション能力」等，本校の卒業時に身に付けさせるべき学力や資質・能力に照らして，卒業時の到達目標を具体的に定めた上で，各授業科目を各学年に適切に配置している。また，目的に到達するために段階的な履修が可能となるよう授業科目の内容を決定している。

以上のことから，本校の準学士課程では，教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性が十分確保されている。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料５－１－①－１　授業科目一覧

別表第１

教　育　課　程

一般教育課（各学科共通）

区分	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	国語		7	3	2	2			
	文学		2				2		※
	社会	地理	2	2					
		歴史Ⅰ	2	2					
		歴史Ⅱ	2		2				
		公民Ⅰ	2		2				
		公民Ⅱ	2			2			
	数学	基礎数学Ⅰ	3	3					
		基礎数学Ⅱ	3	3					
		微分積分	4		4				
		代数・幾何	3		3				
		数学解析Ⅰ	3			3			
		数学解析Ⅱ	3			3			
	理科	物理・同実験	6	2	4				
		化学・同実験	5	3	2				
	保健・体育		10	2	2	2	2	2	
	芸術		2	2					音楽又は美術とする。
	外国語	English Ⅰ	4	4					
		English Grammar	2	2					
		English Ⅱ	3		3				
		English Reading	2		2				
		English Ⅲ	2			2			
		English Writing & Speaking	2			2			
		English Ⅳ	3				3		
	キャリア概論		1			1			1～3年で履修
	修得単位計		80	28	26	17	7	2	
選択科目	人文科学Ⅰ		2				2		1科目選択
	人文科学Ⅱ		2				2		
	人文科学Ⅲ		2				2		
	ドイツ語Ⅰ		2			2			1科目選択
	TOEIC Listening		2			2			
	TOEIC Reading		2			2			
	ドイツ語Ⅱ		2				2		
	環境化学		2				2		※ 1科目選択
	物理化学基礎		2				2		※
	English Ⅴ		2					2	
	海外英語演習		1					1	
	社会科学Ⅰ		2					2	
	社会科学Ⅱ		2					2	1科目選択
	社会科学Ⅲ		2					2	
	開設単位計		27			6	12	9	
	修得単位計		8			2	4	2	
開設単位合計			107	28	26	23	19	11	
修得単位合計			88	28	26	19	11	4	

備考欄に※印のある科目の単位は、高等専門学校設置基準第17条第４項により認定される。１単位あたり45時間の学修により単位認定を行う。

別表第2

専門科目（機械工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学入門	1	1					
	基礎力学	1		1				
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料力学Ⅲ	1					1	
	弾性力学	1					1	
	加工学	2			2			
	機械要素設計Ⅰ	1			1			
	機械要素設計Ⅱ	2				2		
	材料学Ⅰ	2				2		
	材料学Ⅱ	1					1	
	振動工学	2					2	
	熱力学	2				2		
	伝熱工学	1					1	
	水力学	2				2		
	流体力学Ⅰ	1					1	
	電気工学	2			2			
	電子工学	2				2		
	コンピュータ工学	2				2		
	メカトロニクス機構学	1					1	
	システム工学Ⅰ	1					1	
	制御工学	2					2	
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	数値計算法	2				2		
	計算力学	2					2	
	機械設計製図Ⅰ	2	2					平成19年度以降の入学生は必修得科目とする。履修を免除。
	機械設計製図Ⅱ	2		2				必修得科目とする
	ＣＡＤⅠ	3			3			
	ＣＡＤⅡ	4				4		
	技術科学英語Ⅰ	1					1	
	工作実習Ⅰ	3	3					平成19年度以降の入学生は必修得科目とする
	工作実習Ⅱ	3		3				必修得科目とする
	工作実習Ⅲ	2			2			必修得科目とする
	工学実験Ⅰ	3				3		必修得科目とする
	工学実験Ⅱ	3					3	必修科目とする。電気電子工学実験を含む
	卒業研究	9					9	必修得科目とする
	小計	85	6	8	16	27	28	
選択科目	技術科学英語Ⅱ	1					1	
	材料強度学	1					1	
	先端材料学	1					1	平成19年度は開講しない
	熱機関	1					1	
	システム工学Ⅱ	1					1	
	流体力学Ⅱ	1					1	
	計測工学特論	1					1	平成19年度は開講しない
	接合工学	1					1	平成19年度は開講しない
	特別講義Ⅰ	1					1	
	特別講義Ⅱ	1					1	
	特別講義Ⅲ	1					1	
	校外実習	1				1		
	小計	12				1	11	
開設単位合計		97	6	8	16	28	39	

専門科目（電気情報工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2			2			
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用数学Ⅲ	2				2		
	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	2				2		
	電気基礎数学	2	2					
	電気基礎Ⅰ	2		2				
	電気基礎Ⅱ	2			2			
	電磁気学Ⅰ・同演習	3				3		必修得科目とする
	電磁気学Ⅱ・同演習	3				3		
	電気回路Ⅰ・同演習	3				3		必修得科目とする
	電気回路Ⅱ・同演習	3				3		
	電気物理	1		1				
	電子工学	2			2			
	電子回路Ⅰ	4				4		
	計測工学	2			2			
	通信工学	2					2	
	制御工学	2					2	
	情報数学	1		1				
	論理回路	1			1			
	ディジタル計測制御	2					2	
	情報処理基礎	2	2					
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	アルゴリズム	2				2		
	オペレーティングシステム	2				2		
	情報理論	2					2	
	統計データ処理	2					2	
	信号処理	2					2	
	情報通信ネットワーク	2					2	
	科学技術英語	2					2	
	エネルギー環境工学	2					2	
	電子情報基礎実習	2	2					
	工学基礎実験	2		2				必修得科目とする
	電子情報工学実験Ⅰ	3			3			必修得科目とする
	電子情報工学実験Ⅱ	3				3		※必修得科目とする
	電子情報工学応用実験	3					3	※
	特別実習	1					1	※4,5年通年科目
	卒業研究	6					6	※
	必修修得単位合計	87	6	8	16	29	28	
選択科目	固体物理	2				2		並列開講
	計算機アーキテクチャ	2				2		
	電気電子材料	2					2	並列開講
	インターフェース	2					2	
	電子回路Ⅱ	2					2	並列開講
	マルチメディア工学	2					2	
	電子デバイス	2					2	並列開講
	コンピュータシミュレーション	2					2	
	電子回路設計	2					2	※並列開講
	論理回路設計	2					2	
	校外実習	1				1		※
	特別講義	1					1	
	選択開設単位合計	22				5	17	
専門科目開設単位合計		109	6	8	16	34	45	

4，5年で開設する科目の単位は、実験・実習科目(備考欄に※印のあるもの)を除きすべて高等専門学校設置基準第17条第４項により認定される。１単位あたり45時間の学修により単位認定を行う。

専門科目（制御情報工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	2					2	
	加工学	2		2				
	機械要素設計	2				2		
	基礎力学	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料学Ⅰ	2				2		
	材料学Ⅱ	1					1	
	熱工学Ⅰ	1				1		
	熱工学Ⅱ	1					1	
	流体工学Ⅰ	1				1		
	流体工学Ⅱ	1					1	
	電気回路	2			2			
	電子工学	2					2	
	電子回路	2				2		
	情報処理Ⅰ	2			2			
	情報処理Ⅱ	2				2		
	情報処理Ⅲ	2					2	
	計算機システム	2			2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3					図学を含む。
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3		3				
	メカトロニクスシステム設計	2				2		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2					2	
	機械力学	2					2	
	ロボット工学	2					2	
	計測工学	1					1	
	統計解析	2					2	
	CAD	2			2			
	工作実習Ⅰ	3	3					
	工作実習Ⅱ	3		3				
	工学実験Ⅰ	2			2			
	工学実験Ⅱ	5				5		
	工学実験Ⅲ	3					3	
	卒業研究	6					6	
	小計	82	6	8	16	25	27	
選択科目	技術科学英語	2					2	※
	情報ネットワーク	2					2	※
	接合工学	2					2	※
	レーザ工学	2					2	※
	電磁気学	2					2	※
	電子計測	2					2	※
	センサ工学	2					2	※
	計画論	2					2	※
	集中講義Ⅰ	2					2	※
	集中講義Ⅱ	2					2	※
	校外実習	1				1		
	小計	21				1	20	
開設単位合計		103	6	8	16	26	47	

※は高等専門学校設置基準第17条第４項に規定するものであり、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

専門科目（建設環境工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履修科目	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	1				1		
	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	電気工学概論	1					1	
	工学基礎	2	2					
	図学基礎	1	1					
	材料工学	2			2			
	構造力学Ⅰ	3			3			
	構造力学Ⅱ	2				2		
	基礎力学Ⅱ	2			2			
	土の力学	2				2		
	鋼構造	2				2		
	コンクリート構造	2				2		
	水理学	2				2		
	建設工法学	2				2		
	防災工学	2					2	
	河川水文学	1					1	
	海岸工学	1					1	
	環境生物学	1		1				
	環境生物学Ⅱ	1			1			
	環境工学Ⅰ	1			1			
	環境工学Ⅱ	1				1		
	環境アセスメント	2					2	
	基礎情報処理	2		2				
	応用情報処理	2			2			
	応用データ処理学	2				2		
	測量学	2	1	1				
	測量学Ⅲ	2					2	
	都市・地域計画	2				2		
	建設環境工学演習Ⅰ	1			1			
	建設環境工学演習Ⅱ	1				1		
	建設環境工学演習Ⅲ	2					2	
	創成工学	2				2		
	建設環境工学実験実習	4	2	2				
	建設環境工学実験実習Ⅲ	2			2			
	建設環境工学実験実習Ⅳ	2				2		
	建設環境工学実験実習Ⅴ	2					2	
	建設環境工学設計製図Ⅰ	2				2		
	建設環境工学設計製図Ⅱ	2					2	
	卒業研究	9					9	必修得科目とする
	小計	83	6	8	16	27	26	
選択科目	構造工学	2					2	※
	地盤工学	2					2	※
	情報処理工学	2					2	※開講しない
	都市・地域計画特論	2					2	※開講しない
	建築構造学	2					2	※
	環境工学特論	2					2	※
	校外実習	1				1		
	特別講義Ⅰ	1				1		※
	特別講義Ⅱ	1					1	※
	小計	15				2	13	
開設単位合計		98	6	8	16	29	39	

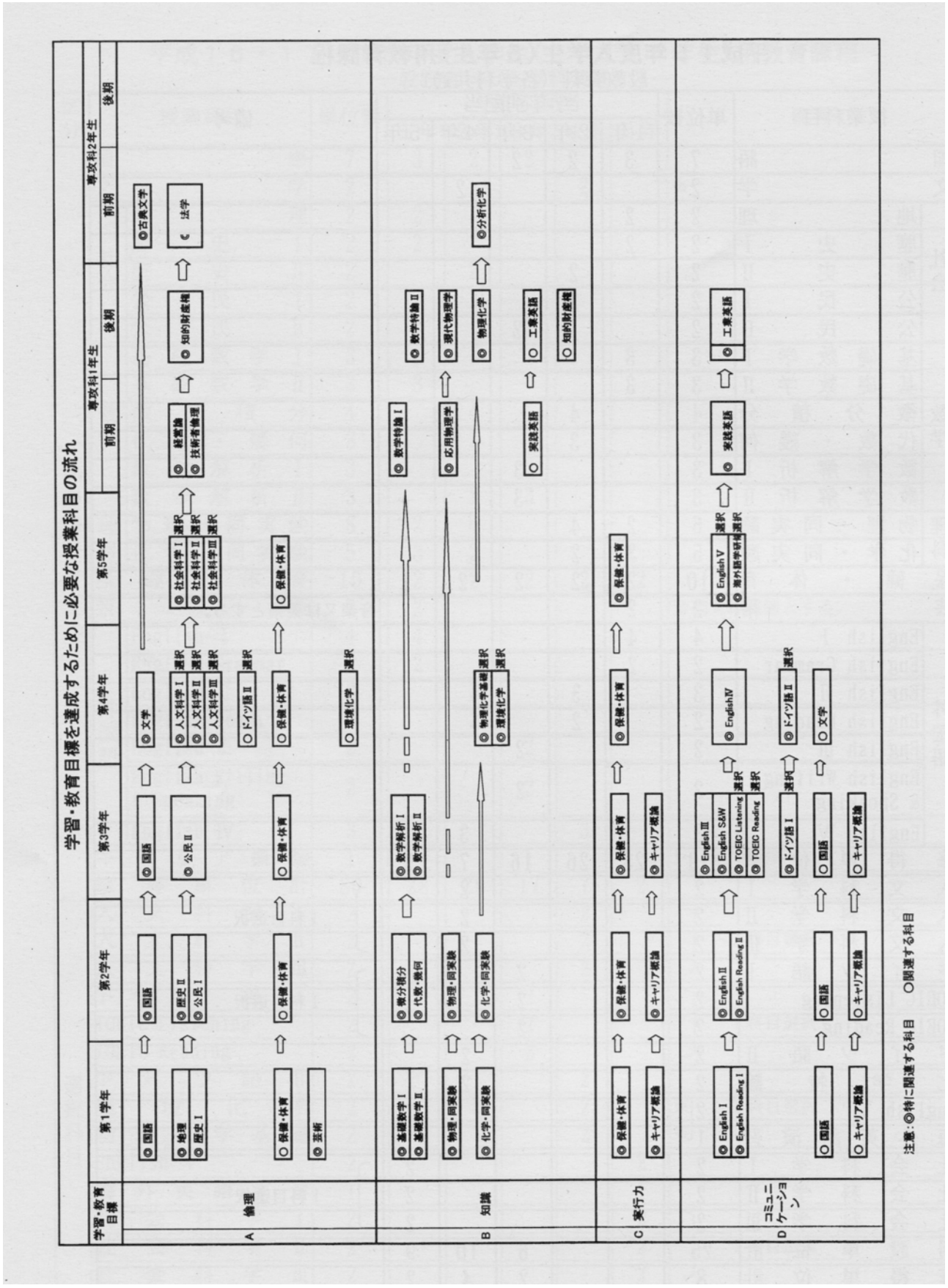
※本科目は，高等専門学校設置基準第17条第４項に規定する45時間の学修を必要とする内容をもって単位を認定される。

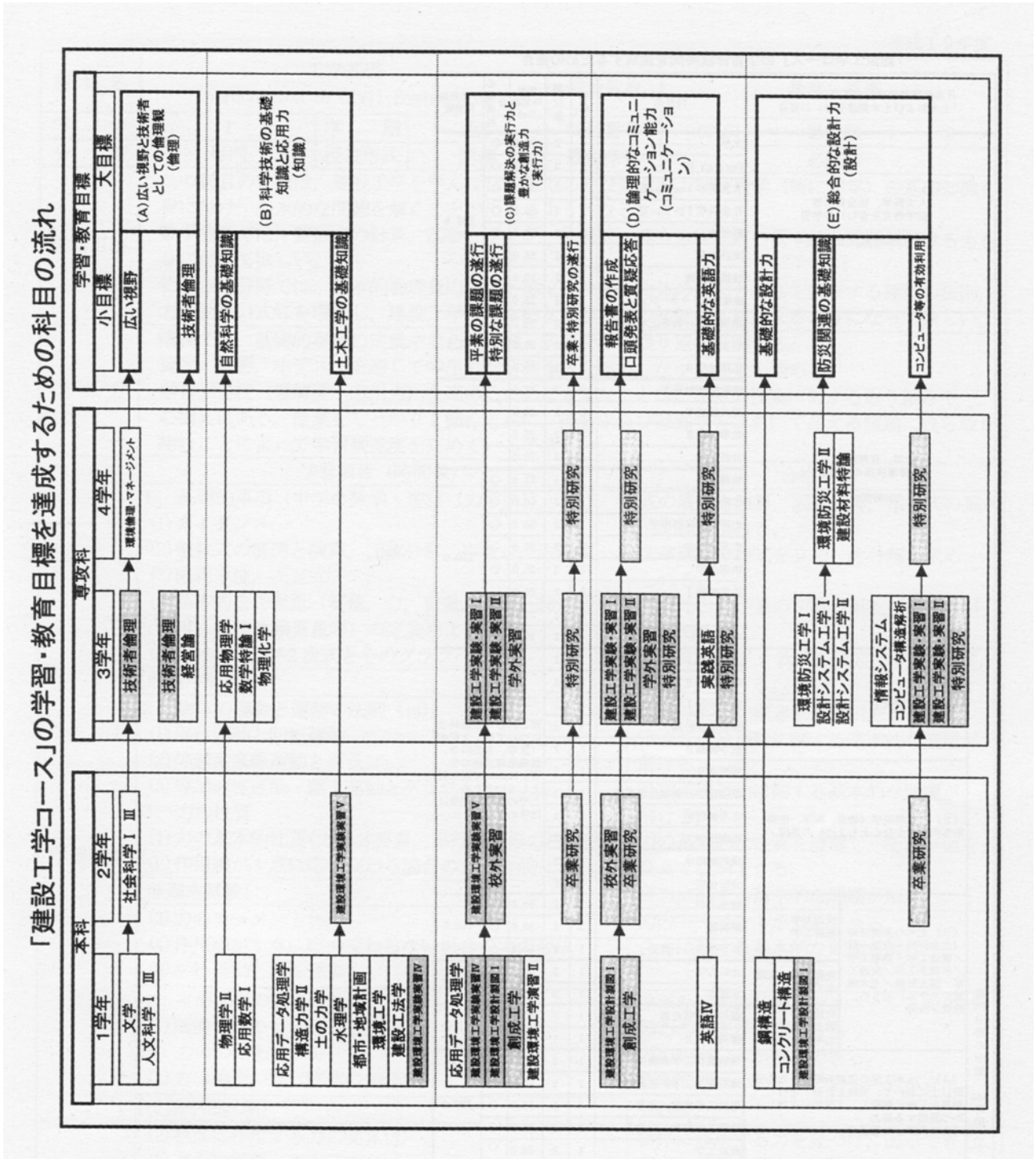
（出典：平成１９年度シラバス）

資料５－１－①－２　科目系統図（一般教育科，建設環境工学科）

1.4 建設環境工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史I 保健・体育 芸術	基礎数学I 基礎数学II 物理・同実験 化学・同実験 工学基礎 測量学 建設環境工学実験実習Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 図学基礎	EnglishI Grammar 国語 キャリア概論
	2年	国語 歴史II 公民I 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 環境生物学Ⅰ 基礎力学Ⅰ 測量学Ⅱ 建設環境工学実験実習Ⅱ	保健・体育 キャリア概論 基礎情報処理	EnglishII English Reading 国語 キャリア概論
	3年	国語 公民II 保健・体育	数学解析I 数学解析II 物理学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 基礎力学Ⅱ 構造力学Ⅰ 材料工学 建設環境工学実験実習Ⅲ 環境工学Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 応用情報処理 建設環境工学実験実習Ⅲ 建設環境工学演習Ⅰ	EnglishIII English S&W 国語 キャリア概論
	4年	文学 保健・体育 人文科学ⅠⅡⅢ	物理学Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用データ処理学 構造力学Ⅱ 土の力学 水理学 都市・地域計画 建設工法学 建設環境工学実験実習Ⅳ 環境工学Ⅱ	保健・体育 応用データ処理学 建設環境工学実験実習Ⅳ 建設環境工学設計製図Ⅰ 創成工学 建設環境工学演習Ⅱ	EnglishIV 文学 建設環境工学設計製図Ⅰ 創成工学
	5年	保健・体育 社会科学ⅠⅡⅢ 環境アセスメント	電気工学概論 応用数学Ⅱ 海岸工学 河川水文学 防災工学 建設環境工学実験実習Ⅴ 測量学Ⅲ	保健・体育 建設環境工学実験実習Ⅴ 建設環境工学設計製図Ⅱ 建設環境工学演習Ⅲ 卒業研究	建設環境工学設計製図Ⅱ 卒業研究


学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
学習・教育目標
第1学年
第2学年
第3学年
第4学年
第5学年
専攻科1年生
専攻科2年生
前期
後期
前期
後期
A 倫理
B 知識
C 実行力
D コミュニケーション
国語
地理
歴史Ⅰ
保健・体育
芸術
基礎数学Ⅰ
基礎数学Ⅱ
物理・同実験
化学・同実験
キャリア概論
English Ⅰ
English Reading Ⅰ
歴史Ⅱ
公民Ⅰ
公民Ⅱ
数分積分
代数・幾何
English Ⅱ
English Reading Ⅱ
文学
人文科学Ⅰ
人文科学Ⅱ
人文科学Ⅲ
ドイツ語Ⅱ
環境化学
数学解析Ⅰ
数学解析Ⅱ
物理化学基礎
環境化学
English Ⅲ
English S&W
TOEIC Listening
TOEIC Reading
English Ⅳ
ドイツ語Ⅰ
社会科学Ⅰ
社会科学Ⅱ
社会科学Ⅲ
経営論
技術者倫理
数学特論Ⅰ
応用物理学
実践英語
English Ⅴ
異分野研修
知的財産権
古典文学
法学
数学特論Ⅱ
現代物理学
物理化学
分析化学
工業英語
知的財産権
注意：●特に関連する科目　○関連する科目



（出典：平成１９年度シラバス（建設環境工学科））

資料５－１－①－３　シラバスの「学習・教育目標との関係」

平成１９年度

科目名	基礎数学Ⅱ Fundamental Mathematics			担当教員	高橋宏明・上原成功		
学年	1	学期	通年	科目番号	07105	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	数学や専門教科の基礎である三角関数、指数関数、対数関数について学習し、それらの定義、基本性質、計算方法、グラフ等を理解して応用できる。 直線と２次曲線を扱いながら図形と式の関係を理解し、具体的な問題に適用できるようにする。						
進め方	教科書を用いて講義し、基本事項・例題の解説、問の問題を学生が解いて発表する手順で進める。 適宜小テストを行い，問題集や章末の問題を宿題として課す。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	１．三角関数Ⅰ(21) （１）三角比 （２）三角比の三角形への応用 （３）角（一般角，弧度法） （４）一般角の三角関数と性質 （５）三角関数のグラフ１			三角比の定義と基本的な性質を理解し，基本的な問題に適用できること。			
	前期中間試験						
	２．図形と式(24) （１）２点間の距離，分点 （２）直線の方程式，２直線の関係 （３）２次曲線（円，楕円，双曲線，放物線） （４）２次曲線と直線 （５）不等式と領域			座標平面において、点や直線、２次曲線（簡単で標準的なもの）の基本的な扱いができること。			
	前期末試験						
	３．指数対数(24) （１）累乗根 （２）指数の拡張 （３）指数法則 （４）指数関数（グラフ，方程式・不等式） （５）対数（対数の性質，底の変換） （６）対数関数（グラフ，方程式・不等式） （７）常用対数			指数の定義、指数法則、指数関数の基本を理解し，基本的な問題に適用できること。 対数の定義、基本の公式を理解して、基本的な問題に適用できること。			
	後期中間試験						
	４．三角関数Ⅱ(21) （１）三角関数のグラフ２ （２）三角関数の方程式，不等式 （３）加法定理 （４）加法定理の応用			三角関数の標準的なグラフが描け、基本的な問題に適用できること。 加法定理およびその系（倍角・半角の公式、合成）を利用できること。			
	後期末試験						
評価方法	小テスト・宿題等を 20%、定期試験を 80%として評価し、それにレポートなどの提出物、発表等の授業への取り組みなどを加味する。最終成績における学習項目１～４の重みは全て 25%とする。						
学習・教育目標との関係	(B)「自然科学（数学，物理，化学）の基礎を身につける」						
関連科目	[基礎数学Ⅰ] →　[微分積分] →　[線形代数]						
教材	教科書：「基礎数学」(大日本図書) 問題集：「基礎数学問題集」(大日本図書)，「エディノート数学Ⅰ＋A，Ⅱ＋B」(啓林館)						
備考							

－14－

（出典：平成１９年度　シラバス）

資料５－１－①－４　職業上の能力について卒業・各学年修了時の到達目標と科目の対応

４．学習・教育目標（卒業時までに身につけるべき学力や資質・能力）

【全学科共通】

（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。

（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）

自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。

（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

課題に自発的に取り組み，創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。

（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

【機械工学科】

・機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ，課題に取り組み，考え解決することができる。

【電気情報工学科】

・高度化・多様化するエレクトロニクス、情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ、論理的な思考により継続的に学習を行うことができる。

【制御情報工学科】

・機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ，「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。

【建設環境工学科】

・基本的な建設構造物の設計に必要な力学，材料，情報，計画などの基礎学力，および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

平成18年度卒業(修了)要件と授業科目

準学士課程

卒業時に身につけるべき学力や資質・能		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史I 保健・体育 芸術	基礎数学I 基礎数学II 物理・同実験 化学・同実験 工学基礎 測量学 建設環境工学実験実習I	保健・体育 キャリア概論 図学基礎	EnglishI Grammar 国語 キャリア概論
	2年	国語 歴史II 公民I 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 環境生物学I 基礎力学I 測量学II 建設環境工学実験実習II	保健・体育 キャリア概論 基礎情報処理	EnglishII English Reading 国語 キャリア概論
	3年	国語 公民II 保健・体育	数学解析I 数学解析II 物理学I 環境生物学II 基礎力学II 構造力学I 材料工学 建設環境工学実験実習III 環境工学I	保健・体育 キャリア概論 応用情報処理 建設環境工学 建設環境工学演習I	EnglishIII English S&W 国語 キャリア概論
	4年	文学 保健・体育 人文科学I II	物理学II 応用数学I 応用データ処理 構造力学II 土の力学 水理学 都市・地域計画 建設工法学 建設環境工学実験実習IV 環境工学II	保健・体育 応用データ処理 建設環境工学 建設環境工学 創成工学 建設環境工学演習II	EnglishIV 文学 建設環境工学設計製図I 創成工学
	5年	保健・体育 社会科学I II 環境アセスメント	電気工学概論 応用数学II 海岸工学 河川水文学 防災工学 建設環境工学実験実習V 測量学III	保健・体育 建設環境工学 建設環境工学 建設環境工学 卒業研究	建設環境工学設計製図II 卒業研究 建設環境工学設計製図II 建設環境工学演習III

（出典：H19.4.25 全学周知されたシラバス内の「本校の目的」，建設環境工学科の科目対応表（教務小委員会））

資料５－１－①－５　英語科の具体的な目標と英語のシラバスの「学習・教育目標との関係」

［英語科の具体的な目標］

		準学士課程	
		1～3 学年	4,5 学年
学習・教育目標	（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）	自分の考えを日本語で相手に伝える力を身につける。英語によるごく基本的なコミュニケーションができる。	自分の考えを日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

［シラバス］English Ⅰより

学習・教育目標との関係	(D)自分の意見を日本語で相手に伝える力を身につける。英語によるごく基本的な読み書き（コミュニケーション）ができる。

平成１９年度

科目名	English I			担当教員	宇野光範/倉本久美子 有道祐子/ David Arnold (窓口教員：宇野光範)		
学　年	1	学　期	通年	科目番号	07111	単位数	4
分　野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	English I: 読む，書く，聞く，話すの英語の４技能全ての向上を目指し，ごく基本的な語学力（英検準２級程度）および教養を身につける。さらに，青年期の学生にふさわしい内容の教材を用い，英語を通じての人間的成長を目指す。 English I (L&S):カナダ人講師の指導により（半期は日本人講師）英語を聞き，話す能力を訓練し，サバイバルイングリッシュ程度のコミュニケーション能力を身につける。						
進め方	English I: 前期は電子辞書などを利用し，英文を正確に読むための訓練をする。後期では，スピードに重点を置き，英語で情報を的確につかむ読み方を実践する。また，英語による Q&A 等の発信型の授業により，テキストの内容に関して自分の意見が伝えられるように訓練する。学生は課題の提出はもとより，予習，復習，自学により，授業についていけるだけの力を補うことが要求される。 English I (L&S)：ポップミュージックを聞いたり，ゲームやクイズをしたり，様々な活動を通して楽しみながら英語によるコミュニケーション能力が身につくよう計画する。小人数クラスのメリットを生かし，ペアワークやグループワークを通じて英語で自己表現する機会をできるだけ与える。出席番号前半の者は前期有道，後期アーノルドが担当し，後半の者はその反対の順になる。以下の学習項目では出席番号前半用のもので，後半の者は前期後期が逆転する。有道の試験は授業中に行い，アーノルドの試験は学年末（出席番号後半の者は前期末）のみとする。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	English I: (1) 辞書指導，発音指導，基本文法の確認 (8) (2) Lesson 1 Languages in the World (8) (3) Lesson 2 Life in Alaska (8) English I (L&S) : (1) Classroom English(1) (2) Get to Know Activity(1) (3) How Does It Feel(1) (4) Language Game(1) (5) Jeopardy(1) (6) Movie(2) (7) Eiken Interview(1) [前期中間試験]			English I: ・電子辞書を使うことができる。 ・簡単な助動詞を使い分けることができる。 ・受動態の基本的な構造が理解できる。 English I (L&S) : ・英語で流暢に自己紹介できる。 ・英語を使用してのゲーム等が抵抗なくできる。 ・英語による説明が、日本語を介さずとも何とか理解できる。			
	English I: (4) Lesson 3 Tsugaru-jamisen and the Yoshida Brothers (10) (5) Lesson 4 What's in a Name? (11) English I (L&S) : (8) Show & Tell Test(1) (9) Listening Activities(1) (10) Who is Who?(1) (11) Snakes & Ladders(1) (12) Word Wars & Bottle Roulette(1) (13) Listening & Speaking Test(2) 前期末試験			English I: ・説明文中に使用されている動名詞・不定詞が理解できる。 ・現在完了形，過去完了系の基本的な構造，使用法が理解できる。 English I (L&S): ・自分の大切にしているものについて、英語でスピーチできる。 ・英語による質問を聴き取ることができ、それに対する自分の意見が何とか英語で言える。			
	English I: (6) Lesson 5 A Runner against Landmines (11) (7)Lesson 6 The Wonders of Saturn's Rings(11) English I (L&S) : (1) Unit 1 Are you in this class?(2) (2) Unit 2 There's a downstairs!(2) (3) Unit 3 For computer questions, press one now. (2) (4) Unit 4 What's Bob doing?(2) [後期中間試験]			English I: ・説明文中に使用されている比較級が理解できる。 ・関係代名詞の基本的な用法が理解できる。 ・現在分詞・過去分詞による名詞の修飾が理解できる。 English I (L&S) : ・How to make informal introductions etc. ・How to identify yourself on the phone/ask how Someone is etc. ・How to suggest an activity/an alternative etc. ・How to talk about actions in progress etc.			

（出典：平成１９年度　シラバス）

資料５－１－①－６　広い視野と技術者としての倫理観を養うための人文科学のシラバス

平成18年度

科目名	人文科学Ⅰ Human Science Ⅰ			担当教員	権藤　典明		
学年	4	学期	通年	科目番号	04139	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	選択		
学習目標	現代世界が直面している人口問題と食糧問題、南北問題、資源問題と環境問題、および都市問題について、基本的な知識を身につけ、判断力を養うことを目的とする。						
進め方	各テーマの基本的な見解を解説していく。各テーマの基本的な資料や補足説明はプリントにして配布するので、各自でよく読み、認識を深めてもらいたい。						
学習内容	学習項目（時間数） 1．人口問題と食糧問題（20） (1) 世界の人口増加 (2) 開発途上国の人口問題 (3) 先進国の人口問題 (4) 世界の食糧生産 (5) 開発途上国の食糧問題 (6) 先進国の農業政策 2．南北問題と世界経済（15） (1) 南北問題の展開 (2) 日本のＯＤＡ			合格基準 人口問題、特にわが国の少子・高齢化問題と外国人労働者受け入れをめぐる問題についての基本的な事項を理解する。食糧問題については、特にＷＴＯ体制下におけるわが国の食糧需給について、基本的な事項を理解する。 現代の世界経済に影響をおよぼしている南北問題について基本的な知識を理解する。現在の世界経済については、世界貿易の特徴と、ＥＵ・ＮＡＦＴＡ・ＡＰＥＣについて基本的な事項を理解する。			
	前期末試験						
	(3) 世界貿易の動向 (4) 地域統合の展開 3．資源問題と環境問題(15) (1) 資源問題とは (2) 石油資源と水資源 (3) 地球環境問題とは (4) 酸性雨 (5) オゾン層破壊 (6) 地球温暖化 4．都市問題（10） (1) 現代の都市化 (2) インナーシティ問題 (3) ニュータウン			資源問題については、枯渇資源としての石油資源、再生資源としての水資源を通じて、資源問題に関する基本的な事項を理解する。環境問題については、酸性雨・オゾン層破壊・地球温暖化を通じて、これらの問題を考える際の基本的な知識を理解する。 現代日本の都市化現象、都市問題の一つとしてのインナーシティ問題、および都市計画の例としてニュータウンについて、基本的な事項を理解する。			
	後期末試験						
評価方法	評価は２回の定期試験の成績にもとづいて行う。成績不振者には再試験を実施する。 学習項目ごとの全体評価への重みは、１～４のそれぞれについて35%、25%、25%、15%とする。						
学習・教育目標との関係	・建設 JABEE；(A-1)「広い視野」に関するプログラム必修科目である。 本教科を通じて現代世界が直面している様々な問題について、基本的な知識を身につけ、判断力を養う。						
関連科目	地理（１年）→人文科学Ⅰ（４年）						
教材	プリントを配布する。						
備考							

－49－

（出典：平成１９年度　シラバス）

観点５－１－②：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

香川大学との単位互換協定及び大阪大学との教育研究協定を結び，それぞれ単位認定や教育研究交流を行っている（資料５－１－②－１）。

また，語学検定や資格試験等の合格者に対しての単位認定も行っている（資料５－１－②－２）。海外語学研修制度として平成１８年度よりオーストラリアの大学附属語学学校と契約を締結し，主に本科４～５年生の夏休みに３週間程度実施し，「海外英語演習」として単位認定も行っている（資料５－１－②－３）。

全ての学科で，主として４年次に校外実習としてインターンシップを奨励し，実践的な教育を行っている。また，その単位認定も行っている（資料５－１－②－４）。

外国人留学生に対しては特別カリキュラムを組み，補充教育を行っている（資料５－１－②－５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

科学技術の進展により隣接分野やより高度な内容を扱う必要が高まったことから，大学との単位互換を行っている。また，必要性が高まる国際化への対応として，語学検定等の単位認定を行うほか，海外語学研修で修得した単位認定制度も整備している。また，実務や学生のニーズへの対応として，一般や専門的な資格試験の単位認定や校外実習によるインターンシップの活用も行っている。これらはともに，本校の教育目的「論理的なコミュニケーション」，「課題解決の実行力と豊かな創造力」に沿ったものである。さらに，留学生のニーズに対応するために，日本語や日本事情についての特別カリキュラムを編成している。

以上のことから，本校の準学士課程においては，学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に十分配慮している。

資料５－１－②－１　香大，阪大との単位互換協定，教育研究協定

香川大、高松高専・詫間電波高専と単位互換協定を締結

香川大学は、高松高専、詫間電波高専との間で「相互単位互換に関する協定書」を締結した。調印式には香川大の木村学長、高松高専の早野校長、詫間電波高専の竹内校長のほか関係者が出席した。

この協定は、相互の交流と協力を促進し、意欲ある学生に対して多様な学習機会を与えることができるなど教育内容の充実を図ることを目的としており、単位互換はこの四月から始まっている。



握手を交わす木村学長㊥と早野校長㊨、竹内校長㊧



香川大学と高松工業高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定書



香川大学と高松工業高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定書についての覚書

＝阪大工学研究科・工学部と高松高専＝
教育研究交流に関する協定に調印

大阪大学大学院工学研究科・工学部と高松高専は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために教育研究交流に関する協定を締結した。2月23日に大阪大学で行われた調印式には、阪大から豊田政男大学院工学研究科長・谷口研二運営企画室長、高松高専から早野浩校長・吹田義一専攻科長が出席し、協定書が取り交わされた。

この協定は、講義の相互履修、インターンシップ及び共同研究等と、これに伴う学生、教員の交流を積極的に実施し相互の発展のために教育、研究の分野で協力関係を推進するもの。



調印後に握手する豊田研究科長㊨と早野校長㊧

高松高専だより　第94号

相互単位互換に関する告知（高専だより94号）（抜粋pp.11）

◆香川大学との単位互換協定締結

本校と香川大学は，相互の交流と協力を促進し，教育内容の充実を図ることを目的として，それぞれの学校（大学）に開講されている授業科目を履修し，相互に単位互換できる協定を平成16年３月16日に締結しました。

単位互換とは，本校の学生が，香川大学の授業科目を履修し，そこで取得した単位を，本校の単位として認定しようとするものです。香川大学からは，各学部のそれぞれ特色ある授業科目や，本校にはないユニークな授業科目が提供され，学生諸君の関心や興味に応じた授業を履修できるようにしています。

この制度により香川大学に受け入れられた学生は，「特別聴講学生」といい，通常必要となる検定料，入学料及び授業料は必要なく，本校の学生の身分のまま香川大学で授業を受け，その単位を取得することが出来ます。

この制度についての詳しいことは，各専攻主任へお問い合わせください。

（出典：文教ニュース H16.4.14，H17.3.17，香川大学との単位互換協定書，高専だより 94 号）

資料５－１－②－２　特別学修単位とその認定者数

※平成１８年度に申請のあったのは，１８名。

資格名：単位数	種別	内　訳
工業英検　　４級：①	一般	0
工業英検　　３級：①	専門	0
工業英検　　２級：③	専門	0
工業英検　　１級：⑤	専門	0
実用英検　準２級：①	一般	1年4名,2年6名,3年1名　　小計：11名
実用英検　　２級：②	一般	2年1名,3年1名,4年3名,5年2名　　小計：　7名
実用英検　準１級：④	一般	0
実用英検　　１級：⑥	一般	0

（出典：平成１８年度　学年総合成績一覧表，平成１８年度　学生便覧 p. 82）

資料５－１－②－３　海外英語演習の概要と認定者数

高松工業高等専門学校学生海外派遣助成制度について

平成 18 年 1 月 10 日
校長裁定

（目的）
第１　高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生を母国語を英語とする国に派遣し，語学研修へ参加させるとともに異文化の人々との生活を実体験させることにより，国際社会で活躍できる技術者になるための一助とすることを目的とする。
（派遣学生）
第２　派遣する学生（以下「派遣学生」という。）は，本校に在籍する本科４，５年生および専攻科生とし，心身ともに健全で向学心があり，学力に優れ，日常の学生生活が他の学生の模範となる者とする。
（派遣先）
第３　派遣先は，治安が良好な国及び地域にあり，短期語学研修制度等により，他国の学生を積極的に受け入れている機関とする。
（派遣時期及び期間）
第４　派遣する時期は，通常の教育課程に影響の少ない長期休業中とし，派遣する期間は，３週間程度とする。
（派遣に関する助成）
第５　派遣に関する費用は，本人負担の他，別に定めるところによる奨学金を派遣費用の一部として助成する。
（派遣の申請）
第６　派遣を希望する者は，所定の願書により，校長に願い出るものとする。
（派遣学生の選考等）
第７　派遣学生は，15 名以内を国際交流委員会の議を経て，校長が決定する。
（報告書の提出）
第８　派遣学生は，帰国の日から１か月以内に派遣報告書を国際交流委員会委員長を経由して校長に提出するものとする。
（単位認定）
第９　派遣学生に対する単位の認定については，別に定める。
（事務）
この要項に基づく学生の海外派遣に関する事務は，学生課において処理する。

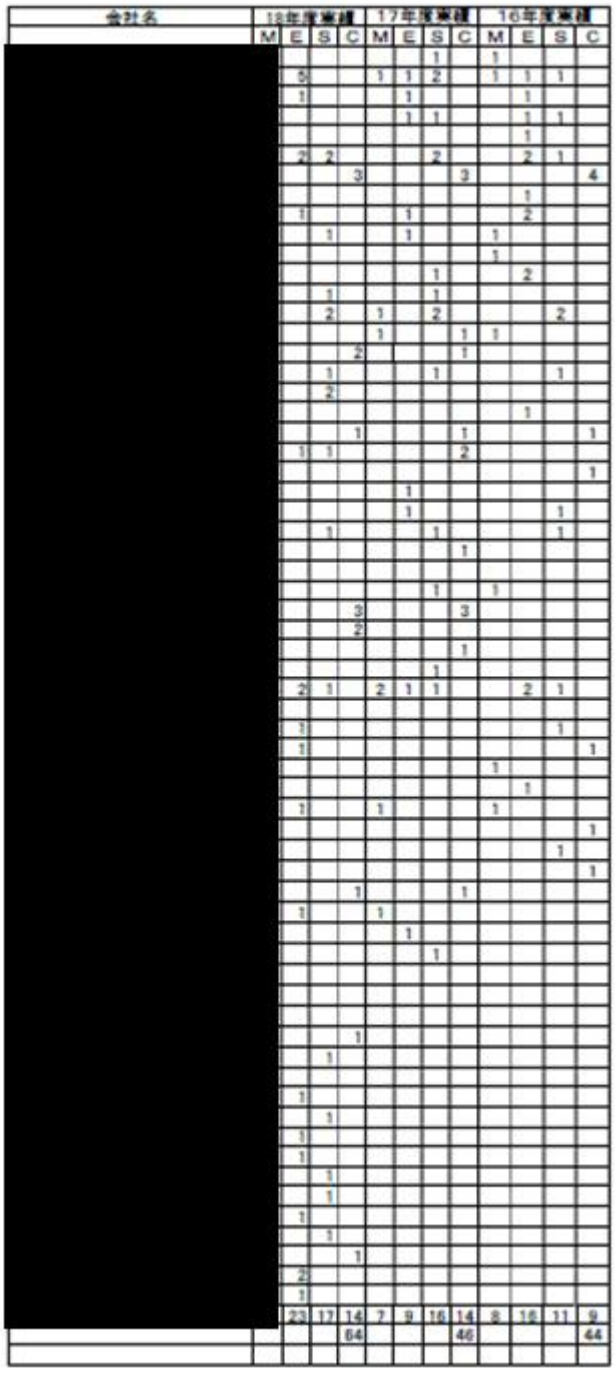
※平成１８年度　認定者数：１２名

平成１９年度

科目名	海外英語演習 English Exercise			担当教員	英語科主任/引率教員		
学年	4，5	学期	夏季	科目番号	03150	単位数	1（5学年の単位として）
分野	一般	授業形式	講義・演習	履修条件	選択		
学習目標	海外における英語の学習・体験を通じて，英語によるコミュニケーション能力（スピーキング，リスニング，リーディング，ライティング）の向上を図る。						
進め方	４学年あるいは５学年の夏季期間中に，ニューサウスウェールズ大学附属語学学校（オーストラリア）において２週間，一日あたり３時間の授業を行う。高松高専生の必要に応じて特別なプログラムを設定する。期間中は英語を日常言語とするオーストラリアの家庭に３週間滞在する。						
学習内容	学習項目（時間数） ニューサウスウェールズ大学附属語学学校にて設定される授業プログラムによる。その一例を以下に示す。 Listening and speaking (2) Grammar (7.5) Communicative activity (2) Reading and speaking (3) Speaking and listening (1.5) Integrated skills development (6) Vocabulary (2.5) Writing (1.5) Phrasal verbs and idioms (1.5) その他 (2.5)			合格基準 以下の３項目をすべて充たすこと。 （1）ニューサウスウェールズ大学附属語学学校における評価がC以上であること。 （2）実施報告書を期限内に提出すること。 （3）実施報告会で発表すること。			
評価方法	ニューサウスウェールズ大学附属語学学校での評価（８０点満点），実施報告書（１０点満点）および実施報告会（１０点満点）の評価を総合して１００点法で評価する。 ニューサウスウェールズ大学附属語学学校での評価：A，B，Cに対して以下の配点をする。 A＝８０点，B＝７０点，C＝６０点，D＝３５点						
学習・教育目標との関係	・高松高専の学習・教育目標；D：コミュニケーション ・建設 JABEE；(D-3)「基礎的な英語力」に関するプログラム必修科目を充実させる教科である。 本教科を通じて、英語のコミュニケーション能力を高める。						
関連科目	English I (1年) → English II (2年) → English III (3年) → English IV (4年)						
教材	ニューサウスウェールズ大学附属語学学校						
備考	４学年で修得しても５学年の単位として認定する。						

（出典：サイボウズ「海外派遣助成制度」，
平成１９年度　シラバス）

資料５－１－②－４　校外実習先と認定者数の一覧



会社名	18年度実績				17年度実績				16年度実績			
	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C
[redacted]							1		1			
		5			1	1	2		1	1	1	
		1				1				1		
						1	1			1	1	
										1		
		2	2				2			2	1	
				3				3				4
										1		
		1				1				2		
			1			1			1			
									1			
							1			2		
			1				1					
			2		1		2				2	
					1			1	1			
				2				1				
			1				1				1	
			2									
										1		
				1				1				1
		1	1					2				
												1
						1						
						1					1	
			1				1				1	
								1				
							1		1			
				3				3				
				2								
								1				
							1					
		2	1		2	1	1			2	1	
		1									1	
		1										1
									1			
										1		
		1			1				1			
											1	
												1
				1				1				
		1			1							
						1						
							1					
				1								
			1									
		1										
			1									
		1										
		1										
			1									
			1									
		1										
			1									
				1								
		2										
		1										
		23	17	14	7	9	16	14	9	16	11	9
				64				46				44

※例えば，平成１８年度は４学科合わせて６４名の学生が校外実習に行き，全員認定された。

（出典：平成１６～１８年度　校外実習先一覧（教務係資料））

資料５－１－②－５　留学生用授業時間割

平成19年度(前期)留学生授業時間割表

		3年	4年		5年			
		E	E	C	E	C		
		榎本	漆原	向谷	本田	多川		
月	1	電子工学	総合演習A	応用物理	英語5		1	月
	2	論理回路	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ	ｺﾝｸﾘｰﾄ構造	パワエレ	測量学4	2	
	3	情報処理2	電磁気学1	環境工学		応用数学2	3	
	4		English4	実験実習	信号処理	環境特論	4	
火	1	独1 TOL TOR	電気回路1	水理学		設計製図2	1	火
	2	数学解析2	物理学2	土の力学	情報理論	電気概論	2	
	3	物理学1	応用数学2	都市地域		河川水工学	3	
	4	日本事情	独語2		電子ﾃﾞﾊﾞｲｽ	日本事情	4	
水	1	日本語	工学実験2	創成工学1	日本事情	工学演習3	1	水
	2	計測工学		設計製図	保健体育		2	
	3	工学実験1	電磁気学1	保健体育	制御工学	建築構造	3	
	4		English4	鋼構造	ﾈｯﾄﾜｰｸ	総合演習	4	
木	1	応用数学1	日本語			実験実習5	1	木
	2	電気基礎2	保健体育	応用ﾃﾞｰﾀ	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ	設計製図2	2	
	3	日本事情	総合演習B	応用数学1	卒業研究	環境ｱｾｽﾒﾝﾄ	3	
	4	HR	環境化学			保健体育	4	
金	1	日本語	電気回路1	環境工学	通信工学	防災工学	1	金
	2	W&S	日本事情	構造力学2	応用実験	創成工学2	2	
	3	数学解析1	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ	日本事情		卒業研究	3	
	4		総合演習C	English4			4	

（出典：サイボウズ，平成１９年度　時間割）

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用，基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各学科では，専門科目の修得を目的とした科目では，専門的な知識から高いレベルの実践力までの修得を幅広くカバーするために，授業形態として講義，演習，実験・実習の科目を配置している。低学年では，基礎的な知識を中心に教授する授業科目を配置し，高学年では、より専門的な高いレベルを教授する授業科目及び実践力等の育成を図る実験・実習科目の比率を高めた配置構成としている（資料５－２－①－１）。

さらに，職業上の能力の育成に関する科目として，実験・実習科目を全学年に配置している「論理的なコミュニケーション」の育成という目的に沿って見ると，英語教育に関して低学年では基礎的な文法等を重視した講義科目を中心とし，高学年では読解力や会話力の育成を図るように多読に比重を置いた構成としている（資料５－２－①－２）。

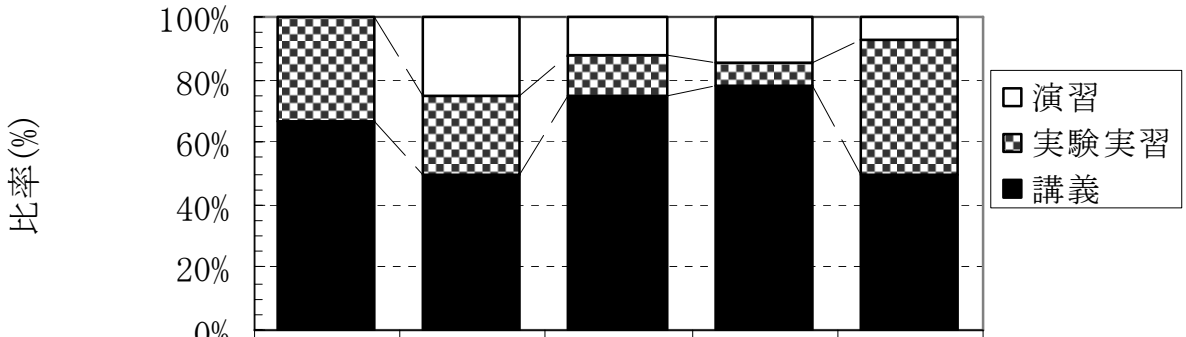
「広い視野と技術者としての倫理観」の育成という目的に沿って見ると，国語，社会，保健体育，及び芸術教育などを，低学年から高学年までバランス良く配置している（資料５－２－①－３）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

専門科目の修得，職業上の能力，加えてそれぞれの教育の目標を達成するために，講義，演習，実験実習を適切に組み合わせて，それぞれの目的とする能力等を身に付く工夫を行っている。また，一般，専門，学科の区分を超えて指導方法等の工夫を行っている。以上のことから，本校の準学士課程では，教育の目的に照らして，講義，演習，実験実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料５－２－①－１　専門科目の授業形態の割合を示すグラフ

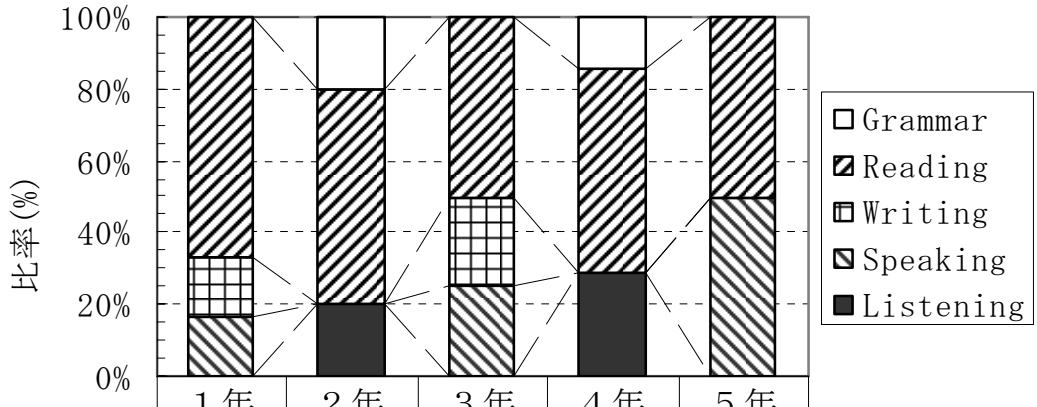


	１年	２年	３年	４年	５年
□ 演習	0	2	2	4	2
▩ 実験実習	2	2	2	2	11
■ 講義	4	4	12	21	13

（単位数）

（出典：平成１９年度　シラバスより，建設環境工学科を単位数集計）

資料５－２－①－２　英語に関する科目の授業形態の割合を示すグラフ

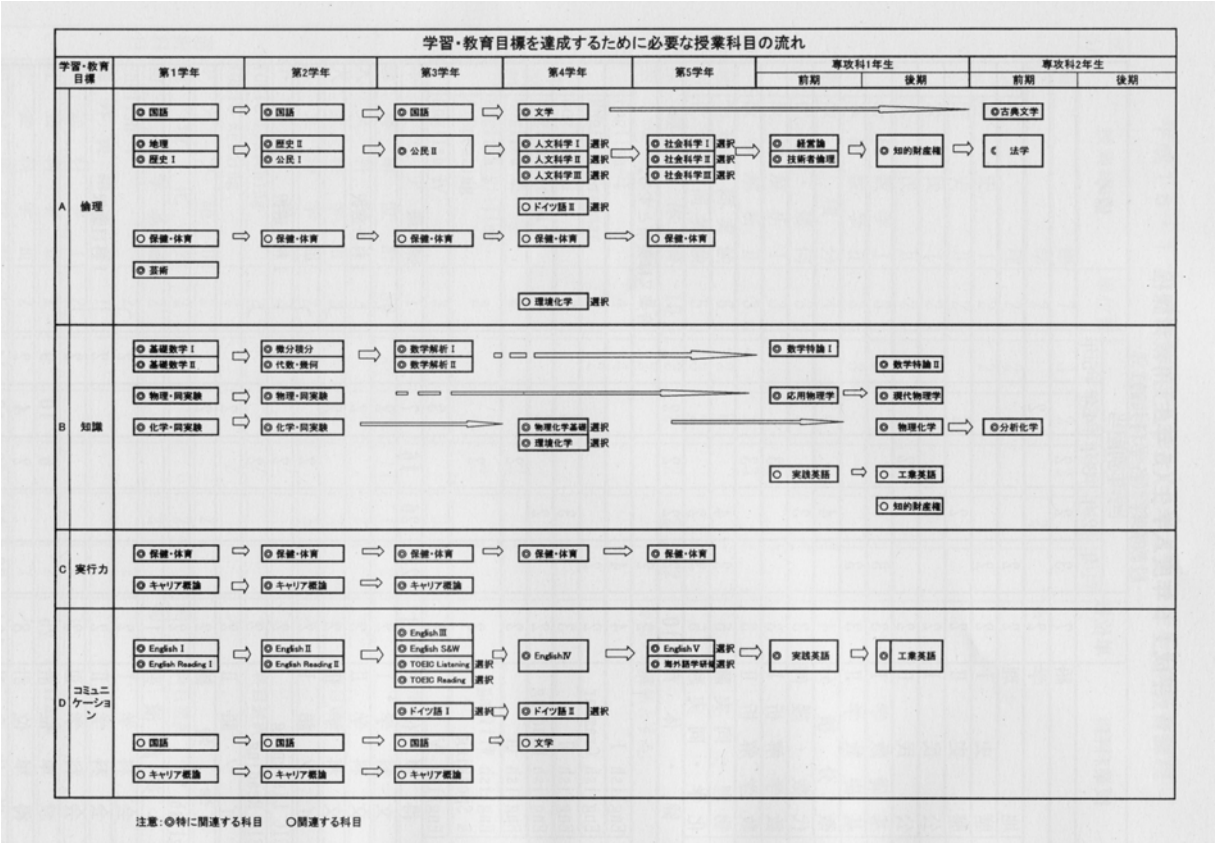


	１年	２年	３年	４年	５年
Grammar	0	1	0	1	0
Reading	4	3	2	4	1
Writing	1	0	1	0	0
Speaking	1	0	1	0	1
Listening	0	1	0	2	0

（単位数）

（出典：平成１９年度　シラバス＋英語科担当教員より聴取）

資料５－２－①－３　各学年ごとの倫理科目系の流れ



（出典：平成１９年度　シラバス）

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）

教育課程の編成の趣旨に沿って，教務委員会においてシラバスの改善を重ねており，シラバスには学習目標，進め方，学習内容，合格基準，評価方法，学習・教育目標との関係などを明記している（資料５－２－②－１）。なお，学習・教育目標との関係は，学生が卒業時に身につけるべき学力や資質・能力に基づいている。

シラバスの活用形態については，本科１学年には全員配布され，本科２～５学年には各教室に２冊配布し，さらに各学科のHPに掲載している。授業の最初の時間には，学生に当該科目のシラバスを改めて全員配布して，授業内容と評価方法などを周知するガイダンスを行うことにしている。

学生のシラバスの利用状況について，授業評価アンケート回答項目の中にシラバスに関する項目を設定し，その集計結果を教員にフィードバックしている。（資料５－２－②－２）。

４５時間の学修を１単位とする単位計算方法に該当する科目（以下，学修単位科目という。）を平成１９年度より導入している。教育課程表やシラバスの備考欄に，「本科目は，高等専門学校設置基準第１７条第４項に規定する４５時間の学修を必要とする内容をもって単位を認定される。」ということを明示して，学生への周知を行っている（資料５－２－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

教育課程の編成の趣旨に沿って，教育方法や内容，達成目標，評価方法等が記載されたシラバスが作成され，教員及び学生に活用されている。４５時間の学修を１単位とする学修単位科目についてもシラバスに明示されている。

資料５－２－②－１　シラバスの具体例…学習項目に「ガイダンス」と入っているもの

平成１９年度

科目名	物理・同実験 Physics and Experiments			担当教員	服藤憲司・加藤清考		
学年	1	学期	通年	科目番号	07106	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	日常に起こる物体の運動や様々なエネルギーの現象を観察、実験の解析等を通して探求し、それらの基本的な概念や法則を理解し、運動とエネルギーについての見方や考え方を身に付ける。様々な熱現象を探求し、基本的な概念と法則を理解する。						
進め方	教科書･プリント･板書･実演を中心に講義を進め、内容の理解と応用力の養成のため適時、問題演習を行う。また、口頭発表の機会も設けて、自分の意見や考えを論理的に発表できる力も養う。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	0．ガイダンス（1） 1．物体の運動（17） （1）速さと速度、加速度 （2）等速直線運動、等加速度直線運動 （3）落下運動 （4）速度の合成と分解、相対速度 ［前期中間試験］(2) （5）水平投げと斜め投げ上げ			速度、加速度の概念を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算が出来る。また、速度の合成分解ができ、平面内での落下運動に関する計算が出来る。			
	2．力と運動の法則（続き）（28） （1）力（重力、張力、抗力、弾性力、浮力） （2）力の表し方 （3）力の合成と分解 （4）力のつりあい （5）大きさのある物体に働く力のつりあい 前期末試験(2) （6）慣性の法則 （7）運動方程式 （8）作用・反作用の法則 （9）摩擦力 （10）運動方程式の応用			重力、弾性力、浮力などの、物体に働く基本的な力を理解し、注目物体に働く力を正確に図示できる。力のつりあいに関する計算が出来る。また、モーメントを理解し、剛体のつりあいに関する基本的な計算が出来る。 運動の３法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることが出来る。			
	［後期中間試験］(2) 3．仕事と力学的エネルギー（8） （1）仕事、エネルギー、仕事率 （2）運動エネルギーと位置エネルギー （3）力学的エネルギーの保存			仕事、仕事率に関する計算が出来る。運動エネルギー、重力･弾性力による位置エネルギーを理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算が出来る。			
	4．熱と気体の法則（6） （1）　熱と温度 （2）　熱と仕事、内部エネルギー （3）　熱力学第１法則 後期末試験(2)			熱、熱平衡などの基本的な概念を理解し、比熱、熱容量、熱量などの基本的な計算が出来る。また、内部エネルギーと、熱も含めたエネルギー保存の法則を理解し、基本的な計算が出来る。			
評価方法	・評価の内訳は、適時行う課題、宿題等を20%、定期試験を80%として評価する。 ・評価の点数は、4回の定期試験についてそれぞれ25%ずつ評価に入れる。						
学習・教育目標との関係	(B)「自然科学（数学，物理，化学）の基礎を身につける」						
関連科目	［物理・同実験（1年）］→［物理・同実験（2年）］						
教材	教科書：「新物理 IB」藤本文範著　第一学習社 参考書：「新編物理図解」中村英二著　第一学習社 問題集：「セミナー物理 IB+II」　第一学習社						
備考							

－15－

（出典：平成１９年度　シラバス）

資料５－２－②－２　授業評価アンケート（シラバスの利用に関する質問事項）

平成 18 年度　学生による授業評価アンケート

教務委員会

このアンケートは，教員の授業の質的向上をはかる目的で行うもので，学生個人の名前が出て不利になることはありません．

〔記入要領〕
1．マークシート方式です．HB の鉛筆（シャープペンシル）で記入してください．
2．マークシート右端のマーク例（よい例，悪い例）を参考にして，正確にマークしてください．
3．〔年〕，〔クラス〕，〔番号〕欄にマークしてください．
〔年〕：学年をマークしてください．
〔クラス〕：混合学級の場合はクラスの番号を，専門学科の場合は下記の番号をマークしてください．
５：機械工学科
６：電気情報工学科
７：制御情報工学科
８：建設環境工学科
〔番号〕：クラスの出席番号をマークしてください．
（〔区分〕，〔氏名〕，〔月日〕欄は記入する必要はありません）
4．担当教員が指示する５桁の教科番号を，26～30 の欄にマークしてください．
5．各評価項目に対し下記の５段階で評価をマークしてください．
５：よくあてはまっている（非常に良い）
４：大体あてはまっている（良い）
３：まずまずである（普通）
２：あまりあてはまっていない（あまり良くない）
１：全くあてはまっていない（良くない）
６：わからない，該当しない
6．このアンケート用紙は，マークシートとともに回収します．

授業評価項目
担当教員が指定する A～D のいずれかの各項目に対して回答してください．

A　座学の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，説明がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 学習内容の提示（黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字）はわかりやすい．
6. 評価方法（試験問題等）が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 授業内容を十分理解できた．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に記述してください．

B　芸術系科目の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 題材の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 授業内容を十分理解できた．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に記述してください．

C　保健体育の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 実技種目の選定やレベル（分量）が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

D　実験実習系科目の評価項目（14 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員（技術職員）の指導，話し方が適切である．
5. 課題（テーマ）の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. 報告書の内容や書き方についての添削指導が適切である．
10. 装置，器具，消耗品などは，実験実習を行うのに満足な状態であった．
11. この授業に興味が持てた．
12. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
14. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

E　設計製図系科目の評価項目（13 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員の指導，助言が適切である．
5. 課題の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 提出した設計書，図面等に対する添削指導は適切であった．
9. CAD 装置または製図器具などは，設計製図を行うのに満足な状態であった．
10. この授業に興味が持てた．
11. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

（出典：平成１８年度学生による授業評価アンケート）

資料５－２－②－３　教育課程表の学修単位の表記欄，学修単位のシラバス例

専門科目　（制御情報工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	2					2	
	力学	2		2				
	機械要素設計	2				2		
	基礎力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料学Ⅰ	2				2		
	材料学Ⅱ	1					1	
	熱工学Ⅰ	1			1			
	流体工学Ⅱ	1				1		
	電気回路	2			2			
	電子回路	2				2		
	情報処理Ⅰ	2			2			
	情報処理Ⅱ	2				2		
	情報処理Ⅲ	2					2	
	計算機システム	2			2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3					国学を含む。
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3		3				
	メカトロニクスシステム設計	2				2		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2					2	
	機械力学	2					2	
	ロボット工学	2					2	
	計測工学	2					2	
	設計製図	2				2		
	C A D	2			2			
	工作実習Ⅰ	3	3					
	工作実習Ⅱ	3		3				
	工学実験Ⅰ	2			2			
	工学実験Ⅱ	5				5		
	卒業研究	6					6	
	小計	82	6	8	16	25	27	
選択科目	技術科学英語	2					2	※
	情報ネットワーク	2					2	※
	技術者倫理	2					2	※
	総合工学	2					2	※
	レーザ工学	2					2	※
	電磁気学	2					2	※
	電子計測	2					2	※
	センサ工学	2					2	※
	計画論	2					2	※
	集中講義Ⅰ	2					2	※
	集中講義Ⅱ	2					2	※
	校外実習	1				1		※
	小計	21				1	20	
履修単位合計		103	6	8	16	26	47	

※注高等専門学校設置基準第17条第4項に規定するものであり，45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

専門科目　（建設環境工学科）

区分	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必履科目	物理学Ⅰ	2			2			
	物理学Ⅱ	1				1		
	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	電気工学概論	1					1	
	工学基礎	2	2					
	図学基礎	1	1					
	材料工学	2			2			
	構造力学Ⅰ	3			3			
	構造力学Ⅱ	2				2		
	基礎力学Ⅱ	2			2			
	土の力学	2				2		
	鋼構造	2				2		
	コンクリート構造	2				2		
	水理学	2				2		
	施設工法学	2				2		
	防災工学	2					2	
	河川水文学	1					1	
	海岸工学	1					1	
	環境生物学	1			1			
	環境生物学Ⅱ	1			1			
	環境工学Ⅰ	1			1			
	環境工学Ⅱ	1				1		
	環境アセスメント	2					2	
	基礎情報処理	2		2				
	応用情報処理	2			2			
	応用データ処理学	2				2		
	測量学Ⅰ	2	1	1				
	測量学Ⅱ	2					2	
	都市・地域計画	2				2		
	建設環境工学演習Ⅰ	1			1			
	建設環境工学演習Ⅱ	1				1		
	建設環境工学演習Ⅲ	2					2	
	創成工学	2				2		
	建設環境工学実験実習Ⅰ	4	2	2				
	建設環境工学実験実習Ⅱ	2			2			
	建設環境工学実験実習Ⅲ	2				2		
	建設環境工学実験実習Ⅳ	2					2	
	建設環境工学設計製図Ⅰ	2				2		
	建設環境工学設計製図Ⅱ	2					2	
	卒業研究	9					9	必修機科目とする
	小計	83	6	8	16	27	26	
選択科目	構造工学	2					2	※
	地盤工学	2					2	※
	情報処理工学	2					2	※開講しない
	都市・地域計画特論	2					2	※開講しない
	建築構造学	2					2	※
	環境工学特論	2					2	※
	校外実習	1				1		※
	特別講義Ⅰ	1				1		※
	特別講義Ⅱ	1					1	※
	小計	15				2	13	
履修単位合計		98	6	8	16	29	39	

※本科目は，高等専門学校設置基準第17条第4項に規定する45時間の学修を必要とする内容をもって単位を授与される。

平成１９年度

科目名	建築構造学 Structures in Architecture			担当教員	長友　克寛		
学　年	5	学　期	前期	科目番号	03552	単位数	2
分　野	専門	授業形式	講義	履修条件	選択(学修単位)		
学習目標	建築物に使用されている各種構造形式の力学的特徴を理解できる。 RCおよび鉄骨ラーメン構造を対象とし，その構造設計の流れおよび考え方を理解できる。 演習課題を通じて，問題解決能力，実行力および表現力を養う。						
進め方	講義を中心に進める。原則として講義ごとに演習問題等を与えるので，それを通じて理解を深めて欲しい。教科書は使用せず，配付プリントを用いる。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1．概説 （1）各種構造形式・形態とその特徴(2) （2）設計法の流れ(2) （3）荷重(2) 2．骨組構造解析法の基礎 （1）たわみ角法(4) （2）D値法(4)			各種構造方式（RC 造，S 造，SRC 造，木造）の特徴を説明できる。 荷重の種類とその特徴を説明できる。 構造解析を行う上での基礎的な力学が理解できる。 たわみ角法の考えが理解でき，それを用いて骨組解析が行える。 D値法の考え方を理解し，簡単な地震時の部材力計算が行える。			
	[前期中間試験](2)						
	3．耐震設計の基礎 （1）２次設計における各種検討項目(6) 4．保有水平耐力設計の基礎(4) （1）耐震性能 （2）骨組塑性解析法の基礎			２次設計における各種の検討項目が説明できる。 建物が保有すべき耐震性能について説明できる。 保有水平耐力の考え方を理解し，それが説明できる。 簡単な構造物の崩壊荷重が計算できる。。			
	前期試験(2)						
評価方法	２回の試験結果を平均し，60 点以上を合格とする。 各試験の成績は，定期試験を 80%，課題を 20%考慮に入れて評価する。 課題の評価は，その提出状況と内容をもとに総合評価する。						
教　材	配付プリント						
関連科目	構造力学Ⅰ，Ⅱ（３，４年） コンクリート構造（４年）　→　建築構造学 鋼構造（４年）						
学習・教育目標との関係	建設工学コースの目標(E-1)「基礎的な設計力」をより深める関連科目である。						
備　考	試験終了後，試験問題の解説を行う。 ＊本科目は，高等専門学校設置基準第１７条第４項に規定する４５時間の学修を必要とする内容をもって単位を認定される。						

（出典：平成１９年度　シラバス）

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として，建設環境工学科では平成１８年度から４年生に創成工学を開講した。学期当初には計画書を作成させ，自主的にテーマ，目的，方法，達成目標，実施計画，より高い達成目標を決めさせる。学期の中間には，中間報告書を作成するとともに副指導教員の助言を仰ぎ今後の方針について再確認させている。最終報告書と発表を，複数教員で公平な評定を行っている（資料５－２－③－１）。他学科の同様の取り組みとして，電気情報工学科５年の電気情報工学応用実験，及び制御情報工学科４年のメカトロニクスシステム設計などがある。

インターンシップとして，校外実習を主に４学年で実施している。当該年度以前の受入企業の一覧を配布し，学生の広いニーズに対応するようにしている。校外実習に派遣された学生は，実施報告書の提出と報告会を行い，複数教員が公平な評定と単位認定を行っている（資料５－２－③－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

具体的な創造性を育む教育方法として，創成工学やメカトロニクスシステム設計等が導入され，達成目標，実施計画，中間審査，最終報告書，最終発表会，評価方法など工夫がなされている。

インターンシップとして校外実習を実施し，多くの学生に活用されている。

資料５－２－③－１　平成１８年度建設環境工学科「創成工学」の計画書，評価の基準

創成工学計画書

学生	年　C 組　　番		氏 名	
指導教員	主		副	
題　目	(サイズ10.5 ptで記述)（各欄の高さは変更しても構わない）（図を交えても構わない） (できるだけ具体的に分りやすく)（報告書の作成能力を育成することも目的の1つなので， 必ずしもこの書式に従うことはないが，ここに挙げた項目は全て記述のこと)			
身につけたいデザイン能力	種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するために 「必ずしも解が一つでない問題に対して，種々の学問・技術を利用して， 実現可能な解を見つけだして行く」ために必要な「デザイン能力」(下欄参照)			
	・構想力　　・問題設定力 ・種々の学問，技術の総合応用能力　　・創造力 ・公衆の健康・安全，文化，経済，環境，倫理等の観点から問題点を認識する能力 ・構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現する能力 ・コミュニケーション能力　　・チームワーク力 ・継続的に計画し実施する能力 ・その他(　　)			
目的	(何を何のためにやるのか)			
方法	(どのようにしてやるのか，使用するものは何か)			
目指す達成目標	(どこまでのやるのか，どの程度のレベルの成果を考えているのか)			
実施計画	(いつまでにどこまでやるのか，以下は記述例) 1,2週：研究テーマの決定 2,3週：詳細な計画書の提出 ？月　　：??の準備完了 ○？週　　：??の作成 ●6～7週：中間報告書の作成 7～8週：中間報告書の提出と指導教員による進捗状況の確認：前期末試験内 ○？週　　：??の継続作成 ・9月　日：最終報告書の作成開始 9月第2週：最終報告書の作成完了，PPT原稿の作成開始 14週：最終報告書の提出，最終報告会(前半) 15週：最終報告会(後半)			
より高い達成目標	(来年度も含めた最終到達目標は何か) (時間外にも熱心に取り組めば，あるいは非常に順調に進めば出来る可能性のある目標は何か)			

（出典：教務資料）

資料５－２－③－２　校外実習実施

校外実習実施要項

１．趣旨

企業等における製造・設計・技術開発・工事等の実務を行うことにより，学校で修得した知識及び技能を裏付け，技術者及び社会人としての自覚をもたせることによる教育的意義を認め，正課としてこれを実施する。

２．目的

（１） 実践的・技術的感覚を養うこと。

（２） 組織の中で働くことによって技術に対する社会の要請を知り，学問の意義を認識するとともに，自己の創造性発揮の場を模索すること。

（３） 学問と生産との総合的関連を体験することにより，自己の能力を展開し，練磨すること。

（４） 技術に対する問題意識を養い，卒業研究における自立性を高めること。

３．実習の時期

原則として第 4 学年の夏季休業中に行う。

４．実習の内容

実習の内容は，校外実習機関のうち，学生が所属する学科の教育内容に照らして，教育効果があると判断される業務とし，あらかじめ校外実習機関と協議するもとのとする。

５．委員会等

（１） 校外実習に関する事項の処理は教務委員会がこれに当たる。

（２） 校外実習は教務主事主管のもとに各学科長が計画し，校長の許可を得て実施する。

６．学級担任の任務

学級担任は，教務委員会の方針に基づき，学生の指導及び校外実習機関との連絡に当たる。

７．校外実習責任者の任務

（１） 校外実習責任者は，原則として校外実習機関の配属先組織の単位の長とする。

（２） 校外実習の実施に当たり，校外実習機関における校外実習責任者として，指導計画を立て，その計画に基づいて校外実習中の指導を行い，終了後指導結果として別紙様式による校外実習証明書を作成し，校長に通知する。

（３） 校外実習に関し，学校への希望事項等関連事項について連絡調整する。

８．成績の評価

各学科長は，各学科毎に校外実習学生全員の校外実習報告書，校外実習証明書が提出された後，速やかに校外実習報告会を開き，その報告状況を総合して成績の評価（合格，不合格）を行い，その結果を校長に報告する。

校　外　実　習　報　告　書

高松工業高等専門学校
建設環境 工学科 4 年 C 組　学級担任　殿

校外実習責任者の認印	[redacted]

校外実習生	建設環境 工学科	氏名	[redacted]
校外実習期間	平成 18 年 7 月 31 日～平成 18 年 8 月 11 日まで　実働 10 日間		
校外実習機関の配属先・組織名	香川県 長尾土木事務所 砂防課		
校外実習責任者	職名 [redacted]	氏名	[redacted]
校外実習責任者からの要望事項	何事にも、結果を恐れず積極的にチャレンジをして、さらなる発展を期待します。		

題目（校外実習テーマ）

実習内容（内容・所感）

初日は、どんな所かも分からず緊張していて、とりあえず手渡された資料などを見たりしているだけで終わり このまま10日終わるのだろうか、と心配したりもしたのだが、次の日からは、砂防設備や、残土処理場、渓流のポール横断といった砂防関連以外の橋であまとか、護岸設備やダム、河川の水準測量といった所へ、他の課の方々にも連れて行っていただき、見て、体験して 新鮮さを感じた。

中でも印象が強かったものは下流を土砂から守った鳴石堰堤を見たこと、写真などで見たものを実際目で見ることができ、土木技術の素晴らしさを知ることができた。

他にも、草木の中に入っていって行った渓流のポール横断測量も初めての体験で、新鮮で、少しきつかったりもしたが糧となった。また、五名の残土処理場では途方もない程の土砂の量を見て驚き、他にも同じような所があると聞き 相当な量の土砂があることも知った。

県の仕事の内容の一部が分かったことも収穫であった。住民と企業の仲介役のような位置であり 企業の仕事に対しても逐一立会したり、測量等の調査を行ったり、といったようなことをしていたことはぜんぜん知らなかった。

本当に貴重な体験ができて良かったと思うし、この体験がこの先の進路決定の判断材料になれば良いと思う。

（出典：平成１８年度　「校外実習」授業ポートフォリオ）

観点５－３－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

各科目の成績評価・単位認定や進級・卒業認定については，これらに関する規定が定められ，学生にも周知されている。各ＨＲ教室には学生便覧が掲示され，いつでも学生は自ら成績評価・単位認定や進級・卒業認定の基準を閲覧することが出来る（資料５－３－①－１）。

成績評価や単位認定は，科目担当教員がシラバス記載の基準によって行い，これに基づいて進級・卒業認定会議において，進級認定および卒業認定が行われている（資料５－３－①－２）。

前期中間，前期末，後期中間の各定期試験においては，科目担当教員が授業時間において少なくとも１回は学生個人に答案を返却し，得点状況や採点の疑義について個別に確認させている。また，学年末試験においても，試験終了後には成績提出まで少なくとも数日の余裕時間を設定しており，テストの答案を確認させ，科目担当教員に異議申し立ての機会を保証している。

急病や入社試験等の理由で定期試験を受けられなかった学生には，所定の手続きによって追試験願を教務係に提出することによって追試験が保証されており，その成績評価方法についても定められている（資料５－３－①－３）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各授業科目の成績評価・単位認定や進級・卒業認定については，その規定が教務委員会で策定され，学生便覧に記載することで学生への周知が行われている。進級・卒業認定の実施については，科目担当教員による点検体制が整備され，認定会議において適切に実施されている。

資料５－３－①－１　成績評価，単位認定の規定，進級・卒業の規定

教員の手引き　教務関係　第５章　評価・評定及び修得

第１３条　学年総合成績の評価（１００点法）と評定，表記及び修得の関連は次のとおりとする。不履修の成績評価は０点とする。

成績評価	評定区分	成績表の表記	修得区分
８０点以上	5	A	修　得
７０～７９点	4	B	
６０～６９点	3	C	
５０～５９点	2	D	準修得
０～４９点	1	記載せず	未修得

０点	0	記載せず	不履修

第19条　進級及び卒業を認定するに当たっては，以下の各号を満たしていること。
一　成績評定（０：不履修，１：未修得，２：準修得，３以上：修得）において，評定２以上（キャリア概論は合格）の単位数が表１に示す各累積単位数及び累積単位総数以上であること。
表１において特別活動の単位は含めない。単位認定を受けた特別学修，校外実習及び海外英語演習がある場合は，一般科目及び専門科目として認定された単位数をそれぞれ５学年の累積単位に加算する。

表１　累積単位数

学年	１年	２年	３年	４年	５年
一般累積単位数			65(63)	74 (72)	75
専門累積単位数	3	8	23(24)	50 (51)	82
累積単位総数	27	61	95(94)	131(130)	167

（ ）内の数値は平成１４年度以前に入学した学生に適用する。

二　第１学年から第３学年までについては，特別活動の履修成果が合格であること。

三　評定３以上の合計単位数が全履修科目（特別活動及びキャリア概論を除く。不履修と認定された科目を含む。）の合計単位数の２分の１以上であること。

四　各科の指定する科目の単位を修得（評定３以上）していること。

五　出席状況が良好であること。良好の目安は欠課時数が１２０時間以内であることとする。ただし，特別の事情があると認められる場合は審議する。

六　理由の如何を問わず欠課時数が４００時間以内であること。この場合，遅刻，早退は４００時間に加算しない。

七　４学年への進級及び卒業においては，現学年を含めてそれ以前の３学年間の「重み付き評価（別に定める）」が３以上であること。（この場合，現学年以前の２学年間については追認後のものを使用するが，現学年についてはその年度の評定を使用する）

第８条　定期試験及び中間試験を，病気その他やむを得ない理由により受験できなかった者については，追試験を行う。
第９条　追試験を受験しようとする者は，別紙様式による追試験願に証拠書類を添付のうえ，学生課教務係に提出しなければならない。
第10条　当該学年の評定1，2をもって進級する場合，進級学年において単位追認試験を行う。

第５章　評価・評定及び修得

第11条　学業成績の評価は，その期において実施した試験の成績及び平素の成績，出欠状況等を総合して100点法で行う。
第12条　学年総合成績の評価は，各学期の成績を総合して行う。
第13条　学年総合成績の評価（100点法）と評定，表記及び修得の関連は次のとおりとする。不履修の成績評価は0点とする。

成績評価	評定区分	成績表の表記	修得区分
80点以上	5	A	修　得
70～79点	4	B	
60～69点	3	C	
50～59点	2	D	準修得
0～49点	1	記載せず	未修得

0点	0	記載せず	不履修

第14条　高松工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規程第１条の学修（以下「特別学修」という）について同規程第５条により認定された単位は，本校における授業科目を修得したものとみなす。
2　単位認定された特別学修別表に定める科目のうち100点法で提出されるものについてはその点数に応じた評定・評価とし，100点法で提出されないものについては評定5，評価100点とする。
第14条の２　他の高等専門学校との連携・交流事業に伴う「特別講義」は，教育上有益と認め，学則第13条の3を適用する。評価・評定等については特別学修と同じ取扱いとする。

第15条　試験中に不正行為をした者は，その時以降の当該試験期間中の試験を停止し，当該試験期間中に実施した全科目の試験の成績を０点とする。
第16条　特別活動，キャリア概論の履修成果は，合格又は不合格で評定する。
第17条　単位追認試験の評定は，３までとする。

第６章　進級・卒業及び再履修

第18条　進級及び卒業の認定は，それぞれ進級認定会議及び卒業認定会議を経て，校長がこれを行う。
第19条　進級及び卒業を認定するに当たっては，以下の各号を満たしていること。
一　成績評定（0：不履修，1：未修得，2：準修得，3以上：修得）において，評定２以上（キャリア概論は合格）の単位数が表1に示す各累積単位数及び累積単位総数以上であること。
表１において特別活動の単位は含めない。単位認定を受けた特別学修，校外実習及び海外英語演習がある場合は，一般科目及び専門科目として認定された単位数をそれぞれ５学年の累積単位に加算する。

表１　累積単位数

学年	1年	2年	3年	4年	5年
一般累積単位数			65(63)	74(72)	75
専門累積単位数	3	8	23(24)	50(51)	82
累積単位総数	27	61	95(94)	131(130)	167

（)内の数値は平成14年度以前に入学した学生に適用する。

二　第１学年から第３学年までについては，特別活動の履修成果が合格であること。
三　評定3以上の合計単位数が全履修科目（特別活動及びキャリア概論を除く。不履修と認定された科目を含む。）の合計単位数の２分の１以上であること。

（出典：教員の手引き，平成１９年度　学生便覧）

資料５－３－①－２　教科ポートフォリオの中表紙

平成１８年度　資料5-3-①-2

科　目　名	防災工学	
学 年 ・ 期	４年（プログラム１年）・通年	
分類・単位数	専門・必修・２単位	
評価内容	試　　験	４回
	レポート	０回
	他(　　)	無
最終評価	試験成績 100%，レポート 0%	
対象学生数	３４人（プログラム候補生）	
成績分布	80～100	8
	70～79	１３
	60～69	１０
	59以下	3
添付資料	１．シラバス ２．授業実施記録 ３．成績評価一覧 ４．試験問題・模範解答 ５．６０点台の答案，－－－	
備　　考	・対象学生は現プログラム1年生。 ・最終成績算出方法： ４回の定期試験の平均＝最終成績 以　上	

（出典：教科ポートフォリオ）

資料５－３－①－３　追試験についての記述，追試験の規定

高松工業高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規則
第４章　試験
第９条　追試験を受験しようとする者は，別紙様式による追試験願に証拠書類を添付のうえ，学生課教務係に提出しなければならない。

教員の手引き　教務関係　第４章　試験
第９条　追試験を受験しようとする者は，別紙様式による追試験願に証拠書類を添付のうえ，学生課教務係に提出しなければならない。

第２号様式

平成　　年　　月　　日

追　試　験　願

高松工業高等専門学校長　殿

（　　）工学専攻
学籍番号（　　）　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

私は，下記の理由により定期試験を｛受験できないので／受験できなかったので｝，追試験を許可くださるようお願いします。

記

１．理　　由

２．理由の証明

３．試験科目

定期試験月日	試　験　科　目	担当教員名及び承認印
		印
		印
		印
		印
		印
		印

注意　この願は，所定の期日までに，担当教員の承認を得て学生課教務係へ提出すること。

（出典：平成１９年度　学生便覧，教員の手引き）

観点５－４－①：　教育課程の編成において，特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

人間性を豊かにするための特別活動及び特別活動の一環である学校行事について，学則で規定している。特別活動は，各担任が年度当初に作成する年間計画表に基づき１年から３年までの時間割に組み込まれ，１単位時間を５０分として総計９０単位時間を十分確保している（資料５－４－①－１）。

また，特別活動にキャリア発達支援に関する授業（ＯＢ・ＯＧの講話，適性検査，工場見学等）を組み込み，３年間を通じて「キャリア概論」を単位認定することで，本校の目的である「課題解決の実行力と豊かな創造力」，「論理的なコミュニケーション能力」に関する支援体制を整備している（資料５－４－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

特別活動，学校行事，キャリア概論等の実施状況から，教育課程の編成において，人間の素養の涵養がなされ，配慮されている。また，特別活動を設置基準で定められている９０単位時間を十分確保されている。

資料５－４－①－１　特別活動計画書，特別活動報告書，授業時間割

平成１７年度　ホームルーム及びキャリア概論　年間活動計画書

（３学年団・　組　担任氏名　　）

各月・週ごとに、活動計画をお書きください。　（No.1）

月	実施予定事項	キャリア概論区分
	・ ・	
	・ ・ 4月 ・自己紹介 ・３分間スピーチ原稿づくり ・３分間スピーチ原稿づくり	
	・ ・ 5月 ・３分間スピーチ ・３分間スピーチ ・３分間スピーチ ・スポーツ	
	・ ・ 6月 ・試験直前質問＆自習 ・禁煙に関する調査（CS） ・禁煙に関する討論	
	・ ・ 7月 ・交通安全教育 ・夏休みを前にして	

（注）キャリア概論として実施する場合のみ、実施内容によりキャリア概論区分欄に以下の記号を書き込んでください。
Ａ１：自己理解、　Ａ２：集団への適応、　Ａ３：自然・人間・社会の理解
Ｂ１：進路実現への設計、　Ｂ２：職業観・勤労観の涵養

平成１７年度　ホームルーム及びキャリア概論　実施報告書

（３年　組　学級担任氏名　　）

実施日ごとに、実施事項をお書きください。　（No.2）

実施日 月　日	実施事項	キャリア概論区分
	・ ・ 9月 ・学科長に訊く，制御情報工学科のすべて ・JABEE 委員長に訊く，JABEE のすべて ・交通安全講話 ・スポーツ	
	・ ・ 10月 ・試験直前質問＆自習 ・工場見学 ・工場見学感想発表会 ・工場見学感想発表会	
	・ ・ １１月 ・学生祭準備 ・飲酒に関する調査（CS） ・飲酒に関する討論 ・学生祭反省会	
	・ ・ 12月 ・試験直前質問＆自習 ・冬休みを前にして	

（注）キャリア概論として実施した場合のみ、実施内容によりキャリア概論区分欄に以下の記号を書き込んでください。
Ａ１：自己理解、　Ａ２：集団への適応、　Ａ３：自然・人間・社会の理解
Ｂ１：進路実現への設計、　Ｂ２：職業観・勤労観の涵養

授　業　時　間　表

高松工業高等専門学校

	平　常	大掃除	学生総会	準備短縮（体育祭予行・入試前大掃除）	定期試験
１・２	８：５０ １０：３０	８：５０ １０：２０	８：５０ １０：２０	８：５０ １０：１０	８：５０ ９：４０ ９：５０ １０：４０
３・４	１０：４０ １２：２０	１０：３０ １２：００	１０：３０ １２：００	１０：２０ １１：４０	１０：５０ １１：４０ １１：５０ １２：４０
昼　休　み					
行事		大掃除 １２：５０ １３：１０	学生総会（学生会役員選挙） １２：５０ １３：３０		
５・６	１３：１０ １４：５０	１３：２０ １４：５０	１３：４０ １５：１０	１２：３０ １３：５０	１３：３０ １５：１０
７・８	１５：００ １６：４０	１５：００ １６：３０	１５：２０ １６：５０	１４：００ １５：２０	１５：２０ １７：００
				体育祭準備 入試前の準備 （放課後）	

（出典：特別活動計画書，特別活動報告書，授業時間割）

資料５－４－①－２　キャリア概論のシラバス

平成１９年度

科目名	キャリア概論 Career Support			担当教員	担　任		
学　年	１，２，３	学　期	通年	科目番号	05135	単位数	１（３学年の単位として）
分　野	一般	授業形式	講義，実習	履修条件	必履修		
学習目標	キャリアアップにつなげるための基礎的な学習・体験を通じて，社会性・人間性を育てると共に，将来の進路設計の具体化ならびに職業観・勤労観の涵養を図る。						
進め方	１学年から３学年の各学年において，年間10単位時間を当て，キャリア発達支援に関する講義・実習などの授業を受ける。年度始めに，実施する具体的項目を提示する。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	１学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 ・自己とは何かを考える ・高専生活への適応を図る ・自然，人間，社会に触れる ・自らの進路決定の準備（１） 　高専生の進路に関する基本的理解 ・働くことの意味と素晴らしさを考える			年間 10 回の出席とレポート提出を記録し，３学年時の合否判定の資料とする。合否判定は３学年修了時点で行う。合否は３学年までの出席状況，レポートの提出状況をみて総合的に判定する。			
	２学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 ・自立心を育てる ・自分と他人との関係を考える ・自然，人間，社会について考える ・自らの進路決定の準備（２） 　高専生の進路に関する具体的な理解 ・技術者として働くことの意味を考える			年間 10 回の出席とレポート提出を記録し，３学年時の合否判定の資料とする。合否判定は３学年修了時点で行う。合否は３学年までの出席状況，レポートの提出状況をみて総合的に判定する。			
	３学年時は以下の事項に関連する項目を実施する。 ・自己を見つめる ・社会と自分との関わりを自覚する ・現代社会の様々な問題に目を向ける ・自らの進路決定の準備（３） 　自分の進路を考える ・技術者として働くことの意義を考える			１学年から３学年までの 30 回の出席状況，レポート提出状況をみて総合的に合否判定をする。３年間のレポート提出が 50%に満たない場合は理由の如何を問わず不合格とする。			
評価方法	・評価は合否とし，100 点法では評価しない。出席状況，レポート提出状況をみて総合的に判定する。 ・１学年から３学年までの３年間におけるレポート提出が 50%に満たない場合は理由の如何を問わず不合格とする。						
学習・教育目標との関係	(C)「課題解決のための基礎スキルを身につける」 (D)「自分の意見を日本語で相手に伝える力を身につける。英語によるごく基本的な読み書き（コミュニケーション）ができる」						
関連科目	特別活動（ホームルーム）						
教　材	プリントなど						
備　考							

（出典：平成１９年度　シラバス）

観点５－４－②：　教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

生活指導に関しては，学級担任会で配付された「学級担任のしおり」に基づいて学生主事，学生主事補，担任を中心に学生指導を行っている。年間を通じて，通学方法調べ，服装・頭髪調べ，定期試験後の成績会議を行い，綿密な生活指導が行える体制を整備している（資料５－４－②－１）。

課外活動については，本校の全教員が指導教員として配属され，クラブ運営，学業の支援，生活指導にあたっている（資料５－４－②－２）。

また，各クラブの活動状況が把握できるようにweb上に登録管理され，教職員は学内から誰でも見ることが出来る（資料５－４－②－３）。

普段のクラブ活動状況と指定公式大会等での成績より，学生会が次年度のクラブ活動費等を決定している。

（分析結果とその根拠理由）

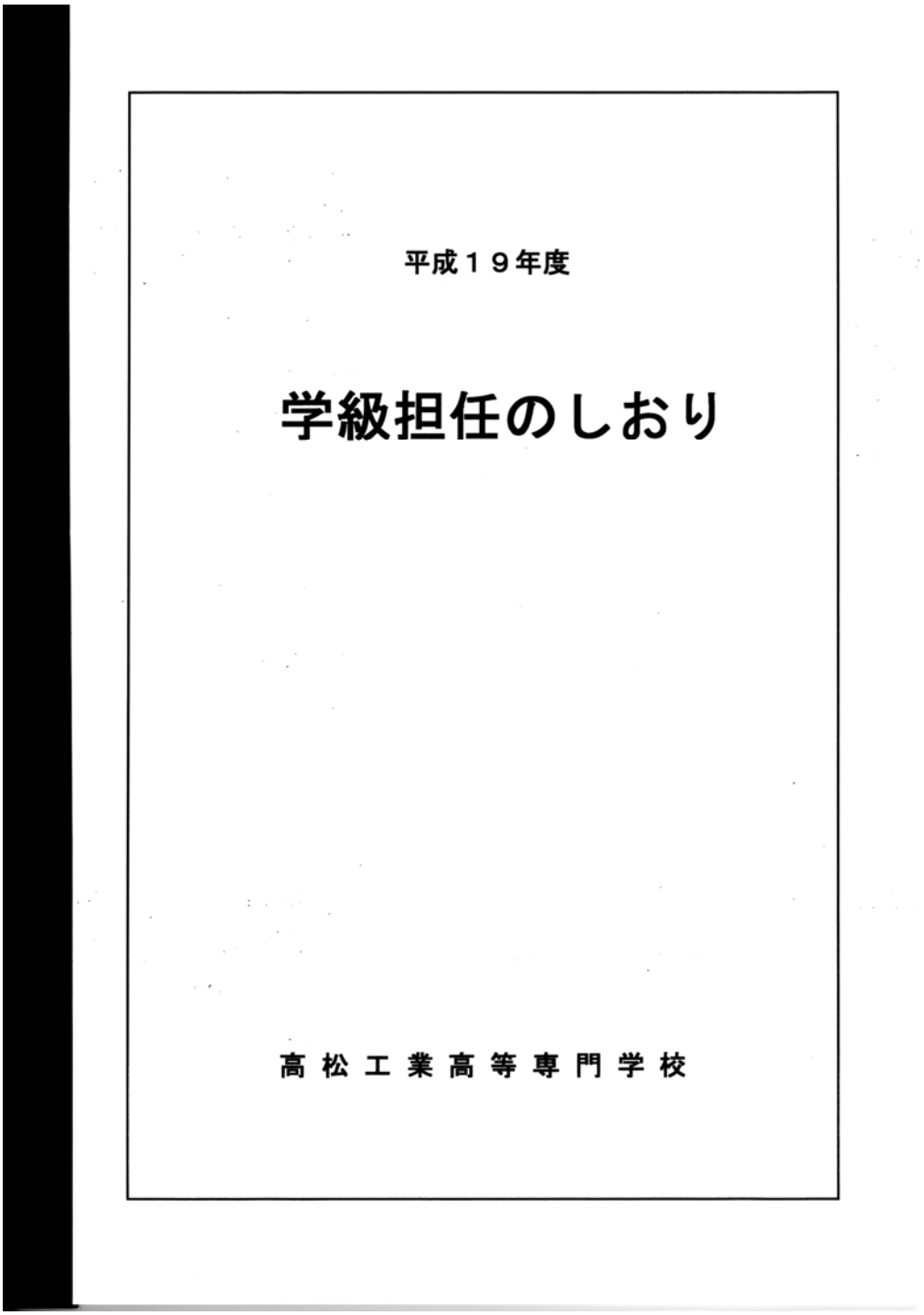
適切である。

生活指導面においては，その組織的な指導体制が整備されており，関係教員が人間性の基本的素養の涵養を目的として，学生指導にあたっている。

学生会と協力した課外活動においては，全教員の指導体制と活動の管理体制が整備され，学生達は課外活動によって人間性を高めている。

以上のことから，教育の目的に照らして生活指導面や課外活動等において人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

資料５－４－②－１　学級担任のしおり



平成１９年度

学級担任のしおり

高 松 工 業 高 等 専 門 学 校

（出典：平成１９年度　学級担任のしおり）

資料５－４－②－２　学生会の各部・同好会顧問の一覧

学生会の各部・同好会指導教員　　平成18年度

名称	指導教員
写真部	樋口 弘志
	○ 岡野 寛
ブラスバンド部	○ 吉永 慎一
E･S･S	○ 宇野 光範
	市川 緑
軽音楽部	○ 高橋 宏明
	岡田 憲司
	中川 征樹
電算機クラブ	○ 重田 和弘
	酒井 孝
自動車研究部	○ 川田 和男
美術部	○ 加藤 清考
	市川 緑
合唱団ﾌﾛｰｴ･ﾃｰﾈ	○ 鹿間 共一
	本田 道隆
○・C・S	○ 岡田 憲司
書道部	○ 荻原 昭文
アマチュア無線部	（休部）

名称	指導教員
ロボット研究会	川田 和男
	○ 山崎容次郎
	漆原 史朗
茶道部	○ 松原 三郎
	長友 克寛
	吹田 義一
バレーボール部	○ 中瀬巳紀生
	由良 諭
	高橋 宏明
ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	○ ※坂本具償
	高橋 洋一
	漆原 史朗
	土居 正信
	榎本 崇宏
	橋本 良夫
サッカー部	○ 権藤 典明
	真鍋 知久
	平岡 延章
卓球部	○ 出渕 幹郎
	（上代 良文）
	岩田 弘
	※木原茂文

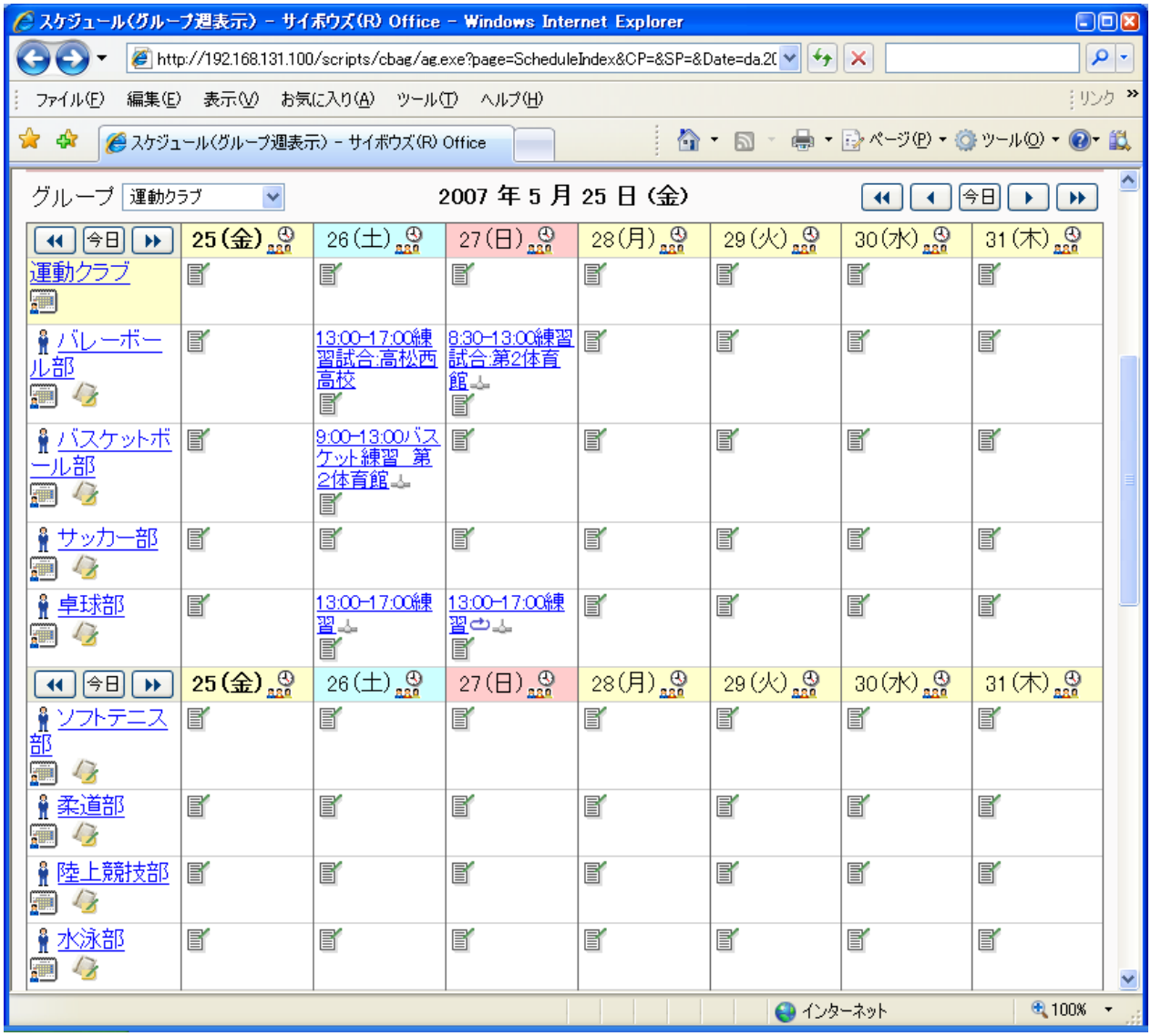
名称	指導教員
ソフトテニス部	○ 與田 純
	高橋 義一
	鶴本 良博
柔道部	○ 多川 正
	長友 克寛
陸上競技部	○ 太田 貞次
	向谷 光彦
	逸見 知弘
	正箱信一郎
水泳部	○ 小島 隆史
	福井 智史
	加藤 清孝
野球部（高学年）	岡野 寛
	○ 村上 幸一
	○ 吉澤 恒星
野球部（低学年）	太良尾浩生
	田口 淳
	渡辺 貴史
	服藤 憲司
	※鎌田 弘

名称	指導教員
ヨット部	○ 十河 宏行
	山内 庄司
	宇野 光範
	松原 三郎
剣道部	○ 長谷川 隆
	河野 通弘
	荻原 昭文
バドミントン部	○ 吉永 慎一
	神内 敦博
	有道 祐子
サイクリング部	○ 吹田 義一
	春本 繁
テニス部	○ 徳永 秀和
	竹下 治之
	酒井 孝
ハンドボール部	○ 上原 成功
	山崎容次郎
	中川 征樹
山岳部	（休部）
ラグビー部	（休部）
囲碁将棋同好会	○ 重田 和弘
	本田 道隆
ｽﾎﾟｰﾂ空手同好会	○ 河野 通弘
	原園 正博

（　）は文部科学省在外・内地研究員　　※主事である教員

（出典：平成１８年度　学生会の各部・同好会指導教員）

資料５－４－②－３　サイボウズのクラブ活動管理画面の一例



（出典：サイボウズ　入力画面）

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科ではコース制を敷いており，専攻科機械電気システム工学専攻の機械工学コース，電気情報工学コース，制御情報工学コースは，準学士課程のそれぞれ機械工学科，電気情報工学科，制御情報工学科に，また，専攻科建設工学専攻は準学士課程の建設環境工学科に，技術者教育プログラムを通じて密接に連携している（資料５－５－①－１）。

シラバスの冒頭に準学士課程と専攻科課程を通した授業科目系統図を掲載しており（資料５－５－①－２），また，個々のシラバスにおいても，関連科目として学士課程の授業科目名も明示している（資料５－５－①－３）。

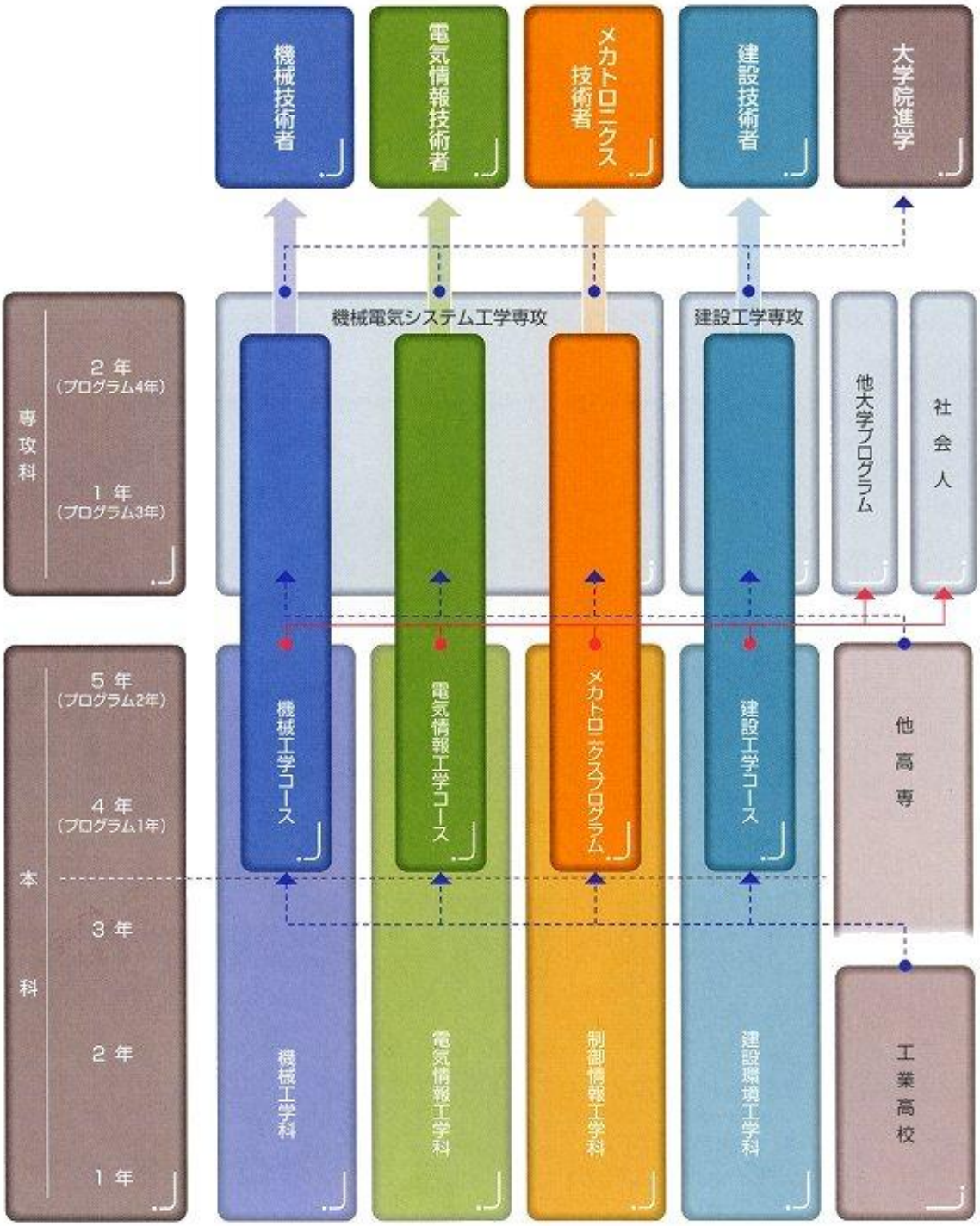
準学士課程の各学科から進学した学生に対して，選択科目決定のガイドラインとなるようにコース別の選択必修科目分類表を明示している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

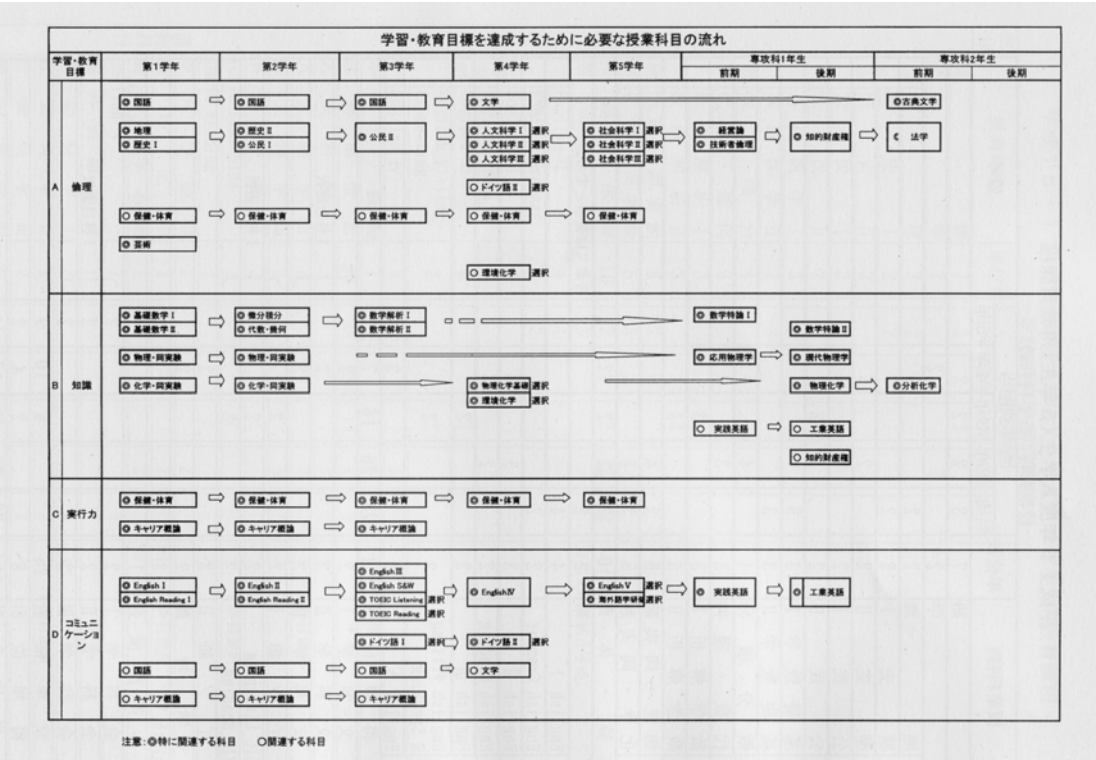
専攻科の教育課程は，準学士課程の教育と連携を考慮して，準学士課程における一般基礎，教養，情操教育および専門基礎教育の上に，専攻科の一般文系，理系科目および専門科目が系統的に適切に配置され，準学士課程より発展させるようになっていることから，準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程である。

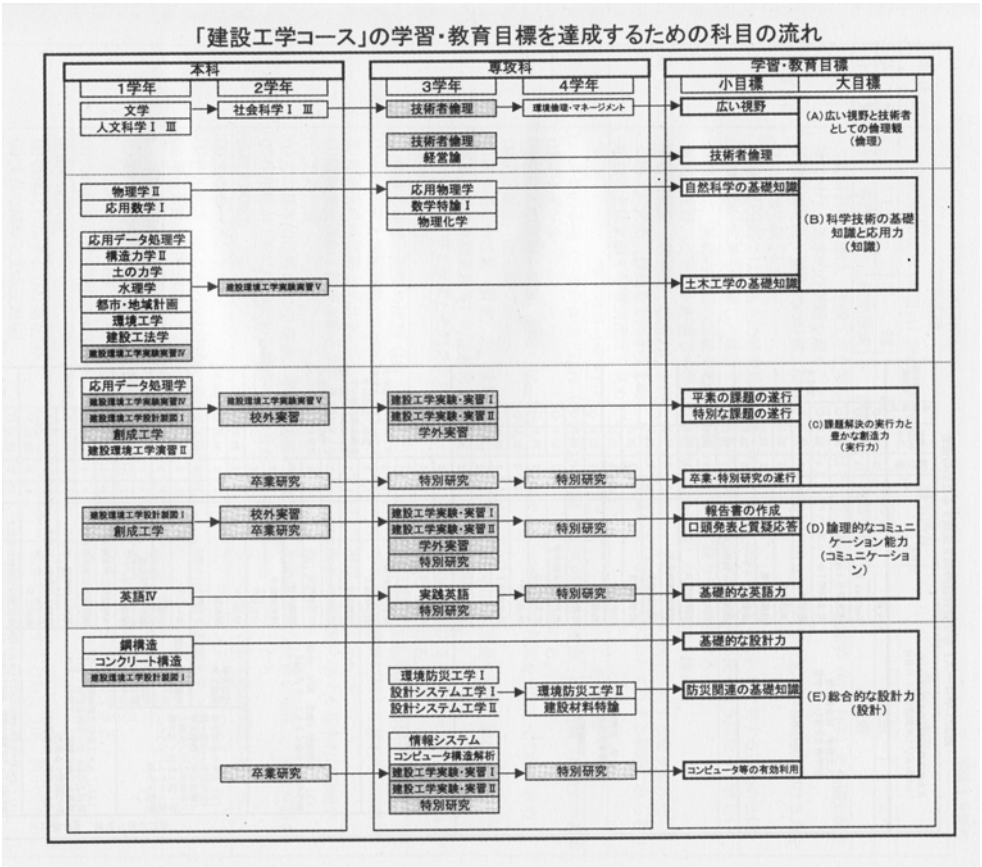
資料５－５－①－１　学科～専攻科の技術者プログラム関連図



（出典：高松工業高等専門学校ホームページ）

資料５－５－①－２　学科～専攻科の授業科目系統図





（出典：平成１９年度　本科シラバス（建設工学科）

資料５－５－①－３　専攻科のシラバスで，関連科目に本科の科目名が明示されたもの

平成１９年度

科目名	コンピュータ構造解析 Computational Analysis in Civil Engineering			担当教員	長友克寛		
学　年	ＡＣ２	学　期	前期	科目番号	07808	単位数	2
分　野	専門	授業形式	講義	履修条件	選択（JABEE 必修得）		
学習目標	構造解析を行う上でのプログラミング作法およびノウハウを身につける。 建設系力学分野の設計に関連する幾つかの基本的問題について，その理論式の誘導，プログラミング，計算，結果の分析，結果の報告，が行える能力を育成する。 コンピュータを有効に用いて自ら課題を処理し，処理結果を分かりやすくレポートにまとめられる能力を育成する。						
進め方	まず，コンピュータ処理するためのモデュール作成の方法について講義する。 次に，建設分野の４つの問題について，プログラミングを念頭においてその理論式を定式化する。 その際，関連する基礎事項に関する復習も合わせて行う。 次に，実際に解析を実行してもらう。 最後に，得られた結果を考察し，それをレポートにまとめてもらう。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1.プログラミング作法（2） (1)授業ガイダンス (2)Fortran を用いたプログラミング作法			サブルーティン副プログラムを用いてプログラムのモデュール化ができる。			
	2．コンクリート構造への応用（8） (1)複鉄筋コンクリート断面（RC 橋脚）の終局耐力計算法の定式化 (2)プログラミング及び解析 (3)解析結果の考察			RC 断面の終局耐力の定式化の考え方が説明できる。 定式化に基づきプログラミングができる。 コンクリートの応力－歪み関係の違いによる耐力への影響を含めて解析結果を考察し，それを分かりやすくレポートにまとめられる。			
	3．鋼構造への応用（6） (1) 鉄骨構造の１質点系粘性減衰モデルの地震応答解析の定式化 (2)Excel VBA によるプログラミング及び解析 (3)解析結果の考察			一質点系振動モデルの定式化ができる。 定式化に基づきプログラミングができる。 地震応答解析結果に基づき絶対加速度応答スペクトルについて考察し，それを分かりやすくレポートにまとめられる。			
	4．土構造への応用（6） (1)試行くさび法による土圧理論の定式化 (2)プログラミング及び解析 (3)解析結果の考察			試行くさび法による土圧の考え方が説明できる。 定式化に基づきプログラミングができる。 解析結果について考察し，それを分かりやすくレポートに求められる。			
	5．有限要素法解析入門（10） (1)概説 (2)解析のノウハウ (3)解析プログラムの体験			有限要素法の使用方法が説明できる。 有限要素プログラムを用いた解析を行い，解析結果について考察を加えることができる。			
	期末試験						
評価方法	・ 学習項目の全体評価への重みは，１～５についてそれぞれ約 5%，25%，20%，25%，25%とする。 ・ 試験の成績は，定期試験を 60%（60 点），課題への取組みを 40%（40 点）として評価する。 ・ 課題へのの取組みは，その提出状況と内容，課題に関連した内容の定期試験での定着度をもとに評価する。ただし，欠課１時間につき１点を減点する。						
学習・教育目標との関係	建設工学コース必修得科目である。 (E-3)「コンピュータ等の有効利用」を報告書の内容および試験結果によって評価する。 報告書の作成に際しては，計算，作図，文書の全てにおいてコンピュータの有効利用が求められる。						
関連科目	基礎情報処理(2 年，３年) → 地盤工学，コンクリート構造，鋼構造(4 年) → 設計システム工学Ⅱ(AC1 年) → コンピュータ構造解析(AC2 年)						
教　材	配付プリント						
備　考	期末試験の答案において間違いの多かった事項等については，試験後に連絡する。						

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置（例えば，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の科目は教養科目，工学基礎科目，専門科目の３群で構成され，前２者は全コース共通である。両専攻とも科目の多くを第１学年に配置し，第２学年では特別研究の比率を多くするという傾斜型の科目配置となっている（資料５－５－②－１）。学士課程を含めた各コースの科目関連のなかで，第１学年に工学基礎科目の多くと基礎的な専門科目（実験・実習科目も含めて）を配置し，第２学年に応用的な科目を配置している（資料５－５－②－２）。

専攻科の「修了時に身につけるべき資質・学力」を最終的な到達点として，第１学年，第２学年の各科目の内容を段階的に定め（資料５－５－②－３），シラバスに明示している（資料５－５－②－４）。

職業に必要な能力の育成についての体系性を見ると，全専攻ともに第１学年で実験・実習科目を配置している（資料５－５－②－１）。

本校の目的「論理的なコミュニケーション能力」に沿って英語教育を見ると，実践的な総合英語力を重視した実践英語と，専門分野の英語論文の読解と作成を念頭に置いた工業英語を第１学年に配置し，専門性の向上や実用上の英語力の育成を図る科目構成としている（資料５－５－②－５，６）。

本校の目的「広い視野と技術者としての倫理観」に沿って見ると，経営論，技術者倫理，及び知的財産権を第１学年に配置し，豊かな人間性の育成を図っている。また，その他の教養科目や工学基礎科目，特別研究等においても，技術者として社会へ貢献する意識と展望といった視点をその内容に組み込んでおり，個々の授業においては，具体的な題材の選択等に反映させている。

本校の目的「科学技術の基礎知識と応用力」に沿って見ると，第１学年では現代物理学，応用物理学，物理化学，数学特論Ⅰ・Ⅱといった科学技術に関する基礎・基本となる工学基礎科目と基礎専門科目を配置し，より広い応用力を身につけさせる科目を第２学年にも配置している。

本校の目的「課題解決の実行力と豊かな創造力」に沿って見ると，両専攻ともに第１学年で実験・実習科目を配置している。また，輪講や演習を開講し，２年間を通して特別研究を配置している。

また，コース別に見ると，機械工学コースでは，コース独自の目的である「機械工学をベースとした幅広い知識を身につけ，自主的，継続的に技術的問題に取り組み，創意工夫して実践することができる」ように，数学，力学などの機械工学に関する基礎知識に加え，先端技術であるCAD/CAM（コンピュータ支援設計／製造)およびCAE（コンピュータ支援技術），機械制御技術，情報処理技術などの科目をカリキュラム全体に取り入れ，工学全般にアプローチできる機械技術者を育成するよう配置している。

電気情報工学コースでは，コース独自の目的である「電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と，それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける」ように，高度な電気・情報専門科目や学際的専門科目，各種実験などを重ねる。そして，一貫した電気・情報関連の研究テーマを追求することにより，社会の要請に応えられる自発的問題解決能力と創造的技術開発能力を身につけられるよう配置している。

制御情報工コースでは，コース独自の目的である「機械工学，電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と，それをメカトロニクス分野のモノづくりに応用する力を身につける」ように，メカトロニクスやその周辺分野に関する高度な知識や技術の修得を行う。モノづくりの技術課題を解決することで，自ら計画を立て行動する自発的問題解決能力を養い，従来の発想にとらわれない創造的技術開発能力を持つ高度な実践的技術者を育成するよう配置している。

建設工学コースでは，コース独自の目的である「構造物の耐震・耐久設計，防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して，準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける」ように，建設構造物の耐震・防災対策に関するより高度な設計能力を修得することはもちろん，リサイクルや環境保全に関する知識や関心を持ち，建設構造物が社会や自然に及ぼす影響を正しい責任感，倫理観をもって判断できる新しい技術者を育成するよう配置している（資料５－５－②－７，８）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

専攻科の教育目的に照らして，修了時の到達目標を具体的に定めた上で，各授業科目を各学年に適切に配置している。また，目標に到達するために段階的な履修が可能となるよう授業科目の内容を決定している。

以上のことから，本校の専攻科課程では，教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性が十分確保されている。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料５－５－②－１　機械電気システムと建設工学の各専攻の授業科目一覧(1/2)

平成19年度機械電気システム工学専攻カリキュラム

分類	授業科目	区分	単位数	履修学期 1年 前	履修学期 1年 後	履修学期 2年 前	履修学期 2年 後	コース選択必修科目分類 機械工学	コース選択必修科目分類 電気情報工学	コース選択必修科目分類 制御情報工学	備考
教養科目	経営論	講義	2	2				◎	◎	◎	
	実践英語	講義	2	2				◎	◎	◎	
	法学	講義	2			2		○	○	□	
	古典文学	講義	2			2		○	○	□	
工学基礎科目	技術者倫理	講義	2	2				◎	◎	◎	
	知的財産権	講義	2		2			○	○	□	
	工業英語	講義	2		2			○	○	□	
	数学特論Ⅰ	講義	2	2				◎	◎	◎	
	数学特論Ⅱ	講義	2		2					□	
	応用物理学	講義	2	2				○		○	機械コース必修
	現代物理学	講義	2		2				○		
	物理化学	講義	2		2			○			
	分析化学	講義	2			2			○		
	建設工学概論	講義	2			2					
	教養・工学基礎合計		28	10	10	8	0	16単位以上			共通必修8単位
	コース選択必修単位数							6	8	2	
機械電気システム工学専門科目	特別研究	実験	16	2	4	4	6	◎	◎	◎	
	工学実験・実習Ⅰ	実験	2	2				◎	◎	◎	
	工学実験・実習Ⅱ	実験	2		2			◎	◎	◎	
	輪講	演習	4	1	1	1	1	◎	◎	◎	
	伝熱工学特論	講義	2	2				○		□	
	内燃機関工学	講義	2	2				○			
	計算力学特論	講義	2	2				○			
	動力学特論	講義	2	2				○		□	
	弾塑性力学	講義	2			2		○			
	最適化論	講義	2		2			○		□	
	スペクトル解析	講義	2			2				□	
	先端接合工学	講義	2		2			○		□	
	材料強度学特論	講義	2		2			○			
	振動工学特論	講義	2	2				○			
	信頼性工学	講義	2			2		○			
	薄膜工学	講義	2		2			○	○		
	知能ロボット工学	講義	2		2			○		□	
	メカトロニクス	講義	2	2				○		□	
	制御工学特論Ⅰ	講義	2		2			○	○	□	
	制御工学特論Ⅱ	講義	2			2		○		□	
	知能制御工学	講義	2			2		○	○		
	音響情報工学	講義	2		2				○		
	情報通信工学	講義	2	2					○		
	画像処理工学	講義	2		2				○		
	ディジタル信号処理	講義	2	2					○		
	ディジタル工学	講義	2			2			○		
	オプトエレクトロニクス	講義	2			2			○		
	半導体物性	講義	2			2			○		
	デバイス工学	講義	2		2				○		
	電子回路特論	講義	2	2					○		
	電気回路特論	講義	2	2					○		
	電磁気学特論	講義	2	2					○		
	学外実習	実習	2	2							
	専門科目合計		82	27	27	21	7	46単位以上			共通必修24単位
	コース選択必修単位数							22	22		
	合　　計		110	37	37	29	7	62単位以上			共通必修34単位

注1) ◎は専攻必修科目，○はコース選択必修科目を示しており，指定科目の中から必要単位数をする必要がある。□はコースとしての推奨を示しており，特に制限はない。
2) 8単位を超えない範囲で，建設工学専攻の専門科目（選択）を習得できる。
3) 1単位=講義：15時間，演習：30時間，実験：45時間

建設工学専攻　カリキュラム

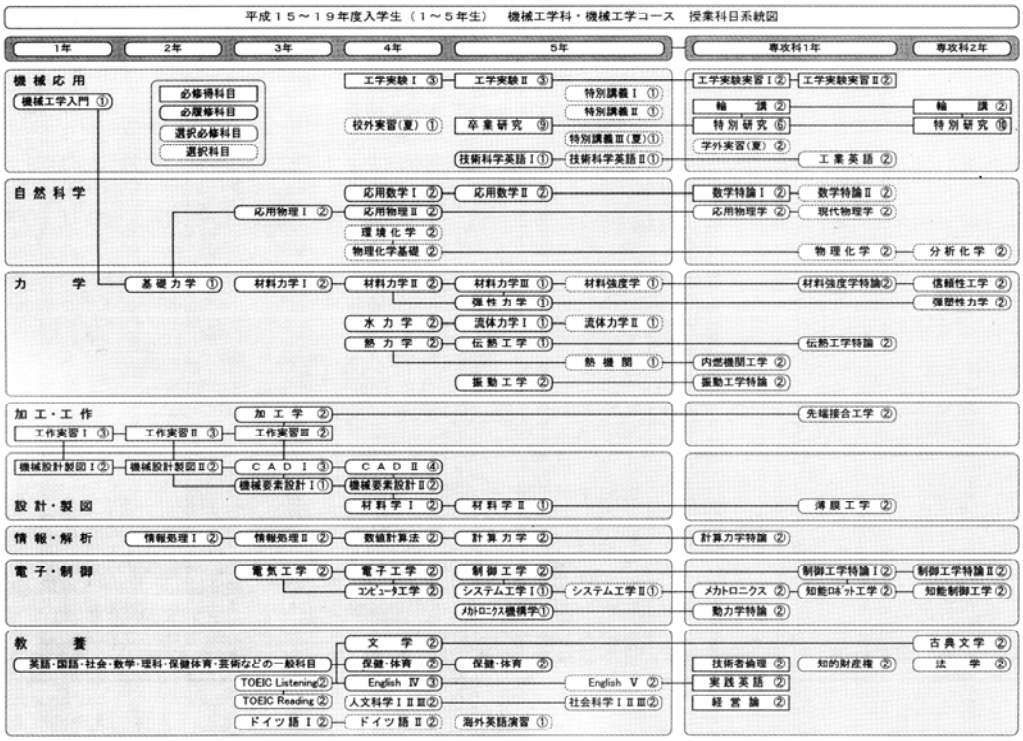
区分		授業科目	単位数	履修学期 1年 前期	履修学期 1年 後期	履修学期 2年 前期	履修学期 2年 後期	実験演習区分	建設工学専攻必修科目	JABEE対応 建設工学コース必修	JABEE対応 建設工学コース必修単位
教養科目	必修	経営論	2	2					◎	○	2
		実践英語	2	2					◎	○	2
		教養科目(必修)　開設単位小計	4								
	選択	法学	2			2					
		古典文学	2			2					
		教養科目(選択)　開設単位小計	4								
	教養科目　開設単位合計		8								
工学基礎科目	必修	技術者倫理	2	2					◎	○	2
		数学特論Ⅰ	2	2					◎	○	2
		工学基礎（必修）　開設単位小計	4								
	選択	応用物理学	2	2						○	2
		知的財産権	2		2					△	
		数学特論Ⅱ	2		2					△	
		現代物理学	2		2					△	
		物理化学	2		2					○	2
		工業英語	2		2					△	
		分析化学	2			2				△	
		建設工学概論	2			2					
		工学基礎(選択)　開設単位小計	16								
	工学基礎科目　開設単位合計		20								
	教養・工学基礎科目　開設単位数		28								
教養・工学基礎科目　最低修得単位数			16								
専門科目	必修	特別研究	16	2	4	4	6	実験	◎	○	16
		建設工学実験・実習Ⅰ	2	2				実験	◎	○	2
		建設工学実験・実習Ⅱ	2		2			実験	◎	○	2
	選択	設計システム工学Ⅱ	2	2						○	2
		環境防災工学Ⅰ	2	2						○	2
		流体力学特論	2	2						△	
		情報システム	2	2						△	
		建設環境計測学	2	2						△	
		建設数理計画学	2	2						△	
		設計システム工学Ⅰ	2		2					○	2
		連続体力学	2		2					△	
		建設工学演習	2		2			演習		△	
		コンピュータ構造解析	2			2				△	
		環境防災工学Ⅱ	2			2				○	2
		建設材料特論	2			2				○	2
		環境倫理・マネージメント	2			2				△	
		建設工学セミナー	2				2	演習		△	
		学外実習(注)	2					実験		△	
	専門科目　開設単位合計		50								
	専門科目　最低修得単位数		46	(注)学外実習は、原則として1年の夏期休業中に実施。							
建設工学専攻　開設単位総計			78								
建設工学専攻　最低修了認定単位数			62								

＊１単位＝講義：１５時間，演習：３０時間，実験：４５時間
＊◎：建設工学専攻必修科目
＊○：ＪＡＢＥＥ対応の建設工学コース必修得科目
＊△：建設工学コース必修得科目群（「JABEE分野別要件を満たすための修了要件」を参照）
＊８単位を超えない範囲で，機械電気システム工学専攻の専門選択科目を修得できる。

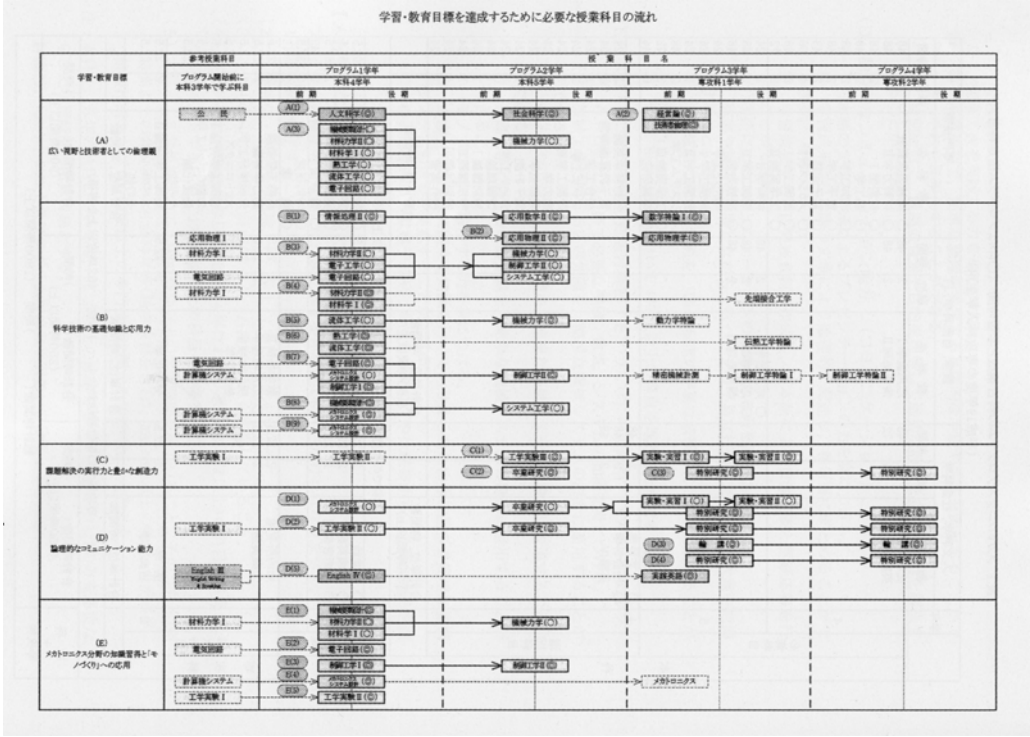
（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－５－②－２　各コースの科目系統図例

（１）機械工学コース



（２）メカトロニクスプログラム



（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－５－②－３　「修了時に身につけるべき学力や資質･能力」と科目内容の対応

「修了時に身につけるべき学力や資質･能力」
（A）広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
（B）科学技術の基礎知識と応用力（知識）
（C）課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

2.3 制御情報工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質･能力		A	B	C	D
授業科目	専攻１年	経営論 技術者倫理 知的財産権	数学特論Ⅰ 数学特論Ⅱ 応用物理学 現代物理学 物理化学 実践英語 工業英語 知的財産権 先端接合学 動力学特論 伝熱工学特論 精密機械計測 制御工学特論Ⅰ	実験･実習Ⅰ 実験･実習Ⅱ 特別研究	実践英語 工業英語 特別研究 輪講
	専攻２年	古典文学 法学	分析化学 制御工学特論Ⅱ	特別研究	特別研究 輪講

2.4 建設環境工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質･能力		A	B	C	D
授業科目	専攻１年	経営論 技術者倫理 知的財産権 建設環境計測学	数学特論Ⅰ 数学特論Ⅱ 応用物理学 現代物理学 物理化学 実践英語 工業英語 知的財産権 連続体力学 流体力学特論	建設工学実験･実習Ⅰ 建設工学実験･実習Ⅱ 特別研究	実践英語 工業英語 建設工学実験･実習Ⅰ 建設工学実験･実習Ⅱ 特別研究
	専攻２年	古典文学 法学 環境倫理･マネージメント	分析化学	特別研究	特別研究

（出典：教務委員会資料）

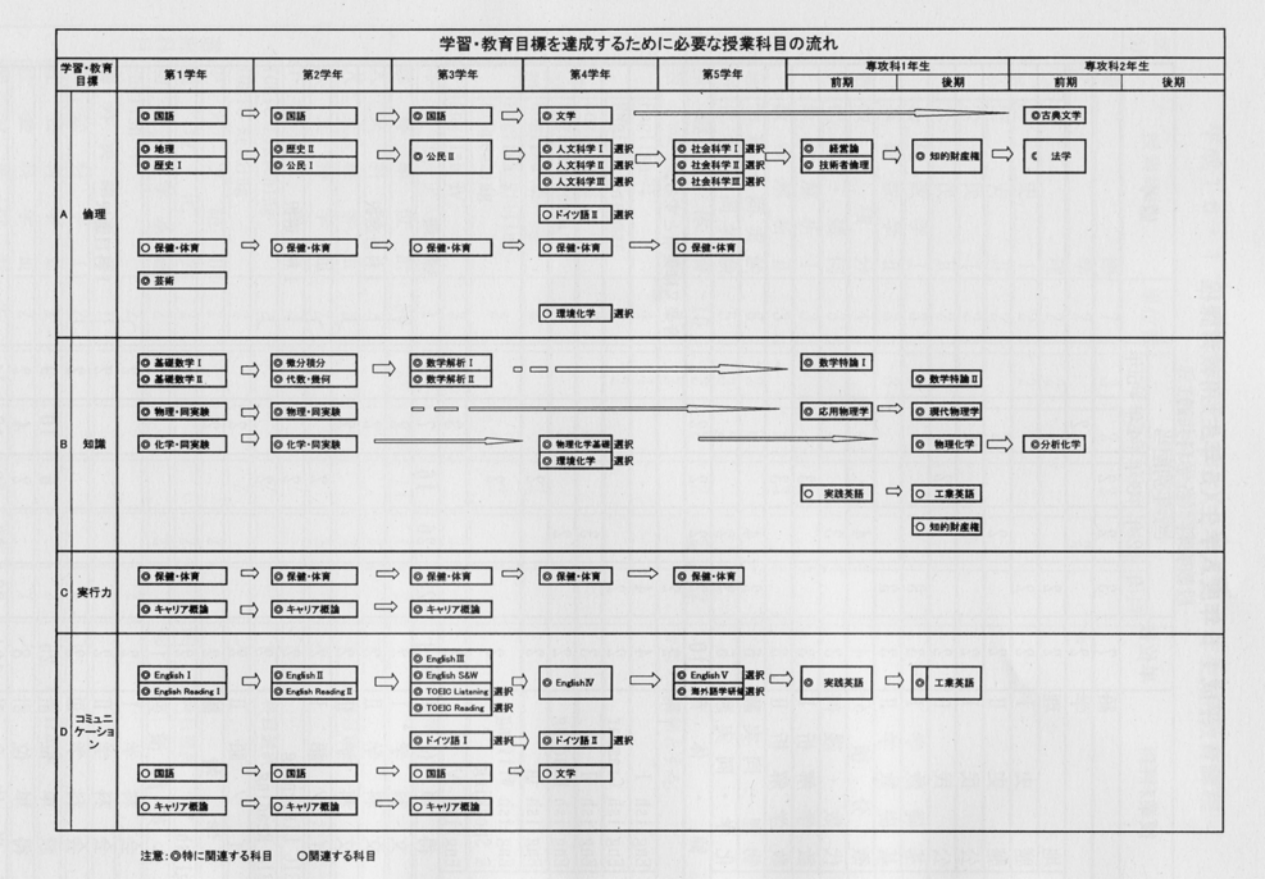
資料５－５－②－４　専攻科シラバスの「学習・教育目標との関係」の記述部分

平成１９年度

科目名	設計システム工学Ⅱ Structural Design Ⅱ in Civil Engineering			担当教員	長友克寛		
学　年	ＡＣ１	学　期	前期	科目番号	07805	単位数	2
分　野	専門	授業形式	講義	履修条件	選択（JABEE 必修得）		
学習目標	一質点系粘性減衰型振動モデルについて，それに含まれる各特性値が説明できる。 一質点系粘性減衰型振動モデルについて，その理論式が導ける。 震度法の考え方が理解でき，実際に簡単な演習問題が解ける。 各種時刻歴応答解析法の考え方が理解でき，線形加速度法の基本式が導ける。 各種応答スペクトルの考え方が理解でき，それを文章と図とを用いて説明できる。 道路橋示方書（耐震設計編）の条文を通して，性能照査型設計法の考え方と設計の流れが理解できる。						
進め方	まず，耐震設計の基礎となる一質点系バネモデルについて説明する。具体的には，(1)実構造物のモデル化，(2)各種特性値の説明，(3)自由振動の運動方程式の誘導，(4)強制振動の運動方程式の誘導を行い，得られた式を基に振動特性について詳細に考察を加える。 次に，地震動に対する一質点系バネモデルの時刻歴応答解析法について解説し，基本式を導く。 そして，これをもとに各種応答スペクトルの概念について説明する。 最後に，鉄筋コンクリート橋脚を対象として，道路橋示方書に基づく耐震設計法を解説する。 具体的には(1)性能評価設計法の考え方，(2)橋脚の曲げモーメント－変位関係の求め方，(3)安全性の評価方法について説明する。 授業では，配付プリントを使用する。理解度を高めるため，適宜演習問題を課す。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1．　一質点系バネモデル（12） (1)授業ガイダンス (2)橋脚の１質点系バネモデル化 (3)自由振動の運動方程式 (4)強制振動の運動方程式			一質点系粘性減衰バネモデルに含まれる各特性値の説明ができる。 一質点系粘性減衰バネモデルの運動方程式およびその解が導ける。			
	2．時刻歴応答解析法（8） (1)各種時刻歴応答解析法 (2)震度法 (3)応答スペクトル			震度法の考え方が説明でき，実際に設計ができる。 各種応答スペクトルの意味が文章と図とを用いて説明できる。			
	3．鉄筋コンクリート橋脚の耐震設計法(10) (1)性能照査型設計の考え方 (2)曲げモーメント－曲率関係 (3)水平力－水平変位関係 (4)安全性の照査法			RC 橋脚の性能照査型設計法の考え方および設計の流れが説明できる。 RC 橋脚断面の曲げ耐力の求め方が図と文章とを用いて説明できる。			
	期末試験						
評価方法	・ 学習項目の全体評価への重みは，１～３についてそれぞれ約 35%，30%，35%とする。 ・ 試験の成績は，定期試験を 90%（90 点），課題への取組みを 10%（10 点）として評価する。 ・ 課題への取組みは，その提出状況と内容をもとに評価する。 ・ ただし，欠課１時間につき１点を減点する。						
学習・教育目標との関係	建設工学コース必修得科目である。 (E-2)「防災関連の基礎知識」を報告書の内容および試験結果によって評価する。 特に，耐震設計の基礎知識を身に付け，それを説明できるようになることが求められる。						
関連科目	構造力学Ⅰ，Ⅱ(3,4 年) → コンクリート構造(4 年) → 設計システム工学Ⅱ(AC1 年) → コンピュータ構造解析（AC2 年）						
教　材	配付プリント						
備　考	期末試験の答案において間違いの多かった事項等については，試験後直ちに連絡する。						

（出展：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－５－②－５　科目系統図



（出典：平成１９年度　シラバス）

資料５－５－②－６　英語科の目標と英語のシラバスでの記述

［英語科の目標］

		専攻科課程
学習・教育目標	（D）論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）	物事を論理的に考え，それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。

［シラバス例］

平成１９年度

科目名	実践英語 TOEIC Preparation			担当教員	出渕幹郎/宇野光範		
学年	AC1	学期	前期	科目番号	07602	単位数	2
分野	教養	授業形式	講義	履修条件	必修得		
学習目標	TOEIC で 470 点得点できるリスニング・リーディングの力を身につける。						
進め方	各時間の前半 50 分はリーディング指導（担当 出渕），後半 50 分はリスニング指導（担当 宇野）とする。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	１．リスニング写真描写問題（3） ２．リスニング応答問題（4） ３．リーディング文法語彙問題（5） ４．リーディング誤文認知問題（2） ５．TOEIC 模擬試験 + 解説（2） ６．リスニング会話問題（3） ７．リスニング説明問題（3） ８．リーディング誤文認知問題（2） ９．リーディング読解問題（4） １０．TOEIC 模擬試験 + 解説（2） 前期末試験（0）			・各パートとも 40%を下まわらないものとする。 ・TOEIC 模擬試験においては 380 点程度の得点を得ることができる。 ・リスニング説明問題では 30%，その他の問題では 40%を下まわらないものとする。 ・TOEIC 模擬試験においては 400 点程度の得点を得ることができる。			
評価方法	講義は前期で終了するが，10 月末に本校で実施する TOEIC IP，又は 11 月，12 月，1 月に本校で実施する TOEIC 模擬試験，又は 1 月に外部実施の TOEIC 公開テストのいずれかにおいて 470 点以上の得点を上げた者をＡ，425～465 をＢ，400～420 をＣとし、400 点未満の得点者は不合格として，年度末に評価を行う。受験は何度しても構わないこととし、原則として最も高得点を得た試験で評価を行う。TOEIC IP については，担当教官が，難易度が高いと判断した場合は，TOEIC 運営委員会発表による TOEIC 公開テストと IP の平均点を参考に別途適切な基準を定める。						
学習・教育目標との関係	(D-3)「基礎的な英語力」を達成するための必修得科目である。						
関連科目							
教材	ハンドアウト						
備考	必要に応じて課題等を出すことがある。未提出の場合は TOEIC の点数から減点し，評価とする。						

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－５－②－７　建設工学コースにおける科目配置

（3）JABEE で要求される「土木および土木関連分野」の学習保証時間の要件（表-2）を満たすこと。

表－2 JABEE分野別要件を満たすための修了要件

日本技術者教育認定基準における JABEE「土木および土木関連分野」の修了認定要件			高松高専「建設工学コース」修了要件2													
			科目名	学年 本科 4	本科 5	専攻科 1	専攻科 2	単位	学習時間 (hr)	必修得科目	必修得科目群	修得要件	必要な学習時間数	
人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習 250時間以上			文学	■				2	45.0		A	A群の中から、135時間以上を修得すること。	135.0 以上	277.5以上
			人文科学 I or II or III	■				2	45.0		A			
			社会科学 I or II or III		■			2	45.0		A			
			工業英語			■		2	25.0		A			
			知的財産権			■		2	25.0		A			
			環境倫理・マネージメント				■	2	25.0		A			
			英語 I	■				3	67.5	◇		必ず修得すること。	142.5	
			経営論			■		2	25.0	◇				
			実践英語			■		2	25.0	◇				
			技術者倫理			■		2	25.0	◇				
数学、自然科学、情報技術の学習 250時間以上			応用物理・同実験	■				1	22.5		B	B群の中から、4科目以上を修得すること。	157.5 以上	282.5以上
			応用数学 I	■				2	45.0		B			
			応用データ処理学	■				2	45.0		B			
			化学特論	■				2	45.0		B			
			防災工学		■			2	45.0		B			
			応用数学 II		■			2	45.0		B			
			応用物理学			■		2	25.0	◇		必ず修得すること。	75.0	
			物理化学			■		2	25.0	◇				
			数学特論 I			■		2	25.0	◇				
			建設数理計画学			■		2	25.0		C	C群の中から、2科目以上を修得すること。	50.0 以上	
			情報システム			■		2	25.0		C			
			現代物理学			■		2	25.0		C			
			数学特論 II			■		2	25.0		C			
			分析化学				■	2	25.0		C			
			コンピュータ構造解析				■	2	25.0		C			
専門分野の学習 900時間以上	(1) 応用数学		応用数学 I	■				2	※ここでの授業科目は、前掲の「数学、自然科学、情報処理技術の学習」にて既に計上しているため、学習時間数を重複して計上しない。					1455.0以上
			応用数学 II		■			2						
			数学特論 I			■		2						
			建設数理計画学			■		2						
			数学特論 II			■		2						
	(2) 自然科学（物理、化学、生物、地学のうち少なくとも1つ）の基礎		応用物理・同実験	■				2						
			化学特論	■				2						
			応用物理学			■		2						
			物理化学			■		2						
			現代物理学			■		2						
			分析化学				■	2						
	(3) 土木の主要分野（土木材料・力学一般／構造工学・地震工学／水理水工学／交通工学・国土計画／土木環境システム）のうち、最低3分野	構造力学、地震工学	構造力学	■				3	67.5		D	D群の中から、2科目以上を修得すること。	70.0 以上	
			鋼構造	■				2	45.0		D			
			コンクリート構造	■				2	45.0		D			
			道路体力学			■		2	25.0		D			
		地盤工学、水工水理学	地盤工学	■				2	45.0		E	E群の中から、90時間以上を修得すること。	90.0 以上	
			流体力学	■				2	45.0		E			
			環境水工学		■			2	45.0		E			
			流体力学特論			■		2	25.0		E			
		交通工学・国土計画、土木環境システム	都市・地域計画	■				2	45.0		F	F群の中から、90時間以上を修得すること。	90.0 以上	
			環境工学	■				2	45.0		F			
			環境アセスメント		■			2	45.0		F			
			建設環境計測学			■		2	25.0		F			
	(4) 土木工学の主要分野のうち1分野以上において、実験を計画・遂行し、結果を正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明する能力【主に実験、実習関連】		建設環境工学実験実習	■				2	45.0	◇		必ず修得すること。	140.0	
			建設環境工学実験実習		■			2	45.0	◇				
			建設工学実験・実習 I			■		2	25.0	◇				
			建設工学実験・実習 II			■		2	25.0	◇				
	(5) 土木工学の主要分野のうち、1分野以上の演習を通して、自己学習の習慣、創造する能力、および問題を解決する能力【主に演習関連】		建設環境工学設計製図 I	■				2	45.0		G	G群の中から、2科目以上を修得すること。	90.0 以上	
			建設環境工学設計製図 II	■				2	45.0		G			
			建設環境工学設計製図 I		■			2	45.0		G			
			建設環境工学設計製図 II		■			2	45.0		G			
			建設工学演習			■		2	25.0		H	H群の中から、1科目以上を修得すること。	25.0 以上	
			建設工学セミナー				■	2	25.0		H			
	(6) 土木工学の専門分野を総合する科目の履修により、土木工学の専門的な知識、技術を総動員して課題を探求し、組み立て、解決する能力【主に卒業研究等】		卒業研究		■			9	202.5	◇		必ず修得すること。	602.5	
			特別研究			■		2	75.0	◇				
			特別研究			■		4	150.0	◇				
			特別研究				■	4	150.0	◇				
			特別研究				■	6	225.0	◇				
	(7) 実務上の問題点と課題のうち、少なくとも1つを理解し、適切に対応する基礎的能力【インターンシップ、特別講義、現場見学会、その他通常講義などによる】		校外実習	■				1	22.5		I	I群の中から、1科目以上を修得すること。	22.5 以上	
			建設工法学		■			1	22.5		I			
			学外実習			■		2	75.0		I			
			設計システム工学 I			■		2	25.0	◇		必ず修得すること。	125.0	
			設計システム工学 II			■		2	25.0	◇				
			環境防災工学 I			■		2	25.0	◇				
			環境防災工学 II				■	2	25.0	◇				
			建設材料特論				■	2	25.0	◇				
学習時間の総計が 1800時間以上													総計	2015以上

なお，表-1，2に掲げた科目については，60%以上の成績を修得すること。

（4）学・協会に論文を投稿し，研究発表を行うこと。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス（建設工学コース））

資料５－５－②－８　専攻科シラバスにおける準学士課程の関連科目の記述

平成１９年度

科目名	設計システム工学Ⅱ Structural Design Ⅱ in Civil Engineering			担当教員	長友克寛		
学　年	ＡＣ１	学　期	前期	科目番号	07805	単位数	2
分　野	専門	授業形式	講義	履修条件	選択（JABEE 必修得）		
学習目標	一質点系粘性減衰型振動モデルについて，それに含まれる各特性値が説明できる。 一質点系粘性減衰型振動モデルについて，その理論式が導ける。 震度法の考え方が理解でき，実際に簡単な演習問題が解ける。 各種時刻歴応答解析法の考え方が理解でき，線形加速度法の基本式が導ける。 各種応答スペクトルの考え方が理解でき，それを文章と図とを用いて説明できる。 道路橋示方書（耐震設計編）の条文を通して，性能照査型設計法の考え方と設計の流れが理解できる。						
進め方	まず，耐震設計の基礎となる一質点系バネモデルについて説明する。具体的には，(1)実構造物のモデル化，(2)各種特性値の説明，(3)自由振動の運動方程式の誘導，(4)強制振動の運動方程式の誘導を行い，得られた式を基に振動特性について詳細に考察を加える。 次に，地震動に対する一質点系バネモデルの時刻歴応答解析法について解説し，基本式を導く。 そして，これをもとに各種応答スペクトルの概念について説明する。 最後に，鉄筋コンクリート橋脚を対象として，道路橋示方書に基づく耐震設計法を解説する。 具体的には(1)性能評価設計法の考え方，(2)橋脚の曲げモーメント－変位関係の求め方，(3)安全性の評価方法について説明する。 授業では，配付プリントを使用する。理解度を高めるため，適宜演習問題を課す。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1．　一質点系バネモデル（12） (1)授業ガイダンス (2)橋脚の１質点系バネモデル化 (3)自由振動の運動方程式 (4)強制振動の運動方程式			一質点系粘性減衰バネモデルに含まれる各特性値の説明ができる。 一質点系粘性減衰バネモデルの運動方程式およびその解が導ける。			
	2．時刻歴応答解析法（8） (1)各種時刻歴応答解析法 (2)震度法 (3)応答スペクトル			震度法の考え方が説明でき，実際に設計ができる。 各種応答スペクトルの意味が文章と図とを用いて説明できる。			
	3．鉄筋コンクリート橋脚の耐震設計法(10) (1)性能照査型設計の考え方 (2)曲げモーメント－曲率関係 (3)水平力－水平変位関係 (4)安全性の照査法			RC 橋脚の性能照査型設計法の考え方および設計の流れが説明できる。 RC 橋脚断面の曲げ耐力の求め方が図と文章とを用いて説明できる。			
	期末試験						
評価方法	・学習項目の全体評価への重みは，１～３についてそれぞれ約 35%，30%，35%とする。 ・試験の成績は，定期試験を 90%（90 点），課題への取組みを 10%（10 点）として評価する。 ・課題への取組みは，その提出状況と内容をもとに評価する。 ・ただし，欠課１時間につき１点を減点する。						
学習・教育目標との関係	建設工学コース必修得科目である。 (E-2)「防災関連の基礎知識」を報告書の内容および試験結果によって評価する。 特に，耐震設計の基礎知識を身に付け，それを説明できるようになることが求められる。						
関連科目	構造力学Ⅰ，Ⅱ(3,4 年) → コンクリート構造(4 年) → 設計システム工学Ⅱ(AC1 年) → コンピュータ構造解析（AC2 年）						
教　材	配付プリント						
備　考	期末試験の答案において間違いの多かった事項等については，試験後直ちに連絡する。						

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

観点５－５－③：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

近隣の香川大学，及び大阪大学との単位互換協定や教育研究協定をそれぞれ結び，単位認定や交流を行っている（資料５－５－③－１，２）。

海外語学研修制度について平成１８年度よりオーストラリアの大学付属語学学校と協定を締結し，主に専攻科１年生の夏休みに希望者に対して３週間程度実施している（資料５－５－③－３）。

主として専攻科１年生に学外実習としてインターンシップを実施し，その単位認定を行っている（資料５－５－③－４）。

必要であれば，科目等履修生制度を利用して準学士課程の授業を履修することができる（資料５－５－③－５）。外国人留学生の進学者は，専攻科創設以来まだいないので，特別なカリキュラムを組んだ実績はない。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

科学技術の進展により隣接分野やより高度な内容を扱う必要が高まったことから，大学との単位互換を行っている。また，必要性が高まる国際化への対応として，海外語学研修で修得した単位認定制度も整備している。また，実務や学生のニーズへの対応として，学外実習によるインターンシップの活用も行っている。これらはともに，専攻科の教育目的「論理的なコミュニケーション」，「課題解決の実行力と豊かな創造力」に沿ったものである。

以上のことから，本校の専攻科においては，学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に十分配慮している。

資料５－５－③－１　香大，阪大との単位互換協定，教育研究協定

香川大、高松高専・詫間電波高専と単位互換協定を締結

香川大学は、高松高専、詫間電波高専との間で「相互単位互換に関する協定書」を締結した。調印式には香川大の木村学長、高松高専の早野校長、詫間電波高専の竹内校長のほか関係者が出席した。

この協定は、相互の交流と協力を促進し、意欲ある学生に対して多様な学習機会を与えることができるなど教育内容の充実を図ることを目的としており、単位互換はこの四月から始まっている。

握手を交わす木村学長㊥と早野校長㊨、竹内校長㊧



香川大学と高松工業高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定書

香川大学と高松工業高等専門学校（以下「両機関」という。）は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、授業科目の相互単位互換を行うことにより、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

1 学生の受入れ
両機関に在学する学生（ただし、高松工業高等専門学校に在学する学生にあっては、本科４年生以上の学生及び専攻科学生）が、両機関の授業科目の履修及び学生の修得を希望するときは、両機関の長は修得生を受け入れることができる。

2 学生の身分
この協定により受け入れる学生の身分は、「特別聴講学生」とする。

3 履修できる授業科目等
特別聴講学生の履修できる授業科目、単位数、受入学生数及び受入手続等は、別に定める。

4 履修期間及び受入時期
(1) 特別聴講学生の履修期間は１年以内とし、当該年度を超えないものとする。
(2) 特別聴講学生の受入時期は、原則として学年及び学期の始めとする。

5 単位の認定
特別聴講学生が修得した単位は、当該学生の在籍する機関の定めるところにより、当該機関での履修により修得した単位として認定する。

6 検定料、入学料及び授業料
特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

7 覚書等
この協定による相互単位互換を円滑に実施するため、覚書を別に定める。

8 協定の発効
本協定は、平成１６年４月１日から発効する。

9 協定の改定等
本協定は、両機関の協議の合意のもとに、必要に応じて改定することができる。

平成１６年３月１６日

香川大学長

高松工業高等専門学校長

香川大学と高松工業高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定書についての覚書

「香川大学と高松工業高等専門学校の相互単位互換に関する協定書（以下「協定書」という。）」第７条に基づき、香川大学と高松工業高等専門学校の相互単位互換の実施について、ここに覚書を取り交わす。

1 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数
(1) 特別聴講学生として履修できる授業科目は、受入機関が定める単位互換科目のうち、当該機関が指定する授業科目とする。
(2) 修得できる単位数は、当該機関が定める単位数とする。

2 受入学生数
受入学生数は、受入機関において定める。

3 受入の手続
当該機関の長は、受入機関が定める期日までに当該する学生を審査し、次の書類を受入機関の長に提出しなければならない。
(1) 受入依頼書
(2) 相互単位互換科目履修願
(3) その他受入機関が定める書類

4 受入学生の決定
受入機関の長は、当該機関の長から受入依頼があったときは速やかに受入学生を決定し、当該機関の長に通知しなければならない。

5 履修の辞退等
特別聴講学生がやむを得ない理由で履修を取りやめる場合は、当該機関を通じて速やかに辞退届を提出しなければならない。又、休学、退学等により当該機関に在学しなくなった場合は速やかに受入機関に通知しなければならない。

6 成績評価の方法
(1) 成績評価は、受入機関の定めるところにより実施する。
(2) 受入機関の長は、特別聴講学生の成績評価後、速やかに当該機関の長に成績を通知しなければならない。
(3) 両機関の相互試験の日時が重複した場合、当該機関の試験を優先し、受入機関の授業科目について追試験等の措置を講じるものとする。

7 学生証
特別聴講学生は、所定の特別聴講学生証の交付を受け、受入機関の施設・設備を利用する場合、提示しなければならない。

8 覚書の更新及び改定
本覚書は、協定書の第８に定める発行日より５年間効力を有し、いずれかの機関の申し出がない限り、以後同期間ずつ更新されるものとする。ただし、本覚書は、いずれかの機関の申し出により、協議の上改定することができる。

9 その他
この覚書に定めるもののほか、相互単位互換の実施に必要な事項については、その都度協議により定めることとする。

平成１６年３月１６日

香川大学長

高松工業高等専門学校長

■阪大工学研究科・工学部と高松高専■
教育研究交流に関する協定に調印

大阪大学大学院工学研究科・工学部と高松高専は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために教育研究交流に関する協定を締結した。2月23日に大阪大学で行われた調印式には、阪大から豊田政男大学院工学研究科長・谷口研二運営企画室長、高松高専から早野浩校長・吹田義一専攻科長が出席し、協定書が取り交わされた。

この協定は、講義の相互履修、インターンシップ及び共同研究等と、これに伴う学生、教員の交流を積極的に実施し相互の発展のために教育、研究の分野で協力関係を推進するもの。

調印後に握手する豊田研究科長㊨と早野校長㊧



高松高専だより　第94号

相互単位互換に関する告知（高専だより94号）（抜粋pp.11）

◆香川大学との単位互換協定締結

本校と香川大学は，相互の交流と協力を促進し，教育内容の充実を図ることを目的として，それぞれの学校（大学）に開講されている授業科目を履修し，相互に単位互換できる協定を平成16年３月16日に締結しました。

単位互換とは，本校の学生が，香川大学の授業科目を履修し，そこで取得した単位を，本校の単位として認定しようとするものです。香川大学からは，各学部のそれぞれ特色ある授業科目や，本校にはないユニークな授業科目が提供され，学生諸君の関心や興味に応じた授業を履修できるようにしています。

この制度により香川大学に受け入れられた学生は，「特別聴講学生」といい，通常必要となる検定料，入学料及び授業料は必要なく，本校の学生の身分のまま香川大学で授業を受け，その単位を取得することが出来ます。

この制度についての詳しいことは，各専攻主任へお問い合わせください。

大阪大学工学部・大学院工学研究科と高松工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と高松工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　大阪大学工学部・大学院工学研究科と高松工業高等専門学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進するため次の分野において、次により交流を行うものとする。
1．講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生、研究者の交流
2．両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
3．上記１以外の学生、研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度両者で協議の上調整するものとする。

第３条　本協定は、両者の代表者による署名完了の日に効力が生じるものとし、５年間有効とする。なお、両者は６ヶ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期間内に満たされない場合は、本協定の有効期間満了日の６ヶ月前までに両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、両者が協議のうえ処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成17年2月23日　　平成17年2月23日

独立行政法人国立高等専門学校機構
高松工業高等専門学校
校長
早野浩

国立大学法人大阪大学
工学部長
大学院工学研究科長
豊田政男

（出典：文教ニュース H16.4.14，H17.3.17，香川大学・大阪大学との協定書，高専だより 94 号）

資料５－５－③－２　他大学の単位互換取得者の実績

香川大学と高松工業高等専門学校との間における
相互単位互換協定に基づく特別聴講学生について

平成１６年度

氏　名	開設学部	科　目　名	単位数	評　価
	経済学部	○地域文化論基礎	2	可
	工 学 部	○技術開発管理	2	秀
	工 学 部	○技術開発管理	2	秀
	農 学 部	○環境科学Ⅰ	2	良
	〃	×畜産学総論	2	良
	工 学 部	○地盤災害工学	2	秀

平成１７年度

開設学部	科　目　名	単位数	評　価
経済学部	○経済統計	4	秀
教　養	○生物学Ｂ	2	優
教　養	×経済学Ｂ	2	秀
経済学部	○ミクロ経済学Ⅱ	2	優
工 学 部	×水理学Ⅰ	2	良
工 学 部	×水理学Ⅰ	2	不可

平成１８年度

開設学部	科　目　名	単位数	評　価
工学部	○水資源工学	2	可
	○水資源工学	2	良
工学部	○安全システム建設工学特別講義	2	秀
	○安全システム建設工学特別講義	2	秀
教　養	心理学Ａ	2	履修中
工学部	水 文 学	2	履修中
工学部	緑化工学	2	履修中

○は専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定、×は認定せず

※秀：９０～１００点
優：８０～８９点
良：７０～７９点
可：６０～６９点
不可：５９点以下

（出典：学生課資料）

資料５－５－③－３　海外英語演習の概要と認定者数

高松工業高等専門学校学生海外派遣助成制度について

平成 18 年１月 10 日
校長裁定

（目的）
第１　高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生を母国語を英語とする国に派遣し，語学研修へ参加させるとともに異文化の人々との生活を実体験させることにより，国際社会で活躍できる技術者になるための一助とすることを目的とする。
（派遣学生）
第２　派遣する学生（以下「派遣学生」という。）は，本校に在籍する本科４，５年生および専攻科生とし，心身ともに健全で向学心があり，学力に優れ，日常の学生生活が他の学生の模範となる者とする。
（派遣先）
第３　派遣先は，治安が良好な国及び地域にあり，短期語学研修制度等により，他国の学生を積極的に受け入れている機関とする。
（派遣時期及び期間）
第４　派遣する時期は，通常の教育課程に影響の少ない長期休業中とし，派遣する期間は，３週間程度とする。
（派遣に関する助成）
第５　派遣に関する費用は，本人負担の他，別に定めるところによる奨学金を派遣費用の一部として助成する。
（派遣の申請）
第６　派遣を希望する者は，所定の願書により，校長に願い出るものとする。
（派遣学生の選考等）
第７　派遣学生は，15 名以内を国際交流委員会の議を経て，校長が決定する。
（報告書の提出）
第８　派遣学生は，帰国の日から１か月以内に派遣報告書を国際交流委員会委員長を経由して校長に提出するものとする。
（単位認定）
第９　派遣学生に対する単位の認定については，別に定める。
（事務）
この要項に基づく学生の海外派遣に関する事務は，学生課において処理する。

※平成１８年度　参加者数：２名

（出典：サイボウズ「海外派遣助成制度」）

資料５－５－③－４　学外実習先と認定者数の一覧

専攻科(学外実習)	18年度実績				17年度実績				16年度実績			
会社名	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2
[redacted]										1		
										1		
									1			
										1		
										1		
			2			1						
			2			1			1	4		

※例えば，平成１８年度には２名の学生が学外実習に派遣され，両名とも認定された。

（出典：平成１６～１８年度　学外実習先一覧（教務係資料））

資料５－５－③－５　専攻科生の科目等履修生の実績

平成１８年度　１名
平成１９年度　１名

科目等履修生入学願書

平成 19 年 3 月 16 日

高松工業高等専門学校長　殿

現住所 高松市＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日　昭和 61 年 9 月 4 日生

下記により，高松工業高等専門学校科目等履修生として，入学を志願いたしたいので御許可くださるようお願いいたします。

記

１．履修科目等

別　紙

２．期　間

平成 19 年 4 月 1 日 ～ 平成 20 年 3 月 31 日

３．履修の目的

単位取得のため

別　紙
履修科目等

科　目	単位	期　別	担当教員	承認印
電気回路Ⅱ	2	前期・(後期)・通年	漆原	
応数Ⅱ	2	(前期)・後期・通年	原圓	

（出典：教務係資料）

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

専攻科の目的である「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導する」に照らして，専門科目の修得を目的とした科目では，より専門的な知識から高いレベルの実践力までの修得を幅広くカバーするために，授業形態として講義，演習，実験・実習の全てが採用されている。第１学年では知識の修得を行う講義科目とし，第２学年では，より専門的な高いレベルを教授する講義科目，及び特別研究による実践力・創造力の育成を図るという構成になっている。

職業上の能力の育成に関する科目としては，実験実習科目が第１学年に配置されている。これらの実施を可能とする専門的知識を教授するために，講義，演習，実験実習といった科目のバランスが適切である（資料５－６－①－１）。

学校の教育の目的に沿った学習指導法では，情報機器を使用した様々な授業が展開できるマルチメディア室，ミックスメディア室，コンピュータサイエンスセンターを活用して，計算演習，プレゼンテーション，対話・討論，ビデオ，e-learningなど幅広い授業形態の工夫が実践されている（資料５－６－①－２，３）。

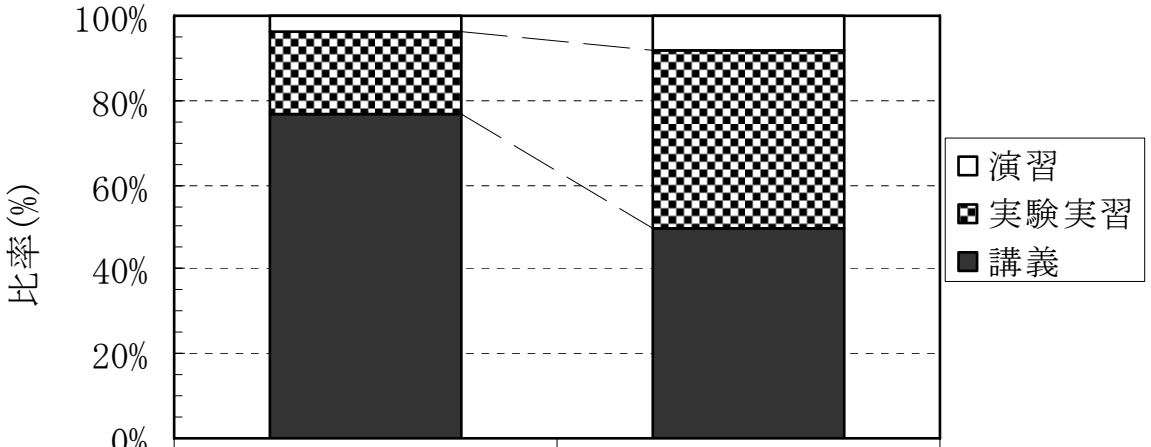
また，外部から招聘した非常勤講師による授業も行っており，各専攻とも少人数教育のきめ細かい教育体制が整備されている（資料５－６－①－４，５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

専門科目の修得，職業上の能力，加えてそれぞれの教育の目標を達成するために，講義，演習，実験実習を適切に組み合わせて，授業の目的とする能力等を身に付けさせる工夫を行っている。また，一般，専門，専攻，コースの区分を超えて学習指導等の工夫を行っている。以上のことから，本校の専攻科課程では，教育の目的に照らして，講義，演習，実験実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料５－６－①－１　専攻科の講義，演習，実験実習別の割合を示すグラフ



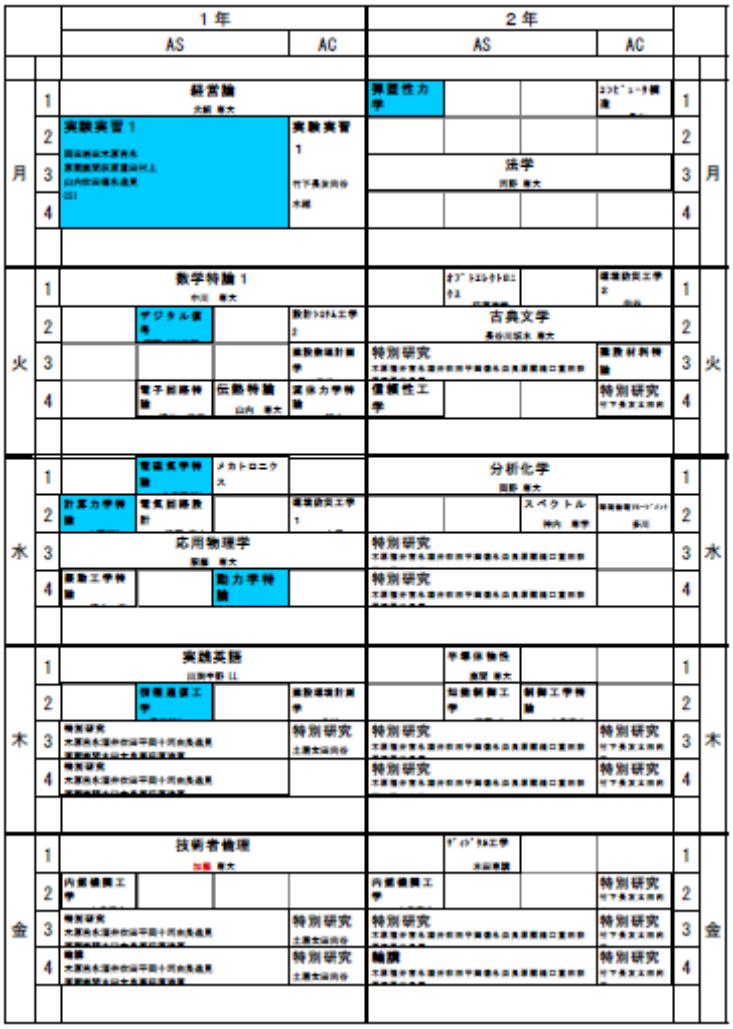
	AC-１年	AC-２年
演習	2	2
実験実習	10	10
講義	40	12

(単位数)

（出典：平成１９年度　シラバスより集計（建設工学専攻分））

資料５－６－①－２　マルチメディア室，ＣＳセンターの専攻科の使用状況

平成19年度(前期)専攻科授業時間割表

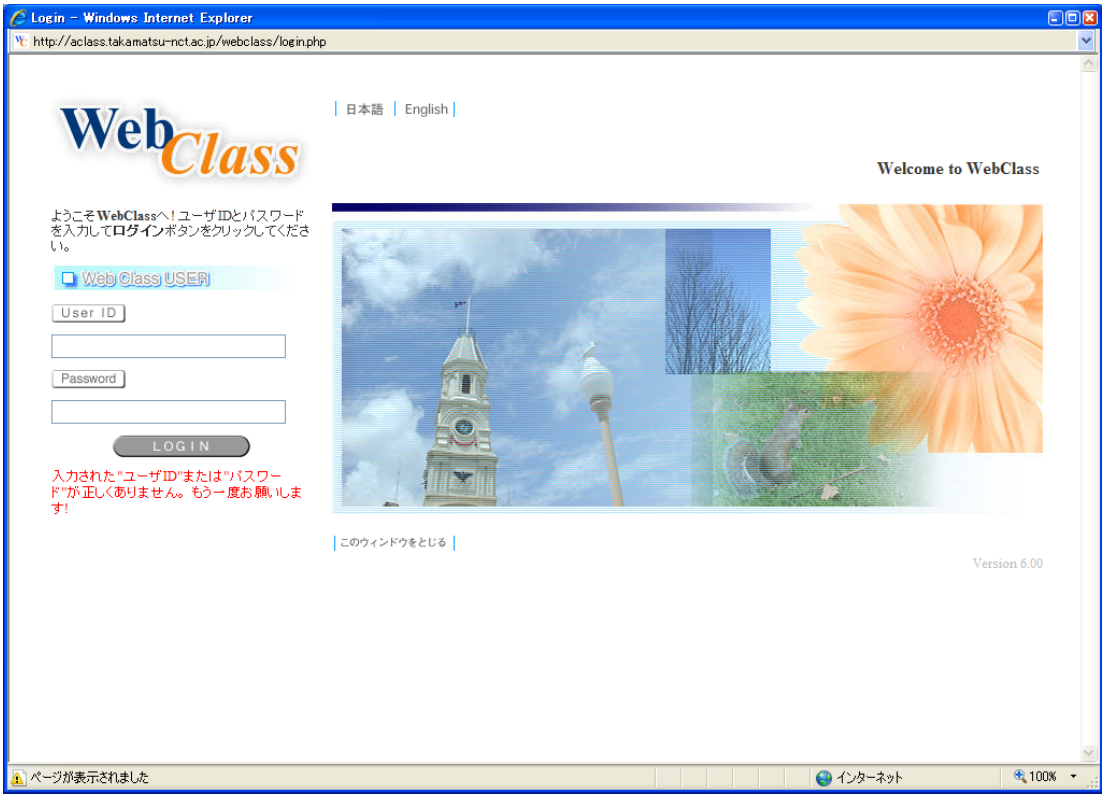


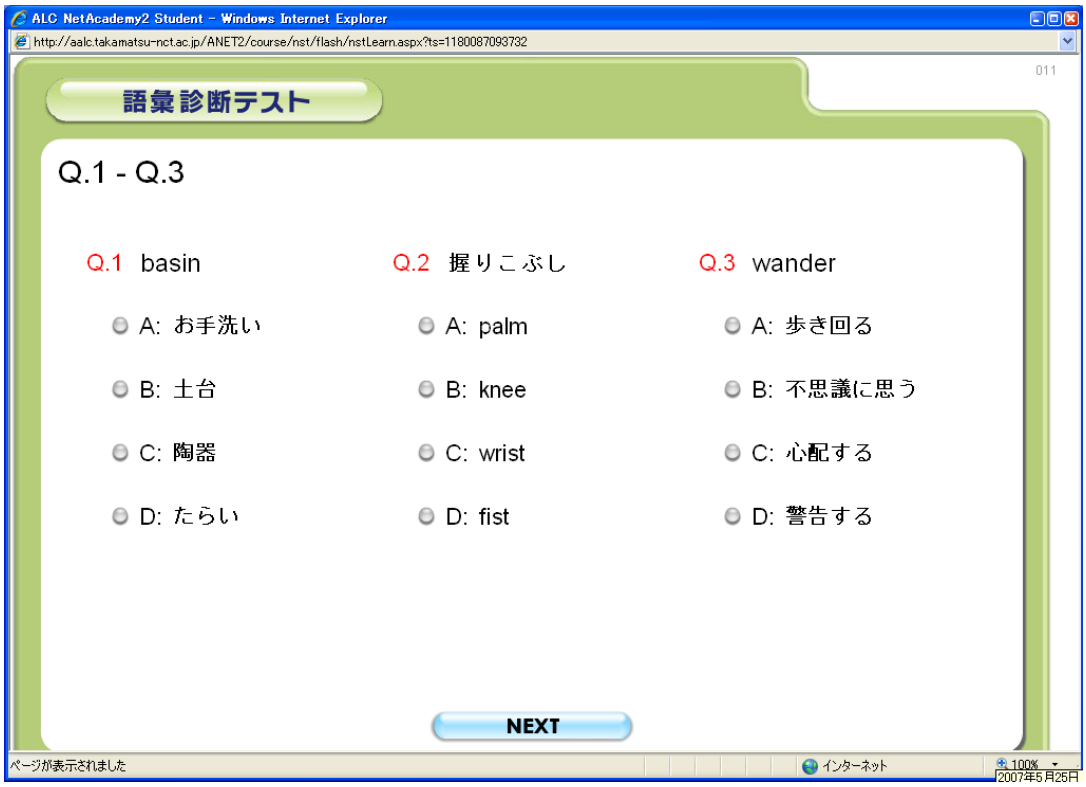
		1年 AS	1年 AC	2年 AS	2年 AC		
月	1	経営論		弾塑性力学		1	月
	2	実験実習１	実験実習１			2	
	3			法学		3	
	4					4	
火	1	数学特論１				1	火
	2	デジタル信号		古典文学		2	
	3			特別研究		3	
	4	電子回路特論	伝熱特論	信頼性工学	特別研究	4	
水	1			分析化学		1	水
	2	計算力学特論			スペクトル	2	
	3	応用物理学		特別研究		3	
	4		動力学特論	特別研究		4	
木	1	実践英語				1	木
	2	情報通信工学				2	
	3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	3	
	4	特別研究		特別研究	特別研究	4	
金	1	技術者倫理				1	金
	2	内燃機関工学		内燃機関工学	特別研究	2	
	3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	3	
	4	特別研究	特別研究	輪講	特別研究	4	

※図中，■がマルチメディア室，ＣＳセンターの専攻科の使用。

（出典：平成１９年度　授業時間割）

資料５－６－①－３　e-learning 教材のＣＲＴ画面





（出典：webclass のパソコンＣＲＴ画面）

資料５－６－①－４　平成１９年度　前期　専攻科の非常勤講師の授業一覧

①経営論

平成19年度

科目名	経営論 Strategy and Organization			担当教員	犬飼　知徳 （窓口教員：権藤典明）		
学年	1年	学期	前期	科目番号	07601	単位数	2
分野	教養科目	授業形式	講義	履修条件	必修		
学習目標	経営学は，大きく二つの領域に分けることができる．戦略論と組織論である．戦略論とは，企業が自らの目標（業界シェアNo1や，売上高営業利益率10%以上，など）を達成するために自らの持つ資源（ヒト，モノ，カネ，情報）を環境（競争相手，顧客の状況，供給業者との関係など）にどのようにフィットさせていくかを考える学問である．しかし，いくら優れた戦略を構築することができても，それを実際に遂行できなければ，「絵に書いた餅」でしかない．この戦略を実行するために組織をどう動かすのかを考えるのが組織論である．この講義では，これら二つの領域のベーシックな考え方を学び，使いこなすことを目標とする．						
進め方	単元ごとに基本的な概念や考え方を講義した後，学生諸君にそれらの考え方を用いて実際に企業に関する事例を分析してもらい，プレゼンテーションをしてもらう．						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1．マーケティング戦略（14） (1) 4つのPによるマーケティングミックスの構築 (2) 事例分析のプレゼンテーション			事例分析のプレゼンテーションと中間試験を総合して60%以上の得点があれば可とする．			
	前期中間試験						
	2．業界の構造分析(8) (1) ポーターの5つの競争要因枠組みによる分析方法 (2) 事例分析のプレゼンテーション 3．組織設計(8) (1) 組織設計の基本（職能性組織・事業部製組織・マトリクス組織） (2)事例分析のプレゼンテーション			事例分析のプレゼンテーションと中間試験を総合して60%以上の得点があれば可とする． *なお，プレゼンテーションは，2～3人を1チームとし，全授業期間を通じて，いずれかの単元で1回行なう．			
	前期末試験						
評価方法	授業期間内に行なうプレゼンテーションと中間・期末試験を総合して評価する．プレゼンテーションは私と学生同士のピアレビューで評価する．プレゼンテーションと，中間試験，期末試験，の全評価に対する割合は次の通りである． プレゼンテーション30%、中間試験30%、期末試験40%						
学習・教育目標との関係	◎A（2）　現代社会が支える技術の実態と技術者の役割を認識し，事例を通じてそれを説明することができる。						
関連科目	公民Ⅰ（本科2年）　→公民Ⅱ（本科3年）　→社会科学2（本科5年）						
教材	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣，2000年． 沼上幹『組織デザイン』日本経済新聞社，2004年．						
備考	プレゼンテーションの評価に占める割合が高いので，積極的な授業参加を期待します．						

②技術者倫理

平成１９年度

科目名	技術者倫理 Engineer ethics			担当教員	加藤俊作 （窓口教員：山内）		
学年	AC1	学期	前期	科目番号	07605	単位数	2
分野	工学基礎	授業形式	講義	履修条件	必修得		
学習目標	科学技術が高度に発達した現代、科学技術を利・活用する技術者として、科学技術の地球環境と人間社会への影響を知り、技術者としての責任を自覚することを目指す。						
進め方	教科書・参考書を中心に講義を進めるが、研究開発に携わってきたものとしての体験談、地球環境問題、技術者が係わっている社会問題事例を取り上げ、できるだけ多くの人の意見を聞き、ディスカッションしながら講義を進める。						

学習内容	学習項目（時間数）	合格基準
	１．技術倫理の概要(2) ①科目概要：技術倫理について ②講義の目的、目標 ③研究者・技術者の心構え	技術倫理とは何か、授業の目的を理解すること。研究者・技術者としてのあり方を考える。授業に出席し、研究者・技術者に対する自分の考え方を整理し、説明できること。
	２．科学技術の進歩と技術者(10) ①技術者としてのあり方 ②科学技術の進歩と限界 ③環境倫理、生命倫理、安全工学 ３．技術者倫理(4) ①個人倫理 ②社会人としての倫理 ③現代社会における技術者の倫理	科学技術への期待と夢、科学技術の持つ危険性と課題及び科学技術者としての責務の把握。地球環境・生命と人間との関わりを理解し、人と地球に優しい技術開発・社会活動の推進を目指す。また、個人的な倫理、社会人としての倫理、企業倫理などを考え、しっかりとした倫理観を身につけることを目指す。これらに対し自分の考え方を整理し、自分の考え方を説明できるようにする。授業ごとに配布する課題についてレポートを提出すること。
	４．現代における倫理問題(事例研究)(６) ①最近の技術倫理問題 ②代表的な倫理事例 ５．研究開発と技術者(４) ①独創性と模倣 ②研究の位置づけ ③研究の進め方と課題 ④研究論文の書き方（論文の引用等）	技術倫理に係わる代表的な事例並びに日常的に起こっている倫理問題を調べ、対処法を理解し、説明できること。 研究のあり方、進め方、まとめ方を考え、模倣ではなく、独創性を重んじる考え方を身につけ、前向きに対処できることを目指す。論文作成におけるトラブル問題を理解すること。レポートはしっかりした調べと、自分の意見を述べること。
	６．技術者の責任(4) ①製造物責任 ②知的財産権 ③環境監査 ７．まとめ　－技術者としての期待－(2)	技術者に係わってくる責任問題を理解し、説明できること。

評価方法	・評価を下す判断材料：評価はレポートに出席点と受講態度を加味する。 ・講義ごとに課題を出す。レポートを次回の授業時に提出・・分かりやすく、自分の意見を書くこと。（授業出席数及びレポート提出数が10回以上で60点） ・ディスカッションを重んじ、自分の意見を発表する機会を増やし、分かりやすさ等を評価に加味する。
学習・教育目標との関係	(A-2)「技術者倫理」を達成するための必修得科目である。
関連科目	知的財産権、環境科学
教材	教科書：「技術者になること　－これからの社会と技術者－」飯野弘之著：雄松堂 参考書：「はじめての工学倫理」斉藤了文、坂下浩司編 昭和堂 「科学者を目指す君たちへ」米国科学アカデミー編／池内　了訳
備考	教科書を事前に読み、考え方を整理して授業に望んで欲しい。また、日々、新聞を読み、技術倫理に係わる事項をメモすることを望む。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－６－①－５　平成１９年度専攻科の科目ごとの受講生数一覧

平成19年度　科目別履修者名簿　機械電気システム工学専攻 1年　前期

経営論	実践英語	技術者倫理	数学特論Ⅰ
必修	必修	必修	必修
大飼　知徳	出渕　幹郎 宇野　光範	加藤　俊作	中川　征樹
22名	22名	22名	22名

工学実験・実習Ⅰ	応用物理学	伝熱工学特論	内燃機関工学
必修	選択	選択	選択
本田　道隆	服藤　憲司	山内　庄司	小鳥　睦史
22名	13名	13名	13名

計算力学特論	動力学特論	振動工学特論	情報通信工学
選択	選択	選択	選択
木原　茂文	十河　宏行	橋本　良夫	富田　和弘
13名	10名	3名	8名

電磁気学特論	メカトロニクス	電子回路特論	ディジタル信号処理
選択	選択	選択	選択
太良尾　浩生	平岡　延章	樋口　弘志	原園　正博
8名	13名	8名	8名

電気回路特論
選択
添原　史朗
8名

平成19年度　科目別履修者名簿　建設工学専攻 1年　前期

経営論	実践英語	技術者倫理	数学特論Ⅰ
必修	必修	必修	必修
大飼　知徳	出渕　幹郎 宇野　光範	加藤　俊作	中川　征樹
5名	5名	5名	5名

建設工学実験・実習Ⅰ	応用物理学	設計システム工学Ⅱ	環境防災工学Ⅰ
必修	選択	選択	選択
竹下　治之 長友　克寛 松原　三郎	服藤　憲司	長友　克寛	土居　正信
5名	5名	5名	5名

流体力学特論	建設数理計画学	建設環境計測学
選択	選択	選択
鶴本　良博	向谷　光彦	多川　正
5名	5名	5名

（出典：サイボウズ掲示　教務資料）

観点５－６－②：　創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として，技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し，適切に対応する基礎的な能力を養成する科目として「特別研究」を活用している。特別研究では，第１学年末に中間報告会を全員に課している。これは，それまでの研究の中間報告書をとりまとめる，発表会によって指導教員以外の複数の教員，専攻科生から質疑応答や評価を受ける。そして，最終的な特別研究論文のとりまとめと報告会での発表による専攻科修了に向けて，ステップアップできるように配慮されている（資料５－６－②－１）。

また，学会等において２年間で少なくとも１回以上の学術講演を行うことを課しており，経済面からも援助がなされている。これによって，広く外部からも研究面での客観的な評価を受けることになる（資料５－６－②－２）。

実践的教育の一環について，インターンシップとして学外実習を第１学年で実施している。当該年度以前の受入企業の一覧を配布し，学生の多様なニーズに対応するようにしている。学外実習に派遣された学生は，実施報告書を提出するとともに，報告会を行って複数教員から評価を得ることで，公平な評定を行い単位認定している（資料５－６－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

具体的な創造性を育む教育方法として，特別研究，学会発表等が活用され，複数の教員による中間報告会の実施，特別研究論文の作成，最終発表会など工夫がなされている。

インターンシップとして学外実習を実施し，活用されている。

資料５－６－②－１　平成１８年度専攻科中間報告会，特別研究報告会プログラム

平成 18 年度　機械電気システム専攻 1 年　特別研究中間発表プログラム

平成 19 年 3 月 14 日　13:10 より　（発表 10 分、質疑 5 分で進行いたします）

第１会場：　大講義室　西側　（専攻科棟４階）
１３：１０　～　１４：10　　司会：　酒井　孝
（コース）　（指導教員）
1-1　川　西　　毅　　傾斜ダイスによる湾曲矩形管の成形解析
機械　木原　茂文
1-2　岡　田　直　人　　Ａ　ＲＢ法により結晶粒微細化した各種鋼板の曲げ加工にともなう結晶方位の変化

機械　酒井　　孝
1-3　笠　井　信　三　　付加価値を有する転写技術の確立
機械　酒井　　孝
1-4　吉　田　慶　介　　冷間強ひずみ加工した純アルミニウムおよび純銅のスプリングバックと結晶方位

機械　酒井　　孝

１４：１５　～　１５：００　　司会：　酒井　孝
1-5　吉　林　拓　也　　T iN 薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動に対する考察
機械　福井　智史
1-6　安　藤　知　晃　　上体を考慮したコンパス型歩行ロボットの歩容生成
機械　　吉永　慎一
1-7　原　田　敏　司　　アクティブ振動制御法を用いた直流モータの振動抑制
機械　吉永　慎一

第２会場：　大講義室　東側　（専攻科棟４階）
１３：１０　～　１４：１０　　司会：　吹田　義一
2-1　藤　澤　　祥　　健常者のための階段昇降補助装置の製作
制御　由良　諭
2-2　赤　松　祐　介　　時間割作成を支援するシステムの開発
制御　徳永　秀和
2-3　川　本　裕　太　　強化学習による RoboCup サッカーエージェントのパス行動学習
制御　徳永　秀和
2-4　濱　　達　也　　遺伝的プログラミングによる Robocode プレーヤーの進化
制御　徳永　秀和

１４：１５　～　１５：１５　　司会：　吹田　義一
2-5　十　川　弘　樹　　宇宙ＧＨＴＡ溶接法による模擬宇宙環境でのアルミニウム管の突合わせ溶接実験

制御　　吹田　義一
2-6　三　谷　健　太　　宇宙 DL 法によるステンレス鋼の溶加ワイヤ供給突合わせ溶接実験
制御　吹田　義一
2-7　中　川　智　仁　　ステッピングモータを用いた回転型倒立振子の安定化
制御　　平岡　延章

2-8　古　市　和　裕　　ステッピングモータのトルク駆動法とトルク特性
制御　　平岡　延章

平成１８年度 高松工業高等専門学校 専攻科
建設工学専攻　特別研究中間発表会プログラム

１．開催日時　平成１９年３月１９日（月）　１５：００～１７：０５

２．開催場所　高松工業高等専門学校 専攻科棟２Ｆ 講義室

３．プログラム（発表時間：１５分，質疑応答：１０分）　司会：竹下治之

（１）15:00-15:25　廃棄瓦を有効利用したプレミックスモルタルの開発　・・・・・・上田聡史
（２）15:25-15:50　多用途破砕機のチエーン形状が粉砕特性に及ぼす影響　・・・・・・ 柿原貴一
（３）15:50-16:15 硬質ウレタンを付着した鋼板の振動特性に関する解析　・・・・・・ 仙波文裕
（４）16:15-16:40　ガラス繊維シートを用いたか統制プレキャストコンクリート製品の接合法の開発　・・・・・・谷川幸平
（５）16:40-17:05　　鋼製金具で連結した大型ブロック積み擁壁模型の動的挙動　・・・・・・渕 靖文
※ 多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

平成 18 年度　特別研究発表審査会プログラム

開催日：　3 月 1 日（木）、13:10 開始（発表 15 分、質疑応答 5 分 で進行いたします）

第1会場：ミックスメディア（専攻科棟2階）

13:10 ～ 14:50　司会：吹田 義一、酒井 孝

			主査	副査	副査
1-1	大谷 雅人	宇宙ステーション軌道圧力での半導体レーザ突合せ溶接実験	吹田	山内	平岡
1-2	大原 将広	模擬宇宙環境でのアルミニウム管の宇宙GHTA溶接実験	吹田	山内	十河
1-3	五味 智紀	予混合圧縮自着火エンジンの多次元数値解析	小島	山内	木原
1-4	鎌田 卓治	対象物の外形認識を行う視覚センサシステムの開発	十河	山内	平岡
1-5	中原 久登	DSPを用いた回転型倒立振子の安定化制御	十河	由良	逸見

第2会場：大講義室 西側 （専攻科棟4階）

13:10 ～ 14:50　司会：樋口 弘志、本田 道隆

			主査	副査	副査
2-1	安井 孝児	3次元CGを用いたアニメーション提示速度の検討	重田	原囿	本田
2-2	弓山 直輝	フィーディング・バズ音による反響定位の分析	原囿	本田	重田
2-3	上田 将博	試聴実験による反響定位要因の検討	原囿	本田	重田
2-4	仲田 圭佑	PFM方式によるディジタル電力増幅器の試作と評価	樋口	重田	山内（兵庫県立大）
2-5	松村 優樹	圧電スピーカを用いたD級アンプシステムの試作と評価	樋口	重田	山内（兵庫県立大）

第3会場：大講義室 東側 （専攻科棟4階）

13:10 ～ 15:10　司会：荻原 昭文、漆原 史朗

			主査	副査	副査
3-1	今城 司	酸化亜鉛を用いた光触媒リソグラフィー	岡野	鹿間	荻原
3-2	尾﨑 祐輔	Xerogelを蒸着源とした真空蒸着法による酸化ニオブ薄膜の作製	岡野	鹿間	加藤
3-3	谷口 隼一	神経振動子を用いた二次元ホッピングロボットの跳躍移動パターン生成	漆原	太良尾	由良
3-4	渡辺 梨恵	EAS装置内における磁界の定量化及び人体モデル内誘導電流の解析	太良尾	由良	漆原
3-5	新開 一広	温度特性の異なる液晶材料を用いた回折光学素子の作製と光学特性解析	荻原	鹿間	岡野
3-6	廣苅 拓也	高分子分散型液晶を用いた画像情報のホログラム記録	荻原	鹿間	本田

平成１８年度　高松工業高等専門学校　専攻科
建設工学専攻　　特別研究発表審査会プログラム

１．開催日時　　平成１９年３月１日（水）　１３：３０～１５：００

２．開催場所　　高松工業高等専門学校　専攻科棟２Ｆ　講義室

３．プログラム（発表時間：２０分，質疑応答：１０分）　　司会：竹下治之

（１）13:30~14:00　コンクリート用粗骨材の粒形改善に関する研究　・・・井川理智

（２）14:00~14:30　豪雨災害時における崖崩れ発生と住民対応行動の特性分析　・・・藤川直毅

（３）14:30~15:00　香川県内橋梁に関する損傷度データベースの作成と損傷状況の考察　・・・光畑英樹

（出典：全教員に配信されたメール添付資料）

資料５－６－②－２　専攻科の学会発表補助規定，学会発表の補助の実績

平成18年7月6日

学会発表等での学生交通費等の補助について

専攻科長

専攻科学生の学協会等での発表を助成することを目的に，１８年度予算配分のうち「学科長裁量経費」（専攻科）を，下記の基準により学生の交通費等の補助に当てます。

１．教員の研究調査活動，学会発表等の補佐として専攻科学生の同行，参加を求めるものであること。
２．補助対象は交通費および宿泊費であること。
３．交通費および宿泊費に関して他の経費からの補助と重複しないこと。
４．別途定める各コース割り当て限度額の範囲内であることとし，必要に応じて各コース内で調整すること。

注意事項
（1）教育の一環として専攻科学生の学協会での講演発表を推進することを意図しており，当該学生が講演発表することを前提とする。
（2）本経費の支出は教員の教育研究を対象としているため，教員に同行しない場合は対象とならない。
（3）参加料，論文集代等は対象としない。ただし他の経費（委任経理金，教育後援会等）で参加料等を支払うことを妨げない。
（4）１回の補助限度額，回数等は特に定めないが，下記の各コース割り当て限度額の範囲内で，各コース内で相談調整して下さい。
（5）経費の請求には，職員の出張に準じて旅行伺と出張報告書を提出してください。旅行伺の「旅費の出途」欄には「学科長裁量経費（専攻科）」と記載してください。学科長押印欄には専攻科長が押印し，Ｗｅｂへの入力は財務係で行います。

各コース割り当て限度額

コース名[1)]	限度額[2)]（千円）
機械電気システム工学専攻	
機械工学コース	80
電気情報工学コース	280
制御情報工学コース	130
建設工学専攻	
建設工学コース	110

1）指導教員にかかわらず学生の所属するコースとする。
2）２年生の人数に１年生の人数を加味して算出した。

教育後援会学会発表補助費支払実績（平成16年度から平成18年度）

	平成18年度(1/22現在)		平成17年度		平成16年度	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
機械電気システム工学	4 件	32,060 円	17 件	163,660 円	18 件	170,000 円
建　設　工　学	0 件	0 円	5 件	50,000 円	5 件	50,000 円
合　計	4 件	32,060 円	22 件	213,660 円	23 件	220,000 円

（出典：専攻科委員会資料，教育後援会学会発表補助費支払実績）

資料５－６－②－３　学外実習資料（シラバス）

平成１９年度

科目名	学外実習 On-the-Job Training			担当教員	専攻科主任		
学年	AC1（AC2）	学期	通年	科目番号	07818	単位数	2
分野	専門	授業形式	実験	履修条件	選択		
学習目標	・自主的な行動力や問題解決能力を身に付ける。 ・社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付ける。 ・報告書の作成能力を高める。 ・報告会での意志伝達能力を高める。 ・将来の進路選択における判断材料の一つを得る。						
進め方	・主として１年次の夏期休業中の半月から１ヶ月間を利用して，民間企業または官公庁において実務訓練を受ける。 ・受入先において担当者が割り当てられるので，その指示に従うと共に自主的に行動する。 ・実習終了後は報告書を提出し，これに基づき報告会において発表・質疑応答を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	学外実習およびその報告会(90)			以下の各項目ができる。 ・社会人に対して自己の意志を明確に伝達できる。 ・与えられた課題を自主的に遂行できる。 ・報告書にまとめることができる。 ・報告会において，実習内容を第三者に分りやすく説明できる。			
評価方法	・評価は，報告書の内容，学外実習報告会における発表状況等により行う。 ・学外実習報告会における評価は，分かりやすさ，質疑応答に対する対応等について全教員による５段階評価を行い，その平均値を採用する。 ・総合評価 60 点以上を合格とする。						
JABEE の学習・教育目標との関係	・（Ｃ－２）「特別な課題の遂行」を平素の取り組みと達成度で評価する。（５０％） ・（Ｄ－１）「報告書等の作成」を報告書の内容で評価する。（２５％） ・（Ｄ－２）「口頭発表と質疑応答」を報告会の内容で評価する。（２５％） ・必修得科目群に属する。						
関連科目	・建設工学に関する全科目						
教材	・必要に応じて自分で探し出す。						
備考							

学外実習資料（学外実習実施要項）

学外実習実施要項

１．趣旨

企業等における製造・設計・技術開発・工事等の実務を行うことにより，学校で修得した知識及び技能を裏付け，技術者及び社会人としての自覚をもたせることによる教育的意義を認め，正課としてこれを実施する。

２．目的

（１） 実践的・技術的感覚を養うこと。

（２）組織の中で働くことによって技術に対する社会の要請を知り，学問の意義を認識するとともに，自己の創造性発揮の場を模索すること。

（２） 学問と生産との総合的関連を体験することにより，自己の能力を展開し，練磨すること。

（３） 技術に対する問題意識を養い，卒業研究における自立性を高めること。

３．実習の時期

原則として第１学年の夏季休業中に行う。

４．実習の内容

実習の内容は，学外実習機関のうち，学生が所属する学科の教育内容に照らして，教育効果があると判断される業務とし，あらかじめ学外実習機関と協議するもとのとする。

５．委員会等

（１） 学外実習に関する事項の処理は教務委員会がこれに当たる。

（２） 学外実習は教務主事主管のもとに各学科長が計画し，校長の許可を得て実施する。

６．学級担任の任務

学級担任は，教務委員会の方針に基づき，学生の指導及び学外実習機関との連絡に当たる。

７．学外実習責任者の任務

（１） 学外実習責任者は，原則として学外実習機関の配属先組織の単位の長とする。

（２） 学外実習の実施に当たり，学外実習機関における学外実習責任者として，指導計画を立て，その計画に基づいて学外実習中の指導を行い，終了後指導結果として別紙様式による学外実習証明書を作成し，校長に通知する。

（３） 学外実習に関し，学校への希望事項等関連事項について連絡調整する。

８．成績の評価

各学科長は，各学科毎に学外実習学生全員の学外実習報告書，学外実習証明書が提出された後，速やかに学外実習報告会を開き，その報告状況を総合して成績の評価（合格，不合格）を行い，その結果を校長に報告する。

学外実習資料（実施報告書の一例）

学　外　実　習　報　告　書

高松工業高等専門学校
機械電気システム　工学専攻主任　殿

学外実習責任者の認印	[redacted]

学外実習生	機械電気システム　工学専攻	氏　名	[redacted] 印
学外実習期間	平成 18 年 3 月 27 日～平成 19 年 4 月 10 日まで　実働 13 日間		
学外実習機関の配属先・組織名	[redacted] 専攻		
学外実習責任者	職　名 教授	氏　名	[redacted]
学外実習責任者からの要望事項	本人は大変熱心にテーマに取り組みました。今後の成長を期待致しております。朝早くから夜遅く迄実施しておりましたが，時間的に大変厳しい様でした。その事から2週間では短かい様に思います。種々の予定があると存じますが3週間程度が丁度良いと思います。		

題目（学外実習テーマ）

解析プログラム評価のためのエポキシ製骨模型システムによる剛性試験

実習内容（内容・所感）

近年増加傾向にある関節疾患のうち、重度の股関節疾患の治療に用いられる人工股関節のステムと大腿骨に発生する応力を解析するプログラムの評価を行った．

大腿骨-ステム系に発生するひずみと、系の挙動に大きく影響すると考えられている骨とステムの界面の接触面積の2点において、実験とシミュレーションの結果を比較し、解析プログラムの評価を行った。

ひずみはエポキシ樹脂製の骨模型とステムによる圧縮試験からひずみゲージを用いて測定し、接触面積は写真を撮影しし画像処理をすることで測定した．

結果として，一部に差があったものの，ひずみ・接触面積とも実験と解析の結果は定性的に一致し、解析プログラムは改善の余地があるものの十分系の挙動を模擬できていると考えられる．

また、骨-ステム系に荷重を負荷する場合の荷重負荷速度による影響についての検討を行った結果，体重程度の負荷であれば荷重負荷速度による影響は無いことが分かった。

専攻科（学外実習）	18年度実績				17年度実績				16年度実績			
会社名	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2
[redacted]										1		
										1		
									1			
										1		
										1		
			2			1						
			2			1			1	4		

（出典：平成１８年度　「学外実習」授業ポートフォリオ）

観点５－６－③：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

教育課程の編成の趣旨に沿って，専攻科委員会がシラバスを改善しており，様々な情報が記載されるようになった。学習目標，進め方，学習内容，合格基準，評価方法，学習・教育目標との関係を明記している。学習項目の欄には各項目毎の時間数を記載し，合格基準を満たすための学習保証時間が分かるようになっている。なお，学習・教育目標は，学生が修了時に身につけるべき学力や資質・能力に基づいている。

シラバスは，専攻科生全員に配布されて活用されている。授業の最初の時間には，学生に当該科目のシラバスを改めて全員配布して，授業内容と評価方法などを周知するガイダンスを行うことにしているこのことは，シラバスの学習項目に「ガイダンス」という記述が多く見られることでも分かる（資料５－６－③－１）。

学生のシラバスの利用状況について，マークシート形式の授業評価アンケート回答項目の中にシラバスに関する項目を設定しその結果をカードリーダーで集計し，教員にフィードバックしている（資料５－６－③－２）。

専攻科学生用シラバス・手引きには，１単位時間は５０分を標準とし，４５時間の学修を必要とする内容で構成していることを明示している（資料５－６－③－３）。

シラバスどおりに講義が行われたかについては，各科目ごとにポートフォリオを作成し，各時間における実施項目，配布物，レポート，レポートの模範解答，定期試験等を残すようなシステムを平成１７年度より構築している。これらの情報は学内全てのものが一括して資料室に集められており，全教員は所定の資料室に入ることが可能で，いつでも自由に閲覧することが出来る（資料５－６－③－４）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

教育課程の編成の趣旨に沿って，教育方法や内容，達成目標，評価方法等が記載されたシラバスが作成され，教員及び学生に活用されている。１単位時間は５０分を標準とし，４５時間の学修を必要とする内容で構成していることを明示している。専攻科課程における教育の目的との関連が記載されている。また，シラバスどおりに講義が実施されていることが確認できる。

資料５－６－③－１　シラバスの具体例…学習項目に「ガイダンス」と入っているもの

平成１９年度

科目名	設計システム工学Ⅱ Structural Design Ⅱ in Civil Engineering			担当教員	長友克寛		
学　年	ＡＣ１	学　期	前期	科目番号	07805	単位数	2
分　野	専門	授業形式	講義	履修条件	選択（JABEE 必修得）		
学習目標	一質点系粘性減衰型振動モデルについて，それに含まれる各特性値が説明できる。 一質点系粘性減衰型振動モデルについて，その理論式が導ける。 震度法の考え方が理解でき，実際に簡単な演習問題が解ける。 各種時刻歴応答解析法の考え方が理解でき，線形加速度法の基本式が導ける。 各種応答スペクトルの考え方が理解でき，それを文章と図とを用いて説明できる。 道路橋示方書（耐震設計編）の条文を通して，性能照査型設計法の考え方と設計の流れが理解できる。						
進め方	まず，耐震設計の基礎となる一質点系バネモデルについて説明する。具体的には，(1)実構造物のモデル化，(2)各種特性値の説明，(3)自由振動の運動方程式の誘導，(4)強制振動の運動方程式の誘導を行い，得られた式を基に振動特性について詳細に考察を加える。 次に，地震動に対する一質点系バネモデルの時刻歴応答解析法について解説し，基本式を導く。 そして，これをもとに各種応答スペクトルの概念について説明する。 最後に，鉄筋コンクリート橋脚を対象として，道路橋示方書に基づく耐震設計法を解説する。 具体的には(1)性能評価設計法の考え方，(2)橋脚の曲げモーメント－変位関係の求め方，(3)安全性の評価方法について説明する。 授業では，配付プリントを使用する。理解度を高めるため，適宜演習問題を課す。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格基準			
	1．　一質点系バネモデル（12） (1)授業ガイダンス (2)橋脚の１質点系バネモデル化 (3)自由振動の運動方程式 (4)強制振動の運動方程式			一質点系粘性減衰バネモデルに含まれる各特性値の説明ができる。 一質点系粘性減衰バネモデルの運動方程式およびその解が導ける。			
	2．時刻歴応答解析法（8） (1)各種時刻歴応答解析法 (2)震度法 (3)応答スペクトル			震度法の考え方が説明でき，実際に設計ができる。 各種応答スペクトルの意味が文章と図とを用いて説明できる。			
	3．鉄筋コンクリート橋脚の耐震設計法(10) (1)性能照査型設計の考え方 (2)曲げモーメント－曲率関係 (3)水平力－水平変位関係 (4)安全性の照査法			RC 橋脚の性能照査型設計法の考え方および設計の流れが説明できる。 RC 橋脚断面の曲げ耐力の求め方が図と文章とを用いて説明できる。			
	期末試験						
評価方法	・ 学習項目の全体評価への重みは，１～３についてそれぞれ約 35%，30%，35%とする。 ・ 試験の成績は，定期試験を 90%（90 点），課題への取組みを 10%（10 点）として評価する。 ・ 課題への取組みは，その提出状況と内容をもとに評価する。 ・ ただし，欠課１時間につき１点を減点する。						
学習・教育目標との関係	建設工学コース必修得科目である。 (E-2)「防災関連の基礎知識」を報告書の内容および試験結果によって評価する。 特に，耐震設計の基礎知識を身に付け，それを説明できるようになることが求められる。						
関連科目	構造力学Ⅰ，Ⅱ(3,4 年) → コンクリート構造(4 年) → 設計システム工学Ⅱ(AC1 年) → コンピュータ構造解析（AC2 年）						
教　材	配付プリント						
備　考	期末試験の答案において間違いの多かった事項等については，試験後直ちに連絡する。						

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－６－③－２　授業評価アンケート（専攻科１９年度後期）

授業評価項目

※以下、担当教員が指定するＡ，Ｂいずれかの各項目について、回答して下さい。

Ａ　座学の評価項目

１．授業で身につける内容は将来技術者として仕事をする上で有用であると思われる。
２．授業の進め方や説明は分かり易く行われている。
３．この授業を通じて，知識・技術への関心と興味を増すことが出来た。
４．授業の進め方，話し方，黒板の使い方等で，教員の配慮や工夫が感じられた。
５．総合的に判断して、この授業に何点をつけますか。５段階評価で評点をつけてください。
６．この授業全般、専攻科全体の授業および現状などについて感じていることを，マークシートの裏面に自由に書いてください。

Ｂ　実験実習系の評価項目

１．この実験実習の内容は将来技術者として仕事をする上で有用であると思われる。
２．この実験実習において，教員（技術職員）からの説明や指導は適切であった
３．この実験実習を通じて，知識・技術への関心と興味を増すことが出来た。
４．この実験実習中において，内容，説明，進め方で教員の配慮や工夫が感じられた。
５．総合的に判断して、この授業に何点をつけますか。５段階評価で評点をつけてください。
６．この授業全般、専攻科全体の授業および現状などについて感じていることを，マークシートの裏面に自由に書いてください。

○ 実験・実習Ⅰ・Ⅱ等，前後期繋がる科目は合わせて評価記載して下さい。
○ 複数教員が分担して担当する科目の場合は，全般的平均的評価を記載し，個別教員(テーマ)について記載すべき意見等があれば，設問６（マークシート裏面）に記載して下さい。

（出典：平成１８年度後期 専攻科授業評価実施要領）

資料５－６－③－３　専攻科シラバスの「授業と単位」

Ⅳ　履修要領

１　授業科目，修了要件，単位

（１）修了年限と要件

－－－－－

（中略）

－－－－－

（２）授業時間と単位

①　１単位時間は５０分を標準とし，４５時間の学修を必要とする内容で構成しています。

・講義：１５時間で１単位

・演習：３０時間で１単位

・実験・実習・特別研究・学外実習：４５時間で１単位

②　従って，講義,･演習については，自学自習が必要になります。

（３）授業の履修

①　別表の専攻別カリキュラム表を参考に授業開始から２週間後までに所定の様式で履修の登録をしてください。｛Ⅳの６（１）履修手続きを参照｝

②　特別研究については，Ⅳの３を参照。

③　学外実習については，Ⅳの４を参照。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバスの「授業と単位」p.2）

資料５－６－③－４　専攻科のポートフォリオ中の授業実施記録の一例

《平成１８年度》　【授業実施記録】　資料②

プログラム名	建設工学	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ課程・学年	□前期年, ☑専攻科２年
科目名（単位数）	環境防災工学Ⅱ(2)	教育目標との関連	□A-1, □A-2
学　期	□通年, ☑前期, □後期	□B-1, □B-2	□C-1, □C-2, □C-3
授業形式	☑講義, □実験, □演習	□D-1, □D-2, □D-3	□E-1, ☑E-2, □E-3
教員氏名・印/sign	向谷光彦　印	所　属	建設環境工学科

授業日	回数	講義項目等
平成18年4月11日	1, 2	授業の進め方、試験、輪講<p>
平成18年4月18日	3, 4	地球の歴史と地質<p>、輪：寺尾 Q&A45
平成18年4月25日	5, 6	平野と地質<P>、輪：藤 No. 86
平成18年5月2日	7, 8	低地の地盤地質<P>、輪：光 No. 111
平成18年5月9日	9, 10	台地・丘陵地の地盤地質<P>、輪：井 No. 129
平成18年5月16日	11, 12	山地の地盤地質<P>、輪：寺 No. 14
平成18年5月23日	13, 14	これまでの復習、補遺、輪：藤 No. 36
平成18年5月30日	15, 16	前期中間試験
平成18年6月6日	17, 18	火山地帯の地盤地質<P>、輪：光 No. 80
平成18年6月13日	19, 20	プレートテクトニクス<P>
平成18年6月20日	21, 22	環境地質、輪：藤 No. 21、井 No. 99
平成18年6月27日	23, 24	液状化<P>、輪：寺 No. 137
平成18年7月4日	25, 26	地すべり<P>、輪：光 No. 26
平成18年7月11日	27, 28	シンポジウム作文<レポート>until 7/31
平成18年9月12日	29, 30	期末試験
		以 上

（出典：専攻科授業ポートフォリオ）

観点５－７－①：　専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば，技術職員などの教育的機能の活用，複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

学校教育法上の専攻科の目的である「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導する」や，学校の目的である「課題解決の実行力と豊かな創造力」，「論理的なコミュニケーション能力」に照らして，ふさわしいテーマを指導教員が提示し，学生に選択させている。

指導体制として学位を持った主指導教員（主査）と副指導教員（副査）の２人（または３名）による指導体制を行っている（資料５－７－①－１）。

特別研究では１年生修了時点で中間発表，および２年生修了時点で最終報告会を実施し，ともに論文を作成させている。最終報告会は，地域の関係者にも開かれたものである（資料５－７－①－２）。

２年間の修業年限の中で学会発表が推奨されており，学校としても学会発表参加への経済的補助を行っている（資料５－７－①－３，４）。

専攻科創設以来，専攻科修了生は大学評価・学位授与機構による学士（工学）の審査を受審し，合格している。

技術職員も教員の補助に参画し，教育的機能を果たしている（資料５－７－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

学校教育法上の専攻科の目的や学校の教育の目的に照らして，複数の教員による研究指導が整備され，学内の発表会の実施，及び学外での学会発表の推奨，大学評価・学位授与機構での学士取得，技術職員による教育的機能の活用など，専攻科で修学するにふさわしい体制が整えられている。

資料５－７－①－１　平成１８年度２年生特別研究テーマと指導教員一覧表

会議資料 1

18 7 4

指導教員表

学年	番号	氏名	所属学科	指導教員	副査A	副査B
ＡＳ１	1	赤　松　祐　介	制御	徳永　秀和		
ＡＳ１	2	安　藤　知　晃	機械	吉永　信一		
ＡＳ１	3	岩　瀬　達　彦	電気	本田　道隆		
ＡＳ１	4	大　角　卓　也	電気	重田　和弘		
ＡＳ１	5	大　籔　貴　志	電気	原圀　正博		
ＡＳ１	6	岡　田　直　人	機械	酒井　孝		
ＡＳ１	7	尾　崎　　崇	電気	岡野　寛		
ＡＳ１	8	小　原　教　久	電気	樋口　弘志		
ＡＳ１	9	香　川　拓　也	電気	漆原　史朗		
ＡＳ１	10	笠　井　信　三	機械	酒井　孝		
ＡＳ１	11	川　西　　毅	機械	木原　茂文		
ＡＳ１	12	川　本　裕　太	制御	徳永　秀和		
ＡＳ１	13	北　谷　晋　吾	電気	本田　道隆		
ＡＳ１	14	吉　林　拓　也	機械	福井　智史		
ＡＳ１	15	桐　田　和　樹	電気	太良尾　浩生		
ＡＳ１	16	十　川　弘　樹	制御	吹田　義一		
ＡＳ１	17	中　川　智　仁	制御	平岡　延章		
ＡＳ１	18	濱　　達　也	制御	徳永　秀和		
ＡＳ１	19	原　田　敏　司	機械	吉永　信一		
ＡＳ１	20	東　山　佳　弘	電気	重田　和弘		
ＡＳ１	21	藤　澤　　祥	制御	由良　諭		
ＡＳ１	22	古　市　和　裕	制御	平岡　延章		
ＡＳ１	23	三　谷　健　太	制御	吹田　義一		
ＡＳ１	24	吉　田　慶　介	機械	酒井　孝		
ＡＳ２	1	石　井　穂　嵩	電気	本田　道隆	（次年度に審査予定）	
ＡＳ２	2	今　城　　司	電気	岡野　寛	鹿間共一	荻原昭文
ＡＳ２	3	今　田　達　也	電気	重田　和弘	原圀　正博	本田　道隆
ＡＳ２	4	上　田　将　博	電気	原圀　正博	本田　道隆	重田　和弘
ＡＳ２	5	大　谷　雅　人	制御	吹田　義一	山内庄司	平岡延章
ＡＳ２	6	大　原　将　広	制御	吹田　義一	山内庄司	十河宏行
ＡＳ２	7	尾　崎　祐　輔	電気	岡野　寛	鹿間共一	加藤　清孝
ＡＳ２	8	鎌　田　卓　治	制御	十河　宏行	山内庄司	平岡延章
ＡＳ２	9	五　味　智　紀	機械	小島　隆史	山内庄司	木原　茂文
ＡＳ２	10	新　開　一　広	電気	荻原　昭文	鹿間共一	岡野　寛
ＡＳ２	11	谷　口　隼　一	電気	漆原　史朗	太良尾　浩生	由良　諭
ＡＳ２	12	仲　田　圭　佑	電気	樋口　弘志	重田　和弘	山内健二（兵庫県立大学非常勤講師）
ＡＳ２	13	中　原　久　登	制御	十河　宏行	由良　諭	逸見知弘
ＡＳ２	14	廣　苅　拓　也	電気	荻原　昭文	鹿間共一	本田　道隆
ＡＳ２	15	松　村　優　樹	電気	樋口　弘志	重田　和弘	山内健二（兵庫県立大学非常勤講師）
ＡＳ２	16	安　井　孝　児	電気	重田　和弘	原圀　正博	本田　道隆
ＡＳ２	17	弓　山　直　輝	電気	重田　和弘	本田　道隆	重田　和弘
ＡＳ２	18	渡　辺　梨　恵	電気	太良尾　浩生	由良　諭	漆原　史朗

（出典：専攻科委員会資料）

資料５－７－①－２　平成１８年度建設工学専攻の中間発表プログラム，最終報告会プログラム

平成１８年度 高松工業高等専門学校 専攻科
建設工学専攻　特別研究中間発表会プログラム

１．開催日時　平成１９年３月１９日（月）　１５：００～１７：０５

２．開催場所　高松工業高等専門学校 専攻科棟２Ｆ 講義室

３．プログラム（発表時間：１５分，質疑応答：１０分）　司会：竹下治之

（１）15:00-15:25　廃棄瓦を有効利用したプレミックスモルタルの開発　・・・・・・・上田聡史
（２）15:25-15:50　多用途破砕機のチエーン形状が粉砕特性に及ぼす影響　・・・・・・ 柿原貴一
（３）15:50-16:15 硬質ウレタンを付着した鋼板の振動特性に関する解析　・・・・・・ 仙波文裕
（４）16:15-16:40　ガラス繊維シートを用いたか統制プレキャストコンクリート製品の接合法の開発
・・・・・・ 谷川幸平
（５）16:40-17:05　鋼製金具で連結した大型ブロック積み擁壁模型の動的挙動　・・・・・・　渕 靖文

※ 多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

平成１８年度　高松工業高等専門学校　専攻科
建設工学専攻　　特別研究発表審査会プログラム

１．開催日時　　平成１９年３月１日（水）　１３：３０～１５：００

２．開催場所　　高松工業高等専門学校　専攻科棟２Ｆ　講義室

３．プログラム（発表時間：２０分，質疑応答：１０分）　　司会：竹下治之

（１）13:30~14:00　コンクリート用粗骨材の粒形改善に関する研究　・・・・井川理智
（２）14:00~14:30　豪雨災害時における崖崩れ発生と住民対応行動の特性分析　・・・・藤川直毅
（３）14:30~15:00　香川県内橋梁に関する損傷度データベースの作成と損傷状況の考察　・・・・光畑英樹

（出典：全教員に配信されたメール添付資料）

資料５－７－①－３　学会発表を推奨する専攻科シラバスの記述

Ⅰ　高松高専専攻科について

本校専攻科には，機械電気システムエ学専攻と建設工学専攻の２専攻があります。機械電気システムエ学専攻は，本科の３学科に対応した機械工学コース，電気情報工学コースおよび制御情報工学コースがあり，建設工学専攻には建設環境工学科に対応した建設工学コースがあります。

１　高松高専専攻科は，「HI 学習・教育目標」に明示した実践的技術者教育を行います。

２　自発的問題解決能力，創造的技術開発能力を持つ実践的技術者を育成するために特別研究は特に重要な科目です。そのために，１学年から密度の濃い研究指導が行われます。

３　研究面では，学会等において少なくとも１回以上の学術講演を行うとともに，査読付き論文に投稿することを目標にしています。

Ⅱ　規則・規程について

－－－－－

（以下略）

－－－－－

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバスの「高松高専専攻科について」p. 1）

資料５－７－①－４　平成１８年度教育後援会によって補助された学会発表

平成18年7月6日

学会発表等での学生交通費等の補助について

専攻科長

専攻科学生の学協会等での発表を助成することを目的に，１８年度予算配分のうち「学科長裁量経費」（専攻科）を，下記の基準により学生の交通費等の補助に当てます。

１．教員の研究調査活動，学会発表等の補佐として専攻科学生の同行，参加を求めるものであること。
２．補助対象は交通費および宿泊費であること。
３．交通費および宿泊費に関して他の経費からの補助と重複しないこと。
４．別途定める各コース割り当て限度額の範囲内であることとし，必要に応じて各コース内で調整すること。

注意事項
（１）教育の一環として専攻科学生の学協会での講演発表を推進することを意図しており，当該学生が講演発表することを前提とする。
（２）本経費の支出は教員の教育研究を対象としているため，教員に同行しない場合は対象とならない。
（３）参加料，論文集代等は対象としない。ただし他の経費（委任経理金，教育後援会等）で参加料等を支払うことを妨げない。
（４）１回の補助限度額，回数等は特に定めないが，下記の各コース割り当て限度額の範囲内で，各コース内で相談調整して下さい。
（５）経費の請求には，職員の出張に準じて旅行伺と出張報告書を提出してください。旅行伺の「旅費の出途」欄には「学科長裁量経費（専攻科）」と記載してください。学科長押印欄には専攻科長が押印し，Ｗｅｂへの入力は財務係で行います。

各コース割り当て限度額

コ　ー　ス　名[1)]	限度額[2)]（千円）
機械電気システム工学専攻	
機械工学コース	80
電気情報工学コース	280
制御情報工学コース	130
建設工学専攻	
建設工学コース	110

1）指導教員にかかわらず学生の所属するコースとする。
2）２年生の人数に１年生の人数を加味して算出した。

（出典：専攻科委員会資料，教育後援会学会発表補助費支払実績）

資料５－７－①－５　平成１８年度に技術支援室に申請された専攻科関係の支援要請リスト

年度	支援要請書	授業計画要請書	研究活動支援要請書	業務実績	合計
平成１８年度	2	4	4	8	18
平成１９年度	1	5	4	1	11

※平成１９年度は５／２８現在。

技術支援室長	第１技術班長

支援要請書

平成１８年１０月１６日

技術支援室長　殿

要請者　所属　建設環境工学科
氏名　長友　克寛

項目	実験用鋼材の切断および穿孔
業務内容	建設工学専攻１年生の特別研究用として，コンクリートブロックを連結するための接続具を製作する。具体的には，鋼棒を約 15mm の幅で切断して２０個のブロックを作り，連結金具を差し込むために各ブロックに径 3.5mm の穴をあける。
期間	平成18年10月16日（　）～ 平成　年　月　日（　）
時間帯	曜日　時　分～　時　分
希望担当技術職員	第 1 技術班
備考	
処理	佃. 4H. 寺嶋1H. 5H.

※　「処理」欄は、技術支援室で記入します。

業務実績

平成１９年　４月分	第１技術班	氏名　佃　芳行

班長承認

日付	曜日	時間数	依頼	研究	内容	依頼者
11	木	1 h			CAD室椅子溶接修理	十河教員
19	木	1 h			試験タック片溶接	[redacted]
23	月	1 h			フレッシャーアングル切断	樋口教員
26	木	2 h			工作機械移動	高橋洋教員
27	金	1 h			アルミタック溶接	[redacted]

※　実験実習以外の業務について記入。
※　「依頼」「研究」欄は、該当するほうに○印を記入、研究は自己の研究に要したものに限る。
※　毎月５日迄に室長へ提出してください。

別紙様式１

授業計画予定表

平成１８年度　前期・後期　　学科等名　建設環境工学科・建設工学専攻

授業科目名	実験・実習別	学年	担当教官名	週当り必要時間	必要技術職員数	主たる業務内容	特記事項
基礎情報処理	実験・実習	2	春本	4　時間	1　人	コンピュータ操作補助 居残り学生指導補助	岡崎職員を希望
応用情報処理	実験・実習	3	春本	3	1	同上	同上
建設環境工学実験実習	実験・実習	3	竹下	4	1	実験準備・後片付け 実験補助	井下職員を希望
建設工学実験実習Ⅰ	実験・実習	AC1	竹下	1	1	同上	同上(前期のみ)
建設環境工学実験実習	実験・実習	2	向谷	3	2	実習準備・後片付け 実習補助	井下・岡崎職員を希望
建設環境工学実験実習	実験・実習	1	鶴本	3	2	同上	同上
建設環境工学実験実習	実験・実習	5	鶴本	2	1	同上	井下職員を希望
建設環境工学実験実習	実験・実習	4	土居	2	1	同上	岡崎職員を希望
卒業研究	実験・実習	5	全員	不定期	2	実験・実習の補助	井下・岡崎職員
	実験・実習						
	実験・実習						
	実験・実習						
	実験・実習						

※　希望する担当技術職員があれば、「特記事項」欄に記入願います。

（出典：技術支援室資料）

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

各科目の成績評価・単位認定や修了認定については，これらに関する規定が定められ，学生にも周知されている。全専攻科生には学生用手引き・シラバスが配布され，いつでも学生は自ら成績評価・単位認定や修了認定の基準を参照することが出来，オリエンテーションでも解説している（資料５－８－①－１）。

成績評価や単位認定は，科目担当教員がシラバスの記載に従って行っており，その結果は教務係と専攻主任による点検の後，これに基づいて修了認定会議が専攻科委員の教員出席のもと開催され，修了認定が行われ，適切に実施されている（資料５－８－①－２）。

各学期途中で中間試験を実施した場合は，各教員が授業時間において少なくとも１回は学生個人に答案を返却し，得点状況や採点の疑義について個別に確認させている。また，期末試験においても，試験終了後には成績提出まで少なくとも数日の余裕時間を設定し，その間に学生が各教科担当の教員にテストの答案を確認し，意見申し立ての機会が保証されている（資料５－８－①－３）

急病や入社試験等の理由で定期試験を受けられなかった学生には，所定の手続きによって追試験願を教務係に提出することによって受験することが出来，その成績評価方法についても定められている（資料５－８－①－４）。

１単位の履修時間は，授業時間以外の学習を合わせて４５時間であることは，学生用手引きに明示され周知されている（資料５－８－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各科目の成績評価や単位認定は，学生への周知を含めて適切に行われている。修了認定については，その規定が専攻科委員会で策定され，学生用手引き・シラバスにも記載することで学生への周知が行われている。認定の実施については，複数の点検体制が整備され，科目担当教員および認定会議において適切に実施されている。

資料５－８－①－１　成績評価，単位認定の規定，修了の規定，成績評価・単位認定・修了認定基準

Ⅳ　履修要件

１　授業科目，修了要件，単位

（１）　修了年限と要件

①　２年，ただし最高４年まで。

②　カリキュラムを参考にして，修了に必要な次の単位数（合計６２単位）を修得してください。

教養科目（必修科目＋選択科目）＋工学基礎科目（必修科目＋選択科目）で１６単位

専門科目（必修科目＋選択科目）で４６単位

専攻科修了に必要な授業区分別修得単位

区分		開設単位数			修得すべき単位数		
		必修	選択	合計	必修	選択	合計
教養科目		4	4	8	4	8 以上	16 以上
工学基礎科目		4	16	20	4		
専門科目	機械電気システム工学専攻	24	56	80	24	22 以上	46 以上
	建設工学専攻	20	30	50	20	26 以上	46 以上

６　履修手続き，試験，成績評価，再履修

（１）履修手続き

「高松高専専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき，所定の様式で，前・後期授業開始から２週間後に提出してください。

（２）試験

①　定期試験は，各学期末に実施します。

②　追試験は，病気等止むを得ない事由により定期試験が受験できなく，追試験願を提出し，許可された場合に実施されます。

（３）成績評価

①　成績の評価は「シラバス」に表示された方法で行います。

②　評点と評定及び単位認定は以下のとおりです。

評点	１００点～８０点	７９点～７０点	６９点～６０点	５９点以下
評定	A	B	C	D
判定	合格			不合格

（４）再履修

不合格となった授業科目は，再履修願を提出し，許可された場合は再履修することができます。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバスの「Ⅳ　履修要件」p. 1～p. 8）

資料５－８－①－２　修了認定会議資料（成績一覧），教科ポートフォリオに記載している成績分布の一例

修 了 認 定 会 議 議 事 要 録

日　時：平成１９年３月５日（月）１５時００分～１５時３０分
場　所：第二会議室
出席者：山内委員長，本田委員，竹下委員，坂本委員，市川委員，酒井委員，吹田委員
事　務：三好
議　題
１）修了認定について
　山内委員長から会議資料１に基づき報告があり、ＡＳ１６名・ＡＣ３名について、本校学則に基づく専攻科修了の認定が認められた。
　引き続き、各学科委員から配付資料に基づき説明があり、ＡＳ１６名・ＡＣ３名について、各プログラムの修了の認定が認められた。

２）その他
　特になし

平成１８年度　資料⑤/⑥

科　目　名	環境防災工学Ⅱ(2)	
学 年 ・ 期	ＡＣ２（プログラム２年）・前期	
分類・単位数	専門・必履修 ・２単位	
評価内容	試　　験	2回
	レポート	2回
	他(　　)	
最終評価	試験成績 ９０%，レポート１０ %	
対象学生数	4人（プログラム候補生）	
成績分布	80～100	1
	70～79	3
	60～69	0
	50～59	0
	49以下	0
備　　考	・対象学生は現プログラム4年生。 ・最終成績算出方法 中間試験(40)＋ﾚﾎﾟｰﾄ(5)＋作文(5)＋期末試験(50) ①　：23＋ 5 ＋ 4 ＋ 42 ＝74 ②　：24＋ 5 ＋ 4 ＋ 41 ＝74 ③　：26＋ 5 ＋ 5 ＋ 40 ＝76 ④　：27＋ 5 ＋ 4 ＋ 46 ＝82	

（出典：教務係資料，授業ポートフォリオ）

資料５－８－①－３　行事予定表

平成１８年度　専 攻 科 行 事 予 定 表

４月　１日（土）	春季休業（４月４日まで）
４月　１日（土）	学位授与申請書・学修成果書提出（４月期）（４月７日（金）まで）
４月　上　旬	前期授業料免除募集，　日本学生支援機構奨学生募集
４月　５日（水）	入学式，入寮式
４月　６日（木）	１年生，２年生健康診断①（全員受診）
４月　７日（金）	前期授業開始，　履修願締切日（授業開始から２週間後）
４月２４日（月）	平成１８年度中四国地区高専専攻科生研究交流会（於：阿南、25 日まで）
５月　８日（月）	入試（推薦）願書受付開始（５月 11 日まで）
５月１１日（木）	本科体育祭予行（短縮授業）
５月１２日（金）	体育祭の場合（休講とするが特別研究指導教員の指示を受けること）
５月１５日（月）	入試（推薦）選考委員会（願書受付期間５月８日～５月 11 日）
５月１６日（火）	入試（推薦）合格発表
５月２２日（月）	休講（５月２０日の振替）
５月２３日（火）	入試学力（前期）（願書受付期間５月 15 日～５月 18 日）
５月２４日（水）	入試学力（前期）選考委員会
５月２５日（木）	入試学力（前期）合格発表
５月　下　旬	学外実習手続き開始（希望者）
７月１４日（金）	臨時休業（７月 20 日まで）
７月２１日（金）	夏季休業（８月 31 日まで）
８月　１日（火）	審査員（主査，副査）候補者選定（特別研究指導教員・学科委員）
９月　上　旬	学位授与申請説明会
９月１１日（月）	審査員（主査，副査）決定（専攻科委員会）
９月　上　旬	後期授業料免除募集
９月　中　旬	学外実習報告会
９月１５日（金）	前期試験週間（９月 15 日～９月 25 日）
９月２７日（水）	前期成績締切日
10 月　１日（日）	学位授与申請書・学修成果書提出（10 月期）（受付期間は 10 月 1～10 月７日まで）
10 月　５日（木）	後期授業開始，履修願締切日（授業開始から２週間後）
11 月１０日（金）	本科学生祭準備（休講とするが特別研究指導教員の指示を受けること）
11 月１３日（月）	休講
11 月３０日（木）	入試学力（後期）・社会人（願書受付期間 11 月 20 日～11 月 24 日）
12 月　４日（月）	入試学力（後期）・社会人選考委員会
12 月　５日（火）	入試学力（後期）・社会人合格発表
12 月１７日（日）	大学評価・学位授与機構小論文試験（大阪）（申請時期 10 月期）
12 月２５日（月）	冬季休業（１月７日まで）
１月１１日（木）	特別研究審査申請書，特別研究論文（予備審査用）提出（教務係へ）
２月　９日（金）	特別研究論文（査読済み），特別研究論文集原稿及び研究論文・研究発表一覧の提出（教務係へ），特別研究論文は指導教員が保管
２月１４日（水）	後期試験週間（２月 14 日～２月 22 日）
２月２６日（月）	後期成績締切日
３月　１日（木）	特別研究審査発表審査会（午後）
３月　上　旬	修了認定会議 単位修得証明書の郵送（修得見込みで申請した科目分）
３月１６日（金） 中　旬	修了式 特別研究中間発表（３月 12 日～３月 26 日までの１日） 学位記授与（３月中旬～４月上旬）

○講義は試験を含めて１５回実施する。不足する場合は補講を行う。

（出典：専攻科行事予定表）

資料５－８－①－４　追試験についての記述，追試験願

６　履修手続き，試験，成績評価，再履修

（２）試験

①　定期試験は，各学期末に実施します。

②　追試験は，病気等やむを得ない事由により定期試験が受験できなく，追試験願を提出し，許可された場合に実施されます。

第２号様式

平成　　年　　月　　日

追　試　験　願

高松工業高等専門学校長　殿

（　　）工学専攻

学籍番号（　　）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は，下記の理由により定期試験を（受験できないので／受験できなかったので），追試験を許可してくださるようお願いします。

記

１．理　　由

２．理由の証明

３．試 験 科 目

定期試験月日	試験科目	担当教員及び承認印
		印
		印
		印
		印
		印
		印

注意　この願いは，所定の期日までに，担当教員の承認を得て学生課教務係へ提出すること。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

資料５－８－①－５　単位時間についての記述

IV　履修要領

1　授業科目，修了要件，単位

（1）修了年限と要件

－－－－－

（中略）

－－－－－

（2）授業時間と単位

①　１単位時間は５０分を標準とし，４５時間の学修を必要とする内容で構成しています。

・講義：１５時間で１単位

・演習：３０時間で１単位

・実験・実習・特別研究・学外実習：４５時間で１単位

②　従って，講義,･演習については，自学自習が必要になります。

（3）授業の履修

①　別表の専攻別カリキュラム表を参考に授業開始から２週間後までに所定の様式で履修の登録をしてください。｛IV の６（１）履修手続きを参照｝

②　特別研究については，IV の３を参照。

③　学外実習については，IV の４を参照。

（出典：平成１９年度　専攻科学生用手引き・シラバス）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程及び専攻科課程において，授業の進捗状況，試験結果や成績評価等を把握できるポートフォリオを全ての科目で整備し，制度化，義務化している。また，シラバスは授業の目標等が明示され学生に分かり易い表現で周知されており，活用されている。

教育の目標に沿ったカリキュラムが編成され，個々の授業方法においても工夫されている。専攻科課程においても，修了要件が厳格に適用され，大学評価・学位授与機構の審査で合格している。

創造性を育む教育の方法として，創成工学やメカトロニクスシステム設計などが実施されている。校外実習（インターンシップ）のシステムを４年生で整備し，単位を認定している。

人間性の素養の涵養について，クラスの特別活動，課外のクラブ活動，キャリア概論の単位化など，多様で計画的な活動を通じて行われている。

１年生で導入している混合学級は，他学科の学生と交流の輪を広げ，学習意欲の向上にも寄与している。

学生会との対話集会で，学生の要望等を汲み上げ，改善に取り組んでいる。

（改善を要する点）

特になし

（３）基準５の自己評価の概要

①準学士課程について

教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている。また，授業の内容が，教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。講義，演習，実験実習等の授業形態のバランスが適切であり，適切な学習指導法の工夫がなされている。

学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

教育課程の編成の趣旨に沿って，教育方法や内容，達成目標，評価方法等が記載されたシラバスが作成され，教員及び学生に活用されている。４５時間の学修を１単位とする学修単位科目についてもシラバスに明示されている。

具体的な創造性を育む教育方法として，創成工学やメカトロニクスシステム設計などが導入され，達成目標，実施計画，中間審査，最終報告書，最終発表会，評価方法など工夫がなされている。インターンシップとして校外実習を実施し，活用されている。

各授業科目の成績評価・単位認定や進級・卒業認定については，その規定が教務委員会で策定され，学生便覧に記載することで学生への周知が行われている。進級・卒業認定の実施については，科目担当教員による点検体制が整備され，認定会議において適切に実施されている。

特別活動，学校行事，キャリア概論等の実施状況から，教育課程の編成において，人間の素養の涵養がなされ，配慮されている。また，特別活動は設置基準で定められている９０単位時間を十分確保している。生活指導面や課外活動等において人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

②専攻科課程について

準学士課程の教育と連携を考慮して，一般文系，理系科目および専門科目が系統的に適切に配置されている。講義，演習，実験実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに配置され，教育課程の体系性が確保されている。また，授業の内容が，教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

具体的な創造性を育む教育方法として，特別研究，学会発表等が活用され，複数の教員による中間報告会の実施，特別研究論文の作成，最終発表会など工夫がなされている。インターンシップとして学外実習を実施し，活用されている。

教育課程の編成の趣旨に沿って，教育方法や内容，達成目標，評価方法等が記載されたシラバスが作成され，教員及び学生に活用されている。１単位時間は５０分を標準とし，４５時間の学修を必要とする内容で構成していることを明示している。シラバスどおりに講義が実施されていることが確認できる。

複数の教員による研究指導が整備され，学内の発表会の実施，及び学外での学会発表の推奨，大学評価・学位授与機構での学士取得，技術職員による教育的機能の活用など，専攻科で修学する体制が整えられている。

各科目の成績評価や単位認定は，学生への周知を含めて適切に行われている。修了認定については，その規定が専攻科委員会で策定され，学生用手引き・シラバスにも記載することで学生への周知が行われている。修了認定は科目担当教員の評価に基づいて認定会議において適切に実施されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校の目的に沿って，学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を学習・教育目標として定め，それらに割り当てられた授業科目を各課程の学年ごとに配置している（資料６－１－①－１）。その達成状況の把握は，教務委員会及び専攻科委員会において（資料６－１－①－２，３），卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力に対応した授業科目グループから単位取得した科目で行っている。さらに学生の達成状況の評価は，卒業（修了）時の認定規定（準学士課程の卒業認定規定（資料６－１－①－４）及び専攻科課程の修了認定規定（資料６－１－①－５））にもとづいて，卒業（修了）認定会議で行っている。なお，各授業科目の達成度評価（学習目標，合格基準，評価方法）はシラバスに明記しており（資料６－１－①－６），そのポートフォリオの作成により客観的な評価となるように努めている（資料６－１－①－７）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の目的に沿って，学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を学習・教育目標として定め，それらに対応した授業科目グループから単位取得した科目で，その達成状況を把握している。さらに達成状況の評価は，卒業（修了）認定規定にもとづいて，卒業（修了）認定会議で行っている。このことから判断して，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

資料６－１－①－１：学習・教育目標に対応した科目の配置表

1. 平成18年度授業科目の配置表(準学士課程)

1.1 機械工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史I 保健・体育 芸術	基礎数学I 基礎数学II 物理・同実験 化学・同実験 機械工学入門	保健・体育 キャリア概論 機械設計製図Ⅰ 工作実習Ⅰ	EnglishI Grammar 国語 キャリア概論 機械工学入門
	2年	国語 歴史II 公民I 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 基礎力学 情報処理Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 機械設計製図Ⅱ 工作実習Ⅱ	EnglishII English Reading 国語 キャリア概論
	3年	国語 公民II 保健・体育	数学解析I 数学解析II 応用物理Ⅰ 材料力学Ⅰ 加工学 機械要素設計Ⅰ 電気工学 情報処理Ⅱ	保健・体育 キャリア概論 CADⅠ 工作実習Ⅲ	EnglishIII English S&W 国語 キャリア概論
	4年	文学 保健・体育	応用数学Ⅰ 数値計算法 工学実験Ⅰ 応用物理Ⅱ 材料力学Ⅱ 熱力学 水力学 電子工学 コンピュータ工学 材料学Ⅰ 機械要素設計Ⅱ	保健・体育 工学実験Ⅰ CADⅡ	EnglishIV 文学
	5年	保健・体育	応用数学Ⅱ 制御工学 計算力学 材料力学Ⅲ 伝熱工学 流体力学Ⅰ システム工学Ⅰ 材料学Ⅱ 弾性力学 振動工学 メカトロニクス機構学	保健・体育 工学実験Ⅱ 卒業研究	技術科学英語Ⅰ 卒業研究

1.2 電気情報工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史I 保健・体育 芸術 情報処理基礎 電子情報基礎実習	基礎数学I 基礎数学II 物理・同実験 化学・同実験 電気基礎数学 情報処理基礎 電子情報基礎実習	保健・体育 情報処理基礎 電子情報基礎実習	EnglishI Grammar 国語 情報処理基礎 電子情報基礎実習
	2年	国語 歴史II 公民I 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 電気基礎Ⅰ 電気物理 情報数学 情報処理Ⅰ 工学基礎実験	保健・体育 工学基礎実験	EnglishII English Reading 国語 工学基礎実験
	3年	国語 公民II 保健・体育 電子情報工学実験Ⅰ	数学解析I 数学解析II 応用数学Ⅰ 物理学Ⅰ 電気基礎Ⅱ 電子工学 計測工学 論理回路 情報処理Ⅱ 電子情報工学実験Ⅰ	保健・体育 電子情報工学実験Ⅰ	EnglishIII English S&W 国語 電子情報工学実験Ⅰ
	4年	文学 保健・体育	応用数学Ⅱ 電気回路Ⅰ 電磁気学Ⅰ 電子回路Ⅰ 電気回路Ⅱ 電磁気学Ⅱ 電子回路Ⅱ アルゴリズム オペレーティングシステム 科学技術英語 電子情報工学実験Ⅱ	保健・体育 電子情報工学実験Ⅱ	EnglishIV 文学 電子情報工学実験Ⅱ
	5年	保健・体育 卒業研究 電子回路・論理回路設計 エネルギー環境工学	ディジタル計測制御 通信工学 情報通信ネットワーク 信号処理 情報理論 電子デバイス 制御工学 電子情報工学応用実験 卒業研究	保健・体育 電子情報工学応用実験 卒業研究	電子情報工学応用実験 卒業研究

1.3 制御情報工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史I 保健・体育 芸術	基礎数学I 基礎数学II 物理・同実験 化学・同実験 電子基礎 設計製図Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 工作実習Ⅰ	EnglishI Grammar 国語 キャリア概論 工作実習Ⅰ
	2年	国語 歴史II 公民I 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 加工学Ⅰ 情報処理Ⅰ 設計製図Ⅱ	保健・体育 キャリア概論 工作実習Ⅱ	EnglishII English Reading 国語 キャリア概論 工作実習Ⅱ
	3年	国語 公民II 保健・体育	数学解析I 数学解析II 応用物理Ⅰ 加工学Ⅱ 基礎力学 材料力学Ⅰ 電気回路 計算機システム CAD	保健・体育 キャリア概論 工学実験Ⅰ	EnglishIII English S&W 国語 キャリア概論
	4年	文学 保健・体育 機械要素設計 材料力学Ⅱ 材料学Ⅰ 熱工学 流体工学 電子回路	応用数学Ⅰ 機械要素設計 材料力学Ⅱ 材料学Ⅰ 材料学Ⅱ 熱工学 流体工学 電子工学 電子回路 情報処理Ⅱ 制御工学Ⅰ メカシス	保健・体育	EnglishIV 文学 メカシス 工学実験Ⅱ
	5年	保健・体育 材料学Ⅱ 機械力学	応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 材料学Ⅱ 情報処理III 制御工学Ⅱ 機械力学 ロボット工学 計測工学Ⅰ 計測工学Ⅱ システム工学	保健・体育 工学実験III 卒業研究	卒業研究

1.4 建設環境工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	国語 地理 歴史Ⅰ 保健・体育 芸術	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 物理・同実験 化学・同実験 工学基礎 測量学 建設環境工学実験実習Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 図学基礎	EnglishⅠ Grammar 国語 キャリア概論
	2年	国語 歴史Ⅱ 公民Ⅰ 保健・体育	微分積分 代数・幾何 物理・同実験 化学・同実験 環境生物学Ⅰ 基礎力学Ⅰ 測量学Ⅱ 建設環境工学実験実習Ⅱ	保健・体育 キャリア概論 基礎情報処理	EnglishⅡ English Reading 国語 キャリア概論
	3年	国語 公民Ⅱ 保健・体育	数学解析Ⅰ 数学解析Ⅱ 物理学Ⅰ 環境生物学Ⅱ 基礎力学Ⅱ 構造力学Ⅰ 材料工学 建設環境工学実験実習Ⅲ 環境工学Ⅰ	保健・体育 キャリア概論 応用情報処理 建設環境工学実験実習Ⅲ 建設環境工学演習Ⅰ	EnglishⅢ English S&W 国語 キャリア概論
	4年	文学 保健・体育 人文科学Ⅰ Ⅱ Ⅲ	物理学Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用データ処理学 構造力学Ⅱ 土の力学 水理学 都市・地域計画 建設工法学 建設環境工学実験実習Ⅳ 環境工学Ⅱ	保健・体育 応用データ処理学 建設環境工学実験実習Ⅳ 建設環境工学設計製図Ⅰ 創成工学 建設環境工学演習Ⅱ	EnglishⅣ 文学 建設環境工学設計製図Ⅰ 創成工学
	5年	保健・体育 社会科学Ⅰ Ⅱ Ⅲ 環境アセスメント	電気工学概論 応用数学Ⅱ 海岸工学 河川水文学 防災工学 建設環境工学実験実習Ⅴ 測量学Ⅲ	保健・体育 建設環境工学実験実習Ⅴ 建設環境工学設計製図Ⅱ 建設環境工学演習Ⅲ 卒業研究	建設環境工学設計製図Ⅱ 卒業研究

2. 平成18年度授業科目の配置表(専攻科課程)

2.1 機械工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	1年	経営論 技術者倫理 知的財産権	数学特論Ⅰ 数学特論Ⅱ 応用物理学 現代物理学 物理化学 伝熱工学特論 内燃機関工学 計算力学特論 動力学特論 最適化論 先端接合工学 材料強度学特論 振動工学特論 薄膜工学 知能ロボット工学 メカトロニクス 制御工学特論Ⅰ 音響情報工学 情報通信工学 画像処理工学 ディジタル信号処理 デバイス工学 電子回路特論 電気回路特論 電磁気学特論	工学実験・実習Ⅰ 工学実験・実習Ⅱ 特別研究 輪講 学外実習	実践英語 工業英語 工学実験・実習Ⅰ 工学実験・実習Ⅱ 特別研究 輪講 学外実習
	2年	法学 古典文学	分析化学 建設工学概論 弾塑性力学 スペクトル解析 信頼性工学 制御工学特論Ⅱ 知能制御工学 ディジタル工学 オプトエレクトロニクス 半導体物性	特別研究 輪講	特別研究 輪講

2.2 電気情報工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	専攻１年	経営論 技術者倫理 知的財産権 輪講 特別研究	数学特論I 数学特論II 応用物理学 現代物理学 物理化学 実践英語 工業英語 知的財産権 制御工学特論 電磁気学特論 電気回路特論 電子回路特論 情報通信工学 ディジタル信号処理 薄膜工学 デバイス工学 音響情報工学 画像処理工学	実験・実習Ⅰ 実験・実習Ⅱ 学外実習 輪講 特別研究	実践英語 工業英語 実験・実習Ⅰ 実験・実習Ⅱ 学外実習 輪講 特別研究
	専攻２年	古典文学 法学 輪講 特別研究	分析化学 半導体物性 オプトエレクトロニクス 知能制御工学 ディジタル工学	輪講 特別研究	輪講 特別研究

2.3 制御情報工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	専攻１年	経営論 技術者倫理 知的財産権	数学特論I 数学特論II 応用物理学 現代物理学 物理化学 実践英語 工業英語 知的財産権 先端接合学 動力学特論 伝熱工学特論 精密機械計測 制御工学特論Ⅰ	実験・実習Ⅰ 実験・実習Ⅱ 特別研究	実践英語 工業英語 特別研究 輪講
	専攻２年	古典文学 法学	分析化学 制御工学特論Ⅱ	特別研究	特別研究 輪講

2.4 建設環境工学コース

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力		A	B	C	D
授業科目	専攻１年	経営論 技術者倫理 知的財産権 建設環境計測学	数学特論Ⅰ 数学特論Ⅱ 応用物理学 現代物理学 物理化学 実践英語 工業英語 知的財産権 連続体力学 流体力学特論	建設工学実験・実習Ⅰ 建設工学実験・実習Ⅱ 特別研究	実践英語 工業英語 建設工学実験・実習Ⅰ 建設工学実験・実習Ⅱ 特別研究
	専攻２年	古典文学 法学 環境倫理・マネージメント	分析化学	特別研究	特別研究

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

資料６－１－①－２：教務委員会の規程

高松工業高等専門学校教務委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　本科教育課程の編成・実施に関すること。

二　本科の科目履修・成績処理に関すること。

三　授業の一環としての学校行事に関すること。

四　本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。

五　大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。

六　入学生の受入に関すること。（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を含む。）

七　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること。（留学生の教育課程を含む。）

八　学生の授業評価に関すること。

九　その他本科教務に関する必要な事項

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　教務主事

二　教務副主事

三　教務主事補

四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員

２　委員は，校長が委嘱する。

３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き，教務主事をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料６－１－①－３：専攻科委員会の規程

高松工業高等専門学校専攻科委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，専攻科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　専攻科教育課程の編成・実施に関すること。

二　専攻科学生の履修・学位申請に関すること。

三　専攻科入学者選抜の基本方針に関すること。

四　専攻科入学者選抜の運営に関すること。

五　その他専攻科教育に関する必要な事項

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　専攻科長

二　各専攻主任

三　各主事

四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員

五　事務部長

２　委員は，校長が委嘱する。

３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き，専攻科長をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を召集し，その議長となる。

３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料６－１－①－４：卒業認定規定

第６章　進級・卒業及び再履修

第18条　進級及び卒業の認定は，それぞれ進級認定会議及び卒業認定会議を経て，校長がこれを行う。

第19条　進級及び卒業を認定するに当たっては，以下の各号を満たしていること。

一　成績評定（0：不履修，1：未修得，2：準修得，3以上：修得）において，評定２以上（キャリア概論は合格）の単位数が表1に示す各累積単位数及び累積単位総数以上であること。

表１において特別活動の単位は含めない。単位認定を受けた特別学修，校外実習及び海外英語演習がある場合は，一般科目及び専門科目として認定された単位数をそれぞれ５学年の累積単位に加算する。

表１　累積単位数

学年	1年	2年	3年	4年	5年
一般累積単位数			65(63)	74(72)	75
専門累積単位数	3	8	23(24)	50(51)	82
累積単位総数	27	61	95(94)	131(130)	167

（　）内の数値は平成14年度以前に入学した学生に適用する。

二　第１学年から第３学年までについては，特別活動の履修成果が合格であること。

三　評定3以上の合計単位数が全履修科目（特別活動及びキャリア概論を除く。不履修と認定された科目を含む。）の合計単位数の２分の１以上であること。

四　各科の指定する科目の単位を修得（評定３以上）していること。

五　出席状況が良好であること。良好の目安は欠課時数が120時間以内であることとする。ただし，特別の事情があると認められる場合は審議する。

六　理由の如何を問わず欠課時数が400時間以内であること。この場合，遅刻，早退は400時間に加算しない。

七　４学年への進級及び卒業においては，現学年を含めてそれ以前の３学年間の「重み付き評価（別に定める）」が３以上であること。（この場合，現学年以前の2学年間については追認後のものを使用するが，現学年についてはその年度の評定を使用する。）

（出典：平成１８年度学生便覧６１頁）

資料６－１－①－５：修了認定規定

高松工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

平成11年4月1日制定

（趣旨）

第１条　高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第47条第2項及び第50条の規定に基づき，本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は，この規則の定めるところによる。

（授業）

第２条　1単位時間は，50分を標準とする。

2　授業は，講義，演習，実験・実習，特別研究及び学外実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。

3　各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

一　講義については，15時間の授業をもって1単位とする。

二　演習については，30時間の授業をもって1単位とする。

三　実験・実習，特別研究及び学外実習については，45時間の授業をもって1単位とする。

（履修方法）

第３条　専攻科の学生は，開設する授業科目のうち，選択科目の履修に当たっては，年度当初に，別紙第1号様式による選択科目受講届を所定の期日までに校長に提出しなければならない。

（定期試験）

第４条　定期試験は，各学期末に実施する。なお，平素の成績によって評価し得る科目については，試験の全部または一部を行わないことがある。

（追試験）

第５条　追試験は，病気その他やむを得ない事由により，定期試験を受験できなかった者は，担当教員の承認を得たうえで，別紙第2号様式による追試験願を所定の期日までに校長に提出し，その許可を受けた者について実施する。

（成績の評価及び評定）

第6条　授業科目の成績評価は，定期試験の成績及び平素の学習状況等を総合して行うものとする。

2　成績の評価は，100点法により評価し，次の区分による。

評　定	A	B	C	D
評　点	100点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

（単位の認定）

第７条　前条第2項の規定に基づき，A，B及びCに評価された授業科目については，当該授業科目を修得したものとして単位を認定する。

（再履修）

第８条　不合格科目の再履修については，あらかじめ担当教員の承認を得たうえで，別紙第3号様式による再履修願を校長に提出し，その許可を受けなければならない。

（修了に必要な単位）

第９条　専攻科の修了に必要な単位数は，62単位とし，教養科目及び工学基礎科目については16単位以上，専門科目については46単位以上修得するものとする。

（他専攻の授業科目の履修）

第10条　他の専攻で開設されている選択科目の履修を希望する学生は，あらかじめ担当教員の承認を得たうえで，別紙4号様式による他専攻の授業科目履修願を校長に提出し，その許可を受けなければならない。

2　前項により修得した単位は，8単位を超えない範囲で，当該専攻における単位として認定することができる。

（大学等の授業科目の履修）

第11条　他の高等専門学校の専攻科及び大学等（放送大学を含む。）

（出典：平成１８年度学生便覧６９頁）

資料６－１－①－６：シラバスの例

平成１８年度

科目名	電子工学 Electronics			担当教員	吉永慎一		
学年	4	学期	通年	科目番号	03223	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	主に，アナログ電気・電子の基礎について学ぶ．交流回路の計算法，各種半導体素子の原理とその応用回路について理解し，回路計算ができる能力を身につける。						
進め方	項目ごとに基本的な現象，回路について解説した後，回路計算の演習を行う．講義時は教科書の他にノートを持参すること．受講する際はただ板書をノートに書き写すだけでなく，常に意味を考えながらノートを作成すること．理解を深めるために，各節終了時にレポートを課すので必ず取組んで提出すること．						

学習内容	学習項目（時間数）	合格基準
	1．直流回路と交流回路（16） (1) 直流回路 (2) 交流回路，交流素子 (3) 交流回路の計算（RLC直列，並列）	交流素子について理解する． 交流回路の計算ができる．
	[前期中間試験]	
	2．半導体とその応用回路（14） (1) ダイオード (2) トランジスタ (3) トランジスタ増幅回路	各種半導体素子の構造と動作原理を理解する．トランジスタを用いた増幅回路の回路計算ができる．
	前期末試験	
	3．アナログ技術とオペアンプ（16） (1) オペアンプの基礎 (2) オペアンプによる増幅回路 (3) オペアンプによる応用回路	オペアンプの動作原理について理解する． オペアンプを用いた回路の回路計算ができる．
	[後期中間試験]	
	4．デジタル技術（14） (1) シーケンス回路 (2) 論理回路 (3) 記憶回路	簡単なシーケンス回路が理解できる．また，ブール代数を理解し，論理回路の簡単化を行うことができる．
	後期末試験	

評価方法	・評価の内訳は、レポートへの取り組みを 20%、定期試験を 80%として評価する。 ・評価の点数は、学習内容の項目 1～4 に対してそれぞれ 25%ずつ評価に入れる。
学習・教育目標との関係	機械工学コースの学習・教育目標との関連 全ての学習項目に対し ◎：（B）知識，B-2 機械工学に関連する基礎知識を身につける
関連科目	電気工学（３年）　→　電子工学(４年) ↑↓ コンピュータ工学(４年)
教材	教科書：小川鉱一　初めて学ぶ基礎電子工学　東京電機大学出版局
備考	

（出典：平成１８年度シラバス（機械工学科））

資料６－１－①－７：ポートフォリオの作成要領

＜教科ポートフォリオの作成と保管について＞

技術者教育認定機構（JABEE）の審査，学校教育法に基づく機関別認証評価その他の資料として，授業科目の実施記録を教科ポートフォリオとして集積，保管する。

１．対象科目

本科および専攻科で実施する全科目を対象とする。対象学生の所属学科等に関わらず，各科目の実施クラスごとにまとめて作成することを基本とする。

２．集積・保管する対象

下記資料に，中表紙（別紙書式）と当該科目シラバスをつけ，口取紙をつけて整理する。

(1) 授業実施記録

授業実施ノート，授業実施日程表等の実施日と実施内容を示す記録物。

(2) 総合成績算出資料

最終総合成績の算出方法の説明（各試験や提出物等の比率，総合成績算出式等）。
総合成績算出の集計表，一覧表等。

(3) 定期試験の問題用紙と担当教員による模範解答

各期ごとの答案の先頭に添付する。問題用紙に模範解答が記されている場合は　問題用紙の添付は必要ない。

(4) 定期試験の答案

各期ごとの答案のうち，(a) 優良な答案の数例，(b) 合格最低クラス(60点台)の答案の全て，(c) 不合格(60点未満)の答案の全て，を整理してまとめる。

(5) 成績評価に使用した提出物等

定期試験以外で成績評価に使用したレポート等の提出物で最終総合成績に占める比率の高いものは、(4) に準じる。造形物等のファイル困難なものは写真等でも可。

(6) その他，配布物，副教材等

３．同一科目で同一教員が複数のクラスを担当する場合の処置

授業内容がほぼ同一であり，1ファイルに収納できる分量であれば，複数のクラス分をまとめて一つのポートフォリオとしても良い。

４．提出時期

５月末までに前年度分を学科でまとめて下記保管場所へ提出する。非常勤教員が担当する科目は窓口教員または教務係へ資料を提出して頂き，窓口教員が５月末までに提出する。

５．保管場所

専攻科棟１階のポートフォリオ保管室（各科割り当ての棚）。

６．保管期間

5年。

７．その他

追加の整理，教科の参考等の目的で，保管場所から一時的に持ち出す場合は，その旨を保管棚の当該位置に明示するものとする。

（出典：教員の手引き，教務３５頁）

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

各学年における単位取得状況及び進級・卒業（修了）状況は，単位取得率及び進級・卒業（修了）率から概ね妥当である（資料６－１－②－１，２）。卒業研究（準学士課程５年生），特別研究（専攻科課程）は，その内容や評価方法から研究水準の確保がなされている（資料６－１－②－３，４）。特に，専攻科課程では，学外での学会発表を推奨しており，社会性やプレゼンテーション能力の向上を目指している（資料６－１－②－５）。

資格試験の取得については，平成１８年度に特別学修単位の認定規定を教務委員会で再検討し，平成１９年度から多くの資格試験に挑戦できる支援体制を整備した（資料６-１－②－６，７）。

学生の卒業（修了）時に，卒業（修了）認定規定にもとづき，卒業（修了）認定会議で卒業（修了）の認定を行っている。卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとの達成状況と卒業（修了）認定との合致度については，準学士課程では教務委員会が，専攻科課程では専攻科委員会が，「卒業要件点検表（資料６－１－②－８）」及び「修了要件点検表（資料６－１－②－９）」により確認作業を行っている（資料６－１－②－１０）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各学年における単位取得状況及び進級・卒業（修了）状況は，単位取得率及び進級・卒業（修了）率から概ね妥当である。卒業研究（準学士課程５年生），特別研究（専攻科課程）は，その内容や評価方法から研究水準の確保がなされている。学生の卒業（修了）時の授業科目の単位取得状況から，各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や資質・能力について，教育の成果や効果があがっていると判断できる。

資料６－１－②－１：平成１８年度の単位取得率

単位取得率 ＜平成18年度＞

1. 準学士課程(百分率)

学科 / 学年	M(1)	E(2)	S(3)	C(4)	平均
1年	0.997	0.996	1.000	0.983	0.994
2年	0.956	0.973	0.969	0.973	0.968
3年	0.994	0.967	0.975	0.962	0.975
4年	0.957	0.840	0.943	0.903	0.911
5年	0.958	0.968	0.972	0.971	0.967
平均	0.972	0.949	0.972	0.958	0.963

2. 専攻科課程

修了(退学)年度		AS	AC
2006	修得延べ科目数	451	93
	未修得延べ科目数	28	0
	修得率	0.938	1.000

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

資料６－１－②－２：平成１８年度の進級・卒業（修了）率

進級率及び卒業(修了)率 ＜平成18年度＞

1．準学士課程(百分率)

学科／学年	機械	電気情報	制御情報	建設環境	計
1年	40／40 100	39／40 97.5	39／39 100	40／41 97.6	158／160 98.8
2年	38／41 92.7	39／41 95.1	38／40 95	38／40 95	153／162 94.4
3年	42／42 100	34／39 87.2	40／44 90.9	36／39 92.3	152／164 92.7
4年	43／45 95.6	32／44 72.7	34／36 94.4	26／30 86.7	135／155 87.1
5年	40／41 97.6	33／33 100	41／41 100	34／34 100	148／149 99.3
計	203／209 97.1	177／197 89.8	192／200 96	174／184 94.6	746／790 94.4

注:休学者及び中途退学者を除く

2．専攻科課程(百分率)

専攻／学年	機械電気システム	建設	計
A2	16／18 88.9	3／3 100	19／21 90.5

注:休学者及び中途退学者を除く

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

資料６－１－②－３：卒業研究の評価表とテーマ一覧表

機械工学コース　卒業研究審査会　採点評価表

機械工学科		学生番号・氏名			
論文題目	[redacted]				
指導教員	[redacted]				印
発表審査者	a [redacted]	b [redacted]	c [redacted]		
	d [redacted]	e [redacted]	f		

審　査　項　目

指導教員の評価項目	評　価	備　考（コメント）
理解度	14　／15点	
創意工夫	12　／15点	
日常の自主性・計画性	18　／20点	
目的，結果，達成度	14　／20点	
指導教員の小計　①	58　／70点	

発表審査会での評価項目	内容理解度 ／５点	創意工夫 ／５点	予稿原稿 ／５点	発表と質疑応答 ／５点
発表審査員(a)	4	4	4	3
発表審査員(b)	4	3	4	3
発表審査員(c)	3	4	5	4
発表審査員(d)	3	4	5	3
発表審査員(e)	5	4	5	4
発表審査員(f)				
評価項目別の小計	19	19	23	17
発表審査会での小計　②	78／100　点	20点×発表審査者数（　5　人）		

中間発表会での評価項目	発表と質疑応 ／５点	内容理解度 ／５点	
中間発表会評価表から転載	4.40	4.20	
中間発表会での小計　③	8.6	／10	

総合評価	82／100点	①+（②／発表審査者数）+③

↑総合評価　は小数点以下四捨五入.

平成18年度特別研究テーマ一覧

◆機械電気システム工学専攻

テーマ名	学生名	指導教員名
ZnO薄膜の作製と光触媒リソグラフィーへの応用	今城　司	岡野　寛
試聴実験による反響定位要因の検討	上田　将博	原園　正博
宇宙ステーション軌道圧力での半導体レーザによる突合せ溶接実験	大谷　雅人	吹田　義一
模擬宇宙環境でのアルミニウム管の宇宙ＧＨＴＡ溶接実験	大原　将広	吹田　義一
Xerogelを蒸着源とした真空蒸着法による酸化ニオブ薄膜の作製	尾崎　祐輔	岡野　寛
対象物の外形認識を行う視覚センサシステムの開発	鎌田　卓治	十河　宏行
予混合圧縮自着火エンジンの多次元数値解析	五味　智紀	小島　隆史
温度特性の異なる液晶材料を用いた回折光学素子の作製と光学特性解析	新開　一広	荻原　昭文
神経振動子を用いた二次元ホッピングロボットの跳躍移動パターン生成	谷口　隼一	漆原　史朗
ＰＦＭ方式によるディジタル電力増幅器の試作と評価	仲田　圭佑	樋口　弘志
ＤＳＰを用いた回転型倒立振子の安定化制御	中原　久登	十河　宏行
液晶材料を用いたホログラムへの画像情報の記録	廣苅　拓也	荻原　昭文
圧電スピーカを用いたＤ級アンプシステムの試作・評価	松村　優樹	樋口　弘志
３次元ＣＧを用いたアニメーション提示速度の検討	安井　孝児	重田　和弘
フィーディング・バズ音による反響定位の分析	弓山　直輝	原園　正博
ＥＡＳ装置内における磁界の定量化及び人体モデル内誘導電流の解析	渡辺　梨恵	太良尾浩生

◆建設工学専攻

テーマ名	学生名	指導教員名
コンクリート用粗骨材の粒形改善に関する研究	井川　理智	竹下　治之
豪雨災害時における崖崩れ発生と住民対応行動の特性分析	藤川　直毅	竹下　治之
香川県内橋梁に関する損傷度データベースの作成と損傷状況の考察	光畑　英樹	太田　貞治

平成18年度卒業研究テーマ一覧

◆機械工学科

テーマ名	学生名	指導教員名
曲矩形棒成形に関する研究	秋朝　智也	木原　茂文
ロボコン競技用縄跳びロボットの製作と制御	池下慎一郎	山崎容次郎
時間とともに長さの変わるはりの有限要素振動解析	石動　裕也	橋本　良夫
ソーラーカーの開発	磯部　知明	岩田　弘
数値計算処理用並列スケルトンの最適化	伊藤　光	吉永　慎一
NFG鋼の機械的性質と曲げ特性の解明	今井　裕士	酒井　孝
各種プレス用鋼板の結晶粒微細化とその機械的性質および曲げ特性の解明	大西　敏史	酒井　孝
鋼構造物用動吸振器の開発	大西　慎	岩田　弘
金属材料疲労強度データベースによる機械構造用炭素鋼S10Cの確率疲労特性の解析	岡　憲司	岡田　憲司
レーザによる金属間化合物の3次元形成	尾崎　徹	高橋　洋一
ソーラーカーの開発	金盛　大樹	岩田　弘
クレーングリッパーの開発	上池　奈央	岩田　弘
エコカーの設計・製作	亀井　恵	高橋　義一
マイクロメカニクスに関する研究	神田　康成	酒井　孝
天井クレーンの吊り荷の振れ止め制御	児山　将司	吉永　慎一
湾曲矩形棒成形に関する研究	佐伯　哲弥	木原　茂文
ロボコン競技用縄跳びロボットの製作と制御	重松　佑紀	山崎容次郎
平板後流に関する研究	島村　豪敏	高橋　義一
火山探査機の開発	菅原　孝治	福井　智史
金属材料疲労強度データベースによる非鉄金属材料の疲労特性の解析	高田　敢司	岡田　憲司
押出し現象の実験的考察	竹内　直人	木原　茂文
VisualC++を用いた教材用ＱＭ法プログラムの作成	辻　剛史	吉永　慎一
金属材料疲労強度データベースによる機械構造用炭素鋼(S35C, S45C)の確率疲労特性の解析	蔦　亮一	岡田　憲司
冷間強ひずみ加工した純アルミニウムのスプリングバック特性の解明	長尾　悠平	酒井　孝
火山探査機の開発	中澤　理史	福井　智史
円筒管スピニング成形性評価のための成形解析	中田　雄也	木原　茂文
ARB法により結晶粒微細化した純銅のスプリングバック特性の解明	則近　孝彰	酒井　孝
TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動解析	福本　幸雄	福井　智史
バイオディーゼル燃料の製造とその特性	福家　広幸	小島　隆史
ドリブルロボットの製作と制御(第２報:ロボットの動作シミュレーションと設計・製作)	古川　陽平	山崎容次郎
時間とともに長さの変わる弦を有する系の有限要素振動解析	松本　純平	橋本　良夫
SCM435の回転曲げ疲労試験と金属材料疲労強度データベースによる確率疲労特性の解析	真鍋　雄太	岡田　憲司
弾性関節で構成されたロボットの制御(２指ロボットハンドへの仕事量制御の適用)	向井　仁	山崎容次郎
ドリブルロボットの製作と制御(第２報:ロボットの動作シミュレーションと設計・製作)	森本　康司	山崎容次郎
打撃音による固有振動数と減衰係数の同定法に関する研究	矢野　知也	橋本　良夫
走行するベルトの有限要素振動解析	山口　真吾	橋本　良夫
適応サーボ手法による倒立振子の台車位置制御	弓立　隆博	吉永　慎一
予混合圧縮自着火過程のモデリングと数値解析	吉岡　正起	小島　隆史
エコカーの設計・製作	呼坂　知映	高橋　義一
木質ペレットストーブの燃焼特性と燃焼灰の有効利用に関する研究	アイマン	小島　隆史
EGRおよび燃料噴射時期がディーゼル機関の排出物に及ぼす影響	シュックリ	小島　隆史

（出典：平成１８年度卒業研究審査会資料）

資料６－１－②－４：特別研究の評価表とテーマ一覧表

機械工学コース　専攻科・特別研究審査会　採点評価表

機械電気システム工学専攻	学生番号・氏名	9	
論文題目	[redacted]		
指導教員（主査）	[redacted] 印	副査A [redacted] 印	副査B [redacted] 印
発表評価者	a [redacted] 印	b [redacted]	c [redacted] 印

審　査　項　目

評価者および項目			評　価	備　考（コメント）
指導教員		理解度	9　／10点	
		創意工夫	8　／10点	
		日常の自主性・計画性	18　／20点	
		目的，結果，達成度	9　／10点	
小　計　①			44　／50点	
論文評価	副査A	理解度	8　／10点	
		創意工夫	8　／10点	
		目的，結果，達成度	9　／10点	
	副査B	理解度	10　／10点	
		創意工夫	9　／10点	
		目的，結果，達成度	10　／10点	
小　計　②			54　／60点	
発表審査(a)		予稿論文　内容理解	5　／ 5点	[redacted]
		予稿論文　英文・体裁	5　／ 5点	
		発表と質疑応答	7　／ 10点	
発表審査(b)		予稿論文　内容理解	4.5　／ 5点	
		予稿論文　英文・体裁	5.0　／ 5点	
		発表と質疑応答	8.5　／ 10点	
発表審査(c)		予稿論文　内容理解	5.0　／ 5点	
		予稿論文　英文・体裁	5.0　／ 5点	
		発表と質疑応答	9.3　／ 10点	
小　計　③			54.3　／60点	
プログラム４年評価　④			88　／100点	①＋（②／２）＋（③／３）
プログラム３年評価　⑤			87　／100点	中間発表会での評価
特別研究　総合評価			88　／100点	④×0.8＋⑤×0.2

↑④，⑤，総合評価　は小数点以下四捨五入とする．

（出典：平成１８年度特別研究審査会資料）

資料６－１－②－５：平成１８年度修了予定者の学会発表実績

修了予定者の研究実績一覧

機械電気システム工学専攻

著者名	論文名	発表機関	発表年月
今城　司	Photo catalytic Lithography using Zinc Oxide	Japan Journal of Applied Physics	2007.3 投稿予定
今城　司	ZnO 薄膜を用いた光触媒リソグラフィー	平成 18 年秋季第 67 回応用物理学会学術講演会講演予稿集	2006.8
今城　司	ZnO 薄膜を用いた光触媒リソグラフィー(Ⅱ)	平成 19 年春季第 54 回応用物理学会学術講演会講演予稿集	2007.3 申込み中
上田 将博	定常変動を伴うターゲットの超音波反響音	平成 17 年度電気関係学会四国支部連合大会講演論文集	2005.9
上田 将博	試聴実験による反響定位要因の検討	電子情報通信学会 2006 年総合大会講演論文集	2006.3
大谷 雅人	宇宙半導体レーザ溶接における光学部品への蒸着抑制技術	第 49 回宇宙科学技術連合講演会講演集	2005.11
大谷 雅人	宇宙レーザ溶接における光学部品への蒸着抑制技術象	第 22 回宇宙利用シンポジウム	2006.1
大谷 雅人	宇宙ステーション軌道圧力での宇宙 DL 溶接実験	溶接学会全国大会講演概要第 79 集	2006.9
大谷 雅人	宇宙ステーション軌道圧力での半導体レーザ溶接実験	第 50 回宇宙科学技術連合講演会講演集	2006.11
大谷 雅人	高真空環境下における宇宙半導体レーザ溶接実験	第 23 回宇宙利用シンポジウムプロシーディング	2007.1
大原 将広	宇宙 GHTA 溶接法による真空中での隅肉溶接実験	第 49 回宇宙科学技術連合講演会講演集	2005.11
大原 将広	宇宙溶ＧＨＴＡ溶接法によるアルミニウム合金Ｔ型隅肉溶接継手の製作	第 22 回宇宙利用シンポジウムプロシーディング	2006.1
大原 将広	宇宙 GHTA 切断法の基礎的研究	第 11 回四国地区材料関連学協会支部・研究会連合講演会	2006.9
大原 将広	宇宙 GHTA 溶接法によるアルミニウム管の模擬宇宙溶接実験	溶接学会全国大会講演概要第 79 集	2006.9
大原 将広	模擬宇宙環境下での宇宙 GHTA 溶接法によるアルミニウム管の溶接実験	第 50 回宇宙科学技術連合講演会講演集	2006.11
大原 将広	模擬宇宙環境での宇宙 GHTA 溶接法によるアルミニウム管の突合せ溶接実験	第 23 回宇宙利用シンポジウムプロシーディング	2007.1
尾崎 祐輔	イオンプレーティング法による AlN 薄膜の作製（Ⅲ）	応用物理学会中国四国支部 2004 年度支部学術講演会予稿集	2004.7
尾崎 祐輔	乾燥ゲルを蒸着源としたニオブ酸系薄膜の作製	2006年春季第53回応用物理学会関係連合講演会予稿集	2006.3
尾崎 祐輔	Xerogel を蒸着源とした真空蒸着法による酸化ニオブ薄膜の作製	第 47 回真空に関する連合講演会講演予稿集	2006.11
鎌田 卓治	視覚センサシステムを有する半自動小型移動ロボットの開発	電気関係学会四国支部連合大会講演論文集	2005.9
鎌田 卓治	視覚センサーを用いた形状認識システムの開発	中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集	2006.4
鎌田 卓治	対象物の外形認識を行う視覚センサシステムの開発	第 15 回計測自動制御学会中国支部学術講演会論文集	2006.11

（出典：平成１８年度専攻科特別研究論文集１２６頁）

資料６－１－②－６：平成１８年度資格試験合格者一覧表

平成１８年度資格試験合格者一覧

○機械設計技術者試験３級
５Ｍ：伊藤光，佐伯哲弥，神田康成
４Ｍ：井口雄介，石田和也，和泉卓也，白川淳一，
住友優太，瀧啓志，田中翔平，田中雅人，
豊田大輔，永井匠悟，八田浩二，平井佑樹，
松井秀樹
５Ｓ：相賀裕太郎，井上雅博，大島健輔，
太田隆浩，川田佳寿，楠祥治，佐野俊文
徳田大輔，西岡亮，馬場敏通，林達也，
福家英敏，藤本拓郎
４Ｓ：大浦拓也，鎌田早織，菅納史也，坂本大一，
末澤賢，富永英嗣，朴悠，藥師亮祐，
脇貴徳
○測量士補試験
３Ｃ：赤松保泰，松岡寿生，森澤海里，森谷謙一，
若狭剛
○技術士第一次試験
ＡＣ１：仙波文裕，渕靖文
５Ｃ：松本陽介
○土木学会認定技術者資格試験２級
ＡＣ２：井川理智，光畑英樹
ＡＣ１：上田聡史，柿原貴一，仙波文裕，渕靖文
○初級システムアドミニストレータ試験
５Ｃ：松本陽介
○基本情報技術者試験
５Ｃ：松本陽介
○建築ＣＡＤ検定試験２級
ＡＣ１：上田聡史，柿原貴一，仙波文裕，谷川幸平
５Ｃ：大西孝典，瀬戸亮太，中島慎一，蓮井勝，
松本陽介
○建築ＣＡＤ検定試験３級
５Ｃ：栗井克志，石井孝徳，大野祐昌，大前貴紀，
三谷敏之
○建築ＣＡＤ検定試験４級
５Ｃ：佐々木祐仁，末包聖人，堀江雄太，
松下友聡，松原宗伸
○日本漢字能力検定試験
（平成18年10月29日実施準２級以上）
２級
４Ｍ：松井秀樹
４Ｅ：大西章仁，鴻上貴亮，田中伸人
４Ｓ：秋山美紀，池内佑一郎，菅納史也，
松下和荘，藥師亮祐
４Ｃ：黒田貴大，山下泰勲
３Ｃ：三谷汐里
２Ｅ：竹内亜都子
準２級
４Ｅ：竹田一貴，田中伸人，森哲彦
４Ｓ：坂本大一
４Ｃ：梅本忠彦
３Ｍ：御厩清
３Ｅ：安本未智留
３Ｓ：鎌田倫行
３Ｃ：河野祐斗，山田毅
２Ｅ：木村奈美
２Ｓ：加藤秀章，高橋辰弥
１－１：木野まど香，高井志帆，田中翔也
１－２：藥師侑祐
１－３：石山亜弓，田中美帆，松尾雅文
○カラーコーディネーター試験２級
４Ｃ：中上優紀

（出典：高専だより１０２号，平成１９年３月７日発行）

資料６－１－②－７：特別学修単位認定の規程と資格試験等

高松工業高等専門学校以外の教育施設等における学修に関する規程

平成８年２月21日制定

（趣　旨）

第１条　この規程は高松工業高等専門学校学則第13条の４の規定に基づき，大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（以下「特別学修」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（文部科学大臣が別に定める学修）

第２条　前条の文部科学大臣が別に定める学修とは，次の各号に掲げる学修をいう。

一　大学又は短期大学の専攻科における学修

二　高等専門学校の専攻科における学修

三　技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で，別表１に定めるもの

四　次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査における成果に係る学修で，別表２に定めるもの

イ　審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。

ロ　審査の内容が，学校教育法（昭和22年法律第26号）第70条の２に規定する高等専門学校の目的に照らし適切なものであること。

ハ　審査が全国的な規模において，毎年１回以上行われるものであること。

ニ　審査の実施の方法が，適切かつ公正であること。

（学修手続）

第３条　学生は，大学における学修及び第２条第１号又は第２号による学修を行おうとするときは，大学等における学修許可願（別紙様式第１号）に，関係書類を添えて校長に提出し，許可を受けなければならない。

２　校長は，前項による願い出が教育上有益と認めるときは，これを許可するものとする。

科目名	資格名		対象学科	単位数	備考
一般特別学修	実用英検	実用英語技能検定 ２級	全	1	一般科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　準１級		2	
		同　上　１級		3	
	TOEIC	400以上～600点未満		1	一般科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		600以上～850点未満		2	
		850点以上		3	
	日本語漢字能力検定	準２級		1	一般科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		２級		2	
		準１級，１級		3	
専門特別学修	工業英検	工業英語能力検定 ３級		1	専門科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　２級		2	
		同　上　１級		3	
	機械設計技術者試験 ３級		MS	1	専門科目とする。
	基本情報技術者		全	1	
	ソフトウェア開発技術者		MES	2	
	電気主任技術者　第三種		E	1	
	陸上無線技術士　２級			1	
	陸上特殊無線技士　１級			1	
	工事担任者	ＡＩ・ＤＤ総合種		2	専門科目とする。最大2単位まで認める。
		ＡＩ第１種，第２種		1	
		ＤＤ第１種，第２種		1	
	測量士補		C	1	専門科目とする。
	測量士			2	
	技術士補（建設部門）			2	

※全（全学科）M（機械工学科）E（電気情報工学科）S（制御情報工学科）
C（建設環境工学科）

（出典：平成１９年度学生便覧）

資料６－１－②－８：平成１８年度の卒業要件点検表

平成１８年度　卒業要件の点検表

１．機械工学科（準学士課程）

氏　名	卒業認定	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力												卒業要件の点検
		A			B			C			D			
		取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	
	○	15	15	100%	39	42	93%	15	15	100%	14	14	100%	○
	○	15	15	100%	40	42	95%	15	15	100%	14	14	100%	○
	○	15	15	100%	39	42	93%	15	15	100%	14	14	100%	○
	○	15	15	100%	37	42	88%	15	15	100%	14	14	100%	○
	×	15	15	100%	33	42	79%	13	15	87%	13	14	93%	○

２．電気情報工学科（準学士課程）

氏　名	卒業認定	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力												卒業要件の点検
		A			B			C			D			
		取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	
	○	21	21	100%	43	46	93%	12	12	100%	18	18	100%	○
	○	21	21	100%	43	46	93%	12	12	100%	18	18	100%	○
	○	21	21	100%	42	46	91%	12	12	100%	18	18	100%	○
	○	6	6	100%	16	20	80%	5	5	100%	5	5	100%	○
	○	21	21	100%	42	46	91%	12	12	100%	18	18	100%	○

３．制御情報工学科（準学士課程）

氏　名	卒業認定	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力												卒業要件の点検
		A			B			C			D			
		取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	
	○	23	23	100%	42	44	95%	10	10	100%	16	16	100%	○
	○	22	23	95%	40	44	915	10	10	100%	16	16	100%	○
	○	23	23	100%	40	44	91%	10	10	100%	16	16	100%	○
	○	23	23	100%	40	44	91%	10	10	100%	16	16	100%	○
	○	22	23	95%	38	44	86%	10	10	100%	16	16	100%	○

４．建設環境工学科（準学士課程）

氏　名	卒業認定	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力												卒業要件の点検
		A			B			C			D			
		取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	
	○	17	18	94%	40	41	98%	22	22	100%	18	18	100%	○
	○	18	18	100%	40	41	98%	22	22	100%	18	18	100%	○
	○	17	18	94%	39	41	95%	21	22	95%	18	18	100%	○
	○	16	18	89%	39	41	95%	22	22	100%	18	18	100%	○
	○	17	18	94%	38	41	93%	22	22	100%	18	18	100%	○

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

資料６－１－②－９：平成１８年度の修了要件点検表

平成１８年度　修了要件の点検表

[redacted]

氏名	修了認定	修了時に身につけるべき学力や資質・能力											
		A			B			C			D		
		取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率	取得科目	受講科目	取得率
	×	3	3	100	16	17	94	2	4	50	4	6	67
	○	4	4	100	19	20	95	4	4	100	6	6	100
	×	4	4	100	11	17	65	2	4	50	4	6	67
	○	3	3	100	17	18	94	5	5	100	7	7	100
	○	3	3	100	16	16	100	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	16	16	100	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	15	16	94	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	16	16	100	4	4	100	6	6	100
	○	5	5	100	19	19	100	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	15	17	88	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	16	17	94	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	18	18	100	4	4	100	6	6	100
	○	3	3	100	15	18	83	4	4	100	6	6	100

（出典：平成１８年度修了認定会議資料）

資料６－１－②－１０：修了認定会議の議事録（修了要件点検の確認）

修　了　認　定　会　議　議　事　要　録

日　時：平成１９年3月5日（月）１５時００分～１５時３０分
場　所：第二会議室
出席者：山内委員長，本田委員，竹下委員，坂本委員，市川委員，酒井委員，吹田委員
事　務：三好
議　題

1）修了認定について

山内委員長から会議資料１に基づき報告があり、ＡＳ１６名・ＡＣ３名について、本校学則に基づく専攻科修了の認定が認められた。

引き続き、各学科委員から配付資料に基づき説明があり、ＡＳ１６名・ＡＣ３名について、各プログラムの修了の認定が認められた。

2）その他

特になし

- 1 -

（出典：平成１８年度修了認定会議議事録）

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における就職先は製造業，サービス業，建設業，公務員まで幅広い分野となっており，就職率（就職者/就職希望者）はほぼ１００％である。進学率（進学者/進学希望者）もほぼ１００％で，進学先は本校専攻科や他大学３年次編入である。専攻科課程における進路状況等もほぼ同じである（資料６－１－③－１，２）。これらは，準学士課程で養成される実践的な技術的素養，さらに専攻科課程で養成される高度な実践的技術力が社会的に認知され，本校が意図している養成しようとする人材像が進路先のニーズと合っていることを示している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の教育目的において意図している，養成しようとする人材像は，卒業（修了）生の進路状況等の実績や成果から判断して，進路先のニーズに合っており，教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－③－１：平成１８年度の卒業（修了）生の就職・進学状況

平成19年３月卒業・修了生就職等状況

（平成19年１月31日現在）

項目 / 学科または専攻名	修了予定者	卒業または	進学希者	就職希者	学合格者	大学院・大	就職内定者数			その他	求人会社数			求人総数			求人倍率
							県内	県外	合計		県内	県外	合計	県内	県外	合計	
機械電気システム工学専攻	17		6	11	6		3	8	11	0	28	341	369	33	368	401	36.5
建設工学専攻	3		0	3	0		1	2	3	0	13	99	112	13	100	113	37.7
機械工学科	41		24	17	20		3	13	16	5	44	500	544	47	528	575	33.8
電気情報工学科	33		18	15	18		6	9	15	0	38	492	530	39	516	555	37.0
制御情報工学科	41		25	16	25		2	13	15	1	28	441	469	29	462	491	30.7
建設環境工学科	34		17	17	17		5	11	16	1	17	143	160	19	143	162	9.5
合計	169		90	79	86		20	56	76	7				180	2117	2297	29.1

（出典：高専だより１０２号，平成１９年３月７日発行）

資料６－１－③－２：平成１８年度の卒業（修了）生の就職先・進学先

平成19. 3. 7　　高 松 高 専 だ よ り

平成19年3月卒業生・修了生の進学・就職内定先一覧

◎進学
○専攻科生

大学名	機械電気システム工学専攻	建設工学専攻
九州工業大学大学院	3	
大阪大学大学院	2	
徳島大学大学院	1	

○本科生

大学名	機械工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	建設環境工学科
高松高専専攻科	4	8	9	5
長岡技術科学大学	3	2	1	2
豊橋技術科学大学	2	1	1	4
香川大学	3	2	3	2
徳島大学		1	3	1
岡山大学	1	1	1	
広島大学	1			2
大阪大学		1		
九州大学		1		
京都府立大学	1			
静岡大学	1			
福井大学	3			
九州工業大学			1	
山梨大学			1	
三重大学			1	
神戸大学			1	
秋田大学			1	
名古屋大学			1	
宮崎大学			1	
宇都宮大学				1
金沢大学		1		
ESPエンタテイメント	1			

◎就職
○専攻科生
【香川】

会社名	機械電気システム工学専攻	建設工学専攻
㈱タダノ	1	
㈱長峰製作所	1	
隆祥産業㈱	1	
南海プライウッド株式会社		1

【岡山】

日本ゼオン㈱	1	

【大阪】

ダイセル化学工業㈱	1	
日東電工㈱	1	

【兵庫】

㈱川崎造船	1	
本州四国連絡高速道路㈱		1

【東京】

東レ㈱	1	
オムロンフィールドエンジニアリング㈱	1	
㈱カネカ	1	
日本オーチス・エレベータ㈱	1	
㈱建設技術研究所		1

○本科生
【香川】

会社名	機械工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	建設環境工学科
㈱石垣	1			
四国電力㈱	1	1		
東邦電機工業㈱		1		
伸興電線㈱		1		
四国化成工業㈱		1		
香川県警察本部		1		
三和工業㈱		1		
オリエンタルモータ㈱高松事業所			2	
香川県				1
高松市				1
泉鋼業㈱				1
㈱マオカ設計				1
四国電力㈱				1

【徳島】

徳島大学	1			

【岡山】

JFEスチール㈱西日本製鉄所	1			
㈱三造試験センター				1

【大阪】

㈱エクセディ	1			
太陽金網㈱	1			
ネクストウェア㈱		1		
㈱マイスターエンジニアリング		1		
サントリー㈱			1	
松下電器産業株式会社パナソニックAVCネットワークス社			1	
西日本旅客鉄道㈱				2
大阪ガス㈱				1

【兵庫】

三菱重工業㈱高砂製作所	1			
川重マリンエンジニアリング㈱	1			
㈱川崎造船	1			
㈱ｺﾍﾞﾙｺ科研				1

【和歌山】

花王㈱	1			

【愛知】

ソニーEMCS㈱	1			
デンソーテクノ㈱			1	
㈱タマディック			1	

【神奈川】

日本モレックス㈱	1			
富士ソフトABC㈱		1		
東亜石油㈱			1	
いすゞエンジニアリング㈱			1	
トルンプ㈱			1	

【滋賀】

東レエンジニアリング㈱	1			

【埼玉】

㈱ＤＲＤ	1			
エイム㈱			1	
日陽エンジニアリング㈱			1	

【鹿児島】

京セラ㈱鹿児島国分工場	1			

【静岡】

ソニーEMCS㈱湖西テック			1	

【東京】

三菱電機ビルテクノサービス㈱			1	
㈱クレオ			1	
三菱電機システムサービス㈱			1	
NECフィールディング㈱		1		
オリンパス㈱		1		
㈱日立製作所		1		
前田道路㈱				1
成友興業㈱				1
旭シンクロテック㈱				1

【石川】

川田工業㈱				1

【愛媛】

今治造船㈱				2

【京都】

京セラ㈱滋賀工場		1		

【広島】

㈱ネットワークシステム		1		

【千葉】

ピクターサービスエンジニアリング㈱		1		

（出典：高専だより１０２号，平成１９年３月７日発行）

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

学生は，卒業（修了）時に，卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について，５段階評定の学習達成度自己点検を行っている。平成１９年３月に教務委員会が，平成１８年度卒業生及び修了生の学習達成度自己点検について分析を行っている（資料６－１－④－１，２）。

準学士課程卒業時の分析結果によると，各学科において，卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価はおおむね３点以上であるが，項目「Ｄ：自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。」に対しては，３点を下回る学科がある。専攻科課程修了時の分析結果において，各専攻において，修了時に身に付けるべき学力や資質・能力に対する評価は，すべての項目で３点より高くなっている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

学生が行う学習達成度自己点検の分析結果から，準学士（専攻科）課程での卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は，全体平均で３点以上の評価が得られている。このことから，学校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

資料６－１－④－１：平成１８年度卒業生の学習達成度自己点検の分析

学習等達成度自己点検の分析【平成１８年度準学士課程卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	機械工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	建設環境工学科	全学科平均
(A)　広い視野と技術者としての倫理観（倫理）社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。	3.18	3.76	3.21	3.41	3.37
(B)　科学技術の基礎知識と応用力（知識）自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。	3.30	3.36	3.34	3.44	3.36
(C)　課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）課題に自発的に取り組み、創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。	3.20	3.36	3.37	3.34	3.31
(D)　論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。	2.83	3.42	2.66	2.66	2.88

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

資料６－１－④－２：平成１８年度修了生の学習達成度自己点検の分析

学習等達成度自己点検の分析【平成１８年度専攻科課程修了生】

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	機械電気システム工学専攻	建設工学専攻	全専攻平均
(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）　人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。	4.06	5.00	4.53
(B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）　自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる力を身につける。	4.27	4.25	4.26
(C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）　自ら課題を発見して，自主的に取組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力し合って課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。	4.00	3.75	3.88
(D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）　物事を論理的に考えて，それを日本語の文章と口頭で表現できる力を身につける。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。	4.32	3.25	3.79

（出典：平成１９年５月２９日教務委員会資料）

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，修了生（本校の卒業生でもある）及びその就職先に対して，本校の学習・教育目標である在学時に身に付けるべき学力や資質・能力等について，どの程度身に付いているかを中心にアンケート調査を実施している（資料６－１－⑤－１）。

修了生（本校の卒業生でもある）及び就職先のアンケート結果によると，在学時に身に付けるべき学力や資質・能力Ｄの「英語によるコミュニケーション能力」についてやや低い評価となっているが，在学時に身に付けるべき学力や資質・能力Ｂの「技術の基礎知識と応用力」については高い評価を得ている。さらに，修了生の資質に関する意見として，一般科目の知識，語学力，社会性及び集団活動におけるリーダーシップなどの面でやや物足りないとの指摘が一部であるが，多くの就職先では，その総合的資質を高く評価している。

他方，卒業生に関するアンケート調査（平成１４年度）によると，卒業生及び企業のどちらからも，専門的な基礎・応用能力については良い評価を得ている（資料６－１－⑤－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

修了生（本校の卒業生でもある）及びその就職先へのアンケート結果から，修了時に身に付けるべき学力や資質，能力については，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。一方，修了時に身に付けるべき学力や資質・能力の一つである「英語によるコミュニケーション能力」が不足しているとの意見もみられたので，教育方法改善への取組が必要である。

卒業生についても，過去のアンケート調査から，概して教育の成果や効果が上がっていると判断できるが，今後改めて準学士課程卒業者及びその就職先・進学先へ，在学時に身に付けるべき学力や資質，能力についてのアンケート調査を実施する必要がある。

資料６－１－⑤－１：修了生及び就職先へのアンケート結果

高松高専 技術者教育に関するアンケート（専攻科卒業者受入企業）　　2004年11月実施

１過去に受け入れて頂いた専攻科卒業者について					
(1) 受入年	2001	2002	2003	2004	
	8	6	7	5	
(2) 卒業専攻名	機械電気システム		建設工学		
	22		4		
(3) 現在の職種	設計調査	研究開発	製造生産	施工管理	営業販売
	12	3	4	1	
	企画計画	その他			
		6			
２上記の卒業者を通して見た当高専の教育に関して					
(1)次に挙げる資質や能力について，入社時に身に付いていたと思われますか。	十分		普通		不十分
	5	4	3	2	1
(A)広い視野と技術者としての倫理観（倫理）	5	8	6	1	
(B)科学技術の基礎知識と応用力（知識）	4	12	4		
(C)課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）	1	11	6	2	
(D)論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーシ	4	8	7	1	
(2)不十分な項目に関するアドバイス	別紙に記載				
(3)次の分野に関する知識や能力について，満足または不満足の程度をお教えください。	満足		普通		不満足
	5	4	3	2	1
a．人文科学，社会科学等に関する能力		4	12	3	
b．語学（英語）力		3	14	2	1
c．自然科学（数学，物理，化学等）に関する能力		12	6	2	
d．情報処理に関する能力	6	9	5		
e．専門技術に関する能力	3	14	2	1	
(4)貴社の求めるレベルに対して当高専専攻科卒業者のレベルをどう考えられますか。	十分		普通		不十分
	5	4	3	2	1
	5	13		1	
３．当高専の教育に対する御意見	別紙に記載				

高松高専 技術者教育に関するアンケート（専攻科卒業者）　　2004年11月実施

1. 卒業年	2001	2002	2003	2004	
	4	7	6	6	
2. 卒業学科	機械	電気	制御	建設	
	5	3	11	4	
3. 卒業専攻	機械電気システム		建設工学		
	19		4		
4. 進路	就職	大学院	院後就職	その他	
	13	9	1		
5. 現在の職種	設計調査	研究開発	製造生産	施工管理	営業販売
	5	4	3	2	
	企画計画	その他			
	1	5			
6. 高松高専（本科と専攻科）で受けた教育に関して					
(1)あなたが専攻科を卒業する時，次の能力が実際に身に付いていたと思われますか。	十分		普通		不十分
	5	4	3	2	1
(A)広い視野と技術者としての倫理観（倫理）		7	12	3	1
(B)科学技術の基礎知識と応用力（知識）		12	8	3	
(C)課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）	3	9	9	2	
(D)論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）		4	9	9	1
(2) 解決策等のアドバイス	別紙に記載				
(3)次の教育分野に関してそれらは高松高専を卒業してからどのくらい役に立ちましたか。	十分		普通		不十分
	5	4	3	2	1
a．人文科学，社会科学等に関する能力		1	16	6	
b．語学（英語）力		3	6	9	5
c．自然科学（数学，物理，化学等）に関する能力	4	12	6	1	
d．情報処理に関する能力	3	8	8	4	
e．専門技術に関する能力	9	9	5		
専），国際的水準と照らして，十分だったと思われますか。	十分		普通		不十分
	5	4	3	2	1
		11	9	2	1
7. 高松高専で受けた教育に対して，良かったと思う点	別紙に記載				
8. 高松高専で受けた教育に対して欠けていたと思われる	別紙に記載				
9. 高松高専で過ごした学生生活に対し，１００点満点で点を付けるとすれば何点だと思われますか。	99-90	89-80	79-70	69-60	59-50
	5	8	8	1	1

（出典：修了生及び就職先のアンケート結果（平成１６年実施），本校ＨＰ掲載より抜粋）

資料６－１－⑤－２：卒業生及び企業へのアンケート結果

平成 15 年 3 月

平成 14 年度　公開講座委員会　点検・評価（抜粋）

公開講座委員会委員長・リフレッシュ教育推進センター長　　土居正信

5．アンケート調査の実施について

本アンケートの目的は以下のとおりである。
- 地域（対象者別）のニーズの調査
- 地域への情報発信の足懸かりを模索
- 高松高専の外部向け事業（公開講座，高度技術者養成研修など）のヒントを得る

表－1　アンケート回収結果

依頼先	依頼数	回答数	回収率(%)
地域企業	94 社	33 社	35.1
卒業生	147 名	36 名	24.5

本アンケート調査結果の対象別概要は以下のとおりである。

○地域企業
- 高松高専の対外的事業に参加した企業（人）は少なく，高松高専に来たことすらない企業（人）が 76%弱ある。その理由に，事業があることを知らなかったことや参加方法がわからなかったことを挙げているが，何らかの方法で広報される（知ることができる）ならばほとんどの企業（人）が参加すると答えている。
- 高松高専が対外的な活動を今後とも積極的に実施することについては，企業（人）はかなり期待している。
- 高松高専の各種施設の利用希望はあるものの利用の仕方などに関する情報が不足しており，現状では困難さを感じている。
- 高松高専に対しては，従来の事業（公開講座・ハイテクシンポジウム・高度技術者養成研修など）への参加や本校教職員による講演・講習会・勉強会の開催（本校教職員の派遣を含む）などへの期待がある。
- 80%近い企業（人）が何らかの形で本校との交流を希望しており，その拠点施設（地域テクノセンター）の設置にも期待を寄せている。
- 本校卒業生の採用実績がある多くの企業が本校卒業生（専攻科修了生を含む）の能力を高く評価している。
-

○卒業生
- 高松高専の対外的事業に参加した人は少なく，卒業以来高松高専に来たことすらない人が 55%程度いる。その理由に，事業があることを知らなかったことや知っていても興味を持てる内容ではなかったことを挙げている。何らかの方法で事業に関することが広報される（知ることができる）ならば 80%弱の人が参加すると答えている。
- 高松高専の各種施設の利用希望はあるが，利用方法などに関する情報が不足しており，現状では困難さを感じている様子である。
- 高松高専を卒業（母校）したことについては 70%強の人が満足している。
- 自分自身を向上させるためのスキルアップに取り組んでいる（取り組もうとしている）人が 80%弱いる。
- 高松高専に対しては，スキルアップに関して本校教職員による講演・講習会・勉強会の開催などへの期待や技術的な相談ならびに施設の利用を望む声も少なくない。
- 70%の人が何らかの形で本校との交流を希望しており，その拠点施設（地域テクノセンター）の設置にも期待を寄せている。

（出典：卒業生及び企業へのアンケート結果（平成１４年実施）より抜粋）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

就職率（就職者/就職希望者）及び進学率（進学者/進学希望者）が高く，進路先からも良い評価を得ている。就職については，製造業，サービス業，建設業，公務員まで幅広い分野で活躍している。

卒業研究（準学士課程５年生）や特別研究（専攻科課程）の内容・水準が優れている。

（改善を要する点）

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度を高め，教育の成果や効果を向上させるためには，低学年からの基礎学力の定着や自学・自習の習慣化を図る必要がある。

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力のD「英語によるコミュニケーション能力」を高める教育改善に取り組む必要がある。

（３）基準６の自己評価の概要

学生が準学士（専攻科）課程の卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は，それぞれに割り当てられた授業科目の単位取得状況で，その達成状況を把握・評価している。その達成状況の評価に係る卒業（修了）の認定は，その認定規定にもとづいて卒業（修了）認定会議で行っている。このことから判断して，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

各学年における単位取得状況及び進級・卒業（修了）状況は，単位取得率及び進級・卒業（修了）率から概ね妥当である。卒業研究（準学士課程５年生），特別研究（専攻科課程）は，その内容や評価方法から研究水準の確保がなされている。これらのことから，各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や資質・能力について，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

卒業（修了）生の進路状況等の実績や成果から判断して，育成しようとする人材像は進路先のニーズに合っており，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

学生が行う学習達成度自己点検の分析から，準学士（専攻科）課程での卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は，全体平均で３点以上の評価が得られている。このことから，学校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

修了生（本校の卒業生でもある）及びその就職先へのアンケート結果から，修了時に身に付けるべき学力や資質・能力については，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。一方，修了時に身に付けるべき学力や資質・能力の一つである「英語によるコミュニケーション能力」が不足しているとの意見もみられたので，教育方法改善への取組が必要である。

卒業生についても，過去のアンケート調査から概して教育の成果や効果が上がっていると判断できるが，今後改めて準学士課程卒業者及びその就職先・進学先へ，在学時に身に付けるべき学力や資質・能力についてのアンケート調査を実施する必要がある。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

入学内定者へ入学前のガイダンス（資料７－１－①－１），４年次編入生へは二日間（８月と３月）の予習指導（資料７－１－①－２）をする。入学後に新入生オリエンテーションを実施し（資料７－１－①－３），担任による学習指導（資料７－１－①－４，５），図書館およびコンピューターサイエンスセンター（ＣＳセンター）利用講習会（資料７－１－①－６，７），専門学科ごとのオリエンテーション（資料７－１－①－８）など１週間に渡ってガイダンスする。専攻科新入生にも専門毎にガイダンスを行う（資料７－１－①－９）。全授業でシラバスを整備し，授業の初回はガイダンスを必ず行って学校全体で学習指導する（資料７－１－①－１０）。卒業研究選択説明会の実施（資料７－１－①－１１），４年生以下へは卒研審査会を聴講するよう指導する。その他，機械工学科１年生の合宿研修（資料７－１－①－１２），建設環境工学科３年生の宿泊研修などがある。１～３年生特別活動の一部で開設する科目「キャリア概論」では，５年生の講演，学科長によるガイダンス，校長の講演，教員室訪問などの取り組みがある（資料７－１－①－１３）。各定期試験後（後期中間は除く）１～４年生クラス毎に成績会議を実施し，その後の個別保護者懇談会で家庭との連携も図る（資料７－１－①－１４）。更に２年生では保護者の大多数，学校関係者，教育後援会役員らが出席する保護者懇談会を実施し学習面を含めた協議をする（資料７－１－①－１５）。

１～５年生を通しての担任制，加えて５年には卒研指導教員，専攻科生には専攻科主任と特別研究の指導教員らが相談・助言を行う（資料７－１－①－１６）。月曜日はオフィスアワーの日（資料７－１－①－１７）で学生相談の時間とし、オリエンテーションや学生便覧（資料７－１－①－１８）で学生・保護者に周知する。平成１６年からモバイルキャンパスを導入し，学習上の助言等を個人又はクラス単位で行っている（資料７－１－①－１９）。各シラバス記載の教員メールアドレスは質問に利用される（資料７－１－①－２０）。１～３年生には年度当初に担任との個人面談を実施し相談・助言等を行っている（資料７－１－①－２１，２２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

入学前後のガイダンスや個別懇談など学校全体の取り組みに加え，学科単位や学級単位の多岐に渡るガイダンスが実施されている。

また，学生からの相談には教員一同随時対応し，オフィスアワーで相談に応じる幅を広げ，メールを利用しての相談も行われている。実際には，学習に関する疑問の多くは授業中または前後の時間で解消され，アンケート結果をみても相談体制は良好といえる。

資料７－１－①－１　合格者出校日説明資料

１　はじめに

高松高専への合格おめでとうございます。高松高専は,工学技術者を育成する学校です。高松高専は,高校と大学工学部をあわせた 7 年間で学ぶ専門知識を 5 年間で勉強し,大学工学部卒に負けない学力を身につけさせる学校です。したがって,授業の進み方は一般の高校に比べると速くなっています。皆さんには,「国際社会で役立つ素晴しい技術者になるために一生懸命勉強するぞ」という強い決意を持ち続けることを切に望みます。以下に高専での勉学において知っておいていただきたいことを記載します。

２　高松高専の特色

（１）5 年間の一貫教育により,産業や技術の進展に寄与する優れた技術者を育成する高等教育機関です。

○本校玄関正面の石碑の意味（初代校長　増山義雄先生書）
　天行は健なり，君子以て自ら強（つとめ）て不息（やまず）

○校訓：自彊(じきょう，自強と同じ)，独創，和敬
　自ら努め励み（自強），創意工夫をし（独創），他人を敬い協調（和敬）できる人物を育てるということが本校の校訓です。

○学生=自ら学ぶ(生徒でない)

○何事も自分の力で取り組む。

（２）早期才能教育

○高校から大学進学者と比較して，高専教育は以下のことが言えます

（出典：教務資料）

資料７－１－①－２　編入生出校日の案内

事　務　連　絡
平成１７年　８月　１日

合　格　者　各　位

高松工業高等専門学校学生課

高松工業高等専門学校編入学選抜検査合格者の出校日について

来年４月から編入学されることとなり心からお慶び申し上げます。
さて，８月２５日(木)出校日に次の日程に従って学習上の指導がありますので，お知らせします。

記

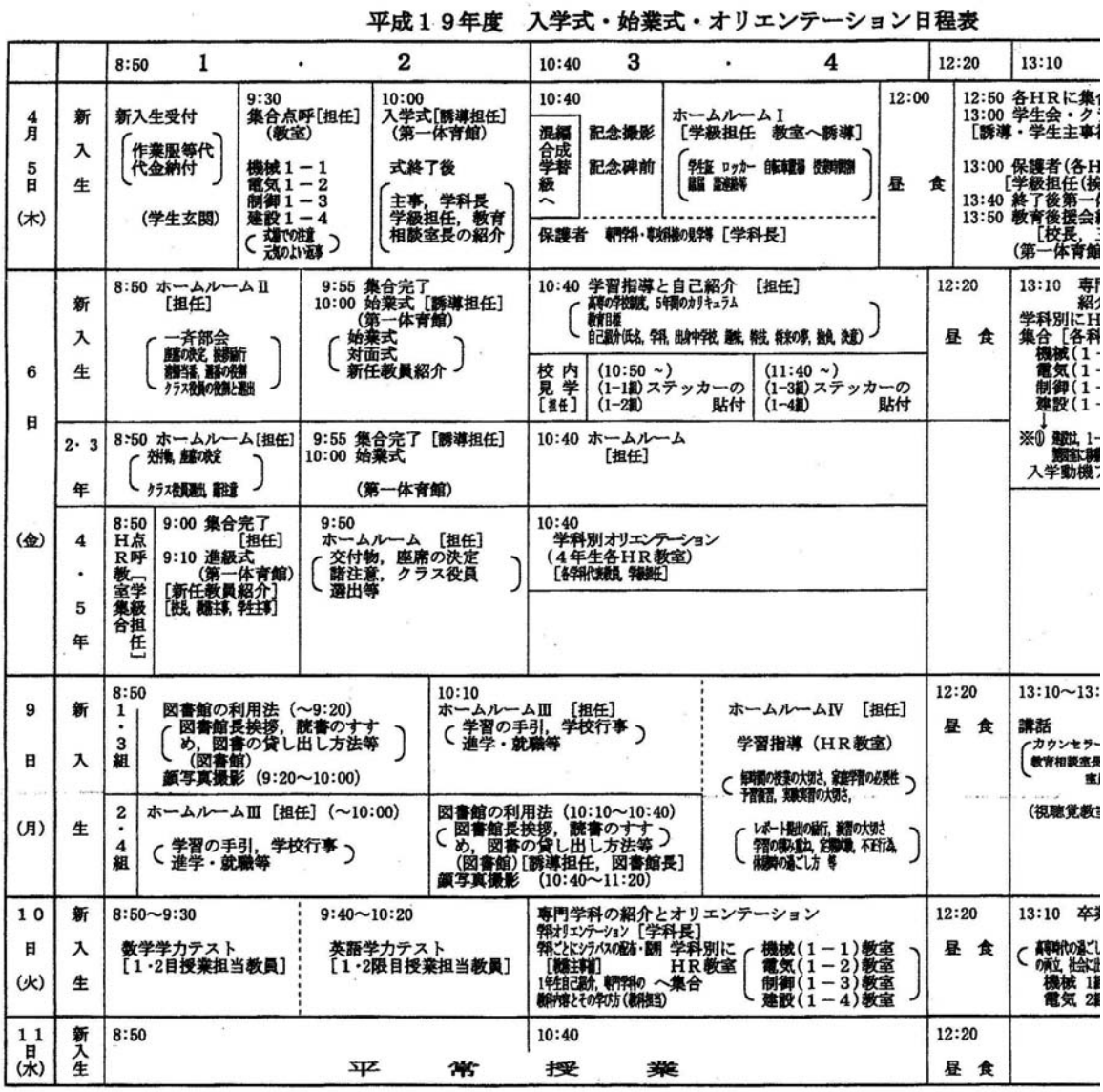
【日　程】

１．本校概要説明	１３：００ ～ １３：３０	
２．数学学習指導	１３：３０ ～ １４：００	
３．英語学習指導	１４：００ ～ １４：３０	
４．専門学科学習指導	１４：３０ ～ １６：００	(予定)

専門学科学習指導についての終了時刻は各学科に任せています。

（出典：教務資料）

資料７－１－①－３　新入生オリエンテーション日程表



平成１９年度　入学式・始業式・オリエンテーション日程表

		8:50　1　・　2			10:40　3　・　4			12:20	13:10
4月5日（木）	新入生	新入生受付 （作業服等代金納付） （学生玄関）	9:30 集合点呼［担任］ （教室） 機械１－１ 電気１－２ 制御１－３ 建設１－４ （文書での指定、元気のない返事）	10:00 入学式［誘導担任］ （第一体育館） 式終了後 （主事，学科長 学級担任，教育 相談室長の紹介）	10:40 混編合成学科学級へ	記念撮影 記念碑前	ホームルームⅠ ［学級担任　教室へ誘導］ （学生証　ロッカー　自転車置場　授業時間割　履歴　諸連絡等） 保護者　専門学科・専攻科制の見学等［学科長］	12:00 昼　食	12:50 各HRに集 13:00 学生会・ク ［誘導・学生主事 13:00 保護者（各H ［学級担任（挨 13:40 終了後第一 13:50 教育後援会 ［校長， （第一体育館
6日（金）	新入生	8:50 ホームルームⅡ ［担任］ （一斉部会 履歴の決定，役割分担 諸連絡等，座席の指定 クラス役員の指名と選出）	9:55 集合完了 10:00 始業式［誘導担任］ （第一体育館） （始業式 対面式 新任教員紹介）		10:40 学習指導と自己紹介　［担任］ （高専の学校制度，５年間のカリキュラム 教育目標 自己紹介（氏名，学科，出身中学校，趣味，特技，将来の夢，抱負，決意）			12:20 昼　食	13:10　専 紹介 学科別にH 集合［各科 機械（1－ 電気（1－ 制御（1－ 建設（1－ ↓ ※① 履歴書，1－ 誓約書提出 入学動機
	2・3年	8:50 ホームルーム［担任］ （欠席届，座席の決定 クラス役員選出，諸注意）	9:55 集合完了［誘導担任］ 10:00 始業式 （第一体育館）		10:40 ホームルーム ［担任］				
	4・5年	8:50 H点呼 R教室 学集級合担任］	9:00 集合完了 ［担任］ 9:10 進級式 （第一体育館） ［新任教員紹介］ ［校長，教務主事，学生主事］	9:50 ホームルーム　［担任］ （交付物，座席の決定 諸注意，クラス役員 選出等）	10:40 学科別オリエンテーション （４年生各HR教室） ［各学科代表教員，学級担任］				
9日（月）	新入生	8:50 1・3組	図書館の利用法（～9:20） （図書館長挨拶，読書のすすめ，図書の貸し出し方法等 （図書館） 顔写真撮影（9:20～10:00）	10:10 ホームルームⅢ　［担任］ （学習の手引，学校行事 進学・就職等）		ホームルームⅣ　［担任］ 学習指導（HR教室） （年間の授業の大切さ，家庭学習の必要性 予習復習，実験実習の大切さ， レポート提出の厳行，試験の大切さ 学習の取り組み，定期試験，不正行為， 休日中の過ごし方　等）	12:20 昼　食	13:10～13: 講話 （カウンセラー 教育相談室長 室 （視聴覚教室
		2・4組	ホームルームⅢ［担任］（～10:00） （学習の手引，学校行事 進学・就職等）	図書館の利用法（10:10～10:40） （図書館長挨拶，読書のすすめ，図書の貸し出し方法等） （図書館）［誘導担任，図書館長］ 顔写真撮影　（10:40～11:20）					
10日（火）	新入生	8:50～9:30 数学学力テスト ［1・2目授業担当教員］	9:40～10:20 英語学力テスト ［1・2限目授業担当教員］		専門学科の紹介とオリエンテーション 学科オリエンテーション［学科長］ 学科ごとにシラバスの配布・説明　学科別に ［教務主事補］　HR教室 1学生自己紹介，専門学科の　へ集合 教科書とその学び方（教科担当）	（機械（１－１）教室 電気（１－２）教室 制御（１－３）教室 建設（１－４）教室）	12:20 昼　食	13:10　卒 （高専時代の過ごし の向上，社会に 機械　1 電気　2
11日（水）	新入生	8:50			10:40			12:20 昼　食	
		平　常　授　業							

（出典：教務資料）

資料７－１－①－４　学習指導の例

基礎数学Ⅱ

１．授業内容
1）三角比・三角関数（１）
三角比は物理や専門科目で早い時期に必要になるので、１年の最初に学習します。３種類の三角比の定義からはじめ、それらの簡単な計算を練習します。中学では扱わない新しい項目であり、英字記号（sin、 cos、 tan）など見なれない記号が出てくるので、苦手意識をもってしまう人がよくいるのですが、自分できちんと使い方を練習すればそれほど難しい項目ではありません。まずは慣れることが大切です。
その後、三角比の応用として正弦定理・余弦定理を学び、三角形における内角、辺の長さ、面積を自在に求められるようにします。それに続いて「一般角（角度の新しいとらえ方）」と角度の新しい単位（rad）を導入し、三角比を拡張した三角関数を定義します。基本的な三角関数のグラフの形を学習して、この項目をいったん終わります。
2）図形と式
中学の数学でおなじみの「点の座標」、「直線とその方程式」について学習した後、XとYの２次方程式であらわされる２次曲線（円など）について要点を簡潔に学びます。少し複雑な２次式を扱うこともありますが、誘導を交えながら出来るだけ平易に解説していきます。
また、これらを利用して図形どうしの共有点の問題、領域と不等式についても学びます。平面の座標を使って図形の問題と式の問題を行き来するうちに、思わぬ展望が開けます。
3）指数関数・対数関数
中学で習った指数（範囲は自然数）について指数法則を思い出した後、指数の範囲を実数に拡張し、そ

（出典：学習の手引き）

資料７－１－①－５　学習指導の資料

第８条　定期試験及び中間試験を，病気その他やむを得ない理由により受験できなかった者については，追試験を行う。

第９条　追試験を受験しようとする者は，別紙様式による追試験願に証拠書類を添付のうえ，学生課教務係に提出しなければならない。

第10条　当該学年の評定1，2をもって進級する場合，進級学年において単位追認試験を行う。

第５章　評価・評定及び修得

第11条　学業成績の評価は，その期において実施した試験の成績及び平素の成績，出欠状況等を総合して100点法で行う。

第12条　学年総合成績の評価は，各学期の成績を総合して行う。

第13条　学年総合成績の評価（100点法）と評定，表記及び修得の関連は次のとおりとする。不履修の成績評価は0点とする。

成績評価	評定区分	成績表の表記	修得区分
80点以上	5	A	修　得
70～79点	4	B	
60～69点	3	C	
50～59点	2	D	準修得
0～49点	1	記載せず	未修得
0点	0	記載せず	不履修

第14条　高松工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規程第１条の学修（以下「特別学修」という）について同規程第５条により認定された単位は，本校における授業科目を修得したものとみなす。

2　単位認定された特別学修別表に定める科目のうち100点法で提出されるものについてはその点数に応じた評定・評価とし，100点法で提出されないものについては評定5，評価100点とする。

第14条の２　他の高等専門学校との連携・交流事業に伴う「特別講義」は，教育上有益と認め，学則第13条の3を適用する。評価・評定等については特別学修と同じ取扱いとする。

－60－

（出典：学生便覧）

資料７－１－①－６　図書館利用オリエンテーション

題名　　**4月7日(金)の「図書館の利用法」について**
差出人　　**長谷川隆**

１年団各位

図書館長

４月７日（金）午前に新１年生を対象に図書館利用の説明がありますが、以下の要領で行います。クラス学生にはボールペン等の筆記用具（図書貸出カードに名前を記入してもらうのでボールペン等消えないものがよい）を持参するようにご連絡ください。図書館２階閲覧室に、１組・３組は８時５０分に、２組・４組は、１０時１０分に、出席番号順に入ってください。入室時に図書貸出カードを渡します。

なお、以下の要領で行う予定です。

１組、３組
１．１組、３組は、８時５０分に図書館２階閲覧室に出席番号順に入室する。
２．図書館利用についての説明をする。
３．１組は、９時２０分に顔写真撮影に行く。撮影が終了した学生は、閲覧室に
戻って見学および図書の貸し出しを行う。
４．３組は、９時２０分から閲覧室見学および図書の貸し出しを行う。
５．３組は、９時４０分に顔写真撮影に行く。撮影が終了した学生は、ＨＰ

（出典：学内メール）

資料７－１－①－７　ＣＳセンターのオリエンテーション要項

高松工業高等専門学校学生のネットワーク利用要領

平成12年６月27日制定

1　ネットワークに接続された機器を利用することができる学生（以下「利用者」とする。）は，次の各号に定める場合を除き，情報処理関連の授業（プログラミング言語，情報処理，計算機システム，基礎情報処理等の一部）またはコンピュータサイエンスセンター（以下「センター」とする。）の行う講習において，ネットワークに関する機器の操作，利用上のルールおよびマナー等を受けたものでなければならない。

一　機器の設置場所ごとに定めたルールがあり，ネットワーク講習

平成　　年　　月　　日

ネットワーク利用申請書

高松工業高等専門学校
コンピュータサイエンスセンター長　殿

申　請　クラス名	
申請者名（教科担任等）	
ネットワークに関する講習を実施した授業科目名	
ネットワークに関する講習を実施した授業担当教員名	

上記のネットワークに関する授業を学生が受けましたのでネットワークに関するアカウントの発行をお願いします。

受　付	月　日	
承諾日	月　日	

－102－

（出典：学生便覧）

資料７－１－①－８　新入生オリエンテーション例（建設環境工学科）

高松高専建設環境工学科　　2006/4/6

新しい高専生活にあたって　～入学おめでとう！　君たちを歓迎します～

１．建設環境工学科（Department of Civil Engineering：市民工学科）について

○安全・安心で，環境に優しい社会基盤施設の計画や設計ができる技術者の育成を目指しています。
○教育内容のキーワードは耐震，防災，リサイクル技術，環境調査，コンピュータ利用です。
○教職員（定員）：教授５＋助教授（講師）４＋助手２＋技術職員２＝計１３名。

２．学科の教育方針と君たちへのお願い

○知識よりも，まず人間としての常識，モラルを身につけることを重視しています。
従って，以下のような兆候が見られれば，厳しく指導します。
意欲の低下・・・・・・成績不振，出席状況の乱れ（成績不振の元凶）
服装等の乱れ・・・・・服装，頭髪，ピアス等
生活の乱れ・・・・・・アルバイト，深夜徘徊，酒，タバコ，バイク
携帯電話やインターネット等でのトラブル
これらを見過ごすことで，立ち直りが遅れたり，留年・退学につながったりするケースが多くあります。特に，１年生後半から２年生での乱れが，それらの引き金になります。
○低学年では，専門を深く掘り下げて学ぶのではなく，基礎学力を身につけることを重視した教育を行います。（高専は，高等学校とは違います。５年先を見越した教育を行います。）
このため，他校や他学科の友人の学んでいることに関心を覚えたり，クラブ活動に熱中し過ぎるあまり運動をもっとやりたいと考えたりする学生が時々でてきます。
○低学年時は非常に多感で，進路，学業，人間関係など様々なことに悩む時期です。一人で悩まずに，学科長をはじめとする専門教員にも相談をして下さい。

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－１－①－９　専攻科オリエンテーション資料（電気情報コース）

目　次

あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
「国際的に通用する技術者を目指して」　電気情報工学科長

技術者教育認定制度と受審について ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
教育プログラムの認定・審査
電気情報工学コース
認定審査スケジュール
学習・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
高松高専の学習・教育目標
電気情報工学科，専攻科・電気情報工学コースの学習・教育目標
教育課程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

電気情報工学コース科目系統表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

電気情報工学コースカリキュラム ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
平成 11・12 年度，平成 13 年度，平成 14 年度，平成 15 年度入学生教育課程表
専攻科・機械電気システム工学専攻カリキュラム
電気情報工学コースの修了要件
教員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
教育組織：研究室紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
樋口（電子情報）研究室
原囿（音響情報・信号処理）研究室
本田（画像工学）研究室
鹿間（電気・電子材料）研究室
重田（マルチメディア）研究室

（　出典：電機情報工学コース資料）

資料７－１－①－１０　シラバス記載ガイダンス例

平成１８年度

科目名	国語 Japanese			担当教員	坂本具償		
学年	2	学期	通年	科目番号	05113	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	1．文章読解を通して、感受性を育み、柔軟な思考力、読解力を身につける。 2．正しい日本語で表現するための基礎を身につける。 3．読書する習慣を身につける。 4．漢字検定３級、準２級合格程度の漢字力を習得する。						
進め方	講義形式を基本とする。予習・復習に努めてほしい。また、意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。授業中に読書の時間を設ける。原則として週に１回漢字小テストを実施する。						

	学習項目（時間数）	合格基準
	※全体ガイダンス(1) 1．現代文(15) (1) 随想　ペルセウスの鏡 (2) 評論一　水の東西 (3) 表現の扉３ (4) 評論二　旅のノートから	・筆者にとっての「書くこと」の意味を捉えることができる。（「ペルセウスの鏡」） ・論の展開を正確に把握し、論旨をまとめることができる。（「水の東西」「旅のノートから」） ・情報時代に必用な文章能力とはどういう能力かを理解することができる。（「表現の扉」）
	前期中間試験	
	※試験の解説(1) 2．表現及び詩(13)	・正しい日本語で表現するための基礎的事項を理解する。（国語表現の実践）

（出典：18年度シラバス）

資料７－１－①－１１　卒研選択研究室紹介の例

吹田 研究室

１．主な研究分野

機械系の溶接・材料関係

２．研究テーマと内容

・研究テーマ１：ジェット機を使用した無重力・真空環境での宇宙アーク溶接実験
　地上真空環境での溶接実験によって，宇宙アーク溶接法の要素技術の開発を完了した。そこで，次の段階として，ジェット機を使用した無重力・真空の模擬宇宙環境下で溶接実験を実施する。それによって，高松高専が独自に開発している宇宙アーク溶接法が宇宙で適用できることを実証する。

・研究テーマ２： 宇宙 GHTA 切断技術の基礎的研究
　宇宙アーク溶接用の熱源として開発したアーク熱源を宇宙空間での切断および熱間加工などに適用する技術の研究開発を実施する。

・研究テーマ３：半導体レーザの宇宙加工技術への展開
　軽量・小型の半導体レーザは宇宙での各種加工技術の熱源として利用できる可能性を持っている。現在は，宇宙レーザ溶接の研究開発を実施しているが，太陽電池パネルや宇宙ステーション窓のクリーニング用熱源，熱間加工用熱源としての可能性を研究する。

・研究テーマ４：損傷を受けた宇宙ステーションの修理技術の開発
　旧ソ連の宇宙ステーション・ミールは無人輸送船プログレスとのドッキングに失敗し，空気漏れ事故が発生し，2001 年に廃棄された。このような状況に対応するために，宇宙船，宇宙ロボットなどの衝突を受けて損傷した宇宙ステーション壁を溶接，接合技術などで修理する技術の研究開発を行う。

３．受入れる最大の学生人数

４　人
専攻科生の受入　　可能

４．備　考

宇宙航空研究開発機構の公募地上研究に採択され，平成１７年と１８年度にジェット機を使用した無重力・真空の模擬宇宙環境で宇宙アーク溶接実験を行います。そのため，専攻科に進学する学生で卒業研究と特別研究の３年間，じっくりと研究したい学生，世界の宇宙開発に貢献したい学生を希望しています。

注意：専攻科生は１研究室あたり１学年　通常２人まで，最大３人までの受入ができる．

（出典：制御情報工学科卒研説明会資料）

資料７－１－①－１２　学生の合宿研修

機械工学科１年生
保護者各位

平成１８年６月１日

１Ｍオリエンテーション（合宿研修）について

機械工学科長　岡田憲司
機械工学科担当　高橋洋一

機械工学科では，本年度も機械工学科１年生を対象に以下の要領にて合宿研修を実施することとなりました．つきましては以下の内容を熟知し成果の上がるようご協力ください．

１．目的

学生と教員及び学生同士の親睦，意志疎通を通じて，学科学生の成績，学生生活態度の改善を図る．

２．実施日時・場所

（１）日時：平成１８年７月７日（金）授業終了直後１６時２０分本校玄関前集合
平成１８年７月８日（土），１４時００分帰校予定

（２）場所：香川県立屋島少年自然の家（〒761-0111 高松市屋島東町34-1）
TEL:087-843-4545（代表）

３．参加者

機械工学科１年生（４０名全員）
機械工学科教員（１１名），看護師（１名）　合計５２名
代表者：機械工学科　学科長　岡田憲司

４．交通手段

（資料　出典：機械工学科資料）

資料７－１－①－１３　キャリア概論の活動計画書

平成１８年度　ホームルーム及びキャリア概論　年間活動計画書

（　1　学年団・　　全　組　担任氏名　有道・上原・市川・中瀬　　）

各月・週ごとに、活動計画をお書きください。　　（No．１　）

月	実　施　予　定　事　項	キャリア概論区分
4/10	卒業生との対話	B1・B2
4/13	体育祭出場者決定	
4/20	面談用アンケート記入その他	
5/11	体育祭と学生祭の説明	
5/18	学生祭の企画１	
5/25	学生祭の企画２	
6/1	模擬テスト（数）	
6/15	性教育講演	A1・A2
6/22	禁煙教育	A1・A2
6/29	席替え	
7/6	クラス企画	
7/13	夏休みの過ごし方	
9/7	学生祭出場者決定	
9/14	クラスマッチ	
9/21	５年生の話	B1・B2

（注）キャリア概論として実施する場合のみ、実施内容によりキャリア概論区分欄に以下の記号を書き込んでください。

Ａ１：自己理解、　Ａ２：集団への適応、　Ａ３：自然・人間・社会の理解

Ｂ１：進路実現への設計、　Ｂ２：職業観・勤労観の涵養

（出典：教務資料）

資料７－１－①－１４　保護者懇談会の案内

保　護　者　各　位

高松工業高等専門学校長
塩　谷　幾　雄

保護者面談（個人）について（ご案内）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は学校運営に関しまして，ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて，本校の学生生活につきましては種々お聞きのことと存じますが，この度お子様の学習面や生活指導上のことについて，下記により学級担任と個別の保護者面談を行いたいと存じますので，是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。また，そのときに前期中間成績通知表をお渡しいたします。

記

１．実施期日　１０月２３日（月）～
２．行　　事　　学級担任と個別の保護者面談
３．場　　所　　各学級担任室（裏面）

※　個別保護者面談の具体的な日時については，学級担任がお子様と打ち合わ

（出典：教務資料）

資料７－１－①－１５　２年団保護者懇談会の実施報告例

平成18. 10. 23　　高松高専だより



学生関係について

学生主事　木　原　茂　文

A. ご家庭へのお願い

夏休み明けから秋にかけて，例年いろいろな問題が発生しています。特に下記のことについて，ご家庭でのご協力をお願いします。

1. 交通事故防止について

原付バイク運転時の危険性を知っていて欲しいと思います。原付バイクは四輪車からは見落とされる危険性が高く，事故に合うと無防備なため重大事故につながります。その対策として，交差点での安全確認，防護性の高いヘルメット着用や安全走行を心がけさせてください。

2. 盗難被害防止について

残念ですが，稀に盗難被害発生しています。大事なものは身に付けておくか，学生個人用ロッカーに入れて施錠するよう自己管理に心がけてさせてください。なお再発防止のため，警察による現場検証と指紋採取をするとともに被害届を出しています。

3. 不審者や変質者の出没について

日没後の下校時に人通りの少ない道路で，不審者や変質者が出没しています。最近は，市街地でも出没し，さらに悪質化しています。より安全な通学路の利用や帰宅が遅くなる時の家庭連絡及び保護者の方による迎え等の対応をしてください。

4. 学校・警察の連絡協定について

学生の健全育成のため，学校と警察の間に情報交換のための連絡協定を結んでいます。学外

B. 家庭と学校の連携事業について

学生の育成には，学校と家庭の協力が不可欠です。２学年団の保護者懇談会や4年学生への就職面接実技研修を実施しています。

1. ２学年団の保護者懇談会(実施報告)

(1) 実施日：7月1日(土)14時～16時

(2) 参加者

保護者約110名，学校関係者10名，教育後援会役員5名(会長，副会長，理事)

(3) 目的

学生指導関係と教務関係の諸問題が，2年生で出てくるため家庭と連携して対応したいと考えています。保護者の方々へは，下記項目につきまして理解を深めて頂くことを目的としています。

・クラスの様子を知って頂く。
・学生指導事項(服装，免許取得，アルバイト，部活動等)と教務事項(留年者の状況，成績不振者対策等)を知って頂く。
・進路関係(就職・進学の状況等)について知って頂く。

(4) 内容

①２クラス合同懇談会

学生指導関係や教務関係について，保護者と学校関係者(校長，教務主事，学生主事)との意見交換を約50分間実施しました。

②クラス別懇談会

クラスの様子や就職・進学状況について，保護者と担任，専門学科長と情報交換を約50分間実施しました。

（出典：高専便り）

資料７－１－①－１６　担任，専攻科主任一覧

校長補佐(学生担当)・学生主事　木原　茂文　　学生副主事　太良尾浩生・高橋　宏明　学生主事補　上原 成功・吉澤 恒尾・吉永 慎一・川田 和男・多川　正
校長補佐(寮務担当)・寮務主事　坂本　具償　　寮務副主事　田口　　淳　　寮務主事補　福井 智史・漆原 史朗・逸見 知弘・中治 弘行
校長補佐(国際交流・地域連携担当)・研究・地域連携推進室長　土居　正信
専攻科長　山内 庄司　（専攻主任）機械電気システム工学専攻　本田　道隆　建設工学専攻　竹下　治之
学科長　（一般）権藤　典明　（機械）岡田　憲司　（電気情報）原囿　正博　（制御情報）平岡　延章　（建設環境）長友　克寛
図書館長　長谷川　隆
コンピュータサイエンスセンター長　鹿間　共一　室長（一般管理室）○吉永 慎一・古川 満信・吉成 知己　（ネットワーク管理室）○重田 和弘・十河 誠・古川 満信・吉成 知己　（ISE研究室）○重田 和弘
高機能化技術教育研究センター長　土居　正信　研究開発室長（新材料）○鹿間　共一　○福井　智史（材料利用技術）○吹田　義一（新エネルギー技術）○多川　　正（環境防災）○川田　和男（メカトロニクス）○重田　和弘（教育技術）
教育相談室長　出渕　幹郎　教育相談室員　長谷川 隆・田口 淳・有道 祐子・高橋 洋一・村上 幸一・徳永 秀和・中治 弘行
総務・広報室長　権藤　典明
一般科目教科主任　（国語）長谷川　隆　（社会）権藤　典明　（数学）高橋　宏明　（理科）岡野　　寛　（体育）中瀬巳紀生　（外国語）有道　祐子

学年主任及び学級担任

学年	M（機械）	E（電気情報）	S（制御情報）	C（建設環境）	学年主任
1	1　有道　祐子	2　上原　成功	3　市川　　緑	4　中瀬巳紀生	中瀬巳紀生
2	岡野　　寛	堀江　賢治	加藤　清考	中川　征樹	岡野　　寛
3	福井　智史	荻原　昭文	川田　和男	土居　正信	川田　和男
4	高橋　義一	樋口　弘志	逸見　知弘	向谷　光彦	4・5年は置かない
5	吉永　慎一	鹿間　共一	十河　宏行	太田　貞次	

各種委員会委員

委員会	主事・主事補等	一般	機械	電気情報	制御情報	建設環境	事務部
企画運営会議	※校長・３主事・専攻科長・５学科長・総務・広報室長・研究・地域連携推進室長						事務部長

（　出典：校務分担表）

資料７－１－①－１７　オフィスアワー利用状況（抜粋）

オフィスアワー実施結果報告書

機械工学科
機械工学コース

集計期間：平成17年10月～平成18年9月
集計内容：対象学生の区分
　　件数
　　総時間数

教員名	機械1～3年		プログラム1,2年		プログラム2,4年	
	件数	総時間数	件数	総時間数	件数	総時間数
岡田	1	1	9	4.5	0	0
木原	5	0.3	9	8.5	6	4
橋本	0	0	3	9.4	0	0
岩田	5	3	20	78	0	0
高橋義	4	10	0	0	0	0
山崎	0	0	13	7.6	5	5.5
小島	5		2		0	0
福井	2	2	50	172	0	0
吉永	14	17	8	5	1	0.7
上代	内地留学中					
酒井	30	20	50	40	100	50
高橋洋	2	0.75	3	2.4	0	0
小計	68	54.05	167	327.4	112	60.2

（出典：機械工学科資料）

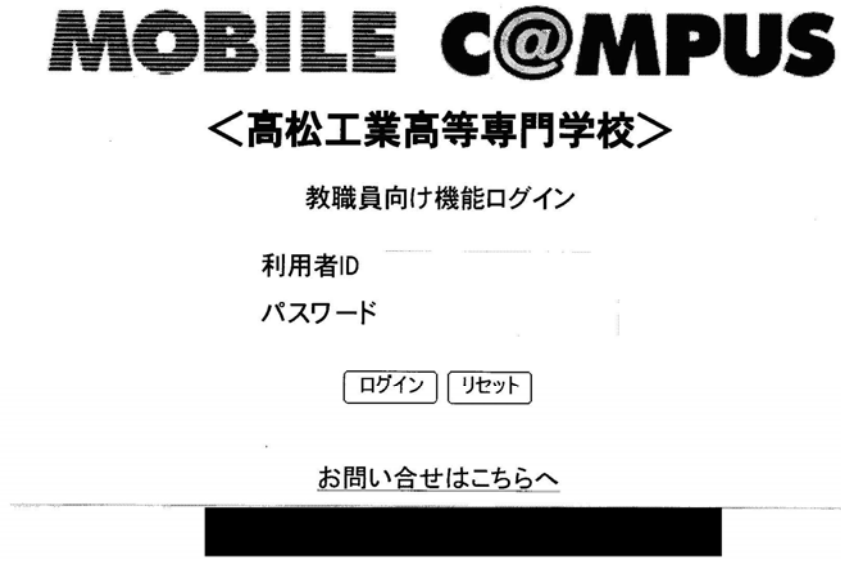
資料７－１－①－１８　教員との交流の日（月曜オフィスアワー）の記述

(6)　教員との交流の日について

質問や相談事があれば，いつでも教員室を訪ねてください。また，本校では，学生諸君の基礎学力の向上，教員との積極的なふれ合いを目的として，毎週曜日を定めて学生と教員との交流の日としています。

（　出典：学生便覧）

資料７－１－①－１９　モバイルキャンパス画面



（出典：高松高専ＨＰリンク）

モバイルキャンパス利用状況

モバイルキャンパス送信履歴（平成18年10月26日～平成19年2月5日）

番号	分類	タイトル	送信者	送信日
1	その他	教科書について		2006/10/26
2	その他	授業変更通知		2006/11/2
3	その他	休講通知		2006/11/5
4	その他	事務連絡		2006/11/6
5	その他	授業変更通知		2006/11/6
6	その他	連絡		2006/11/6
7	その他	知的財産権		2006/11/7
8	その他	卒研写真		2006/11/8
9	その他	豊橋より		2006/11/8
10	その他	輪講		2006/11/8
11	その他	連絡		2006/11/8
12	その他	授業変更通知		2006/11/9
13	その他	図書館より		2006/11/9
14	その他	学生祭		2006/11/9
15	その他	連絡		2006/11/9
16	その他	サイエンスフェスタ		2006/11/9
17	その他	ﾛﾎﾞｺﾝ全国大会について		2006/11/9
18	その他	5SHR施錠について		2006/11/10
19	履修未登録	履修未登録		2006/11/10
20	履修未登録	履修未登録		2006/11/10
21	その他	ﾛﾎﾞｺﾝの応援について(その1)		2006/11/10
22	その他	ﾛﾎﾞｺﾝの応援について(その2)		2006/11/10
23	その他	連絡		2006/11/14
24	その他	連絡		2006/11/14
25	その他	図書館より		2006/11/14
26	その他	授業変更通知		2006/11/14
27	その他	授業変更通知		2006/11/14

（出典：システム管理者資料）

資料７－１－①－２０　シラバス教員連絡先の記載例

JABEE 対応	以下のスカトロニクスプログラムの学習・教育目標と，本科目の学習項目との関連について。 Ｂ－１：自然科学の知識を身につける。Ｂ－２：基礎知識を組合せ応用する力を身につける。 学習項目１：◎Ｂ－１ 学習項目２：◎Ｂ－１　但し，◎は主体的に内容を含む，○は付随的に内容を含むことを意味する。
関連科目	［数学解析 I，II］→［応用数学 I］
教　材	「確率統計」、「線形代数、同問題集」、「微分積分Ⅱ、同問題集」、（いずれも大日本図書）
備　考	○窓口教員の連絡先 Tel:087-869-3851，E-mail：nakagawaa@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：18年度シラバス）

資料７－１－①－２１　１年生個人面談アンケートの一例

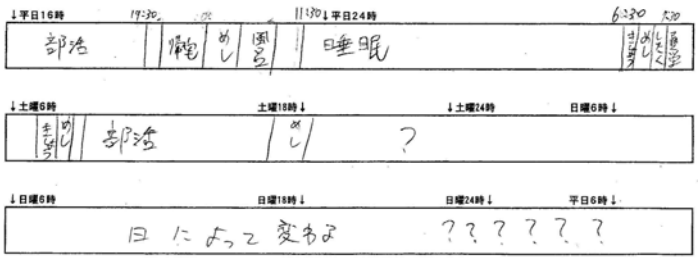
個人面談 生活アンケート

1年[redacted]組[redacted]科[redacted]番　氏名[redacted]

1. 所属している部活動，練習終了時間
野球部　7:30
2. 苦手な科目．特別な努力が必要と感じている科目
国語
3. 授業方法に違和感を感じることのある科目（改善して欲しい科目）とその理由
なし
4. 宿題やレポート（特に専門の実験実習レポート）のあった科目．未提出のものがあれば印を
工作実習のレポート
5. 生まれつきの髪色，アレルギー，視力，聴力，運動や水泳が困難などの問題
花粉症　視力0.2(メガネなし)
6. 規則，行事，学習など，高専生活全般における困ったことや要望
なし
7. 進路（就職希望，進学希望）具体的にあれば詳しく
大学に進学
8. 趣味，特技
野球，スノボ，ゲーム
9. 2年次のバイク通学の希望．家からの距離km
10kmくらい
10. 家庭（寮）における平均的な時間を記せ：

平日学習＝ 2 時間	休日学習＝ 2 時間	読書 ＝ 0 時間
テレビ＝ 2 時間	睡眠 ＝ 7 時間	通学片道＝ 3 時間
ゲーム ＝ 0 時間	パソコン＝ 2 時間	他（　　）時間

11. 家庭（寮）で行っているおおよそのスケジュールをまとめよ：
（部活・通学・学習・睡眠・テレビなどを中心にまとめよ）



その他あれば

（出典：１年団資料）

資料７－１－①－２２　　学生へのアンケート（Ｂ自主学習への支援）

「B」自主学習を進める上で，先生に相談したり助言を求めたりしたい時に，不便に感じたことがありましたか？

5．相談は不要で，自分で学習できている．　**２０％**

4．放課後や休み時間に相談して解消できていて，特に不便を感じたことはない．　**２７.５％**

3．不便に感じることもたまにあるが，大抵は相談して解消されている．　**３２.５％**

2．不便に感じたことが何度かある．　**１０％**

1．全く不便に感じる．　**７.５％**

（出典：ＨＲ資料）

観点７－１－②：　自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

図書館が自主学習に効果的に利用され（資料７－１－②－１），専門職員が日常管理するほか，図書館運営委員会を組織し，図書館便りの発行，ブックハンティングなどの活動（資料７－１－②－２～５），また学生や教職員から書籍・雑誌・ＣＤ等の購入希望を募り図書館の充実を図っている。全国的に見ても図書利用状況は良い（資料７－１－②－６）。

情報関連の学習スペースとして，コンピューターサイエンスセンター（ＣＳセンター）および専攻科棟マルチメディア室（資料７－１－②－７～１１）がある。ＣＳセンターのＨＰ上で WebClass や NetAcademy などの e-Learning システムが稼働している（資料７－１－②－１２）。

各学科・専攻科に資料室を兼ねた自習室を設け（資料７－１－②－１３，１４），専攻科生には控え室，専用の机やロッカーがある。機械棟ＣＡＤ室，建設棟情報実験室にパソコン及びプリンタなどを設置し，放課後も一部利用でき（資料７－１－②－１５），高機能化技術教育センターには共同実験施設や研究室がある。卒業研究生と特別研究生には専用机やパソコンがほぼ行き渡り，4 年以下の学生は放課後もホームルーム教室の利用が許され自主学習の場となる。学生寮（清雲寮）にはパソコン室および製図室などを設置している（資料７－１－②－１６）。

生活環境として，図書館棟 1 階に談話室，自彊会館にリフレッシュコーナー・食堂・売店・医務室，屋外にレンガの広場があり，談話・休憩・喫食できる。その周辺に各種自動販売機，制御棟横に飲み物自動販売機および喫煙場所，図書館棟に教育相談室，グランドや武道館に設置されたシャワー室等がある（資料７－１－②－１７～２０）。

昼休み等で体育館等の施設が自由に利用でき，課外活動では学生会や部・同好会に部室，合宿研修施設の和敬館があり，活動場所として各種特別教室，体育館やグランド等がそれぞれ占有利用（または一部は共有で）でき（資料７－１－②－２１，２２），他に製氷器・給水器を設置している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

学習施設は規則集の配布やガイダンス等で適切に案内され，盛んに利用されている。厚生施設，課外活動施設なども充実し，キャンパス環境は整備され効果的に利用されていると判断できる。

資料７－１－②－１　図書館ホームページ

高松高専図書館ホームページ(JAPANESE)　　1/1 ページ

高松高専ホームページへ
図書館トップページ
図書館紹介
　沿革
　資料統計
利用案内
　当館の利用について
　当館の案内
　当館の道しるべ
新着図書紹介(学内限定)
蔵書検索
　図　書(学内限定)
　和雑誌
　洋雑誌
高松高専研究紀要
図書館だより
電子ジャーナル(学内限定)
学外学術情報検索
高松高専ホームページへ

高松高専図書館ホームページ

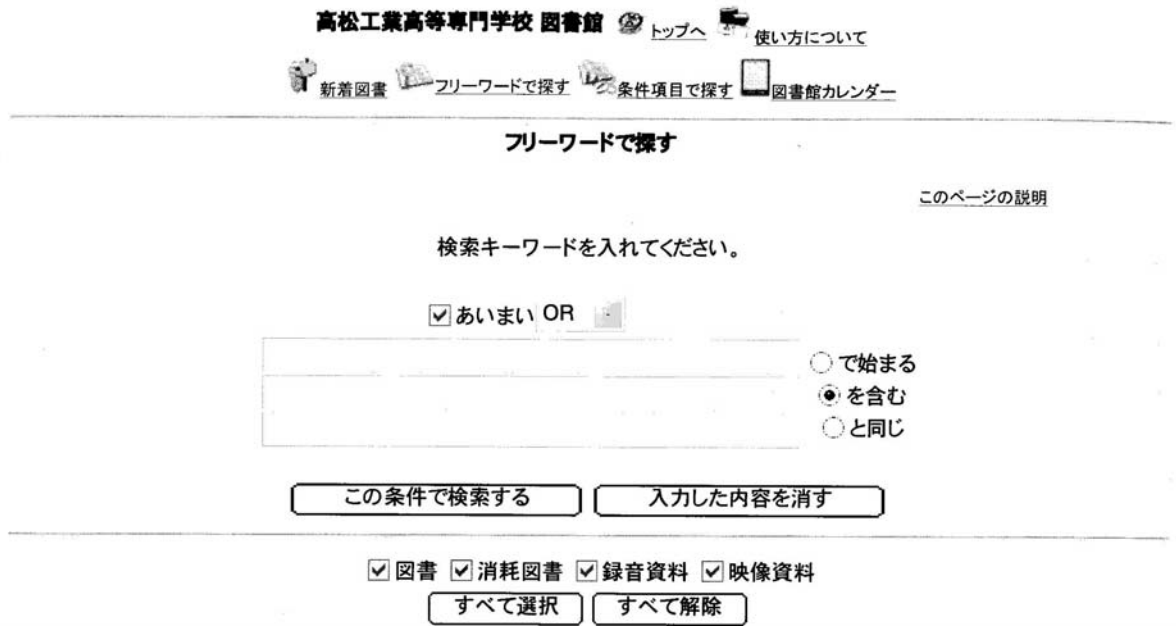


＊開館時間変更のお知らせ＊
2月19日(月)・9:00－17:00

＊臨時開館のお知らせ＊

（出典：図書館ＨＰ）

資料７－１－②－２　図書検索システム



（　出典：図書館ＨＰ）

資料７－１－②－３　図書館運営委員会組織図・議事録の例

（8）　図書館だより 38号

－平成18年度 委員紹介－

図書館運営委員

館　長	長谷川
一　般	髙　橋
機　械	小　島
電気情報	樋　口
制御情報	正　箱
建設環境	松　原
専攻科	竹　下
事務部	米　山

図書委員（学生）

	1組	2組	3組	4組
1年	田中　翔也	三井　翔悟	藤原　達弥	岩瀬　大佑
	M	E	S	C
2年	双田　慎二	矢野　正人	瀧井　宏起	西村　彩
3年	井上　真吾	秋山　拓也	○杉浦　孝典	森澤　海里
4年	山本　佑季	◎大西　裕司	松元　俊明	田中　康広
5年	島村　篆敏	村河　智子	徳田　大輔	大前　貴紀

◎委員長　○副委員長

平成18年度　第1回　図書館運営委員会議事要旨

日　時　　平成１８年５月３０日（水）１６時２０分～１７：４０
場　所　　第二会議室
欠席者　　一般　高橋教員
議　題

１．平成１８年度図書館運営について

・資料「平成１７年度図書館情報管理運営委員会点検・評価（現状と課題）」により館長から１７年度の活動・１８年度の運営・課題について説明がなされた。

２．図書館だより３８号の編集について

・１頁目は国語科坂本教員が担当

・２・３頁目の「本等との出会い」は、順番どおりにお願いすることとし、一般・機械の教員に依頼することとした。

（出典：高専便り・図書館資料）

資料７－１－②－４　図書館便りの一例

（1）

図書館だより

－ 新入生歓迎号 －

第37号 平成18年4月11日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

小川洋子『博士の愛した数式』について －新入生の皆さんへ－



図書館長　長谷川　隆

新入生の皆さん、次の問題に答えてください。

問１　220と284の関係は？
問２　28が完全数と言われる理由は？そして、背番号が28である阪神タイガースの往年の名選手は？

所です。科学書でも哲学書でも、株の本でも、小説でも、つまみ食いをしてみましょう。美味しかったら全部読めばよいのです。ぜひ利用してみてください。しかし、図書館はみんなが利用する場所です。ルールもきちんと守ってください。特に、**貸出期間（２週間）**、**静粛・飲食厳禁**についてはお願いします。

ところで、私も「博士」のように忘れるところでした。最初の問題の答えを書いておきましょう。

［答え］
問１
220の、自分自身（220）を除いたすべての約数を足すと284。同様にすると、284は220。この

（出典：図書館便り）

資料７－１－②－５　ブックハンティング資料

［教室掲示用］

ブックハンティングに行こう！
－平成１８年度第１回ブックハンティングの勧め－

高松高専　図書館

１．ブックハンティングとは？
　ブックハンティングとは，学生が本屋に直接行って，図書館に置くのにふさわしい本を選ぶことです。本に興味を持ってもらい，図書館を身近なものとして感じ利用してもらうために実施しています。

２．参加者は？
　１年から５年までで、原則として**クラス単位**で参加し，クラスからは何名参加してもかまいません。ただし，クラスの**図書委員（あるいはその代理の学生１名）が責任者**となって下さい。

３．ブックハンティングできる図書は？
　マンガ・雑誌を除いた、図書館に置くのにふさわしい図書です。
　※　ブックハンティングしてくれた図書を実際に購入するかどうかは、　後日
　　図書館の方で決定します。

４．どれくらい買えるか？　１クラス**１万円まで**です。

５．ブックハンティングに行く本屋は？　今回は**宮脇書店本店**です。
　宮脇書店本店　　高松市丸亀町４－８（高松市美術館隣）　TEL 087-851-3733

６．いつ行くか？　**平成１８年６月１３日（火）**（前期中間試験最終日）

（出典：図書館資料）

資料７－１－②－６　図書館利用状況データ

（6）　図書館だより 38号

■利用者別貸出数

	図書	消耗図書	CD	雑誌	合計
学生	8,743	120	1,294	67	10,224
専攻科生	1,445	138	106	10	1,699
教職員	865	12	75	62	1,014
学外	94	12	12	12	130
合計	11,147	282	1,487	151	13,067

■開館日数

曜日	日数
平日	239
土曜日	35
日曜日	5
計	279

■学生貸出冊数

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
学生貸出総冊数	11,923	9,188	8,691
学生1人当たり貸出冊数	13.7	10.6	10.2

■時間別利用者数

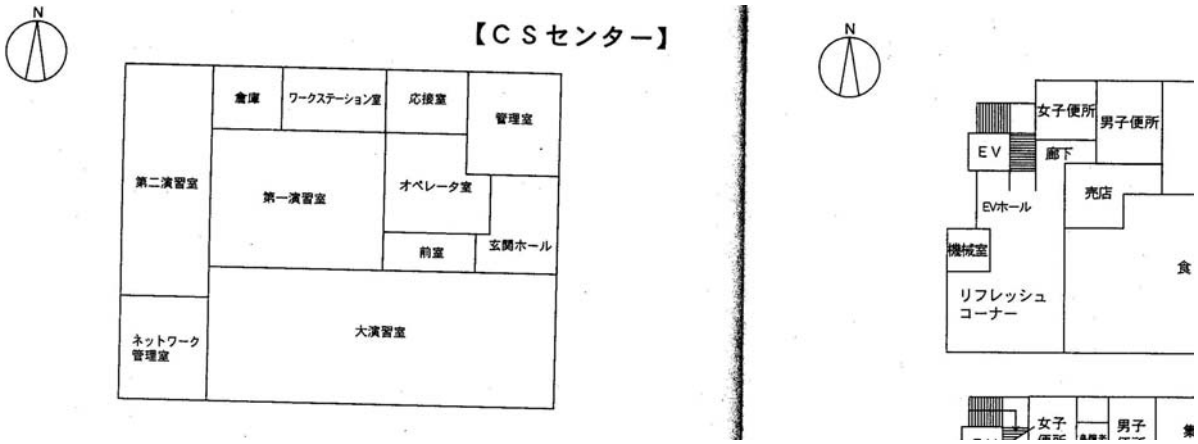
時間内		時間外				計	
		平日		休日			
日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数
239	34,934	182	6,282	40	1,962	279	43,178
1日平均	146.2	34.5		49.1		154.8	

■平成17年度クラス別貸出数

（出典：図書館便り）

資料７－１－②－７

ＣＳセンター演習室一覧



（出典：学生便覧）

資料７－１－②－８

ＣＳセンター利用規定

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用要項

昭和63年２月22日制定

（趣旨）

第１条　この要項は，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用細則第12条の規定に基づき，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

（利用時間）

第２条　大演習室，第一演習室，第二演習室及びコンピュータ演習室の利用時間は，次のとおりとする。

一

室	曜日	時間
大演習室 第一演習室 第二演習室 コンピュータ演習室	月～金	8:30～18:00

二　前号の順位の詳細は，利用の区分に応じ学期毎にコンピュータサイエンスセンター運営委員会において決定し，掲示する。

（利用負担金）

第４条　利用負担金の額は，次のとおりとする。

一　集合教育演習システム，ネットワークシステム

各科分担金（年額）は，入学定員等に応じて年度当初にコンピュータサイエンスセンター運営委員会において決定し，年１回会計課に振り替える。

二　大型計算機端末システム

大阪大学の大型計算機に係る利用負担金は，大阪大学からの請求に基づき教員研究費から控除の上，大阪大学あてに振り替える。

消耗品類の負担額は，消耗品総額を登録者数等に応じて配分した額をもって各教員の負担額とし，年１回の割で教員研究費から控除する。

附　則

1　この要項は，昭和63年４月１日から施行する。

2　高松工業高等専門学校学内共同利用データステーション利用

（出典：学生便覧）

資料７－１－②－９　ＣＳセンター組織図

組　　織

コンピュータ・サイエンスセンター長		鹿間　共一
管理部	ネットワーク室	(室長)重田　和弘
		古川　満信、吉成　知己
	一般管理室	(室長)吉永 真一
		古川　満信、吉成　知己
研究部	ISE研究室	(室長)重田 和弘
オペレーター室		大西 義幸

戻る

（出典：ＣＳセンターＨＰ）

ＣＳセンター運営委員会議事録の例

Subject: 第１回CSセンター運営委員会議事録(訂正版)
Date: Mon, 31 Jul 2006 12:49:01 +0900

CSセンター運営委員各位

先週お送りした、第１回CSセンター運営委員会議事録に誤りがありました
ので、訂正したものをお送りします。
欠席者の「中路」を「中治」に訂正しております。

また、議事録にもありますように、情報処理技術者試験の申込書をセンター
オペレータ室に置いております。ご自由にお取りください。

平成18年度第1回コンピュータサイエンスセンター運営委員会　議事録

日　時：2006年 7月26日(水)　9時38分～11時05分
場　所：CSセンター管理室
参加者：鹿間センター長、重田、本田、徳永、
（欠席者：米山学生課長、堀江、吉永、真鍋、中治、大西）

1．CSセンター平成17年度活動報告と決算
(a)ネットワーク管理体制の変更
　本年度からネットワーク管理室を設置し３名の体制とした。構成員は
　次のとおり。
　センター長：重田、室員：古川、吉成
(b)e-learningシステムの導入（WebClass と Net Academy）
・昨年度、WebClass と Net Academyを導入したので、積極的に活用して

（出典：ＣＳセンター資料）

資料７－１－②－１０　ＣＳセンター利用状況

コンピュータサイエンスセンター
教育用演習システム月別利用状況
2006年12月27日集計

月	Logon 回数	16時以降の Logon回数
2006年　4月	2073	192
2006年　5月	3708	699
2006年　6月	3275	616
2006年　7月	2341	394
2006年　8月	630	171
2006年　9月	3880	715
2006年　10月	2890	249
2006年　11月	3871	511
2006年　12月	2207	222
2007年　1月		
2007年　2月		
2007年　3月		

（出典：ＣＳセンター資料）

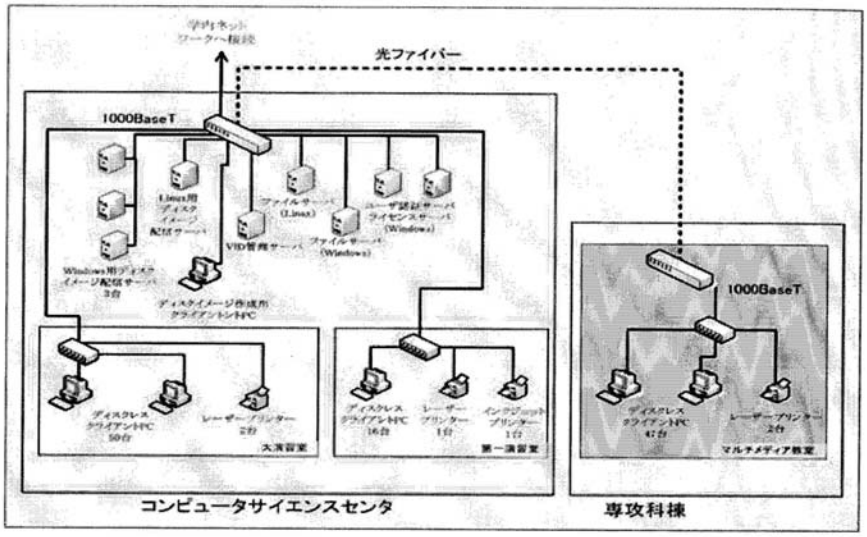
資料７－１－②－１１　ＣＳセンター（マルチメディア室）の設備

CSセンターの設備

集合教育演習システム

113台のVID(Virtual Image Distributor)方式のコンピュータが3つの演習室に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフト(Matlabなど)を使った演習授業などに使われている。クラスの学生が、Visual Studio(VB,VC++等)、Office(word,excel等)、MathematicaやMatlab 等のアプリケーションソフトを インストールした パソコンで関連科目の演習を行うことが出来る。

システム構成



設置機器

サーバー室 Server room	Management server : 5sets, Image management serve : 4sets
大演習室 Computer literacy room	VID client computer : 50 sets (Mint Wave ridotto4)
第1演習室 First exercise room	VID client computer : 16 sets (Mint Wave ridotto4)
マルチメディア教室 Medier room	VID client computer : 47 sets (Mint Wave ridotto4)

各演習室

（出典：ＣＳセンターＨＰ）

資料７－１－②－１２　e-learning 利用画面

e-Learning

平成17年度から、e-learning システムとして以下のシステムを導入しました。

WebClass　　学内からの入口　　学外からの入口
（e-Learninngシステム）

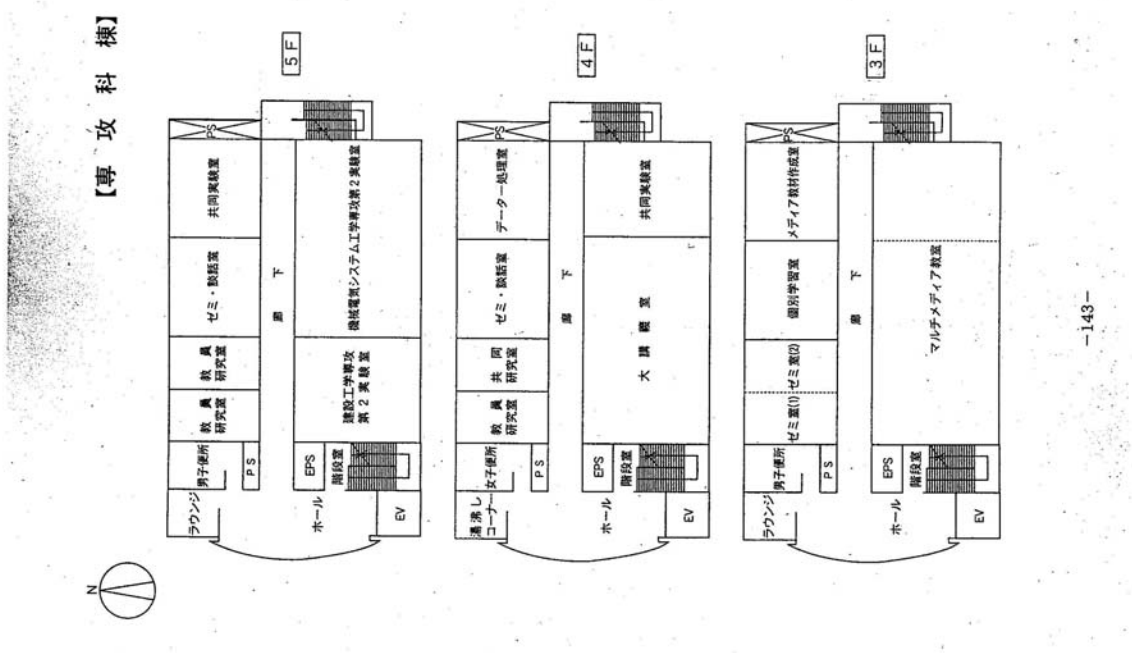
NetAcademy2　学内からの入口　　現在は学外からアクセスできません
（英語学習のためのe-Learningシステム）

使用方法（学内限定）

戻る

（出典：ＣＳセンターＨＰリンク）

資料７－１－②－１３　専攻科生用自習室（一部）



（出典：学生便覧）

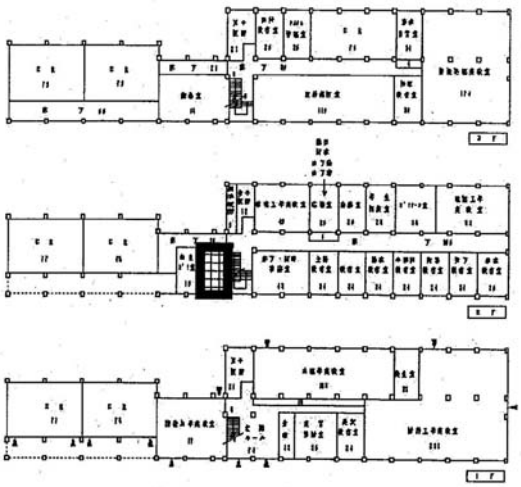
資料７－１－②－１４　学生の自習スペースの一例（建設工学環境科の例）

建設環境工学科における自習スペース状況

作成年月日：2006 年 12 月 20 日

室　　名	ゼミナール室２	作成者	渡辺　貴史

室位置



建設工学科及び講義棟

利用状況
1.授業での利用

	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期

学生の自習スペース利用記録の一例（建設環境工学科の例）

ゼミ室（2）使用記録簿　　平成18年11月22日～

使用月日	使用時間	使用者（責任者）	使用目的，対象学生（クラス名など），人数，等を記入
11/24	10:25 ～16:30	土居	卒研の打合せ（4名）
〃	16:30 ～17:00		自習（試験勉強）4名
11/29	16:20 ～16:43	土居	自習（　〃　）
12/1	16:30～17:20	土居	2C 3名，4C 3名．
12/8	15:30～17:30	多川	建設JABEE勉会，評価検討グループ勉強．出席者．坂本．多川．渡辺．
12/11	10:15～10:40	土居	試験の空き時間　（2名）

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－１－②－１５　学生も利用可能な特別教室の一例（ＣＡＤ室）

2006/04/01

ＣＡＤ室使用規定

制御情報工学科
機械工学科

1. 使用者

ＣＡＤ室を使用できる者は，原則として制御情報工学科，機械工学科の学生および教職員とする。製図関連授業の施設使用を最優先とする。両学科以外や，学外から施設の使用希望があった場合は，製図担当教員が可否を別途審議する。

2. 使用時間

施設の利用時間は平日の 8 時 30 分から 20 時までとする。使用できる曜日は別途決める。

3. 利用できるソフト

ＣＡＤ室には以下のソフトをインストールしてある。

- Microsoft Office 2000 （Word，Excel，PowerPoint）
- Sma4 for Windows　Ver.1.57J
- Jw_cad　Ver.5.0e

ＣＡＤ室の設備を用いて，上記以外のソフトの利用を禁止する。

4. 使用心得

施設の使用に当っては以下の使用心得を厳守しなければならない。

（1）授業時間外の施設の使用は担当教員の許可が必要である。
（2）設備・機器は無断で現状を変更しない。
　　なお，無断でＨＤにインストールした場合，当該年度のユーザＩＤを停止する。
（3）授業終了後，マウスおよびキーボードを定位置に置き，スリッパを所定の位置に整列させ

（出典：制御情報工学科資料）

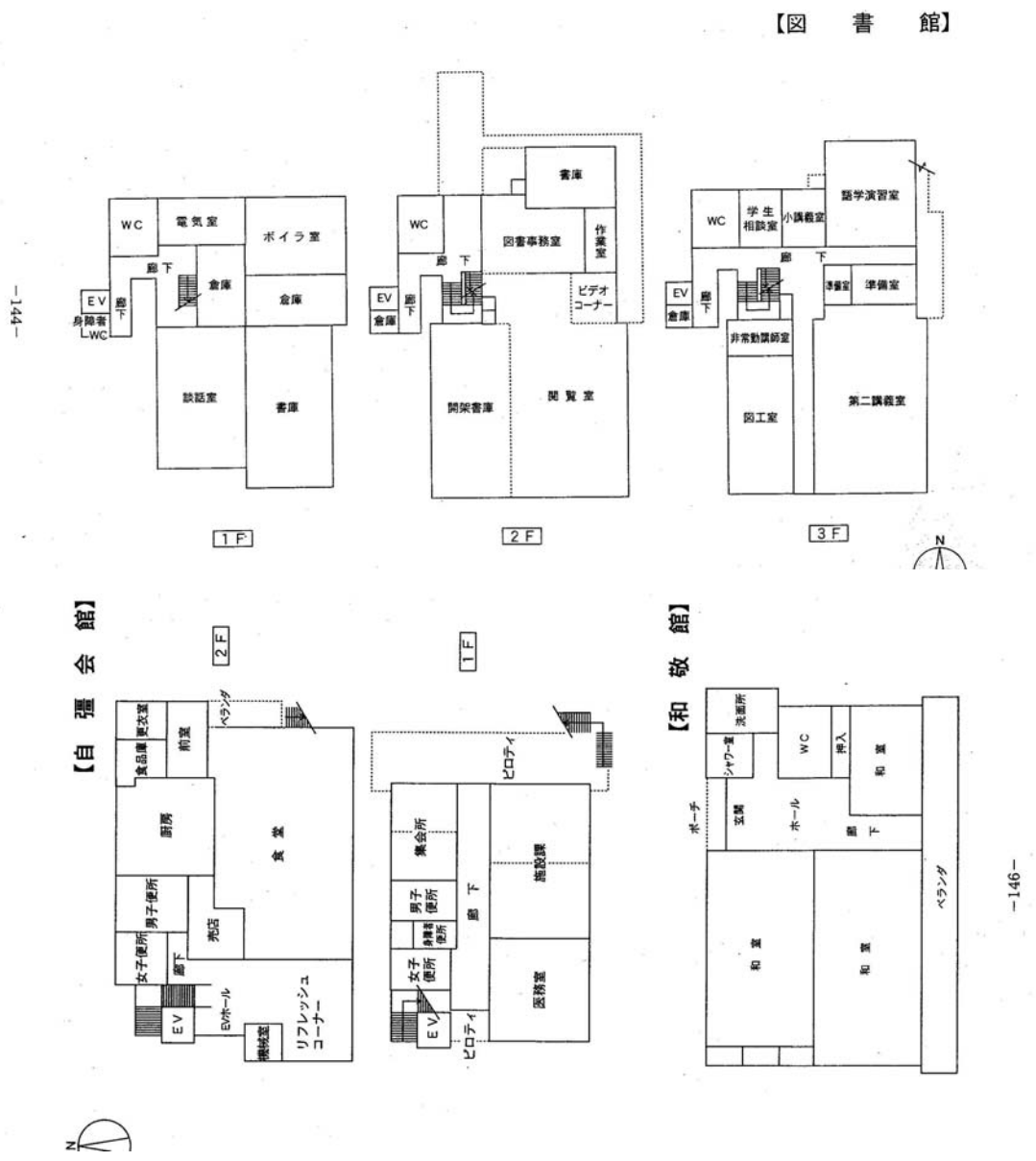
資料７－１－②－１６　寮の学習室などの一覧

学寮の学習に利用できる部屋一覧

部屋名	部屋数	利用者	利用状況
男子学生高学年寄宿舎棟			
パソコン室	1室	高・低学年共用室	
学習室	1室	高・低学年共用室	
補食談話室	1室	高学年	
製図室	1室	高学年	
男子学生低学年寄宿舎棟			
補食談話室	3室	低学年	
女子学生寄宿舎棟			
自習室	1室		
補食談話室	1室		

（出典：寮務係資料）

資料７－１－②－１７　福利厚生施設設備の一部



（出典：学生便覧）

資料７－１－②－１８　医務室白書

平成17年度医務室白書

1 医務室利用状況

	1年	2年	3年	4年	5年	合計	率(%)	専攻科 1年	専攻科 2年	合計	率(%)
風邪・発熱・咽頭痛	76	83	101	52	53	365	28.4	3	12	15	40.5
腹部症状(胃部痛・腹痛)	34	37	89	35	32	227	17.7	0	5	5	13.5
気分不良・倦怠感・頭痛	73	89	127	63	36	388	30.2	3	9	12	32.4
その他(相談・生理痛・喘息)	75	37	156	14	22	304	23.7	2	3	5	35.7
小　計	258	246	473	164	143	1,284	100	8	29	37	100
外傷(擦過傷・切創)	54	84	50	82	59	329	32.2	10	4	14	43.8
打撲(骨折・脱臼・事故)	20	22	21	18	20	101	9.9	0	3	3	9.4
突き指・捻挫・靭帯損傷	20	10	30	25	39	124	12.1	1	0	1	3.1
筋肉痛・関節痛・腰痛	36	70	50	59	54	269	26.3	3	1	4	12.5
耳鼻咽喉疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎等)	8	4	15	11	12	50	4.9	1	2	3	9.4
眼疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性結膜炎等)	21	11	18	3	3	56	5.5	0	0	0	0
歯疾患(歯牙痛・齲歯)	1	0	0	1	1	3	0.3	0	0	0	0
その他(火傷・湿疹・棘)	38	10	23	11	9	91	8.9	1	6	7	21.9
小　計	198	211	207	210	197	1,023	100.1	16	16	32	100
合　計	456	457	680	374	340	2,307		24	45	69	

2 外科的傷害等発生状況

項　目		件数	請求数	給付請求率(%)
授業	体育	194	36	18.6
	その他(卒研・実習)	49	1	2
学校行事		60	2	3.3
部活動		78	63	80.8
休憩時間(昼休憩を含む)		561	9	1.6
登校・下校		45	3	6.7
家庭等(寮を含む)		67	7	10.4
合　計		1054	121	11.5

※ 請求数は，独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付状況の内数である。
平成17年度災害共済給付金支払額　2,117,917円

平成17年度医務室利用状況

内科的	1,322件
外科的	1,054件
合計	2,376件

平成16年度医務室利用状況

内科的	1,232件
外科的	911件
合計	2,143件

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－１－②－１９　教育相談室アンケート一部

教育相談室アンケート（男・女）

＜該当するものに○をつけてください。記名の必要はありません。　複数回答可＞

A. 相談室の利用について

1．図書館３階の教育相談室や相談室員の教官室を訪ねたことがありますか。目的は問いません。
（ある・ない）

2．相談室関係の掲示物を見たことがありますか。
（カウンセリング予定表・相談室便り・ない）

3．カウンセラーが月に２回学校に来ていることを知っていましたか。
（知っていた・知らなかった）

4．今までカウンセラーや相談室の先生、看護師さんに悩みごとを相談したことがありますか。
（カウンセラー・相談室の先生・看護師さん・ない）

5．４で「ない」と答えた人で、今までカウンセラーや相談室の先生、看護師さんに悩みごとを相談したいと思ったことがありますか。
（カウンセラー・相談室の先生・看護師さん・ない）

6．今後、悩みを抱えた時、相談室を利用したいですか。
（はい・いいえ）　　その理由：
相談相手は誰ですか：

B. 最近の自分について

7．最近意欲の減退を感じますか。

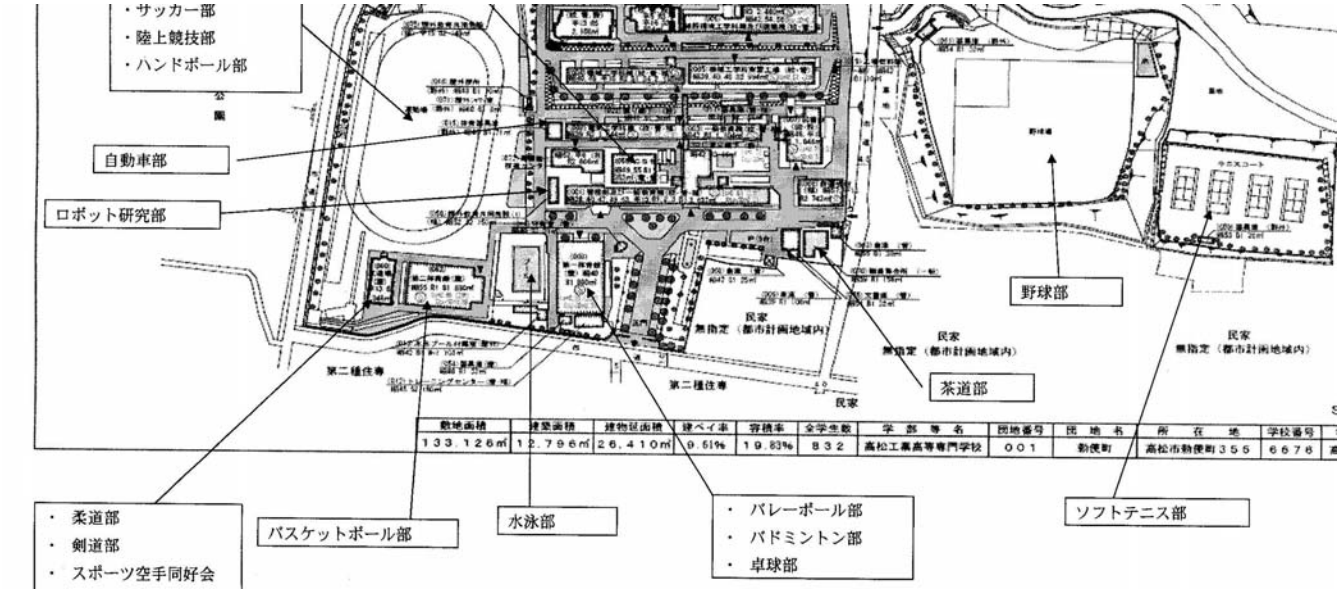
（出典：教育相談室資料）

資料７－１－②－２０　教育相談室アンケート集計一部

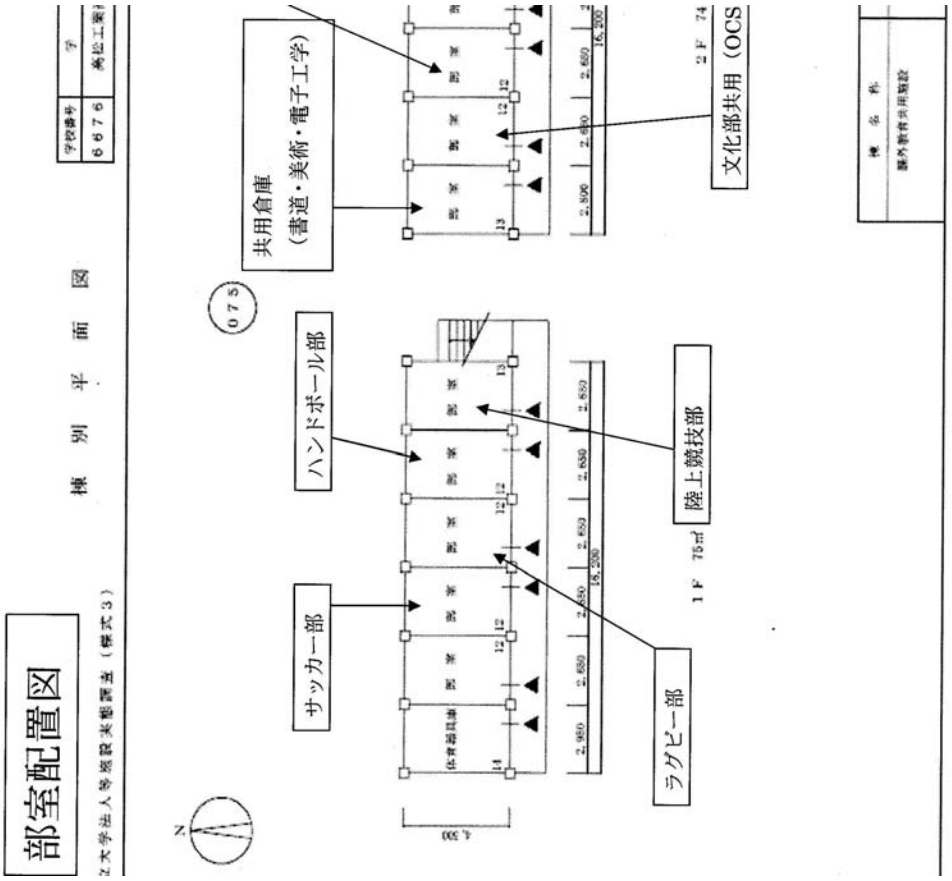
A1	ある	47	ない	682				
A2	予定表	217	相談室便り	123	ない	443		
A3	知っていた	371	知らなかった	341				
A4	カウンセラー	14	相談室の先生	18	看護師さん	6	ない	701
A5	カウンセラー	36	相談室の先生	23	看護師さん	9	ない	638
A6	はい	139	いいえ	561				

（出典：教育相談室資料）

資料７－１－②－２１　課外活動場所の配置図（一部の例）



部室の配置図（一部の例）



（出典：学生課資料）

資料７－１－②－２２　合宿所（和敬館）の利用状況例

和敬館の使用状況

使用期間			日間	使用団体名
7月31日		8月21日		野球部(低学年)寮生
10月14日		10月15日		ロボコン研究部
10月21日		10月22日		ロボコン研究部
12月23日		1月8日		野球部(低学年)寮生

（出典：学生課資料）

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

全教員，クラス代表学生，専攻科生，学生ＯＢ，外部の有識者らによる教育改善（プログラム改善）委員会を年に１，２回行っている（資料７－１－③－１～４）。代表学生はクラスの総意を持ち寄って会議に臨んで活発に意見を出していて，学生のニーズが集約されている。

学生側から学生会の役員とクラス代表，学校側からの三主事および主事補らによる対話集会が年に二度行われ，学生の疑問に対しては事情説明し，要望は各委員会で検討される（資料７－１－③－５）。例えば，高学年スポーツ大会の再開や，学習環境に関する実績では，授業間の休み時間が１５分となったことや，検定・資格試験の特別学修単位認定制度（資料７－１－③－６）などは，学生からの要望に基づき対応した結果である。学生総会での決議などは全て学生主事に報告される（資料７－１－③－７）。

その他に，目安箱の設置（資料７－１－③－８），授業評価の自由記述欄（資料７－１－③－９），授業評価を受けての対話と報告書（資料７－１－③－１０），学生会誌の記述（資料７－１－③－１１），１～３年生の学年団による個人面談およびアンケート，クラスの学級日誌などでニーズを把握している。また，保護者懇談会や教育後援会から保護者を通じた学生ニーズを汲み上げ（資料７－１－③－１２），卒業生や就職先からのニーズも参考にしている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

４つの全学科で開催される教育改善（プログラム改善）委員会において学生のニーズの大部分が集約されていることに加えて，上記のように年２度の対話集会，目安箱の設置，授業における対話報告書など多岐に渡る手段で意見を汲み取っているため，学生のニーズは適切に把握されているといえる。

資料７－１－③－１　機械コース教育改善委員会議事録

機械工学コース
平成１７年度機械技術者教育改善委員会議事録

機械工学科長

日　時　　平成１８年２月４日（土）　９：００　～　１２：００
場　所　　第一会議室
出席者　　学　　外　　：[redacted]
（平成１５年度本校専攻科修了、ヤンマーエネルギーシステム(株)勤務）
一般教育科教員　　：権藤、明神
制御情報工学科教員：山内、平岡
機械工学科教員　　：岡田、高畑、木原、高橋、山崎、小島、福井、吉永、上代、酒井、吉田
技術支援室員　　：佃　、大平、寺嶋
プログラム４年生　：[redacted]
プログラム３年生　：[redacted]
プログラム２年生　：[redacted]
（順不同、敬称は省略させて戴きました。）

資　料　①　機械工学コース　平成 17 年度機械技術者教育改善委員会の開催について
②　技術者教育プログラム「機械工学コース」の履修要項
③　JABEE 機械工学コース外部評価委員会議事録（H17.2.4 開催）
④　高松工業高等専門学校 機械工学科・専攻科 機械電気システム工学専攻「機械工学コース」の手引き（学生用）
⑤　資料④のｐ６「図 4-1　機械工学コース全体の科目配置図」の差替え

議　事
１．学科長より本会議の趣旨説明があった。続いて、外部委員の[redacted]に自己紹介をお願いした。
[redacted]から、平成１６年３月本校専攻科を修了し、同４月[redacted]に配属になり、[redacted]の設置の業務を行っている。
業務内容は JWCAD を使っての図面作成やその他資料の作成である。本日は社会人になってから学んだことも含めて話ができれば幸いです。との説明があった。

２．学科長より配布資料についての説明があった。

３．木原先生より本日の委員会では以下の３項目について順次意見を戴きたいとの説明があった。
（１）学習・教育目標について
（２）カリキュラムについて
（３）改善ループについて

４．最初に[redacted]に意見をお願いした。
・　学習・教育目標に対して　一般的には（A）倫理、（B）知識、（C）実行力は重要であると思うがが、自分としては（D）のコミュニケーション能力がとくに必要と感じている。
・　仕事上で、お客さんや下請けの人や設計の人に納得してもらうことが重要なことがよくある。
・　いまのところ海外出張はないが英語の能力が問われるときが来ると思っている。
・　学会発表などはプレゼンテーション能力をつけるのに役立ったと思う。
・　科目では「校外実習」「学外実習」を大いにやるべきだと思う。

５．インターンシップについて
木原先生から、現在の「校外実習」は約２週間が一般的であるが、インターンシップとしてもっと長期間行うということについて意見を出してくださいとの依頼があった。
・　専攻科を含め高専の７年間は、他の大学生と比較して外部との接触が少ないので「校外実習」「学外実習」をもっと長期にやった方が良い。[redacted]
・　夏休みは休みとして楽しみたい。やるなら専攻科の「学外実習」でやりたい。[redacted]
・　木原先生コメント：専攻科の夏休みはまとまった研究のための時間で休みと思って貰っては困る。

（出典：機械工学科資料）

資料７－１－③－２　電気情報工学コース教育改善委員会プログラム

電気情報工学コース

第４回技術者教育改善委員会
プログラム

日　時：平成 18 年 12 月９日(土)　13:30～16:30
場　所：高松高専・第一会議室（一般棟と電気棟間２F）
出席者：有識者，企業関係者，OB，当校学生（3 年生～専攻科２年生），教職員

プログラム

１．開会挨拶（副校長）　13:30～13:35

２．電気情報工学コースの現状報告
(1)　JABEE 対応の現状（プログラム責任者）　13:35～13:50

(2)　高松高専・電気情報工学コースを取り巻く現状　13:50～14:30
○　少子化と理工系離れ
・入学志願者の推移，一般大学志願状況
○　2007 年問題と高専
・求人数の推移（年度，内容別），実績
○　卒業生の進路状況
・近年の特徴
○　大学単位制度の導入
・教育時間数の減少，空き時間の工夫

(休憩：10 分)

３．討論　14:40～16:00

○　今後の高松高専・電気情報工学コースの教育・研究のあり方

４．総評（OB，有識者）　16:00～16:20

５．総括（プログラム責任者）　16:20～16:25

６．閉会の挨拶（副校長）　16:25～16:30

（出典：電気情報工学コース資料）

資料７－１－③－３　メカトロニクスプログラム改善評議委員会

電気情報工学コース改善委員会

電気情報工学コースの第３回 技術者教育改善委員会が開催される

平成17年12月10日に，企業有識者２名，ＯＢ代表２名，コース関係教職員16名，他コース教員２名，学生23名の計45名が出席し，電気情報工学コースの「第３回技術者教育改善委員会」が開催されました。

まず，同年10月に行われたJABEE実地審査と審査結果の概要が報告されました。次に，基準ごとの詳細な結果とこれに対する改善内容の説明がありました。その後，全体の意見交換を行い，有識者やＯＢからは改善内容に対する指摘やアドバイス，さらには企業の方から見た技術者像についてのご意見をいただきました。これらを本プログラムの改善に役立てて，継続的な改善ループをより一層充実させる予定です。



平成17年度メカトロニクスプログラム 教育実践報告会が開催される

メカトロニクスプログラムでは，プログラムの教育に携わる教職員のFD活動の一環として，平成17年12月８日に教育実践事例報告会を実施しました。この報告会は，メカトロニクスプログラムの授業に関わる教職員がその教育実践に関する試みや成果を報告しあい，創意工夫を共有する場となります。今回は，一般教育科教員の発表もあり，日々の授業実践に関する５件の報告が行われました。

プログラム

1．学生をサポートするGaussサーバ群利用による教育の試み
　一般教育科　堀江　賢治
2．学生授業アンケートを利用した授業改善
　制御情報工学科　逸見　知弘
3．マスプロ教育から少人数教育へ
　制御情報工学科　十河　宏行
4．専門学科教員が行なう“技術者倫理教育”の試み
　制御情報工学科　由良　諭
5．工作実習Ⅰ・Ⅱにおける改善活動
　制御情報工学科　木下　学，川田　和男

メカトロニクスプログラムでは，「メカトロニクスプログラム教育業績顕彰規程」を制定し，プログラムの教育に関わる教職員の優れた教育実践を顕彰しています。本報告会は，この顕彰にかかる審査会をかねるものであり，プログラムが実施する教育に対して，これを受講する学生諸君や教職員代表者のご批判をあおぐ場でもあります。

審査員10名（校長，学科長，技術支援室長，専攻科学生代表）による審査の結果，川田和男教員が発表した「工作実習Ⅰ・Ⅱにおける改善活動」に対して優秀教育実践賞と副賞（研究費）が贈られました。





平成17年度メカトロニクスプログラム 改善評議会が開催される

平成17年12月23日に卒業生２名，在校生７名（本科４年～専攻科２年）とプログラム関係教職員16名で制御情報工学科を主体とした「メカトロニクスプログラム」の平成17年度プログラム改善評議会を開催しました。

はじめに，JABEEの基準とメカトロニクスプログラムの要である「学習・教育目標」との関係ならびにこれに基づくカリキュラム設計について概要説明が行われ，JABEE実地審査受容までの経緯と実地審査結果について報告がありました。つづいて，学習・教育目標に関する意見交換を行い，平成16年度に実施した「第二回メカトロニクス技術者教育プログラム改善検討委員会」の議論を受けた教育改善への取り組みについて報告がありました。これらを受けてプログラム改善全般に関する要望・意見交換と質疑応答が行われました。

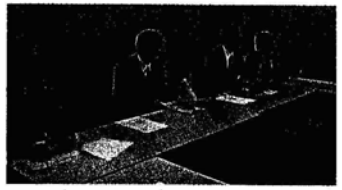
本評議会で頂いた意見を集約し，今後のプログラム改善に役立てる予定です。

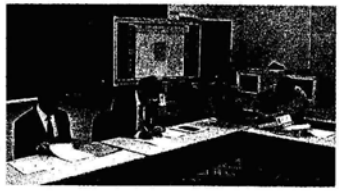


第４回建設工学コース改善検討委員会が開催される

平成18年１月31日(火)，昨年度に引き続き，上記委員会が建設環境工学科棟２階ゼミナール室において開催されました。同委員会は，本科建設環境工学科および専攻科建設工学専攻におけるカリキュラムを一つの教育コースと捉えて，学生，教職員および外部関係者の意見を通して，その教育環境の改善と学習・教育目標の達成のために必要な見直しを継続的に行うことを目的として設置されたものです。当日は，昨年11月に受審したJABEEの結果報告を行い，審査員より改善の指摘のあった部分の改善案を本委員会に提示し，審議を行いました。後半では昨年の委員会で指摘された事項の改善状況について確認がなされた後，教育環境，授業方法，授業内容，評価方法等に関する現在の問題点について活発な意見が交わされました。今後，対応可能な事項から迅速に改善を図る予定です。なお，本年度における同委員会の委員は以下の通りです。

構成		委員(敬称略)
卒業生および外部関係者	卒業生	[redacted]
外部評価委員	電気情報工学科	本田
建設環境工学科	教員	長友，太田，多川
一般教育科	教員	坂本，上原
本校職員	技官	岡崎
学生(専攻科)		[redacted]
学生(本科)		[redacted]





技術者教育プログラム「機械工学コース」 平成17年度機械技術者教育改善委員会が開催される

平成18年２月４日(土)上記委員会が，本校第一会議室において，学外よりヤンマーエネルギーシステム(株)の津田氏にお越し頂き，在校生17名に教職員を加えた36名の出席で開催されました。まず初めに，機械工学コースの手引に基づき機械工学コースの概要説明が行われました。その後，①機械工学科，専攻科機械工学コースのカリキュラムについて，②学習・教育目標について，③技術者教育プログラムの点検および改善活動について，の３点を中心に活発な議論が行われました。頂いた意見を参考にして，機械工学コースの改善に役立てて行きたいと考えています。

出席者

学　外　[redacted]
（平成16年３月　本校専攻科修了）
一般教育科教員　：権藤，明神
制御情報工学科教員：山内，平岡
機械工学科教員　：岡田，高畑，木原，高橋，山崎，小島，福井，吉永，上代，酒井，吉田
技術支援室員　：佃，大平，寺嶋
専攻科２年学生
専攻科１年学生
本科５年学生
[redacted]





（出典：高専便り）

資料７－１－③－４　建設コース教育改善検討委員会議事録

第５回建設工学コース改善検討委員会　議事録

日　時　：　平成１９年2月2日（金）　１７：００～１８：３０
場　所　：　建設環境工学科ゼミナール室
出　席　：　外部評価委員 [redacted]（卒業生：[redacted]、
本校教員　（一般教育科）坂本具償[国語科]、上原成功[数学科]
（建設環境工学科）春本　繁、鶴本良博、水越睦視、多川　正、渡辺貴史、
本校職員　岡崎芳行（建設環境工学科　技術職員）
本校学生　[redacted]

資　料　：(1) 日本技術者教育認定基準で規定された以上の学習時間を保証するための
「建設工学コース」における履修要件
(2) 「建設工学コース」の学習・教育目標を達成するための履修要件（平成 15 年度以降の入学生）
(3)「建設工学コース」の学習・教育目標を達成するための科目の流れ
(4)「建設工学コース」の学習・教育目標の達成度チェック
(5) 第 4 回建設工学コース改善検討委員会　議事録

内　容　：
(1) JABEE 教育プログラム「建設工学コース」の概要説明
本改善検討委員会の趣旨及び「建設工学コース」の概要について、多川評価検討グループ委員会委員長によって説明された。

(2) JABEE 受審結果の報告
2005.11.7-8 に実施された「建設工学コース」JABEE 受審結果について、多川評価検討グループ委員会委員長によって説明された。審査の結果、「建設工学コース」の技術教育プログラムは JABEE 認定基準に適合していることを認定された（2005 年度から５年間）。

(3)学習・教育目標の達成状況を学生自らが判断できる方法の検討
昨年度の本委員会にて、当プログラムの５つの学習・教育目標が身に付いたかどうかの判断が学生自らが確認できる方法について、当年度建設 JABEE 委員会にて検討（Action, Plan）した結果、学習・教育目標を達成するための科目の流れ図の作成、年度末に実施する学習・教育目標の達成度チェックリストの作成、また、各科目ごとに設定している学習・教育目標が達成できたかのチェックができる方法などを検討している旨を説明した。
【審議事項】　資料(1)--資料(4)を活用した方法が上記の目的を達成するのに妥当か否か。

【出された意見】
・資料(4)の達成度チェックのなかにあるコメント欄の「学生のコメント」は、プログラムの改善に使われるのか [redacted]
→学科会での検討を経て、改善に活用される予定である。真剣に書いて欲しい。
・資料(2)の履修要件にみられる科目の数が少ない。例えば、「建築構造学」、「電気工学概論」はどこにあるのか [redacted]
→「学習・教育目標の達成度をより高めるための科目」に該当する。多くの科目を履修要件に含めると卒業できない人が多発する。また、これらの科目のなかに毎年開講できない可能性を持つ科目も存在する。上記の事情をかんがみ、必要最低限の科目に絞った。
・各科目に達成度チェックが必要か。授業評価と重複する部分があるのでは。
→授業評価を行わない科目でも実施する予定である。複数回があることでより多くの改善を促す機会を作り出すことができる。
・資料(4)の達成度チェックのなかにあるコメント欄に学生はどのようなことを書くのか。大・小目標を達成できたか否かを書くのか。そうではなくて、授業に対する評価なのか。現文書に占めるコメント欄の性

（出典：建設工学コース資料）

資料７－１－③－５　対話集会

2006 年度学生会新聞

2006.6.29　高松高専学生会

対話集会を行いました

6 月 26 日月曜日、16：30 ～各HRの委員長とHR委員、教務・学生主事と主事補の教員、学生会役員で対話集会を行いましたので、内容について一般学生の皆さんにも報告したいと思います。

1　教員側からの報告

○ JABEE認定の進行状況
・電気コースで 2 年認定、メカトロニクスプログラムで 2 年認定、建設工学コースで 5 年認定になりました。
・今年度、機械科がJABEE審査を受けます。

○ 資格の単位認定について
・今年度から、文部科学省の認める学修が大幅に変更されたため各種資格の単位認定が容易になりました。
・各学科と一般教育科で認定する資格を協議中です。
・資格所得によって認められた単位は特別学修の単位として卒業時の単位に認定されます。

○ 入室カードの貸し出しについて
・今後、申請可能です。学生会に申請用紙があります。

2　専攻科生及び留学生について

○ 専攻科生の行事参加について
・専攻科生のなかから代表を決めて、その人を交渉役に教員と詰めの協議に入ることになりました。

○ 留学生との交流について
・留学生の研修旅行に希望する一般学生も参加するということで大筋合意しました。
・費用負担や参加学生の希望調査等また追って連絡します。

3　追認試験について

○ 特別な理由のある欠席（グリーンカードの提出等が条件）ならばどの教員の教科でも、追認試験の追試を受けられるように検討していくとのことでした。

4　出欠統計について

○ 120欠課の理由について
・一番授業数の多い 4 年生において一年間の授業数が 1200 時間である。そのため、それの 1 割の授業時間を欠席していると言うことで出席状況が良好でないと判断せざるを得ないとのことでした。

○ 出席簿に間違いを発見したときは科目担当もしくは担任の教員に連絡すれば随時直すことができます。

（出典：学生会新聞）

資料７－１－③－６　学外での学修における単位認定規程

高松工業高等専門学校以外の教育施設等における学修に関する規程

平成８年２月21日制定

（趣　旨）

第１条　この規程は高松工業高等専門学校学則第13条の４の規定に基づき，大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（以下「特別学修」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（文部科学大臣が別に定める学修）

第２条　前条の文部科学大臣が別に定める学修とは，次の各号に掲げる学修をいう。

一　大学又は短期大学の専攻科における学修

二　高等専門学校の専攻科における学修

三　技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で，別表に定めるもの

（学修手続）

第３条　学生は，大学における学修及び第２条第１号又は第２号による学修を行おうとするときは，大学等における学修許可願（別紙様式第１号）に，関係書類を添えて校長に提出し，許可を受けなければならない。

２　校長は，前項による願い出が教育上有益と認めるときは，これを許可するものとする。

（単位認定申請）

第４条　学生は，特別学修を行い，単位の認定を受けようとするときは，次の各号に掲げる区分に応じ必要書類を添付して，学級担任を経て校長に提出しなければならない。

一　大学における学修及び第２条第１号又は第２号による学修履修した者

イ　大学等における学修単位認定願（別紙様式第２号）

ロ　当該学修を行った教育施設等の長の交付する単位修得証明書又は成績証明書

ハ　その他学校が必要と認める書類

二　第２条第３号による学修を行った者

イ　技能審査による学修単位認定願（別紙様式第３号）

ロ　当該学修を証明する合格証書等

（単位認定）

第５条　前条の規定により申請のあった特別学修の単位認定は，学則第13条の４に基づき校長が行なう。

２　第２条第３号による学修について認定できる単位数は，別表のとおりとする。

（単位認定通知書の交付）

第６条　前条により単位を認定した場合には，申請者に対し，特別学修単位認定通知書（別紙様式第４号）を交付するものとする。

附　則

この規程は，平成８年２月21日から施行し，平成７年４月１日から適用する。

附　則

１　この規程は，平成13年10月18日から施行し，平成13年４月１日から適用する。

２　この規程の改正以前に資格を取得した者の単位認定については，平成12年度資格取得分についてのみ，単位を認定できるものとする。

別　表

科目名	資格名	単位数	備考
工業英検Ⅰ	工業英語能力検定4級	1	一般科目とする
工業英検Ⅱ	同　上　3級	1	専門科目とする
	同　上　2級	3	
	同　上　1級	5	
実用英検	実用英語技能検定準2級	1	一般科目とする
	同　上　2級	2	
	同　上　準1級	4	
	同　上　1級	6	

*(1)工業英検Ⅰについては，第１学年から第３学年までの間に合格した者について単位認定する。
(2)工業英検Ⅱ及び実用英語については，最も大きい単位数のみを修得単位として認定する。
(3)工業英検Ⅱを単位認定したときは，工業英検Ⅰも単位認定したものとする。

－81－

－82－

（出典：学生便覧）

資料７－１－③－７　学生総会の一例

2006 年度学生会新聞	2006.5.1	高松高専学生会

学生総会を行いました

４月25日（火）に行われた学生総会にて，今年度の学生会予算と学生会行事の執行委員が承認されました。
今年度の学生会予算については，配付した資料のものが承認されています。また，確認しておくようにして下さい。
今回の学生総会で承認された各学生会行事の執行委員は下記の通りです。

体育行事執行委員長 [redacted]

高学年スポーツ大会執行委員長 [redacted]

学生祭執行委員長 [redacted]

学生会誌編集委員長 [redacted]

また，昨年度行われた選挙の結果に基づく今年度の学生会役員と会計監査委員の紹介も行いました。
学生会活動や会計監査制度などについて何か不明な点があれば，役員に気軽に声をかけるか学生会室まで質問に来て下さい。

最後になりましたが，今回の学生総会は今までの学生総会に比べて，学生の気分が浮ついていたように感じました。学生会役員の準備不足や誘導力不足も原因の１つだとは思いますが，それだけではないと思います。
学生の１人１人が学生総会を行う意味を考え，けじめある行動を心がけるべきだと思います。是非もう１度学生総会や学生会の意味を考えてみて下さい。

（出典：学生会新聞）

資料７－１－③－８　目安箱チェック表一部

目 安 箱 チ ェ ッ ク 表

確認日	コメント	確認日	コメント	確認日	コメント	確認日	コメント
18.5.19	2	19.1.9	0				
18.5.22	0	19.1.15	0				
18.5.29	1	19.1.22	0				
18.6.5	0	19.1.29	0				
18.6.12	3	19.2.5	0				
18.6.19	1	19.2.13	0				
18.6.26	0	19.2.20	0				
18.7.3	0						
18.7.10	0						

（出典：総務課資料）

資料７－１－③－９　授業評価の自由記述

・ 一部の学生のみが回答する教科もあるので、教科名、担当教員名に十分注意すること。

⑤ 授業評価を行う際、黒板に「教科番号」、「教科名」、「担当教員」を記載してください。

⑥ マークシートの裏面に自由記述を行うよう指導してください。

⑦ １教科ごとに授業評価を実施し、記入を終えたらその都度回収してください。

⑧ １教科ごとに輪ゴムでまとめ、全て終了後に教務係に提出してください。

【授業評価の目的および評価結果の今後の取り扱い】

（出典：授業評価実施要領）

資料７－１－③－１０　授業評価の対話報告書

平成１８年度　授業評価対話報告書（教員用）

「学生による授業評価」を受けた教科について、その結果を教科担当教員から学生に知らせるとともに、学生との対話をしてください。学生側からは、アンケートを取っても一向に改善が無いのではないかとの声も聞かれるため、教員側からの改善努力の一環として不可欠と考えております。以下の欄にご記入押印の上ご提出をお願いいたします。

なお、前期科目等で学生との対話が実施できない場合も、授業評価結果についてのご意見等をご記入の上、ご提出ください。

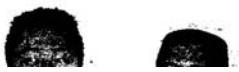
（１）提出場所：教務係
（２）提出期限：１１月１０日（金）１７時

教科名	担当教員	クラス
	印	学科：　工学科 学年：　年
対話日時	２００６年　月　日（　曜日）　時間目	
対話の主な内容を以下に記入してください。（箇条書きが望ましい）		

（出典：授業評価の対話報告書）

資料７－１－③－１１　高松高専学生会誌の学生意見に関する記述

退職教員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
岡野先生のオーストラリア・リポート・・・・・・・・・・・・・・・・・61
教員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
教員問答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
○○な教員コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
学生問答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75



（出典：学生会誌）

資料７－１－③－１２　保護者懇談会の資料

平成　　年　　月　　日

２年生の保護者各位

高松工業高等専門学校長　　塩谷　幾雄
高松高専教育後援会長　　福家　敏雄

２年団保護者懇談会（２クラス合同，クラス別）について（ご案内）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます．
今年度の２年団保護者懇談会を，つぎの要領で開催しますので是非ご出席くださいますようご案内申しあげます．
２年生になると，生活規律の乱れや学業不振などが表面化してくる学生がでてきます．これには，学校生活に慣れたが目標や指針を見いだせず，学生が迷っている状況などがあると思われます．
教育後援会と学校が協力し，「活気と魅力のある学園作り」のために尽力したいと思いますので，保護者の皆様のご出席とご協力をお願いいたします．

記

２年団保護者懇談会（２クラス合同，クラス別）

保護者と学校関係者との間で，いろいろな意見や情報の交換を行ないます．
同封の資料に前もって目を通していただき，当日はそれをご持参ください．

（１）期日　７月１（土），１４時から１６時

（２）行事　①２クラス合同懇談会（約１時間）：
出席する学校関係者(学校長，３主事，専攻科長，一般教育科長)
学生関係の意見交換（服装，免許取得，アルバイト，部活動等）
教務関係の意見交換（成績基準，留年者の状況，成績不振者対策等）
その他（専攻科紹介，寮務関係等）

②クラス別懇談会（約１時間）：
出席する学校関係者（担任，各専門工学科の学科長）
クラス関係の意見交換（クラス学生の状況に関する全般）
進路関係の情報交換（本年の就職・大学進学状況，女子の就職状況）
その他

２年団保護者懇談会（２クラス合同，クラス別）の開催要領

２クラス合同懇談会：学生の生活・成績，学校の規則・規準など全般について，教務・学生・寮務主事等と意見・情報の交換を行ないます．
クラス別懇談会：クラスの状況について，担任の説明と意見交換を行ないます．
さらに，本年の就職・進学状況について，各専門工学科の学科長による説明と情報交換を行ないます．

	クラス 時間	２年Ｍ組 機械工学科	２年Ｅ組 電気情報工学科	２年Ｓ組 創傳情報工学科	２年Ｃ組 建設環境工学科
懇談会	14:00 －14:55	２クラス合同懇談会 （第１会議室）		クラス懇談会 （２Ｓ教室）	クラス懇談会 （２Ｃ教室）
	15:05 －16:00	クラス懇談会 （２Ｍ教室）	クラス懇談会 （２Ｅ教室）	２クラス合同懇談会 （第１会議室）	

（注）　各懇談会の会場については，裏面の校内案内図をご参照ください．
なお当日も，校内案内図を学生玄関入口に掲示いたします．

（追伸）担任との個別懇談：保護者が担任と個別に面談するものです．
これについては別紙のご案内をご参照下さい．
県外等の保護者の方で，７月１に個別面談を希望される場合は，担任に前もってご相談ください．

……切り取り線……

２年団保護者懇談会（２クラス合同，クラス別）の出欠調査

＿＿組・保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

つぎのいずれかに，○印をおつけ下さい．

２年団保護者懇談会（７月１（土））への出欠

出席　　欠席

おそれいりますが，６月２３(金)までに，学級担任へご提出ください．

（出典：教務資料）

観点７－１－④：　資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

英語科による各種検定試験（資料７－１－④－１，２），国語科による漢字検定（資料７－１－④－３～５），機械工学科等による機械設計技術者試験，建設環境工学科による測量士補、１年生の総合演習（１８年度の実績は漢検，英検）（資料７－１－④－６）など，授業の一環として支援する場合もあるが，支援の多くは，学科の担当教員または教員個人が希望学生に課外で対応している。取得可能な資格・検定の一覧は本校ホームページにまとめられ，機械分野は機械工学科ＨＰ，電気分野は電気情報工学科ＨＰ，土木分野に関しては建設環境工学科ＨＰに列挙し，全学生に対応する資格を網羅している（資料７－１－④－７～９）。学科・教科単位の対応により，一部の資格試験について教室掲示や，パンフレットを設置・配布し（資料７－１－④－１０），希望学生に対する受験指導や，少人数の講座を開設する場合もあり，検定・資格の取得に貢献している（資料７－１－④－１１，１２）。また，資格・検定試験の特別学修単位認定など教務的な支援もある（資料７－１－④－１３）。

外国留学に関しては，平成１８年度よりオーストラリアのニューサウスウエールズ州立大学付属語学学校への語学研修制度を開始した（資料７－１－④－１４）。平成１８年８月には，教員２名の引率により学生１５名が３週間の語学研修を行った（資料７－１－④－１５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

取得可能資格一覧を参考に希望学生は随時の受験指導を受けられており，一般的な支援体制は整備され，合格実績もある。英語検定や測量士補など組織的に支援しているものもある。

外国留学については、平成１８年度から、組織的な語学研修制度が整備され機能している。

資料７－１－④－１　　TOEIC，英検等の合格状況一部

ETS TOEIC TOEIC® Institutional Program　　1/ 1

TEST DATE　2006/10/28

SORT KEY : REGISTRATION NO.

SCORE ROSTER FOR TAKAMATSU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY　　360949

RANK	REGISTRATION NUMBER	NAME (LAST,FIRST)	SCALED SCORES LISTENING	SCALED SCORES READING	SCALED SCORES TOTAL	GROUP CODE
[redacted]			260	205	465	
			145	140	285	
			210	85	295	
			250	210	460	
			360	230	590	
			275	150	425	
			195	155	350	
			265	165	430	
			155	115	270	
			375	275	650	
			290	125	415	
			165	90	255	
			225	90	315	
			250	115	365	

実用英語検定試験結果（平成17年度）

受験番号	一次分野1	一次分野2	一次分野3	一次分野4	一次分野5	一次分野6	一次分野7	一次分野8	一次計	一次合否	二次分野1	二次分野2
[redacted]	8	3	5		8	6		4	34	不合格B		
	12	5	9		13	9		4	52	合格	3	1
	11	4	7		12	10		5	49	合格	3	1
	7	3	2		11	5		2	30	不合格C		
	8	4	6		13	8		4	43	不合格A		
	11	4	8		12	8		5	48	合格	3	1
	15	5	9		11	12		5	57	合格	3	1
	14	5	8		10	8		3	48	合格	3	1
	10	3	3		10	6		3	35	不合格B		
	8	5	7		14	11		5	50	合格	3	1
	8	4	3		12	4		3	34	不合格B		
	13	3	9		12	6		2	45	合格	3	1
	12	5	11		19	9		4	60	合格	4	1
	8	2	10		10	4		4	38	不合格A		
	9	4	11		14	5		3	46	合格	4	2
	10	1	14		13	7		3	48	合格	3	1
	8	1	7		17	6		3	42	合格	3	1
	13	5	8		15	3		3	47	合格	3	1

（出典：英語科資料）

資料７－１－④－２　　英検等の受験指導に関する資料

英語検定のお知らせ

2006 年第 3 回「英検」を本校にて実施する予定です。実施要領は以下の通りですが、受験者が 10 名に満たない場合は、本校で英検を実施することができません。その場合は、各自書店で受験申し込みをしなくてはなりません。また、準 2 級取得者に単位を認定するのは、今年度限りです。皆さんこの機会に、ぜひ本校での試験を申し込んでください。受験を希望する人は、**検定料を持って、12 月 22 日までに有道教員室に申し込みに来てください**。

英語科役割分担(2007年度)						
			出渕	市川	有道	宇野
入学試験関係	編入試験(高校より)	作成(7月中旬まで)			○	○
		採点(7月　日)			○	○
		選考会議7月　日			○	
	推薦入試	選考会議1月　日			○	
	入学試験	予備問題(1月下旬)	○	○		
		採点(2月　日)	○	○	○	○
		選考会議(2月　日)			○	
	専攻科入試	前期作成	○	○		
		専攻会議(5月末)	○	○		
		後期作成	○	○		
		選考会議(11月末)	○	○		
資格試験関係	実用英検	申し込み(12月)			○	
		準会場実施(1月末)			○	
	工業英検	5月	○			
		11月	○			
	TOEIC	10月				○
	高専共通試験	1月				○
校内模擬試験	新入生テスト	印刷(4月　日まで)	○			
		採点		○	○	○

(出典：英語科資料)

資料７－１－④－３　シラバスの記載例（国語の一例）

科目名	国語 Japanese			担当教員	大山鈴世　長谷川隆　坂本具償 （窓口教員：長谷川 隆）		
学年	1	学期	通年	科目番号	06101	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	1．現代文や漢文の読解を通して、感受性を育み、柔軟な思考力を身につける。 2．正しい日本語で表現するための基礎を身につける。 3．読書する習慣を身につける。 4．漢字検定４級、３級合格程度の漢字力を習得する。						
進め方	講義形式を基本とする。予習・復習に努めてほしい。また、意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。授業（大山）中に読書の時間を設ける。原則として週１回漢字小テストを実施する。						
	学習項目（時間数）			合格基準			
	※ガイダンス（1） 1．国語（現代文）（大山）（15） ア．羅生門　イ．はるかな町			・下人が盗人になるまでの芥川の論理が理解できる。（「羅生門」） ・少年、少女の生きる姿が理解できる。（「はるかな町」）			

（出典：シラバス）

資料７－１－④－４　漢字能力検定等の合格状況一部

平成18年10月29日(日)合否結果

200万人の漢検　財団法人　日本漢字能力検定協会

□団体　合否結果表

級	合格点	級	合格点	級	合格点
二級	116点以上	準二級	140点以上	三級	140点以上
四級	140点以上	五級	140点以上	六級	140点以上
七級	140点以上	八級	120点以上	九級	120点以上
十級	120点以上				

会場番号	会場名称	検定日
36B0013	高松工業高等専門学校	平成18年10月29日(日)

級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率
二級	43	1	42	13	31.0
準二級	32	3	29	20	69.0
三級	11	1	10	10	100.0
合計	86	5	81	43	53.1

（出典：国語科資料）

資料７－１－④－５　漢字能力検定の掲示

平成１８年度日本漢字能力検定実施要領

高松高専一般教育科国語科

受検希望者は**９月２２日（金）まで**に、
申込用紙に必要事項を記入し、検定料をそえ、
国語教員室まで申し込んで下さい。
※　申込用紙は「受検案内」の「団体控準会場用申込用紙（Ａ）」のみを切り取り提出すること。「申込用紙（Ｂ）」は提出不要。

検定料
２　級　…４，０００円
準２級　…２，０００円
３　級　…２，０００円

期　日　**平成１８年１０月２９日（日）**

検定会場　**高松高専図書館３階第２講義室**

検定時刻
１０：００～１１：００　２　級
１１：３０～１２：３０　準２級

（出典：国語科資料）

資料７－１－④－６　総合演習監督予定

１年総合演習（後期）監督予定表

回	実施日	科目	1組	2組	3組	4組
1	１０月　５日（木）	国語	宇野		吉澤	
2	１０月１９日（木）	数学	中瀬		出渕	
3	１０月２６日（木）	英語	長谷川	河野	與田	加藤
4	１１月　２日（木）	物理	岡野		宇野	
5	１１月　９日（木）	数学	吉澤		中瀬	
6	１１月１６日（木）	英語	出渕	長谷川	河野	與田
7	１１月３０日（木）	数学	加藤		岡野	

（出典：一般教育科資料）

資料７－１－④－７　機械工学科取得可能な資格



資格取得について

1. はじめに
2. 取得可能な資格
3. 資格試験内容と高松高専機械工学科のカリキュラムの整合性
4. 国際的な技術者資格を目指して

リンク

1. はじめに

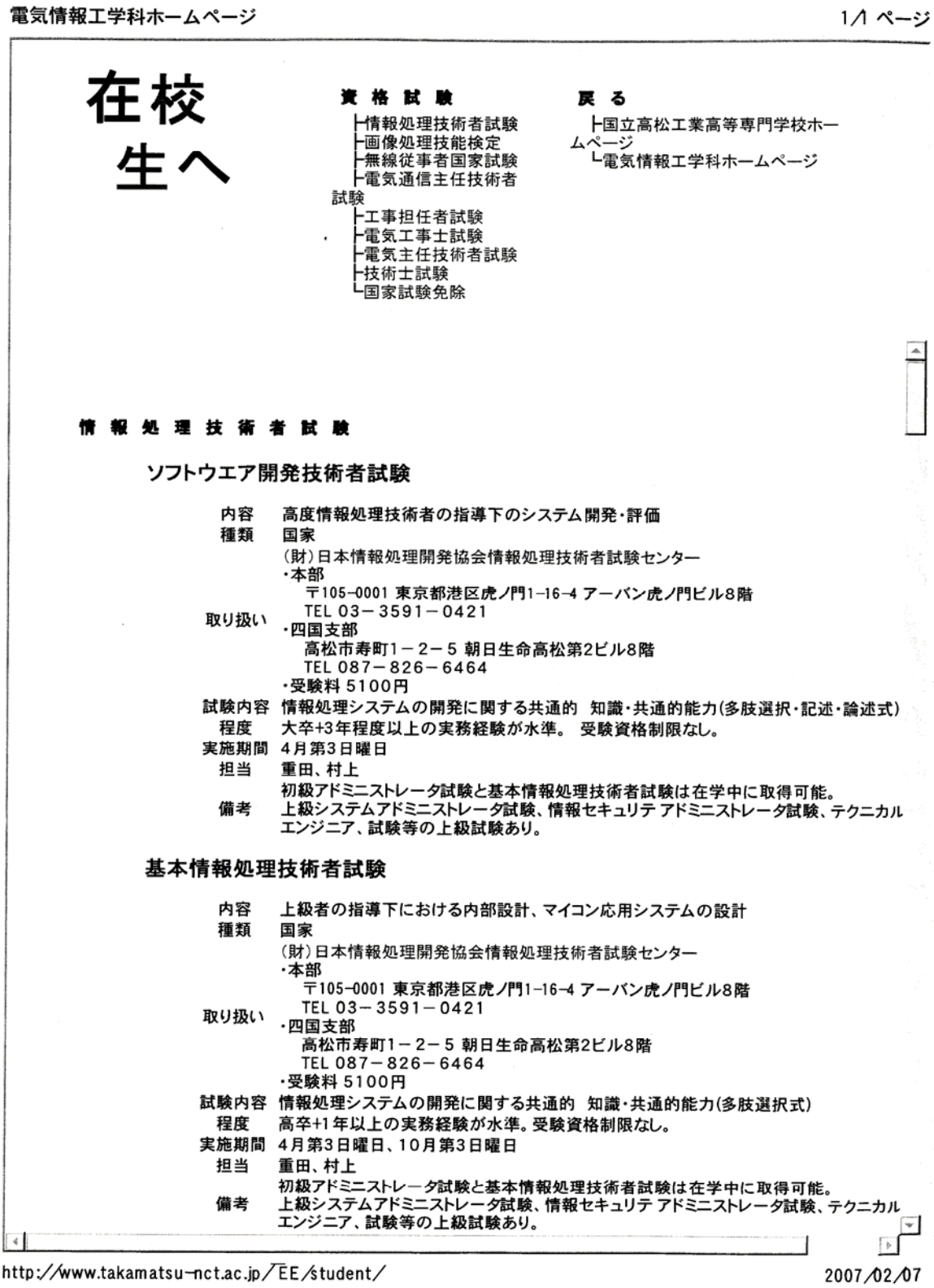
日本の工業技術は世界一と言われています．工業系の高等教育機関（大学工学系学部・工業高等専門学校）は，その世界一の工業技術を支える工業系技術者を教育し，世の中に送り続けています．もちろん，高松高専機械工学科も機械系技術者を教育し毎年社会に送り出していますし，社会・企業からの評価も高く多くの求人を頂き，卒業生は毎年 100%の就職率を保っています．これらは「高松高専機械工学科卒業」が機械系技術者としてのある種の「資格」として社会から認められているためだともいえます．しかしながら「資格」として正式に認められたものとはもちろん異なります．将来のために必要な「資格」を取ることは重要なことだと思います．

ここでは，現在日本に存在する資格のうち，高松高専機械工学科の学生および卒業生に関連するものをできるだけ多く紹介します．さらに，その中で一般的な機械設計技術者として役に立つと思われる資格と現在の本学科カリキュラムの関係について説明します．最後に「日本技術者教育認定制度」についても紹介します．

2. 取得可能な資格

（出典：機械工学科ＨＰ）

資料７－１－④－８　電気情報工学科取得可能な資格



電気情報工学科ホームページ　1/1 ページ

在校生へ

資格試験
- 情報処理技術者試験
- 画像処理技能検定
- 無線従事者国家試験
- 電気通信主任技術者試験
- 工事担任者試験
- 電気工事士試験
- 電気主任技術者試験
- 技術士試験
- 国家試験免除

戻る
- 国立高松工業高等専門学校ホームページ
- 電気情報工学科ホームページ

情報処理技術者試験

ソフトウエア開発技術者試験

内容	高度情報処理技術者の指導下のシステム開発・評価
種類	国家
取り扱い	(財)日本情報処理開発協会情報処理技術者試験センター ・本部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-4 アーバン虎ノ門ビル8階 TEL 03－3591－0421 ・四国支部 高松市寿町1－2－5 朝日生命高松第2ビル8階 TEL 087－826－6464 ・受験料 5100円
試験内容	情報処理システムの開発に関する共通的　知識・共通的能力(多肢選択・記述・論述式)
程度	大卒+3年程度以上の実務経験が水準。 受験資格制限なし。
実施期間	4月第3日曜日
担当	重田、村上
備考	初級アドミニストレータ試験と基本情報処理技術者試験は在学中に取得可能。 上級システムアドミニストレータ試験、情報セキュリテ アドミニストレータ試験、テクニカルエンジニア、試験等の上級試験あり。

基本情報処理技術者試験

内容	上級者の指導下における内部設計、マイコン応用システムの設計
種類	国家
取り扱い	(財)日本情報処理開発協会情報処理技術者試験センター ・本部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-4 アーバン虎ノ門ビル8階 TEL 03－3591－0421 ・四国支部 高松市寿町1－2－5 朝日生命高松第2ビル8階 TEL 087－826－6464 ・受験料 5100円
試験内容	情報処理システムの開発に関する共通的　知識・共通的能力(多肢選択式)
程度	高卒+1年以上の実務経験が水準。受験資格制限なし。
実施期間	4月第3日曜日、10月第3日曜日
担当	重田、村上
備考	初級アドミニストレータ試験と基本情報処理技術者試験は在学中に取得可能。 上級システムアドミニストレータ試験、情報セキュリテ アドミニストレータ試験、テクニカルエンジニア、試験等の上級試験あり。

http://www.takamatsu-nct.ac.jp/EE/student/　2007/02/07

（出典：電気情報工学科ＨＰ）

資料７－１－④－９　建設環境工学科取得可能な資格

資格試験一覧表

2003・4・1現在

種別	資格名称	試験区分	試験内容	受験資格	申込期間	試験日	受験料(円)	備考
一般	ＴＯＥＩＣ	民間	英語能力を１０－９９０点のスコアーで評価。英語能力評価の信頼性が高い。進路に有利。	制限なし	書店，協会，インターネット申込み	年７回	6615	
	ＴＯＥＦＬ	民間	留学生としての英語能力を評価する国際標準の試験。	制限なし	協議会に問い合わせ	毎月	ＵＳ＄１１０	
	実用英語技能検定	公的	文科省認定の試験。英語による会話能力を評価。１－５級。	制限なし	年３回	年３回	５５００－９００	
	初級シスアド	国家	利用者の立場から情報のシステム化をサポート。進路に有利。	制限なし	年２回	年２回	5100	
	基本情報技術者	国家	最も基礎的な情報処理の資格。進路に有利。	制限なし	年２回	年２回	5100	
	ＭＯＵＳ試験	民間	マイクロソフトのオフィス製品を使用する技術レベルを試験。	制限なし	毎月	毎月	10290	
	数学検定	民間	思考力，創造力を培う数学的能力を試験。１－８級。	制限なし	年２回	年２回	５５００－２５００	
	漢字検定	公的	漢字能力の試験。１－８級。	制限なし	年３回	年３回	６０００－１５００	
	文章能力検定	民間	日本語の文章力，思考力，表現力を試験。２－７級。	制限なし	年３回	年３回	４０００－２０００	
専門	測量士（補）	国家	土地取引，建設などの基礎となる基本技術。士と士補。	制限なし	２／上－２／下	５／中	４５００－２９００	
	技術士補	国家	高度で専門的なプロのエンジニアとしての能力を試験。	制限なし	５／上－５／中	１０／上	11000	
	技術士	国家	より高度で専門的なプロのエンジニアとしての能力を試験。	①士補として４年，②経験７年以上	４／上	８／下	14000	
	ＲＣＣＭ	民間	コンサルタント業務をやっていく上での専門的知識を試験。	制限なし	７／上－７／下	１１／上	15000	
	土木学会認定技術者	民間	倫理観，専門知識を持ち，国際的に通用する技術者を評価する試験。幹級－２級。	２級でＪＡＢＥＥ認定校卒後，経験２年	種々	種々	種々	
	宅地建物取引主任者	国家	公正で円滑な不動産取引を遂行する専門家の資格試験。	制限なし	７／下	１０／中	7900	
	土地家屋調査士	国家	建物や不動産の登記申請の業務を行う専門家の資格試験。	制限なし	６／上－６／中	８／中	7200	
	建築士（２級，木造）	国家	建築物の設計，監理などを行う専門家の資格試験。	建築系の高専以上の卒業者	４／中	７／上	13900	
	建築士（１級）	国家	建築物の設計，監理などを行うより高度な専門家の資格試験。	高専卒後，経験４年以上	５／中	７／上 ＆ １０／中	14500	
	コンクリート技士	民間	建設におけるコンクリート技術の専門家。	建設系の高専の卒業者	８／上－９／上	１１／下	8400	
	コンクリート主任技士	民間	建設におけるコンクリート技術のより高度な専門家。	同上を卒業後，経験４年以上	８／上－９／上	１１／下＆１／下	18900	
	土木施工管理技士（２級）	国家	土木工事の監理の専門家。高度な専門知識と管理能力。	土木系高専卒後，経験２年以上	３／上－３／中	７／中	12300	
	土木施工管理技士（１級）	国家	土木工事の監理の専門家。より高度な専門知識と管理能力。	土木系高専卒後，経験５年以上	３／上－３／中＆８／中－８／下	７／上 ＆ １０／上	16400	
	建築施工管理技士（２級）	国家	建築工事の監理の専門家。高度な専門知識と管理能力。	建築系高専卒後，経験１年以上	７／下－８／上	１１／上	9400	
	建築施工管理技士（１級）	国家	建築工事の監理の専門家。より高度な専門知識と管理能力。	建築系高専卒後，経験５年以上	２／中－３／上＆７／下－８／上	６／上 ＆ １０／中	18800	
	計量士	国家	濃度，騒音，振動などの計量を行う専門家。	制限なし	１０／中－１０／下	３／上	8500	
	公害防止管理者	国家	大気，水質，騒音，振動などの公害を防止する管理者試験。	制限なし	７／中	９／下または１０／上	６８００－６４００	
	国家公務員　Ⅰ種	国家	国家公務員の上級職の採用試験。大卒程度。	２１－３２歳	４／上－５中	６／上＆７／中－下	無料	
	国家公務員　Ⅱ種	国家	国家公務員の中級職の採用試験。短大卒程度。	２１－２８歳	４／上－５／上	７／上＆８／上－中	無料	
	国家公務員　Ⅲ種	国家	国家公務員の初級職の採用試験。高卒程度。	１７－２１歳	６／下	９／上 ＆ １０／中	無料	

（出典：建設環境工学ＨＰ）

資料７－１－④－１０　資格試験の紹介掲示文の一例

電気情報工学科での例

情報処理技術者試験

ソフトウエア開発技術者試験

内容	高度情報処理技術者の指導下のシステム開発・評価
種類	国家
取り扱い	(財) 日本情報処理開発協会情報処理技術者試験センター ・本部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-16-4 アーバン虎ノ門ビル８階 TEL ０３－３５９１－０４２１ ・四国支部 高松市寿町１－２－５ 朝日生命高松第２ビル８階 TEL ０８７－８２６－６４６４ ・受験料 ５１００円
試験内容	情報処理システムの開発に関する共通的　知識・共通的能力(多肢選択・記述・論述式)
程度	大卒+３年程度以上の実務経験が水準。　受験資格制限なし。
実施期間	４月第３日曜日
担当	重田、村上
備考	初級アドミニストレータ試験と基本情報処理技術者試験は在学中に取得可能。 上級システムアドミニストレータ試験、情報セキュリテ アドミニストレータ試験、テクニカ ンジニア、試験等の上級試験あり。

基本情報処理技術者試験

（出典：電気情報工学科資料）

制御情報工学科での例

機械設計技術者試験に関して

１．受験手続について
- 受験申込書を希望者へ配布.
- 受験申請書のとりまとめ.
- 受講料の振込み
- 団体申請の手続きと受験申請書，振込み書のコピーを事務局へ郵送

２．講習会資料について
- 2005 年度３級試験問題，講習会資料の印刷.
- 受験者へ資料を配布.

３．講習会の実施
- １１月１５日（水）１６：２０－１７：３０
  吹田教授が材料学分野について講義
- １１月１７日（金）１６：２０－１８：３０
  十河が力学分野，機構学分野について講義

（出典：制御情報工学科資料）

建設環境工学科での例

H１８・４・９

国家Ⅱ種試験

○ Ｈ１８年度申込み：４月１４日（金）～４月２５日（火）
○ Ｈ１８年度試験日：一次試験　６月１８日（日）
○ 試験内容
１．第一次試験
（１）教養試験（選択式，比率＝２／８＝２５点）・・・全５５題
①必須問題：２５題
・文書理解：８題
・判断推理：９題
・数的推理：５題
・資料解釈：３題
②選択問題：３０題中２０題を選択（自然，人文，社会　各１０題）

（２）専門試験
①選択式（比率＝４／８＝５０点）・・・５０題
・数学，物理　　：１５題
・構力，水理，土質，測量：１７題

（出典：各学科資料）

資料７－１－④－１１　資格試験受験合格状況の例

平成１８年度資格試験合格者一覧

○機械設計技術者試験３級
５Ｍ：伊藤光，佐伯哲弥，神田康成
４Ｍ：井口雄介，石田和也，和泉卓也，白川淳一，
住友優太，瀧啓志，田中翔平，田中雅人，
豊田大輔，永井匠悟，八田浩二，平井佑樹，
松井秀樹
５Ｓ：相賀裕太郎，井上雅博，大島健輔，
太田隆浩，川田佳寿，楠祥治，佐野俊文
徳田大輔，西岡亮，馬場敏通，林達也，
福家英敏，藤本拓郎
４Ｓ：大浦拓也，鎌田早織，管納史也，坂本大一，
末澤賢，富永英嗣，朴悠，藥師亮祐，
脇貴徳

○測量士補試験
３Ｃ：赤松保泰，松岡寿生，森澤海里，森谷謙一，
若狭剛

○技術士第一次試験
ＡＣ１：仙波文裕，渕靖文
５Ｃ：松本陽介

○土木学会認定技術者資格試験２級
ＡＣ２：井川理智，光畑英樹
ＡＣ１：上田聡史，柿原貴一，仙波文裕，渕靖文

○初級システムアドミニストレータ試験
５Ｃ：松本陽介

○基本情報技術者試験
５Ｃ：松本陽介

○建築ＣＡＤ検定試験２級
ＡＣ１：上田聡史，柿原貴一，仙波文裕，谷川幸平
５Ｃ：大西孝典，瀬戸亮太，中島慎一，蓮井勝，
松本陽介

○建築ＣＡＤ検定試験３級
５Ｃ：栗井克志，石井孝徳，大野祐昌，大前貴紀，
三谷敏之

○建築ＣＡＤ検定試験４級
５Ｃ：佐々木祐仁，末包聖人，堀江雄太，
松下友聡，松原宗伸

○日本漢字能力検定試験
（平成18年10月29日実施準２級以上）
２級
４Ｍ：松井秀樹
４Ｅ：大西章仁，鴻上貴充，田中伸人
４Ｓ：秋山美紀，池内佑一郎，管納史也，
松下和荘，藥師亮祐
４Ｃ：黒田貴大，山下泰勲
３Ｃ：三谷汐里
２Ｅ：竹内亜都子
準２級
４Ｅ：竹田一貴，田中伸人，森哲彦
４Ｓ：坂本大一
４Ｃ：梅本忠彦
３Ｍ：御厩清
３Ｅ：安本未智留
３Ｓ：鎌田倫行
３Ｃ：河野祐斗，山田毅
２Ｅ：木村奈美
２Ｓ：加藤秀章，高橋辰弥
１－１：木野まど香，高井志帆，田中翔也
１－２：藥師侑祐
１－３：石山亜弓，田中美帆，松尾雅文

○カラーコーディネーター試験２級
４Ｃ：中上優紀

（出典：高専便り）

（資料７－１－④－１２　資格試験への支援例

制御情報工学科の一例（掲示文）

2006.10.16

機械設計技術者試験の講習会について

下記の日程で機械設計技術者試験に関する講習会を行います．
希望者は，参加してください．

・材料学分野（吹田先生）　１１／１５（水）16：２０～　5S・HR
・力学分野（十河）　１１／１７（金）16：２０～　5S・HR

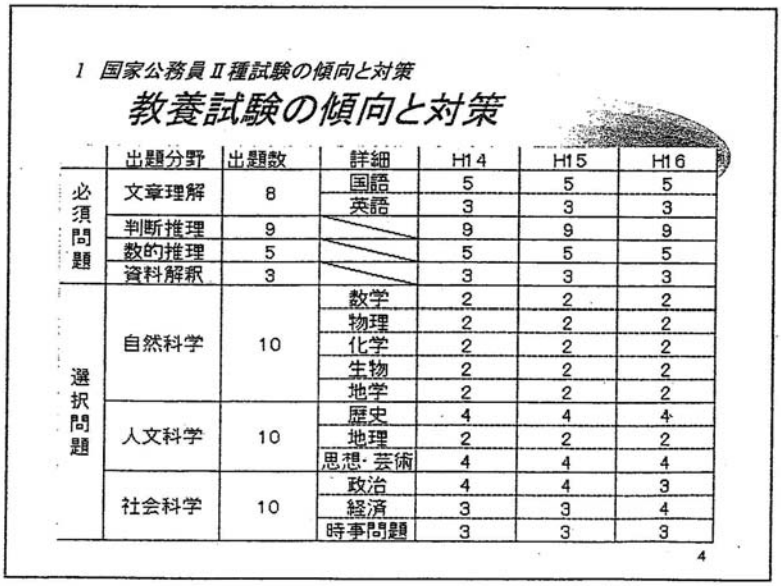
なお，効果的に受講するために，受験者に配布した問題集は一度解いておくこと．

（出欠表）

		受け取り確認			講習会出席者	
		問題集	参考書	試験問題	11／15	11／17
5S	[redacted]	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○

（出典：制御情報工学科資料）

建設環境工学科の一例（受験指導）



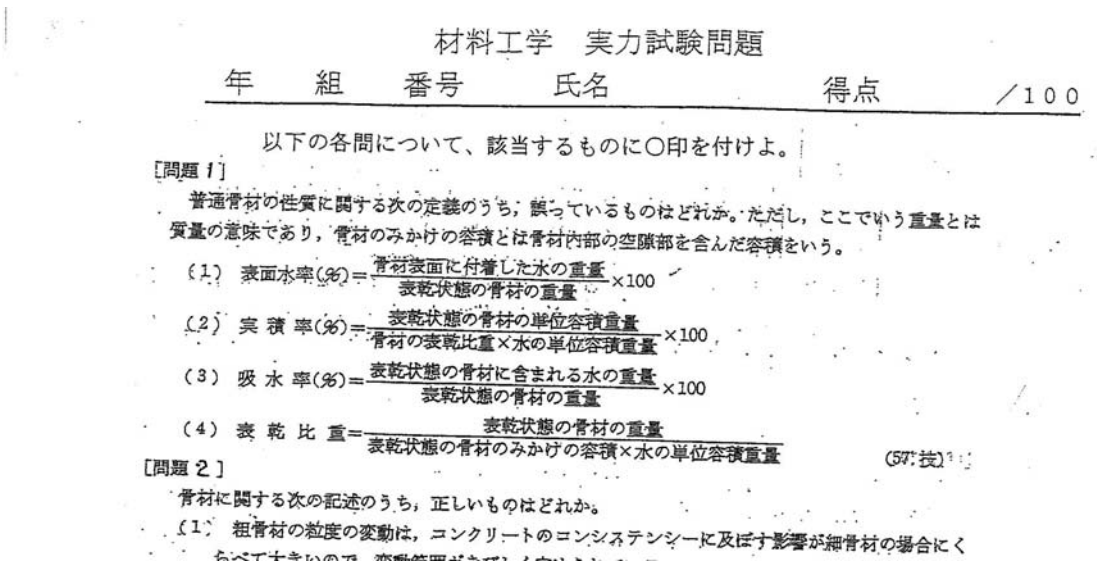
1　国家公務員Ⅱ種試験の傾向と対策

教養試験の傾向と対策

	出題分野	出題数	詳細	H14	H15	H16
必須問題	文章理解	8	国語	5	5	5
			英語	3	3	3
	判断推理	9		9	9	9
	数的推理	5		5	5	5
	資料解釈	3		3	3	3
選択問題	自然科学	10	数学	2	2	2
			物理	2	2	2
			化学	2	2	2
			生物	2	2	2
			地学	2	2	2
	人文科学	10	歴史	4	4	4
			地理	2	2	2
			思想・芸術	4	4	4
	社会科学	10	政治	4	4	3
			経済	3	3	4
			時事問題	3	3	3

4

（学習指導の資料）



材料工学　実力試験問題

年　組　番号　氏名　得点　／１００

以下の各問について、該当するものに○印を付けよ。

[問題１]

普通骨材の性質に関する次の定義のうち，誤っているものはどれか。ただし，ここでいう重量とは質量の意味であり，骨材のみかけの容積とは骨材内部の空隙部を含んだ容積をいう。

(1) 表面水率(%)＝骨材表面に付着した水の重量／表乾状態の骨材の重量×100

(2) 実積率(%)＝表乾状態の骨材の単位容積重量／骨材の表乾比重×水の単位容積重量×100

(3) 吸水率(%)＝表乾状態の骨材に含まれる水の重量／表乾状態の骨材の重量×100

(4) 表乾比重＝表乾状態の骨材の重量／表乾状態の骨材のみかけの容積×水の単位容積重量

(57.技)

[問題２]

骨材に関する次の記述のうち，正しいものはどれか。

(1) 粗骨材の粒度の変動は，コンクリートのコンシステンシーに及ぼす影響が細骨材の場合にく

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－１－④－１３　資格試験の単位認定

別紙様式第３号

技能審査による
成果等に係る学修単位認定願

学級担任

平成　　年　　月　　日

高松工業高等専門学校長　　殿

工学科　　学年　　組　　番
氏名

下記のとおり資格を取得しましたので，認定証（又は合格証）の写しを添え，単位の認定を申請します。

記

科　目　名	資　　格　　名	単位数	取 得 年 月 日
			平成　年　月　日

新

別表１

科目名	資格名		単位数	備考
専門特別学修	工業英検	工業英語能力検定３級	1	専門科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　２級	2	
		同　上　１級	3	
一般特別学修	実用英検	実用英語技能検定　２級	1	一般科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　準１級	2	
		同　上　１級	3	

＊（１）
（２）　削る
（３）

別表２

科目名	資格名		単位数	備考
一般特別学修	実用英検	実用英語技能検定　２級	1	一般科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　準１級	2	
		同　上　１級	3	
	ＴＯＥＩＣ	400 点以上～ 600 点未満	1	
		600点以上～850点未満	2	
		850点以上	3	
	日本漢字能力検定	準２級	1	
		２級	2	
		準１級以上	3	
		１級	3	
専門特別学修	工業英検	工業英語能力検定３級	1	専門科目とする。最も大きい単位数のみを認める。
		同　上　２級	2	
		同　上　１級	3	
	機械設計技術者試験　３級		1	専門科目とする。
	基本情報技術者		1	
	ソフトウェア開発技術者		2	
	電気主任技術者　第三種		1	
	陸上無線技術士　２級		1	
	陸上無線特殊技術士　１級		1	
	工事担任者	ＡＩ・ＤＤ総合種	2	専門科目とする。最大２単位まで認める。
		ＡＩ第２種以上	1	
		ＤＤ第２種以上	1	
	測量士		2	専門科目とする。
	測量士補		1	
	技術士補（建設部門）		2	

別紙様式第１号～第２号　略

旧

別表

科目名	資格名	単位数	備考
工業英検Ⅰ	工業英語能力検定４級	1	一般科目とする。
工業英検Ⅱ	同　上　３級	1	専門科目とする。
	同　上　２級	3	
	同　上　１級	5	
実用英検	実用英語技能検定準２級	1	一般科目とする。
	同　上　２級	2	
	同　上　準１級	4	
	同　上　１級	6	

＊（１）工業英検Ⅰについては学年から第３学年までの間に合格した者について単位認定する。
（２）工業英検Ⅱについては，最も大きい単位数のみを修得単位として認定する。
（３）工業英検Ⅱを単位認定した時は，工業英検Ⅰも単位認定したものとする。

別紙様式第１号～第２号

（出典：教務資料）

資料７－１－④－１４　海外語学研修要項

平成 19 年度　学生の海外語学研修派遣について

１．目　　的：母国語を英語とする国において語学研修を行うとともに異文化に接することにより，国際社会で活躍できる技術者になるための一助とすることを目的とする．
２．渡 航 先：オーストラリア・シドニー
３．派 遣 先：ニューサウスウェールズ大学付属語学学校（UNSWIL）
４．派遣期間：平成 19 年７月下旬もしくは８月初旬から３週間
５．募集人数：15 名以内（平成 19 年度本科４，５年生および専攻科生に限る）．ただし，派遣学生は応募者の中から面接や書類等の審査によって決定する．
６．研修内容：３週間のホームステイによる日常英会話研修，UNSWIL での２週間（土日を除く平日午前中３時間）の語学研修および施設見学などを行い，帰国後，研修報告書を作成し，研修報告会にて発表する．
７．単位認定：海外英語演習として本科４，５年生に限って１単位認定する．
８．費　　用：
（１）学校支援分(タダノ学生海外派遣助成金(株式会社タダノからの寄付金)による支援)：
・航空運賃など渡航費用や語学学校入学金の一部（派遣学生数により決定）
（２）自己負担分：
・航空運賃など渡航費用や語学学校入学金（学校支援分との差額）：派遣学生数により決定
・語学研修，ホームステイ（食事を含む）などの費用：約 18 万円
・ホームステイ先から UNSWIL までの通学費用：約１万円
・パスポート，ビザ発給などの費用：約２万円
・食事費用：滞在期間中の昼食の一部：約１万円
９．引率教員：本校教員１名～２名
１０．注意事項：
（注１）上記費用は，平成 18 年度における実施計画案での概算であり，派遣学生数や派遣時期などによって変動する．
（注２）本研修に関する問い合わせは一般教育科・有道教員，宇野教員，岡野教員または建設環境工学科・土居教員まで．
（注３）本研修を希望する学生に対する説明会は以下のように行う．
日時：平成 19 年４月６日（金）13 時 30 分より（時間厳守）
場所：第２講義室（図書館棟３F・旧視聴覚教室）
担当：一般教育科・有道教員，宇野教員，岡野教員，建設環境工学科・土居教員
（注４）本研修への参加希望申込書は学生課教務係にあるので，必要事項を記入の上，以下のように提出する．
提出締切：平成 19 年４月 20 日（金）17 時（時間厳守）
提出先：　一般教育科・有道教員または建設環境工学科・土居教員へ

（出典：サイボウズ）

資料７－１－④－１５　海外語学研修参加報告

高松高専だより　第101号

第1回海外語学研修参加報告



電気情報工学科４年　黒田　真実

I visited Sydney, Australia as one of the first language trainee students from 31st on July to 21st on August. I went there with 14 other students, Mr.Okano and Mr.Uno. For two weeks, we attended University of New South Wales Institute of Languages (UNSWIL). Another week, we had free time. We could study and go sightseeing. It was a substantial program.

In the language school we had classes in the morning, and in the afternoon we went to many places－City, China town, museums, etc. In the class we competed each other to make English sentences like a game, watched videos to answer questions and so on. Our teachers were really fun, nice and dedicated, so I always looked forward to going to school.

We each stayed with an Australian family. In my house, there were an elder woman and four overseas students who came from different countries. I couldn't catch host mother's quick English. But overseas student's English was slower than mother's. So it was easier to understand compared with mother's English. We talked about our cultures and languages deep into the night. (The same word "ODEN" refers to different food by country!)

I had a lot of experiences. I was in the town which is close to nature and city; I met people of diverse nationality; I was living in an English environment etc. All was new and different from Japan. I realized that making myself understood in English was easier than I had thought.

I would like to thank our teachers for planning this program, my parent for assistance, Tadano Inc. for financial support, and my friends for everything!







カフェの店員と





ハーバーブリッジとオペラハウス

（出典：高専便り）

観点７－１－⑤：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

昭和 63 年度から毎年数名ずつ留学生を受け入れている。留学生 1 人に指導教員（そのクラスの担任と 5 年生には卒研指導教員）および寮生の学生チューター（3，4 年生のみ）が選任され，生活や勉学面の相談役となる（資料７－１－⑤－１～５）。留学生には日本事情や語学力向上のため特別時間割（資料７－１－⑤－６）を組み，特別補講も行っている（資料７－１－⑤－７）。

これまで工業高校卒業生が主となる４年次編入学生を受け入れている。編入学内定学生は 8 月と 3 月に出校し学習の事前指導を受け，入学後は各学科長やクラス担任がサポートする（資料７－１－⑤－８，９）。

平成１７年に発達障害者支援法が施行され，教育機関では支援体制の整備が義務付けられているが，本校でも組織的な整備を進め，教育相談室が中心となって学外の専門講師による教職員への講習など様々な取り組みを行っている（資料７－１－⑤－１０～１３）。また，個別保護者懇談，学年団，学科会議，成績会議で連携し組織的に対応する体制にある。

身体に障害のある学生へは体育や実習系科目などで相応の配慮がある。定期試験で必要と認められた学生には医務室受験を実施している（資料７－１－⑤－１４，１５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

昭和 63 年度以降，留学生を受け入れ続けていて，支援体制は確立されている。編入学生についても相応の支援がなされている。障害のある学生に関しては，教務的な対応や，教育相談室による対応があり，整備が進んでいる。

資料７－１－⑤－１　留学生 指導教員・指導寮生一覧

平成１８年度　留学生 指導教員・寮生一覧

クラス	氏　名	指導教員（学級担任）	指導学生（寮生）
３Ｅ	[redacted]	荻原	[redacted]
３Ｃ		土居	
４Ｅ		樋口	
４Ｃ		向谷	
５Ｍ		吉永	
５Ｍ		吉永	
５Ｅ		鹿間	

（出典：寮務委員会資料）

資料７－１－⑤－２　外国人留学生チューター制度実施要項

高松工業高等専門学校外国人留学生チューター制度実施要項

昭和63年３月10日制定

1　高松工業高等専門学校外国人留学生特例規程第６条のチューターについては，この要項の定めるところによる。

2　チューターは第３学年及び第４学年の外国人留学生について、当該留学生と同一学科の学生の中から，指導教員（チューターになる学生が寮生の場合は，指導教員及び寮務主事）の推薦に基づき校長が委嘱する。

3　チューターは，その指導に関し，必要に応じ指導教員（チューターになる学生が寮生の場合は，指導教員及び寮務主事）の指導を受けるとともに，毎月チューターの指導報告書（別紙様式）を指導教員を経て校長に提出しなければならない。

4　チューターには，予算の範囲内において，四半期ごとに謝金を支給するものとする。

5　この要項に定めるもののほか，チューター制度の運用に必要な事項は，その都度定めるものとする。

附　則

（出典：サイボウズ文書管理）

資料７－１－⑤－３　留学生への事前指導の一例

個人情報

1．名前（日常の呼び名），年齢

[redacted]

出身大学，出身国

[redacted]

2．連絡先

(1) 学校

(2) 寮

(3) 本人の電話番号，電子メール

所見

1．学力について

Institute of Technology of BANGLADESHI での学部・学科　　have graduated ?

上の大学で学習した一般科目と専門科目

英語

数学

物理

化学

専門（電気情報工学等）

（出典：電気情報工学科資料）

資料７－１－⑤－４　留学生への事前指導の一例

留学生面談用　質問/確認シート　　**記入日：'05.2.2　建環　多川**

学生氏名	ローマ字	[redacted]
	カタカナ	[redacted]
	呼び名	[redacted]
学生連絡先	学校	東京日本語教育センター
	電話/FAX	03-3371-7268 / 03-5337-6690　3/16(卒業式)まで有効
	e-mail	無
	寮	駒場留学生会館
	電話/FAX	03-6407-7458(代表)　3/25(退寮期限)まで有効
	e-mail	無
本人との連絡	携帯電話	[redacted]
	e-mail	[redacted]
語学力	日本語	教育センターでの成績：共通日本語 7月 80/100(B)　12月 67/100(C) 日本事情　12月 (A) 面談結果：面談では日本語で説明したが、ゆっくり話せばおおよそは理解できる。難しい言葉は別途やさしい言葉に換言する必要有り。 知っている漢字は約 400 字程度 板書は“よみがな”があれば、辞書を引いて自分から勉強する。日本語をたくさん勉強したい。
	英語	[redacted]であり、英語に関する教育は高校レベル

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－１－⑤－５　学生チューターによる留学生への指導報告書の一例

別紙様式

指導教員　　寮務主事
国際交流委員長

チューター指導報告書

平成 18 年 12月 22 日

高松工業高等専門学校長　殿

[redacted] 工学科 [redacted] 年 [redacted] 組 [redacted]
氏 名 [redacted]

平成 18 年 12 月分の指導状況について，次のとおり報告いたします。

留学生　建設環境 工学科 [redacted] 年 [redacted] 組　氏 名 [redacted]

指導日(曜)	指導時間帯	指導時間	指導内容
5 日(火)	21 時 0 分～ 22 時 0 分	1 時間	試験勉強
6 日(水)	21 時 0 分～ 22 時 0 分	1 時間	試験勉強
10 日(日)	22 時 0 分～ 23 時 0 分	1 時間	試験勉強
11 日(月)	22 時 0 分～ 23 時 0 分	1 時間	試験勉強
16 日(土)	23 時 0 分～ 24 時 0 分	1 時間	復習
17 日(日)	23 時 0 分～ 24 時 0 分	1 時間	レポート
18 日(月)	0 時 00 分～ 2 時 30 分	2.5 時間	レポート
18 日(月)	17 時 0 分～ 18 時 0 分	1 時間	レポート
18 日(月)	22 時 0 分～ 22 時 30 分	0.5 時間	復習
21 日(木)	17 時 0 分～ 18 時 30 分	1.5 時間	復習

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－１－⑤－６　留学生授業時間割（日本語・日本事情など）

平成18年度(前期)留学生授業時間割表

		3年		4年		5年			
		E	C	E	C	M	E		
		荻原	土居	樋口	向谷	吉永	鹿間		
月	1	情報処理２ 重田CS大	構造力学 長友	電気回路１ 漆原	応用物理 新野	材料学２ 酒井	ｴﾈﾙｷﾞ環境 樋口	1	月
	2	論理回路 本田	応用物理 新野 CS2	応用数学２ 原圃専講	ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 長友	計算力学 橋本	パワエレ 漆原	2	
	3	独1 TOL TOR 田口E 有道L 藤原CS?	独1 TOL TOR 田口E 有道L 藤原CS?	電気材料鹿間 電計ﾌｰﾘｴ本田CS大	都市地域 渡辺	制御工学 山崎	電子ﾃﾞﾊﾞｲｽ 荻原	3	
	4		日本事情春本	English4出測	実験実習 製情 太田土屋中治 松原岡崎	特別講義１ 堀口	信号処理 原圃ミマ	4	
火	1	電子工学 荻原	基礎数学２中川 保健体育吉澤田中	電磁気学１ 太良尾	応用ﾃﾞｰﾀ 向谷 情	材料力学３ 岡田	通信工学 小松	1	火
	2	保健体育吉澤田中 日本事情荻原	応用情報 春本 情	物理学２ 新野	土の力学 土居	応用数学２ 橋本	情報理論 浮穴	2	
	3	物理学１ 新野 CS2	W＆S 藤原C ﾌｰﾘｴﾄﾞﾚ	電子回路１ 樋口	構造力学 中治	工学実験２ 岩田高橋義山崎 小島真鍋CS大CS1	制御工学 田中 ミ	3	
	4	数学解析２ 堀江		化学特論 MS中村① EC岡野 ES			電子回設樋口榎本 論理回設本田村上	4	
水	1	日本語 大山		工学実験２ 鹿間村上榎本	建設工法学 竹下 情	日本事情 岡田	日本事情 全教員	1	水
	2	数学解析１菅田 日本事情荻原	数学解析１菅田	特別演習樋口	設計製図 太田 情	技科英語１ 橋本 ミ	保健体育 伊藤	2	
	3	工学実験１ 太良尾榎本村上 CS大	材料工学情 実験実習 竹下松原 情	電気回路１ 漆原	保健体育 横山	伝熱工学 小島	電子物性鹿間 デジ計測原圃ミ	3	
	4			電子回路１ 樋口	水理学 鶴本	保健体育 吉澤	ﾈｯﾄﾜｰｸ 重田 ミ	4	
木	1	応用数学１ 高橋宏	環境生物学 鶴本	日本語 大山	English4 市川専講	流体力学１ 高橋義	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ重田CS大 エネ変換標本	1	木
	2	電気基礎２ 鹿間本田	数学解析２ 中川	保健体育 横山	日本語 大山	ｼｽﾃﾑ工学 吉永	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ 原圃マ	2	
	3	計測工学 宮谷	基礎力学２ 土居	日本事情樋口 English4出測	応用数学１ 武丸	卒業研究	卒業研究	3	
	4	HR 荻原	HR 土居 日本事情土居	独語２ 河野 M 與田①				4	
金	1	日本語 大山		ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ 原圃 マ	鋼構造 太田	英語４宇野L	英語４宇野L	1	金
	2	W＆S 小林S ﾌｰﾘｴﾄﾞﾚ	構造力学 長友	日本事情樋口 English4出測	工学演習 春本中治	英語４ﾌｰﾘｴﾄﾞﾚ 振動工学 岩田	英語４ﾌｰﾘｴﾄﾞﾚ 応用実験 全教員	2	
	3	数学解析１ 菅田	保健体育中瀬	電磁気学１ 太良尾	日本事情 向谷中治	卒業研究		3	
	4	基礎数学２堀江 保健体育中瀬	数学解析１ 菅田	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ 重田CS大	English4 環境工学 多川		CS大	4	

（出典：時間割表）

資料７－１－⑤－７　留学生課外補講実施報告メール依頼

題名　　**留学生課外補講実施報告書について**
差出人　　yuko minami

関係教員　各位

　留学生の課外補講の実施につきましては、１８年４月～１８年１１月実施分について、添付の報告書を下記要領で提出くださるようお願いいたします。

記

１，報告書は、月単位で一枚ずつ作成してください。
２，該当留学生指導教員（担任）に押印をもらって教務係へ提出ください。
３，非常勤講師の先生にも提出してもらえるよう、ご連絡お願いします。
４，提出締切日は１２月１５日（金）です。
５，変形労働パターンになっていますので、補講の時間帯は、

　火・木　　１８：３０～
　それ以外の曜日　１７：３０～

また、予算把握の都合により　１８年１２月～１９年３月までの補講予定も併せてお知らせくださるようお願い申し上げます。

なお、謝金につきましては、３月にまとめて支払われますのでご了承ください。

（出典：学内メール）

資料７－１－⑤－８　編入生事前指導の一例（８月）

[redacted]

高松工業高等専門学校
学 生 課 教 務 係

高松高専へ出校する日時等のお知らせ

このことについて，下記日程により学習上の指導及び入学手続きの説明を行いますので，出校されるようお知らせします。

記

１．出校日時及び内容

平成１８年３月２日(木)

１３：００～１３：３０	本校入学手続きの説明
１３：３０～１４：００	数 学 学 習 指 導
１４：００～１４：３０	英 語 学 習 指 導
１４：３０～１６：００	電気情報工学学習指導
（予定）	
終了後約１０分程度	入寮についての説明（入寮希望の場合）

２．出 校 場 所

高松市勅使町３５５番地

高松工業高等専門学校学生課教務係

（出典：教務資料）

資料７－１－⑤－９　編入生事前指導の一例（３月）

このことについて，下記のとおり実施してよろしいか伺います。
なお，決裁の上は出校通知及び入学手続を編入学合格者に送付してよろしいか併せて伺います。

記

１．目　　的
　編入学合格者に対し，本校入学までの学習上の指導及び入学事務手続きの説明を行う。
２．合格者氏名
　電気情報工学科 [redacted]
３．出校日時及び場所
　平成18年 3月 2日(木) 13:00～　　本校学生課教務係
４．実施内容
　別紙実施要領(案)のとおり
５．出校通知及び入学手続
　別紙（案）１ 及び（案）２ のとおり

（出典：教務資料）

資料７－１－⑤－１０　相談室講習会一覧

教育相談室講習会一覧

平成１７年１１月２４日
講師：黒河内美鈴
対象：一般教育科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年1月１７日
講師：黒河内美鈴
対象：制御情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年１０月１８日
講師：出渕幹郎
対象：１年４組授業担当の一般教育科教員並びに電気情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年１１月２２日
講師：出渕幹郎
対象：３年電気授業担当の一般教育科教員並びに電気情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１９年1月５日
講師：黒河内美鈴
対象：全教員及び技術支援室職
演題：**軽度発達障害と特別支援教育　広汎性発達障害を中心に**

（　出典：教育相談室資料）

資料７－１－⑤－１１　相談室講習会講演の一例

軽度発達障害と特別支援教育

広汎性発達障害を中心に

カウンセラー　黒河内美鈴

Ⅰ軽度発達障害とは

LD(学習障害)

基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態

ADHD(注意欠陥多動性障害)

年齢あるいは発達に不釣合いな注意力、及び／または衝動性、他動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの

HFA(高機能自閉症)

3歳位までに現れ、①他人との社会関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。(②を伴わないもの・・・アスペルガー症候群)

Ⅱ特別支援教育

平成17・18年　特別支援教育体制推進事業

平成17年12月　特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)

平成18年6月　学校教育法等の一部を改正する法律の公布(平成19年4月施行)

学校教育法等の一部改正のポイント

特殊学級(障害児学級)を特別支援学級に

特別支援教育を一般的規定として明記

LD, ADHD, HFA等の軽度発達障害も対象に

・特定の「場」で行なう教育から、個のニーズに応じ「人」を支援する教育へ

Ⅲ広汎性発達障害の特徴

1コミュニケーションがうまくとれない

相手の状況を考える、その場の雰囲気をかんじる、相手がどのように感じるかを察することが、苦手

・いくつもの情報を同時に判断し処理することが困難
・他人との社会的関係が困難
・暗黙の了解事項を了解していない
・社会のルールや常識がみえない
・相手の気持ちを気遣うことができない

1

（出典：教育相談室資料）

資料７－１－⑤－１２　教育相談室組織図

教育相談室組織図

平成１６年度

非常勤カウンセラー：黒河内美鈴（臨床心理士）
教育相談室長：出渕幹郎
相談室員：田口淳、有道祐子、長谷川隆、吉永慎一、重田和弘、
　　川田和男、小副川徹
（看護師：岡田幸恵）

平成１７年度

非常勤カウンセラー：黒河内美鈴（臨床心理士）
教育相談室長：出渕幹郎
相談室員：田口淳、有道祐子、長谷川隆、吉永慎一、荻原昭文
　　川田和男、及川康（中治弘行）
（看護師：岡田幸恵）

平成１８年度

非常勤カウンセラー：黒河内美鈴（臨床心理士）
教育相談室長：出渕幹郎
相談室員：田口淳、有道祐子、長谷川隆、高橋洋一、村上幸一
　　徳永秀和、中治弘行（渡辺貴史）
（看護師：岡田幸恵）

（出典：教育相談室資料）

資料７－１－⑤－１３　教育相談室予定表

平成１８年度後期教育相談室予定表

１　第１、３、５月曜日は黒河内（くろこうち）先生のカウンセリング

下の日には放課後５時～６時と６時～７時に図書館３階教育相談室で香川県精神保健福祉センターのカウンセラー黒河内美鈴先生が本校学生とその保護者及び教職員を対象にカウンセリングを行います。秘密は厳守しますので先生や家族に相談できないような悩みでも気軽に相談して下さい。

希望者がかち合わないよう日時の調整が必要ですから希望する学生は担任の先生か相談室員、相談室長（英語科出渕 Tel 869-3848、メール idebuchi@takamatsu-nct.ac.jp）まで申し出て下さい。

１０／１６（月）	１０／３０（月）
１１／６（月）	１１／２０（月）
１２／４（月）	１２／１８（月）
１／１５（月）	１／２９（月）
２／５（月）	２／２０（火）←注意

２　毎週金曜日は本校教育相談室員による相談日

毎週金曜日の昼休み１２：１５～１２：４５と放課後４：１５～５：１５には本校教育相談室員が交代で図書館３階教育相談室において学生からの相談を受け付けています。雑談でもかまいませんので相談室員と話してみたい学生は遠慮なく利用して下さい。下の当番予定を見て来室して下さい。

	昼休み	放課後	
１０月　６日	出渕	有道	
１３日	出渕	出渕	
２０日	出渕	高橋洋	
２７日	出渕	村上	
１１月１０日	×	×	（学生祭準備）
１７日	出渕	徳永	
２４日	×	渡辺	（学生総会）
１２月　１日	出渕	長谷川	
８日	×	×	（後期中間試験）
１５日	出渕	田口	
２２日	×	有道	（昼休み掃除）
１月１２日	出渕	出渕	
１９日	×	高橋洋	（昼休み掃除）
２６日	出渕	村上	
２月　２日	出渕	徳永	
９日	出渕	渡辺	
１６日	×	長谷川	（昼休み掃除）
２３日	出渕	田口	

（出典：教育相談室資料）

資料７－１－⑤－１４　医務室受験規定

それ以後の辞退は原則として認めない。また，集中講義による選択科目は別途取り扱う。届け以前の欠課時数は遡って取り消さない。

3　医務室受験について（第７条）

(1)　以下の場合は医務室受験を認める。
(a)　手の怪我等で，正規の時間内での解答が困難で，時間延長が必要な場合
(b)　一時的な体調不良により，医務室での休息後，受験が可能な場合
(c)　その他，教務主事が認めた場合
(2)　正味の受験時間は本人の状況をみて，医務室受験監督教員の判断に任せるが，上記(a)以外は当初の正味設定時間と同じとなることを原則とする。
(3)　受験場所は医務室あるいは教室以外の場所を設定できる。
(4)　医務室受験後は医師の診断書を担任を通じ，教務係へすみやかに提出すること。

4　追試験について（第９条）

定期試験を受けなかった正当な理由がある場合は，登校後１週

の点数（評定2）とし，60点以
後４以上の評定は付けない。追
終成績として認定する。
(6)　不履修と認定された科目は追
(7)　追認成績を用いた成績順位の
(8)　留年した場合は，前学年（例
生）での評定１，２の教科につ
再度の追認結果と前年度の追認
して認定する。

6　成績評価・評定について（第13

評定２については，JABEEプロ

7　成績順位について

(1)　学年総合成績順位のつけ方
(a)　選択科目のある３～５年生
必履修科目（特別活動，キャ
選択科目(特別学修，校外実習

（出典：学生便覧）

資料７－１－⑤－１５　医務室受験の一例

教員各位

教務主事

医務室受験(第一会議室）について

本日からの医務室受験(第一会議室）受験者は下記のとおりです。該当クラスの担当教員の方は別封筒に医務室受験用の問題を準備願います。
現在提出されているものについては、教務で準備します。

記

■年■組 [redacted]

以上

閲覧状況(29人/65人)　その他の操作　削除する　[受信箱]　へ　移動する

トップに出す　<< 前へ　|次へ >>

学内メールを読み終わったら「確認しました」ボタンを押してください。閲覧状況に反映されます。

（出典：学内メール）

観点７－１－⑥：　学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

各クラブに１～６名の指導教員を配置し（資料７－１－⑥－１），活動の管理，大会引率や合宿など多様な指導をする（資料７－１－⑥－２～８）。学外コーチによる指導（７－１－⑥－９）や，平日の公式大会を特別欠席とする教務的な支援もある（資料７－１－⑥－１０）。

学生祭，リーダー研修会（年２回）や学生総会などの学生会活動へは学生主事，担当主事補および学生支援係が相談・助言など支援している（資料７－１－⑥－１１，１２）。

四国・全国高専体育大会や総合文化祭・ロボコン等の大会開催へは，学生主事や顧問を中心とした教員，専任の事務職員が準備にあたる（資料７－１－⑥－１３）。

安全管理のため，医務室と一般管理棟玄関へＡＥＤ設置，全教員対象のＡＥＤ利用講習会，運動部の全顧問に人工呼吸・心臓マッサージ講習会を実施している（資料７－１－⑥－１４）。医務室に看護士が常時待機し，学生は入学後に傷害保険へ加入する（資料７－１－⑥－１５，１６）。

課外活動経費は全学生が納入する学生会費で賄われ，各種課外活動が活発に行われている。高額備品購入・施設修理などへ運営費交付金による支援もある。アンケート結果によると，学生の 75%が課外活動への支援は相応と感じている（資料７－１－⑥－１７）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

クラブ活動や学生会等の課外活動に対する人的・金銭的支援の体制は整備され機能している。また競技成績からも支援体制が良好と判断でき，高専としての支援水準は満たされている。一方，クラブ顧問の引率日数等を基に指導のあり方を協議し，支援の充実を進めている。

資料７－１－⑥－１　クラブ指導教員一覧

学生会の各部・同好会指導教員

名　称	指導教員
写真部	樋口 弘志
	○ 岡野 寛
ブラスバンド部	○ 吉永 慎一
E･S･S	○ 宇野 光範
	市川 緑
軽音楽部	○ 高橋 宏明
	岡田 憲司
	中川 征樹
電算機クラブ	○ 重田 和弘
	酒井 孝
自動車研究部	○ 川田 和男
美術部	○ 加藤 清考
	市川 緑
合唱団フローエ･テーネ	○ 鹿間 共一
	本田 道隆
O・C・S	○ 岡田 憲司
書道部	○ 荻原 昭文
アマチュア無線部	(休部)

名　称	指導教員
ロボット研究会	川田 和男
	○ 山崎容次郎
	漆原 史朗
茶道部	○ 松原 三郎
	長友 克寛
	吹田 義一
バレーボール部	○ 中瀬巳紀生
	由良 諭
	高橋 宏明
ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部	○ ※坂本具償
	高橋 洋一
	漆原 史朗
	土居 正信
	榎本 崇宏
	橋本 良夫
サッカー部	○ 権藤 典明
	真鍋 知久
	平岡 延章
卓球部	○ 出渕 幹郎
	(上代 良文)
	岩田 弘
	※木原茂文

名
ソフト
柔
陸上
水
野(高
野(低

(　)は文部科学省在外･内地研究員　　※主事である教員

（出典：クラブ指導教員一覧）

資料７－１－⑥－２　クラブ指導教員規定

１．クラブ指導教員の任命

任命について　（学生会準則第８条による。）

クラブ指導教員の任期は２年とし，年度末に学生主事が各クラブ指導教員と調整し，年度初めに校長が任命する。また，クラブの規模などに応じ指導教員を複数制とすることができる。

なお，クラブ指導上，できるだけ重任を依頼するものとする。指導教員が一人のクラブで，年度の途中に指導教員に欠員が生じた場合は，速やかに補充するものとする。新任者に対してはその都度，技術指導上得意とするクラブ又は指導教員の手薄なクラブの指導教員を依頼するものとする。

２．クラブ指導教員の心得

１　日常活動について

⑴ 指導教員は下記事項を把握するものとする。

①部員の氏名　②年間活動計画　③活動概況　④学生会配分の部費の使用状況，個人負担部費の徴収と使用の状況　⑤施設・設備の状況とその使用計画（部室の清掃・器具の管理を含む。）　⑥加盟団体との関係

①，②及び⑤ の計画については，年度初めに学生係から配布する指定の用紙に部長を指導して記入，提出させるものとする。施設などの使用計画の調整は部長会等で（学生主事・体育教員が指導して）行うものとする。

⑵　月間活動予定及び学内施設・設備使用予定については，グループウェア上のスケジュール表に記入しておく。

２　校外活動について

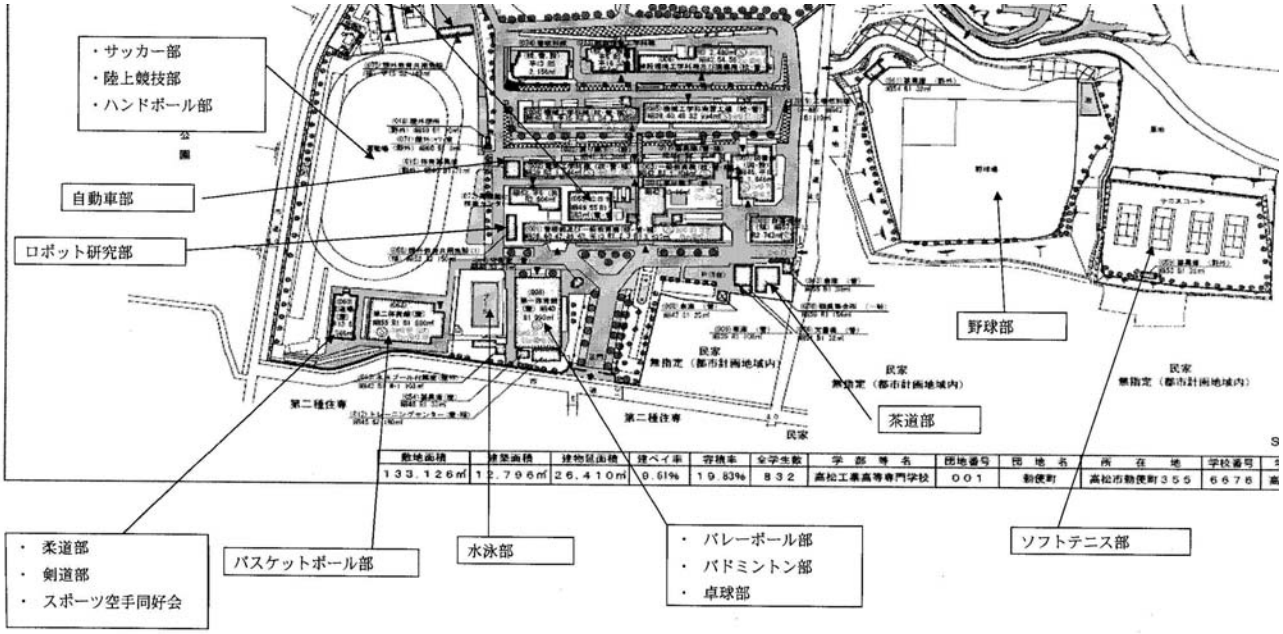
⑴　地区・全国の高専体育大会についての諸事務は，学生係で積極的に指導教員，部長と連絡をとり，推進するものとする。[全般的な計画は「体育協議会」が決定する。各校の役員は校長・学生主事・体育教員・事務部長・学生課長の代表者で構成される。]

⑵　県の体育協会・教育委員会などの主催する試合の申し込みについては，指導教員等の依頼に基づき学生係が申込書作成の援助・発送業務を行うものとする。[主催者からの郵便物は庶務係を経て学生係に回される。学生係は速やかに指導教員又は部長に連絡するが，郵便の遅れもあるので，年間スケジュールにより申込み期日に遅れないように注意していただきたい。]

⑶　年間計画にない対外試合（練習試合を含む。）はその都度，集会届を部長若しくは指導教員から学生係に提出させ，学生主事の承認を受けるものとする。

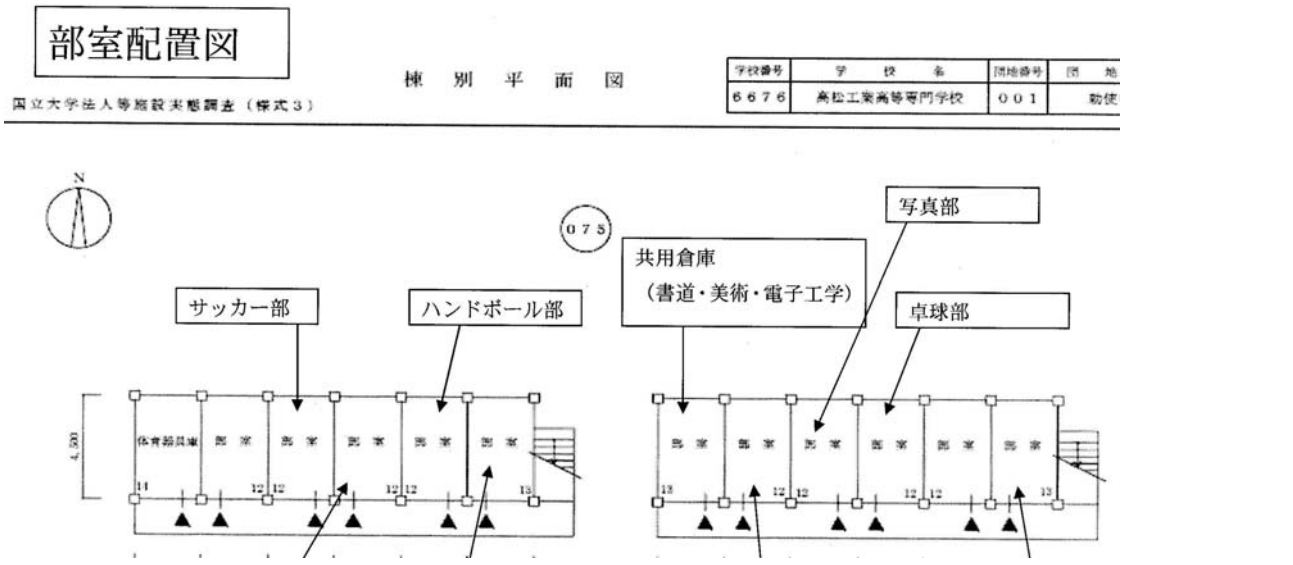
（出典：教員の手引き）

資料７－１－⑥－３　クラブ活動場所一覧一部



（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－４　部室一覧の一部



（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－５　指定公式大会一覧（一部）

氏　名	指定公式大会1					
	出　張　日		日間	出　張　先	用　　務	出　張　日
塩谷幾雄	～					～
権藤典明	5月27日	5月27日	1	瀬戸大橋記念公園陸技場	指定公式戦	5月28日
長谷川隆	6月3日	6月4日	2	香川県立丸亀高校	高校総体	6月17日
坂本具償	6月3日	6月3日	1	高松工芸高校	高校総体	7月15日
・田純	4月23日	4月23日	1	県営運動公園(生島)	ソフトテニス国体一次予選	7月15日
河野通弘	7月15日	7月17日	3	高知高専	高専大会	
田口淳	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月22日
鎌田弘						
堀江賢治						
高橋宏明	7月22日	7月22日	1	善通寺市民体育館	高専大会	
上原成功	6月3日	6月4日	2	香川町総合体育館	高校総体	7月9日
中川征樹	8月4日	8月6日	3	神戸グリーンアリーナ	全国高専大会	
服藤憲司	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月26日
加藤清考	6月3日	6月4日	2	香川県総合水泳プール	高校総体	7月14日
岡野寛	4月22日	4月22日	1	鳴門教育大学	四国大学リーグ戦	7月16日
中瀬巳紀生	6月3日	6月4日	2	高松市総合体育館	高校総体	7月20日
吉澤恒星	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月22日
出渕幹郎	6月3日	6月5日	3	丸亀市民体育館	高校総体	7月15日
有道祐子	4月29日	4月30日	2	坂出市立体育館	県協会杯	6月4日
市川緑						
宇野光範	6月17日	6月18日	2	高松市ヨットハーバー	高校総体	
岡田憲司						
木原茂文	6月4日	6月4日	1	丸亀市民体育館	高校総体	7月9日
岩田弘	6月4日	6月4日	1	丸亀市民体育館	高校総体	7月16日

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－６　課外活動報告書集計（一部）

氏　名	4月 課外活動		5月 課外活動		6月 課外活動		7月 課外活動		8月 課外活動		9月 課
	全日数	宿泊	全日数	宿泊	全日数	宿泊	全日数	宿泊	全日数	宿泊	全日数
塩谷幾雄											
権藤典明	5		2.5		2						1.5
長谷川隆	3.5		1.5		0.5		1		1		2
坂本具償	1		3		2		2.5		2		2.5
・田純	3		2.5		0.5		3.5				
河野通弘			1								
田口淳	3.5		4						1.5		
鎌田弘					3	1	0.5		4	3	
堀江賢治											
高橋宏明			1		1		1				1
上原成功	1.5		2.5		1.5		5.5		6.5		1.5
中川征樹											
服藤憲司	1		2.5	2	1		1		3		2
加藤清考											
岡野寛	3		2		1.5		1.5		1		3
中瀬巳紀生	5		6	2	1		4.5		2.5		4.5
吉澤恒星	9		11	2	5.5	1	10		15.5	3	7
出渕幹郎	1		5		2		2.5				
有道祐子							0.5				

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－７　合宿・遠征実績の一例

平成18年4月4日

香川県高等学校野球連盟会長殿

校名　高松工業高等専門学校

校長　塩谷　幾雄　　校長印

都道府県外試合開催申請書

下記の都道府県外試合のご承認をお願いいたします。

日時	4月 8日（土）	4月 22日（土）	4月 30日（日）
所属連盟	岡山県高等学校野球連盟	岡山県高等学校野球連盟	徳島県高等学校野球連盟
試合場所	関西高等学校	倉敷商業高等学校	脇町高等学校
対戦カード （ ）内に都道府県名 試合が3都道府県にまたがるものは題数字に丸印を入れること	1 関西 － 市川 （岡 山）（兵 庫） 2 高松高専 － 市川 （香 川）（兵 庫） 3 高松高専 － 関西 （香 川）（岡 山）	1 倉敷商業 － 琴丘 （岡 山）（兵 庫） 2 琴丘 － 高松高専 （兵 庫）（香 川） 3 倉敷商業 － 高松高専 （岡 山）（香 川）	1 高松高専 － 脇町 （香 川）（徳 島） 2 高松高専 － 脇町 （香 川）（徳 島） 3 － （ ）（ ）
宿泊の有無	有 ・ (無)	有 ・ (無)	有 ・ (無)
経費負担方法	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）
備考 2日以上に及ぶ一連の試合についてはその旨記載のこと			
日時	5月 13日（土）	6月 24日（土）	6月 25日（日）
所属連盟	鹿児島県高等学校野球連盟	愛媛県高等学校野球連盟	愛媛県高等学校野球連盟
試合場所	神村学園	新田高等学校	愛媛銀行グランド
対戦カード （ ）内に都道府県名 試合が3都道府県にまたがるものは題数字に丸印を入れること	1 神村学園 － 福岡工業 （鹿児島）（福 岡） 2 高松高専 － 福岡工業 （香 川）（福 岡） 3 神村学園 － 高松高専 （鹿児島）（香 川）	1 高松高専 － 新田 （香 川）（愛 媛） 2 高松高専 － 新田 （香 川）（愛 媛） 3 － （ ）（ ）	1 高松高専 － 松山東 （香 川）（愛 媛） 2 高松高専 － 松山東 （香 川）（愛 媛） 3 － （ ）（ ）
宿泊の有無	(有) ・ 無	(有) ・ 無	有 ・ (無)
経費負担方法	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）	（①）各校で負担 （２）招待側負担 （３）その他 （ ）
備考 2日以上に及ぶ一連の試合についてはその旨記載のこと		6月24日～25日 松山遠征	

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－８　指定公式大会出張報告集計（一部）

氏　名	指定公式大会1					
	出　張　日		日間	出　張　先	用　　務	出　張　日
塩谷幾雄	～					～
権藤典明	5月27日	5月27日	1	瀬戸大橋記念公園球技場	指定公式戦	5月28日
長谷川隆	6月3日	6月4日	2	香川県立丸亀高校	高校総体	6月17日
坂本具償	6月3日	6月3日	1	高松工芸高校	高校総体	7月15日
・田純	4月23日	4月23日	1	県営運動公園(生島)	ソフトテニス団体一次予選	7月15日
河野通弘	7月15日	7月17日	3	高知高専	高専大会	
田口淳	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月22日
鎌田弘						
堀江賢治						
高橋宏明	7月22日	7月22日	1	善通寺市民体育館	高専大会	
上原成功	6月3日	6月4日	2	香川町総合体育館	高校総体	7月9日
中川征樹	8月4日	8月6日	3	神戸グリーンアリーナ	全国高専大会	
服藤憲司	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月26日
加藤清考	6月3日	6月4日	2	香川県総合水泳プール	高校総体	7月14日
岡野寛	4月22日	4月22日	1	鳴門教育大学	四国大学リーグ戦	7月16日
中瀬巳紀生	6月3日	6月4日	2	高松市総合体育館	高校総体	7月20日
吉澤恒星	7月14日	7月14日	1	香川県営球場	全国高校野球選手権香川県大会	7月22日
出渕幹郎	6月3日	6月5日	3	丸亀市民体育館	高校総体	7月15日
有道祐子	4月29日	4月30日	2	坂出市立体育館	県協会杯	6月4日
市川緑						
宇野光範	6月17日	6月18日	2	高松市ヨットハーバー	高校総体	
岡田憲司						
木原茂文	6月4日	6月4日	1	丸亀市民体育館	高校総体	7月9日
岩田弘	6月4日	6月4日	1	丸亀市民体育館	高校総体	7月16日
橋本良夫						
高橋義一	6月4日	6月4日	1	亀水テニスコート	高校総体	7月15日
山崎容次郎						
福井智史	6月3日	6月4日	2	香川県総合水泳プール	高校総体	7月15日
小島隆史	6月3日	6月3日	1	香川県総合水泳プール	高校総体	7月15日
吉永慎一	4月29日	4月30日	2	坂出市立体育館	県協会杯	5月28日
上代良文						
酒井孝						
高橋洋一	7月15日	7月17日	3	西条市総合体育館	高専大会	

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－９　学外コーチ計画調書

平成18年度学外コーチの指導による課外活動計画調書一覧

クラブ名	指導期間	H18計画時間数①	H18実施計画案②
E.・S・S	H18.5.19～H19.2.16	32	10
合唱団ﾌﾛｰｴ･ﾃｰﾈ	H18.4.1～H19.3.31	200	30
	H18.5.1～H19.11.30	10	5
茶道部	H18.4.14～H19.2.13	72	25
ソフトテニス部	H18.4.15～H18.8.14	40	35
柔道部	H18.4.1～H19.3.31	80	15
陸上競技部	H18.4.1～H19.3.31	180	60
野球部	H18.4.1～H19.3.31	30	30
ヨット部	H18.4.29～H18.11.30	168	30
ハンドボール部	H18.6.14～H19.1.14	40	30
	合計	852	270

平成18年度予算 [redacted]

※上記①・②の説明
① クラブ顧問から提出された平成18年度年間計画時間数。
② 平成18年度の年間実施計画時間数の案。（原則は，この時間数を超えて支給しないが，予算が余った場合は支給する事は可能。）

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－１０　公式戦に出場する際の特別欠席届

教務主事	教 務 係

特別欠席(欠課･遅刻･早退)届

学級担

平成　　年　　月　　日提

(欠席後の登校日　　月

高松工業高等専門学校長　殿

____学年____組____番 _____

下記のとおりお届けします。

記

欠席	平成　年　月　日(　)から 平成　年　月　日(　)まで　(　)日間					
試験日又は実施日	平成　年　月　日(　)から 平成　年　月　日(　)まで　(　)日間					
欠課・遅刻・早退	平成　年　月　日　曜日					
	時限	欠課	遅刻	早退	授業科目名	担当教員名
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					

理由
- □ 大学入学又は編入学試験受験のため（試験日を記入のこと）
- □ 就職試験受験のため（試験日を記入のこと）
- □ 就職・進学のための健康診断
- □ 風水害及び火災などの不測の事故
- ○ 学校の代表などの公的理由
- □ 学校が認めた資格試験
- □ 交通機関の事故及びストライキ（証明書を添付のこと）
- □ その他

（出典：欠席届（黄色））

資料７－１－⑥－１１　リーダー研修報告書（７月）

平成 18 年度集団指導者研修会報告書

1.目的

各学生会行事を取り仕切る立場にある学生の指導性の育成，またリーダーとして必要な知識や発言力の習得のために実施する。

2.期日

平成 18 年 7 月 27 日（木）～28 日（金）

3.日程

日程表のとおり

4.場所

見　　学　　直島環境センター，有価金属リサイクル施設
会議場所　　高松高専第一会議室，直島町西部公民館
宿　　泊　　直島ふるさと海の家「つつじ荘」

5.参加者

学生会役員　　（14 名）
学生祭実行委員　（ 2 名）
学生主事・学生係（ 2 名）
計 18 名

6.会議内容（主な意見）

体育祭
- 審判の打ち合わせ会を行う
- 「Ｔシャツデサイン賞」を行う
- 全学年および学年別順位に加え，学科別順位をつける
- 麻袋，キャタピラ，帽子など，破損することを想定して多く準備する

学生会誌
- 学生会誌なのに学生会活動が見えない
- 編集委員が少ない
- 学外にも配布できるようにしたい

学生祭
- スタンプラリーについて
- 検食の方法について
- 階で必要なイスと机を１クラスに集中して残して，他は全て移動させる

スポーツ大会
- 下位決定戦を行い，何もしない時間を減らす
- 得点方法を変更する

（出典：学生課資料）

資料７－１－⑥－１２　学生小委員会年間業務一覧

学生小委員会の年間業務一覧（平成１７年度）

＜4月＞

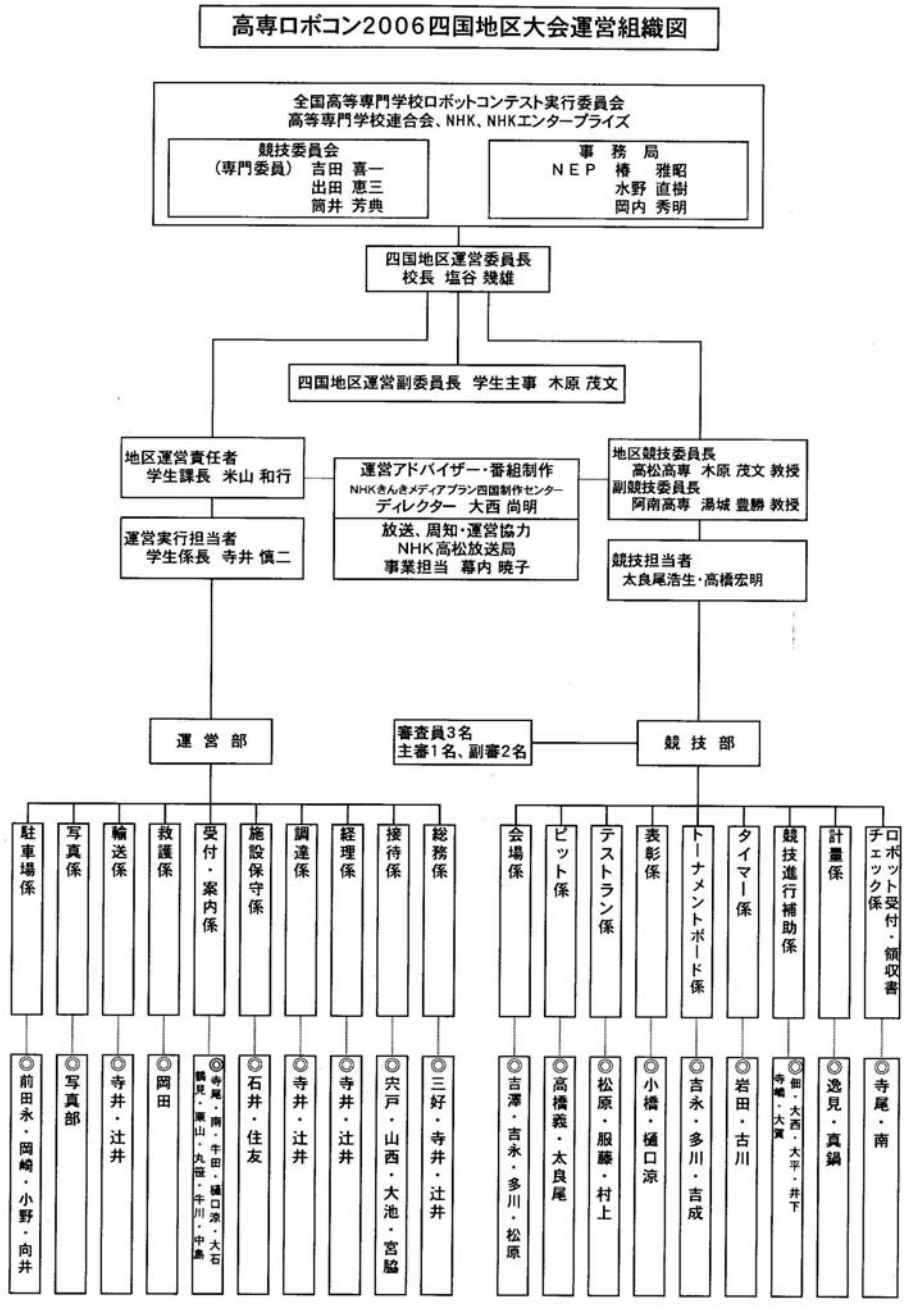
新任教員辞令交付(4/1)	交付立会い・新任者研修（主事）
教育後援会役員会	出席　懇談会開催　予算案の審議（主事）
第１回学生小委員会	新旧引継，役割分担・定例会の設定（週１回）
定期健康診断の実施案	実施(4月,5月)案（小委調整、教職員協力依頼）
学級担任会	学生関係諸手続き・指導概要(学級担任必携)作成（主事）
年度始め免許証調査	クラス担任調査（５月末提出），担任会同封
盗難・交通事故への注意	長期休み明けでの注意喚起（各担任）
服装・頭髪指導(1-3 年生)	各クラスでの点検，始業式での居残り注意、追跡調査
第１回教員会	学生指導事項（教員用）卒業生進路一覧表
	クラブ指導教員一覧表，学生指導概要（主事）
	新入生の中学校経験クラブ名一覧表作成（主事補）
入学式	新入生服装・身だしなみチェック（副主事・主事補）
教育後援会総会	入学式の午後，事業概要説明（主事）
新入生歓迎会	入学式の午後，各学科別の学生引率（副主事，主事補）
進級式，始業式	服装・身だしなみチェック（主事補），主事訓辞
女子更衣室の割当等	一人一ロッカー，更衣室の清掃当番（女子学生）
５年生進路説明会	就職協定周知等（希望専門学科で実施）
新入生のクラブ見学	オリエンテーション中の放課後
クラブ年度始め部会(4月)	クラブ部長・部員・指導教員の紹介・概要説明（部長）
毎月の校内外巡視	巡視・担当割振の決定（３回／月，主事補）
クラブ活動年度当初報告書	部員名簿等（４月配布，５月締切，学生係）
学生総会(4月下旬)	準備・新役員紹介・予算決算の承認（学生会，主事補）
面接実技研修の実施(5/23)	５年生，専攻科２年生の面接実技研修（主事，５年担任）
ロボコン推進委員選出	各学科からロボコン推進委員選出（主事，主事補）
プロコン推進委員選出	各学科からプロコン推進委員選出（主事，ＣＳセンター長）
５年生四輪車通学許可	７km以上，民間駐車場借用契約書等提出

＜5月＞

高校総体抽選会代表者	組合せ抽選会（代表者１名出席）
第２回教員会	学生指導白書報告（主事）
地区体育大会立案	本校担当開催種目の立案（主事補，専門委員）
地区高専体育協議会定期	地区総合体育大会要項・競技要項審議（主事）
役員会及び文化協議会	地区総合文化祭要項審議（主事）
学生指導研究会の立案	実施要項等立案（３主事），講師依頼等
前期授業料免除者選考	選考会議・候補者決定（学生支援委員会）
日本学生支援機構奨学生選考	選考会議・候補者決定（学生支援委員会）
年度始め学生支援委員会	学生指導方針の確認と討議
前期通学方法調べ	全校一斉，計画（主事補），実施・結果報告（担任）
（５月連休明け）	主事補集計小委報告
高松地区生徒指導連絡会議	
及び交通安全対策協議会	毎月例会（第２火曜日）・事例報告作成（主事）
交通安全教育，禁煙教育	特別活動の時間等利用（学級担任）
高校総体結団式	式進行（体育主任），周知（学生係）

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－１－⑥－１３　ロボコン支援例



（出典：18 年度ロボコン四国大会実施要項）

資料７－１－⑥－１４　ＡＥＤ・人工呼吸の講習会

AED,人工呼吸の講習会

月　日	場　所	時　間	講　師	受講者
平成17年　6月13日	和敬館	14:00～17:15	高松市南消防署救急係担当者	22名
平成17年12月13日	職員集会所	14:00～16:30	高松市南消防署救急係員	10名

（出典：小委員会資料）

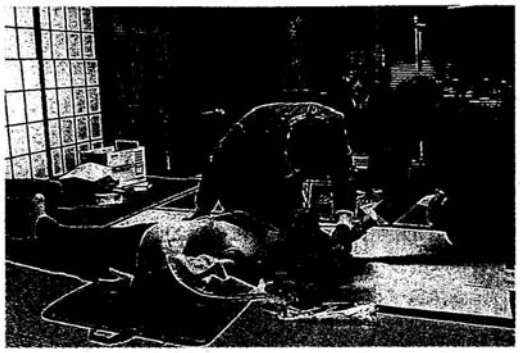
救命実技講習会の記事

平成18. 3. 8　　高 松 高 専 だ よ り

救命実技講習会

職員を対象に，救急時の応急救護の方法と適切な処理を習得することを目的に，救命実技講習会を12月13日(火) 14：00～16：30に職員集会所において開催しました。

講習会は，高松市南消防署救急係の職員を講師として，スポーツなどの怪我に対する適切な処置など，基礎的な説明を聴いた後，実際に教育訓練用の人形を使って心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）とＡＥＤ（自動体外式除細動器）を用いた応急手当の実技講習を，10名の参加者が班別に別れて実習し受講しました。



（出典：高専便り）

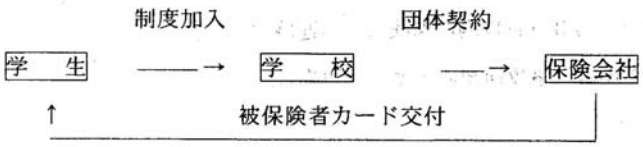
資料７－１－⑥－１５　学生総合保険など

学　生　総　合　保　険

本校では，在学中不慮の事故に遭うこともあり，その対策として学生全員に「日本スポーツ振興センター災害共済給付 」に加入させている。しかし，この給付の対象は，「学校管理下（授業・実習・実験・部活動・登下校中など）における事故」に限定されており，学校管理下以外の事故は対象とならない。

ついては，本校では学校管理下及び学校管理下以外の事故に関わらず対応できる学生総合補償制度に全学生が加入するよう指導している。

学生総合補償制度



1　保　険　名　学生総合保険

2　補償制度の概要

(1)　学生が学校管理下及び学校管理下以外において，偶然な事故により死亡，ケガをした場

２０．学生の災害給付について

日本スポーツ振興センター災害共済給付

1　日本スポーツ振興センターとは，体育の振興と学生の健康の保持増進を図るため，体育施設の運営，学生の災害に関する必要な給付，学校給食用物資の供給等を行い，もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とした制度である。

2　災害共済給付金の対象となる災害の範囲

災害の種類	災害の範囲	給付金
負傷	負傷の原因である事故が学校の管理下において発生し，かつ，療養に要した費用の額が５０００円以上のもの	医療費 ①健康保険法に基づく診療報酬の１０分の４
	学校管理下の行為によるもののうち次のもの ①　学校給食等による食中毒 ②　ガス等による中毒	

（出典：教員の手引き）

資料７－１－⑥－１６　医務室白書

平成17年度医務室白書

1 医務室利用状況

	1年	2年	3年	4年	5年	合計	率(%)	専攻科 1年	専攻科 2年	合計	率(%)
風邪・発熱・咽頭痛	76	83	101	52	53	365	28.4	3	12	15	40.5
腹部症状(胃部痛・腹痛)	34	37	89	35	32	227	17.7	0	5	5	13.5
気分不良・倦怠感・頭痛	73	89	127	63	36	388	30.2	3	9	12	32.4
その他(相談・生理痛・喘息)	75	37	156	14	22	304	23.7	2	3	5	35.7
小　計	258	246	473	164	143	1,284	100	8	29	37	100
外傷(擦過傷・切創)	54	84	50	82	59	329	32.2	10	4	14	43.8
打撲(骨折・脱臼・事故)	20	22	21	18	20	101	9.9	0	3	3	9.4
突き指・捻挫・靭帯損傷	20	10	30	25	39	124	12.1	1	0	1	3.1
筋肉痛・関節痛・腰痛	36	70	50	59	54	269	26.3	3	1	4	12.5
耳鼻咽喉疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎等)	8	4	15	11	12	50	4.9	1	2	3	9.4
眼疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性結膜炎等)	21	11	18	3	3	56	5.5	0	0	0	0
歯疾患(歯牙痛・齲歯)	1	0	0	1	1	3	0.3	0	0	0	0
その他(火傷・湿疹・蛛)	38	10	23	11	9	91	8.9	1	6	7	21.9
小　計	198	211	207	210	197	1,023	100.1	16	16	32	100
合　計	456	457	680	374	340	2,307		24	45	69	

2 外科的傷害等発生状況

項　目		件数	請求数	給付請求率(%)
授業	体育	194	36	18.6
	その他(卒研・実習)	49	1	2
学校行事		60	2	3.3
部活動		78	63	80.8
休憩時間(昼休憩を含む)		561	9	1.6
登校・下校		45	3	6.7
家庭等(寮を含む)		67	7	10.4
合　計		1054	121	11.5

※ 請求数は，独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付状況の内数である。
平成17年度災害共済給付金支払額 2,117,917円

平成17年度医務室利用状況

内科的	1,322件
外科的	1,054件
合計	2,376件

平成16年度医務室利用状況

内科的	1,232件
外科的	911件
合計	2,143件

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－１－⑥－１７　学生支援に関するアンケート

学生支援に関するアンケート

実施日：平成１９年２月１５日
実施クラス：１年２組４０名

「A」クラブ活動などの課外活動を行う際に，学校の施設や支援などの環境面で，不十分であると感じたことはありますか？

5．十分な支援があり，恵まれた環境にある．　**１５％**
4．常識的に考えて，相応な支援はなされている．　**３２.５％**
3．多少の不満はあるが，最低限度の支援はあるので，後は部員の自覚しだいだ．　**２７.５％**
2．不十分な面がいくつかある．　**１２.５％**
1．全く不満に感じる．　**１２.５％**

（出典：1 年団資料）

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に関わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学級担任（資料７－２－①－１，２）により指導・相談・助言を行う体制がある。１～３年には学年団を組織し（資料７－２－①－１）基本的に毎週行う学年団会議で学生の情報を交換し（資料７－２－①－３），教育相談室や３主事とも連携する。新入生に配布する学生便覧（資料７－２－①－４）で規則や生活全般の説明がなされる。1 年生で朝のショートホームルームを（５月頃までは）実施している。１～３年生開講のキャリア概論が助言・指導の一役を担う（資料７－２－①－５）。

教育相談室を組織し，毎週定時の相談室開設のほか，室員が学生の相談に随時対応している（資料７－２－①－６，７）。1 年生オリエンテーションでの相談室紹介や，全教室へ相談室便りを掲示しており，室長をはじめ室員は専門知識を広げ，また相談室へは在校生に限らず保護者や中途退学者も訪れるなど有効に機能している。さらに学外の専門カウンセラー（香川県精神保健福祉センター）による相談受付けのほか，カウンセリングなどに関する各種講習会を実施している（資料７－２－①－８）。

ハラスメント（セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント）に関する文書を学生および保護者に配布し，具体的な対処法や，相談窓口を周知している（資料７－２－①－９）。

医務室には専任の看護師が待機し学生の相談に応じている（資料７－２－①－１０）。月１度の学校医による健康相談日を設けている（資料７－２－①－１１）。

経済的な支援体制としては，各種奨学金貸与制度，授業料免除制度がある（資料７－２－①－１２，１３）。学生アルバイトは，夏休み等の長期休暇中に限り夜 20 時まで認め（資料７－２－①－１４），特別な事情による保護者からの申し出には平日アルバイトを許可する場合もある。

生活指導は学生主事を責任者とする学生小委員会が総括し，担当主事補が先頭に立って指導する（資料７－２－①－１５）。式典前の服装頭髪調査指導と追跡指導，随時の服装頭髪等調査および追跡指導，定期の校内外の巡視など，常時指導にあたる（資料７－２－①－１６）。１７年度からの服装頭髪等調査で，教員全体が指導にあたるよう工夫し，指導に対する意思統一を図っている（資料７－２－①－１７）。交通関係に関しても担当主事補が中心となり，バイク安全運転講習，一斉の通学方法調べおよび追跡調査指導を定期的に行うほか，常時の通学違反の監視，随時の通学違反調査を企画・実行している（資料７－２－①－１８）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

クラス担任制を敷いて学生へ指導・相談・助言を行っている。学生の相談については，教育相談室だけでなく，教員対象の講演会を実施するなど，高い水準で機能している。学生小委員会が生活指導を指揮し，上述のような全教員が指導に携われる取り組みも行っている。経済面について，各種奨学金貸与制度や授業料免除制度が適切に機能している。

資料７－２－①－１　学級担任・学年団の配置

平成１８年度　校　務　分　担　表

高松工業高等専門学校
平成１８年４月１日現在

副校長・教務主事　鎌田　弘　　**教務副主事**　小島　隆史　　**教務主事補**　加藤清考・宇野光範・重田和弘・猪永秀和・向谷光彦
校長補佐（学生担当）・学生主事　木原　茂文　　**学生副主事**　太良尾浩生・高橋　宏明　　**学生主事補**　上原成功・吉澤恒星・吉永慎一・川田和男・多川　正
校長補佐（学生担当）・寮務主事　坂本　具儀　　**寮務副主事**　田口　淳　　**寮務主事補**　福井智史・濱原史朗・逸見知弘・中治弘行
校長補佐（国際交流・地域連携担当）・研究・地域連携推進室長　土居　正信
専攻科長　山内　庄司　　**（専攻主任）制御情報システム工学専攻**　本田　道隆　　**建設工学専攻**　竹下　治之
学科長　**（一般）**権藤　典明　　**（機械）**岡田　憲司　　**（電気情報）**原圃　正博　　**（制御情報）**平岡　延章　　**（建設環境）**長友　克寛
図書館長　長谷川　・

コンピュータサイエンスセンター長　鹿間　共一　　**室長**　**（一般電気）**○吉永慎一・古川満信・吉成知己　**（ネットワーク情報室）**○重田和弘・十河誠・古川満信・吉成知己　**（ISE研究室）**○重田和弘

高専教育改革推進教育研究センター長　土居　正信　　**研究開発室長**　**（新材料）**○鹿間　共一　**（材料利用技術）**○福井　智史　**（新エネルギー技術）**○吹田　義一　**（環境計測）**○多川　正　**（メカトロニクス）**○川田　和男　**（教育技術）**○重田　和弘
教育相談室長　出渕　幹郎　　**教育相談室員**　長谷川・・田口　淳・有道　祐子・高橋　洋一・村上　幸一・徳永　秀和・中治　弘行
総務・広報室長　権藤　典明
一般科目教科主任　**（国語）**長谷川　・　**（社会）**権藤　典明　**（数学）**高橋　宏明　**（理科）**岡野　寛　**（体育）**中瀬巳紀生　**（外国語）**有道　祐子

学年主任及び学級担任

学年	M（機械）	E（電気情報）	S（制御情報）	C（建設環境）	学年主任
1	1　有道　祐子	2　上原　成功	3　市川　緑	4　中瀬巳紀生	中瀬巳紀生
2	岡野　寛	堀江　賢治	加藤　清考	中川　征樹	岡野　寛
3	福井　智史	荻原　昭文	川田　和男	土居　正信	川田　和男
4	高橋　義一	樋口　弘志	逸見　知弘	向谷　光彦	4・5年は置かない
5	吉永　慎一	鹿間　共一	十河　宏行	太田　貞次	

各種委員会委員

（出典：校務分担表）

資料７－２－①－２　学級担任の役割（一部抜粋）

≪学級担任の主な業務≫

【学年始めの業務】（手引－その他　２－）

1　前担任と引き継ぎを行う

1．前学級担任とは機会を設けて，必ず学生指導及び事務の引き継ぎを行う。
2．学習面や生活面で問題のある学生については，特に念入りな引き継ぎを行い，協力して指導に当たる。
　なお，指導が困難な時には，速やかに関係主事や教育相談室長等に協力を求め早期指導に努める。
3．始業式（入学式）前にはＨ・Ｒ教室を再点検する。
4．年度当初の出来るだけ早い時期までにクラス全学生の指名を覚えるよう努める。

2　全学生に対して個人面談を行う（必ず実行すること）

1．指導票に基づき，個人面談を行う。留年者については，特に入念に行う。
　学年始めには必ず個人面談を実施する。個々の学生をよく知るようになる。
2．学生一人ひとりの学校生活における悩みや相談ごとを知る。
　不登校及びいじめについては、早期発見・早期指導に努める。
　（1）まず学年団等で話し合い、指導する。
　（2）学年団等で指導が困難な場合には、早急に教育相談室長、あるいは担当主事等に相談する。この場合には、教育相談室が中心となり、担任や学年団と協力して指導する。
3．留年生に対しては、特にこころ配りのある個人面談を行う。留年生の次年度の進級率は６０％程度であり、また、進級しても次年度で再度留年する学生がいることをよく認識して、留年生の指導にあたる。

3　特別活動について

1．特別活動については，学年団で話し合い、ホームルーム年度計画案を立て、前期分は４月中、後期分は１０月中に教務係へ提出する。また、年度末（３月２０日まで）には実施報告書を教務係へ提出する。
2．有意義な活動を企画・実行する。

4　清掃について

1．平常の清掃については，学生と話し合い、実施方法等を決める。
2．日頃より、ＨＲ教室の美化に努める。
3．学生の生活目標である「校内美化に努めよう」を実行させる。
4．ゴミの分類収集を実行するよう指導する。
　特に、「空きびんや空かんのポイ捨て」等をしないよう指導する。
5．大掃除の分担を学生に周知する。
　学生に担当個所を割り当て、関係教官と協力して指導に当たる。
　学生の担当個所が常に同じ場所とならないようにする。

－5－

（出典：学級担任のしおり）

資料７－２－①－３　学年団会議議事録（一部抜粋）

題名　　**1年団議事録**
差出人　　Uehara

１年団各位

　上原です.

昨日は会議に欠席して御迷惑をおかけしました．部活でグランドにいました．前々回の議事録をお送りします：

１年団会議議事録
日時：２月２５日16時10分～
出席者：有道，上原，市川，中瀬先生

・1-3[redacted]君の事情につて．カウンセリングの予定がある．
・1-3[redacted]君について．
・遠足を後期に行う．場所，日時は未定でこれから決める．
・4/27木曜の健康診断は体操服を着用して行う．
・来週５月から略装期間となる．
・大掃除の女子トイレについては女子１人でも掃除できるだろう．
・個人面談については，今後実施する予定のクラスもある．
・ショートホームルームは５月連休あけまでは行うことになっている（早野校長の教官会議での発言）．打ち切る目途として，中間試験までがある．それ以降も当分は行う予定のクラスもある．
・[redacted]君，[redacted]君，[redacted]君の件について．
・高専便りに載せる作文「高専の印象と決意」の選定．
・禁煙教育の教材について，バイバイスモーキングを読んで作文を書くのをやめて，tv番組の教材（10minutes等）を利用してはどうかという案が出た．
・前期HRの活動計画
4/13 体育祭出場種目決定
4/20 個人面談アンケート
5/11 体育祭と学祭の説明
5/18 学祭に関する決め事
5/25 〃
6/1 数学の模擬試験（性教育１回）
6/15 --（性教育１回）
6/22 禁煙教育（性教育１回）
6/29 席替え？（性教育１回）
7/6 --（性教育１回）
7/13 夏休みの過ごし方
9/7 学祭に関する決め事（またはクラスマッチ）
9/14 クラスマッチ（または学祭に関する決め事）
9/21 ５年生の話

次回は５月２日（申し訳ありません）
以上.

（出典：１年団資料）

資料７－２－①－４　学生の規則・生活について

学　生　心　得

高専の学生は，１年生から５年生までの間に「高等学校と大学とを合わせた一般教科と工業に関する専門教科」を学修します。そのため，中学校時代と比べてより以上の勉学が必要となります。

さらに，在学中は，正課である学業に専念すると同時に，課外活動，クラブ活動等にも積極的に参加し，友達との輪を広げ，より有意義な学生生活が送れるようにして下さい。

高専生活は，15歳から20歳までの人生における最も変化に富んだ時期なので，以下の事柄を十分理解し，楽しく有意義な学生生活とする努力をして下さい。

1　生活一般について

(1)　学生は，学則及び学生準則その他諸規則を守るとともに，学校の指導に従わなければならない。

(2)　学生は，豊かな人間性を養うために勉学に励み，健康に留意し，常に規律正しい生活をすること。

(3)　学生は，教職員及び学生相互間はもちろん来訪者に対しても，礼を失わないよう心がけること。

(4)　各高専間の連絡，その他の団体との連絡は，学生主事を経てしなければならない。

2　校内生活について

(1)　授業時刻等は次のとおりである。

始　　業　8:50 (予鈴 8:40)
終　　了　16:10 (８限目)
通常居残　19:00 (学習・課外活動で居残りする場合)
特別居残　　教員指導のもと，特別な事由により通常居残を超えて居残りする場合である。

特別居残の場合は，施設・設備の時間外使用願いを学生課へ提出する。特別居残り後，下校するときはその旨を警備員に報告する。

（出典：学生便覧）

資料７－２－①－５　生活面指導の取り組み一例

6/1	模擬テスト（数）	
6/15	性教育講演	A1・A2
6/22	禁煙教育	A1・A2
6/29	席替え	
7/6	クラス企画	
7/13	夏休みの過ごし方	

（出典：キャリア概論年間活動計画書）

資料７－２－①－６　教育相談室紹介の一例



平成18. 5. 26　　高松高専だより

教育相談室について

1　第１・第３・第５月曜日は黒河内（くろこうち）先生のカウンセリングです

前期は，以下の日に放課後５時～６時と６時～７時まで図書館３階教育相談室でカウンセラー（臨床心理士）黒河内美鈴先生が本校学生とその保護者及び教職員を対象にカウンセリングを行います。秘密は厳守しますので先生や家族に相談できないような悩みでも気軽に相談して下さい。

希望者がかち合わないよう日時の調整が必要ですから，希望する学生は担任の先生か相談室員，相談室長（英語科出渕）まで申し出て下さい。

4／17(月)　5／1(月)　5／15(月)　5／29(月)
6／5(月)　6／19(月)　7／3(月)　9／4(月)
9／19(火)←注意

2　毎週金曜日は本校教育相談室員による相談日です

毎週金曜日の昼休み12：15～12：45と放課後４：15～６：00には本校教育相談室員が交代で図書館３階教育相談室において学生からの相談を受け付けています。雑談でもかまいませんので相談室員と話してみたい学生は利用して下さい。教員室では他人の耳があって相談しにくいようなことでも気にせず相談できます。

3　セクハラなど

女子学生に対するセクハラなど，女子学生の悩みで，男性の相談室員には話しにくい事は女性相談室員の有道先生や看護師の岡田さんに相談して下さい。有道先生は一般教育棟の２階，岡田さんは自彊会館１階の医務室にいます。

4　保護者の方へ

子どもさんのことで心配なことがおありでしたら，秘密厳守で対応いたしますので（原則として相談内容は相談者と相談を受けている者との間だけの秘密で，相談者の了承なしには絶対

田口　淳（一般教育科）

皆さんの中には，日々いろいろな悩みと直面しながら，一喜一憂している人も多いと思います。辛いときは，一人で悩まずに気軽に相談に来てください。気分転換のための雑談でもかまいません。自分の心が楽になるためにどんどん利用してください。ジュースやお菓子を用意してお待ちしています。

有道　祐子（一般教育科）

教育相談室員３年目の有道祐子です。高専は女子学生が少ないため，女子学生は入学当初からいろいろな悩みを抱えていると思います。私の部屋にはいつも学生がいて，入りづらいかもしれませんので，今年は教育相談日を設けることにしました。毎週火曜日の放課後はいつも部屋を空けてお待ちしています。特に女子学生の皆さん，ストレスを感じたら話に来てくださいね。

高橋　洋一（機械工学科）

今年度から教育相談室の担当となりました。私自身も高松高専の卒業生なので皆さんの気持ちはよくわかります。悩み事や相談事，雑談でもかまいませんので気軽に教員室に来てください。部屋は，実習工場の1階です。工場内の壁に大きく掲げてある「安全第一」の標語が目印です。少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いします。

村上　幸一（電気情報工学科）

悩みごとを一人で抱え込むのは，結構つら

（出典：高専便り）

資料７－２－①－７　教育相談室の掲示

平成１８年度後期教育相談室予定表

１　第１、３、５月曜日は黒河内（くろこうち）先生のカウンセリング

下の日には放課後５時～６時と６時～７時に図書館３階教育相談室で香川県精神保健福祉センターのカウンセラー黒河内美鈴先生が本校学生とその保護者及び教職員を対象にカウンセリングを行います。秘密は厳守しますので先生や家族に相談できないような悩みでも気軽に相談して下さい。

希望者がかち合わないよう日時の調整が必要ですから希望する学生は担任の先生か相談室員、相談室長（英語科出渕 Tel 869-3848、メール idebuchi@takamatsu-nct.ac.jp）まで申し出て下さい。

１０／１６（月）	１０／３０（月）
１１／６（月）	１１／２０（月）
１２／４（月）	１２／１８（月）
１／１５（月）	１／２９（月）
２／５（月）	２／２０（火）←注意

２　毎週金曜日は本校教育相談室員による相談日

毎週金曜日の昼休み１２：１５～１２：４５と放課後４：１５～５：１５には本校教育相談室員が交代で図書館３階教育相談室において学生からの相談を受け付けています。雑談でもかまいませんので相談室員と話してみたい学生は遠慮なく利用して下さい。下の当番予定を見て来室して下さい。

	昼休み	放課後
１０月　６日	出渕	有道
１３日	出渕	出渕

（出典：教育相談室の予定表）

資料７－２－①－８　教育相談室講習会一覧

教育相談室講習会一覧

平成１７年１１月２４日
講師：黒河内美鈴
対象：一般教育科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年１月１７日
講師：黒河内美鈴
対象：制御情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年１０月１８日
講師：出渕幹郎
対象：１年４組授業担当の一般教育科教員並びに電気情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１８年１１月２２日
講師：出渕幹郎
対象：３年電気授業担当の一般教育科教員並びに電気情報科教員
内容：高機能広汎性発達障害について

平成１９年１月５日
講師：黒河内美鈴
対象：全教員及び技術支援室職
演題：**軽度発達障害と特別支援教育　広汎性発達障害を中心に**

（出典：教育相談室資料）

資料７－２－①－９　ハラスメント対策資料（掲示・相談員・規定など）

（掲示文）

Stop! Sexual Harassment

Takatech



セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）は、人間としての尊厳を侵害する行為であり、人間軽視のあらわれです。学校は平等かつ平穏な勉学と就業の場であり、また自由な教育研究の場でもあります。
学生、教職員の皆さん、協力してセクハラのない健全で快適なキャンパスをつくりましょう。

☼ どんなことがセクハラになるの？

☼ セクハラをしないためには、どんな点に注意すれば

（相談員一覧）

■相談員一覧■

所　属	氏　名	性別	校内電話
専攻科長	山 内 庄 司（やまうち しょうじ）	男	3891
一般教育科長	権 藤 典 明（ごんどう のりあき）	男	3845
機械工学科長	岡 田 憲 司（おかだ けんじ）	男	3875
電気情報工学科長	原 囿 正 博（はらぞの まさひろ）	男	3910
制御情報工学科長	平 岡 延 章（ひらおか のぶあき）	男	3896
建設環境工学科長	長 友 克 寛（ながとも かつひろ）	男	3920
教育相談室長	出 渕 幹 郎（いでぶち みきろう）	男	3848
一般教育科	有 道 祐 子（ありみち ゆうこ）	女	3846
一般教育科	市 川　緑（いちかわ みどり）	女	3850
総務課長	宍 戸 好 隆（ししど よしたか）	男	3810
学生課長	米 山 和 行（よねやま かずゆき）	男	3830
施設課長	藏 田 兼 義（くらた かねよし）	男	3951
人事労務係長	栗 山 育 郎（くりやま いくお）	男	3812
図書係長	大 石 洋 子（おおいし ようこ）	女	3813
寮務係長	小 橋 祥 子（こばし さちこ）	女	3835
看 護 師	岡 田 幸 恵（おかだ さちえ）	女	3834

（規定文）

高松工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関し，人事院規則 10 － 10（セクシュアル・ハラスメントの防止等）及び文部科学省におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程(文部科学省訓令第４号)に定めるもののほか必要な事項を定める。

（目的）

第２条　この規程は，本校において，セクシュアル・ハラスメントの防止等を図り，すべての職員及び学生が個人として尊重され，健全で快適なキャンパス環境をつくることを目的とする。

（定義）

第３条　この規程において，次の各号に掲げる用語の意義は，当該各号に定めるところによる。

（出典：サイボウズ）

資料７－２－①－１０　医務室白書

平成17年度医務室白書

1 医務室利用状況

	1年	2年	3年	4年	5年	合計	率(%)	専攻科 1年	専攻科 2年	合計	率(%)
風邪・発熱・咽頭痛	76	83	101	52	53	365	28.4	3	12	15	40.5
腹部症状(胃部痛・腹痛)	34	37	89	35	32	227	17.7	0	5	5	13.5
気分不良・倦怠感・頭痛	73	89	127	63	36	388	30.2	3	9	12	32.4
その他(相談・生理痛・喘息)	75	37	156	14	22	304	23.7	2	3	5	35.7
小　計	258	246	473	164	143	1,284	100	8	29	37	100
外傷(擦過傷・切創)	54	84	50	82	59	329	32.2	10	4	14	43.8
打撲(骨折・脱臼・事故)	20	22	21	18	20	101	9.9	0	3	3	9.4
突き指・捻挫・靭帯損傷	20	10	30	25	39	124	12.1	1	0	1	3.1
筋肉痛・関節痛・腰痛	36	70	50	59	54	269	26.3	3	1	4	12.5
耳鼻咽喉疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎等)	8	4	15	11	12	50	4.9	1	2	3	9.4
眼疾患(ｱﾚﾙｷﾞｰ性結膜炎等)	21	11	18	3	3	56	5.5	0	0	0	0
歯疾患(歯牙痛・齲歯)	1	0	0	1	1	3	0.3	0	0	0	0
その他(火傷・湿疹・棘)	38	10	23	11	9	91	8.9	1	6	7	21.9
小　計	198	211	207	210	197	1,023	100.1	16	16	32	100
合　計	456	457	680	374	340	2,307		24	45	69	

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－２－①－１１　学校医の定期相談実績

学校医定期相談実績(平成17年4月～18年11月)

実施日	相談件数	相談内容
H17.4.7 H17.4.28	0	定期健康診断実施(2回)
H17.5.18	2	心疾患要管理学生(聴診)
H17.6.15	2	体調不良(動悸)・風邪(頭痛)
H17.9.21	1	風邪(発熱)
H17.10.26	1	左胸部痛
H17.11.16	1	風邪(インフルエンザについて)
H18.2.8	3	風邪(発熱・腹痛・倦怠感)
H18.4.6 H18.4.27	0 1	定期健康診断実施(2回) 気管支炎
H18.5.24	3	心疾患要管理学生(聴診)

(出典：医務室資料)

資料７－２－①－１２　各種奨学金受領状況（一部抜粋）

平成18年度（財)香川育英会

1年生　新規　1名
2年生　新規　1名
2年生　継続　1名
3年生　新規　1名

貸与月額　18，000円
期間　1～3学年終了まで
返還　卒業後返還
対象　1～3年生
資格　香川県その他の機関から奨学金の貸与等を受けていないこと。

平成18年度現在　日本学生支援機構

1年生　17名
2年生　2名
3年生　14名
4年生　16名
5年生　7名
専攻科　3名

貸与月額　自宅・自宅外、学年によって違う。
返還　卒業後返還

平成18年度　南海育英会奨学生採用

(出典：学生支援委員会資料)

資料７－２－①－１３　授業料免除状況

平成１８年度後期分授業料免除の選考結果について

選考結果

本科生（平成１８年１１月８日（水）学生支援委員会による）

免除申請者	４８名
全額免除許可者	２８名
半額免除許可者	９名
家計基準外不許可者	１名
学力基準外不許可者	７名
家計・学力基準外不許可者	１名
人物基準上の問題不許可者	２名

専攻科（平成 18 年 11 月２日（木）専攻科主任連絡会による）

免除申請者	７名
全額免除許可者	４名
半額免除許可者	２名
学力基準外不許可者	１名

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－２－①－１４　アルバイト規定

１３　アルバイトについて

本校では、学生のアルバイトを原則として長期にわたる休暇中に限って許可している。（ただし、家庭教師、新聞配達等の場合は年間）

アルバイトに関する業務は学生係で取り扱っている。アルバイトを選ぶ場合には労働条件や労働環境について保護者及び学級担任と相談して慎重に検討して決め、３年生までは許可願を学生係へ提出すること。

学校では、次の諸点を考慮して許可している。

○勤務時間は原則として午前８時～午後８時の間であること。
（夜勤は許可しない。）

○危険な仕事でないこと。（例えば、重量物の運搬等は許可しない。）

○健全な仕事であること。（例えば、風俗営業は許可しない。）

（出典：学生便覧）

資料７－２－①－１５　学生小委員会分担表

学生小委員会の役割分担表（H18年度）

主　事　総括と調整　対内外交渉　３主事会　懲戒処分　初任者研修
四国地区主事会議　ロボコン・プロコン推進委員会　２年団保護者懇談会
教育後援会役員会・総会　高松地区生徒指導主事会議
学生指導研究会・協議会計画立案　企画運営会議　専攻科委員会
合格者説明会（保護者対象）

副主事（学生小委員会）　主事代行　学内関係調整　四国地区総合文化祭
二輪車実技講習会　合格者説明会（学生対象）

副主事（学生支援）　主事代行　学生支援委員会の議事進行　キャリア概論対応
企業合同説明会　面接実技研修

＜主事補（学生小委員会業務）＞

●学生会関係（主：吉永　副：多川）
学生総会　学生会役員との懇談会（月１回）　リーダー研修会（年２回）
学生会ＰＲ誌の発行　学生会誌の発行　四国地区学生交流会（年２回）
献血（春・秋年２回）　新入生歓迎クラブ紹介（入学式当日）

●学生祭関係（主：多川　副：吉永）
学生祭執行委員会と打合せ　学生祭計画調整　学生祭周知会
学生祭宿直・巡視割振　学生祭反省会（総括，決算）

●生活補導関係（主：吉澤　副：上原）
服装頭髪等の指導　禁煙対策（巡視計画等）　喫煙所清掃計画・確認
盗難被害防止対策（巡視，学生への注意喚起等）　校内美化指導

●ロボコン関係（主：川田　副：太良尾）
ロボコンの推進及び実行（推進委員会，実行委員会資料作成）
アイデア募集および製作グループ募集（関係資料作成）ロボット製作日程の計画
校内ロボコン審査会の実施　地区・全国ロボコン大会　ロボコン反省会

●通学・交通関係（主：太良尾　副：川田）
２輪車通学者の許可条件の点検（年２回，学生小委提出）
通学方法全校一斉調査（５月，１０月の年２回）通学方法違反巡視及び計画
免許証調査（４月，２月の年２回）

●地区体育大会・総文等関係（主：上原　副：吉澤）
新入生の中学クラブ経験一覧表作成　体育祭協力　高校総体
新年度定期健康診断の日程・計測者調整（他主事補も協力）
クラブ強化練習周知会（夏季，春季の年２回）　全国高専体育大会
四国地区高専体育大会及び反省会　四国地区高専総文及び反省会
高松地区校外補導巡視担当（月１回）

（出典：学生小委員会資料）

資料７－２－①－１６　学生指導の一例（学生小委員会議事録より抜粋）

「第■■回学生小委員会」議事録

１．日時、場所
日時：１１日（木）　１５：３０－１６：３０
場所：第二会議室
議事録：上原

２．協議事項
（１）■■■■のアルバイト可否について，■■■■

資料７－２－①－１７　生活指導の例（服装調査掲示，服装調査依頼，服装調査集計，違反処分，校内校外巡視計画など）

【頭髪・服装調査掲示文】

１～３年生「服装・頭髪の調査について」

平成１９年２月２日
学生主事・担当主事補

服装・頭髪等の調査を、以下の要領で行います。違反等をしないように、ルールの遵守を心掛けてください。

１．期日：２月５日(月)～２月９日（金）

２．調査内容
（１） シャツ又はブラウスの着用状況（裾出し、胸元を開けだらしない等）
（２） ネクタイ又はリボンの着用状況（着用無し、緩めたルーズな着用等）
（３） ピアス（着用有等）
（４） 染髪状況（染髪著しい、染髪の程度軽い、黒染めで戻す努力をしている等）
（５） その他（変わった髪型等、サンダルの着用等）

３．調査方法
（１） 教科担当の先生が、授業開始時又は授業巡回時に調査する。
（２） 違反等は、指導直後に直しても、そのまま記載して提出する。

４．調査後の処理
（１） 学生主事へ報告された調査表を、学生小委員会で集計する。
（２） 違反内容、違反回数により、保護者同席の主事注意等を行う。

以上

【服装調査依頼メール（指導方法の周知）】

題名　　**服装･頭髪指導について【調査依頼】**
差出人　[redacted]

教員各位

標記の件、教員会議でご説明したとおり、１年生から３年生までの低学年学生を対象に、下記の内容にておこないます。つきましては、大変お手数をおかけしますが、対象クラスについてはすべて、授業中にご調査いただきますようお願い申し上げます。また、担任をされている先生方は自クラスの学生にご周知ください。（前回調査期間終了後染髪してきた学生がおり、即刻処分になりました。この期間だけ校則を遵守すればよいという安易な考えの者も見受けられますので、よろしくご指導のほどお願いします）

実施期間：１１月１４日(火)～１１月２０日（月）
内容：下記参考資料をご参照下さい。
手順：
①添付ファイル「服装頭髪指導」に調査内容を入力します。１～３年生の授業については、必ず一度調査を実施してください。
②ファイルには各クラスのワークシートを作成しております。担当されたクラスごとにご入力をお願いします。
③左上のセルに実施日と授業時限（1～8時限）を入力してください。
④調査の結果を対応学生の欄に入力してください。
⑤下記資料の「調査内容」（１）～（５）に対応して欄を設けてありますので、当てはまる項目について入力をお願いします。
⑥終了後、入力済みのファイルを担当主事補[redacted]までご返信下さい。
⑦その他気になる学生については備考欄をご活用下さい。

提出締切：１１月２２日（水）・・・集計作業がありますので、ご協力をお願いします。

以上

担当主事補 [redacted]

○参考資料（教員会議電子掲示）
平成１８年１１月２日
１～３年生「服装・頭髪の調査について」
学生主事・担当主事補

服装・頭髪等の調査を、以下の要領で行います。違反等をしないように、ルールの遵守を心掛けてください。

１．期日：１１月１４日(火)～１１月２０日（月）
２．調査内容
（１）　シャツ又はブラウスの着用状況（裾出し、胸元を開けだらしない等）
（２）　ネクタイ又はリボンの着用状況（着用無し、緩めたルーズな着用等）
（３）　ピアス（着用有等）
（４）　染髪状況（染髪著しい、染髪の程度軽い、黒染めで戻す努力をしている等）
（５）　その他（変わった髪型等、サンダルの着用等）
３．調査方法
（１）　教科担当の先生が、授業開始時又は授業巡回時に調査する。
（２）　違反等は、指導直後に直しても、そのまま記載して提出する。
４．調査後の処理
（１）　学生主事へ報告された調査表を、学生小委員会で集計する。
（２）　違反内容、違反回数により、保護者同席の主事注意等を行う。

以上

【頭髪・服装調査集計】

調査実施項目		服装		ピアス	頭髪	その他	件数
調査実施内容対応番号		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		裾	ネ				
１１	[redacted]	2	1				3
１１			1	2			3
１１			1		6		7
１３					5		5
２Ｍ		1	3				4
２Ｍ		4	4	1			9
２Ｍ		2	2	3			7
２Ｍ		3	2		3		8
２Ｍ		2	2	2	1		7
２Ｍ		4	4				8
２Ｍ		4	2			1	7
２Ｅ		2	2		2		6
２Ｅ		3	1				4
２Ｓ		2	2		1		5
２Ｃ			3	2	3		8
２Ｃ		1			4		5
２Ｃ		2	4		1	1	8
２Ｃ		3	1	1	1	1	7
２Ｃ		2			1		3
２Ｃ			3				3
２Ｃ			1	1	2		4
２Ｃ				1	4		5
３Ｅ		1			3		4
３Ｓ		2	1				3
３Ｓ		1			2		3
３Ｓ			1	2			3
３Ｓ		1			2		3
３Ｓ				2	3		5
３Ｓ					5	1	6
３Ｓ					4		4
３Ｃ					4		4
３Ｃ		1	1		1		3
３Ｃ		1	2		1		4
３Ｃ		1	1		2		4
３Ｃ		1	3		1		5
３Ｃ		1	1		1		3
３Ｃ		1	2		4		7
３Ｃ		1	2				3
３Ｃ		1	2				3

各クラス調査状況

クラス	調査教員数
１１	9
１２	9
１３	8
１４	7
１Ｍ	3
１Ｅ	2
１Ｓ	1
１Ｃ	3
２Ｍ	11
２Ｅ	9
２Ｓ	10
２Ｃ	9
３Ｍ	13
３Ｅ	9
３Ｓ	8
３Ｃ	9

【頭髪・服装違反者の処分】

題名　　服装頭髪指導結果ご報告
差出人　[redacted]

教員各位

先日は標記の件についてご協力いただきありがとうございました。添付ファイルにて、先生方にご報告いただいた件数と特定の学生についてのコメントを備考欄に記入しております。よろしくご査収の程お願い申し上げます。但し、学生の個人情報が含まれておりますので、くれぐれも情報の取り扱いにお気をつけ下さい。

特に担任の先生におかれましては、件数がついている学生に警告をおこなっていただきますようお願いします。次回も同様に件数が報告された場合、処分をおこなう予定です。また、学生の個人情報が含まれておりますので、くれぐれも情報の機密保持にお気をつけ下さい。

今回の調査では、下記のとおり処分をおこないます。担任の先生方におかれましては、学生に処分内容の通知をお願い申し上げます。処分日時は主事と相談の上、今週中におこなう予定です。

次回は夏休み明けを予定しております。

担当主事補 [redacted]

処分について
1年生　対象学生なし
2年生
２Ｍ：[redacted] 学生主事訓告
[redacted] 学生主事訓告
[redacted] 6/19（月）保護者同席の上、相談
２Ｅ：[redacted] 学生主事訓告（備考欄参照）
3年生
３Ｅ：[redacted] 学生主事注意（備考欄参照）
３Ｓ：[redacted] 学生主事訓告
３Ｃ：[redacted] 学生主事注意
[redacted] 学生主事注意
[redacted] 学生主事訓告

注1）処分内容は服装頭髪関係での処分歴によります。
なし＝主事注意　前回主事注意＝主事訓告
注2）[redacted]は個別に指導します。

―――― このメールにはファイルが添付されています ――――

【巡視日程表】

平成18年度校内外巡視担当表

校外：エリア＝正門南になや付近よりサン球場南側下の神社、サンクス)など

校内：エリア＝自彊会館・図書館横周辺・所・専攻科棟周辺など

巡視及び校門指導日
4/11(火)校外：上原・吉澤
4/18(火)校門指導：全員+新任2名
4/25(火)校内：吉永・太良尾(学生総会中
5/2(火)校外：川田・多川
5/9(火)校内：上原・吉澤
5/16(火)校門指導：全員+新任2名
5/23(火)校外：吉永・太良尾
5/30(火)校内：川田・多川
6/20(火)校外：上原・吉澤
6/27(火)校門指導：全員+新任2名
7/4(火)校内：吉永・太良尾
7/11(火)校外：川田・多川
9/5(火)校門指導：全員+新任2名
9/12(火)校外：上原・吉澤
9/19(火)校内：吉永・太良尾
10/10(火)校外：川田・多川
10/17(火)校門指導：全員+新任2名
10/23(月)校内：上原・吉澤(学生総会中
10/31(火)校外：吉永・太良尾
11/7(火)校内：川田・多川
11/14(火)校門指導：全員+新任2名
11/21(火)校外：上原・吉澤
11/28(火)校内：吉永・太良尾
12/19(火)校外：川田・多川
1/17(水)校門指導：全員+新任2名
1/22～26　校内：上原・吉澤
1/29～2/2　校外：吉永・太良尾
2/5～9　校内：川田・多川
2/14(水)校門指導：全員+新任2名
2/19～23　校外：上原・吉澤

（出展：学生小委員会資料）

資料７－２－①－１８　交通指導の例（通学方法調査依頼，通学違反集計，置き場調査，二輪安全運転講習会など）

【通学方法調査依頼文】

平成１８年１１月　２日

クラス担任　＿＿＿＿＿＿先生

学生主事　　木原
担当主事補　太良尾

平成１８年度 後期通学方法調査(ステッカー，置き場の確認)と指導のお願い

下記の要領で，自転車・バイクのステッカー貼付状況と置き場の確認をお願いします。ご多忙とは存じますが，ご協力お願いします。

記

日時：平成１８年１１月１４日(火)　８：３０～９：００
※ 雨天の場合や授業のある場合には，１７日(金)までに適宜調査してください。

場所：クラスの自転車置き場（１年生担任）
クラスのバイク置き場（２・３・４・５年生担任）
※ ２年生以上については，空き時間を利用して自転車置き場での確認もお願いします。

提出：平成１８年１１月２０日(月)までに学生係へ（この用紙と名簿を一緒に提出）

要領：
①担当場所にある車両のステッカーの貼付状況を確認して，名簿の「ステッカー」欄に○又は×印を記入する

【二輪車安全運転講習会掲示文】

(案2)

(学生用)

平成１８年９月

二輪車安全運転講習会について

この度，２年生で「二輪免許取得者･二輪通学生」及び「今後二輪免許の取得を希望する者」を対象に，二輪車の特性・操作技能について理解を深め，通学その他の安全に資することを目的に下記のとおり講習会を実施しますので，必ず参加してください。
なお，雨天でも実施します。

記

１　日　　時　　平成１８年１０月３日（火）　１４時００分 ～ １６時００分
（１４時に集合。時間厳守）

２　場　　所　　ハッピードライビングスクール
高松市成合町９３１－１（裏面位置図参照）

３　指 導 者　　高松南警察署交通課指導係官
ハッピードライビングスクール二輪教習指導員

４　受 講 者　　２・３年生でバイク通学が許可される者と，講習を希望する者。
また，バイクを所有しない場合は実技講習を見学する。

５　日　　程　　14:00～ 14:15　学生集合，３班に編成
14:15～ 14:20　開始あいさつ
（本校学生副主事・高松南警察署交通課指導係官）
14:20～ 14:25　指導方法説明
（ハッピードライビングスクール校長）
14:25～ 15:35　二輪車技能体験講習
（高松南警察署交通課指導係官・白バイ1台）
（ハッピードライビングスクール二輪教習指導員）
15:35～ 16:00　総　括

（出典：学生小委員会資料）

観点７－２－②：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば，留学生，障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生は入寮が原則のため，寮務委員会が生活面を支援している。留学生に，寮生チューターを１人ずつ配置し，加えて学級担任も相談・助言に応じる（資料７－２－②－１，２）。また，国際交流委員会が留学生を支援している（資料７－２－②－３，４）。寮への留学生受入数は最大１４名で，現状で十分な数である。

留学生については、他の寮生と同じ学生寮食堂を利用するが，宗教や文化の違いで必要な場合のため専用の補食室２室を設置している。加えて留学生専用のシャワー室，トイレ，パソコンおよび周辺機器を備えた日本語学習室を設置している（資料７－２－②－５）。

障害のある学生については、通路のスロープ整備，身体障害者用のエレベータ設置，手すりの整備，寮室の一部を身体障害者用の部屋に改修するなど，学生寮を含めた学校全体のバリアフリー化を進めてきた。実際，電動車いすを使用する学生が入学し寮で生活している（資料７－２－②－６，７）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

留学生専用のシャワー室・補食室・学習室が寮に設置され，高専の学生寮として提供すべき平均的水準を十分満たしている。障害のある学生に対しては，学校全体のバリアフリー化が進められ，寮には身障者用の部屋を設けている。

資料７－２－②－１　留学生チューター制度

高松工業高等専門学校外国人留学生チューター制度実施要項

昭和63年３月10日制定

1　高松工業高等専門学校外国人留学生特例規程第６条のチューターについては，この要項の定めるところによる。

2　チューターは第３学年及び第４学年の外国人留学生について、当該留学生と同一学科の学生の中から，指導教員（チューターになる学生が寮生の場合は，指導教員及び寮務主事）の推薦に基づき校長が委嘱する。

3　チューターは，その指導に関し，必要に応じ指導教員（チューターになる学生が寮生の場合は，指導教員及び寮務主事）の指導を受けるとともに，毎月チューターの指導報告書（別紙様式）を指導教員を経て校長に提出しなければならない。

4　チューターには，予算の範囲内において，四半期ごとに謝金を支給するものとする。

5　この要項に定めるもののほか，チューター制度の運用に必要な事項は，その都度

（出典：学則）

資料７－２－②－２　指導教員・チューター配置図

平成１８年度　留学生 指導教員・寮生一覧

クラス	氏　名	指導教員（学級担任）	指導学生（寮生）
３Ｅ	[redacted]	荻原	[redacted]
３Ｃ		土居	
４Ｅ		樋口	
４Ｃ		向谷	
５Ｍ		吉永	なし
５Ｍ		吉永	なし
５Ｅ		鹿間	なし

（出典：学内資料）

資料７－２－②－３　高松高専国際交流委員会規程

高松工業高等専門学校国際交流委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項の規定に基づき、高松工業高等専門学校国際交流委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は、国際交流に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　海外の教育機関との国際交流に関すること。

二　学生の海外派遣に関すること。

三　留学生の受入・支援に関すること。

四　その他国際交流に関する必要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　各主事

二　校長補佐（国際交流・地域連携担当）

三　専攻科長

（出典：学則）

資料７－２－②－４　留学生を囲む集い

◆ 留学生を囲む集い

恒例の『留学生を囲む集い』が本年度も６月13日(火) 16時から本校で行われました。この会は7名の本校留学生と地域の交流団体の方々との交流を深めることを目的とした交流会で，毎年実施されているものです。

当日は，県内６つの交流団体の事業紹介，本校留学生担当教員による留学生の本校での状況，留学生の作文紹介などについての情報交換を行い，留学生との交流において有意義な時間を過ごすことができました。



(高松市国分寺町) を会場に３年Ｃ組の宿泊研修を実施しました。香川県青年センターでは，軽スポーツ，教員・専攻科生とのグループ懇談，２名の卒業生との対話，バーベキュー等の行事を実施し，深夜までの友人との語らいなどを通して，クラスの仲間同士はもちろん学校生活では得られない教員との親睦をはかることができました。本オリエンテーションが今後の学校生活の改善，勉強に対する取組みや，将来の進路選択などに大いに役立つことを期待したいと思います。



（出典：高専便り）

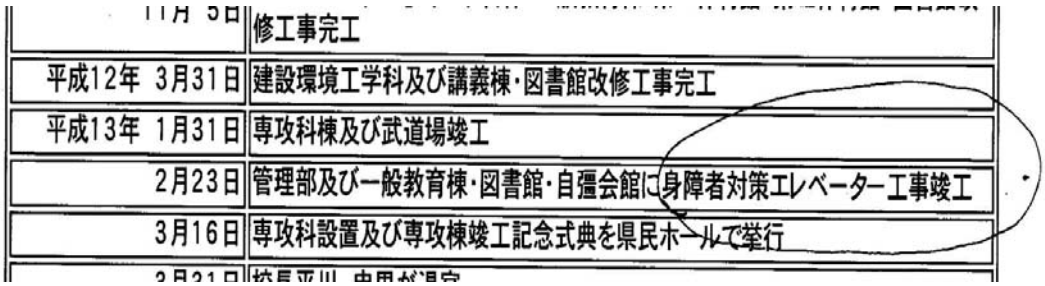
資料７－２－②－５　留学生への支援環境

留学生への支援環境

施　設	備　品
補食談話室	電磁調理器・オーブントースター・電子レンジ・冷凍冷蔵庫・冷蔵庫・食卓・椅子・食器戸棚
日本語演習室	パソコン・プリンター・保管庫
シュワー室	2室

（出典：寮務委員会資料）

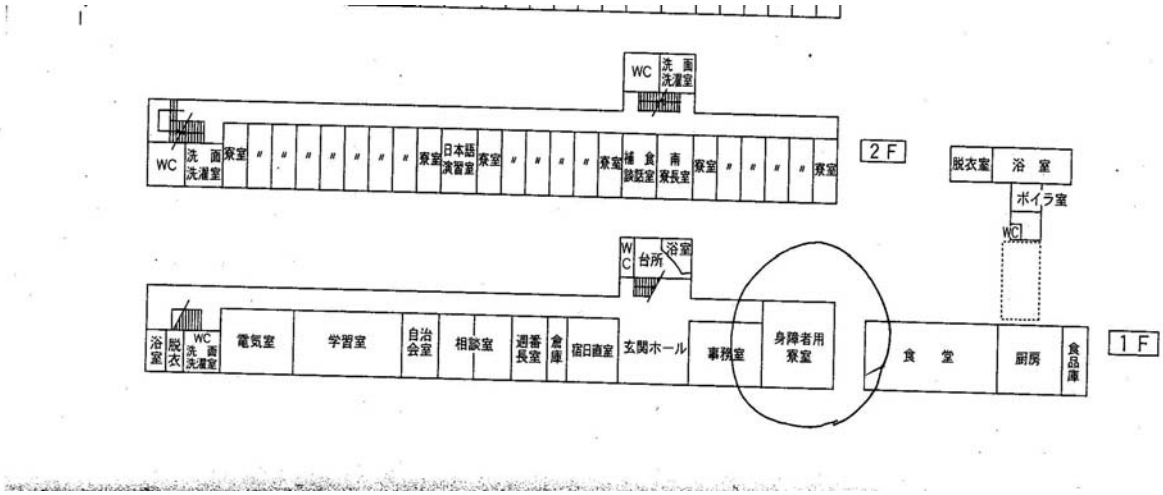
資料７－２－②－６　校内バリアフリー化の例



11月 5日	修工事完工
平成12年 3月31日	建設環境工学科及び講義棟・図書館改修工事完工
平成13年 1月31日	専攻科棟及び武道場竣工
2月23日	管理部及び一般教育棟・図書館・自彊会館に身障者対策エレベーター工事竣工
3月16日	専攻科設置及び専攻棟竣工記念式典を県民ホールで挙行
3月21日	校長平川 由男が退官

（出典：高松高専ＨＰ）

資料７－２－②－７　身障者用寮室



（出典：学生便覧）

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

寮務委員会を組織し，寮務委員会をほぼ毎月開催して寮を管理運営している（資料７－２－③－１，２）。事務員２名を寮に配置し，常時の事務管理，寮生の世話役，保護者との連絡役となっている。

宿直・日直とも教員 1 名の体制で，加えて西寮（女子寮）に毎日１９時から２２時まで寄宿舎指導員を配置している（資料７－２－③－３，４）。

寮の施設概要を示す（資料７－２－③－５）。平成 15 年から全居室にエアコンを設置した。

寮生による寮自治会が組織され（資料７－２－③－６），寮務関係教職員指導のもと，寮長など役員が中心となり，日課や年間行事，寮生大会（年３回）役員会（月１回）室長会などを自治的に実施している（資料７－２－③－７，８）。

1・2 年生の学習習慣の定着を目的とした学習会を，自治会主催で週一回，加えて 1 年生に対しては寮務主事補の監督で週二回行っている（資料７－２－③－９）。平成 15 年度から保護者との懇談会を年に二度開催し，加えて随時に主事との個別懇談も行っている（資料７－２－③－１０）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各個室にエアコンが設置され，快適な寮生活が送られている。近年の寮生は落ち着いた雰囲気で生活しており，日課や年間行事も自治的に運営でき，寮が集団生活の場として機能している。また，寮務教員および自治会指導による学習会を実施して勉強の習慣を身に付けさせ，学習室やパソコン室が常時利用できるなど，本人の自覚で十分に学習できる環境は整っている。

資料７－２－③－１　寮務委員会組織（役割分担表）

平成18年4月6日現在

平成18年度 学寮担当教員役割分担表(案)

	寮生の構成	関係寮生数	内容	担当教員
寮生大会	全寮生	141	自治会最高決議機関 (定例会年２回，臨時会)	学寮担当全教員
幹事会	寮長(1)・副寮長(3)・会計(2)・書記(2) 週番長(2)・学習室長(2)・委員長(12) HP(1)・室長(14)	39	寮生大会に次ぐ決議機関 (必要に応じて随時開催)	坂本
役員会	役員(13)・委員長(12)	25	自治会最高執行機関 (月に１回定例的に開催)	坂本，田口
室長連絡会	寮長(1)・副寮長(3)・週番長(2) 室長(14)・(担当委員長)	20	役員会における決定事項の周知会 (役員会直後に開催)	坂本，田口
指導寮生会	室長(14)・副室長(14)	28	１，２年生への指導助言ならびに懇談	坂本
学習会	寮長(1)・副寮長(3)・学習室長(2) 1年生(33)・2年生(31)	70	１，２年生の学習会	学寮担当全教員
HP編集	HP編集長(1)	1	自治会規約ｐ3参照	逸見
西寮(女子寮生)会	西寮長・女子寮生	18	女子寮生への指導助言ならびに懇談会 (平成15年度より新規)	坂本，田口
風紀委員会	寮長(1)・副寮長(3)・風紀委員長(2) 風紀委員(14)	20	自治会規約ｐ4参照	漆原
美化委員会	寮長(1)・副寮長(3)・美化委員長(2) 美化委員(14)	20	自治会規約ｐ4参照	田口
防火委員会	寮長(1)・副寮長(3)・防火委員長(2) 防火委員(14)	20	自治会規約ｐ4参照	中治
娯楽委員会	寮長(1)・副寮長(3)・娯楽委員長(2) 娯楽委員(14)	20	自治会規約ｐ4参照	福井
食事委員会	寮長(1)・副寮長(3)・食事委員長(2) 食事委員(14)	20	自治会規約ｐ4参照	逸見
文集委員会	寮長(1)・副寮長(3)・文集委員長(2) 文集委員(12)	18	自治会規約ｐ4参照	坂本

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－２　寮務委員会議事録の例

第４回寮務委員会議事録

１．日時　　平成18年７月４日（火）　１５：４０～１７：１５
２．場所　　南寮学習室
３．出席者　欠席者　なし
４．議題：

（１）　西寮門限時間について
・　保護者アンケート結果では改定賛成が約２／３であったが、改定の理由として毎日の門限を変更するに至らないもの（テスト期間中のみ希望や週末のみ希望）や、理由が記載されていないものがあり、積極的に改定する理由はないとして基本的に改定はしない事となった。
・　ただし、例外として、進路に関する特別な理由がある場合で、なおかつ５年生に限っては許可制にしてそのつど寮務委員会で審議をすることとなった。
５Ｓ[redacted]さんは就職の条件に英会話が必須であり現在NOVAに通っているが、門限があるため受講できる授業に制約がでてしまう、との理由から門限の延長希望が出ていた。
・　許可するにあたり、卒研は特別な理由にあたらない事や、申請の内容に虚偽があった場合は則退寮させるという議論があった。

（２）　高学年の留年即退寮について
・　『高学年は留年をしたら則退寮』という現在のルールに関して、退寮後勉学と生活の両立が難しく、身体的悪影響や進路変更を余儀なくされる場合があるとして規則の緩和の提案があった。
・　この事に関して、留年が決まった段階で、教育相談等含めて寮務委員会で審議する事となった。

（３）　テニス部の寮テニスコートの使用について
・　寮テニスコートの所有を確認し、寮のものであれば、異性立ち入り禁止区域の通行禁など規則遵守のうえで貸し出すこととした。

（４）　寮生スポーツ大会の日程変更について
１０／７（土）→１０／１４（土）
１／２０（土）→１／２７（土）　　に変更となった。

（５）　赤札・白札のチェックリストについて
・　教員より、宿直の際に点呼簿と札の並び順が違うためチェックに手間がかかるとの意見があり、玄関札と同じ並び順のチェックリストを作成することとした。

（６）　その他
・　主事注意
[redacted]さんの欠課時数が64時間を超えた為、主事注意を行った。前年度からの引き継ぎで、特別に理由がなければ退寮という事になっており、保護者面談まで保留している。

・　高橋先生、春本先生の宿直交代の件
７／１０（月）　高橋洋一先生　→　田口先生
９／１３（水）　春本先生　→　漆原先生　　に宿直交替となった。

・　職員の連絡先
総務で作成した「緊急連絡先」について、緊急連絡先の電話番号が直接本人に繋がるかどうかを確認のうえ、宿直室に置いておく事となった。

・　朝練の場合の朝の点呼について
朝練を行っている学生は点呼の為に練習を切り上げる必要があるが、部活の為の点呼不在を認めると他の場合との線引きが難しく、現状通り点呼には戻るように指導する事とした。

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－３　宿日直の手引き

[redacted]

平成１８年　４月

宿日直の手引き

１．学寮内における職務について

① 学寮内の秩序維持及び監視に関すること
　タイムスケジュールの業務内容に記載している事項です。
② 緊急時の対応に関すること　　別紙「緊急時の対応」参照
③ 学寮内の生活指導、学習指導に関すること
　寮生が雑談、悩み事、質問に宿日直室に来ることがありますので相談室等で対応して下さい。
④ 学寮内の違反者の処置に関することは、宿日直日誌の違反欄に記入して下さい。

＜留意点＞

・西寮には、寄宿舎指導員が居ますので、緊急時など協力して下さい。　　勤務時間（19:00～22:00）
・不明な点がありましたら、あらかじめ下記の学生に頼んでおりますので遠慮なくお尋ね下さい。
　南寮長（南寮２階補食談話室の東）、北寮長（北寮１階の東）、週番長（宿日直室の西）
　西寮長、週番長
・宿日直室を離れる場合は、行先表示板で行先を表示して、備え付けの宿日直用の携帯電話をもって行動して下さい。　**（携帯電話番号：　　３ページに使用方法記載）**
・外部からの電話の応対・取り次ぎをして下さい。

２．タイムスケジュール

（宿　直）　１７：１５～８：３０

時　刻	寮生日課	業務内容	参照項目
17:30～20:00	夕　食	○終了時刻を守っているかの確認	
16:30～22:20	入　浴（西寮は22:00まで）		
20:00～22:00	静粛時間（自習時間）		
20:30	門　限（西寮）		
21:00～	夜の点呼（西寮）	○夜の点呼（西寮）	3.(3) 参照
21:00～22:00	自室以外の出入り禁止	○夜の巡視	3.(1) 参照
22:00	門　限（南・北寮）	○南寮玄関の施錠 風呂水抜き等（寄宿舎指導員）	3.(2) 参照
22:00～	週番引継ぎ会（木曜のみ）	※週番引継ぎ会（木曜のみ）	3.(6) 参照
22:30～	夜の点呼（南・北寮）	○夜の点呼（南・北寮）	3.(3) 参照
23:00	消　灯（北寮と西寮の改修部分は自動消灯）	○無届外泊者の把握,名札の確認 ○男子風呂場入口の施錠	3.(4) 参照
7:30	起　床		
7:30～ 7:40	清　掃		
7:40	朝の点呼（1,2学年）	○朝の点呼*	3.(5) 参照
7:40～ 7:55	朝の体操（1学年）	○朝の体操*	3.(5) 参照
7:45～ 8:30	朝　食		

注意：朝の点呼・体操は、試験発表の翌日から試験終了日まで及び学校休業日は休みとする。

（日　直）

8:30～17:15	適宜巡視を行う。

－1－

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－４　寄宿舎指導員の業務内容

1．事務補佐員（寄宿舎指導員）の業務内容

(1) 寮生の相談相手として対応　（１９時～２２時）

(2) 寮生の緊急時（病気、事故、トラブル等）の対応　（１９時～２２時）

(3) 寮での生活指導全般（マナー、共用室及び自室の清掃・整理整頓の指導（１９時～２２時））

(4) 寮内巡視を行い、寮諸規則の遵守状況の確認　（１９時～２２時）

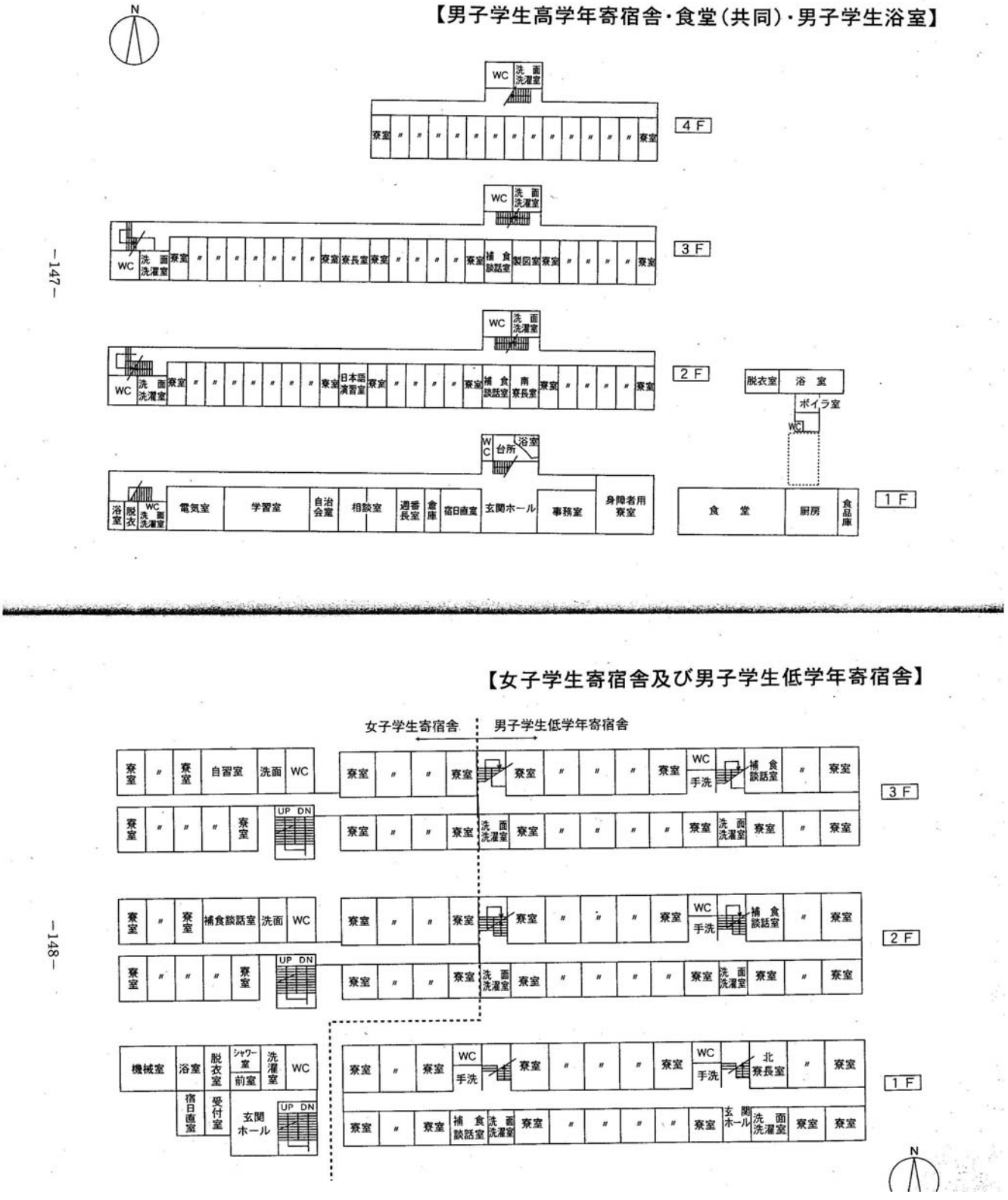
(5) 夜の点呼時に、当直教員とともに立会う。　（２１時～２１時１５分）

(6) 設備管理補佐（設備異常時の連絡等）　（１９時～２２時）

(7) 指導寮生の育成補佐　（１９時～２２時）

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－５　寮施設一覧



（出典：学生便覧）

資料７－２－③－６　寮自治会規約

[redacted]

高松工業高等専門学校清雲寮自治会規約

平成４年５月１日制定

（自治会規約の目的）
第１条　本規約は，「高松工業高等専門学校清雲寮自治会則」及び「寮生活の手引き」に基づき，寮生の互助の精神を養い，寮生自らの力で健全な寮生活を育成していくことを目的として，定めるものである。

（自習，消灯）
第２条　自習時間（20：00～22：00），及び消灯（23：00）後は特に静粛にする。

（清掃活動）
第３条　毎月１回大掃除をする。（原則として，木曜日の22：00～22：30）
2　共用室の清掃時間は，下記のとおり定める。また，当番は別に定める。

補食談話室 １Ｆロビー 洗面・洗濯室	毎週木曜日（22：00～22：30）
学習室･製図室	大掃除のときに清掃する。
風呂場	･男子寮については点呼後，西寮については２２時２０分から毎日行う。 ･その週の週番の属する室員を当番とし，当番は１週間（木曜日から翌週水曜日）続けて行う。 ･特に毎週月・木曜日には浴槽の湯を抜き，浴槽内も清掃する。
廊　下	自室前を各自の責任において常にきれいにしておくこと。

3　寮建物の周辺についても，自治会の指導により随時実施する。
4　ゴミの収集，分別，ゴミ出しを自治会の指示により行う。

（朝の体操）
第４条　「寮生活の手引き」で規定している朝の体操は，自治会の指導により行う。
2　体操の指導者は，週番長及び週番
3　１・２年生の点呼後，１年生は全員体操に参加する。
　時間　：　7：40～
　場所　：　南寮玄関前に集合して点呼，その場で体操のできる間隔にひらき体操を行う。

（学習会）
第５条　自治会の責任において，１・２年生の学習会を開く。
2　21：00～22：00　毎週，各学年１回開く。
3　学習会では私語を慎むとともに，マンガ，小説，雑誌等の読書は禁ずる。
4　理由のない欠席は認めない。

（テレビ及び冷蔵庫の使用）
第６条　テレビ及び冷蔵庫の持ち込みは予め寮長及び寮務主事の許可を得ること。
2　１年生のテレビ持ち込みは認めない。
3　２年生のテレビ持ち込みは，学習状況（成績を含む）を考慮して判断する。
4　テレビが許可されても，３年生以下は消灯後テレビを視聴しない。
5　テレビゲームの使用は許可しない。
6　冷蔵庫の電気料は自治会が責任を持って支払う。
7　規約が守られない場合は，寮長の判断により，持ち込みを全面的に禁止する。

（電気器具使用）
第７条　「寮生活の手引き」の電気器具に関する規定は，自治会の責任において遵守する。
2　特にヒーター類，ホームコタツの使用は厳禁する。
3　節電，火災防止に努める。

（罰則）
第８条　第１条の目的を始めとする前記各条に違反する寮生は，寮長が寮務主事の承認を得て罰する。

2　寮長の指示する罰に服しない者は，寮務主事の処罰に委ねる。
3　寮長の指示する罰の内容は清掃作業・奉仕活動など社会的に有益な活動とする。
4　寮生大会及び寮の行事に理由なく参加しなかったり，再三にわたって寮長の指示に従わない寮生に対しては，寮長より停寮等の処置を寮務主事に要望する。

（規約の改正）
第９条　本規約は，寮生大会において全寮生の3／4以上の賛成があり，かつ校長の許可が得られる場合は改正することができる。

附　則
この自治会規約は，平成４年５月１日より実施する。

略

附　則
この自治会規約は，平成18年４月１日より実施する。

[redacted]

役員等の具体的仕事内容	
役　職　名	仕　　事　　内　　容
寮　　長	・寮生大会，役員会（毎月１回，原則木曜日），室長連絡会の開催・進行 ・役員，委員，室長等の掌握と一般寮生に対する指導 ・ゴミ分別の監督 ・その他，寮に関する問題への対処
副　寮　長 （南寮長）	・上級生の点呼，名札の確認 ・南寮（玄関，補食談話室，製図室，廊下等）の美化・風紀に関する監督 ・ゴミ分別の監督 ・宿日直教員との連絡・調整 ・その他，南寮に関する問題への対処 ・寮長の補佐
副　寮　長 （北寮長）	・北寮（玄関，補食談話室，学習室，廊下等）の美化・風紀に関する監督 ・ゴミ分別の監督 ・静粛時間の監督 ・その他，北寮に関する問題への対処 ・寮長の補佐
副　寮　長 （西寮長）	・西寮の自治を統括 ・西寮（玄関，補食談話室，自習室，洗面・洗濯室，廊下等）の美化・風紀に関する監督 ・ゴミ分別の監督 ・静粛時間の監督 ・宿日直教員との連絡・調整 ・その他，西寮に関する問題への対処 ・寮長の補佐
書　　記	・議事録の作成 ・会議資料の作成等
会　　計	・寮における全ての金銭徴収業務等
週　番　長	・点呼（朝・晩）の放送 ・ゴミ分別の監督 ・朝の体操，ゴミ出しの指示 ・宿日直教員への協力 ・風呂掃除当番の確認 ・名札の確認 ・週番の引き継ぎ
学習室長	・学習会の立案，学習指導等
ＨＰ編集長	・寮のホームページに必要な資料収集

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－７　寮生活の手引き

[redacted]

平成１８年度

寮生活の手引き

１	寮生活の目的 -- 1	１４	郵便物・荷物受取り等 --- 5
２	日課表 ---------- 1	１５	自転車・バイクなどの使用 6
３	日常生活 -------- 1	１６	飲酒・喫煙の禁止 -------- 7
４	外　泊 -------- 2	１７	その他の禁止事項 ------- 7
５	食　事 ---------- 2	１８	生活区域 ---------- 7
６	欠　食 ---------- 3	１９	入寮・退寮・休寮・復寮 -- 7
７	施設・設備の使用 -- 3	２０	閉寮期間中の居残り ----- 8
８	清掃・ゴミ処理 --- 4	２１	長期休業中の帰省 -------- 8
９	防　災 ---------- 4	２２	その他 ---------- 8
１０	防　犯 ---------- 4	２３	諸手続一覧 ---------- 9
１１	電気器具の使用 ---- 5	２４	諸納付金一覧 ---------- 9
１２	製図室・学習室の使用 5		主な寮の行事 ---------- 10
１３	補食談話室の使用 -- 5		

〒761－8058
高松市勅使町３５５
高松工業高等専門学校　清雲寮

寮事務室・宿日直室　　電話 087－869－3835
（寮宿日直緊急用）
警備員室（閉寮中時間外）電話 087－869－3814

高松工業高等専門学校　清雲寮

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－８　寮行事予定表（全体，月別）

主 な 寮 の 行 事

4月　上旬	開寮　入寮式
中旬	寮生大会（定期），避難訓練
下旬	新入生歓迎スポーツ大会
〃	寮祭・学寮保護者会定期総会
6月　中旬	給食懇談会
7月　上旬	ゆかた着付教室（西寮のみ）
中旬	保護者懇談会（西寮）
〃	閉寮，居残り（７月末まで）
8月　上旬	居残り（全国高専体育大会まで）
下旬	居残り（８月２１日～８月末まで）
８月３１日	開寮　（授業開始日の前日）
9月　上旬	草刈り，焼肉大会
〃	後期入寮希望者の説明会・審査
下旬	自転車・バイク持込み許可願締切
１０月　上旬	部屋替え　　役員・指導寮生の選出
中旬	寮生大会（定期），避難訓練
下旬	秋のスポーツ大会
１２月　下旬	閉寮，居残り（５年生のみ）
1月　上旬	開寮
〃	新年度入寮希望者の受付締切（在校生）
中旬	寮生大会（定期）・役員引継会・役員表彰式
〃	新年度入寮希望者の説明会・審査（在校生）
下旬	予餞会（餅つき）・新春スポーツ大会
〃	在寮願（１～４年生）締切（在寮審査）
2月　上旬	指導寮生引継会
〃	５年生退寮届提出
中旬	草刈り
下旬	自転車，バイク持込み許可願締切
3月　上旬	部屋替え
〃	新入生入寮希望者の説明会・審査
中旬	閉寮，居残り（３月下旬まで）

－10－

4月　学習会(21:00～22:00)				5月　学習会(21:00～22:00)				6月　学習会(21:00～22:00)			
曜	日	主な行事	西自治	曜	日	主な行事	西自治	曜	日	主な行事	西自治
土	1	完全閉寮						木	1	学習会	休み
日	2	〃						金	2		
月	3	〃		月	1		休み	土	3		
火	4	〃		火	2			日	4	学習会	休み
水	5	入学式10時・開寮13時・入寮式15時		水	3	憲法記念日		月	5		休み
木	6	進級・始業式・規則説明会1年		木	4	国民の休日	休み	火	6	前期中間試験	
金	7	授業開始・規則説明会2年		金	5	こどもの日		水	7	〃	
土	8			土	6			木	8	〃	休み
日	9			日	7	学習会	1年	金	9	〃	
月	10	規則説明会3年		月	8		2年	土	10		
火	11	規則説明会4年		火	9			日	11		休み
水	12	クラブ体験開始・規則説明会5年		水	10			月	12	〃	休み
木	13	避難訓練・寮生大会		木	11	体育祭予行短縮・学習会	1年	火	13	〃 留学生の会	
金	14	新入寮生歓迎ｽﾎﾟｰﾂ大会準備		金	12	体育祭		水	14		
土	15	新入寮生歓迎スポーツ大会		土	13			木	15	給食懇談会・学習会	1年
日	16	学習会	1年	日	14	学習会	1年	金	16		
月	17		2年	月	15	オープン授業20日まで	2年	土	17		
火	18			火	16	〃		日	18	学習会	1年
水	19			水	17	〃		月	19		2年
木	20	開校記念日・自転車バイク点検・学習会	1年	木	18	〃　・　学習会	1年	火	20		
金	21			金	19	〃		水	21		
土	22			土	20	〃		木	22	学習会	1年
日	23	学習会	1年	日	21		休み	金	23		
月	24		2年	月	22	振替休日	2年	土	24		
火	25	学生総会　短縮		火	23			日	25	学習会	1年
水	26			水	24			月	26		2年
木	27	学習会	1年	木	25	学習会	1年	火	27		
金	28	寮祭準備		金	26	試験発表		水	28		
土	29	みどりの日・寮祭・保護者会総会		土	27			木	29	学習会・居残り願締切	1年
日	30	学習会	1年	日	28	学習会	休み	金	30		
			21:00 ～ 22:00	月	29		休み				
				火	30						
				水	31						

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－９　学習会の記録用紙（記載削除）

学習会出席簿

		月／日	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
		監督者												
1	1	[redacted]												
1	1													
1	1													
1	1													
1	1													
1	1													
1	2													
1	2													
1	2													
1	2													
1	2													
1	2													
1	2													
1	2													

（出典：寮務委員会資料）

資料７－２－③－１０　寮保護者会会則

高松工業高等専門学校学寮保護者会会則

平成１７年４月１日制定

（名　称）
第１条　本会は、高松工業高等専門学校学寮保護者会と称する。
（目的及び事業）
第２条　本会は、高松工業高等専門学校学寮の管理運営に必要な協力をすることを目的とする。
第３条　本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
(1) 学寮の運営に必要な助成
(2) 施設設備の拡充整備の助成
(3) 会員相互の親睦
(4) その他目的達成に必要な事項
第４条　本会の事務所は、高松工業高等専門学校学生課内に置く。
（会　員）
第５条　本会は、高松工業高等専門学校学寮に入寮した学生の保護者をもって会員とする。
（役　員）
第６条　本会に、次の役員を置く。
(1) 会　長　　１名
(2) 副会長　　１名
(3) 理　事　　若干名
(4) 監　事　　１名
第７条　役員の任務は、次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し会務を統括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 理事は、本会の運営に関する事項を審議する。
(4) 監事は、会計を監査する。
第８条　会長、副会長及び監事は、総会において会員の中から選出する。
２　理事は、会員の中から会長が委嘱する。
第９条　役員の任期は、１年とする。ただし、再選を妨げない。
（会　議）
第10条　定期総会は、毎年１回開催する。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時総会を開催することができる。
２　総会は、会務報告、会則の改廃、決算報告、予算審議、役員選出等の重要事項を審議決定する。
３　総会における議決は、出席会員の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長がこれを決する。

第11条　役員会は、会長が必要と認めたときこれを開催する。
２　役員会は、第６条の役員によって構成し、総会に関する事項以外について審議する。この場合は、総会において報告しなければならない。
（会　計）
第12条　本会の経費は、入寮費、運営費、寄付金及びその他の収入金をもって充てる。
２　入寮費は、３，０００円とし、入寮の際に納付するものとする。
３　運営費は、光熱水費及び雑費として月額３，６００円、冷暖房費として半期７，５００円を前期分（８月分は除く。）は４月、後期分は１０月に納付するものとする。
ただし、冷暖房費は、年度末に個人ごとに精算するものとする。
運営費は、月の中途で入寮する場合はその月から納付し、その期分を納付した者が、その期の中途に退寮する場合は、その月の翌月以降の運営費について返付する。
第13条　本会の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月３１日までとする。
第14条　本会に会計幹事を置き、会長が委嘱する。
２　会計幹事は、庶務及び会計に関する事務を掌理する。
（その他）
第15条　この会則に定めるもののほか、学寮の管理運営の助成に関し必要な事項は、会長が定めることができる。

附　則
この会則は、平成１７年４月１日から施行する。

－１－

（出典：寮務委員会資料）

観点７－２－④：　就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

５年生には担任，専攻科にも専攻科主任（担任役）を配置し就職・進学の指導を行い（資料７－２－④－１，２），卒研指導教員も助言・指導を行って学科全体が進路指導する体制となっている（資料７－２－④－３）。学生支援係に担当事務員を配置し，就職・進学に関する情報収集などを行っている。また，学内の進学・就職に関する資料を各学科にある資料室でパソコンにより閲覧できる（資料７－２－④－４，５）。５年生に限らず，本科および専攻科を通して以下のような進路指導を行っている。

・新入生オリエンテーションでの進路指導の実施（資料７－２－④－６）
・１～３年生の科目「キャリア概論」における進路指導の実施（資料７－２－④－７）
・　２年団保護者懇談会での進路状況の保護者への説明（資料７－２－④－８）
・　4 年生 12 月，５年生 4 月における進路説明会，及び各科ガイダンス（資料７－２－④－９）
・　保護者懇談会を開催しての進路説明（資料７－２－④－１０，１１）
・　面接実技研修（４年，５年，専攻科）（資料７－２－④－１２，１３）
・　進学模擬試験（英語・数学）の実施（４年以下）（資料７－２－④－１４）
・　各科の模擬面接・模擬試験（建設環境工学科）（資料７－２－④－１５）
・　就職担当者の配置（資料７－２－④－１６）
・　企業訪問・企業来校者との面談（資料７－２－④－１７，１８）
・　企業インターンシップ（資料７－２－④－１９）
・　企業合同説明会の実施。（資料７－２－④－２０）

大学3年次編入学試験のための学習指導については，希望学生に対する個別指導を随時行っている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

「キャリア概論」，随時の学科オリエンテーションなど低学年のうちから進路指導を進めている。5年生には担任と卒研担当教員が，専攻科生には専攻科主任や特別研究担当教員が，進路指導を行っており，全学科的な取組をしている。

資料７－２－④－１　担任，主任一覧

平成１８年度　校　務　分　担　表

高松工業高等専門学校
平成１８年１１月１日現在

副校長・教務主事　鎌田　弘　　教務副主事　小島　隆史　　教務主事補　加藤清考・宇野光範・重田和弘・徳永秀和・向谷光彦
校長補佐（学生担当）・学生主事　木原　茂文　　学生副主事　太良尾浩生・高橋　宏明　　学生主事補　上原成功・吉澤恒星・吉永慎一・川田和男・多川　正
校長補佐（学寮担当）・寮務主事　坂本　具償　　寮務副主事　田口　淳　　寮務主事補　福井智史・澁原史朗・逸見知弘・渡辺貴史
校長補佐（国際交流・地域連携担当）・研究・地域連携推進室長　土居　正信
校長補佐（将来計画担当）　吹田　義一
専攻科長　山内　庄司　　（専攻主任）機械電気システム工学専攻　本田　道隆　　建設工学専攻　竹下　治之
学科長　（一般）権藤　典明　　（機械）岡田　憲司　　（電気情報）原圃　正博　　（制御情報）平岡　延章　　（建設環境）長友　克寛
図書館長　長谷川　隆
コンピュータサイエンスセンター長　鹿間　共一　　室長（一般管理室）○吉永慎一・古川満信・吉成知己　（ネットワーク管理室）○重田和弘・十河誠・古川満信・吉成知己　（ISE研究室）○重田和弘
高機能化技術教育研究センター長　土居　正信　　研究開発室長（新材料）○鹿間　共一　（材料科学技術）○福井　智史　（新エネルギー技術）○吹田　義一　（環境防災）○多川　正　（メカトロニクス）○川田　和男　（教育技術）○重田　和弘
教育相談室長　出渕　幹郎　　教育相談室員　長谷川　隆・田口　淳・有道　祐子・高橋　洋一・村上　幸一・徳永　秀和・渡辺　貴史
総務・広報室長　権藤　典明
一般科目教科主任　（国語）長谷川　隆　（社会）権藤　典明　（数学）高橋　宏明　（理科）岡野　寛　（体育）中瀬已紀生　（外国語）有道　祐子

学年主任及び学級担任

学年	M（機械）	E（電気情報）	S（制御情報）	C（建設環境）	学年主任
1	1　有道　祐子	2　上原　成功	3　市川　緑	4　中瀬已紀生	中瀬已紀生
2	岡野　寛	奥田　純	加藤　清考	中川　征樹	岡野　寛
3	福井　智史	荻原　昭文	川田　和男	土居　正信	川田　和男
4	高橋　義一	樋口　弘志	逸見　知弘	向谷　光彦	４・５年は置かない
5	吉永　慎一	鹿間　共一	十河　宏行	太田　貞次	

各種委員会委員

委員会	主事・主事補等	一般	機械	電気情報	制御情報	建設環境	事務部

（出典：校務分担表）

資料７－２－④－２　担任業務規定

目　　次

学級担任の心得・心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
学生指導の心得・心構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
学年始めのＨＲでの業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
学級担任の主な業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
1　学年始めの業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2　各試験前後の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
3　学年末の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
4　日常の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5　その他の業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
大学受験・再入学等について ・・・・・・・・・・・・・・・14
専攻科進学，技術科学大等編入学推薦基準 ・・・・・・・・・15
進級・卒業認定基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
成績会議について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
成績評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
成績不振者等への対応及びＨＲ教室の管理と美化について ・・19
学生指導要録記載要領について ・・・・・・・・・・・・・・20
平成１６年度行事予定（学級担任関係）

（出典：担任のしおり）

資料７－２－④－３　卒研配属指導教員一覧

平成17年度特別研究テーマ一覧

◆機械電気システム工学専攻

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
電磁調理器周辺の磁界測定	安藤 康宏	太良尾浩生
アモルファス合金製法・特性データベースの構築とその有効利用について	飯間 康司	岡田 憲司
BOAを用いた時間割作成問題に関する研究	片山 和典	徳永 秀和
宇宙GHTA溶接法によるT型隅肉溶接継手の製作	亀井 美佐	吹田 義一
高分子分散型液晶の偏光特性を利用したホログラフィック情報記録素子の開発	亀田 圭以	荻原 昭文
平板背後のはく離領域に及ぼすスプリッター板の影響	河田 匡佳	上代 良文
タンクスロッシング挙動に関する実験的研究	國重 政人	高畑 秀行
大量EGRおよび早期噴射による圧縮着火機関の燃焼・排出物特性	小坂 春喜	小島 隆史
協調搬送パターン生成システムの設計法と応答特性	鈴木 浩司	藤原 史朗
大気圧低温プラズマを用いたZnO薄膜作製における成膜速度の影響	清 秀樹	鹿間 共一
電磁調理器からの磁界による人体モデル内誘導電流の解析	高市 信也	太良尾浩生
サムネイルを用いたWebページ履歴表示システムの開発	高木 宏明	重田 和弘
半自動小型ロボットの開発	高木 雄司	十河 宏行
微細粒純アルミニウムの組織・力学特性データの蓄積と曲げ加工性評価へのアプローチ	高橋 良輔	酒井 孝
3次元CGを用いた電気力線表示システムの開発と評価	竹内 雅彦	重田 和弘
ZnO焼結晶割れ予測のための均質化法による熱応力解析	多田 亮太	木原 茂文
宇宙半導体レーザ溶接における光学部品への蒸着抑制技術	田中 健司	吹田 義一
バイノーラル反響定位の解析	谷本 達昭	原園 正博
横揺FM音を用いた反響音の試聴実験	堤 悠輔	原園 正博
GAを用いた天井クレーンの制御系設計法の比較	羽床 昌子	石原 弘一
ISS軌道圧力での宇宙GHTA溶接法によるタッチスタート現象	松下 和應	吹田 義一
非対称形断面の傾斜ダイスを用いた押出湾曲棒の成形解析	三好 峻佑	木原 茂文
平板乱流後の発達に及ぼすスプリッター板の影響	元木 浩敬	上代 良文
モンテカルロくりこみ群による二次元XY模型の有効ボーテックス作用の解析	矢野健太郎	加藤 清考
PCCIエンジンにおける燃焼の数値解析	矢野 琢真	小島 隆史
ステッピングモータの高機能化	山本 学	平岡 延章
ZnO焼結品へのレーザ照射時の割れに及ぼす相対密度の影響	好井 浩基	木原 茂文

◆建設工学専攻

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
使用骨材の種類と粒度が即時脱型コンクリートの品質に及ぼす影響	新名 香奈	竹下 治之
少数主桁場所打ちPC床版のひび割れに関する検討	角南 有紀	太田 貞次
非閉鎖型補強筋による付着割裂強度の改善効果に関する研究	高橋 恵子	長友 克寛
粒形・粒度の優れたコンクリート用細骨材の製造法の開発	谷澤 陽介	竹下 治之
中込材に高炉スラグ砕石を用いた大型ブロック積擁壁の動的挙動	藤澤 佳公	長友 克寛
石膏供試体を用いた岩盤不連続面モデルのせん断強度特性について	松本 吉統	土居 正信

平成17年度卒業研究テーマ一覧

◆機械工学科

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
位置と力の偏差に基づく制御モード切換え法を用いたロボットハンドの制御（第３報：リスト機構の追加とロボットの軽量化）	安藤 知晃	山崎容次郎
ソーラーカーの試作研究	石合 祐典	高畑 秀行
平板後流に関する研究	石井 亨	高橋 義一
反強磁性Fe2Pのメタ磁性転移の局在スピンモンテカルロシミュレーション	石原裕市郎	磯田 誠
エコカーの設計・製作	岡田 和也	高橋 義一
オーステナイト系ステンレス鋼板の結晶粒微細化とその方位特性・機械的性質の評価	岡田 直人	酒井 孝
平板背後のはく離領域に及ぼすスプリッター板の影響	奥田 洋三	上代 良文
フラクタル幾何学を応用した不規則形状および「ゆらぎ」の定量的評価（第３報：「ゆらぎ」成分の複合的定量評価と「ゆらぎ」形状を有する試作品の製作）	笠井 信三	酒井 孝
押出し加工時のダイス傾斜角の影響に関する研究	川西 毅	木原 茂文
段差昇降機能付き電動車椅子の研究（第１報：機構の検討とスケールモデルの設計・製作）	北村 賢	山崎容次郎
相転移の物理教材開発	吉林 拓也	磯田 誠
ゴム袋起伏堰の強度評価法に関する研究	国代 裕章	木原 茂文
流れに平行に設置された平板周りの有限要素法による流動解析	鵜坂 圭太	上代 良文
ドリブルロボットの製作と制御	監崎 孔明	山崎容次郎
ソーラーカーの試作研究	高本 光昭	高畑 秀行
パイロクロア格子イジング反強磁性体の磁化過程	佐藤 亮輔	磯田 誠
Mg-Li合金の曲げ加工性に及ぼす微視組織の影響の解明	下津浦慶明	酒井 孝
ゴム袋起伏堰の強度評価法に関する研究	角田 将晃	木原 茂文
TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動について	洲脇 隆人	福井 智史
平板後流に関する研究	竹安 広志	高橋 義一
金属材料疲労強度データベースによる機械構造用炭素鋼S45Cの確率疲労特性の解析	中村 彰宏	岡田 憲司
ZnO焼結品の相対密度とレーザー照射時の割れ現象の評価	中村 拓弥	木原 茂文
遺伝的アルゴリズムを用いたシステム同定	西岡 洋	吉永 慎一
金属材料疲労強度データベースによる非鉄金属材料の疲労特性の解析	野口 賢	岡田 憲司
アクティブノイズコントロールを用いた直流サーボモータの騒音抑制	原田 敏司	吉永 慎一
バイオディーゼル燃料の製造とその特性	藤谷 直典	小島 隆史
大量EGRおよび早期噴射による圧縮着火機関の燃焼・排出物特性	三神 悠哉	小島 隆史
金属材料疲労強度データベースによる機械構造用炭素鋼S35Cの確率疲労特性の解析	森 雅康	岡田 憲司
一般冷間圧延鋼板材の結晶粒微細化とその方位特性・機械的性質の評価	森川 寛基	酒井 孝
Visual Basicを用いた教材用QM法プログラムの作成	山岡 正英	吉永 慎一
ソーラーカーの３次元モデル化と有限要素解析	山岸 裕司	高畑 秀行
木質ペレットストーブにおける燃焼特性の研究	山崎 厚子	小島 隆史
三角格子イジング反強磁性体における磁気相図	山下 徹	磯田 誠
適応サーボ手法による倒立振子の台車位置制御	山本 芳裕	吉永 慎一
f.c.c.単結晶・多結晶材金属薄板の結晶粒微細化とその方位特性の解明	吉田 淳介	酒井 孝
平板乱流後流の発達に及ぼすスプリッター板の影響	渡辺 陽介	上代 良文

平成17年度卒業研究テーマ一覧

◆電気情報工学科

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
電気カーペット上の人体に誘導される電流の解析	秋山 敬介	太良尾浩生
熟練者のスキルに基づく制御手法の検討	井上 敏郎	藤原 史朗
X線画像シミュレータの開発 －被写体パラメータの圧縮と減衰計算の効率化－	岩瀬 遼彦	本田 道隆
3次元アニメーションの提示速度の検討	大角 卓也	重田 和弘
学習者情報を用いたマルチメディア学習システムの開発	大林 礼圭	重田 和弘
反響定位における両耳効果	大籔 貴志	原園 正博
PHPLibによるQ－Aデータベースサーバの構築およびその認証とセッション管理について	尾形 貴大	堀江 賢治
セルオートマトンによる交通流の解析	尾崎 泉	加藤 清考
むだ時間をもつ制御対象に対する制御装置	尾関 亮祐	堀内 紀充
PFM方式による光ファイバ伝送回路の試作とその評価	小原 数久	樋口 弘志
GPを用いた協調搬送パターンの生成	香川 拓也	藤原 史朗
X線画像シミュレータの開発 －X線検出部の特性シミュレーション－	金澤 宏樹	本田 道隆
GAを用いた磁界源推定方法に関する研究	川田 浩子	太良尾浩生
人間の画像知覚特性の研究 －画像の明るさに応じた信号検出特性－	北谷 晋吾	本田 道隆
CRTから発生する過渡磁界の空間分布測定	木村 聡志	太良尾浩生
不平等な暴露磁界と頭部内誘導電流との関係	桐田 和樹	太良尾浩生
ホログラムからの再生像を用いたパターン認識に関する研究	黒田亮太郎	荻原 昭文
液晶ホログラム素子の作製と光情報セキュリティシステムの開発に関する研究	小西 孝典	荻原 昭文
PHPLibによるデータベースサーバの構築およびその認証とセッション管理について	近藤 正博	堀江 賢治
DSPを用いた適用フィルタの応用	坂口 聡彦	原園 正博
廃水冷却装置の試作と評価	佐々木 聡	藤原 史朗
液晶ホログラム素子を用いた光情報セキュリティシステムの小型化に関する研究	柴坂 竜次	荻原 昭文
X線画像シミュレータの開発 －総合的ソフトウェア設計－	高田 智弘	本田 道隆
大気圧低温プラズマにより作製したZnO薄膜における堆積速度の高速化 －O2ガス流量による膜特性の変化－	千葉 由彩	鹿間 共一
時間割編成システムの開発	長浦 夏美	重田 和弘
Sound Audio Processor Systemの製作とその評価	西村 達也	樋口 弘志
コンピュータを用いた文章読み上げ速度と理解度の関係	東山 佳弘	重田 和弘
人間の画像知覚特性の研究 －ランダムノイズ周波数特性の違いによる信号検出能力－	平原 尚也	本田 道隆
Mathematicaを用いたEinstein方程式の解析	藤田 訓平	加藤 清考
大気圧低温プラズマによるAlドープZnO薄膜の作製II	古本 祐介	鹿間 共一
非線形特性を有する倒立振子安定化システムの設計法	正木 利樹	藤原 史朗
試聴実験における不確定要因の検討	松崎 孝太	原園 正博
大気圧低温プラズマによるAlドープZnO薄膜の作製I	萬治 寧大	鹿間 共一
性格とモデル形状を加味した色彩嗜好の分析	三井千奈都	原園 正博
大気圧低温ArプラズマによるZnO薄膜の作製	見勢 泰隆	鹿間 共一
大気圧低温プラズマによるZnO薄膜作製におけるHeガス流量の膜特性への影響	山本 聡美	鹿間 共一
分布定数回路導線による消音装置の検討	割石 圭一	原園 正博
Baseband方式による光ファイバ伝送回路の試作とその評価	チェンダー	樋口 弘志

平成17年度卒業研究テーマ一覧

◆制御情報工学科

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
マルチエージェントシステムへの機械学習の適用に関する研究	赤松 祐介	徳永 秀和
鉄棒選手の技に基づいたAcrobotの振り上げ制御	池田 陽介	逸見 知弘
自然循環ループにおける流れ振動に関する研究	上田 尚子	山内 庄司
砂糖黍の根削除機の設計製作－刃物台駆動部の設計製作－	梶田 雄王	園部 昭八
赤外線通信を用いた昆虫形ロボットの製作	片岡 祐哉	十河 宏行
マルチエージェントシステムへの機械学習の適用に関する研究	川本 裕太	徳永 秀和
砂糖黍の根削除機の設計製作－刃物台駆動部の設計製作－	木内 慎弥	園部 昭八
視覚障害者のためのインテリジェント白杖の開発	岸 寿子	川田 和男
宇宙GHTA加熱法の基礎的研究	木村 彰男	吹田 義一
砂糖黍の根削除機の設計製作－刃物と刃物台の設計製作－	久保田将平	園部 昭八
階段昇降装置の開発	香西明日華	川田 和男
画像処理に基づく物体の位置認識	坂井 真広	石原 弘一
自動露出式ピンホールカメラの試作	佐藤 恵梨	木下 学
画像処理を用いた倒立振子の安定化制御	末延 健司	石原 弘一
機械的な制限をもつAcrobotの振り上げ制御の研究	杉村 直樹	逸見 知弘
宇宙GHTA切断法の基礎的研究	十川 弘樹	吹田 義一
画像処理を併用した空気浮上システムの製作	竹本 智	十河 宏行
ロボット行動プログラミングへの機械学習の適用に関する研究	長尾 勇希	徳永 秀和
RT-Linuxを用いたプログラミングとDD倒立振子の設計	中川 智仁	平岡 延章
健常者のための階段昇降補助装置の製作（機械系）	寿 一以	由良 諭
ロボット行動プログラミングへの機械学習の適用に関する研究	濱 達也	徳永 秀和
Linuxのカーネルモジュールとスレッドプログラミング	濱松 雅	平岡 延章
衝突損傷を受けた宇宙ステーション壁の恒久的修理法の検討	原田 隆史	吹田 義一
健常者のための階段昇降補助装置の製作（電子系）	藤澤 祥	由良 諭
RT-Linuxを用いたプログラミングとDD倒立振子の設計	古市 和裕	平岡 延章
伸縮機構を用いた立ち座りサポートシステムの設計開発	保黒 悠介	十河 宏行
吊り上げ機構を用いた立ち座りサポートシステムの設計開発	三重野安衣	十河 宏行
夜間電力のLCAインベントリデータについて	水野 泰樹	山内 庄司
宇宙半導体レーザ溶接による真空中での突合せ溶接実験	三谷 健太	吹田 義一
健常者のための階段昇降補助装置の製作（電子系）	光元 裕輔	由良 諭
画像処理による書字	宮本 裕樹	石原 弘一
自然循環ループにおける流れ振動に関する研究	宮本夕起子	山内 庄司
画像処理を用いた倒立振子の安定化制御	宮脇 和人	石原 弘一
健常者のための階段昇降補助装置の製作（機械系）	女鹿 剛	由良 諭
セール周りの3次元流れの解析	森池 隆広	山内 庄司
砂糖黍の根削除機の設計製作－刃物と刃物台の設計製作－	山本 卓弥	園部 昭八

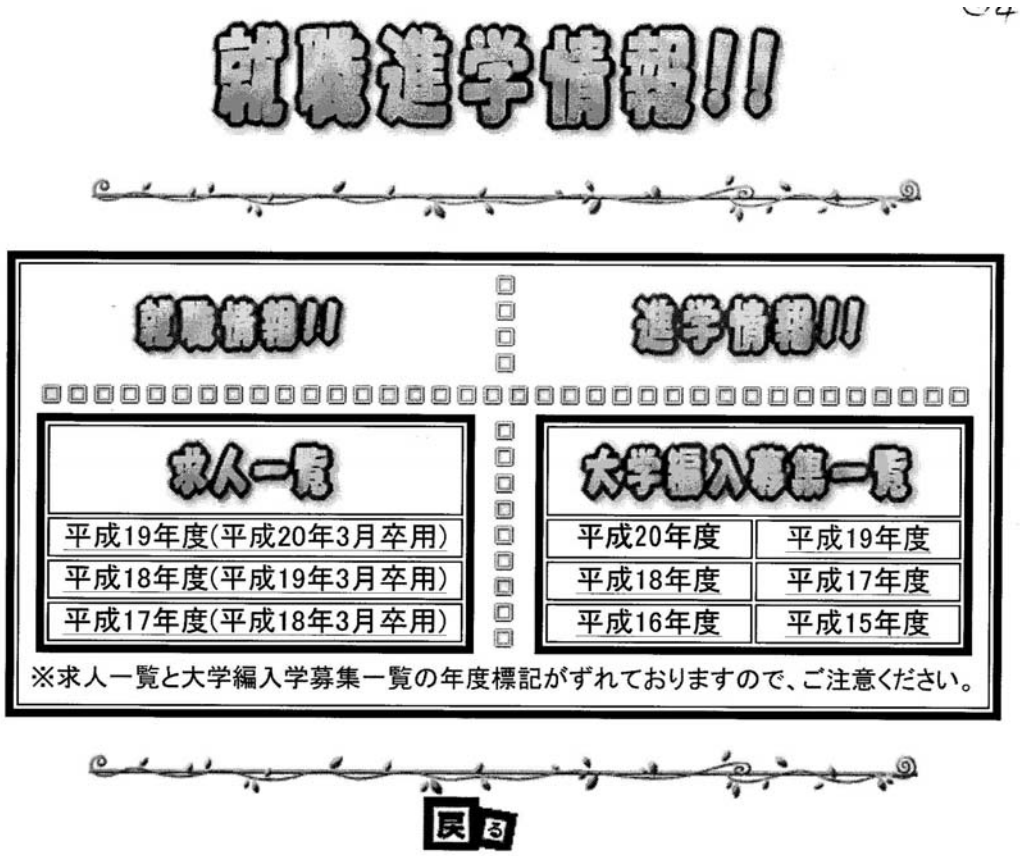
平成17年度卒業研究テーマ一覧

◆建設環境工学科

研究テーマ名	学生氏名	指導教員名
有限変形を考慮した二次元骨組構造物の解析	今井 正昭	春本 繁
将来の災害発生可能性に関する住民認識	上口雄太郎	及川 康
廃棄用瓦の有効利用に関する研究	上田 聡史	竹下 治之
硬質ウレタン添加が鋼板の振動に与える影響に関する実験的研究	大江 浩一	太田 貞次
直接基礎が及ぼす弾性地盤中の応力と変形について	太田 光昭	土居 正信
可撓性ボックスカルバート実用化のための基礎研究	尾形圭伊子	長友 克寛
多用途破砕機の破砕チエーンの形状に関する研究	柿原 貴一	竹下 治之
柱寸法の異なる木造土塗り小壁のせん断加力実験	黒田 望	中治 弘行
生物・物理化学処理における染色廃水の脱色特性の把握	杉江 恒彦	多川 正
有限要素法による木造軸組の剛性評価に関する考察	仙波 文裕	中治 弘行
フォールコーン試験によるナトリウムイオン濃度と落下時間の影響	田岡 美紗	向谷 光彦
避難勧告発表の時間的余裕と確からしさに関する住民意識	高橋 恵一	及川 康
砂質土を用いた圧密圧力と強度定数の変化	高畑 雄司	向谷 光彦
再生骨材を即時脱型コンクリートに有効利用した場合の特性について	立石 裕貴	竹下 治之
絶対評価法および相対評価法による対話型AHPソフトウェアの開発	田所 利浩	及川 康
発災時における住民対応行動の規定要因に関する分析	谷川 幸平	及川 康
培養条件の差異が及ぼす嫌気性代謝産物の比較	辻井 雄	多川 正
香川県内橋梁の損傷状況に関するデータベースの作成	西尾加奈子	太田 貞次
複列鉛直板による波の制御	奴賀 達哉	鶴本 良博
徳島県南部の工法による木造土塗り壁のせん断加力実験	平尾 圭吾	中治 弘行
食品廃棄物の減量化への挑戦	藤本 弥生	多川 正
ブロック積擁壁模型の地震時挙動に及ぼす背面土締固めの影響	渕 靖文	長友 克寛
染色廃水の嫌気条件下における分解・脱色特性	松浦 哲久	多川 正
鉄筋の塩害腐食が付着割裂強度に及ぼす影響に関する研究	溝淵 博己	長友 克寛
自己組織化マップによる鹿島湾におけるアマモ育成環境の変遷に関する検討	三谷 健太	太田 貞次
土留板の常時および地震時における設計について	村上 和輝	土居 正信
非閉鎖型補強筋による２段配筋上段筋の付着割裂補強効果に関する研究	森岡 千鶴	長友 克寛
廃ガラス混じり土の締固め特性	森西裕一朗	向谷 光彦
災害経験の繰り返しが住民の災害意識に及ぼす影響	山田 浩史	及川 康
エクセルを用いた有限要素法学習プログラムの開発	横倉 由希	春本 繁
岩盤不連続面の三次元形状のせん断強度特性への影響	横田 崇之	土居 正信
アニメーションを利用したプレゼンテーション改善の試み	横山実智子	長友 克寛
簡便な地盤探査法によるため池堤体の地盤構造	吉田 智博	向谷 光彦
複合型鉛直板による波の制御	渡辺 康之	鶴本 良博

（出典：高専便り）

資料７－２－④－４　進学・就職情報検索ページ



（出典：学生課資料）

資料７－２－④－５　進路情報資料室（機械工学科の例）

機械工学科の進路情報資料室

機械工学科棟には，機械工学科５年生用ホームルームに隣接する学生控室（機械工学科棟３階，29m²）を設けており，進学・就職資料等の閲覧が可能になっている．この部屋に設置しているパソコン2台により，校内限定の大学編入募集状況と、就職のための求人票（PDF ファイル）も閲覧可能である．そして書類キャビネットには最近の会社案内を保管して、自由に閲覧できるようにしている．本棚には大学編入試験問題（過去の問題集）と、受験報告、入社試験後の報告書を保管し，閲覧できるようにしている。

なお，その年度に届く最新版の会社案内は共同研究スペース（2）内の書庫に保管している．その年度の実際の就職活動にはこの資料を学生にわたしている。その年度の就職活動が修了すると、上で示した学生控え室に移動している。

＜進路情報資料室＞
・学生控室（機械工学科5年生用）
場所：機械工学科棟３階，面積：29m²
備品：パソコン2台，机2台，応接机2台，長イス2台，イス2脚，本棚，書類キャビネット5台

（出典：機械工学科資料）

資料７－２－④－６　新入生オリエンテーション専門紹介

4	ホームルームⅠ	1
3.	**4月6日（木）**	4
5	ホームルームⅡ	4
6	始業式	6
7	学習指導と自己紹介	6
8	専門学科の紹介と施設見学	7
9	ＣＳセンターの利用方法	7
4.	**4月7日（金）**	8
9	図書館の利用方法	8
１０	ホームルームⅢ	8
１１	ホームルームⅣ（学習指導）	8

（出典：オリエンテーション日程表）

資料７－２－④－７　「キャリア概論」の進路指導

平成１８年度　ホームルーム及びキャリア概論　年間活動計画書

（　１　学年団・　　全　組　担任氏名　有道・上原・市川・中瀬　　）

各月・週ごとに、活動計画をお書きください。　　（Ｎｏ．１　）

月	実　施　予　定　事　項	キャリア概論区分
4/10	卒業生との対話	B1・B2
4/13	体育祭出場者決定	
4/20	面談用アンケート記入その他	
5/11	体育祭と学生祭の説明	
5/18	学生祭の企画１	
5/25	学生祭の企画２	
6/1	模擬テスト（数）	
6/15	性教育講演	A1・A2
6/22	禁煙教育	A1・A2
6/29	席替え	
7/6	クラス企画	
7/13	夏休みの過ごし方	
9/7	学生祭出場者決定	
9/14	クラスマッチ	
9/21	５年生の話	B1・B2

（注）キャリア概論として実施する場合のみ、実施内容によりキャリア概論区分欄に以下の記号を書き込んでください。

Ａ１：自己理解、　Ａ２：集団への適応、　Ａ３：自然・人間・社会の理解

Ｂ１：進路実現への設計、　Ｂ２：職業観・勤労観の涵養

（出典：教務資料）

資料７－２－④－８　２年団保護者懇談会での進路説明

２年団保護者懇談会（クラス別）の次第

１．開会（５分）
　司会者（クラスの教育後援会役員）の自己紹介
　クラス担任，専門工学科長，保護者の自己紹介

２．情報，意見交換等（４５分）
　概略説明（担任，専門工学科長），保護者との意見・情報の交換等

（１）クラスの現況と意見交換等（５分＋１０分）
　　担任による概略説明

（２）本年の就職，進学の現況と情報交換等（１０分＋１５分）
　　専門工学科長による概略説明（関係資料は当日配布します）

（５）その他（５分）

３．閉会の挨拶　　司会者

（出典：教務資料）

資料７－２－④－９　４年進路説明会・保護者懇談会案内

平成１８年１２月　４日

４年生保護者各位

高松工業高等専門学校長
塩　谷　幾　雄

就職及び進学に関する説明及び懇談会開催について（ご案内）

初冬の侯ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。
さて，御子息，御令嬢は来春卒業の学年を迎えることとなり，御家庭におかれましては将来の進路について種々お考えのことと存じます。
本学では例年就職及び進学指導についての説明会を実施しておりますが，今年は下記のとおり実施しますので，万障お繰り合わせのうえ御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

１．日　時　　平成１８年１２月１６日（土）
機械工学科　　１２：３０受付　１３：００説明会
希望者がいる場合個別懇談を実施
電気情報工学科　１０：００受付　１０：３０説明会
希望者がいる場合個別懇談を実施
制御情報工学科　１２：３０受付　１３：００説明会

（出典：教務資料）

資料７－２－④－１０　進路説明会資料

平成１８年１２月１６日

４年生保護者各位

学 生 主 事

学校・学生の現状報告とお願い

１．就職について

平成１８年度の卒業予定者は機械工学科４１名，電気情報工学科３３名，制御情報工学科４２名，建設環境工学科３４名の合計１５０名です。このうち就職希望者は，それぞれ１６名，１５名，１６名，１６名の計６３名であり，それに対する求人数は，それぞれ６３８人，５９８，５１３人，１６６人の計１，９１５人で求人倍率は３０．１倍となっています。公務員二次試験の結果待ちの者を除き，ほぼ全員が内定しています。内定率は堅調に推移しています。

平成９年度より，学校と企業の就職協定がなくなり，企業の求人活動は早期化かつ短期化しています。また，インターネットによる企業の求人情報の公開も年々盛んになっており，インターネットや企業等からの求人票が企業選択の参考になりますので，自分の適性に合った進路を早くから見定める必要があります。

本当に自分に合った，自分でしてみたい仕事は何なのか学生自身が主体性を持って取り組むことが大切です。なお，大企業の採用については勤務地が関東や京阪神方面に集中していることから就職先の選択にあたっては本人と御家庭

（出典：教務資料）

資料７－２－④－１１　進路説明会各科ガイダンス例（電気情報工学科の例）

６．今後の進路活動予定

平成１８年１２月１５日(木)	学生の進路希望調査(第１回)
１２月１６日(土)	保護者進路説明会
１２月末	学生への進路調査書配布
平成１９年１月	学生への進路説明会及び進路希望調査（第２回）
１月１２日(金)	TOEIC 試験
１月１８日(木)	進学模試(数学)（希望者）
１月１９日(金)	進学模試(英語)（希望者）
１月上旬	進路調査書回収
２月　３日(土)	面接実技指導（希望者）
４日(日)	面接実技指導（希望者）
３月下旬～４月下旬	就職応募書類発送（履歴書，成績証明書，健康診断書，卒業見込証明書等）
４月２１日(土)（予定）	面接実技指導（希望者）
４月～	就職試験（面接，筆記試験）
５月	専攻科入学試験
６月～８月	大学編入学試験

（出典：電気情報工学科資料）

資料７－２－④－１２　面接実技講習会打ち合わせ資料

面接に関する実践研修の実施スケジュールについて

１．希望学生の事前調査（４年生担任，専攻科主任へお願い）
　希望学生の事前調査をお願いします。研修スケジュール表（添付資料）に記入させ，１月２９日（月）までに学生係へ提出。専攻科１年生は，各専門学科の最後（15時15分以降）に割り当てます。

２．事前ガイダンス（外部講師が担当）
　面接実技研修を希望する学生全員が対象です。
　日　時：1月２６日（金）　１６：３０～１７：３０
　場　所：第２講義室
　内　容：（１）全体的なガイダンス（面接試験の必要性，心得，採点規準，一般的マナー等）
　　（２）事前記入用紙，履歴書の配布（１月２９日（月）までに担任経由で，学生係へ提出）

３．面接実技研修（外部講師，本校教員が担当）
（１）日　時：2月3日（土），９：３０～１６：３０
　機 械 工 学 科：面接室（専攻科棟２Ｆゼミ室），
　　控　室（専攻科等２Ｆミックスメディア教室）
　電気情報工学科：面接室（専攻科棟３Ｆゼミ室），
　　控　室（専攻科等３Ｆマルチメディア教室）
（２）日　時：2月4日（日），９：３０～１６：３０
　制御情報工学科：面接室（専攻科棟２Ｆゼミ室），
　　控　室（専攻科棟２Ｆミックスメディア教室）
　建設環境工学科：面接室（専攻科棟３Ｆゼミ室），
　　控　室（専攻科棟３Ｆマルチメディア教室）

４．本校面接教員の選出（各学科長へのお願い）
　面接教員の選出をお願いします。
　専 門 学 科：延べ２名（午前１名，午後１名の１日）
　一般教育科：延べ４名（午前１名，午後１名の２日）

以上よろしくお願いします。

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－２－④－１３　面接実技講習会の実施報告

２００６年2月7日

㈱山崎総合研究所

【　２００６年度高松高専　面接練習総評　】

・ 全体的に声に元気がない生徒が多い。明るさ、活気が感じられにくい。

・ 表情が固い。いい事を言っているときも、悪いことを言っているときも表情が変わらないのでいい発言をしていても印象に残りにくい。もったいない。

・ 入室からが既に第一印象を決める。入室の際に顔をあげて面接官へ顔をむけ、軽く目をあわすなど意識するとより前向きな良い印象を感じる。

・ 出身校を言ってもらうとスムーズに言えない生徒が思ったより多かった。
→正式名でスムーズに言えない（高松高専と略したり、科名が抜けたり、口ごもる）。
あがってしまったのか卒業中学の名前を言ってしまう生徒も数名アリ。
→意外と自分の学校をフルネームで口にする機会は少ないもの。面接当日までには何度も口にだして練習しておくこと。

・ 自分の長所を発言する際に自身のアピールポイントが整理できていない生徒が多い。又、それを発言する際の声の弱さが気になる。自信なさげ。折角のアピールポイントなので若干声のトーンをあげ、強弱をつけると気持ちが伝わりやすい。

・ 普段、敬語を使い慣れていない生徒はすぐわかる。挨拶と同じく普段から正しい敬語と元気な返事を使い慣れること。

・ 来年は実際に自分が希望する企業を想定して面接研修に望むとより効果が高い。自分が何をしたいのか、職種（製造・設計・現場監督・商品開発、等）も想定し、事前準備をしっかりとしておくこと。

・ 履歴書の空白や記入モレが目立つ。又、希望欄に週休二日希望、とか勤務時間の希望を書いている生徒も数名いたが、面接企業側からみると印象が悪い。（仕事をしたいという熱意が感じられない。）

・ 語尾がしっかりと言い切れない生徒が多かった。（声がだんだん小さくなったり、言葉が途中で終わってしまったり。）

（出典：学生支援委員会資料）

資料７－２－④－１４　進学模擬試験

平成１６年度行事予定　(学級担任関係)

《定期試験》(最終日試験終了後HR)

	試験発表	試験期間
前期中間試験	５月２８日	６月　９日（水）～　６月１６日（水）
前期末試験	９月１７日	９月２７日（月）～１０月　５日（火）
後期中間試験	１１月２６日	１２月　８日（水）～１２月１５日（水）
後期末試験(５年)	２月１４日	２月２４日（木）～　３月　３日（木）
後期末試験(1~4年)	２月１８日	３月　１日（火）～　３月　９日（水）

《試験》

１～３年生実力テスト	１月１１日（火）
~~４年生 ＴＯＥＩＣ試験~~	１月１１日（火）
進学模擬試験　第２回：４月２１日(問題配布)　第１回：１月２０・２１日	

《成績会議》

１年生	６月２９日（火）・１０月２０日（水）・３月１８日（金）
２年生	６月３０日（水）・１０月２１日（木）・３月１８日（金）
３年生	７月　１日（木）・１０月２２日（金）・３月１８日（金）
４年生	３月１８日（金）

《認定会議》

卒業認定会議	３月１５日（火）
進級認定会議	３月１９日（土）

《保護者面談等》

保護者面談　７月　５日(月)～７日(水)・１０月２５日(月)～２７日(水)	
２学年団保護者懇談会	４月２９日（木）

《学校行事》

入学式	４月　７日（水）

（出典：担任の手引き）

資料７－２－④－１５　就職指導の一例（建設環境工学科の例）

【作文の書き方】

①構想を作る（起承転結も考える）
②関連する語句（キーワード、数字など）を補充する
③構想をまとめたら一気に書く
④必ず結言を入れる（自己も関係者という視点を入れて）
⑤書く上での注意点
・丁寧に、濃いく、大きな字で書く（くせ字は直す）
・漢字は大きめ、平仮名は小さめに書く
・適当に段落ちを付ける（内容の変化、強調するところなど）
・できるだけ漢字、専門用語で書く（分からない時は、別の言い方を考える）
・できれば数字を入れる（知識の広さを示す）
⑥必ず見直す
・文脈、表現、誤字、脱字などを正す（スペースが不足の時は、丁寧に補足する）

【参考作文における構想の例】

起　社会資本施設の種類と現状

承　原資（税金）を取り巻く環境
①経済の近況
②少子・高齢化
③国民のニーズの変化

転　このような状況での整備のあり方
①必要性のチック
・施設間のバランス
・交通施設を例に具体的に述べる
②優先度を考える
③既存施設の活用
・メンテナンス
・多用途活用（学校を例に）
④ライフコスト
⑤細部計画の重要性
・道路を例に具体的に

結　公務員としての決意

番号：　　氏名：　　得点：　　／１００

【課題】現在の我が国における社会的・経済的状況をふまえて、公務員としての立場から、今後の社会資本整備のあり方について論ぜよ。必要ならば、下記の用語を使用せよ。〔少子・高齢化、安定成長、税収低下、要求の高度化・多様化、高度情報化、環境保全、国際競争力、技術開発、コスト縮減、ライフコスト、メンテナンス〕

《参考作文》

起　社会資本施設は、人々の生活や産業を振興していくために不可欠なものであり、これらは生活基盤施設と産業基盤施設に大別される。また、これらはその機能や役割から、道路・鉄道・空港・港湾などの交通施設、各種発電所・変電所・石油タンク・ＬＮＧタンクなどのエネルギー施設、上下水道・公園・廃棄物処理施設・住宅などの生活関連施設、河川や海岸などの堤防・治水ダム・砂防ダム・防波堤などの国土保全施設など、非常に多岐にわたっている。

（社会資本の種類と現状）

　これらの各施設は、これまでの公共投資によりかなり整備されつつあるが、まだ必ずしも十分なものとは言えないのが現状である。中でも、特に交通施設や生活関連施設の整備がまだ不十分であると考えられる。

承　ところで、これらの整備を行うための原資はすべて税金である。しかし、現在の社会を取り巻く環境は厳しく、また大きく変化してきている。

（原資と取り巻く環境）

①経済の状況　その一つは、長期にわたる社会経済の不振である。確かに、バブル後の大きな不振は脱し、近年では数％の経済成長率も見込まれており、幾分回復してきた感はあるが、好況な業種といまだに不況な業種とに２極化しつつある。全体的には、まだ十分な財源を生み出せる好況な社会に回復してきたとは言えず、今後も含めて、税収の大幅な増加は期待できないと考えられる。

②少子・高齢化　また、我が国の少子化や高齢化の傾向は、世界でも例を見ない速度で進展してきており、現在では世界の中でも出生率が約１．３人と低く、しかも平均寿命が８０歳を超えており、高齢化が非常に進んだ国の一つとなっている。このため、生産人口は次第に減少してきており、当然であるが、このような状況からこの先税収の増加も多くを望めな

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－２－④－１６　就職担当者配置一覧

高松工業高等専門学校

平成１８年度就職担当者

機械工学科　FAX(087)869-3879

学科長	教授	岡田憲司（おかだけんじ）	TEL(087)869-3875
学級担任	助教授	吉永慎一（よしながしんいち）	TEL(087)869-3873

電気情報工学科　FAX(087)869-3909

学科長	教授	原園正博（はらぞのまさひろ）	TEL(087)869-3910
学級担任	教授	鹿間共一（しかまともかず）	TEL(087)869-3902

制御情報工学科　FAX(087)869-3879

学科長	教授	平岡延章（ひらおかのぶあき）	TEL(087)869-3896
学級担任	助教授	十河宏行（そごうひろゆき）	TEL(087)869-3898

建設環境工学科　FAX(087)869-3929

学科長	教授	長友克寛（ながともかつひろ）	TEL(087)869-3920
学級担任	教授	太田貞次（おおたていじ）	TEL(087)869-3925

専攻科

専攻科長	教授	山内庄司（やまうちしょうじ）	TEL(087)869-3891
機械電気システム工学専攻主任	教授	本田道隆（ほんだみちたか）	TEL(087)869-3907
建設工学専攻主任	教授	竹下治之（たけしたはるゆき）	TEL(087)869-3926

就職事務担当

学生課学生係　FAX(087)869-3839　TEL(087)869-3833

（出典：教務資料）

資料７－２－④－１７　企業訪問の一例（機械工学科の例）

機械工学科の企業訪問実績・状況
（2005年～2006年）

2005年2月28日：[redacted]
福山地区の広大な製鉄所をすみずみまで見学させていただいた。倉敷地区とあわせて世界最大規模である。

2005年8月18日：[redacted]
大阪本社と工場を訪問、見学した。専攻科卒業生にも面会し、第一線で活躍している様子が実際に感じられた。

2005年11月25日：[redacted]
広大な[redacted]にあるこの会社を見学し、実際の高専卒業生の活躍を見学した。

2006年1月31日：[redacted]
大阪本社を見学した。ミシンの高速耐久試験には感動した。大阪営業所の所長になられている機械卒業生にも面会した。

2006年3月23日：[redacted]
人事部の案内で丸の内支店を訪問した。[redacted]の国際ビル内の昇降機（かごと呼ぶ）の上に乗り、実際に点検検査の様子を実体験した。ここでも丸の内支店のフィールドサービス課長の機械卒業生が案内してくださった。

2006年8月4日：[redacted]
[redacted]を訪問した。テレビ、ディスプレイの生産ラインと検査を見学した。
機械卒業生の技術部課長に案内していただいた。

（出典：機械工学科資料）

資料７－２－④－１８　企業訪問の一例（建設工学科の例）

平成１５年３月１７日

企業訪問報告

日　程　：　平成１５年３月13日(木)～3月14日(金)
訪問先　：　岡山市内、広島県内企業
内　容　：

①［redacted］［redacted］

応対者　：　総務部 人事課［redacted］課長
採用計画　：　現在は採用予定なし。ただし、今年度は当初採用予定無しが秋に急きょ２名採用した。高専も大学と同じ土俵で採用する。
女子学生　：　退職例が多いため、女子学生の採用には及び腰である。
夏期実習　：　１～２名受け入れている。最近の実績では、広島大、呉高専、大阪市立大がある。時間給を支給するが、通いが可能な学生とする。
特記事項　：　環境アセスメントに特徴を有しているが、この分野は大学で専門に勉強した学生を考えているとのこと。

②［redacted］［redacted］

応対者　：　［redacted］
採用計画　：　土木で５名程度。機械、電気からも採用したい。希望者には会社訪問を義務つけている。本人が直接人事課に連絡し訪問日程を調整する。
採用試験は４月末の１日、筆記試験、適正検査、面接で合否を決める。既に会社訪問を受け付けている。（まだ２名程度とのこと）
大学、高専の分け隔てはない。昨年は７名採用に対して２０名の応募があった。
女子学生　：　原則受け入れ困難とのこと。
夏期実習　：　インターンシップの制度あり。無報酬だが現地寝泊まりで交通費と宿泊、食事は提供される。10～15名程度受け入れている。５月末から６月にかけて受け付ける。
特記事項　：　就職を希望する学生がいたら早めに対応する必要がある。今回訪問した会社の中では、最も良い印象を受けた。

③［redacted］［redacted］

応対者　：　人事部 人事課［redacted］
採用計画　：　この４年間採用実績無し。今年度の採用予定は未定だが厳しい。
女子学生　：　全社で１名いるが、今後は受け入れ困難とのこと。
夏期実習　：　受け入れの予定無し。
特記事項　：　特になし。

（出典：建設環境工学科資料）

資料７－２－④－１９　インターンシップ実績

インターンシップ実績

	会社名	所在地	*	17年度実績 M	17 E	17 S	17 C	16年度実績 M	16 E	16 S	16 C	15年度実績 M	15 E	15 S	15 C
1	[redacted]	坂出市川崎町	*			1		1				1			
2		高松市屋島西町	*	1	1	2		1	1	1		1	2		
3		名古屋市東区	*		1				1				1		
4		東京都台東区	*						1				1		
5		高松市サンポート	*		1	1			1	1			1	1	
6		東京都千代田区	*	希望なし					1				1		
7		香川郡香南町	*			2			2	1			2	2	
8		高松市福岡町	*				3				4				2
9		香川郡香南町	*											1	
10		東京都三鷹市	*						1				1		
11		高松市錦町	*		1				2				1		
12		東京都中央区	*		1			1				1			
13		神戸市中央区	*	不可				1				1			
14		高松市屋水町	*			1			2			1	1		
15		高松市一宮町	*			1								2	
16		東京都千代田区	*	1		2				2			1		
17		高松市浜ノ町	*	1			1	1				1			
18		高松市栗林町	*				1								1
19		綾歌郡国分寺町	*									1			
20		東大阪市花園東町	*											1	
21		大阪市西成区	*			1				1				1	
22		綾歌郡宇多津町	*											1	
23		東京都江東区木場	*						1					1	
24		京都市山科区	*									1	1		
25		高松市朝日町	*				1				1				1
26		高松市新田町甲	*											1	
27		神戸市中央区	*									1			2
28		高松市番町	*				2								3
29		高松市番町	*								1			1	1
30		愛媛県東温市	*		1								1		
31		善通寺市与北町	*												1
32		東京都港区	*		1					1		1			
33		さぬき市長尾町	*			1				1		1		1	
34		大阪市北区	*	不可									1		
35		東京都港区	*				1								1
36		観音寺市瀬戸町	*												1
37		岡山市大供	*												1
38		倉敷市松江	*									1			
39		愛媛県西条市	*			1		1					1		
40		仲多度郡多度津町	*										1	1	
41		大阪市平野区	*											1	
42		松山市	*												1
43		高松市天神前	*												1
44		広島市西区	*												1
45		高松市番町	*				3								2
46		高松市錦町	*												1
47		仲多度郡多度津町	*				1								1
48		福岡県中間市	*			1									
49		大阪市中央区	*	2	1	1			2	1					
50		京都市伏見区	*							1					
51		大阪市中央区	*	不採用							1				
52		京都市伏見区	*					1							
53		大阪府摂津市	*						1						
54		和歌山県和歌山市	*	1				1							
55		善通寺市櫛梨町	*								1				
56		神奈川県愛甲郡	*							1					
57		坂出市旭町	*								1				
58		木田郡牟礼町	*				1								
59		高松市松島町	*	希望なし											
60		渋谷区	*	希望なし											
新規		大阪府摂津市	*		1										
新規		大阪市福島区	*			1									
新規		横浜市緑区	*				1								
新規		東京都大田区	*	不可											
新規			*	不可											
新規			*	不可											
新規			*	不可											
新規		岡山市内山下	*	不可											
新規		大阪市東淀川区	*	不可											
新規			*	希望なし											
新規		福岡市中央区	*	不可											
新規			*	希望なし											
新規		愛知県犬山市	*	希望なし											
新規		東京都中央区	*	希望なし											
新規		広島県安芸郡	*	希望なし											
新規		東京都北区	*	希望なし											
新規		神奈川県川崎市	*	不採用											
新規		東京都千代田区	*	不採用											
新規		東京都千代田区	*	希望なし											
新規			*	不可											
				7	9	16	14	8	16	11	9	12	17	15	21
				計			46				44				65

	所在地	*	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2	S1	C1	S2	C2
	高松市番町	*						1				1		
	仲多度郡多度津町	*						1						
	高松市屋水町	*					1							
	大阪市	*										1		
		*						1						
	綾歌郡国分寺町	*						1						
	岡山市内山下	*			1									
			計		1		1	4				2		

（出典：教務資料）

資料７－２－④－２０　企業合同説明会

企業合同説明会を開催

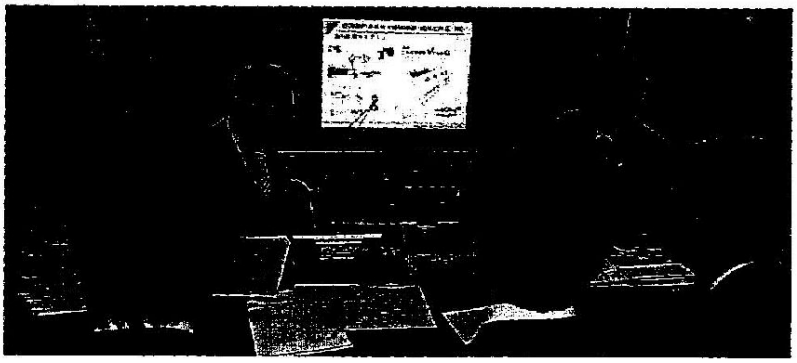
前学生支援担当副主事　坂本具償

３月８日に開催された企業合同説明会は，本校では初めての試みでした。体育館に１ブース１企業を配置し，各企業の人事担当の方が待機しているところへ学生が訪ねて話を伺うというかたちで実施しました。参加企業は28企業，参加学生は，３年２名，４年71名，専攻科生15名の合計88名。

学生の報告書によれば，多くの学生が，企業から具体的な話を聞くことができて好印象を抱いているように思われます。入社してからも多くのことを学ばなければならないこと，高専の卒業生がどのような企業で活躍しているのかということ，どのような知識が必要なのかを知ったこと，また仕事の大変さ，楽しさ，やりがいなどを感じたことなど，前向きの感想が多く見られました。学生自身，企業の概要やその採用状況などの生きた情報を手に入れることができ，手応えを感じたのでしょう。

一方企業側からは，「興味を持って聞いてくれた」，「学生と直接話せる良い機会であった」など，好意的な意見も多く寄せられましたが，「質問が少なかったのが残念」，「全体的に就職活動をする意識が少ない」等の意見もありました。今後，教員の側も就職に対する学生の意識の啓発に努めることが必要でしょう。

特に今回は，準備してから実施するまでの期間が短期間であったため，学生に対して実施の目的を十分に説明できなかったことなども反省点として挙げられます。次回の企業合同説明会は，これらの反省点を踏まえてより充実したものになればと思います。



（出典：高専便り）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 数々のガイダンスを実施し，授業科目としてもキャリア概論がある。
- 学生による図書を充実させる取り組み「ブックハンティング」がある。
- 学生の要望を汲み上げる制度が充実し，実績もある。
- 海外語学研修がスタートし成果をあげている。
- 教育相談室は相談窓口だけでなく，専門的な知識も備え，各種講習会では具体的な指導法を紹介するなど指導上の助けとなっている。
- 小規模の寮だが，寮務委員会の支援のもと，寮生が諸活動を自治的に運営し，集団生活の場として機能している。
- 校内での企業合同説明会や，学外の専門講師による面接実技講習会を実施している。

（改善を要する点）

特になし

（３）基準７の自己評価の概要

学習面に関係する学生支援として，新入生オリエンテーション，学科毎の説明会や宿泊研修，キャリア概論での取組みなどの多彩なガイダンスを実施し，対話集会，各コースの教育改善検討委員会，授業評価アンケートと対話，目安箱の設置など学生ニーズを把握する制度も充実させている。また各学科に検索用パソコンのある進路資料室を設置するほか，編入模擬試験，進路説明会，合同企業説明会，面接実技講習会など，進路に対する全学的な支援を行っている。取得可能な各種検定・資格試験を本校ＨＰにまとめ，希望学生への受験指導も行っている。また海外語学研修制度を整備して 18 年度から実施している。

施設面においては，利用率の高い図書館や，コンピュータを利用できる学習施設であるＣＳセンターなどを設置し，クラブ活動へは各部に専用の部室・活動施設を割り当てている。障害を持つ学生のために学校全体のバリアフリー化を進め，特に寮には身障者用２人部屋を設置している。

生活面の支援として，学生相談へは第一に各学級担任が応じるほか，教育相談室および学外の専門カウンセラーを設置している。学生への生活指導や交通指導は学生小委員会が中心となって行い，授業料免除や各種奨学金による経済面の支援制度も整備されている。

特別な配慮を必要とする学生への支援に関しては，まず実家が遠方の学生のために設置した寮では，寮務委員会の支援の下で諸活動が寮生により自治的に運営され，集団生活の場として機能している。また各個室にはエアコンが設置され寮環境が改善されており，学習会の実施，パソコン室・学習室が自由に利用できるなど，本人の自覚で十分に学習できる環境にある。寮で生活する外国人留学生には専用の補食室・学習室・シャワー室を設置し，また指導教員や学生チューターを配置して生活面と学習面のサポートをしている。発達障害を持つ学生のため，教員への講習会を定期的に実施して具体的な学生への接し方などを紹介している。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の校地には、管理部及び一般教育棟、各専門科目棟、専攻科棟、図書館、コンピュータサイエンスセンター、高機能化技術教育研究センターの校舎及び体育施設や実習工場等の施設があり、敷地も十分な面積が確保されている（資料８－１－①－１）。

また、高等専門学校設置基準において必須とする施設及び設備等（校地・校舎等）については、本校の施設整備計画に基づき、校舎等の耐震化を進めるとともに各教室等に空調設備を完備し、安全快適な教育環境の整備に努めてきている。

【本校における主な施設】

１．教室・講義室等

本校には教室・講義室等として、一般教育棟、各専門科目棟及び専攻科棟がある。一般教育棟（管理部併設・電気情報工学科棟併設）には、低学年学生（１～３年生）のホームルーム教室、講義室及び実験室が置かれ、一般教育科目や専門科目の座学授業、キャリア支援及び実験・実習などの授業に使用されている。各専門科目棟は、機械工学科棟、電気情報工学科棟、制御情報工学科棟及び建設環境工学科棟の４棟があり、建設環境工学科棟内に高学年学生（４～５年生）の教室を置いている（機械工学科５年生のみ機械工学科棟内)。また、各専門科目棟には実験室や演習室などがある。

また、各専門科目棟とは独立した専攻科棟が平成 12 年度に竣功・完成し、専攻科学生のゼミ室や講義室等が置かれている。また、専攻科棟は、専攻科学生ばかりでなく、本科の学生教育施設としても利用されている。

なお、各棟の教室や講義室などの稼動状況は、（資料８－１－①－２）に示すとおりである。

２．図書館

本校の図書館は、教育研究の基盤として図書及び情報資料の収集、整理、管理を行い、教育研究の発展及び利用者に寄与するために設置されている（資料８－１－①－３)。平成 11 年度には耐震補強工事と併せて閲覧室の内部改修工事を行い、空調機等の設備も更新した。

３．情報処理教育施設

本校の情報処理学習の中心施設として、コンピュータサイエンスセンター（以下、「ＣＳセンター」という。）があり（資料８－１－①－４)、専攻科を含めた全学の情報教育（コンピュータリテラシ教育、プログラミング教育及び工学系アプリケーションソフトを使った演習授業等)、及び教職員の学術研究のための共同利用施設となっている。

４．高機能化技術教育研究センター

本校の高機能化技術教育研究センターは、教育研究をはじめ、学生の先端技術教育の充実促進を図ること及び地元企業との技術交流や技術開発援助を通して地元産業の発展に寄与することを目的として、学内共同利用の研究施設として設置されている（資料８－１－①－５)。

５．体育施設

体育の授業や放課後の運動クラブ活動のため、第一体育館、第二体育館、水泳プール（６コース 25m）、運動場（トラック 300m、トラック内側にサッカー場及びラクビー場）、野球場（1 面、第二運動場としても使用）、テニスコート（6 面）、武道場、サーキットトレーニングセンターがある（前述資料８－１－①－１）。

６．バリアフリー施設

施設・設備のバリアフリー化を推進するため、本校では平成 12 年度から段階的に整備を行ってきている。現在のところ、一般教育棟には身障者用トイレ、エレベータ、スロープ、自動扉及び渡り廊下を設置し、専攻科棟・図書館・自彊会館にはそれぞれ身障者用トイレ、エレベータ、スロープ及び自動扉を設置し、機械工学科棟・制御情報工学科棟にはそれぞれ身障者用トイレ、エレベータ及び自動扉を設置し、建設環境工学科棟周辺通路・ＣＳセンター入口・高学年寄宿舎入口にはスロープを設置し、制御情報工学科棟周辺通路に屋根付渡り廊下を設置している。（資料８－１－①－６）

なお、今後バリアフリー化が必要な体育施設（第一体育館、第二体育館、武道場）、学生寄宿舎及びグラウンドトイレ、建設環境工学科棟については、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて計画的に実施する予定である。

７．その他の主要施設

機械工学科の実験演習関係施設として、機械工学科実習工場及び流体・風洞実験室があり、語学学習教室として図書館棟３階にＬＬ教室、福利厚生施設として自彊会館（食堂・売店など）、合宿研修施設として和敬館、寄宿舎として清雲寮等がある（資料８－１－①－７）。

【本校における主な実験、実習装置・設備】

施設以外の主要設備は、一般教育棟、各専門科目棟、専攻科棟、図書館、ＣＳセンター、高機能化技術教育研究センターの各施設内において整備されており、これらの諸設備は、学生の教育・実習並びに卒業研究等において利用されている（資料８－１－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の施設・設備は、上記で示したとおり高等専門学校設置基準を充たしており、本校の教育課程の実現に相応した整備がなされている。また、教室や実験室、実習工場等の教育環境は整備されており、有効に活用されている。また、校舎等のバリアフリー化についても段階的に整備され、身障者への配慮がなされている。

資料８－１－①－１　本校施設の概要

施　設

Facilities





■建物 Buildings

	【面積㎡】
① 管理部及び一般教育棟	3,638
② 一般教育棟	1,104
③ 機械工学科棟	2,185
④ 機械実習工場	994
⑤ 電気情報工学科棟	1,644
⑥ 制御情報工学科棟	848
⑦ 建設環境工学科及び講義棟	2,480
⑧ 専攻科棟	2,156
⑨ 図書館	1,843
⑩ コンピュータサイエンスセンター	383
⑪ 高機能科技術教育研究センター	606
⑫ 第一体育館	990
⑬ 第二体育館	880
⑭ 武道場	346
⑮ サーキット・トレーニングセンター	160
⑯ 職員集会所	156
⑰ クラブハウス①	149
⑱ クラブハウス②	150
⑲ 風洞実験室	150
⑳ 自彊会館	742
㉑ 和敬館	250
㉒ 清雲寮（北寮）	1,375
㉓ 清雲寮（南寮）	1,302
㉔ 清雲寮（西寮）	512
㉕ 清雲寮（食堂等）	400
㉖ 職員宿舎	319

■屋外運動場 Outdoor Sports Grounds

㉗ 水泳プール（6コース25m）
㉘ 運動場（トラック300m・サッカー場・ラグビー場）
㉙ テニスコート（1面）
㉚ 人工芝テニスコート（1面）・ミニバスケットコート（1面）
㉛ 野球場（1面）
㉜ テニスコート（4面）
㉝ 人工芝テニスコート（1面）

■土地 Land

【区分】	【面積㎡】
校舎・寄宿舎・運動場・職員宿舎敷地（別途借用地）	132,702 (424)
木太町職員宿舎敷地	1,092
昭和町職員宿舎敷地	1,074

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

資料８－１－①－２　施設稼働状況

本校校舎施設の稼働状況（平成19年度前期授業分）

施設名	1週間の稼働時間	稼働率（1週間の稼働時間数／40時間）
一般教育棟		
第一講義室	18時間	45%
図書館棟		
LL教室	24時間	60%
第二講義室	18時間	45%
コンピュータサイエンスセンター		
大演習室	36時間	90%
第一演習室	37時間	92.5%
機械棟		
製図室	11時間	27.5%
CAD室	22時間	55%
建設科棟		
製図室	11時間	27.5%
情報実験室	24時間	60%
第五講義室	2時間	5%
一般教育棟		
ミックスメディア教室	30時間	75%
マルチメディア教室	33時間	82.5%
大講義室	28時間	70%
講義室	28時間	70%

（出典：授業時間割）

資料８－１－①－３ 本校図書館の概要と利用状況

図書館

URL http://www.takamatsu-nct.ac.jp/~LB/index.html

Library

本校図書館は、日曜日、国民の祝日、年末年始等を除き開館しています。利用時間は、平日は9時から20時まで、土曜日は10時から16時までです。ただし、長期休業中は、平日のみ9時から17時まで開館しています。一般の方にも開放し、貸出サービスも実施しています。図書・CD・DVDのみならず、他の大学等との相互利用による文献複写等サービスも実施しており、知の源であり、かつ、情報発信の場である図書館の役割を果たすべく整備を図っています。

The library opens from 9:00am until 8:00pm on weekdays and from 10:00am until 4:00pm on Saturdays. The reading room is made accessible to students, faculty members and the general public. A lending service operates for the benefit of all.
Copy and information access services are presently available, thanks primarily to interlibrary loan arrangements and connections made with other colleges, universities, and research institutes.In this rapidly advancing and highly sophisticated society, we encourage our students to fully exploit those facilities offered by the library through the gathering of information and acquisition of knowledge, so that they may broaden their experiential horizons both intellectually and emotionally. That is why a full-scale effort is now underway to refurnish the library with a concentrated supply of high tech equipment, thereby enhancing it with an impressive store of graphic, audio, and visual information.

■図書館利用状況 Frequency of Lending

年度	貸出冊数 学生	貸出冊数 教職員・学外者	貸出計	学生1人当り貸出冊数
平成16年度	9,188	925	10,113	10.6
平成17年度	11,923	1,144	13,067	13.7
平成18年度	11,104	1,379	12,483	13.1

(*単位:冊)

■平成18年度末現在分類別蔵書調

Number of Books Held (as of March 31, 2007)

分類	洋書	和書	計	内閲覧室 洋書	内閲覧室 和書	内閲覧室 計
0 (総記)	223	5,322	5,545	58	2,234	2,292
1 (哲学)	265	4,573	4,838	0	1,890	1,890
2 (歴史)	225	7,149	7,374	9	2,888	2,897
3 (社会科学)	485	9,523	10,008	9	3,226	3,235
4 (自然科学)	2,564	17,581	20,145	31	7,274	7,305
5 (技術工学)	2,501	24,780	27,281	214	10,398	10,612
6 (産業)	18	1,070	1,088	1	425	426
7 (芸術)	181	4,949	5,130	5	2,488	2,493
8 (言語)	966	3,623	4,589	78	1,309	1,387
9 (文学)	2,281	14,718	16,999	40	9,179	9,219
計	9,709	93,288	102,997	445	41,311	41,756

(*単位:冊)

■平成18年度増加冊数

Number of Books Increased in Fiscal 2006

分類	洋書	和書	計	内閲覧室 洋書	内閲覧室 和書	内閲覧室 計
0 (総記)	3	146	149	0	44	44
(内情報科学)	3	127	130	0	37	37
1 (哲学)	0	60	60	0	33	33
2 (歴史)	3	51	54	0	44	44
3 (社会科学)	0	67	67	0	52	52
4 (自然科学)	49	234	283	0	111	111
5 (技術工学)	26	774	800	1	184	185
6 (産業)	0	11	11	0	11	11
7 (芸術)	0	63	63	0	59	59
8 (言語)	0	43	43	0	33	33
9 (文学)	0	379	379	0	378	378
計	84	1,955	2,039	1	986	987

(*単位:冊)

■雑誌の種類 Magazines

	洋書	和書	計
所蔵雑誌	196	525	721
平成19年度購入誌	12	75	87
開架雑誌	3	20	23

(*単位:冊)

●DVD・ビデオソフト:785タイトル DVDs, Video Tapes : 785 titles
●CD:1030タイトル CDs : 1030 titles
●平成18年度購入:DVD等 105、CD 101
Purchased in 2006 : 105 DVDs, 101 CDs
●リクエスト数:計 336 Student'Requests for New Books : Total 336

■閲覧室(376㎡) Reading Room(376㎡)

●座席:70席
70 Seats
●閲覧机:16脚
16 Desks
●検索用PC:3台
3 Computers for Searching Books
●ビデオブース:4席
4 Booths for Video Software and CD



閲覧室 Reading Room



貸出カウンター Lending Counter

Takamatsu National College of Technology ● 34

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

資料８－１－①－４　コンピュータサイエンスセンターの概要

コンピュータサイエンスセンター　URL http://www.takamatsu-nct.ac.jp/~CS/

Computer Science Center

専攻科を含めて全学の情報処理教育、及び教職員の学術研究のための共同利用施設であり、以下のシステムより成り立っています。

Computer Science Center (CS Center) provides resources for education on computer literacy and academic research needed by students and faculty. It is equipped with the following facilities.



大演習室　Computer literacy room

校内ネットワークシステム

センター内の一室に Gigabit Ethernet Switch A を置き、スター状のトポロジー配線によって専攻科棟、各学科及び事務部（医務室,学生寮を含む）、コンピュータサイエンスセンターをそれぞれ結んでいる。校内のこれらの7つのサイトにギガスイッチを置き、1Gbpsの高速回線速度でマルチメディア情報をお互いに転送できる。外部にはSINETにIP（Internet Protocol）接続を行っていて、インターネットの利用が可能である。また、VODサーバーにより映像配信サービスが提供されている。

■ネットワーク管理室　Network management room

- ●GIGAスイッチA：2台
  Gigabit switches : 2sets
- ●ファイアウォール装置：1台
  Firewall system : 1set
- ●サーバ装置（WWW、ファイル、メール）：4台
  Servers(WWW,file,mail) : 4sets
- ●GIGAスイッチC：1台/7
  GIGA switch C : 1set/7
- ●ネットワーク監視装置：1台
  Network monitoring system : 1set
- ●VODサーバマシン：1台
  Video on demand server machine SG1 Origin300 : 1set

Campus LAN system

Gigabit Ethernet Switches located CS Center are connected with 7 gigabit switches which are placed at General education, Mechanical Engineering, Electronics & Computer Science engineering, Electro-Mechanical Systems Engineering, Civil Engineering, Bureau (a dispensary and a student dormitory are included), Advanced Course and CS center. The transfer rate is 1 Gbps. The users are able to exchange not only characters but also photos and animation. Gigabit network is connected by IP (Internet Protocol) to an exterior network SINET. We are able to access to the Internet and the other computation centers. VOD server provides video streaming services.



第１演習室　First training room

集合教育演習システム

133台のVID（Virtual Image Distributor）方式のコンピュータが3つの演習室に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフト（Matlabなど）を使った演習授業などに使われている。

■サーバー室　Server room

- ●マネージメントサーバ：5台、イメージマネージメントサーバ：4台
  Management server 5sets,　Image management serve 4sets

■大演習室　Computer literacy room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：50台
  VID client computer 50 sets (Mint Wave ridotto4)

■第1演習室　First training room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：16台
  VID client computer 16 sets (Mint Wave ridotto4)

■マルチメディア教室　Medier room

- ●VIDコンピュータ（Mint Wave ridotto4）：47台
  VID client computer 47 sets (Mint Wave ridotto4)

Computer literacy training system

Three training rooms are equipped with 133 client computers that uses VID (Virtual Image Distributor) methods. These computers are used for computer literacy education, the programming education, and the training classes that use the engineering application software (Matlab etc.).



マルチメディア教室　Medier room

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

資料８－１－①－５　高機能化技術教育研究センターの概要

高機能化技術教育研究センター

Research Center for Advanced Technology

高機能化技術教育研究センターは昭和62年4月1日に発足した学内共同利用の研究施設であり、自由な発想に基づく教員研究をはじめ学生の先端技術教育の充実促進を図ることおよび地元企業との技術交流や技術開発援助を通して地元産業の発展に寄与することを目的としています。本センターは主に、試作室、計測室、試験室、クリーンルーム等で構成されており、次の6つの研究開発室（プロジェクト研究）で運用されています。企業との受託研究、試験研究、共同研究の制度があります。

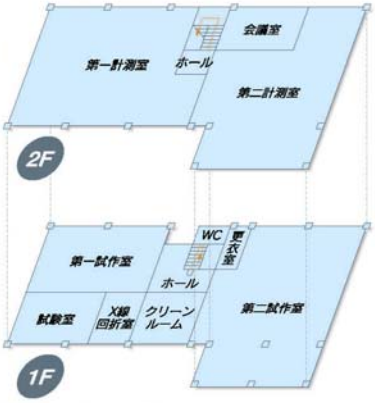
●計　測　関　係:オージェ電子分光分析装置、走査型電子顕微鏡、引掻試験機、エリプソメータ、X線回折装置、全温度領域物性測定装置、原子吸光分光光度計、他

●試作・試験関係:高真空蒸着装置、イオンプレーティング、ホットプレス、デュアルイオンビームスパッタリング装置、大気圧コールドプラズマ発生装置、他



高機能化技術教育研究センター外観
Reserch Center for Advanced Technology

The Center was established in 1987 with the goal of developing new technologies. The important function of the Center is not only to produce a new trend of creative engineers, but also to coordinate interdisciplinary research activities on campus and serve as an intermediary local industry. There are six Research & Development Divisions for Advanced Materials Science, Applied Material Science, Advanced Energy Science, Environment and Disaster Prevention Mechanical and Electronics, and Educational Technology.



■平面図（606㎡）

●研究室

高機能化技術教育研究センター（センター長:土居　正信）

①新材料研究開発室（室長:鹿間　共一）

②材料利用技術研究開発室（室長:福井　智史）

③新エネルギー技術研究開発室（室長:吹田　義一）

④環境防災研究開発室（室長:多川　正）

⑤メカトロニクス研究開発室（室長:逸見　知弘）

⑥教育技術研究開発室（室長:重田　和弘）

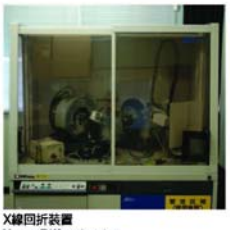
Research & Development Division
Research Center for Technology [Director : D.Eng. M.DOI]
①Advanced Materials Science R & D Division [Head : D.Eng. K.SHIKAMA]
②Applied Material Science R & D Division [Head : M.Eng. S.FUKUI]
③Advanced Energy Science R & D Division [Head : D.Eng. Y.SUITA]
④Environment and Disaster Prevention R & D Division [Head : D.Eng. T.TAGAWA]
⑤Mechanical and Electronics R & D Division [Head : D.Eng. T.HENMI]
⑥Educational Technology R & D Division [Head : D.Eng. K.SHIGETA]



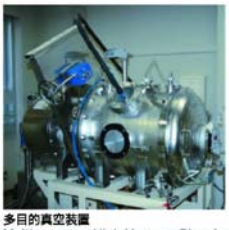
クリーンルーム　Clean Room



オージェ電子分光分析装置
Auger Electrin Sppectroscopic Analyzer



X線回折装置
X-ray Diffractmeter



多目的真空装置
Multi-purpose High Vacuum Chamber



走査型電子顕微鏡
Scanning Electron Microscope

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

資料８－１－①－６　バリアフリー施設の状況

身障者用トイレ



スロープ



（出典：施設係作成資料）

資料８－１－①－７　本校の寮・福利厚生施設・合宿研修施設の概要

清雲寮（学生寮）

Seiun-ryo (Dormitory)

本校の学生寮は，任意制寮で現在156名が在寮しています。本寮は教育寮であるため、寮務主事及び寮務主事補の教員が寮生活の指導を行い、共同生活の人間関係を通して貴重な生活体験を得させるとともに、学生の秩序と互助の精神を養うことを目的としています。
また、この目的を達成し、寮における共同生活を自律的に運営させるため、寮生による自治会がおかれています。


西寮（1人部屋）　West Dormitory(private room)

There are now 156 students living in our dormitory. They come under the guidance of the Dean of Dormitory Affairs and the Vice-Deans whose responsibility is to make communal living as pleasant and comfortable as possible. The goal is to develop a firm adult youth relationship and in so doing it is hoped that these students will not only benefit from but also come to realize the importance of order and cooperation. They also have a governing body-the Dorm's Student Council.


北寮（2人部屋）　North Dormitory(double room)

■施設　Facilities

●南寮（男子高学年用）…鉄筋コンクリート造3階建（一部4階）、定員62名
1人部屋（9㎡）：57室、1人部屋（13.5㎡）：3室、2人部屋（24㎡）：1室
●北寮（男子低学年用）…鉄筋コンクリート造3階建、定員78名
1人部屋（11㎡）：29室、2人部屋（15㎡）：24室、1人部屋（15㎡）：1室
●西寮（女子用）…鉄筋コンクリート造3階建、定員40名
1人部屋（10㎡）：24室、2人部屋（15㎡）：8室
●共同室…学習室、パソコン室、日本語演習室、製図室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

●South Dormitory…3-story building(in part-4 stories)with a capacity for 62 students
57 private rooms(9㎡), 3 private rooms(13.5㎡), 2 shared rooms with 2 beds etc.(24㎡)
●North Dormitory…3-story building with a capacity for 78 students
29 private rooms(11㎡), 24 shared rooms with 2 beds etc.(15㎡), 1 private room(15㎡)
●West Dormitory…3-story building with a capacity for 40 students
24 private rooms(10㎡), 8 shared rooms with 2 beds etc.(15㎡)
●Common rooms…a study room, a computer room, a seminar room to study Japanese, a drawing room, lounges with a kitchenette, laundry, bathing areas and a cafeteria

■入寮者数　Number of dormitory students

学年 School year	1st	2nd	3rd	4th	5th	専攻科 Advanced Course	計 total
人員 No. of dorm studs	37(6)	33(7)	34(6),〈1〉	32(3),〈2〉	20(2),〈2〉		156(24),〈5〉

※（ ）内は女子学生で内数、＜ ＞内は外国人留学生で内数
( ) : Number of Female Students within Total, < > Number of Overseas Students within Total

平成19年5月1日現在
As of May 1, 2006

自彊会館（福利厚生施設）

Jikyo-Kaikan (the Welfare Building)



本会館は、学生及び職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等の発展を助成することを目的として、昭和57年4月に建設されました。会館には、食堂（142席）、売店、医務室、リフレッシュコーナー（12席）、学生会室等があります。

The Jikyo-kaikan was constructed in April 1982 to facilitate students' extracurricular activities as well as to house welfare services for both students and staff members. It consists of a cafeteria with 142 seats, a school store, a nurse's office, refreshments corner(12 seats), Student Council room, etc.

和敬館（合宿研修施設）

Wakei-Kan (the Lodging Building)



本施設は、健全にしてかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的として、昭和58年3月に建設されました。施設には、和室（3室）、シャワー室、洗面所及び便所等合宿研修に必要な諸設備が整備されています。

The Wakei-kan was built in April 1983 to accommodate students during special occasions such as club training and class camps. The hall is equipped with three tatami rooms, a shower room, a washroom, a restroom and so on.

Takamatsu National College of Technology ● 38

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

資料８－１－①－８　施設以外の主要設備

施設以外の設備

１．一般教育科関係

室　名	主　な　設　備
数学研究室	ネットワークサーバ
物理・応用物理実験室　他	エタロン・グレーティング分光器、真空蒸着装置、他

２．機械工学科関係

室　名	主　な　設　備
工作実験室　他	精密旋盤、空気マイクロメータ、万能試験機、金属顕微鏡 油圧サーボ疲労試験機、振動モード解析装置、熱伝達率測定装置、ガソリン機関性能試験装置、オシロスコープ、他
風洞実験室	風速 40m/s 低乱風洞装置、熱線流速計、他

３．電気情報工学科関係

室　名	主　な　設　備
電気機械実験室　他	SCR インバーター、カーブトレーサ、ヘリウムイオンレーザ、ロックインアンプ、ホッピングロボット、平等磁界曝露装置、電気機器実習装置、他

４．制御情報工学科関係

室　名	主　な　設　備
電子工学実験室	オシロスコープ、ディジタルマルチメータ、アームロボット、万能試験機、ねじり試験機、空気マイクロメータ　他

５．建設環境工学科関係

室　名	主　な　設　備
構造工学実験室	構造物可変載荷装置、万能試験機、多目的三次元水路、直接せん断試験機、イオンクロマトグラフィー、他

６．実習工場関係

室　名	主　な　設　備
実習工場	旋盤、マシニングセンタ、万能フライス盤、ボール盤、平面研削盤、溶接機、溶解炉、鍛造炉、電気炉、他

７．コンピュータサイエンスセンター

室　名	主　な　設　備
ネットワーク管理室	GIGA スイッチ、ファイアウォール装置、サーバー装置、他
サーバー室	マネージメントサーバー、イメージマネージメントサーバ
大演習室　他	VID コンピュータ

８．高機能化技術教育研究センター

室　名	主　な　設　備
計測関係	オージェ電子分光分析装置、走査型電子顕微鏡、他
試作・試験関係	高真空蒸着装置、大気圧コールドプラズマ発生装置、他

（出典：高松工業高等専門学校要覧２００７）

観点８－１－②：　教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校には、専攻科を含めて全学の情報処理教育及び学術研究推進の共同利用施設としてＣＳセンターがある。（前述資料８－１－①－４）本センターは、校内ネットワークシステムと集合教育演習システムの二つのシステムから成り立っている。センター内には一般管理部、ワークステーション室、ネットワーク室の３室が置かれ、校内の情報ネットワークシステムの集中管理施設としても中核的な役割を担っている。なお、本校校内ネットワーク構成図は（資料８－１－②－１）に示すとおりである。

ＣＳセンターの管理体制は、昭和 63 年に「高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター管理運営規程」（資料８－１－②－２）が制定され、その運営管理は同センター長を中心として活動している。また、同センターの円滑な運営を図るためにコンピュータサイエンスセンター運営委員会が設置されている（資料８－１－②－３）。

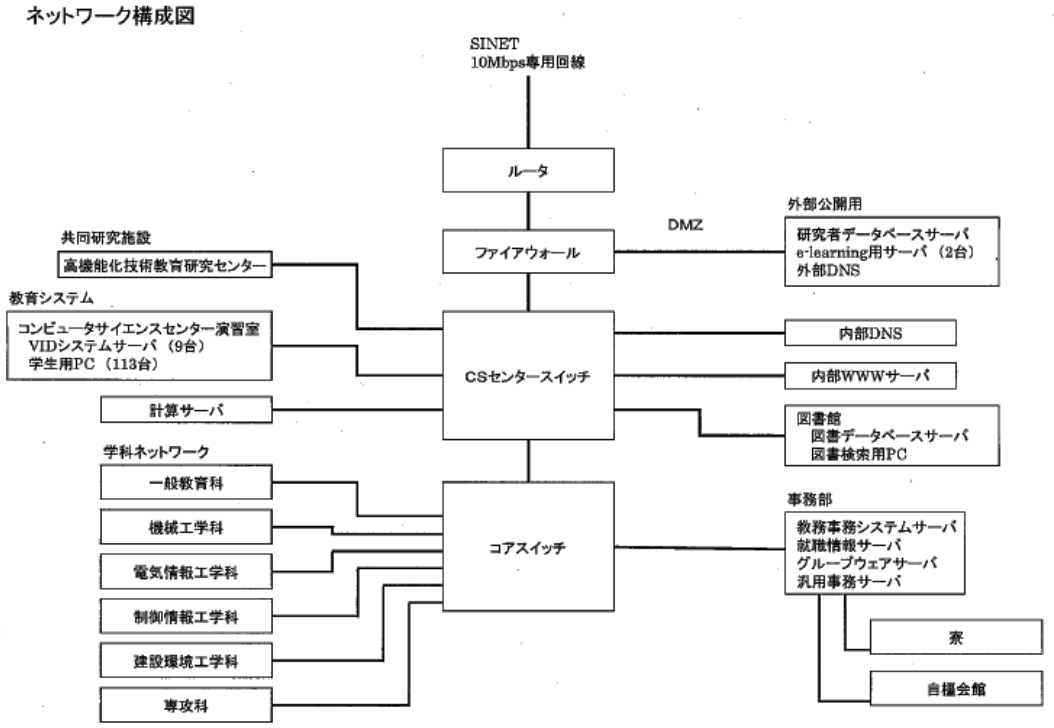
また、本校はネットワークの安全な管理運営のために、セキュリティ対策につとめている。昭和 63 年に「高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用細則」（資料８－１－②－４）が制定され、同時に同「利用要項」（資料８－１－②－５）が制定された。平成 12 年度には高速キャンパス情報ネットワークが整備されたことから、「高松工業高等専門学校学生のネットワーク利用要領」（資料８－１－②－６）が制定された。これら３つの準則は、学生便覧にも公開されており、学生及び教職員は常にこれらの準則を見ることができる。また平成１６年度に「高松工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規程」（資料８－１－②－７）が制定された。同委員会の審議事項として、「情報セキュリティポリシーの策定と改訂」、「情報セキュリティの遵守の励行及び違反に対する措置」、「情報セキュリティに関する啓発及び教育」などがあり、平成１７年度にセキュリティポリシーが策定された（資料８－１－②－８）。ＣＳセンターを利用する授業科目は、（資料８－１－②－９）に示すとおりであり、ＣＳセンターは学生の自主学習の場として午後 6 時まで開放されている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

校内ネットワークシステムの中核施設として、ＣＳセンターがあり、学内 LAN により各校舎施設間での一体的な情報の流通が可能となっており、授業や放課後の学生の自学自習においても活用されている。また、情報のセキュリティも、同センターが中心となって、コンピュータサイエンスセンター運営委員会や情報セキュリティ委員会が設置され、課題の発見、検討、解決につとめている。

資料８－１－②－１　本校ネットワーク構成図



（出典：CS センター作成資料）

資料８－１－②－２　コンピュータサイエンスセンター管理運営規程

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター管理運営規程

昭和63年２月22日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則（以下「規則」という。）第17条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報処理教育及び学術研究の推進に寄与することを目的とする。

（センター長）

第３条　規則第35条第１項に定めるコンピュータサイエンスセンター長（以下「センター長」という。）は，教授又は准教授をもつて充てる。

２　センター長は，校長が任命する。

３　センター長は，教務主事及び学科長と連絡を密にし，センターの業務を掌理する。

４　センター長の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（特別研究員）

第４条　センターに特別研究員を置くことができる。

２　特別研究員は，校長が選任する。

３　特別研究員は，情報処理教育に関する研究及びセンター長から付託された特別な事項についての研究を行うとともにセンターの円滑な運営に協力するものとする。

（センターの利用）

第５条　センターの利用に関し必要な事項は，別に定める。

（委員会）

第６条　センターの円滑な運営を図るため，センターに高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会に関する事項は別に定める。

（組織）

第７条　センターに管理部及び研究部を置く。

２　管理部の次の２室を置く。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－３　コンピュータサイエンスセンター運営委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター運営委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項及び高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。)管理運営規程第５条第２項の規定に基づき，センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，センターに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　センターの管理運営に関すること。

二　センターの利用計画に関すること。

三　その他センターの管理運営に関する必要な事項

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　コンピュータサイエンスセンター長

二　教務副主事又は教務主事補から１名

三　専攻主任から１名

四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員

五　学生課長

２　委員は，校長が委嘱する。

３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き，コンピュータサイエンスセンター長をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（事務）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－４　コンピュータサイエンスセンター利用細則（抜粋）

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用細則

昭和63年２月22日制定

（趣旨）

第１条　この細則は，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター管理運営規程第５条の規定に基づき，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）の利用について定めるものとする。

（利用形態）

第２条　センターにおける利用形態は，次のとおりとする。

一　ネットワークシステムによる会話型ジョブ

二　集合教育演習システムによる会話型ジョブ

三　小演習システムによる会話型ジョブ

（利用の範囲）

第３条　センターを利用できる者及びその利用範囲は，次のとおりとする。

一　本校教職員であつて，学術研究及び教材作成に使用する場合

二　学生の情報処理教育に関する講義並びに実習に使用する場合

三　本校教員の指導のもとに本校の学生が使用する場合

四　事務処理に使用する場合

五　その他特にセンター長が認めた場合

（利用の申請）

第４条　センターを利用しようとする者は，別紙様式１による「センター利用申請書」をセンター長に提出しなければならない。ただし，学生については，指導する教員が一括して申請するものとする。

（利用の承認）

第５条　センター長は，前条の規定による申請が適当であると認めたときは、別紙様式２による「センター利用承認書」に必要事項（登録番号等）を記入して申請者に交付するものとする。

（全国共同利用大型計算機センターの利用）

第６条　全国共同利用大型計算機センター（以下「大型計算機センター」という。）を利用するため大型計算機利用大阪地区（第６地区）協議会の承認を得て、本校センター内に「高松高専連絡所」（以下「連絡所」という。）を設ける。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－５　コンピュータサイエンスセンター利用要項

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用要項

昭和63年２月22日制定

（趣旨）

第１条　この要項は，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター利用細則第12条の規定に基づき，高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

（利用時間）

第２条　大演習室、第一演習室、第二演習室及びコンピュータ演習室の利用時間は，次のとおりとする。

一

室	曜　日	時　間
大演習室 第一演習室 第二演習室 コンピュータ演習室	月～金	8：30～ 18:00

ただし，機器等の保守点検又は故障等のため当該時間内であつても利用を停止することがある。

二　前号の規定にかかわらず，あらかじめセンター長の許可を得たときは，前号の時間以外の利用をすることができる。

三　前号による利用者で，かつ勤務時間以外の利用者は戸締まり等の後始末を厳重に行うものとする。

（利用優先順位）

第３条　大演習室、第一演習室、第二演習室及びコンピュータ演習室の利用優先順位は，次のとおりとする。

一　授業を第１位とし，以下教員研究，クラブ活動の順とする。

授業において，工学実験（講義を含む。）のほかに卒業研究が併行される場合は，工学実験を優先する。

二　前号の順位の詳細は，利用の区分に応じ学期毎にコンピュータサイエンスセンター運営委員会において決定し，掲示する。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－６　高松工業高等専門学校学生のネットワーク利用要領

高松工業高等専門学校学生の ネットワーク利用要領

平成12年６月27日制定

1　ネットワークに接続された機器を利用することができる学生（以下「利用者」とする。）は，次の各号に定める場合を除き，情報処理関連の授業（プログラミング言語，情報処理，計算機システム，基礎情報処理等の一部）またはコンピュータサイエンスセンター（以下「センター」とする。）の行う講習において，ネットワークに関する機器の操作，利用上のルールおよびマナー等を受けたものでなければならない。

一　機器の設置場所ごとに定めたルールがあり，ネットワーク講習

平成　　年　　月　　日

ネットワーク利用申請書

高松工業高等専門学校
コンピュータサイエンスセンター長　殿

申　請　クラス名	
申請者名（教科担任等）	
ネットワークに関する講習を実施した授業科目名	
ネットワークに関する講習を実施した授業担当教員名	

上記のネットワークに関する授業を学生が受けましたのでネットワークに関するアカウントの発行をお願いします。

受　付	月　日	
承諾日	月　日	

が免除されている場合

二　授業等で指導教員の指示のもとで利用する場合

2　前項の授業を受け，別紙ネットワーク利用申請書をセンター長に提出したクラスの学生に対し，クラス単位ごとに利用を許可する。

3　利用者は次の各号に掲げる行為をしてはならない。

一　財産またはプライバシーを侵害すること
二　著作権を侵害すること
三　他を詐称すること
四　他を誹謗中傷すること
五　他に不利益を与えること
六　営利を目的とすること
七　公序良俗または社会慣習に反すること
八　政治，宗教上の宣伝勧誘など教育にふさわしくないこと
九　ネットワークの正常な運用を阻害すること
十　無断で他人のIDを利用すること
十一　他人に自分のIDを貸して利用させること
十二　有料データベース，オンラインショッピング等を利用すること
十三　ネットワークを通して本校学生としての品位を損うこと

4　部活動および個人での利用時間は通常の部活動が行われている時間内とする。
ただし，ネットワーク管理上の都合で利用時間を制限することがある。

5　利用者はセンター利用細則及びセンター利用要項に従わなければならない。

6　上記５及びこの学生のネットワーク利用要領に違反した場合には，一定の期間，利用を停止したり，IDを抹消し，以後の利用を禁止することがある。

附　則

この要領は，平成12年６月27日から施行する。

（出典：平成１９年度学生便覧）

資料８－１－②－７　高松工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項の規定に基づき、高松工業高等専門学校情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は、情報セキュリティに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　情報セキュリティポリシーの策定と改訂に関すること。

二　情報セキュリティポリシーの遵守の励行及び違反に対する措置に関すること。

三　除法セキュリティに関する啓発及び教育に関すること。

四　その他情報セキュリティに関する必要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　教務主事

二　専攻科長

三　各学科長

四　図書館長

五　各学内共同利用施設長

六　事務部長

２　委員は、校長が委嘱する。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き、教務主事をもつて充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（事務）

第６条　委員会の事務は、企画室において処理する。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－８　本校情報セキュリティポリシー

高松工業高等専門学校長
2006.03.14

高松工業高等専門学校（以下「本校」という）における継続的かつ安定的な教育・研究及び事務の実施を確保するためには、情報資産について高度な安全を確保し、その利用者の信頼を得るためにふさわしい情報セキュリティ水準を達成するよう、適切な情報セキュリティ対策を実施することが必要不可欠である。

このため、本校においては情報セキュリティ対策の包括的な規程として、情報セキュリティポリシー（以下「ポリシー」という）を策定し、本校の管理責任範囲に存在する重要な情報資産を、機密性・完全性・可用性に対する内外の脅威から守るために必要な情報セキュリティの確保に最大限取り組むこととする。

なお、ポリシーは情報セキュリティ基本方針及び情報セキュリティ対策基準からなるものとする。

１ 情報セキュリティ基本方針

1-1 用語の定義

（ｉ）情報セキュリティ
情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持すること。

（ii）情報資産
職員（非常勤講師、契約・臨時的職員を含む）（以下「職員」という）及び学生等に関わる個人情報、本校の運営に関する情報、各種コンピュータとその関連機器、ネットワークとその管理設備、その他本校の運営上重要となる情報やその運用関連設備。

（iii）機密性
アクセスを認可されたものだけが、対象の情報にアクセスできることを確実にすること。

（iv）完全性
情報および処理方法が正確であり、かつ、完全であることを保護すること。

（ｖ）可用性
認可された利用者が、必要なときに確実に情報および関連する資産にアクセスできること。

（vi）脅威
情報資産に影響を与え、損失を発生させる直接の要因を指す。
不正アクセスによる情報の改ざんや破壊、ウィルスによる感染事故、自然災害による情報インフラの停止や、故意又は過失による情報の漏洩や破壊、機器及び媒体の盗難など。

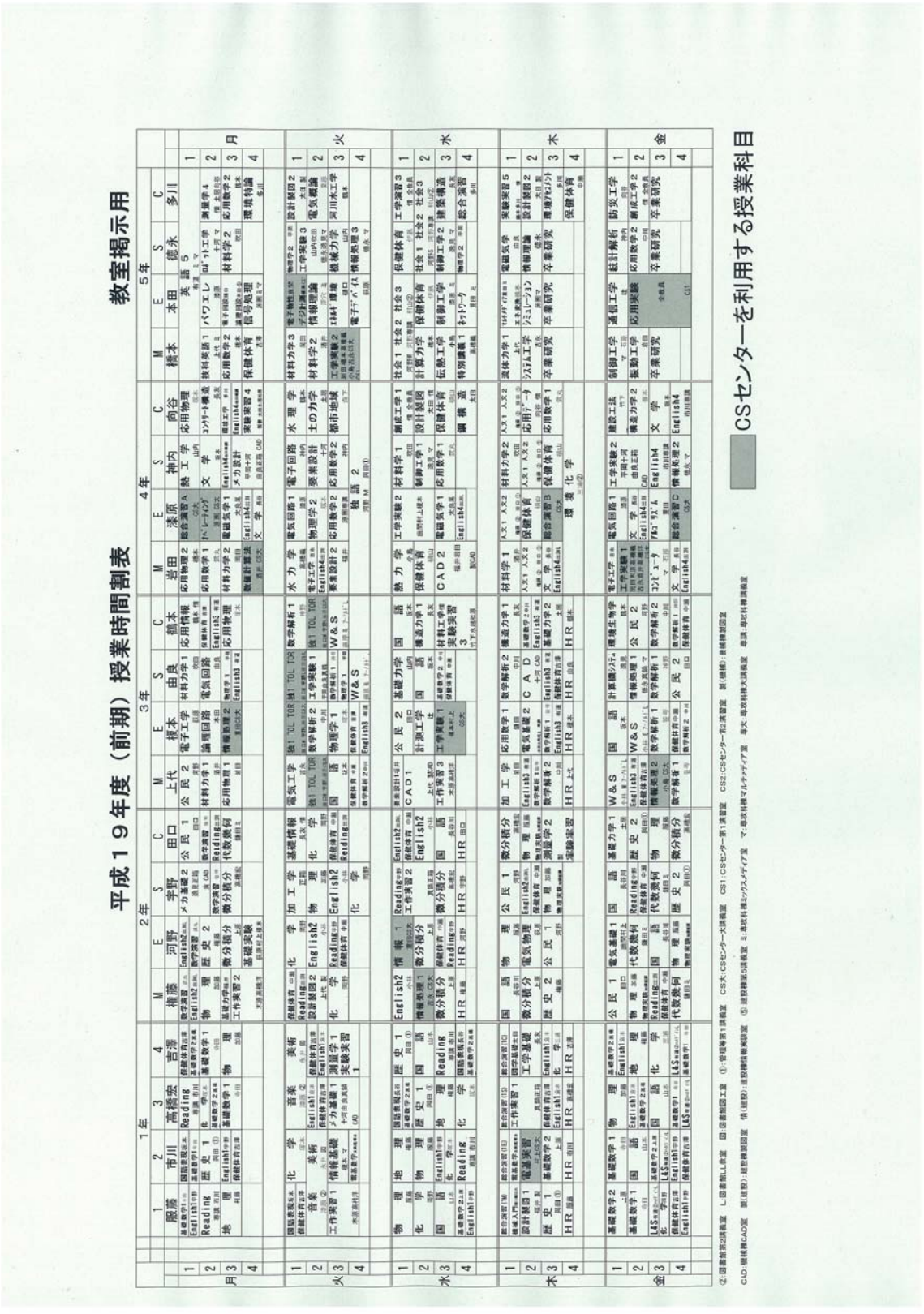
1-2 適用範囲

ポリシーは、本校の情報資産と、それに関連する人的資産、物理的資産（建物・設備等）

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－９　CS センター利用状況



（出典：学生課資料）

観点８－２－①：　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校図書館の図書は、種目ごとに系統的に分類整理され（日本十進分類表）、蔵書数が 10 万３千冊近く（うち洋書約１万冊）あり、所蔵雑誌は約 721 種（うち洋雑誌 196 種）ある。毎年、学生や教職員からの希望・推薦図書の調査などによって、図書の充実化をはかっている。また、視聴覚ソフトは、DVD・ビデオソフトが 785 タイトル、CD が 1,030 タイトルある。このうち、開架式閲覧室には、４万冊以上の本や雑誌が配架され、学習のため閲覧机 16 脚、座席 70 席が用意されているほか、ビデオデッキ４台、学生の蔵書検索用パソコン３台が設置されている（前述資料８－１－①－３）。図書の利用については、「高松工業高等専門学校図書館規程」（資料８－２－①－１）及び同「図書館利用細則」（資料８－２－①－２）を設け、学生便覧で公開し、学生に周知して便宜をはかっている。

また、図書館サービスを向上させるために、学内 LAN などの情報関連施設を利用して、図書館情報や蔵書・学術雑誌情報などの電子化・ネット化をおこなった。その結果、図書はウェブ上においても系統的に整備され、学生の図書利用や教員の教育研究のうえで利便性を向上させている。図書館のホームページ（以下「ＨＰという。」）は、本校のＨＰ上にリンクし、図書館紹介、利用案内、新着図書紹介（学内限定）のほか、図書・和雑誌・洋雑誌の蔵書検索（図書については学内限定）、高松高専研究紀要、図書館だより、電子ジャーナル（学内限定）、学外学術情報検索がウェブ上でできるようになり、図書館情報の利便性が実現されている（資料８－２－①－３）。また、本校図書館は、他の大学等との相互利用による文献複写等のサービスも実施している（資料８－２－①－４）。

本校学生の図書利用については、全国の高専の中で高いほうに属し、貸出冊数が増加している（資料８－２－①－５）。現在、学生の図書離れが指摘されているなか、学生に図書の利用意識を高め、より親しんでもらうため、新入生オリエンテーション時の図書館利用の説明会、各クラスからの図書委員選出、学生祭での古本市開催、学生による「図書館だより」の原稿の一部執筆（資料８－２－①－６）、図書委員を中心としたブックハンティングの実施（資料８－２－①－７）、長期休業中における 20 冊までの貸出し実施、教職員による選定図書の購入、学生の希望図書の受けつけ、学生の夏休み読書感想文や 1000 頁読破記の公募などに取り組んでいる。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校図書館における蔵書、雑誌、視聴覚資料、及び図書施設としての整備状況、学生・教職員への希望図書調査等にもとづく毎年の増加冊数、ウェブ検索を含めた図書検索の整備状況、図書情報の周知状況、学生の利用並びに利用促進状況、利用規則の明確性及びその周知方法において、本校図書館には、教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

資料８－２－①－１　図書館規程

高松工業高等専門学校図書館規程

平成６３年２月２２日制定

（趣旨）

第１条　この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則（ 以下「規則」という ）第１１条第４項の規定に基づき、高松工業高等専門学校図書館（ 以下「 図書館 」という。）の組織及び運営等について定めるものとする。

（目的）

第２条　図書館は、高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究の基盤として、図書及び情報資料を収集、整理、管理して教育研究の発展及び利用者に寄与することを目的とする。

（館長）

第３条　図書館は、規則第１１条第１項に定める図書館長がこれを統括する。

（委員会）

第４条 図書館の円滑な運営を図るため、図書館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会に関する事項は、別に定める。

（施設）

第５条　図書館に、多面的機能を推進するため、次の施設を置く。

事務室及び閲覧室・書庫

談話室

（図書資料等の管理）

第６条　図書館の管理する図書及び情報資料は、図書館に備え付けるもののほか、各学科等に備え付けることができる。

２　前項により各学科等に備え付けるものについては、図書館長の承認を得るものとする。

３　各学科等備え付けの図書及び情報資料の保管責任は、各学科等においてその責を負うものとする。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－２－①－２　図書館利用細則

高松工業高等専門学校図書館利用細則

昭和63年12月１日制定

（趣旨）

第１条　この細則は、高松工業高等専門学校図書館規程第９条の規定に基づき、高松工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館日）

第２条　図書館は、次に掲げる日を除き開館するものとする。

一　日曜日

二　国民の祝日（国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。）

２　前項の規定にかかわらず、図書館長（以下「館長」という。）が特に必要と認めたときは、臨時に閉館することができるものとする。

（開館時間）

第３条　図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、館長が特に必要と認めたときは、これを変更することができるものとする。

一　平　日　９時から20時まで　ただし、春季休業中、夏季休業中、冬季休業中及び学年末休業中（以下「長期休業中」という。）は、９時から17時までとする。

二　土曜日　10時から16時まで　ただし、長期休業中は、休館とする。

（利用の区分）

第４条　図書館の利用者（以下「利用者」という。）は、次に掲げる区分により図書館を利用することができるものとする。

一　館内閲覧

二　書庫内図書利用

三　館外貸出

四　参考調査

五　文献複写

六　相互利用

（館内閲覧）

第５条　利用者は，館内においては、静粛を旨とし、雑談、飲食、喫煙等館内の秩序を乱し、他人の迷惑となるような行為をしてはならない。

（書庫内図書利用）

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－２－①－３　図書館ホームページ



（出典：本校ホームページ）

資料８－２－①－４　図書館複写規程（抜粋）

高松工業高等専門学校図書館文献複写規程

昭和52年12月20日制定

第１条　本校における文献等の複写については，この規程の定めるところによる。

第２条　前条の文献等の複写は，教育，研究又は本校における業務遂行を目的とする場合に限り受け付けるものとする。

第３条　複写機を使用し，若しくは文献等の複写を依頼しようとする者は，あらかじめ次の区分により図書館事務室に申し込み，承認を得なければならない。

一　本校教職員，学生の場合　　複写機使用申込書（第１号様式）

二　学外者の場合　　文献複写申込書（学外者用）　（第２号様式）

第４条　前条により承認を得た者は，別に定めのある場合を除き，複写料金を総務課経理係に前納しなければならない。ただし，前条第一号により，本校教職員が使用する場合で，校費の振替を行うものについてはこの限りでない。

２　前項の料金のほか，文献複写のために要した送料その他の実費については，依頼者において負担するものとする。

３　一旦納付した料金は，いかなる理由があつても返還しない。

第５条　文献複写料金は，別表のとおりとする。

第６条　この規程の施行について必要な事項は別に定める。

附　則

この規程は，昭和53年１月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成元年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成元年10月１日から施行し，平成元年４月１日から適用する。

２　この規程施行の際，現にあるこの規程による改正前の様式による用紙は，当分の間，これを取り繕い使用することができる。

附　則

この規程は，平成２年７月20日から施行し，平成２年４月１日から適用する。

附　則

この規程は，平成10年11月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成11年４月１日から施行する。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料８－２－①－５　図書館図書等貸し出し状況

平 成 18 年 度 貸 出 冊 数

学　生

学年	種類	1 組	2 組	3 組	4 組	合 計
1年	図書	141	121	359	219	840
	消耗	0	0	1 0	2	3
	CD	22	32	53	23	130
	雑誌	0	4	2	2	8
学年	種類	M	E	S	C	合 計
2年	図書	286	117	672	464	1,539
	消耗	6	0	3 0	1	10
	CD	90	14	61	16	181
	雑誌	0	0	0	19	19
3年	図書	241	375	786	356	1,758
	消耗	10	4	7 0	17	38
	CD	64	68	127	103	362
	雑誌	17	0	3	2	22
4年	図書	475	548	481	303	1,807
	消耗	1	16	30 0	16	63
	CD	26	49	24	49	148
	雑誌	0	1	0	8	9
5年	図書	385	317	530	569	1,801
	消耗	10	7	3 0	2	22
	CD	247	39	5	337	628
	雑誌	1	13	5	24	43
学年	種類	AS	AC			合 計
1年	図書	517	90	0	0	607
	消耗	26	4	0 0	0	30
	CD	25	0	0	0	25
	雑誌	0	3	0	0	3
2年	図書	783	20	0	0	803
	消耗	172	0	0 0	0	172
	CD	18	0	0	0	18
	雑誌	15	0	0	0	15
合計	図書	2,828	1,588	2,828	1,911	9,155
	消耗	225	31	44	38	338
	CD	492	202	270	528	1492
	雑誌	33	21	10	55	119

利 用 者 別 貸 出 数

	図　書	消耗図書	CD	雑　誌	合　計
学　生	7,745	136	1,449	101	9,431
専攻科生	1410	202	43	18	1,673
教 職 員	958	4	117	41	1,120
学　外	157	7	86	9	259
合 計	10,270	349	1695	169	12,483

開 館 日 数

曜　日	日　数
平　日	225
土曜日	33
日曜日	5
計	263

学 生 貸 出 冊 数

	平成１８年度	平成１７年度	平成１６年度
学 生 貸 出 総 冊 数	11,104	11,923	9,188
学生１人当たり貸出冊数	13.1	13.7	10.6

（出典：図書館作成資料）

資料８－２－①－６　学生の図書紹介文

クージョ

スティーヴン・キング（新潮文庫）

気温40℃の下で故障した車の中に閉じ込められた母子。なぜ閉じ込められたかというと、狂犬病に犯された巨大な犬、クージョがいるからだ。助けも来ない、来たと思ってもすぐにクージョの餌食となる。炎天下の中子供は弱っていき、ついに母はクージョに立ち向かう。ひたすら恐い長編。

５年Ｍ組　山本　佑季

ひとり日和

青山　七恵（河出書房新社）

東京へ出てきた20歳の女の子と居候先のおばあさんとの日常生活を描いた小説。何気なく過ぎ去っていく日常の虚しさや孤独感が伝わってくる。自分との世代の違いを感じるが、共感できる面も多い。学生のみなさんはもっと共感できるのでは？　芥川賞受賞作。

機械工学科教員　小島　隆史

ムーン・パレス

ポール・オースター（新潮文庫）

傑作のにおい、と言えば本好きには分かってもらえるだろうか。最初の2、3ページを読んで、思わずどきどきしていることに気づくあの瞬間。この本には、ここ半年くらいで一番それを感じた。柴田元幸の訳がすばらしい。英語に関心のある人はぜひ原書をみて、自分の訳を作って、照らし合わせてみよう。本当に本当にいい勉強になります。

一般教育科教員　高橋　宏明

特別法案001条―DUST―

山田　悠介（文芸社）

2012年、日本に新たな法ができた。「ダスト法」それは、必要のない人間を、無人島に棄て、500日の間生活させるというものだった。国に棄てられた民―棄民―感情を失ってゆく棄民たちの中、繰り返される悲劇…地獄…そして芽生えた１つの愛…。愛情と憎悪が絡み合う奇跡のストーリー。

２年Ｅ組　岩瀬　大佑

放射線利用の基礎知識

東嶋　和子（講談社）

放射線なんて自分には関係ないと思っていませんか？でも、人体を構成する物質にもある割り合いで放射線を出す元素が含まれており、誰もが日々被爆しています。放射線は病院で行う検査や工業製品の製造にも応用されています。正体を少し知っておくといいかもしれませんね。

制御情報工学科教員　平岡　延章

零式

海猫沢めろん（ハヤカワ書房）

「燃え尽きて灰になりたいだけ。」

圧倒的にクールな疾走感。壮快に過ぎる程のドライブ。米帝統治下に置かれたニッポンの西暦二〇〇〇年――原始駆動機を駆る少女・朔夜と、天使が出会い、暦史は稼動する。ハヤカワ「リアルフィクション」最前線。読まずに死ねるか？

３年Ｅ組　矢野　正人

コスト構造改革のヒント 橋の設計・デザインを楽しく

寺田　和己（鹿島出版会）

建設業は、2005年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」、1997年政府の「公共工事コスト縮減対策に関する行動指針」策定がされた。本書は、建設の構造設計のコストダウンに対して、工事入札に際して発注者から入札者に技術提案を求めている現状を解説した本。

建設環境工学科教員　松原　三郎

化物語（バケモノガタリ）

西尾維新（講談社）

この本は、全ての「西尾維新」という名前を聞いたことがある人、もしくは日常に退屈している全ての人々に是非読んでいただきたい本です。この本には、戯言シリーズに垣間見える西尾維新の笑いに関する面白い部分がつまっていると思います。ですが、この本は現在、ほぼ常に借りられているので、もし無ければ、「クビキリサイクル」も読んでみて下さい。

４年Ｍ組　井上　真吾

グレート・ギャッビー

スコット・フィッツジェラルド 村上春樹訳（中央公論新社）

村上春樹を小説家たらしめたフィッツジェラルドの長編小説。村上が40年以上いつくしんできたこの小説を、57歳の村上自身がついに翻訳！　原文でも読んでみたくなるので、英語に自信がある人、原作にも是非チャレンジして、感想を聞かせてください。

一般教育科教員　長谷川　隆

辞めるなんてもったいない！ 入社３年たったら読む本

大和　賢一郎（大和書房）

会社で働いた時、多くの人が辞めたいと思うことでしょう。この本には、会社で働くことの利点、活用方法、会社に依存せずに自ら目的を持って働くことの大切さが書かれてあります。私自身、会社を辞めようとした時に読み、会社に行くのが楽しくなりました。（結局は辞めましたけど）

電気情報工学科教員　辻　正敏

新着図書から

♣図書館に新しく入れた本

（出典：図書館だより）

資料８－２－①－７　ブックハンティング資料

［教室掲示用］

ブックハンティングに行こう！
－平成１８年度第１回ブックハンティングの勧め－

高松高専　図書館

１．ブックハンティングとは？
　ブックハンティングとは、学生が本屋に直接行って，図書館に置くのにふさわしい本を選ぶことです。本に興味を持ってもらい，図書館を身近なものとして感じ利用してもらうために実施しています。

２．参加者は？
　１年から５年までで、原則として**クラス単位**で参加し，クラスからは何名参加してもかまいません。ただし，クラスの**図書委員（あるいはその代理の学生１名）が責任者**となって下さい。

３．ブックハンティングできる図書は？
　マンガ・雑誌を除いた、図書館に置くのにふさわしい図書です。
　※　ブックハンティングしてくれた図書を実際に購入するかどうかは、後日図書館の方で決定します。

４．どれくらい買えるか？　１クラス**１万円まで**です。

５．ブックハンティングに行く本屋は？　今回は**宮脇書店本店**です。
　宮脇書店本店　　高松市丸亀町４－８（高松市美術館隣）　℡ 087-851-3733

６．いつ行くか？　**平成１８年６月１３日（火）**（前期中間試験最終日）
　ブックハンティングの時間帯　**１４時００分～１５時５０分**

スクールバスを利用するか，または，各自**直接宮脇書店本店**に行ってください。

［スクールバス利用の場合］
（行き）**13時20分**学生玄関前集合 **13** 時 **30** 分発 **14** 時 **00** 分宮脇書店本店着
（帰り）**15時50分**スクールバスを降りた所（中央通りと美術館通りの交差点付近を予定）に集合　**16** 時 **00** 分発 **16** 時 **30** 分学校着

６月１３日（火）のブックハンティングに参加できなかった場合は？

６月１３日（火）のブックハンティングに参加できなかった**クラス**は，１４日（水）から２１日（水）までの間に行ってください。ハンティングできる本屋は下記の４店です。その場合は、**選書した本を書店のカウンターへ持っていき、学生証を提示し高専からブックハンティングで来たことを告げ、本を預けてください（学生証を忘れないこと）。**

・宮脇書店本店 高松市丸亀町４－８（高松市美術館隣）　℡ 087-851-3733
・宮脇カルチャースペース（ＭＣＳ）高松市朝日新町３－４ ℡ 087-823-3152
・宮脇書店南本店　高松市伏石町１４６－１（レインボー通り）
　℡ 087-869-9361
・宮脇書店中央通店　高松市上天神町１９０－１（ゆめタウンの南西，１１号線沿い）　℡ 087-868-1245

（出典：図書館作成資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

高等専門学校設置基準において必須とする施設及び設備等（校地・校舎等）について、本校の施設整備計画に基づき、校舎等の耐震化、各教室等への空調設備完備、段階的なバリアフリー化等安全快適な教育環境の整備を進めている。

（改善を要する点）

一部の施設及び設備について、老朽化が進んでおり、その改善が必要であると認められる。なお、これらの改善については、本校の施設整備計画に基づき年次的に実施する予定である。

（３）基準８の自己評価の概要

校地並びに校舎面積は高等専門学校設置基準を充たし、教育研究に係る一般教育棟並びに各専門学科棟、実験・実習工場、図書館、ＬＬ教室、コンピュータサイエンスセンター、高機能化技術教育研究センター、専攻科棟、体育施設、福利厚生施設、合宿研修施設及び学生寄宿舎は、教育研究のため相応した整備がなされバリアフリー化も進んでおり、かつ学生の利用状況からみて有効に利用されている。また校舎内には、ホームルーム教室、研究室、実験室、実習室及び学生の自学自習施設が整備されており、施設全体における学生の利用も有効に活用されている状況にある。学内ネットワークシステムの中核施設にはＣＳセンターがあり、学内 LAN により各校舎施設間の一体的な情報の流通が可能になっている。同センターは、授業や放課後の学生の自学自習においても活用されている。また、情報のセキュリティも、同センターが中心となって、コンピュータサイエンスセンター運営委員会や情報セキュリティ委員会が設置され、課題の発見、検討、解決につとめており、ネットワークの利用状況及びそのセキュリティ管理についても十分適切である。さらに、図書館に関しても、蔵書、雑誌、視聴覚資料及び図書施設としての整備状況、学生・教職員への希望図書調査等にもとづく毎年の増加冊数、ウェブ検索を含めた図書検索の整備状況、図書情報の周知状況、学生の利用並びに利用促進状況、利用規則の明確性及びその周知方法において、本校図書館は、教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

１．教育活動の実態を示すデータ・資料等の収集・蓄積，または点検・評価に関わる体制

本校の教育活動は，全学的には教務委員会および専攻科委員会が中心となって実施している（資料９－１－①－１，２）。各専門学科には技術者教育プログラムがあり,各技術者教育プログラムを統括する組織として技術者教育推進委員会がある（資料９－１－①－３）。また，教育活動を含めた機関全体の点検･評価組織として自己点検・評価委員会があり（資料９－１－①－４），自己点検・評価の結果は外部評価委員会（運営懇話会）に付される（資料９－１－①－５）。この他に，本校の教育活動に関わるものとして,学生支援委員会，教員業績顕彰,人事委員会がある（資料９－１－①－６～８）。

２．教育活動の実態を示すデータ・資料等の収集・蓄積への取り組み

旧来より学業成績等は教務委員会および専攻科委員会のもとで学籍簿として収集･蓄積されている。数年前より各授業科目の授業記録，試験の答案，成績評価一覧表等を，教科ポートフォリオとして技術者教育推進委員会が集積している（資料９－１－①－９，１０）。また，授業改善のために，学生による授業評価アンケートとその後の対話記録，オープン授業の授業参観記録（資料９－１－①－１１，１２），学生会との対話集会議事録等が収集・蓄積されている。さらに，教員の教育活動状況全般を把握するために，人事委員会が教員の活動報告書を集積している（資料９－１－①－１３）。また，学外者（卒業生，修了生，就職先企業等）からの意見聴取等は，技術者教育委員会が行っている（資料９－１－①－１４）

３．教育活動の実態を示すデータ・資料等の点検・評価

教育点検改善ループ（資料９－１－①－１５）に従い，自己点検・評価委員会が全体を統括しながら，教務委員会，専攻科委員会，学生支援委員会，外部評価委員会，人事委員会，各専門学科のプログラム運営会議，技術者教育推進委員会等が，教育活動の実態を示すデータ・資料等の点検・評価を行っている（資料９－１－①－１６～２０）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の教育活動は，全学的には教務委員会および専攻科委員会が中心となって実施しており，専門学科ごとの４つの技術者教育プログラムが活動している。４つのプログラムを統括する組織として技術者教育推進委員会が設置されている。また，教育活動を含めた機関全体の点検･評価組織として自己点検・評価委員会があり，自己点検結果は外部評価委員会（運営懇話会）に付される。さらに，学業成績は教務委員会および専攻科委員会のもとで学籍簿として収集・蓄積されている。外部審査の必要性から，数年前より各科目の授業記録や答案等をファイルした教科ポートフォリオを作成・集積しており，授業改善のための学生による授業評価アンケート，アンケートについての対話記録，授業参観記録，等々を収集・蓄積している。

教育状況の実態を把握するデータ・資料を収集・蓄積する体制が整っており，評価を適切に実施できる体制を有していると判断される。

資料９－１－①－１　教務委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校教務委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科教育課程の編成・実施に関すること。
二　本科の科目履修・成績処理に関すること。
三　授業の一環としての学校行事に関すること。
四　本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。
五　大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。
六　入学生の受入に関すること（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を。含む。）
七　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること（留学生の教育課程を含む）。
八　学生の授業評価に関すること。
九　その他本科教務に関する必要な事項

（出典：教務委員会規程）

資料９－１－①－２　専攻科委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校専攻科委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
（審議事項）
第２条　委員会は，専攻科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　専攻科教育課程の編成・実施に関すること。
二　専攻科学生の履修・学位申請に関すること。
三　専攻科入学者選抜の基本方針に関すること。
四　専攻科入学者選抜の運営に関すること。
五　その他専攻科教育に関する必要な事項

（出典：専攻科委員会規程）

資料９－１－①－３　技術者教育推進委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校技術者教育推進委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，技術者教育の推進と点検・評価に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一学習・教育目標に関すること。
二学習・教育目標達成度の総合評価に関すること。
三教育課程の基本方針に関すること。
四教育課程の点検・評価に関すること。
五ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の基本方針に関すること。
六認証評価機関の認証評価及び日本技術者教育認定機構（JABEE)の認定審査等に関すること。
七その他技術者教育の推進に関する必要な事項

（出典：技術者教育推進委員会規程）

資料９－１－①－４　自己点検・評価委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程　　平成 19 年２月８日制定
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議するものとする。
一　自己点検・評価の項目に関すること。
二　自己点検・評価の実施に関すること。
三　自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関すること。
四　自己点検・評価の結果の活用に関すること。
五　その他自己点検・評価に関すること。

（出典：自己点検・評価委員会規程）

資料９－１－①－５　外部評価委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校外部評価委員会規程　　平成 17 年３月 30 日制定
第２条　委員会は，高松工業高等専門学校の自己点検・評価を踏まえ，今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため，第３条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。
一　教育理念，目的，目標及び方針に関すること。
二　教育活動に関すること。
三　学生支援に関すること。
四　研究及び地域連携に関すること。
五　国際交流に関すること。
六　管理運営及び施設整備に関すること。
七　その他委員会が必要と認める事項

（出典：外部評価委員会規程）

資料９－１－①－６　学生支援委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校学生支援委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，学生支援に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の課外教育に関すること。
二　学生の規律保持に関すること。
三　学生の保健衛生・福利厚生に関すること。
四　学生による教育環境評価・学生自身の自己評価に関すること。
五　学生の要望聴取・各種支援に関すること。
六　学生の進路支援に関すること。
七　その他学生活動及び学生生活に関する必要な事項

（出典：学生支援委員会規程）

資料９－１－①－７　教員業績顕彰規程（抜粋）

１　趣旨
　本校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに本校の管理運営や社会貢献にも果たすべき役割がある。このような観点から，顕著な業績を上げている教員を顕彰することにより，本校における教育研究の充実・向上とともに，地域社会への貢献を目指すものである。
２　顕彰基準
　本校における教育（学生支援），研究，校務，社会貢献等において，顕著な業績があったと認められる者（３名程度）とする
４　選考方法
　校長・３主事が，候補者案を作成し，人事委員会に諮る。

（出典：教員業績顕彰規程）

資料９－１－①－８　人事委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校人事委員会規程　　平成１４年４月４日制定
第２条　委員会は，校長の諮問に応じ，教員の選考に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　教員配置計画の基本方針に関すること。
二　教員採用・昇任に関すること。
三　教員貢献度の点検・評価に関すること。
四　教員の表彰に関すること。
五　その他教育・研究に係る人事に関すること。

（出典：人事委員会規程）

資料９－１－①－９　教員の手引き（抜粋）

＜教科ポートフォリオの作成と保管について＞

技術者教育認定機構（JABEE）の審査，学校教育法に基づく機関別認証評価その他の資料として，授業科目の実施記録を教科ポートフォリオとして集積，保管する。

１．対象科目

本科および専攻科で実施する全科目を対象とする。対象学生の所属学科等に関わらず，各科目の実施クラスごとにまとめて作成することを基本とする。

２．集積・保管する対象

下記資料に，中表紙（別紙書式）と当該科目シラバスをつけ，口取紙をつけて整理する。

(1) 授業実施記録

授業実施ノート，授業実施日程表等の実施日と実施内容を示す記録物。

(2) 総合成績算出資料

最終総合成績の算出方法の説明（各試験や提出物等の比率，総合成績算出式等)。

総合成績算出の集計表，一覧表等。

(3) 定期試験の問題用紙と担当教員による模範解答

各期ごとの答案の先頭に添付する。問題用紙に模範解答が記されている場合は　問題用紙の添付は必要ない。

(4) 定期試験の答案

各期ごとの答案のうち，(a) 優良な答案の数例，(b) 合格最低クラス(60 点台)の答案の全て，(c) 不合格(60 点未満)の答案の全て，を整理してまとめる。

(5) 成績評価に使用した提出物等

定期試験以外で成績評価に使用したレポート等の提出物で最終総合成績に占める比率の高いものは、(4) に準じる。造形物等のファイル困難なものは写真等でも可。

(6) その他，配布物，副教材等

３．同一科目で同一教員が複数のクラスを担当する場合の処置

授業内容がほぼ同一であり，１ファイルに収納できる分量であれば，複数のクラス分をまとめて一つのポートフォリオとしても良い。

４．提出時期

５月末までに前年度分を学科でまとめて下記保管場所へ提出する。非常勤教員が担当する科目は窓口教員または教務係へ資料を提出して頂き，窓口教員が５月末までに提出する。

５．保管場所

専攻科棟１階のポートフォリオ保管室（各科割り当ての棚)。

６．保管期間

５年。

７．その他

追加の整理，教科の参考等の目的で，保管場所から一時的に持ち出す場合は，その旨を保管棚の当該位置に明示するものとする。

（出典：教員の手引き）

資料９－１－①－１０　授業ポートフォリオ写真



（出典：授業ポートフォリオ写真）

資料９－１－①－１１　学生による授業評価に対する対話報告書（例）

平成１８年度　授業評価対話報告書（教員用）

「学生による授業評価」を受けた教科について、その結果を教科担当教員から学生に知らせるとともに、学生との対話をしてください。学生側からは、アンケートを取っても一向に改善が無いのではないかとの声も聞かれるため、教員側からの改善努力の一環として不可欠と考えております。以下の欄にご記入押印の上ご提出をお願いいたします。

なお、前期科目等で学生との対話が実施できない場合も、授業評価結果についてのご意見等をご記入の上、ご提出ください。

（１）提出場所：教務係
（２）提出期限：１１月１０日（金）１７時

教科名	担当教員	クラス
国語	坂本具償	学科：一般教育科 学年：　２　年
対話日時	２００６年　１０月２３日（月曜日）　３コマめ	

対話の主な内容を以下に記入してください。（箇条書きが望ましい）

評価の集計結果と、さらに学生が記述してくれた不満・要望に関するもの全てを記録し、印刷したものを配布して対話した。以下、丸数字で示したものは、不満・要望の主なもの。回答は、学生に回答した内容を記す。

①テストの問題が難しい。

②漢字のテストをもう少し簡単にしてほしい。

回答　定期テストに関しては総合点が平均７０点を超えている（２Ｓ７６．２点）ので、今のところレベルを下げることはできない。漢字のテストについては、一定の範囲内からの出題であり、かつ出題形式も一部を除いてほぼ同一なので、努力してほしい。簡単にはならない。

③一画一画丁寧に書いてほしい。

回答　できるだけ続け字にならないように書きたいと思う。忘れているときは指摘してほしい。

④提出物を忘れた際、半分でもいいので後で出した際、点をくれるようにしてほしい。

回答　提出物の種類による。解答の解説をした後に出されても、それは評価できない場合もある。提出物というのは、本来、期限は厳しくあるべきもの。

⑤読書の時間に読む文章に関して。最近の作家のものも入れてほしい。文章が難しすぎるときがある。様々なジャンルの文章を取り入れてほしい。有名なものも読みたい。

回答　内容の難易度、ジャンル、など、できるだけよく考えて選びたいと思う。

回答に関してはおおむね了解してくれたように感じている。

（出典：授業対話報告書）

資料９－１－①－１２　教職員・保護者の授業参観報告

平成１８年度オープン授業実施要領

教務主事

以下の要領にて実施する。

（1）日時：平成１８年５月１５日（月）～５月２０日（土、月曜日の授業実施）
１時限～８時限

（2）対象学年：全学年、全学科、専攻科

（3）実施方法：
① ５月１５日（月）～１９日（土）までは、教員同士の授業参観を主とするが職員保護者の方にも公開する。
② ５月２０日（土）については、保護者の便宜を図るため平常授業（月曜日の授業をする）とする。

（4）実施報告：
以下の実施報告書を教務係に５月３０日（火）までに提出する。実施報告書の様式は教務係にて用意する。
○オープン授業報告書（教員用）
教員が他の先生の授業を参観してのアドバイス・感想、また自らの授業実施報告をする。
○オープン授業報告書（保護者、職員用）
保護者及び本校職員が参観しての感想などを報告する

（以上）

2006.6.1

２００６年度　オープン授業実施報告

教務主事

２００６年５月１５日～５月２０日に実施したオープン授業の実施報告（教員のみ）、参観報告について、報告件数および記載内容のうちの一部を以下の如く報告します。

１．報告書の件数など

教員からの授業実施報告書　及び　教職員・保護者からの参観報告書の件数などを以下に示す。職員からの報告者がなかったのは残念である。

参観された保護者数５６名のうち１年生の保護者が３８名と大半を占めている。１年生の保護者には入学時に教育後援会総会で直接連絡し、１～３年生には４月末に文書で、４年生以上はモバイルキャンパスで学生を通じて案内したが参加者は半減した。

来年以降実施時期、保護者への周知方法を考える必要がある。

学科名	実施報告(教員のみ) 報告者数		参観報告（教員分） 報告件数		報告者数	
	H17年度	H18年度	H17年度	H18年度	H17年度	H18年度
一般	１７	１５	３５	３６	１６	１７
機械	１１	１０	３３	２６	１１	１１
電気情報	１１	９	２０	１３	１１	９
制御情報	１１	１１	２６	２０	１１	１１
建設環境	１０	９	２８	２１	１０	９

学年	保護者 参加者数 H18年度	報告件数（全学年） H17年度	H18年度	参観報告（校長先生・職員分） 報告件数 H17年度	H18年度	報告者数 H17年度	H18年度
１年	３８						
２年	１６	（５５）	（３６）	（２１）	（　１）	（１２）	（　１）
３年	２						
４年							
５年							

２．参観報告書の内容（一部のみ）

参観報告書の内容の一部を以下に記す。

・保護者からは、来年も実施してほしい。
・保護者の参観報告書は概して遠慮がちに書かれているようだが、学生の態度について懸念されることも記されている。
・教員の参観報告書では、指摘する部分は率直に記入されている。
・他教員の授業を参観することは、自らの授業の参考となったとの感想が多い。
・授業参観も３年目になり、実施方法再検討の指摘がある。

（以上）

- 1 -

（出典：オープン授業参観報告書）

資料９－１－①－１３　教員の活動報告書等実施要領（抜粋）

平成１８年5月３０日

教 員 各 位

学 校 長

教員の活動報告等について

このことについて、教育・研究等の活動を把握したいので、下記により、「教員の活動報告書」「研究業績報告書」を作成の上、平成１８年6月１３日（火）までに人事労務係にメールで提出願います。
また、「高松高専ホームページ」に掲載している「教育研究活動データベース」については、平成１８年6月３０日（金）までに更新願います。

記

１ 教員の活動報告書

各 自

① エクセルの回答用紙に点数・記述等について入力

② 入力後、メールで回答用紙を、6月１３日（火）までに人事労務係に送信

③ 入力後、印刷した回答用紙を、6月１３日（火）までに各学科長に提出

学科長

④ 提出された回答用紙の学科長評点記入欄に、点数を記入の上、学科分を取りまとめ、6月２０日（火）までに人事労務係に提出、取りまとめ後校長に提出

校 長

⑤ 学科長から提出された回答用紙の校長評点記入欄に、点数を記入の上、6月２７日（火）までに人事労務係に提出

集 計

⑥ 個人の集計結果については、各人にフィードバックします。

⑦ 全体の集計結果は、統計データ（５段階評価等）で公表します。

（出典：教員の活動報告書等実施要領）

資料９－１－①－１４　卒業生・企業に対するアンケート

企業および専攻科卒業生への技術者教育に関するアンケート結果

技術者教育検討委員会委員長　山 内 庄 司

去る11月に，専攻科卒業生およびその受け入れ企業を対象にして，アンケート調査を行った。当校での学習・教育の結果が社会からどのような評価を受けているかを知り，今後の改善に役立てることが目的である。以下にその結果の概要を示す。

依頼先は専攻科１～４期生の就職先企業等４２社と卒業生８０名であり，回収率は企業47.6%，卒業生28.7%であった。卒業生の回収率が低いのは，現住所不詳者が多く，手元にアンケートが届かなかったためと思われる。アンケートの集計結果を表１および表２に示す。

学習・教育目標に掲げた資質・能力について，卒業生からは受け入れ企業よりやや厳しい評価が寄せられているが，いずれも概ね普通以上との高い評価が寄せられていると判断できる。とりわけ「知識」に関しては高く評価されている。その一方で，「コミュニケーション力」に関してはいずれもやや低めの評価となっており，特に卒業生本人の評価は厳しいものとなっている。

分野ごとの知識と能力に関しては，「専門技術」「情報処理」および「自然科学基礎」に関しては，ほぼ問題ない評価を受けているが，「人文・社会科学」および「語学」に関しては，評価が低く，特に卒業生本人からは不十分との評価が多く寄せられている。

また，企業アンケートの項目２(２)，３および卒業生アンケートの６(２)，７，８について自由形式で意見を寄せて頂いた。紙面の都合で詳細は割愛するが，その概略を以下に記す。

(1) 過半数の卒業生が英語の語学力または会話力の不足を訴えている。卒業生が英語の必要性を痛感していることが伺える。また企業からも同様の意見が多い。

(2) 企業からは日本語でのコミュニケーションの大切さ，文章力や交渉力を求める意見が多い。

(3) 企業および卒業生の双方から，企業や社会全体を見る広い視野や社会人としての常識，人文社会系の知識の必要性を訴える意見が寄せられている。

(4) 企業および卒業生ともに専門の知識と能力について高く評価する意見が多い。特に卒業生からは，実験実習等を通じた実践的知識を評価する意見が多い。数学・物理等の基礎知識の不足を訴える意見が少し見られる。

(5) 卒業生からは卒業研究，特別研究の経験や学会での発表経験を高く評価している意見が多い。

今回のアンケートでは，当校での学習・教育が概ね妥当であるとの評価を受けていると判断されるが，英語を含めたコミュニケーション力等の面では大きな課題があることも分かった。これらの結果を，今後の教育システム改善に役立てて行きたいし，また，在校生諸君にもこれを大いに参考にして頂き，一層の勉学･学習に励んで欲しいと願っている。

（出典：高専だより）

資料９－１－①－１５　教育点検改善ループ

学習・教育の点検・改善システムについて

教育システムの点検および改善は，別図の体制で実施する。

(1) 校長を議長とする企画運営会議が本校の全ての活動を統括する。

(2) 将来計画委員会は，本校の長期にわたる計画，将来像について検討し立案する。

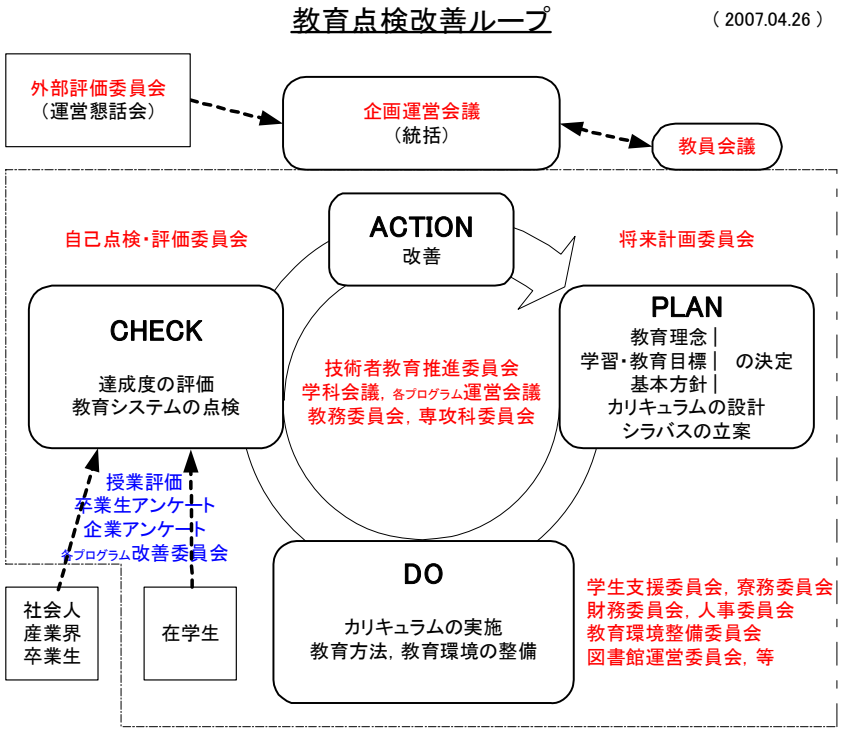
(3) 学内に本科各学科４，５学年および専攻科両専攻・各コースを通じた複数の技術者教育プログラムを設け，各分野での技術者教育推進と改善に当たる。

(4) 技術者教育推進委員会はそれら技術者教育プログラムをまとめ，本科 1～３学年を含めて本校全体の技術者教育の基本計画に当たる。

(5) 専攻科委員会および教務委員会は基本計画に沿って，その具体化と実現に関する全学共通の事項を検討して実施する。各学科，各プログラムに関する事項は，各プログラム運営会議（または各学科）が検討し実施する。特定の施設または特定の問題に関わる事項は，対応する学内各委員会等が検討し実施する。学内各委員会等は実施結果を点検し改善する。

(6) 自己点検・評価委員会は，学習・教育システム全体に関して点検と評価を実施し，問題点の指摘，改善策に関する勧告等を行う。

(7) 企画運営会議は自己点検・評価委員会の点検結果等を受け，それを外部評価委員会へ提出し，第３者からの点検・評価を受ける。



（出典：技術者教育推進委員会議事録）

資料９－１－①－１６　教員の活動報告書の提出依頼

５月３０日

教　員　各　位

学　校　長

教員の活動報告等について

このことについて、教育・研究等の活動を把握したいので、下記により、「教員の活動報告書」「研究業績報告書」を作成の上、平成１８年６月１３日（火）までに人事労務係にメールで提出願います。

また、「高松高専ホームページ」に掲載している「教育研究活動データベース」については、平成１８年６月３０日（金）までに更新願います。

記

１　教員の活動報告書

各　自

① エクセルの回答用紙に点数・記述等について入力

② 入力後、メールで回答用紙を、６月１３日（火）までに人事労務係に送信

③ 入力後、印刷した回答用紙を、６月１３日（火）までに各学科長に提出

学科長

④ 提出された回答用紙の学科長評点記入欄に、点数を記入の上、学科分を取りまとめ、６月２０日（火）までに人事労務係に提出、取りまとめ後校長に提出

校　長

⑤ 学科長から提出された回答用紙の校長評点記入欄に、点数を記入の上、６月２７日（火）までに人事労務係に提出

集　計

⑥ 個人の集計結果については、各人にフィードバックします。

⑦ 全体の集計結果は、統計データ（５段階評価等）で公表します。

２　研究業績報告書

・研究業績報告書を作成の上、６月１３日（火）までに人事労務係にメールで送信願います。

・著書・論文・研究発表等（本校研究紀要を含む）、業績と考えられるものは、すべて記入してください。

・報告書はエクセル様式ですが、３研究業績（研究論文等）以降の項目（２頁目の内容）については、別様式（様式自由、Ａ４縦、横書き、PDF ファイル）で作成し、提出可能です。

＊作成等に関し、不明な点は人事労務係にお問い合せください。

（内線　３８１２　メールアドレス jinji@takamatsu-nct.ac.jp）

(出典：総務課資料)

資料９－１－①－１７　学生による授業評価集計表

学生による授業評価の公開

高松高専においては、毎年学生による授業評価を実施してきましたが、この度、その
結果をホームページを通じて学外にも公開することとしました。その趣旨として情報公
開の一環であると同時に、公開により授業改善を促進させる狙いがあります。
高松高専
本科（１年生～５年生）と専攻科１，２年において実施したものについて公開します。
各教科について、その授業を受けたクラスの５段階評価での平均点を質問項目ごとに
表形式で表示しています。
クラス表示は本科については、はじめの数字が学年、次の表示が学科を表しており、
Ｍ：機械工学科、Ｅ：電気情報工学科、Ｓ：制御情報工学科、Ｃ：建設環境工学科を
あらわします。

例：４Ｍ（機械工学科４年）

平成１６年度	本科授業評価	専攻科授業評価
平成１７年度	本科授業評価	専攻科授業評価
平成１８年度	本科授業評価	専攻科授業評価

（出典：高松高専ＨＰ）

資料９－１－①－１８

学生による授業評価アンケート

平成 18 年度　学生による授業評価アンケート

教務委員会

このアンケートは，教員の授業の質的向上をはかる目的で行うもので，学生個人の名前が出て不利になることはありません．

〔記入要領〕
1．マークシート方式です．HB の鉛筆（シャープペンシル）で記入してください．
2．マークシート右端のマーク例（よい例，悪い例）を参考にして，正確にマークしてください．
3．〔年〕，〔クラス〕，〔番号〕欄にマークしてください．
〔年〕：学年をマークしてください．
〔クラス〕：混合学級の場合はクラスの番号を，専門学科の場合は下記の番号をマークしてください．
5：機械工学科
6：電気情報工学科
7：制御情報工学科
8：建設環境工学科
〔番号〕：クラスの出席番号をマークしてください．
（〔区分〕，〔氏名〕，〔月日〕欄は記入する必要はありません）
4．担当教員が指示する５桁の教科番号を，26～30 の欄にマークしてください．
5．各評価項目に対し下記の５段階で評価をマークしてください．
5：よくあてはまっている（非常に良い）
4：大体あてはまっている（良い）
3：まずまずである（普通）
2：あまりあてはまっていない（あまり良くない）
1：全くあてはまっていない（良くない）
6：わからない，該当しない
6．このアンケート用紙は，マークシートとともに回収します．

授業評価項目
担当教員が指定する A～D のいずれかの各項目に対して回答してください．

A　座学の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，説明がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 学習内容の提示（黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字）はわかりやすい．
6. 評価方法（試験問題等）が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 授業内容を十分理解できた．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に記述してください．

B　芸術系科目の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 題材の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 授業内容を十分理解できた．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に記述してください．

C　保健体育の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 実技種目の選定やレベル（分量）が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

D　実験実習系科目の評価項目（14 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員（技術職員）の指導，話し方が適切である．
5. 課題（テーマ）の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. 報告書の内容や書き方についての添削指導が適切である．
10. 装置，器具，消耗品などは，実験実習を行うのに満足な状態であった．
11. この授業に興味が持てた．
12. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
14. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

E　設計製図系科目の評価項目（13 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員の指導，助言が適切である．
5. 課題の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 提出した設計書，図面等に対する添削指導は適切であった．
9. CAD 装置または製図器具などは，設計製図を行うのに満足な状態であった．
10. この授業に興味が持てた．
11. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

（出典：平成１８年度学生による授業評価アンケート）

資料９－１－①－１９　国立高等専門学校機構教員顕彰の推薦に要するアンケート（抜粋）

教員の教育業績等評価実施要領

第１部　教員の自己評価

自己評価項目についての留意事項

(1) 多くの項目は５年間の平均値を基に記入して下さい。
(2) 着任後５年未満の教員は，その年数の平均値を基に記入して下さい。
(3) 完全にあてはまらないような設問，回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
(4) 小数点が出るような場合，四捨五入して下さい。

配点

A．授業等の担当 **[４９]**

１．授業について **[６]**

（１）週当たりの授業単位時間数はどれだけですか？最近５年間の平均値で答えて下さい。（１単位時間；約 50 分。実験，実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。）
１）１５単位時間以上：[３点]
２）１２～１４単位時間：[２点]
３）１１単位時間以下：[１点]

（２）正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？（不定期に実施しているものを含む。）
１）進学・就職希望者，資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：[３点]
２）進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：[２点]
３）達成度の低い学生についてのみ実施している：[２点]
４）正規の授業で十分理解されていると自信をもっているので，補習授業は行っていない：[１点]
５）補習授業をまったく考えていない：[０点]

２．授業内容・方法 **[１１]**

（１）シラバスはありますか？また，有効に利用していますか？
１）シラバスの内容を学生によく説明し，講義や成績判定に利用している：[３点]
２）シラバスはあり，およその目安としている：[２点]
３）シラバスはあるが，あまり利用していない：[１点]
４）シラバスはまだ作成配布していない：[０点]

（２）教科書及び参考書は使用していますか？
１）自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：[３点]
２）標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：[２点]

1

（出典：実施要領）

資料９－１－①－２０　技術者教育プログラム自己点検書

［プログラム内ルール］
- ［教育改善会議要項］
- ［履修修了要項］
- ［履修修了要項細目］
- ［編入学取扱要項］
- ［編入学実施細目］
- ［認定単位要項］
- ［教育業績顕彰要項］
- ［改善評議会要項］

高松高専 メカトロニクスプログラム

HELP

2006自己点検書（本文編）

Last Modified: 2006/12/08

目　次

メカトロニクスプログラムの学習教育目標

メカトロニクスプログラムPDCA組織図

プログラム情報

（1）高等教育機関名： 高松工業高等専門学校

（2）プログラム名： メカトロニクスプログラム

（3）学位名： 学士（工学）

（4）連絡先： 香川県 高松市 勅使町 355

（5）プログラム関係数値データ

プログラム概要

前回受審時からの改善・変更点

自己点検結果（表1）

1. **基準1：** **学習・教育目標の設定と公開**　**表2改**　**表3改**
2. **基準2：** **学習・教育の量**　**表4改**　**表5**
3. **基準3： 教育手段**
   - 3．1　入学および学生受け入れ方法
   - 3．2　教育方法　表6改
   - 3．3　教育組織　表7*　表8*
4. **基準4： 教育環境**
   - 4．1　施設，設備
   - 4．2　財源

4．3 学生への支援体制

5．基準5： 学習・教育目標の達成　確認表9b　表9

6．基準6： 教育改善

6．1 教育点検　全学PDCA　プログラムPDCA

6．2 継続的改善

7．分野別要件　分野別要件自己点検票

＊：表7，8は個人情報を含むため，Web版では非公開とする。

このページ関するご意見・ご感想などはこちらへ→ SE@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：高松高専ＨＰ（制御情報工学科））

観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケート（資料９－１－②－１，２）は平成７年度以降毎年行われており，平成１５年度以降は,アンケート結果に基づく学生との対話が実施されている(資料９－１－②－３)。対話報告書は教員，学生双方から提出され（資料９－１－②－４），授業の実施状況や改善状況が把握されている。また，アンケート集計結果に対する分析も行われている（資料９－１－②－５)。さらに，学生の授業評価が低い授業担当者には，授業改善実施報告書の提出を求めている（資料９－１－②－６)。

学生会役員学生と教務主事，学生主事との対話が毎年開催されており，その概要は学生会新聞で周知され（資料９－１－②－７），学生会から指摘された改善要望事項は，各種委員会で取り上げられ，可能な部分から改善が実行されている（資料９－１－②－８)。これらの学生の意見は，自己点検・評価に反映されている（資料９－１－②－９)。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校では，学生による授業評価アンケートが毎年行われている。教員には，アンケート結果に基づく学生との対話が義務付けられており,対話報告書は教員側，学生側双方から提出される。さらに,学生の授業評価が低い授業担当者には，授業改善実施報告書の提出を求めている。

学生会役員学生と教務主事，学生主事との対話が毎年開催されており，学生会側から改善の要望，学校側から改善された点の説明を行っている。以上のことは，教育の状況に関する自己点検・評価に反映されている。

資料９－１－②－１　学生による授業評価アンケート

C　保健体育の評価項目（12 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 話し方が明瞭で聞き取りやすい．
5. 実技種目の選定やレベル（分量）が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. この授業に興味が持てた．
10. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
11. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

D　実験実習系科目の評価項目（14 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員（技術職員）の指導，話し方が適切である．
5. 課題（テーマ）の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 安全面に対する事前注意や配慮が行われている．
9. 報告書の内容や書き方についての添削指導が適切である．
10. 装置，器具，消耗品などは，実験実習を行うのに満足な状態であった．
11. この授業に興味が持てた．
12. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
14. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

E　設計製図系科目の評価項目（13 項目）
1. 当初，ガイダンスが行われ，シラバスに沿って実施されている．
2. 授業の組み立て方が良く，指導内容（指導書）がわかりやすい．
3. 授業を進める速さが適切である．
4. 教員の指導，助言が適切である．
5. 課題の選定が適切である．
6. 評価方法が適切である．
7. 疑問点について質問しやすい．（放課後を含む）
8. 提出した設計書，図面等に対する添削指導は適切であった．
9. CAD 装置または製図器具などは，設計製図を行うのに満足な状態であった．
10. この授業に興味が持てた．
11. 総合的に判断して，この授業は何点ですか．（５段階評価）
12. この授業におけるあなたの授業態度，取り組みの自己評価は何点ですか．（５段階評価）
13. この授業全般について感じていることをマークシート裏面に自由に書いてください．

（出典：平成１８年度学生による授業評価アンケート）

資料９－１－②－２　学生による授業評価アンケート実施時期の教務委員会議事録

第２回教務委員会［5/26（水）］議事録

１．教員の手引きについて
・「手引き」の大学入学資格検定の証明内容について、今回の手引き改正の趣旨に反する以前の表現が残ったままとなっており、早急に修正差し替えをする必要がある。
・ほかにも修正をする箇所がある。
・学生便覧についても改訂を進める。
・手引き、便覧について他に気づいた点があれば主事まで連絡

２．教務事務システムの進捗状況
・毎月曜日に関係者で連絡会を開いている。
・新旧システムの成績出力結果（帳票）の照合を中間試験期間をめどに行いたい。
・データ入力外注、メンテナンスなどに必要な予算（200万程度）を校長に申し出済み

３．オープン授業報告書の取り扱いについて
・参観報告については、昨年と同様各教員に渡す予定。（ただしコピーを教務で保存する）
・JABEE関連で学科で報告内容を公開する等の場合には、校長、教務主事に連絡をすること。（これに限らず、教員の評価に関係することを公開する場合には、同様の措置をとること）

４．学生による授業評価について
・今年度も10～11月（？）に、昨年同様担任によってアンケートを行う予定。（項目については検討する）
・評価する教科（各教員１教科）は、なるべく昨年と違う教科から教務主事補で決定する。
・評価2.5未満の教員については改善策を考える。（低い評価を教員にどうやってフィードバックするかは重要な問題であり、引き続き検討する。）
・授業がわかりにくくても、高い得点を出せば評価があがるのでは？=>今後調査する方針
・アンケートを学生側の学習意欲の向上につなげられないか、という意見があった。

５．体育祭の再順延について
・再順延の経過について主事から説明があった。
・今年度は連休が挟まり準備の時間が十分とれなかったことから、来年度は体育祭の日程をやや後ろにずらし、再順延はしない方針。
・ライン引きの効率化を検討。

--
****
高橋宏明　(Hiroaki TAKAHASHI)

郵便番号　761-8058
香川県高松市勅使町355
高松工業高等専門学校
一般教育科　数学

TEL: 087-869-3855　(直通)
FAX: 087-869-3819　(庶務課)
E-mail: htaka@takamatsu-nct.ac.jp
****

（出典：教務委員会議事録）

資料９－１－②－３　学生による授業評価アンケートによる対話報告書が初めて開始されたときのメール

taketani

送信者：　"Hideyuki Takabatake" <takahide@takamatsu-nct.ac.jp>
宛先：　<kyokan@takamatsu-nct.ac.jp>
Cc:　<taketani@takamatsu-nct.ac.jp>; <tujii@takamatsu-nct.ac.jp>; <kyuasa@takamatsu-nct.ac.jp>; <tanimoto@takamatsu-nct.ac.jp>; <miyoshi@takamatsu-nct.ac.jp>
送信日時：　2003年 9月 26日 金曜日 午前 11:19
添付：　学生による授業評価実施要領（担任用）.doc; H15授業評価一覧表.xls
件名：　（依頼連絡）学生による授業評価の実施について

担任各位へ（CC：全教官、教務関係職員）
学生による授業評価を担任を通じて実施して頂くことになりました。１０月２日の試験終了日あるいは3年生以下の場合は後期第1週（10月6日～10月10日）のHR時間などを利用してください。学生による授業評価実施要領（担任用）と授業評価実施一覧表を添付ファイルとしてお送りしますので利用してください。学生に配布する「学生用の授業評価実施要領」と「マークシート」は９月３０日には教務係にて用意しておきますので取りに来て下さい。

学生による授業評価実施要領（担任用）に記載しておりますが、アンケート回収後、評価結果が集計された後に、以下のことを実施する（実施日は後日連絡します）ことになりましたので、学生に口頭でお知らせ下さい。これらの点でご不明な点は教務主事補、教務主事にお尋ね下さい。

（1）教科担当教官は、後日、授業評価の結果について授業時間の中で学生に報告するとともに、その場で学生との対話を行う。
（2）教科担当教官と学生代表2名（学級委員、HR委員）が対話報告書（後日配布）に対話内容を記載して担当教官、学生それぞれが教務係に提出する。

担任以外の教官各位にも参考のため添付ファイルをお送りします。

教務主事　高畑秀行
Email:takahide@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：教務主事メール）

資料９－１－②－４　学生による授業評価に対する対話報告書（例）

平成１８年度　授業評価対話報告書（教員用）

「学生による授業評価」を受けた教科について、その結果を教科担当教員から学生に知らせるとともに、学生との対話をしてください。学生側からは、アンケートを取っても一向に改善が無いのではないかとの声も聞かれるため、教員側からの改善努力の一環として不可欠と考えております。以下の欄にご記入押印の上ご提出をお願いいたします。

なお、前期科目等で学生との対話が実施できない場合も、授業評価結果についてのご意見等をご記入の上、ご提出ください。

（１）提出場所：教務係
（２）提出期限：１１月１０日（金）１７時

教科名	担当教員	クラス
国語	坂本具償	学科：一般教育科 学年：　２　年
対話日時	２００６年　１０月２３日（月曜日）　３コマめ	

対話の主な内容を以下に記入してください。（箇条書きが望ましい）

評価の集計結果と、さらに学生が記述してくれた不満・要望に関するもの全てを記録し、印刷したものを配布して対話した。以下、丸数字で示したものは、不満・要望の主なもの。回答は、学生に回答した内容を記す。

①テストの問題が難しい。

②漢字のテストをもう少し簡単にしてほしい。

回答　定期テストに関しては総合点が平均７０点を超えている（２Ｓ７６．２点）ので、今のところレベルを下げることはできない。漢字のテストについては、一定の範囲内からの出題であり、かつ出題形式も一部を除いてほぼ同一なので、努力してほしい。簡単にはならない。

③一画一画丁寧に書いてほしい。

回答　できるだけ続け字にならないように書きたいと思う。忘れているときは指摘してほしい。

④提出物を忘れた際、半分でもいいので後で出した際、点をくれるようにしてほしい。

回答　提出物の種類による。解答の解説をした後に出されても、それは評価できない場合もある。提出物というのは、本来、期限は厳しくあるべきもの。

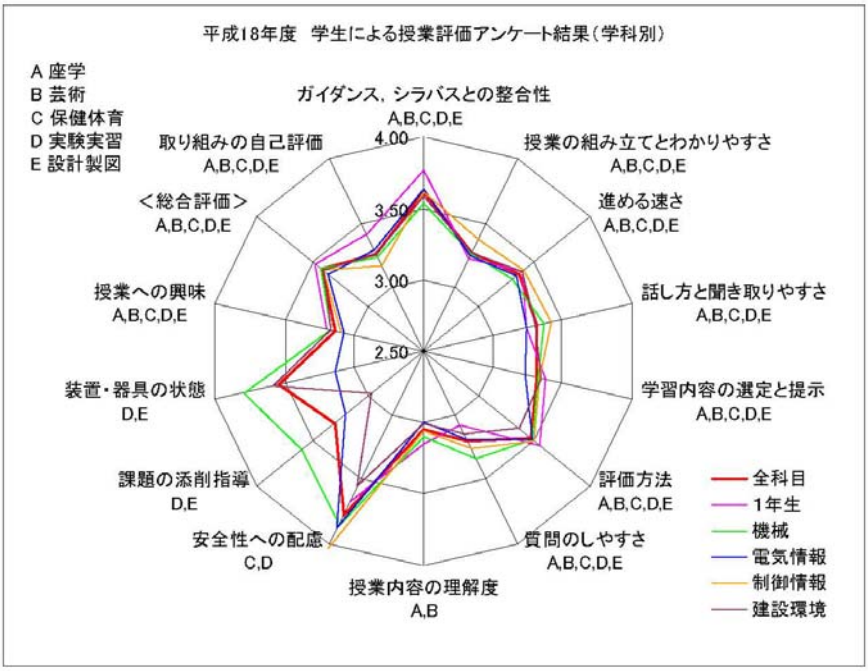
⑤読書の時間に読む文章に関して。最近の作家のものも入れてほしい。文章が難しすぎるときがある。様々なジャンルの文章を取り入れてほしい。有名なものも読みたい。

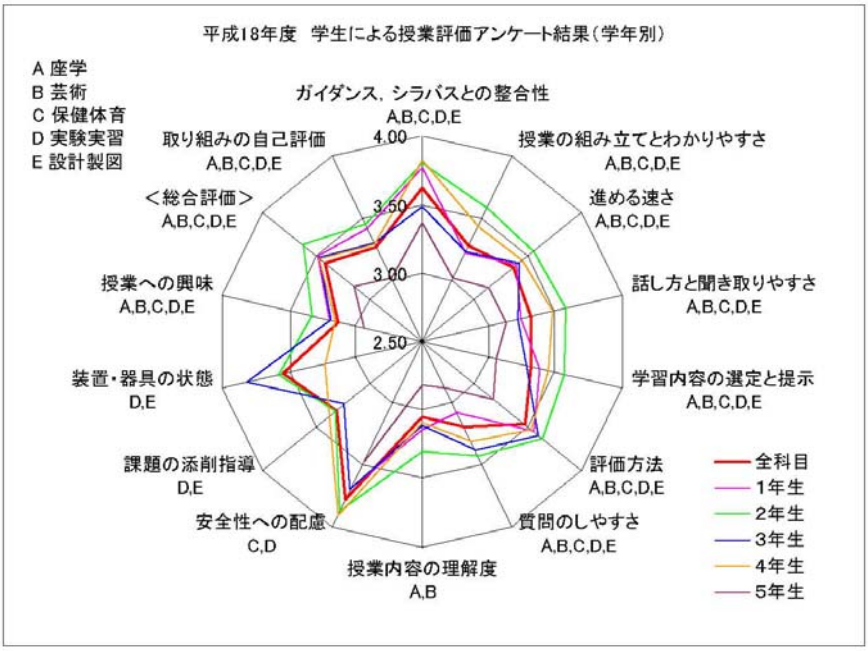
回答　内容の難易度、ジャンル、など、できるだけよく考えて選びたいと思う。

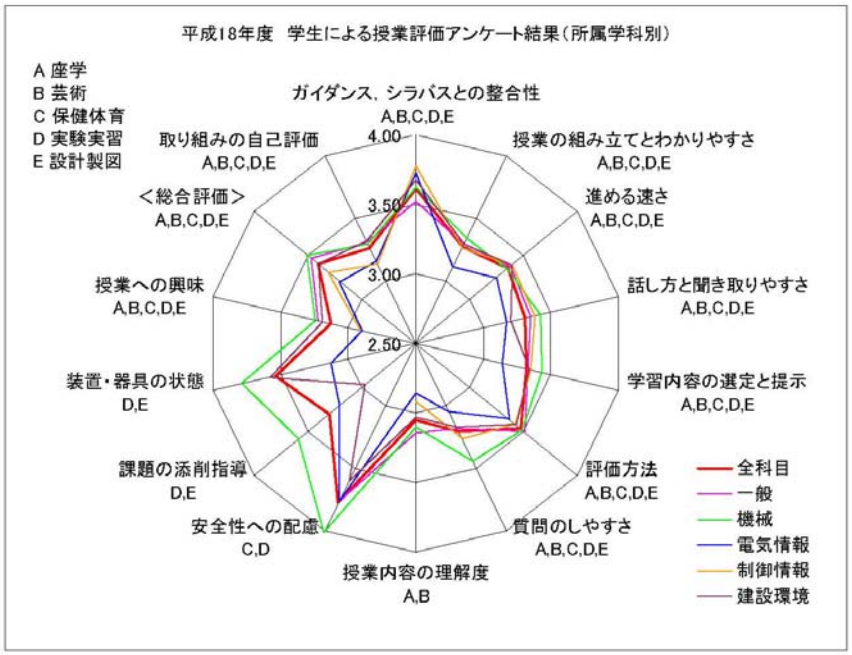
回答に関してはおおむね了解してくれたように感じている。

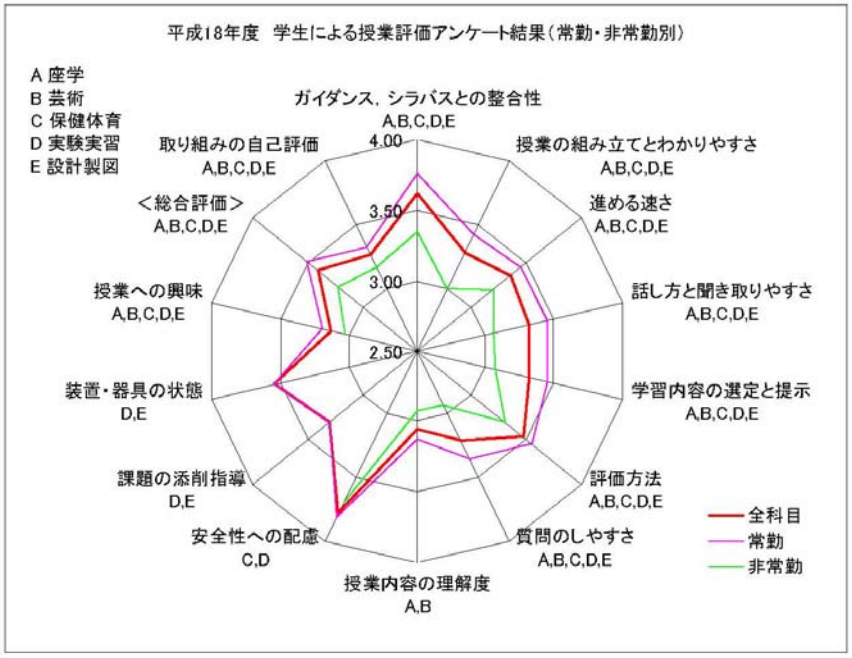
（出典：授業対話報告書）

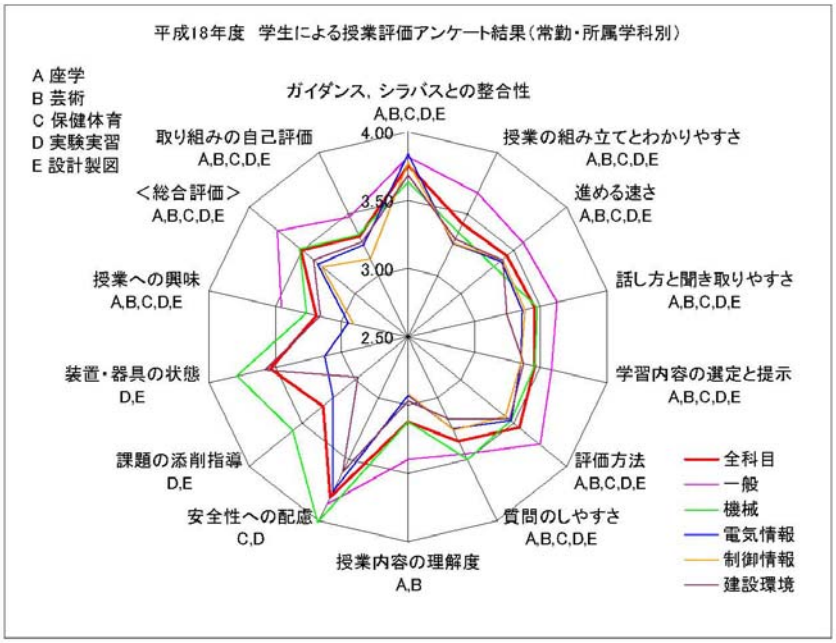
資料９－１－②－５　学生による授業評価に対する分析

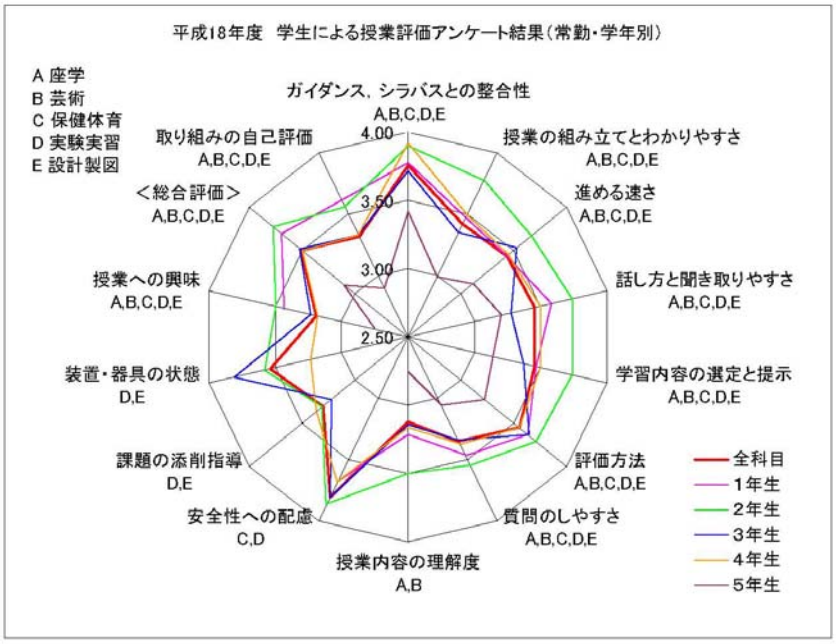





平成18年度　学生による授業評価アンケート結果（所属学科別）
A 座学
B 芸術
C 保健体育
D 実験実習
E 設計製図
ガイダンス、シラバスとの整合性
A,B,C,D,E
授業の組み立てとわかりやすさ
A,B,C,D,E
進める速さ
A,B,C,D,E
話し方と聞き取りやすさ
A,B,C,D,E
学習内容の選定と提示
A,B,C,D,E
評価方法
A,B,C,D,E
質問のしやすさ
A,B,C,D,E
授業内容の理解度
A,B
安全性への配慮
C,D
課題の添削指導
D,E
装置・器具の状態
D,E
授業への興味
A,B,C,D,E
＜総合評価＞
A,B,C,D,E
取り組みの自己評価
A,B,C,D,E
4.00
3.50
3.00
2.50
全科目
一般
機械
電気情報
制御情報
建設環境


平成18年度　学生による授業評価アンケート結果（常勤・非常勤別）
A 座学
B 芸術
C 保健体育
D 実験実習
E 設計製図
ガイダンス、シラバスとの整合性
A,B,C,D,E
授業の組み立てとわかりやすさ
A,B,C,D,E
進める速さ
A,B,C,D,E
話し方と聞き取りやすさ
A,B,C,D,E
学習内容の選定と提示
A,B,C,D,E
評価方法
A,B,C,D,E
質問のしやすさ
A,B,C,D,E
授業内容の理解度
A,B
安全性への配慮
C,D
課題の添削指導
D,E
装置・器具の状態
D,E
授業への興味
A,B,C,D,E
＜総合評価＞
A,B,C,D,E
取り組みの自己評価
A,B,C,D,E
4.00
3.50
3.00
2.50
全科目
常勤
非常勤





（出典：授業評価アンケート集計結果）

資料９－１－②－６　授業改善実施報告書

授業改善実施報告書（平成 18 年度）

学生による「授業評価アンケート」を実施した科目において，「設問：**総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)**」のクラス平均点が 2.5 未満の場合は，この授業改善実施報告書のご提出をお願いします。

教務主事

- 提出場所：教務係
- 提出期限：平成 19 年 3 月 5 日（月）17 時

授業改善への取り組みと実施報告

担当教員：　　印	
教科名：ＸＸＸＸＸ	クラス：　　○年　　○組

1. 「設問：**総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)**」のクラス平均点が 2.5 未満であることに関わると思われる要因等について書いてください。

・自由記述などの内容より以下の要因が考えられる。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。
－ 4 年次の制御工学Ⅰの内容の習得が不十分である。
－ 基礎的な数学力が付いていない学生がいる。
－ 練習・演習問題が少ない。

2. 上記 1. に対する改善策及び見解等について書いてください。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。

プリントやレポート演習などで復習させる機会を与える必要があると共に本来復習は自分で行うものであり，与えられるものではないことも学生に理解させる必要がある。実際，質問に来る学生が他の学年に比べ少ないように感じる。
また今後，場合によっては授業内容の変更も考える必要がある。

－ 4 年次の制御工学Ⅰの内容の習得が不十分である

本年度は，4 年次の制御工学Ⅰも担当しているが，昨年度は別の方が担当しておられたため，情報交換が足りなかったと思われる。　ただ，昨年度のテストの結果を見ると全員合格であり十分理解しているかのように思えたが，理解しいないところをみると，学生は単に方法・答えを覚えただけで習得していないと思われる。来年度は，本年度制御Ⅰも私が担当しているので，学生の到達度・個々の学力などについて情報不足という点は解消できると思われる。

（出典：授業改善実施報告書）

資料９－１－②－７　学生会新聞（学生会との対話集会編）

2005年度学生会新聞

2005.7.13　高松高専学生会

平成17年度第1回対話集会

今、JABEEはどうなっているのか？



今回の対話集会で、最初に話し合ったのがJABEEについてです。JABEEというのは、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムをしているかどうかを認定する非政府団体です。今は、この認定をもらおうと努力している途中です。

今年度申請したのは電気情報工学科、制御情報工学科、建設環境工学科の3学科で、それぞれ、電気情報工学コース、メカトロニクスプログラム、建設工学コースです。機械工学科は、工学一般プログラムで申請しましたが、プログラムの内容、名前が教育内容にそぐわないという理由で棄却されました。今後は、機械工学コースとしてプログラムを作り直し、来年度の申請を目指します。

今回申請した3コースは、7月末までに最終的なプログラムを提出し、JABEEと質疑応答を繰り返し、9～11月ごろに審査員を本校に呼んでの実地審査を行います。最終的に合格となれば、今年度の専攻科修了生からJABEEプログラム修了者の認定を受けます。

しかし、プログラムを申請して認定してもらうには、1コース125万円かかり、今後、このお金をどこから出すのか、などが論点となりそうです。（学生への負担はありません。）

資格の単位認定はできるのか？

現段階では、資格の単位認定は検討中です。ただ、資格を単位として認定するには、現段階でのカリキュラム、校則では難しいので変更をする必要があるということでした。

教員側としては、まだ単位を認めて欲しいという学生の要望がどのくらいの強さか分からないが、もし強いようなら次回の対話集会までには検討結果を報告できるだろうということでした。

バイクは校内を走れるのか？

7月に入ってから始まったバイクの校内徐行試験期間。現在は特に苦情もなく数回の注意で済んでいるようです。バイクの規格は、低学年は純正マフラー、純正ハンドルで、高学年は規格適合なら許可という形となっています。教員側での話し合いの結果、12月末まではバイクの校内徐行は続くことに決定しました。

しかしまだ完全解除というわけではないので、バイク通学のみなさん校内徐行徹底のご協力をよろしくお願いします。教員がいないといって油断していると門の裏などに待機していたり、教員室から見られていることもあるので、普段から徐行の習慣をつけるように心がけましょう。

90分テストはどうだったのか？

今回行った90分テストのアンケートから、「途中退室ができるのかできないのかはっきりしない」、「途中退室した学生が迷惑」など、様々な問題、苦情が数多く寄せられました。」

今回様々な問題があがった90分テストですが、とりあえずもう一度前期末試験でやってみようということになりました。その結果、どうしても苦情が多いようなら以前の状態に戻す考慮をするということでまとまりました。

90分授業は意外に好評？

90分授業に対して学生側から上がった意見に、「1コマに2教科をするのはきつい」というものがありました。この問題に対し、教員側からはそうせざるを得ないという回答がありました。とくに英語は、担当教員から45分授業をと、強い要望があったため2教科に分けざるをえなくなったとのことです。

いくつかの問題点が挙げられる90分授業ですが、全体的には教員側も、学生側も、納得しているようです。

施設は改善されるのか？

一ラーをつけれるようになりました。しかし、これからも続けるとなると、費用がかさむので少し難しいそうです。ただ、学生から電気代を徴収し、期間を延長できるようにするのは可能なので、考慮してもらうということでまとまりました。他に、不快指数が高いときにはクーラーをつけてもらうよう、考慮してもらうことになりました。9月中には返答が得られると思います。

休日の施設利用は、基本は警備員に行って鍵を借りたり、開けてもらうということになりました。トイレは、自彊会館2階が常にあいているので、そちらのトイレを使用してください。

（出典：学生会新聞）

資料９－１－②－８　教務委員会議事録（例）：各種資格の単位化について＝学生会からの提案

H18_第07回教務委員会議事録.txt

第７回教務委員会議事録

日時　平成１８年１０月１１日（水）　１６時３０分～１８時３０分
場所　第２会議室
欠席者　なし

協議事項
（１）学修単位必修得科目の未修得者の取り扱いについて
・以下の案について各科で再確認を行う。（締切：10月末）
必修得科目で前期のみ開講される科目(学修単位以外も含む）に限り、前期末の成績が未修得の学生に対して、後期に追試験等を実施して、最高60点で認定することができる。認定の締切は他の追認試験と同様1月末とする。

・学修単位の導入目的
学修単位導入の目的は以下のとおりである。
(1)学生に自学自習の習慣を身につけさせる。
(2)教員の教育研究に資するために，柔軟なカリキュラムを導入する。

・学修単位導入時の評価
来年度から学修単位を導入することに伴い、自己点検・評価が必要である。教務主事がポートフォリオ等を確認する予定であるが、それ以外に導入による効果、問題点などについて、来年度に教務委員会で報告することとする。
評価項目、報告内容などは、導入目的を踏まえて各学科で検討する。
導入によって問題が生じた場合は、改善を前提に検討するが、止むを得ない場合は、導入前の状態に戻すこともあり得る。

（２）学修単位選択科目の未修得者の取り扱いについて
必修得科目以外でも、（１）と同様に追認の仕組みを設ける必要があるか各科で確認を行う。（締切：10月末）
教務小委員会では否定的な意見が多数であった。

（３）特別学修の科目について
○「特別学修単位認定」の資料に対して以下の訂正を行う。
・工業英検、実用英検、日本語漢字検定、TOEICは、備考欄に「最も大きい単位数を修得単位とする。」と記載する。
・専門分野の資格は該当する学科を明記する。
・技術士補は、技術士補（建設分野）とし、分野を明記する。
・工業英検は専門科目、実用英検、日本語漢字検定、TOEICは一般科目として扱う。

○以下の内容が合意された。
・技術士補で建設分野以外の取得者が現れた場合は、その都度審議する。
・学修単位につける科目名は今後小委員会で検討する。
・国家試験Ⅱ種（二次）合格者については、申請があった時点で審議するものとし、受験分野を考慮して認定する。
・英語に関する資格は、来年度以降に教務に申請があったものは、新しい規定に従って単位を与える。英検準２級をはじめとして、現在よりも学生にとって不利になる場合があるので、事前の周知を徹底する。
・配布資料「高松工業高等専門学校以外の教育施設等における学修に関する規定の一部改正新旧対照表（案）」の付則２は削除する。
・特別学修単位は卒業時に認定するものとし、進級判定時には含めない。

（４）その他
１、２年生学力不振者向上策アンケートの結果をまとめた資料を教務委員宛にメールで配布した。

（記録　重田）
****
高松工業高等専門学校　電気情報工学科
重田 和弘
shigeta@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：教務委員会議事録）

資料９－１－②－９　学生の意見が反映された自己点検書

高松工業高等専門学校

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

[基準９－１]
教育の状況について点検・評価し，その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され，取組が行われており，機能していること。

観点９－１－①：教育の状況について，評価を適切に実施できる体制が整備され，機能しているか。

（観点にかかる状況）

JABEE 委員会から「主事・専攻科長・各種委員会等において，教育の改善のために様々な取り組みを行っているが，高松高専全体として統一的な改善がなされていない。」との指摘を受け，教育改善ループを高松高専全体のシステムとして確立するために平成１６年９月の企画運営会議において，学内委員会の改編について審議・検討し，評価を適切に実施できる体制を整備することになった。

学外から教育に対する意見・評価を受けるために，有識者懇話会，オープン授業，専攻科卒業生・企業アンケート等を実施している。

（分析結果）

一部問題がある。

（根拠理由）

教務主事，専攻科長を中心に教育に対する改善を行っているが，学校全体としての継続的な評価・改善システムの確立が課題である。

資料９－１－①－１　平成１６年度第６回企画運営会議「学内委員会の改編について」
資料９－１－①－２　各種委員会のシステム体制
資料９－１－①－３　自己点検報告書　各種委員会の現状と課題（平成１４年度）（平成１５年度）
資料９－１－①－４　高松工業高等専門学校有識者懇話会要項・オープン授業実施要項
資料９－１－①－５　高松高専技術者教育に関するアンケート

観点９－１－②：授業評価や満足度評価，学習環境評価，学生の意見の聴取が行われており，学生による評価結果が教育の改善に反映されているか。

（観点にかかる状況）

（a）学生による授業評価について

本校においては平成３年度に学生による授業評価を導入すべきであるとの考えが校長，教務主事から示された。当初は教員本人が自らの授業中にアンケートを取り，他の者（校長も含め）には公開せず，自らの授業改善にのみ当てるとの条件で開始し，人事評価にも使わないとのことで数年間実施した。その後，順次公開する範囲を広げ，校長・三主事のみへの公開，学科長への公開，学科内教員への公開，学生への公開，業績評価へ

の組み込みと広がっていった。現在では全教員について，必ず１科目は学生の授業評価を受けることとし，１２の質問項目について５段階の評価を受けている。平成１５年度実施分については学内限定で科目ごとの授業評価結果を公開している。

（ｂ）満足度評価，学生による評価結果が教育改善に反映されているかについて

上記学生による授業評価については，評価終了後１ヶ月以内を目処に学生に公開し科目ごとに担当教員と学生との対話を実施し，その結果を教員，学生双方から報告書を提出してもらうこととしている。５段階の総合評価で３以上の評価を大半の教員が受けており，評価：２．５未満の教員（平成１５年度で約１割の教員が該当）については改善の努力を校長から促す処置を採っている。

（ｃ）学習環境評価，学生の意見聴取について

前述の如く，授業評価を受けた科目ごとの対話と報告書の提出により学生の意見聴取をしている。また，年間２回の学生代表（学生会役員，各クラスの代表者からなる）との対話集会で授業環境，教員の授業に関して意見聴取を行っている。

（分析結果）

相応である。

（根拠理由）

学生による授業評価を約１０年実施してきたが，実施当初は担当教員以外には知らせず，自助努力に頼っていたが，学生からは一向に授業改善がなされていないとの声が聞こえるようになり，改善の必要性があるとの認識に至った。改善方法としては公開する範囲を広げることにより教員の改善努力を促すこと，学生の意見を担当教員に直接伝える機会を設けること，つまりクラスの学生全員と科目担当教員との対話とその報告書の双方からの提出義務などを実行した。学生と担当教員との直接対話については平成１５年度から実行したため，その改善効果の判定が十分ではなく，分析結果として「優れている」との判定には達しなかった。また，平成１６年度においては，本校ホームページにて外部に対しても評価結果を公開予定であり，教員の改善努力を更に促す効果があるのもと期待している。

資料９－１－②－１　平成１６年度　学生による授業評価実施要領・実施科目
資料９－１－②－２　平成１５年度　学生による授業評価実施要領・実施科目
資料９－１－②－３　平成１５年度 授業評価結果（５段階評価）
資料９－１－②－４　平成１５年度 授業評価対話報告書（教員・学生用）
資料９－１－②－５　平成１５年度，平成１６年度学生代表との対話集会

[基準９－２]
教員の資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

観点９－２－①：ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

（観点にかかる状況）

最近５年間においては，毎年外部講師を招聘してＦＤに関連する講演を開催しており，全教員を対象としている。毎年７月と８月の２回，学生指導研究会（１回目は全教員参加，２回目は担当教員のみ参加）を開

（出典：高松工業高等専門学校有識者懇話会議報告書）

観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

各専門学科主催の卒業生・修了生との懇話会が開催され意見の収集が行われており（資料９－１－③－１）,さらに技術者教育推進委員会は，修了生や就職先企業へのアンケート調査を行っている（資料９－１－③－２)。このアンケート結果の集計・分析は，技術者教育プログラムでの自己点検・評価に反映されている（前述資料９－１－①－２０)。また，随時開催の外部評価委員会（運営懇話会）では，学校の教育状況の全体評価を受けており，そのときの意見等は本校の自己点検・評価に反映されている（資料９－１－③－３)。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

卒業生，修了生，就職先企業等からの意見収集は，アンケート調査や懇談会等で行なわれ，さらに外部評価委員会委員からの意見等の収集は，運営懇話会で行われている。それらは，本校の教育状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

資料９－１－③－１　平成１８年度機械技術者教育改善委員会議事録

機械工学コース
平成１８年度機械技術者教育改善委員会議事録

機械工学科長

日　時　　平成１９年1月２７日（土）　９：００　～　１２：００
場　所　　第一会議室
出席者　　学　　外　　：■■
（平成１７年度本校専攻科修了，■■■■)勤務）
一般教育科文系教員：権藤
数学科教員：鎌田，高橋(宏)
理科教員：岡野
制御情報工学科教員：山内，平岡
技術支援室員　　：大平，寺嶋
機械工学科教員　　：岡田，木原，岩田，橋本，高橋(義)，山崎，小島，福井，吉永，酒井，高橋(洋)
プログラム４年生　：■■
プログラム３年生　：■■，■■，■■，■■，■■，■■，■■
プログラム２年生　：■■，■■，■■，■■
プログラム１年生　：■■，■■，■■，■■
（順不同，敬称略）

資　料　①　平成 18 年度機械技術者教育改善委員会の開催について
②　技術者教育プログラム「機械工学コース」の履修要項
③　機械工学コース　平成 17 年度機械技術者教育改善委員会議事録（H18.2.4 開催）
④　数学・理科関連教科のシラバス
⑤　高松工業高等専門学校 機械工学科・専攻科 機械電気システム工学専攻「機械工学コース」の手引き（学生用）
⑥　機械技術者教育改善委員会での意見と改善状況の一覧

１．会議をはじめるにあたって
(途中省略)
２．報告事項
(1) 2006 年 JABEE 審査の報告
岡田学科長が JABEE 実地審査(2006.10.14 実施)の総合所見を口頭で読み上げた。
(2) 平成 17 年度改善委員会議事録の確認
前回議事録（資料③）の確認を行った。
(3) 改善実施項目の説明
木原教員から資料⑥に基づいて改善実施項目について説明があった。

３．協議事項
協議重点項目（カリキュラムについて，学習・教育目標について，改善ループについて）
(1)　卒業生と学生から見た「数学・理科教育と機械系専門科目へのつながり」について
(2)　今年度の課題について
(3)　その他の改善事項について

上記の協議事項に関して出席者から次の意見が出された。

数学について
- 専門教科ができない学生は低学年での微積分やベクトルが分かっていない。そのような学生は低学年からの進級を制限すべきである。進級させるなら補習などを十分に行うべきである。ラプラス変換やフーリエ級数は就職してから一度も使ったことはないので不要なのではないか。（■■）
- ラプラス変換は微分方程式や制御理論，フーリエ級数は振動現象，偏微分方程式や信号処理などに必要であり，解析の道具として知っておくことは有益である。（橋本）
- ３→４年進級時の判定基準を検討する予定である。全国統一試験の結果などを参考にすることも考えられる。（鎌田）
- ２→３年進級時の判定基準にも問題があるのではないか？（高橋義）

(以下省略)

(出典：平成１８年度機械技術者教育改善委員会議事録)

資料９－１－③－２　専攻科におけるアンケート結果に関わる「高専だより」記事

高 松 高 専 だ よ り　　第 96 号

企業および専攻科卒業生への技術者教育に関するアンケート結果



技術者教育検討委員会委員長　山　内　庄　司

去る11月に，専攻科卒業生およびその受け入れ企業を対象にして，アンケート調査を行った。当校での学習・教育の結果が社会からどのような評価を受けているかを知り，今後の改善に役立てることが目的である。以下にその結果の概要を示す。

依頼先は専攻科１～４期生の就職先企業等42社と卒業生80名であり，回収率は企業47.6%，卒業生28.7%であった。卒業生の回収率が低いのは，現住所不詳者が多く，手元にアンケートが届かなかったためと思われる。アンケートの集計結果を表１および表２に示す。

学習・教育目標に掲げた資質・能力について，卒業生からは受け入れ企業よりやや厳しい評価が寄せられているが，いずれも概ね普通以上との高い評価が寄せられていると判断できる。とりわけ「知識」に関しては高く評価されている。その一方で，「コミュニケーション力」に関してはいずれもやや低めの評価となっており，特に卒業生本人の評価は厳しいものとなっている。

分野ごとの知識と能力に関しては，「専門技術」「情報処理」および「自然科学基礎」に関しては，ほぼ問題ない評価を受けているが，「人文・社会科学」および「語学」に関しては，評価が低く，特に卒業生本人からは不十分との評価が多く寄せられている。

また，企業アンケートの項目２(２)，３および卒業生アンケートの６(２)，７，８について自由形式で意見を寄せて頂いた。紙面の都合で詳細は割愛するが，その概略を以下に記す。

(1) 過半数の卒業生が英語の語学力または会話力の不足を訴えている。卒業生が英語の必要性を痛感していることが伺える。また企業からも同様の意見が多い。

(2) 企業からは日本語でのコミュニケーションの大切さ，文章力や交渉力を求める意見が多い。

(3) 企業および卒業生の双方から，企業や社会全体を見る広い視野や社会人としての常識，人文社会系の知識の必要性を訴える意見が寄せられている。

(4) 企業および卒業生ともに専門の知識と能力について高く評価する意見が多い。特に卒業生からは，実験実習等を通じた実践的知識を評価する意見が多い。数学・物理等の基礎知識の不足を訴える意見が少し見られる。

(5) 卒業生からは卒業研究，特別研究の経験や学会での発表経験を高く評価している意見が多い。

今回のアンケートでは，当校での学習・教育が概ね妥当であるとの評価を受けていると判断されるが，英語を含めたコミュニケーション力等の面では大きな課題があることも分かった。これらの結果を，今後の教育システム改善に役立てて行きたいし，また，在校生諸君にもこれを大いに参考にして頂き，一層の勉学･学習に励んで欲しいと願っている。

表１　専攻科卒業者受入企業よりのアンケート（2004年11月）

番号	設問	十分/満足 5	4	普通 3	不十分/不満足 2	1
1	過去に受け入れて頂いた専攻科卒業者について	（省略）				
2	上記の卒業者を通して見た当高専の教育に関して					
(1)	次に挙げる資質や能力について，入社時に身に付いていたと思われますか。					
	(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）	5	8	6	1	
	(B)科学技術の基礎知識と応用力（知識）	4	12	4		
	(C)課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）	1	11	6	2	
	(D)論理的なコミュニケーション能力(ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	4	8	7	1	
(2)	不十分な項目に関するアドバイス	（本文中に概略を記載）				
(3)	次の分野に関する知識や能力について，満足または不満足の程度をお教えください。					
	a．人文科学，社会科学等に関する能力		4	12	3	
	b．語学（英語）力		3	14	2	1
	c．自然科学（数学，物理，化学等）に関する能力		12	6	2	
	d．情報処理に関する能力	6	9	5		
	e．専門技術に関する能力	3	14	2	1	
(4)	貴社の求めるレベルに対して当高専専攻科卒業者のレベルをどう考えられますか。	5	13		1	
3	当高専の教育に対する御意見	（本文中に概略を記載）				

表２　専攻科卒業者よりのアンケート（2004年11月）

番号	設問	十分/満足 5	4	普通 3	不十分/不満足 2	1
1～5	卒業年，卒業学科，卒業専攻，進路，現在の職種	（省略）				
6	高松高専（本科と専攻科）で受けた教育に関して					
(1)	あなたが専攻科を卒業する時，次の能力が実際に身に付いていたと思われますか。					
	(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）		7	12	3	1
	(B)科学技術の基礎知識と応用力（知識）		12	8	3	
	(C)課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）	3	9	9	2	
	(D)論理的なコミュニケーション能力(ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)		4	9	9	1
(2)	(2) 解決策等のアドバイス	（本文中に概略を記載）				
(3)	次の教育分野に関してそれらは高松高専を卒業してからどのくらい役に立ちましたか。					
	a．人文科学，社会科学等に関する能力		1	16	6	
	b．語学（英語）力		3	6	9	5
	c．自然科学（数学，物理，化学等）に関する能力	4	12	6	1	
	d．情報処理に関する能力	3	8	8	4	
	e．専門技術に関する能力	9	9	5		
(4)	高松高専の授業全体をとおして，国内（大学，他高専），国際的水準と照らして，十分だったと思われますか。		11	9	2	1
7	高松高専で受けた教育で良かったと思う点	（本文中に概略を記載）				
8	高松高専で受けた教育で欠けていたと思われる点	（本文中に概略を記載）				
9	高松高専で過ごした学生生活に対し，100点満点で点を付けるとすれば何点だと思われますか。	90～99:5名，80～89:8名，70～79:3名 60～69:1名，50～59:1名　（平均:78.5）				

（出典：高専だより）

資料９－１－③－３　有識者懇話会報告書（抜粋）

観点６－１－②：学生が行う授業評価結果や学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

教務委員会にて企画した学生による授業評価（アンケート）を毎年行っている。学生による授業評価（アンケート）結果（資料１）は各授業担当教員に配布され，教員はその結果に応じて授業方法改善などを計画できる。さらに，平成１５年度から項目ごとの結果を学生に知らせるとともに，学生との対話を行い対話内容・改善策（資料２）を作成し教務係に提出している。平成１５年度の学生による授業評価（アンケート）結果については学内限定で，平成１６年度からは学外にもホームページにて情報公開する予定である。

（分析結果）

一部問題がある。

（根拠理由）

平成１５年度においては，学生との対話状況を学生がまとめた内容について各教員に周知されておらず，改善ループが機能していなかった。さらに，各科目内容や授業方法等について学生のみならず内外（卒業生や企業関係者）から意見を集約し，授業改善や翌年度のシラバスに反映できる改善ループが必要である。また，学生における学生達成度評価を実施し，結果について分析する必要がある。

＊６－４　資料６－１－②－１　学生による授業評価（アンケート）内容及び結果
（平成 15，16 年度実施結果）

＊６－５　資料６－１－②－２　授業評価対話報告書

観点６－１－③：卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

本校では，専攻科修了生受入企業及び専攻科修了生に対し，「技術者教育に関するアンケート」（資料１）を行っている。本アンケートは高学年のカリキュラムに対し，受入企業，専攻科修了生がどのような意見を持っているかを調査したものである。本校の４つの学習・教育目標：「倫理」，「知識」，「実行力」，「コミュニケーション」の各能力を５段階で回答いただき，アンケートの回収率は低いものの，その集計結果をまとめた。

また，各学科独自のアンケートも行われている（資料　２，３）が，学科ごとのアンケート結果についてはまだ集計されていない。

求人活動での来校者又は企業訪問などで卒業（修了）生の資質等について意見聴取が行われている。

平成１６年度に学生指導研究会をシンポジウム形式で実施し（開催年月日：平成１６年７月２６日，会場：高松テルサ），教育の成果等に関して卒業生及び卒業生の就職先の方々による講演とパネルディスカッションが行われ，具体的な意見・提言を受けた。

（分析結果）

一部問題がある

（根拠理由）

受入企業及び専攻科修了生に対して行った集計結果（５段階評価）の主なものは以下のとおりである。

○受入企業に対するアンケート結果[資料１]：

学習・教育目標に掲げた「知識」については，４以上の評価が８割を占めており，ほぼ問題ないと思われる。「倫理」「実行力」「コミュニケーション」についても，一部評価２が含まれるが，おおむね達成できているとの評価であるが知識に比べ，やや評価が低く今後の課題である。知識・能力の分野別評価では，専門技術，情報処理に関してはほぼ満足できる評価であるが，人文・社会科学，語学，自然科学の評価が幾分低い。また企業の求める卒業生のレベルに関してはおおむね４以上の評価を得ている。

○専攻科修了生に対するアンケート結果[資料１]：

受入企業に対するアンケート結果と比べ，やや厳しい評価となっている。受け入れ企業の評価と傾向はほぼ同じであるが，「コミュニケーション」については英語力が身についていないとする者が多い。高専生活に対する満足度は７０点以上とする者が９０％を超えており，高専教育に対してほぼ満足していると判断できる。

○各学科ともに独自にアンケートを実施中もしくは実施予定であるが，結果が未集計である。また，実施中のアンケートは機械工学科を除いて，高学年のカリキュラムに限定されたものが多く，低学年のカリキュラムに関するアンケートが行われていない。

各学科独自で進路先などの関係者に対するアンケート，意見聴取は実施されているが，教育の成果向上に向けた全学的なシステムがない。

＊６－６　資料６－１－③－１　技術者教育に関するアンケート内容と結果
　　資料６－１－③－２　機械工学科のアンケート
　　資料６－１－③－３　制御情報工学科のアンケート
　　資料６－１－③－４　学生指導研究会議事録（2004年８月６日）
　　資料６－１－③－５　機械技術者教育プログラム改善委員会改善ループ
＊６－７　資料６－１－③－６　電気情報工学コース技術者教育改善委員会議事録
　　資料６－１－③－７　メカトロニクス技術者教育プログラム修了生へのアンケート
　　資料６－１－③－８　建設技術教育プログラム改善検討委員会

（出典：高松工業高等専門学校有識者懇話会議報告書）

観点９－１－④：　各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

１．本校における各種の評価（主なもの）

本校における各種の評価（主なもの）は，以下の通りである（＜括弧＞内は評価者を示す)。

・技術者教育プログラム自己点検書＜日本技術者教育認定機構＞（前述資料９－１－①－２０）
・教員の活動報告書＜各教員，学科長，学校長＞（資料９－１－④－１）
・教員の教育研究活動等報告書＜各教員，学校長＞（資料９－１－④－２）
・学生による授業評価＜教務委員会＞（資料９－１－④－３）
・学生による授業評価に対する分析＜教務委員会＞（前述資料９－１－②－５）
・オープン授業の授業参観報告書＜保護者，教職員＞（資料９－１－④－４）
・学生会との対話集会＜教務主事，学生主事，寮務主事＞（前述資料９－１－②－７）
・学生による達成度評価＜準学士課程５年生，専攻科２年生＞（資料９－１－④－５）

２．本校における各種の評価結果を教育の質の向上，改善に結び付けるシステム

各種の評価（技術者教育プログラム自己点検書は除く）は，毎年実施されている。特に，教員の教育研究活動等報告書や学生による授業評価は，本校ホームページ上で公開されており，個々の教員には教育の質の向上と改善への取り組みが求められている。学生による授業評価の評点が低い教員（非常勤講師を含む）には，授業改善実施報告書の提出が求められている。また，全教員対象の活動報告書には，学生の授業評価を受けて，実施された授業改善点を報告する項目が設けられている（資料９－１－④－６)。各種委員会の体制及び活動状況を示す資料として(資料９－１－④－７，８)をあげる。各種の評価結果を改善策に結び付ける仕組みを把握できる資料，活動実績を示す資料として（資料９－１－①―１５）をあげる。

３．教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策

教育課程の見直しについては，プログラム運営会議又は各学科等から教務委員会へ答申され検討される。学修単位導入のように，教務委員会から各専門学科へ教育課程の見直しを提言する場合や（資料９－１－④－９)，学生会との対話集会での要望から，教務委員会ならびに各種委員会へカリキュラム上の問題点が指摘され対応する場合がある（資料９－１－④－１０，１１)。このように,教育課程見直しについては，教務委員会，各学科および教員・学生間相互の提言・答申をもとに,継続的な取り組みが行われている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

各種の評価は毎年実施され，担当者により評価されている。教育研究活動等報告書や学生による授業評価集計表は，本校ホームページで公開されており，間接的に学外評価を受けている。教員の活動報告書には，学生の授業評価を受けて，実施された授業改善点を報告する項目が設けられている。学生による授業評価の評点が低い教員（非常勤講師を含む）には，学校側がヒヤリングを行なっている。

教育課程の見直しは，プログラム運営会議等の指摘により各学科教務委員を通じて教務委員会へ答申される。学修単位導入のように，教務委員会から専門学科へ教育課程の見直しを提言する場合や，学生会との対話集会から，教務委員会ならびに各種委員会へカリキュラム上の問題点が指摘される場合がある。教育課程見直しについては，教務委員会，各学科および教員・学生間相互の提言・答申ができるシステムが存在する。

よって，各種の評価が教育の質の向上・改善に結び付くシステムが整備されている。各種委員会，各学科および教員・学生間相互の提言・答申をもとに,継続的な教育課程見直し・改善などの方策が講じられている。

資料９－１－④－１　教員の活動報告書（例）

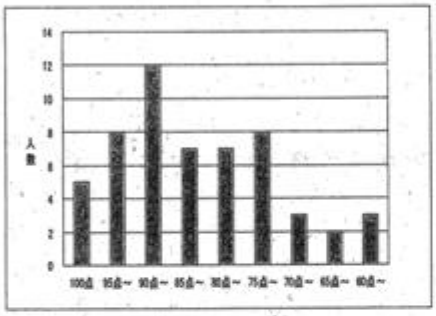
平成１７年度教員の活動報告書

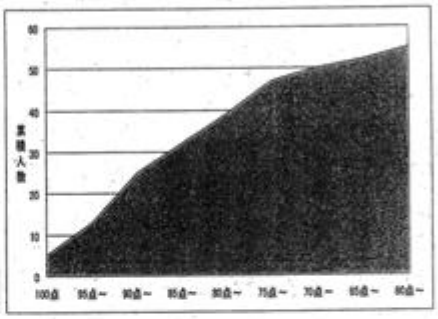
A．各人の評価

個人番号	職　名	学　科	氏　名
[redacted]	[redacted]	一般教育科（理系）	[redacted]

教育・学生指導	研　究	校　務	社会貢献	特記事項
C	D	A	B	E
総　合　評　点		83.07点		

B．総合評点分布図





C．各活動における，評価及び評価点

１．教育・学生指導		
点　数	評価	評点
150点以上	A	10
149～130点	B	9
129～110点	C	7
109～80点	D	5
79～ 0点	E	3

２．研　究		
点　数	評価	評点
80点以上	A	10
79～40点	B	8
39～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

３．校　務		
点　数	評価	評点
120点以上	A	10
119～60点	B	7
59～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

４．社会貢献		
点　数	評価	評点
30点以上	A	10
29～15点	B	8
14～ 5点	C	6
4～ 1点	D	2
0点	E	1

５．特記事項		
点　数	評価	評点
40点以上	A	10
39～20点	B	7
19～10点	C	5
9～ 5点	D	3
4～ 0点	E	0

D．総合評点

[redacted]

（出典：教員の活動報告書）

資料９－１－④－２　教員教育研究活動等報告書（例）（抜粋）

更新日	平成１８年６月８日		
教員氏名	由良　諭	**読み**	ゆら　さとし
学科名	制御情報工学科	**職名**	准教授
電話番号		**メールアドレス**	
ＦＡＸ番号		**ホームページＵＲＬ**	
取得学位	博士（工学）	**専門分野**	モーションコントロール
研究キーワード	モーションコントロール，多慣性システム，慣性ロータを有する倒立振子，神経振動子		
主な研究業績	【学位論文】 【著書】 【論文】 【特許】		
研究助成・取得状況			
所属学会	電気学会，計測自動制御学会，日本ロボット学会，日本機械学会		
共同研究　受託研究			
社会連携活動			
備考			

（出典：高松高専ＨＰ）

資料９－１－④－３　学生による授業評価の集計表

平成１６年度　授業評価実施教科一覧（専攻科）

前期

機械電気システム工学専攻	1年	経営論	実践英語	技術者倫理	数学特論Ⅰ	応用物理学	計算力学特論	動力学特論	精密機械計測	ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ
		音響情報工学	情報通信工学	電子回路特論	電気回路特論	電磁気学特論				
	2年	経営論	法学	古典文学	分析化学	熱機関特論	弾塑性力学	信頼性工学	制御工学特論Ⅱ	知能制御工学
		情報通信工学特論	ｵﾌﾟﾄｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ	物性特論						
建設工学専攻	1年	経営論	実践英語	技術者倫理	数学特論Ⅰ	応用物理学	設計ｼｽﾃﾑ工学Ⅱ	環境防災工学Ⅰ	流体力学特論	
		建設数理計画学	建設環境計測学	情報ｼｽﾃﾑ						
	2年	法学	古典文学	分析化学	建設材料特論	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ構造解析	環境防災工学Ⅱ	環境倫理･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ		

後期

機械電気システム工学専攻(講義)	1年	知的財産権	工業英語	数学特論Ⅱ	現代物理学	物理化学	伝熱工学特論	先端接合工学	材料強度学特論	制御工学特論Ⅰ
		薄膜工学	画像処理工学	ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ信号処理	ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学					
建設工学専攻(講義)	1年	知的財産権	数学特論Ⅱ	現代物理学	物理化学	設計ｼｽﾃﾑ工学Ⅰ	連続体力学	建設工学演習		
機械電気システム工学専攻(実験実習)	1年	工学実験･実習Ⅱ								
建設工学専攻(実験実習)	1年	建設工学実験･実習								

平成16年度　授業評価実施教科一覧

1年	1組	基礎数学Ⅰ	物理･同実験	国語	保健体育	
	2組	基礎数学Ⅰ	物理･同実験	国語	保健体育	
	3組	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ	国語	English Ⅰ	
	4組	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅱ	国語	English Ⅰ	
機械	2年	代数幾何	歴史Ⅱ	EnglishⅡ	保健体育	機械設計製図Ⅱ
	3年	数学解析Ⅱ	加工学	材料力学Ⅰ	工作実習Ⅲ	
	4年	英語Ⅰ	応用物理Ⅱ	材料力学Ⅱ	水力学	熱力学
	5年	振動工学	制御工学	ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ概論	卒業設計製図	
電気	2年	物理･同実験	歴史Ⅱ	公民Ⅰ	保健体育	電気基礎Ⅰ
	3年	公民Ⅱ	数学解析Ⅱ	論理回路	電子工学	電磁気Ⅰ
	4年	英語Ⅰ	応用数学Ⅱ	アルゴリズム	工学実験Ⅱ	
	5年	通信工学	制御工学	工学実験		
制御	2年	化学･同実験	歴史Ⅱ	公民Ⅰ	EnglishⅡ	工作実習Ⅱ
	3年	公民Ⅱ	英語Ⅰ	基礎力学	CAD	
	4年	流体力学	材料学Ⅰ	制御工学Ⅰ	電子回路	
	5年	情報処理Ⅲ	応用物理Ⅱ	工学実験Ⅱ		
建設	2年	代数幾何	物理･同実験	化学･同実験	歴史Ⅱ	
	3年	英語Ⅰ	基礎力学Ⅱ	実験実習		
	4年	構造力学	ｺﾝｸﾘｰﾄ工学	都市地域計画	鋼構造	
	5年	建設工法学	防災工学	環境ｱｾｽﾒﾝﾄ	環境水工学	

http://www.takamatsu-nct.ac.jp/AA/jyugyouhyouka/H16/results-H16.htm　　2007/06/08

（出典：高松高専ＨＰ）

資料９－１－④－４　教職員・保護者の授業参観報告書(例)

（２００６年度）オープン授業参観報告書（職員・保護者用）

（1）報告者氏名（[redacted]）

<保護者の場合>
学生氏名（　　）　　学科・学年（　　）

<本校職員の場合>
所属（ 学 生 課 ）

（2）参観した教科（分かる範囲で結構です）

教科名	クラス名	教科担当教員名
（Grammar）	（ 1－1 ）	（ 市川 ）
（歴史）	（ 1－2 ）	（ 奥田 ）
（化学）	（ 1－3 ）	（ 岡野 ）

日時： 平成 １８ 年 5月 １５日

（3）オープン授業を見学・参観しての感想・意見を以下にお書き下さい。

オープン授業初日で参観者もいなかったので、廊下からの参観となった。
1年生の授業で教員の声もはっきりと聞きとれて、学生もまじめに授業に取り組んでいた。
5/20 受付していた印象としては、保護者が参観者が少なく参観しにくいという意見が多くみられたので、特に午前中の９時から１１時３０分までに参観するよう時間帯を指定して案内するとか、また前日に担任からの案内も必要だと思いました。

（２００６年度）オープン授業参観報告書（職員・保護者用）

（１）報告者氏名　（[redacted]

＜保護者の場合＞
学生氏名 [redacted]　　学科・学年（[redacted]）

＜本校職員の場合＞
所属（　　）

（２）参観した教科（分かる範囲で結構です）

教科名	クラス名	教科担当教員名
（製図）	（ZM）	（　　）

日時：平成 18 年 5 月 20 日

（３）オープン授業を見学・参観しての感想・意見を以下にお書き下さい。

1. 授業を受ける態度姿勢があまりよろしくない様に感じます。
2. 私語、だらだらした感じ等有り。
3. ドラフタはもう少し起こした方が使いやすいのでは？
4. 私も当校ⓂクラスのOBですが昔もよく似た感じだったかも？
5. 先生の授業に対する対応は良くてきびしく接しておられました。

⇓

生徒自身の自覚の問題です。

・以上・

（出典：オープン授業参観報告書報告書）

資料９－１－④－５　学生による達成度評価

学習等達成度自己点検の分析【平成１８年度準学士課程卒業生】

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	機械工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	建設環境工学科	全学科平均
(A)　広い視野と技術者としての倫理観（倫理）社会や文化に関心を持ち，社会人としての責任感と倫理観を養う。	3.18	3.76	3.21	3.41	3.37
(B)　科学技術の基礎知識と応用力（知識）自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを基本的問題に適用できる。	3.30	3.36	3.34	3.44	3.36
(C)　課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）課題に自発的に取り組み、創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。	3.20	3.36	3.37	3.34	3.31
(D)　論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。	2.83	3.42	2.66	2.66	2.88

学習等達成度自己点検の分析【平成１８年度専攻科課程修了生】

修了時に身に付けるべき学力や資質・能力	機械電気システム工学専攻	建設工学専攻	全専攻平均
(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）　人類，世界，文化に広く関心を持ち，視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち，責任感と倫理観を養う。	4.06	5.00	4.63
(B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）　自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ，それを具体的問題に応用できる力を身につける。	4.27	4.25	4.25
(C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）　自ら課題を発見して，自主的に取組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力し合って課題に取り組める技術者，創造力豊かな技術者になる。	4.00	3.75	4.00
(D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）　物事を論理的に考えて，それを日本語の文章と口頭で表現できる力を身につける。英語による基本的な記述，表現が行える語学力を身につける。	4.32	3.25	3.75

（出典：学習等達成度自己点検の分析）

資料９－１－④－６　教員の活動報告書の授業評価項目

B．学生による授業評価

1）当年度に実施した「学生による授業評価アンケート調査結果」をもとに，下記の評点を加算する。

〔 座学を担当している教員 〕

① 説明がわかりやすく，全体としてまとまりのある授業である。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

② 授業内容に興味が持てた。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

③ 授業を進める速さは適切である。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

④ 黒板の使い方や書き方がわかりやすい。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

⑤ 総合点（５段階評価）
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

3

〔 座学を担当していない教員 〕

① 指導書に実験・実習の目的や内容の指示などが明確に示してあった。もしくは口頭で説明があった。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

② 実験や実習中，先生からの指導は適切であった。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

③ 提出したレポートの内容や書き方に関する添削指導は，適切であった。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

④ 実験・実習によって，技術が身についた。または，いろいろな原理や専門分野の理解が深まった。
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

⑤ 総合点（５段階評価）
・3.5 以上(10 点)　・2.5 超～3.5 未満(5 点)　・2.5 以下(0 点)

2）学生による授業評価の授業改善への活用
＜具体的活用策＞

回答用紙に記入

3）上記2）に対する評点（評価者：校長）（上限 20 点）

（出典：教員活動報告書）

資料９－１－④－７　教務委員会議議事録：平成７年度学生による授業評価検討時の資料

教務委員会議事録

１．日時　平成６年１月１９日（水）　１６時００分～１８時２０分

２．出席者

教務主事（和田），同副主事（高畑），同主事補（武丸、伊藤）
教務委員（長谷川，高橋義，森一，園嵜，長友）
学務専門員（谷澤），教務係（牛川）

３．議題

（１）平成６年度行事予定について

６月の保護者懇談会は１年～４年までの全員とし，
１０月の保護者懇談会は希望者のみとする
８月３１日（水）は，月曜日の授業を行うが，非常勤の先生については，
早めに連絡を取る。やむを得ないときは授業を振り替える
入学式，始業式を１日繰り上げて，８月３１日を学生の夏休みとすることを
検討する

（２）学生の表彰について

申請通り表彰する
基準ー＞　全国レベルの学会で発表することが必要であり，
さらに人物優秀でなければならない

（３）学習のアンケートについて

１年～３年までに対して，２月中に実施の予定
担任が集計し，結果の一部を教科担当者にフィードバックする
結果をまとめて公表する

（４）その他

（４－１）学生証について　　案の通りとする
（４－２）大掃除について　　掃除エリアを見直す
図書館のトイレを加える
掃除道具の充実をはかる
（４－３）C短縮授業は，１月３１日まで
（４－４）混合学級は２年生も実施し，クラス替えを行う
（４－５）混合学級のクラス名は，１組，２組，３組，４組とする

以上　（文責：伊藤）

（出典：教務委員会議事録）

資料９－１－④－８　専攻科委員会議事録（例）

第２回　専攻科委員会議事要録

日　時：平成１８年７月４日（火）１６時２５分～１８時００分
場　所：第二会議室
出席者：山内委員長，本田委員，竹下委員，市川委員，酒井委員，吹田委員，板橋委員
事　務：三好

議　題

１）２年生の副査承認について

山内委員長から会議資料１に基づき説明があった。また，本田委員および竹下委員から補足説明があり，原案のとおり承認された。

２）入試問題等の公開について

山内委員長から他高専の開示状況の紹介があった。ホームページへの公開について種々議論されたが，各学科に持ち帰り検討することとなった。

３）学生による授業評価について

山内委員長から会議資料２に基づき従来のアンケート項目を変更した経緯の説明があった。アンケート項目について種々議論され今後検討することとなった。なお，後期の実施は１２月を考えているとの発言があった。

４）その他

①山内委員長からカリキュラムの変更について発言を求めたところ，機械工学，電気情報工学及び制御情報工学コースが検討しているとの報告があった。

専攻科に関する学則の変更は前年度の９月末日までに大学評価・学位授与機構へ届出の必要があるため，次回の専攻科委員会「８月２３日（水）」までに会議資料「専攻科授業科目の変更・追加理由書」を参考に資料提出方の要請があった。

②中四国専攻科生研究交流会に参加した専攻科生からの感想について，酒井委員から報告があった。参加者の分野が広過ぎて専門的な意見が少ない，参加数を絞った方がよい，レベルの低い発表があった，強制参加にしては学校からの支援が少なかった，等の意見があった。

次年度（米子高専）の参加数等について，今後検討することとなった。

③山内委員長から専攻科の本年度予算について次のとおり報告等があった。

・プロジェクター２台（機械工学科と制御情報工学科）およびホワイトボード２個（大講義室と建設ゼミ室）を購入した。
・学校長分として配分のあった６０万円を専攻科生の学会発表の補助に当てることとし，優先順位などルールについては，検討のうえ周知する。

（出典：専攻科委員会議事録）

資料９－１－④－９　教務委員会議事録（例）：カリキュラム変更時の議事録

H18_第09回教務委員会議事録.txt

１．日時等
日時：12月19日（火）、１６：３０－１９：１０
場所：第１会議室
２．協議事項
（１）平成19年度のカリキュラム（学修単位を含む）（案）
・別紙に基づいて各科のカリキュラム変更について審議した。
・最新のカリキュラム表への変更などを行い，整合を取る。
・修正されたカリキュラム表は，各科の教務担当教員が作成し，最終的に教務係に提出，保管する。
・一般は，４年の選択：化学が「環境化学」と「物理化学基礎」に別れ，双方学修単位とする。
・学修単位は，別紙の通り一覧表のみ＊印で記載する。欄外に注釈を入れる。
→企画運営会議より，＜シラバスの評価方法の欄に，「自学自習の課題等も評価する。」と記載する。＞ことが追加された。《後日，追加連絡有り》

（２）平成19年度特別学修単位（案）の導入
・別紙に基づいて特別学修単位の導入について審議した。
・文言の修正等を行う。明確化と全体の表現の統一のため。
・備考欄に対象学科を入れる。

（３）平成19年度学校行事予定（教務関係，案）
・【学生会の要望】により，６／６～前期中間試験とした。
・【電気情報系教員からのご指摘】により，９／２６の取扱い，考え方の確認。
・卒研発表等をもう少し後期末試験から離す方向で，今後検討。
・4月６日の健康診断は医師等の都合により4月12日(木）の午後となりましたのでお知らせします。従って4月１２，25日の午後は健康診断の対象学年，クラスの授業はありません。《後日，追加連絡有り》

（４）平成19年度推薦入学業務予定（案）
・1/16の推薦入試の実施要項が配布された。
・また，参考のため学力入試についても参考のため，配布された。
・監督や実施内容等で気が付いた点が有れば，教務係まで連絡して欲しい。

（５）学生動向
[redacted]３／３１まで休学を認める。

（文責：建設、向谷）
以 上

（出典：教務委員会議事録）

資料９－１－④－１０　教務委員会議事録(例)：授業コマ間の休み時間１５分＝学生会の提案

H16_第11回教務委員会議事録.txt

第１１回教務委員会議事録

日　時：平成17年2月9日（水）16:05～
場　所：第２会議室
議　事：
（１）キャリヤ概論の教務的処置について
　　三好専門員より規則変更の説明があった。

（２）四国地区高専　共通試験の公開範囲について
　　教務主事より，共通試験の公開範囲についての各高専の反応について説明があった
。
　　下記のことを確認した。
　　・教員のFDと学生間の競争意識を目的としている。
　　・データは全て各高専に配布し，公開の度合は各校に一任する。

（３）学生会との話し合いでの懸案
　　○90分授業の欠課時数のカウントの仕方
　　・出席簿には現行の付け方で行う。（45分程度で出席状況を確認することが必要
）
　　○午前中の休み時間を20分に出来ないか。
　　・できない。
　　○資格の単位認定範囲について
　　・TOICE等，前向きに検討する。
　　○修学旅行のアンケート結果報告
　　・今のところ賛成数が多くない。（補講日に授業を行うことを前提）

（４）その他
　　○有識者懇話会の件
　　・反応は，概ね良好であった。
　　・「高松高専はこれからどうしたいのか」という厳しい意見があった。

（出典：教務委員会議事録）

資料９－１－④－１１　教務委員会議事録（例）：各種資格の単位化について＝学生会からの提案

H18_第07回教務委員会議事録.txt

第７回教務委員会議事録

日時　平成１８年１０月１１日（水）　１６時３０分～１８時３０分
場所　第２会議室
欠席者　なし

協議事項
（１）学修単位必修得科目の未修得者の取り扱いについて
・以下の案について各科で再確認を行う。（締切：10月末）
必修得科目で前期のみ開講される科目(学修単位以外も含む）に限り、前期末の成績が未修得の学生に対して、後期に追試験等を実施して、最高60点で認定することができる。認定の締切は他の追認試験と同様1月末とする。

・学修単位の導入目的
学修単位導入の目的は以下のとおりである。
(1)学生に自学自習の習慣を身につけさせる。
(2)教員の教育研究に資するために，柔軟なカリキュラムを導入する。

・学修単位導入時の評価
来年度から学修単位を導入することに伴い、自己点検・評価が必要である。教務主事がポートフォリオ等を確認する予定であるが、それ以外に導入による効果、問題点などについて、来年度に教務委員会で報告することとする。
評価項目、報告内容などは、導入目的を踏まえて各学科で検討する。
導入によって問題が生じた場合は、改善を前提に検討するが、止むを得ない場合は、導入前の状態に戻すこともあり得る。

（２）学修単位選択科目の未修得者の取り扱いについて
必修得科目以外でも、（１）と同様に追認の仕組みを設ける必要があるか各科で確認を行う。（締切：10月末）
教務小委員会では否定的な意見が多数であった。

（３）特別学修の科目について
○「特別学修単位認定」の資料に対して以下の訂正を行う。
・工業英検、実用英検、日本語漢字検定、TOEICは、備考欄に「最も大きい単位数を修得単位とする。」と記載する。
・専門分野の資格は該当する学科を明記する。
・技術士補は、技術士補（建設分野）とし、分野を明記する。
・工業英検は専門科目、実用英検、日本語漢字検定、TOEICは一般科目として扱う。

○以下の内容が合意された。
・技術士補で建設分野以外の取得者が現れた場合は、その都度審議する。
・学修単位につける科目名は今後小委員会で検討する。
・国家試験Ⅱ種（二次）合格者については、申請があった時点で審議するものとし、受験分野を考慮して認定する。
・英語に関する資格は、来年度以降に教務に申請があったものは、新しい規定に従って単位を与える。英検準２級をはじめとして、現在よりも学生にとって不利になる場合があるので、事前の周知を徹底する。
・配布資料「高松工業高等専門学校以外の教育施設等における学修に関する規定の一部改正新旧対照表（案）」の付則２は削除する。
・特別学修単位は卒業時に認定するものとし、進級判定時には含めない。

（４）その他
１、２年生学力不振者向上策アンケートの結果をまとめた資料を教務委員宛にメールで配布した。

（記録　重田）
****
高松工業高等専門学校　電気情報工学科
重田 和弘
shigeta@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：教務委員会議事録）

観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

観点９－１－④で述べた各種の評価に基づき，教員個々の責任において教育の質の向上が求められ，改善への取り組みが行われている（資料９－１―⑤－１，２）。教員の活動報告書については，毎年９月ごろ，学科長及び学校長の採点を含む集計結果表が（資料９－１―⑤－３），全教員（非常勤講師を除く）に返却され，教員の教育活動改善取り組みへの参考資料として用いられている。これらの改善活動は，教員の活動報告書，学生による授業評価および対話報告書等を通じて，学校が把握している。一部の専門学科では，授業改善実践事例の報告会を開催しており（資料９－１―⑤－４），優秀な授業実践事例発表の教員を表彰することにより，教員の継続的改善を支援している。

現状で，評価結果の教員へのフィードバック状況等（通知時期，方法，内容等），改善のための評価活動が機能していることを示す資料として（資料９－１－⑤－３）を掲げる。また，具体的改善方策の内容等（カリキュラム・授業方法・シラバス等の改善例，授業改善計画，評価結果と改善方策の対応表等）を示す資料，及び教員の改善活動報告書として（資料９－１－⑤－１）を掲げる。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

個々の教員は，各種評価に基づき，授業改善の努力を継続している。校内ＦＤとして授業実践事例発表会（年１回）を実施しており，一部専門学科では授業改善実践報告会と表彰が行われ，教育の質の向上に対する努力が継続されている。これらの改善活動は，教員の活動報告書，学生による授業評価および対話報告書等を通じて，学校が把握している。授業改善などの教育の質向上に関する活動は，個々の教員の努力に負うところが大きいが，他教員の改善活動を知る機会としてオープン授業・実践事例発表会などが設けられている。

資料９－１－⑤－１　授業改善実施報告書

授業改善実施報告書（平成 18 年度）

学生による「授業評価アンケート」を実施した科目において，「設問：**総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)**」のクラス平均点が 2.5 未満の場合は，この授業改善実施報告書のご提出をお願いします。

教務主事

- 提出場所：教務係
- 提出期限：平成 19 年 3 月 5 日（月）17 時

授業改善への取り組みと実施報告

担当教員：　　印	
教科名：ＸＸＸＸＸ	クラス：　　○年　　○組

1. 「設問：**総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)**」のクラス平均点が 2.5 未満であることに関わると思われる要因等について書いてください。

・自由記述などの内容より以下の要因が考えられる。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。
－ 4 年次の制御工学Ⅰの内容の習得が不十分である。
－ 基礎的な数学力が付いていない学生がいる。
－ 練習・演習問題が少ない。

2. 上記 1. に対する改善策及び見解等について書いてください。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。

プリントやレポート演習などで復習させる機会を与える必要があると共に本来復習は自分で行うものであり，与えられるものではないことも学生に理解させる必要がある。実際，質問に来る学生が他の学年に比べ少ないように感じる。
また今後，場合によっては授業内容の変更も考える必要がある。

－ 4 年次の制御工学Ⅰの内容の習得が不十分である

本年度は，4 年次の制御工学Ⅰも担当しているが，昨年度は別の方が担当しておられたため，情報交換が足りなかったと思われる。　ただ，昨年度のテストの結果を見ると全員合格であり十分理解しているかのように思えたが，理解しいないところをみると，学生は単に方法・答えを覚えただけで習得していないと思われる。来年度は，本年度制御Ⅰも私が担当しているので，学生の到達度・個々の学力などについて情報不足という点は解消できると思われる。

（出典：授業改善実施報告書）

資料９－１－⑤－２　ＦＤ講演会実施報告書

H18. 12. 7

校内ＦＤ研修会（平成 18 年度）

教務主事

1．実施目的

授業での創意工夫，方法などを提示し，討論を通じて教員の授業に関する資質と能力を高めることを目的とする。

2．実施日程

期日：　平成 18 年 12 月 11 日（月）

時間：　１５：００―１６：４５

3．場　所

第１会議室

4．プログラム

○　開会

○　発表（約３０分）及び意見交換（約 15 分）

（1）　１５：０５－１６：００

発表者：一般教育科（物理）　加藤清考

・テーマ：　学生の学力の現状と物理の授業(低学年)における授業改善の取り組みについて
―学生による授業評価と対話に基づく、興味ある授業と基礎学力―

・要旨　：　平成 16 年度に行った四国共通試験(物理)の結果をもとに、現在の高松高専の学生の学力の現状および、問題点を指摘する。その後、学生による授業評価と対話により、これまで行ってきた(低学年の)授業改善の取り組みとして学生の印象に残った授業、物理ノート、新聞記事ノートを紹介する。

（2）　１６：００－１６：４５

発表者：電気情報工学科　太良尾　浩生

・テーマ：　電気電子工学と数学

・要旨　：　電気電子工学ではどのような数学が必要なのかを，主に１年生の電気基礎数学で行っている具体的な例を交えて紹介します。

○　閉会

（出典：校内ＦＤ講演会資料）

資料９－１－⑤－３　教員の活動報告書返却例

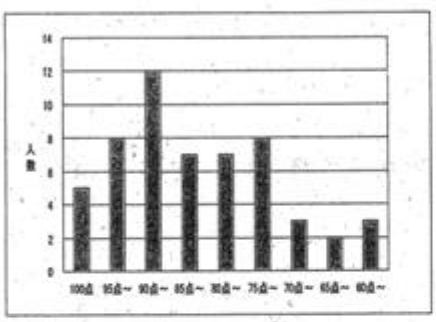
平成１７年度教員の活動報告書

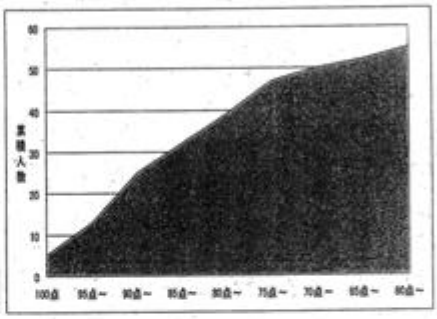
A．各人の評価

個人番号	職　名	学　科	氏　名
[redacted]	[redacted]	一般教育科（理系）	[redacted]

教育・学生指導	研　究	校　務	社会貢献	特記事項
C	D	A	B	E
総　合　評　点		83.07点		

B．総合評点分布図





C．各活動における，評価及び評価点

１．教育・学生指導		
点　数	評価	評点
150点以上	A	10
149～130点	B	9
129～110点	C	7
109～80点	D	5
79～ 0点	E	3

２．研　究		
点　数	評価	評点
80点以上	A	10
79～40点	B	8
39～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

３．校　務		
点　数	評価	評点
120点以上	A	10
119～60点	B	7
59～15点	C	5
14～ 1点	D	3
0点	E	1

４．社会貢献		
点　数	評価	評点
30点以上	A	10
29～15点	B	8
14～ 5点	C	6
4～ 1点	D	2
0点	E	1

５．特記事項		
点　数	評価	評点
40点以上	A	10
39～20点	B	7
19～10点	C	5
9～ 5点	D	3
4～ 0点	E	0

D．総合評点

[redacted]

（出典：教員の活動報告書）

資料９－１－⑤－４　実践事例報告会（制御情報工学科）

メカトロニクスプログラム・教育実践事例報告会と教育業績の顕彰　　1/3 ページ

高松高専 メカトロニクスプログラム

教育実践事例報告会と教育業績の顕彰

Last Modified: 2006/12/29

メカトロニクスプログラムでは，平成16年度よりFD活動の一環として，教育実践事例報告会を実施しています．また，プログラムに関わる教職員ををを対象として，すぐれた教育実践についてその教育業績を顕彰するため「メカトロニクスプログラム教育業績顕彰要項」を定めました．「教育実践事例報告会」は，教育業績顕彰にかかる審査会を兼ねています．

平成18年度の実施記録

日　時	実　施　概　要
12月5日 14:00-15:30	**平成18年度教育実践事例報告会** 参加者：　審査員１０名 （校長，学科長（代理を含む）４名，技術支援室長，専攻科生４名） 発表者４名 聴講者（入退室自由） １．開会にあたって ２．実践事例報告４件 ３．審査員投票・集計 ４．審査員講評（９名） ５．優秀教育実践賞の発表と表彰 ６．審査員長講評 ７．閉会 **平成18年度優秀教育実践賞** 受賞者　：　制御情報工学科　正箱 信一郎 受賞対象　：　実例を教材に用いた講義の試み

平成17年度の実施記録

http://www.takamatsu-nct.ac.jp/SE/jabee/kkaigi/kjireiho.html　　2007/06/08

（出典：高松高専ＨＰ（制御情報工学科））

観点９－１－⑥：研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

本校の教員の研究活動において，本科５年生の卒業研究や専攻科生の特別研究を担当することは，教育の質の改善に寄与している。教員が学生を交えた研究を行うことにより，各教員の専門分野における研究活動が，学生への感化を引き起こし，学生の教育に間接的に役立っている（資料９－１－⑥－１，２）。さらに,一般教育科では，教育方法・指導法を研究テーマに掲げている教員が，教育方法の改善に取り組んでいる（資料９－１－⑥－３，４）。

また，四国地区六高専の共通試験（数学，物理，化学，英語）が，平成１６年度から実施され（一部科目は，平成１５年度より実施），その試験結果の分析等が高松高専研究紀要，高専教育，日本工業教育などに報告され（資料９－１－⑥－１），教育の質の改善に活かされている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の教員の研究活動において，本科５年生の卒業研究や専攻科生の特別研究を担当することは，教育の質の改善に寄与している。一般教育科では教育方法・指導法を研究テーマとしている教員が，研究成果を直接授業に適用し，改善実績を上げている。また，四国地区高専の共通試験結果の分析を研究発表し，教育の質の改善が行われている。

資料９－１－⑥－１　高松高専研究紀要目次

高松工業高等専門学校研究紀要　第39号　目次

ガタを有する弾性梁・共振曲線の計算法
……高畑秀行・大西弘将・増田誠

TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労特性評価
……佐谷亮平・福井智

簡易支持力測定試験器による室内および原位置の工学的特性
……諏訪隼人・向谷光彦・岡崎芳行・松山哲也・藤原保

タンクモデル濃度係数法を用いた徳島県横野谷流出試験地における溶存イオンの流出特性に関する基礎的検討
……岡田和・田村隆

BRST形式による非摂動QCDの有効ダイオン作用
……加藤清考・近藤慶

A Storyteller
……出渕幹

真の英語コミュニケーション能力の育成を目指して
-TOEICスコアに見られる文法能力向上の必要性　……寺西雅之・小島加奈

Getting Reticent Students Involved in Communicative English Classes
……Kanako KOJIM

『春秋繁露』訳注稿　考功名・通國身・三代改正質文・官制象天・堯舜不擅移　武不專殺・服制・度制篇
……坂本具償・財木美

学外発表論文概要



高松工業高等専門学校研究紀要　第41号　目次

不均一濃度場における圧縮自着火燃焼過程の数値解析
……矢野琢滔

モノづくり教育のネタ帖ーメカトロニクスシステム設計10年の歩みー
……平岡延章・吉成知己・十河宏行・由良諭・川田和男・徳永秀和・j

“メカトロニクスシステム設計”に対するアンケート調査結果ー卒業生からのアンケート回答よりー
……由良諭・平岡延章

東三河伝統構法民家の耐震性能評価実験
……中治弘行・鈴木祥之・後藤正美・:

高松高専の16年度四国共通試験(数学)結果の分析
……上原成功・鎌田弘・高橋宏明・中川征権

Yang-Mills理論のCFN分解とゲージ不変なモノポールの構成　part I
……加藤清考・近藤慶一・柴田章博・篠原徹・村上武明

四国地区工業高専化学共通試験実施経過報告と今後の展開
……岡野寛・尾崎信一

四国地区高専共通試験における高松高専生の英語能力の分析
……出渕幹郎・有道祐子・市川紘

『春秋繁露』訳注稿
奉本・深察名號・實性・郊義・郊祭・四祭篇
……坂本具偉

学外発表論文概要
……



（出典：高松高専ＨＰ（図書館））

資料９－１－⑥－２　制御情報工学科「モノづくり教育」（例）

［制御情報工学科］
└［モノづくり教育］
├［2007年度］
├［2006年度］
├［2005年度］
├［2004年度］
├［2003年度］
├［2002年度］
├［2001年度］
├［2000年度］
├［1999年度］
├［1998年度］
├［1997年度］
├［1996年度］
├［心］
├［工学教育賞］
├［新聞記事］
└［HELP］

高 松 工 業 高 等 専 門 学 校

制御情報工学科

Department of Electro-Mechanical Systems Engineering

モノづくり教育

HELP

Last Modified: 2007/4/12

"モノづくり" 実践教育
「メカトロニクスシステム設計」
のページです.

今年度のテーマは **“灯台もっと暗し”** です!!

競技会（一般公開）
2007年　11月10(土), 11(日)

授業概要

「メカトロニクスシステム設計」は，制御情報工学科で学ぶ機械系・電子系・情報系の各教科間の関連付けを行う実践的授業です．各教科で学ぶ幅広い知識の裾野をさらに広げ，かつその中に深く掘り下げた得意分野を持たせることで，実践的問題解決能力に優れた技術者の育成を目指します．

授業を通じて，機械・電子・情報・制御を包含するメカトロニクスシステムを構築する楽しさ・困難さを経験し，学習の意義と文書化による情報共有の重要性を学びます．

学生たちは5～6人で構成するプロジェクトチームに分かれ，課題を満たすパソコン制御の自律型ロボットを企画・設計・製作し，その過程を設計書として文章化することを経験します。

「メカトロニクスシステム設計」の心

モノづくり教育で 第10回 工学教育賞 を受賞
― PBL形式による「モノ作り」を題材としたOJT型総合授業の実践 ―

日本工業新聞に紹介記事が掲載されました！

過 去 の 記 録

平成19年度	平成18年度	平成17年度	平成16年度	平成15年度
平成14年度	平成13年度	平成12年度	平成11年度	平成10年度
平成9年度	平成8年度	——	——	——

制 御 情 報 工 学 科

➤ 新しい話題	➤ 学 科 案 内	➤ 中学生のみなさんへ
➤ モノづくり教育	➤ 卒 業 研 究	➤ 卒業生のページ
➤ ス タ ッ フ	➤ 就職＆進学	➤ イベント・行事
➤ 高松高専・メカトロニクスプログラム		➤ 研究室の話題

高松高専 制御情報工学科
〒761-8058 香川県 高松市 勅使町 355
TEL:(087)869-3883　FAX:(087)869-3879

このページに関するご意見・ご感想はこちらへ→ SE@takamatsu-nct.ac.jp

（出典：高松高専ＨＰ（制御情報工学科））

資料９－１－⑥－３　教育研究等活動報告書（一般教育科）（抜粋）

更新日	平成１８年１１月２７日		
教員氏名	田口　淳	読み	たぐち　じゅん
学科	一般教育科	職名	准教授
主な研究業績	１．「ヘルバルトにおける興味論の形成過程」　創価大学大学院紀要，1990 年，第 12 号　２．「BRD の学習指導要領にみる訓育的教授の検討」（共著）　高松工業高等専門学校研究紀要，1990 年，第 26 号 ３．「児童の職業意識の形成に関する国際比較研究」（共著）　高松工業高等専門学校研究紀要，1999 年，第 34 号　４．『21 世紀の学校をひらくトピック別総合学習－ドイツの教育との実践対話－』（共訳)北大路書房，1999 年 ５．「事実教授における活動性と創造性の展開―ブルガリアの小学校における自由活動(Freie Arbeit)の適用について―」（共著），高松工業高等専門学校研究紀要，2001 年，第 36 号 **６．『授業方法・技術と実践理念－授業構造の解明のために－』　（共訳）　北大路書房　2004 年**		

（出典：高松高専ＨＰ）

資料９－１－⑥－４　教育研究等活動報告書（一般教育科）（抜粋）

更新日	平成１６年６月８日		
教員氏名	上原　成功	読み	うえはら　しげのり
学科	一般教育科	職名	講師
主な研究業績	１．(with K. Sakai) *Topological structure of the space of lower semi-continuous functions*, Comment. Math. Univ. Caloline 47, 1(2006), 113--126. **2.(上原 成功 他）高松高専の１６年度四国共通試験（数学）結果の分析，高松高専紀要第四十一号，71--77.** 3. *Spaces of upper semi-continuous multi-valued functions which are absolute retracts*, Bull. Polish Acad. Sci., Math. 51, No.3(2003), 319--328. 4. (with K. Sakai) *Spaces of upper semi-continuous multi-valued functions on complete metric spaces*, Fund. Math. 160 (1999), 199--218 5. *A Hilbert cube compactification of the space of retractions of the interval*, Colloq. Math. 78 (1998), 119--122		

（出典：高松高専ＨＰ）

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント（以下，ＦＤという）については，主に技術者教育推進委員会，教務委員会が担当しており，特に学生指導研究会と学生指導協議会は学校行事として実施している。オープン授業での教職員・保護者による授業参観（資料９－２－①－１），学生による授業評価と学生・教員の対話が（前述資料９－１－②－７）毎年実施され，意見収集と授業改善が行われている。近年では夏休み中に学生指導研究会，学生指導協議会（前述資料９－２－①－２）が，定期試験期間中には校内ＦＤ研修・講演会（前述資料９－１－⑤－２）が開催されてきた。新任教員へのＦＤ研修は（資料９－２－①－３），採用された年に随時行われ，相談窓口として指導教員を割り当てている。四国地区高専共同事業のＦＤ研修会が，専門分野別又一般科目別に開催され，教育の質の向上が図られている（資料９－２－①－４）。さらに，ＦＤに関する委員会等の組織関係図や役割・責任が把握できるものとして，（資料９－２－①－５～９）を示す。また，ＦＤの内容・方法（教育方法の研究・研修，教員相互の授業見学）及び実施状況（教員の参加状況，配布資料等）を示すものとして，（前述資料９－１－⑤－２）を掲げる。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

全教員の授業に対して，教員・保護者による授業参観，学生による授業評価および学生との対話が毎年実施され，意見収集・授業改善が行われている。近年では夏休み中に，学生指導研究会，学生指導協議会，定期試験期間中にＦＤ講演会が開催されてきた。教員・保護者による授業参観，学生による授業評価および学生との対話は毎年実施され，意見収集が行われている。新任教員研修では，新教員が採用された年に随時行われ，指導教員が新任教員の相談役となっている。

よってファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施している。

資料９－２－①－１　教職員・保護者の授業参観報告書(例)

平成１８年度オープン授業実施要領

教務主事

以下の要領にて実施する。

（1）日時：平成１８年5月１５日（月）～5月２０日（土、月曜日の授業実施）
１時限～８時限

（2）対象学年：全学年、全学科、専攻科

（3）実施方法：
① 5月１５日（月）～１９日（土）までは、教員同士の授業参観を主とするが職員保護者の方にも公開する。
② 5月２０日（土）については、保護者の便宜を図るため平常授業（月曜日の授業をする）とする。

（4）実施報告：
以下の実施報告書を教務係に5月３０日（火）までに提出する。実施報告書の様式は教務係にて用意する。
○オープン授業報告書（教員用）
教員が他の先生の授業を参観してのアドバイス・感想、また自らの授業実施報告をする。
○オープン授業報告書（保護者、職員用）
保護者及び本校職員が参観しての感想などを報告する

（以上）

2006.6.1

２００６年度　オープン授業実施報告

教務主事

２００６年５月１５日～５月２０日に実施したオープン授業の実施報告（教員のみ）、参観報告について、報告件数および記載内容のうちの一部を以下の如く報告します。

１．報告書の件数など

教員からの授業実施報告書　及び　教職員・保護者からの参観報告書の件数などを以下に示す。職員からの報告者がなかったのは残念である。

参観された保護者数５６名のうち１年生の保護者が３８名と大半を占めている。１年生の保護者には入学時に教育後援会総会で直接連絡し、１～３年生には４月末に文書で、４年生以上はモバイルキャンパスで学生を通じて案内したが参加者は半減した。

来年以降実施時期、保護者への周知方法を考える必要がある。

学科名	実施報告(教員のみ) 報告者数		参観報告（教員分） 報告件数		報告者数	
	H17年度	H18年度	H17年度	H18年度	H17年度	H18年度
一般	１７	１５	３５	３６	１６	１７
機械	１１	１０	３３	２６	１１	１１
電気情報	１１	９	２０	１３	１１	９
制御情報	１１	１１	２６	２０	１１	１１
建設環境	１０	９	２８	２１	１０	９

学年	保護者 参加者数 H18年度	報告件数（全学年） H17年度	H18年度	参観報告（校長先生・職員分） 報告件数 H17年度	H18年度	報告者数 H17年度	H18年度
１年	３８						
２年	１６	（５５）	（３６）	（２１）	（　１）	（１２）	（　１）
３年	２						
４年							
５年							

２．参観報告書の内容（一部のみ）

参観報告書の内容の一部を以下に記す。

・保護者からは、来年も実施してほしい。
・保護者の参観報告書は概して遠慮がちに書かれているようだが、学生の態度について懸念されることも記されている。
・教員の参観報告書では、指摘する部分は率直に記入されている。
・他教員の授業を参観することは、自らの授業の参考となったとの感想が多い。
・授業参観も３年目になり、実施方法再検討の指摘がある。

（以上）

- 1 -

（出典：オープン授業参観報告書）

資料９－２－①－２　学生指導協議会議事録

２．次　第

メインテーマ「今後の高松高専の教育のあり方について」

● 開会のあいさつ：　１０：００～１０：１０
高松工業高等専門学校長　　早野　浩

● 午前の部：１０：１０－１２：００　　卒業生の講演と質疑応答
サブテーマ１「高松高専で学んだこと，それが社会に出てどう活かされたのか」
卒業生（敬称略）：
・機械工学科第一期（昭和４２年）卒業生

・電気工学科第七期（昭和４８年）卒業生

・土木工学科第十七期（昭和６２年）卒業生

・制御情報工学科第三期（平成９年）卒業生

司会　　鎌田学生主事（主），高畑教務主事（副）

１．卒業生による講演　（各講演者約２０分）
２．講演者との質疑応答　（約３０分）

● 午後の部：　１３：００－１５：３０　パネル討論
サブテーマ２「私から見た高松高専，そして私の改革への提言」
パネラー：（敬称略５０音順）
・企業有識者（３名）

・卒業生（２名）

・在校生（１名）
（学生会長　５年生）
司会　　鎌田学生主事（主），高畑教務主事（副）
１．私から見た高松高専
（１）各パネラーの話題提供　（各パネラー約３分）
（２）パネル討論（約５０分）
２．私の改革への提言
（１）各パネラーの話題提供　（各パネラー約３分）
（２）パネル討論（約５０分）

－2－

（出典：学生指導協議会報告書）

資料９－２－①－３　新任教員研修実施要領（例））

第１回高松工業高等専門学校新任教員研修実施要領

１．目　的
この研修は，本校の新任教員に対して職務遂行上必要な基礎知識，広範な行政的識見等を付与し，一層の資質の向上を図ることを目的とする。

２．参加者
１）　人　数　　８名
２）　所属学科・職名・氏名

一般教育科（物理）	教　授	服藤憲司
機械工学科	教　授	岩田　弘
機械工学科	教　授	橋本良夫
機械工学科	助　手	高橋洋一
制御情報工学科	教　授	神内教博
制御情報工学科	助　手	正箱信一郎
制御情報工学科	助　手	真鍋知久
建設環境工学科	助　手	渡辺貴史

３）　対　象　　原則として，本校の新任教員とする。

３．期　間　　平成１８年６月９日（金）　９時３０分～１６時３０分

４．会　場　　本校第二会議室

５．日　程

９：３０～１０：３０	「総務関係事務について」 総務係長　大池嘉浩 人事労務係長　栗山育郎
１０：３０～１１：００	「科学研究費等の取扱について」 企画・評価係長　十河　誠
１１：００～１１：２０	休憩
１１：２０～１２：００	「学生関係事務について」 学生課長　米山和行
１２：００～１２：３０	質疑応答（事務部）
１２：３０～１３：３０	休憩
１３：３０～１４：１０	「授業について」 教務主事　鎌田　弘
１４：１０～１４：４０	「学生の生活指導について」 学生主事　木原茂文
１４：４０～１５：００	休憩
１５：００～１５：３０	「寮の宿直について」 寮務主事　坂本員儀
１５：３０～１６：３０	質疑応答（３主事）

※　携行品（当日，下記のものをご持参ください。）
○教員の手引き
○学生便覧
○学級担任のしおり
○筆記用具

（出典：新任研修報告書）

資料９－２－①－４　四国地区高専共同事業ＦＤ研修会議事録

平成 18 年度

四国地区高等専門学校共同事業ＦＤ研修会
実　施　記　録

（数学科）
（機械・材料系）
（理科・工業化学）
（制御情報系）

新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

講 演 テ ー マ 一 覧

数 学 科

演 題　習熟度クラス編成に関する考察
阿南工業高等専門学校　数学科　田 上 隆 徳

演 題　2年微分積分学における習熟度別授業について
（補習・教材開発を中心に）
詫間電波高等専門学校　数学科　南　貴 之

演 題　実用数学技能検定への取り組みと結果の分析について
新居浜工業高等専門学校　数学科　古 城 克 也

演 題　学寮における学習支援
弓削商船高等専門学校　数学科　藤 井 清 治

演 題　高知高専における補習学習支援およびコンピュータ利用について
高知工業高等専門学校　数学科　後 藤　章

演 題　高松高専数学科による教育改善の取り組みの報告
高松工業高等専門学校　数学科　高 橋 宏 明

機械・材料系

演 題　学修単位（大学単位）導入前後の材料力学の講義の運営について
阿南工業高等専門学校　機械工学科　奥 本 良 博

演 題　ＣＡＥ教育への取り組み
高松工業高等専門学校　機械工学科　岩 田　弘

演 題　シャトル・カードによる授業改善
新居浜工業高等専門学校　材料工学科　谷　耕 治

演 題　新居浜高専における材料力学教育の現状と将来
新居浜工業高等専門学校　機械工学科　鎌 田 慶 宣

演 題　高知高専における技術者倫理教育の現状について
高知工業高等専門学校　機械工学科　吉 田 聖 一

演 題　電子機械工学科における機械工学教育の取り組み
弓削商船高等専門学校　電子機械工学科　鶴　秀 登

理科・工業化学系

演　題　物理授業のためのビデオ教材の収集と活用
高知工業高等専門学校　一般科数理化学系　端　平 雄

演　題　マークシートを用いた毎時間小テストの試み
―リアルタイムでの理解度確認―
高知工業高等専門学校　一般科数理化学系　尾 崎　信 一

演　題　一般化学授業における水溶液の電離と電気分解に関する学生の理解度
新居浜工業高等専門学校　数理科　柴 田　亮

演　題　弓削商船における理科授業改善の取組みと課題
弓削商船高等専門学校　総合教育科　濱 中　俊 一

演　題　継続的実験による化学指導
詫間電波高等専門学校　一般教科　笠 井　健 吉

演　題　物理の授業における授業改善の取り組みについて
高松工業高等専門学校　一般教育科　加 藤　清 考

演　題　教育改善の試み―授業参観、試験問題検討、PBL 型実験の導入
阿南工業高等専門学校　一般科目　中 村　厚 信

演　題　Minute Paper(毎時間授業評価)による授業改善の試み
高知工業高等専門学校　物質工学科　島 内　功 光

演　題　能動型学生実験への取組み(セルフプランニング実験の導入と課題)
新居浜工業高等専門学校　生物応用化学科　堤　主 計

制御情報系

演　題　高松高専制御情報工学科のモノづくり教育プログラム
高松工業高等専門学校　制御情報工学科　十 河　宏 行

演　題　詫間電波高専情報工学科における創造教育の一例
詫間電波高等専門学校　情報工学科　松 下　浩 明

演　題　制御情報工学科の実験実習とロボット制作実習について
阿南工業高等専門学校　制御情報工学科　岡 本　浩 行

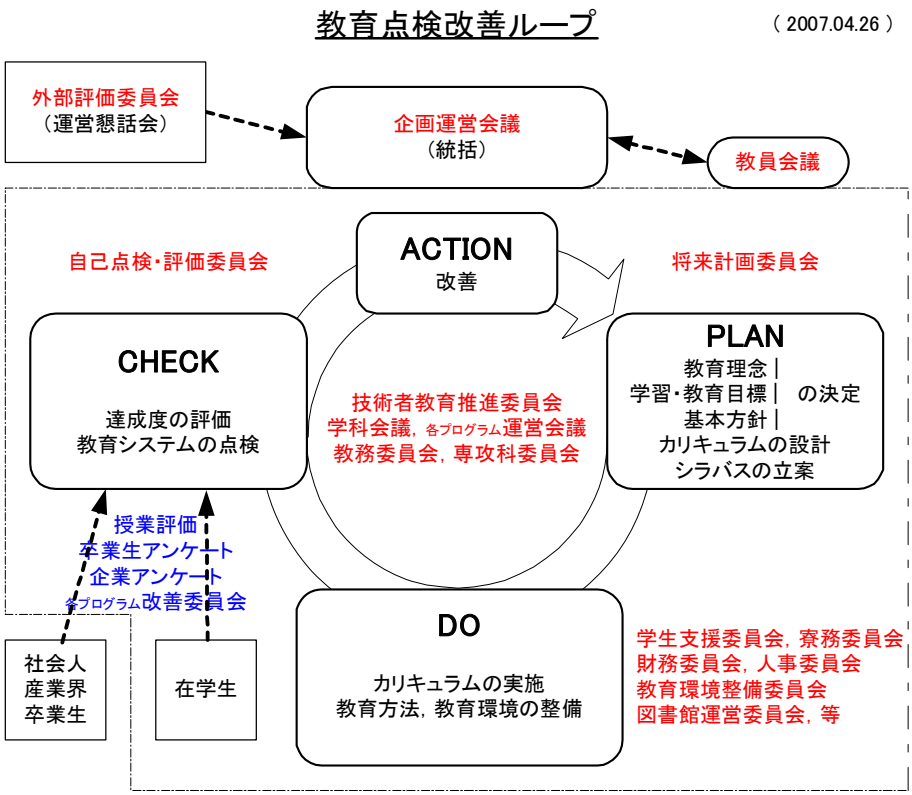
演　題　専門科目講義と練習船実習を連携した教育効果の向上について
弓削商船高等専門学校　商船学科　土 井　正 好

演　題　低学年導入教育用教材の製品化による授業改善
新居浜工業高等専門学校　電子制御工学科　出 口　幹 雄

演　題　低学年生のスタディスキルを向上させるための双方向型授業支援システムの構築と試み
高知工業高等専門学校　電気工学科　松 内　尚 久

（出典：四国地区高専共同事業ＦＤ研修会実施記録）

資料９－２－①－５　教育点検改善ループ



（出典：学校要覧）

資料９－２－①－６　技術者教育推進委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校技術者教育推進委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，技術者教育の推進と点検・評価に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一学習・教育目標に関すること。
二学習・教育目標達成度の総合評価に関すること。
三教育課程の基本方針に関すること。
四教育課程の点検・評価に関すること。
五ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の基本方針に関すること。
六認証評価機関の認証評価及び日本技術者教育認定機構（JABEE)の認定審査等に関すること。
七その他技術者教育の推進に関する必要な事項

（出典：技術者教育推進委員会規程）

資料９－２－①－７　教務委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校教務委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　本科教育課程の編成・実施に関すること。
二　本科の科目履修・成績処理に関すること。
三　授業の一環としての学校行事に関すること。
四　本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。
五　大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。
六　入学生の受入に関すること（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を。含む。）
七　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること（留学生の教育課程を含む）。
八　学生の授業評価に関すること。
九　その他本科教務に関する必要な事項

（出典：教務委員会規程）

資料９－２－①－８　学生支援委員会規程（抜粋）

高松工業高等専門学校学生支援委員会規程　　平成 17 年３月 10 日制定
第２条　委員会は，学生支援に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
一　学生の課外教育に関すること。
二　学生の規律保持に関すること。
三　学生の保健衛生・福利厚生に関すること。
四　学生による教育環境評価・学生自身の自己評価に関すること。
五　学生の要望聴取・各種支援に関すること。
六　学生の進路支援に関すること。
七　その他学生活動及び学生生活に関する必要な事項

（出典：学生支援委員会規程）

資料９－２－①－９　教育相談室運営規程（抜粋）

高松工業高等専門学校教育相談室運営規程　　昭和 63 年２月 22 日制定
（趣旨）
第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則（以下「規則」という）第 12 条第４項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教育相談室（以下「教育相談室」という）の組織及び運営について定めるものとする。
（目的）
第２条　教育相談室は，学生，父兄等からの個人的問題について相談に応じ，その解決のための適切な指導を行い，もつて学生の勉学条件の維持向上を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　教育相談室は，前条の目的を達成するため，次の各号に掲げる業務を行う。
一　学生の個人的問題に関する相談
二　父兄及び教職員からの教育相談
三　学生の勉学意欲に関連する健康相談
四　その他教育問題に関する研究討議

（出典：教育相談室運営規程）

観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質向上や授業改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

観点９－２－①で述べたように，オープン授業での教職員・保護者による授業参観，学生による授業評価と学生・教員との対話が毎年実施され，授業改善が行われている。例えば，学生による授業評価の結果が低い（総合評価が２．５未満）教員には，授業改善実施報告書の提出が義務付けされている（資料９－２－②－１）。ＦＤに関する報告書等の該当箇所，教育の質の向上や授業の改善が把握できるものとして，（資料９－２－②－２）を上げる。また，具体的改善方策の内容（カリキュラムや授業方法の改善例）を示す例として，（資料９－２－②－３）を示す。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

オープン授業，学生による授業評価，授業改善実施報告書，新任研修報告書などから，ファカルティ・ディベロップメントにおいて，教育の質向上や授業改善に結び付いていると判断できる。

資資料９－２－②－１　授業改善実施報告書

授業改善実施報告書（平成 18 年度）

学生による「授業評価アンケート」を実施した科目において，「設問：総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)」のクラス平均点が 2.5 未満の場合は，この授業改善実施報告書のご提出をお願いします。

教務主事

- 提出場所：教務係
- 提出期限：平成 19 年 3 月 5 日（月）17 時

授業改善への取り組みと実施報告

担当教員：　　印	
教科名：ＸＸＸＸＸ	クラス：　　○年　　○組

1. 「設問：総合的に判断して，この授業は何点ですか。(5 段階評価)」のクラス平均点が 2.5 未満であることに関わると思われる要因等について書いてください。

・自由記述などの内容より以下の要因が考えられる。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。
－ 4 年次の制御工学Ｉの内容の習得が不十分である。
－ 基礎的な数学力が付いていない学生がいる。
－ 練習・演習問題が少ない。

2. 上記 1. に対する改善策及び見解等について書いてください。

－ 授業のスピードが早くついて来ていない学生がいる。

プリントやレポート演習などで復習させる機会を与える必要があると共に本来復習は自分で行うものであり，与えられるものではないことも学生に理解させる必要がある。実際，質問に来る学生が他の学年に比べ少ないように感じる。
また今後，場合によっては授業内容の変更も考える必要がある。

－ 4 年次の制御工学Ｉの内容の習得が不十分である

本年度は，4 年次の制御工学Ｉも担当しているが，昨年度は別の方が担当しておられたため，情報交換が足りなかったと思われる。　ただ，昨年度のテストの結果を見ると全員合格であり十分理解しているかのように思えたが，理解しいないところをみると，学生は単に方法・答えを覚えただけで習得していないと思われる。来年度は，本年度制御Ｉも私が担当しているので，学生の到達度・個々の学力などについて情報不足という点は解消できると思われる。

（出典：授業改善実施報告書）

資料９－２－②－２　教員の授業改善に関する報告例

①学生による授業評価後の授業対話報告書より（H18 年度より抜粋）

〔教員〕

・授業は分かるがテストが難しい。がんばります。→数学や他の教科とも関連させて進めています。質問には早めに来てください。試験直前は力学や数理などに集中を！

・授業は結構楽しい。良いと思う。→教える内容をグンと減らし，定着度優先です。

・その他，実習に関する質問がありました。授業と実習はできるだけ連携させて進めていますが，今後３年以上ではそれが追い付かないことがあります。メリハリをつけて，しっかり取り組んで下さい。

・テストは大変です。　→　平均点も高く、このレベルを維持したいと思っています。

・夏休みﾚﾎﾟｰﾄ出さず。　→　試験だけでも十分合格できると思います。

・穴埋めﾌﾟﾘﾝﾄのうめるだけはやめて欲しい。　→　やめます。

・単位が取れるﾃｽﾄに。ﾃｽﾄが難しい。　→　過去に６０点未満は１人しかいません。

・漢字はやめて欲しい。　→　漢字は日本語の基本。地名、人名は災害につきもの。

・特に方針を変更するつもりはありませんが、少し教科書を中心に、あまり脱線しないようにしたいと思います。災害は、毎日のニュースの中に多々情報があふれています。卒業時は、立派な防災インストラクターとして期待しています。

・本科目の目標と学習の仕方について説明。授業評価の結果とこれに対する意見について説明。

・文字が小さい，声が小さいときがある。→努力して改善する。

・範囲が広い，暗記が多い。→科目の性格上いたし方ないこと，技術者としては必要不可欠なことを説明し努力を促す。

・試験が難しい。→大卒と同等以上の学力養成と関連知識として修得が重要であること，資格試験を視野においた授業であることを説明。

・クラスの平均点の低いアンケート項目について学生に発表した。

・授業が教員基準でウザイ→授業レベルは，就職試験，編入学試験の出題内容をチェックおよび教員の経験から決めており，教員の基準ではない。昔に比べて，内容は精選している。優秀な学生を伸ばすこともしなければならない。したがって，本当はもっとレベルの高いことも教える必要がある。

・問題が難しい（複数記述あり）→４，５年生での授業や就職試験，編入学試験に役の立たない易しい試験で良い点を取っても自己満足に過ぎない。やりたくないことも取り組まなければ生きていけない。もっと勉強して欲しい。

・若干分かって当たり前という感じの説明のような気がする。→基本的なところは四則演算ができれば解ける問題である。高専に入学できる実力がありながら，できなはずはない。基本的なところだけでも，少なくとも５０点は取れるはずである。授業中に聞かずに，試験前だけ取り組んでもダメである。

・分かりやすい授業である。（複数記述あり）→お礼を言った。

・演習の時間を増やして欲しい。→シラバスの内容をカバーしようとすると演習の時間を確保するのは時間的に難しいが努力する。

②オープン授業参観・実施報告書より（H18 年度より抜粋）

〔参観報告・教員〕

・先生は学生が授業に集中できるように工夫されている様であるが，全ての学生が集中しているということではない。これは，学生の質の問題もある様にも思われた。他学科の２年生の授業を見たが，この様なことはなかった。

・机の並びが雑然としている。整然と並んでいることが学習する基本であると考える。

・シャツの裾出し，居眠りしている者が多数居る。マンガを読んでいる女子学生も１人居た。

・まだ，２年生の始めという事を考えると，このまま進級していくとかなり問題になる学生がでてくることが心配される。

・分かりやすい資料を配付されていて感心した。配付資料に記載された問題について，もう少し解説が必要なところがあるように感じた。

・学生に話しているのか独り言を言っているのか，よく分からない時がありました。

・机間巡視の際に学生の服装を注意した方が良いと思います。

・板書が見やすく丁寧に書かれており感心しました。

・内容が豊富で事前，あるいは事後の学習をしっかりとしないと消化不良になってしまうのではないかとの不安を感じた。

・落ち着いた雰囲気で授業が進行していた。自分の授業もそうしたいと思うが性格がじゃまをしてなかなかそうはいかない。

・授業内容はむつかしくてよくわからなかったが，学生たちは大部分ノートをとりながら講義そのものをよく聞いていた。

・板書の文字は大きいが，場所がバラバラになりやすく，メモが取りにくそうだった。

・学生の理解度に幅があるため，簡単な事項，例えば…の一般式，といったことを指名して回答させるなど必要かもしれない。説明後の独特の間がつらそうでした。

・黒板上に書かれていることが適切で，学生自身も聞いて理解できるような流れのある講義をされていて，大変参考になった。

〔実施報告・教員〕

・私自身はマンネリ化を防ぐため，全学的な雰囲気，他学科の状況などを見学した。

・変化を持たせるためには，参観者が授業で質問できるようなことを考えてもいいかもしれない。

・学生の参観があり，新鮮味があって良い。

・１，２年生については，重点科目を決めてはどうか。

・授業改善として，少人数によるゼミ方式の採用，学生の講師方式，双方向の授業，発表会，実験との連携。

（出典：教務資料）

資料９－２－②－３　教務委員会議事録（例）：カリキュラム変更時の議事録

H18_第09回教務委員会議事録.txt

１．日時等
日時：12月19日（火），１６：３０－１９：１０
場所：第１会議室
２．協議事項
（１）平成19年度のカリキュラム（学修単位を含む）（案）
・別紙に基づいて各科のカリキュラム変更について審議した。
・最新のカリキュラム表への変更などを行い，整合を取る。
・修正されたカリキュラム表は，各科の教務担当教員が作成し，最終的に教務係に提出，保管する。
・一般は，４年の選択：化学が「環境化学」と「物理化学基礎」に別れ，双方学修単位とする。
・学修単位は，別紙の通り一覧表のみ＊印で記載する。欄外に注釈を入れる。
→企画運営会議より，＜シラバスの評価方法の欄に，「自学自習の課題等も評価する。」と記載する。＞ことが追加された。《後日，追加連絡有り》

（２）平成19年度特別学修単位（案）の導入
・別紙に基づいて特別学修単位の導入について審議した。
・文言の修正等を行う。明確化と全体の表現の統一のため。
・備考欄に対象学科を入れる。

（３）平成19年度学校行事予定（教務関係，案）
・【学生会の要望】により，６／６～前期中間試験とした。
・【電気情報系教員からのご指摘】により，９／２６の取扱い，考え方の確認。
・卒研発表等をもう少し後期末試験から離す方向で，今後検討。
・4月６日の健康診断は医師等の都合により4月12日（木）の午後となりましたのでお知らせします。従って4月１２，25日の午後は健康診断の対象学年，クラスの授業はありません。《後日，追加連絡有り》

（４）平成19年度推薦入学業務予定（案）
・1/16の推薦入試の実施要項が配布された。
・また，参考のため学力入試についても参考のため，配布された。
・監督や実施内容等で気が付いた点が有れば，教務係まで連絡して欲しい。

（５）学生動向
[redacted]３／３１まで休学を認める。

（文責：建設，向谷）
以 上

（出典：教務委員会議事録）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生からの意見収集について，学生会と教務主事，学生主事との対話が毎年開催されており，学生会から改善の要望，学校側から改善された点の説明を行っている。学生会から指摘された改善要望事項は，各種委員会で取り上げられ，可能な部分から改善が実行されている。

学生による授業評価アンケートは平成７年度以降行われており，平成１５年度からは，アンケート結果に基づく学生との対話が行われている。対話報告書は教員，学生双方から提出され，授業の状況，および授業の改善状況が把握されている。

四国高専の共通試験（数学，物理，化学，英語）が平成１６年度から実施され，試験結果の分析・解析結果は，高松高専研究紀要，高専教育，日本工業教育などの学会等で報告され，授業に活かされている。

四国地区高専共同事業のＦＤ研修が行われ，教育の質の向上が図られている。

（改善すべき点）

専門学科教員の研究テーマについて，教育の質の向上・改善に結び付いていくシステムを検討する。

（３）基準９の自己評価の概要

技術者教育推進委員会を中心として，教務委員会，専攻科委員会，一般教育科学科会議，各専門学科会議，各プログラム運営会議，その他各種委員会が置かれ，教育の質の向上や改善のためのシステムを形成している。これらの委員会は定期的にデータの蓄積，もしくは必要に応じてデータ分析を行っており，分析結果が教育改善の基礎資料として用いられている（例えば，教員の活動報告書には，学生による授業評価の分析結果に応じて，どのように授業を改善したか記述する項目がある)。組織図上改善システムの構成は，学校内の各種委員会から構成されているが，技術者教育推進委員会が行う企業や卒業生に対するアンケート，教務委員会が行うオープン授業・学生による授業評価や，学生支援委員会が主催する学生会との対話集会，有識者懇話会，外部評価委員会などにより，企業，卒業生，学生保護者，在学生，学生会役員，外部有識者など，内外から意見聴取できる仕組みが確立されている。聴取された意見は，各委員会の議題へ上がり，できるものから改善が実施されている。また近年，四国高専間の教育改善に関する意見交換が活発になり，全国に先駆けて共通テストの実施，共通ＦＤ研修会などが実施されている。これらの分析結果や報告が，研究紀要，高専教育，日本工業教育などの学会等で報告されており，研究活動と教育の質の改善とのリンクが顕著に見受けられる。本校において，自己点検・評価を行う明確な改善ループは確立されているので，今後とも継続的なシステムの運用が求められる。

高松高専におけるＦＤ活動として，ＦＤ講演会の実施，学生指導研究会・学生指導協議会の実施，授業改善実施報告書の作成，新任研修会の実施などが挙げられる。また四国高専共催のＦＤ研修会，専門学科プログラム運営会議主催の授業実践事例報告会などが開催されている。これらのＦＤ活動は，学校現場での実例をテーマとしているので，教員もＦＤ活動に積極的に参加でき，授業改善の実績をあげている。

基準１０　財務

（１）観点ごとの分析

観点１０－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産については，平成16年度に独立行政法人となった際に国から出資を受けたもの及びそれ以降取得したものによって構成され，効率的かつ有効に使用されている。また，これらの固定資産については，財務会計システムの資産一覧等において適切に管理を行っている。本校が有する財務諸表上の固定資産に係る帳簿価額等は，以下のとおりである（資料１０－１－①－１）。

債務については，長期又は短期の借入金も無く，過大な債務は保有していない。（資料１０－１－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

資産については，上記のとおり本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる良好な資産を保有している。また，本校には債務はない。

資料１０－１－①－１　資産保有状況一覧

資産保有状況一覧

地区名	類型	面積又は数量	帳簿価額(円)
校舎地区	土地	132,702.70 ㎡	2,785,300,000
	建物	26,491.00 ㎡	1,455,012,321
	構築物	式	171,828,854
	物品等(車輌・船舶を含む)	106 品	68,831,353

地区名	類型	面積又は数量	帳簿価額(円)
木太町宿舎	土地	1,092.11 ㎡	105,100,000
	建物	1,247.00 ㎡	24,582,775
	構築物	式	1,924,646

地区名	類型	面積又は数量	帳簿価額(円)
昭和町宿舎	土地	1,074.38 ㎡	189,300,000
	建物	542.00 ㎡	6,370,670
	構築物	式	136,018

地区名	類型	面積又は数量	帳簿価額(円)
総　　計	土地	134,869.19 ㎡	3,079,700,000
	建物	28,280.00 ㎡	1,485,965,766
	構築物	式	173,889,518
	物品等(車輌・船舶を含む)	106 品	68,831,353

※　建物の面積は延べ面積である。

※　平成19年３月末現在の保有状況である。

（出典：資産保有状況一覧）

資料１０－１－①－２　貸借対照表

貸 借 対 照 表
（平成19年3月31日）

資　　産		負債･資本	
借　　方	金　　額	貸　　方	金　　額
[資 産 の 部]	4,949,881,055	[負 債 の 部]	331,237,189
流 動 資 産	141,063,528	流 動 負 債	169,473,686
固 定 資 産	4,808,817,527	固 定 負 債	161,763,503
[本 支 店 勘 定]	△ 1,504,832	[資 本 の 部]	4,617,139,034
(本 年 度 損 失)	0	資 本 金	5,449,976,663
		資 本 剰 余 金	△ 832,837,629
		(本 年 度 利 益)	
合　　計	4,948,376,223	合　　計	4,948,376,223

（出典：平成18年度貸借対照表）

観点１０－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校における教育研究活動を行うための運営資金は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下，「機構」という。）本部から配分される運営費交付金・施設整備補助金等に加えて，自己収入（授業料，入学料，検定料，学生寄宿舎等）の獲得によりその経常的収入が確保されている。

また，この経常的な収入のほかに寄附金，受託研究費，共同研究費，科学研究費補助金等の外部資金の収入がある（資料１０－１－②－１）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校における教育研究活動の財務上の基礎となる経常的収入の約80％が運営費交付金である。運営費交付金は機構本部から安定的・継続的に配分されている。また，自己収入の殆どを占める授業料収入については，毎年学生定員を充たしていることから，確実に経常的収入が継続的に確保されている。

また，外部資金については，資料１０－１－②－１に示すとおりであり，近年減少傾向となっているがある程度の収入は確保されている。

資料１０－１－②－１　各運営資金の推移一覧表

運営費交付金・施設整備費の推移

（単位：千円）

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
運営費交付金等		1,098,202	1,135,960	1,034,615
施設整備費		15,045	11,063	15,099
合計	－	1,113,247	1,147,023	1,049,714

（出典 決算報告書）

自己収入の推移

（単位：千円）

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
授業料	183,343	161,665	191,917	188,252
入学料	17,647	15,769	16,327	16,167
検定料	5,620	4,448	4,260	4,217
学校財産貸付料	1,888	1,845	2,315	2,566
職員宿舎貸付料	183	5,781	5,705	5,120
寄宿料	1,254	1,392	1,292	1,295
その他自己収入	1	712	95	13
合計	209,936	191,612	221,911	217,630

（出典 決算報告書）

外部資金の推移

（単位：千円）

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
科学研究費補助金	8,740	7,300	7,380	4,850
奨学寄附金	14,470	10,510	18,062	15,200
共同研究	1,800	14,230	4,700	3,900
受託研究	1,441	516	1,050	1,260
合計	26,451	32,556	31,192	25,210

（出典：外部資金実績額調）

観点１０－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校では，自己収入を含め機構本部から配分された運営費交付金等を予算の範囲内で効率的，効果的かつ適切な執行に努めるため，予算の有効利用や予算の配分等を審議する組織として校長，３主事，専攻科長，事務部長で構成する財務委員会が設置されている。本校における予算配分については，財務委員会において配分案が検討され，年度ごとに配分方針（資料１０－２－①－１）が定められそれに基づき審議し，校長の最終決裁により配分が決定される。その内容は本校の企画運営会議に報告されている。

収支計画については，定期的に作成し機構本部へ報告している「職員基本給等所要額調（これまでの支出実績と今後の所要額見込）」と「収入見込額調（これまでの収入実績と今後の収入見込）」により，収支のバランスを考慮して適切な予算執行を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

予算配分については，本校の財務委員会の審議を経て校長が最終決定し，企画運営委員会等において関係の教職員等に周知され，厳正かつ適切に配分がなされている。また，収支計画の策定状況としては，収入見込と支出見込を定期的に作成することにより適格に収支状況を把握することで，収支のバランスは適正に保たれている。

資料１０－２－①－１　予算の配分方針

平成１８年度当初予算に係る配分方針

１ 教育研究経費

（1）教育研究実施経費（教員研究旅費及び教員研究費）

① 各経費配分の基礎となる員数は、4月1日現在の教員現員数とする。

② 教員研究費の配分率は、校長裁量経費への重点的配分を行うため、前年度と同様に70%配分とする。

③ 改正する事項

それぞれの単価について職務による格差や文系理系間の格差また専門学科と一般教育科の格差を是正する目的から下記のとおり単価の改正を行う。

（中略）

以上のことから、今年度の予算配分方針として、節約等により削減できる経費（教育研究支援経費及び一般管理費分）については、その分を教育研究経費に充当することとし、特に教育研究の活性化及び教育方法改善を推進するため、校長裁量経費に重点的に配分することとする。

（出典：高松高専財務委員会資料）

観点１０－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

平成18年度の収支については，資料１０－２－②－１，資料１０－２－②－２に示すとおりである。

（分析結果とその根拠理由）

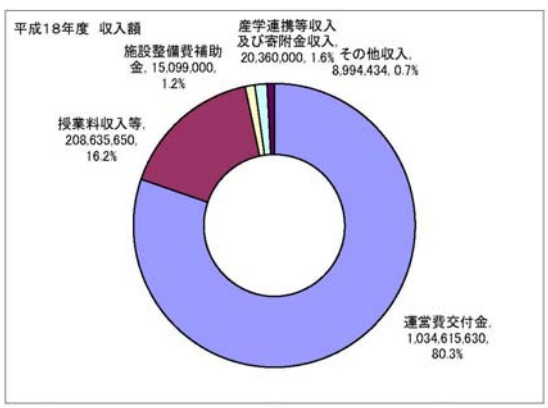
適切である。

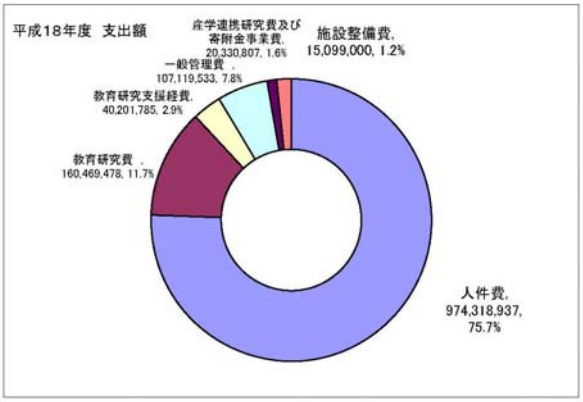
資料１０－２－②－２に示すとおり過大な支出超過となっていない。

資料１０－２－②－１　平成18年度の収入及び支出決算額

収入	
項目	金額(円)
運営費交付金	1,034,615,630
授業料収入等	208,635,650
施設整備費補助金	15,099,000
産学連携等収入及び寄附金収入	20,360,000
その他収入	8,994,434
合計	1,287,704,714

支出	
項目	金額(円)
人件費	974,318,937
教育研究費	158,791,945
教育研究支援経費	43,723,090
一般管理費	75,253,369
施設整備費	15,099,000
産学連携研究費及び寄附金事業費	20,330,807
合計	1,287,517,148





（出典：平成18年度収入・支出決算額調）

資料１０－２－②－２　損益計算書

損 益 計 算 書
（平成18年4月31日～平成19年3月31日）

費用		収益	
借方	金額	貸方	金額
[経常費用の部]		[経常収益の部]	
業務費	1,188,616,186	運営費交付金収益	995,631,748
教育・研究経費	170,406,731	授業料収入	184,305,930
教育研究支援経費	39,535,629	入学金収益	16,167,000
受託研究費	1,260,000	検定料収益	4,217,300
共同研究費	3,799,683	受託研究収益	1,260,000
教員人件費	571,464,298	共同研究収益	3,500,000
職員人件費	402,149,845	寄附金収益	15,365,106
一般管理費	73,448,682	施設費収益	6,039,046
財務費用	394,863	資産見返負債戻入	27,712,781
雑損	－	財務収益	－
（本年度利益）	733,614	雑益	8,994,434
		（本年度損失）	－
合計	1,263,193,345	合計	1,263,193,345

（出典：平成18年度損益計算書）

観点１０－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

予算配分については，観点１０－２－①で述べたとおり厳正かつ適切に配分がなされているところであるが，学科等に配分する基礎的研究経費のほかに更なる教育研究の活性化及び教育方法改善を推進するため学校長裁量経費が設けられており，経費種目として教育研究等経費（学生の理解度を高めるための教育実践等に要する経費，学内の学科の枠を超えて実施する共同研究経費，地域企業等との共同研究等を惹起する萌芽的研究経費等），教育充実設備費（学生の実験実習をなす設備等の整備費）及び研究活動等経費（国際シンポジウムの出席旅費，ＦＤ講演会及び学術講演会の開催に要する経費）に区分され，教員等からの交付申請に対し，採択基準に基づき校長の裁量により重点的に配分されている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

校長のリーダーシップのもと教育研究活動の活性化や教育方法改善を図るために競争的環境を設け，教育研究の質の向上等に応じた有効な配分がなされている。校長裁量経費を優先的に配分することにより，施設，設備等の環境も改善されている。

観点１０－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

各高専の財務諸表等は，機構本部において集計され５５高専全体で１機構の財務諸表等として官報により公表されている。また，本校の財政状況（収入・支出・寄附金受入状況）については，本校の学校要覧に掲載されている（資料１０－３－①）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

機構全体の財務諸表等については官報及び高専機構のホームページに掲載され，本校の財政状況については本校の広報誌及びホームページに掲載され適切な形で公表されている。

資料１０－３－①　財政状況

財　政

Finance

収入・支出（平成18年度） Revenue and Expenditure Fiscal 2006

収入（単位:千円） Revenue

運営費交付金	1,034,615
施設費	15,099
自己収入	
授業料及び入学金検定料	208,636
雑収入	8,994
産学連携等研究収入及び寄付金	20,360
計	1,287,704

支出（単位:千円） Expenditure

人件費	974,319
教育研究経費	202,515
一般管理費	75,253
施設費	15,099
産学連携等研究費及び寄付金事業費等	20,331
計	1,287,517

寄付金受入状況 Donation Received for Scholarship Fund

【年度】	【件数】	【金額（単位:千円）】
平成15年度	33	14,470
平成16年度	22	10,510
平成17年度	31	18,062
平成18年度	32	15,200

（出典：平成１9年度学校要覧抜粋）

観点１０－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

機構においては独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱に基づく監事による監査及び独立行政法人通則法第39条に基づく会計監査人による外部監査が実施されている。

本校においては，「高松工業高等専門学校会計実地監査規則」により，毎年内部監査を実施しているほか、四国地区の６高専で相互監査を実施している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校は上記監事監査を平成16年度に受検したほか，四国地区高専間相互監査及び内部監査を行っており財務に関する会計監査は適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

更なる教育研究の活性化及び教育方法改善を推進するため学校長裁量経費を設け，学内における競争的資金の配分を行っている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１０の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための資産（土地，建物及び設備等）を有し，それらは良好な状態で管理・運営されている。また，本校においては過大な債務は有していない。

収入面については授業料，入学料，検定料等の自己収入に加え，機構本部からの運営費交付金等の配分により経常的収入が安定的に確保されている。自己収入を含め機構本部から配分される運営費交付金等については適正に予算配分が行われ，その執行についても計画的に適切な経理がなされている。また，本校の財政状況については，本校の広報誌及びホームページに掲載され，適切な形で公表されている。

会計監査等については，年１回内部監査を行っているほか四国地区６高専間での相互監査も行われており，適切に会計監査が実施されている。

基準１１　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点１１－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割については，学校教育法第７０条の７第３項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第２項で「校長は，校務をつかさどり，所属教職員を監督する。」と定められている。

教務主事，学生主事及び寮務主事の役割については，本校では，学則（資料１１－１－①－１）及び内部組織規則（資料１１－１－①－２）で定めている。また，教務主事を副校長（教務担当），学生主事を校長補佐（学生担当），寮務主事を校長補佐（学寮担当）とし，更に高松高専独自のものとして，校長補佐（国際交流・地域連携担当）及び校長補佐（将来計画担当）を加え，校長を補佐する体制を構築している。

本校の運営に関する組織として校長室連絡会（資料１１－１－①－３），企画運営会議（資料１１－１－①－４），教員会議（資料１１－１－①－５）及び各種委員会等（資料１１－１－①－６）がある。校長室連絡会は校長，各主事，各校長補佐，専攻科長及び事務部長を構成員とし，本校における教育研究活動及び学校運営全般についての連絡調整，意見交換の場として，原則として毎月１回開催されている。企画運営会議は，企画運営会議規程により，校長，各主事，各校長補佐，専攻科長，各学科長，各室長及び事務部長を構成員として組織され，校長の諮問に応じ，学校運営に係る重要事項を審議している。校長は，企画運営会議を招集し議長となり，教育・研究・管理運営の統括責任者として，主事・専攻科長及び各種委員会等の提案をもとに，学内を調整し，管理運営を行っている。教員会議は校長，専任の教員及び事務部長をもって組織され，役割については，教員会議規程（前述資料１１－１－①－５）により定められている。各種委員会等については，趣旨，目的，組織等が委員会規程等（資料１１－１－①－７）に定められている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

校長，主事，委員会等の役割は学則等で明確に定められている。重要な管理運営事項については，校長が招集する企画運営会議で，校長が議長となり，審議し，校長が意思決定している。また，校長室連絡会で事前に意見交換し，連絡調整を行うなど，校長のリーダーシップの下で，効率的な意思決定が行える態勢となっている。

資料１１－１－①－１　高松工業高等専門学校学則

高松工業高等専門学校学則

昭和 37 年４月１日制定

第１章　本校の目的

第１条　本校は，教育基本法の精神にのつとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（第２条～第８条　省略）

第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

第 10 条　本校に，その事務を処理するため事務部を置く。
第 11 条　前２条に規定するもののほか，本校の内部組織は，別に定めるところによる。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－①－２　高松工業高等専門学校内部組織規則

高松工業高等専門学校内部組織規則

昭和 63 年２月 22 日制定

第１章　総則

（趣旨）
第１条　この規則は，高松工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第１１条の規定に基づき，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織（事務部組織を除く。）について定める。

第２章　教員組織

（教員組織）
第２条　本校に，次の学科等（以下「学科」という。）の教員組織を置く。
一般教育科
機械工学科
電気情報工学科
制御情報工学科
建設環境工学科
２ 本校の教員は，前項に定めるいずれかの組織に属するものとする。

第３章　校務組織

（主事）
第３条　本校に，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第１項及び学則第９条第１項の規定に基づき，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
（専攻科長）
第３条の２ 学則第 40 条に定める専攻科に専攻科長を置く。
（学科長）
第４条　第２条第１項に定める各組織にそれぞれ学科長を置く。
（図書館長）
第５条　本校に，図書館を置き，館長を置く。
２ 図書館に関する事項は，別に定める。
（教育相談室長）
第６条　本校に，教育相談室を置き，室長を置く。
２ 教育相談室に関する事項は，別に定める。
（主事補）
第７条　教務主事，学生主事及び寮務主事のもとに，それぞれ教務副主事，学生副主事及び寮務副主事並びに教務主事補，学生主事補及び寮務主事補を置く。
（専攻主任）
第７条の２ 専攻科に，機械電気システム工学専攻主任及び建設工学専攻主任（以下「専攻主任」という。）を置く。
（学年主任）
第８条　第１学年，第２学年及び第３学年にそれぞれ学年主任を置く。
（学級担任）
第９条　各学級ごとに，学級担任を置く。
（一般科目教科主任）
第１０条　一般科目の各教科にそれぞれ教科主任を置く。
（学内共同利用施設長）
第１１条　本校に，学内共同利用施設として，次の施設を置き，それぞれに施設長を置く。
　　コンピュータサイエンスセンター
　　高機能化技術教育研究センター
２ 学内共同利用施設に関する事項は，別に定める。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－①－３　校長室連絡会要項

校長室連絡会について

制定　平成１７年　９月２８日
一部改正　平成１８年１１月　１日

１　本校における教育研究活動及び学校運営全般についての連絡調整，意見交換の場として，校長室連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。

２　連絡会の構成員は，校長，各主事，各校長補佐，専攻科長及び事務部長とする。

３　連絡会は，平成１７年１０月から，原則として毎月１回開催するものとする。

（出典：総務課資料）

資料１１－１－①－４　高松工業高等専門学校企画運営会議規程

高松工業高等専門学校企画運営会議規程

昭和63年２月22日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第18条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校企画運営会議（以下「企画運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　企画運営会議は，校長の諮問に応じ，高松工業高等専門学校の運営に係る重要事項を審議する。

（組織）

第３条　企画運営会議は，次の構成員をもつて組織する。

一　校長

二　各主事

三　各校長補佐

四　専攻科長

五　各学科長

六　総務・広報室長

七　研究・連携推進室長

八　事務部長

（運営）

第４条　企画運営会議は，校長が招集し，議長となる。

２　校長に事故あるときは，あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

（構成員以外の者の出席等）

第５条　校長が必要と認めたときは，構成員以外の者を企画運営会議に出席させ，説明又は意見を聴くことができる。なお，図書館長，コンピュータサイエンスセンター長，高機能化技術教育研究センター長，教育相談室長は，議題の提案ができるものとする。

（幹事）

第６条　企画運営会議に幹事を置き，総務課長，学生課長及び施設課長をもつて充てる。

（事務）

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－①－５　教員会議規程

高松工業高等専門学校教員会議規程

平成16年４月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第18条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教員会議（以下「教員会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（任務）

第２条　教員会議は，高松工業高等専門学校の運営に係る事項について協議し，校内の連絡調整にあたることを任務とする。

（組織）

第３条　教員会議は，校長，専任の教員及び事務部長をもつて組織する。

（運営）

第４条　教員会議は，校長が招集し，議長となる。

２　校長に事故あるときは，あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

（幹事）

第５条　教員会議に幹事を置き，総務課長及び学生課長をもつて充てる。

２　幹事は，所掌事項について説明することができる。

（事務）

第６条　教員会議の事務は，総務課において処理する。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか，教員会議の運営に関し必要な事項は，校長が定める。

附　則

１　この規程は，平成16年４月１日から施行する。

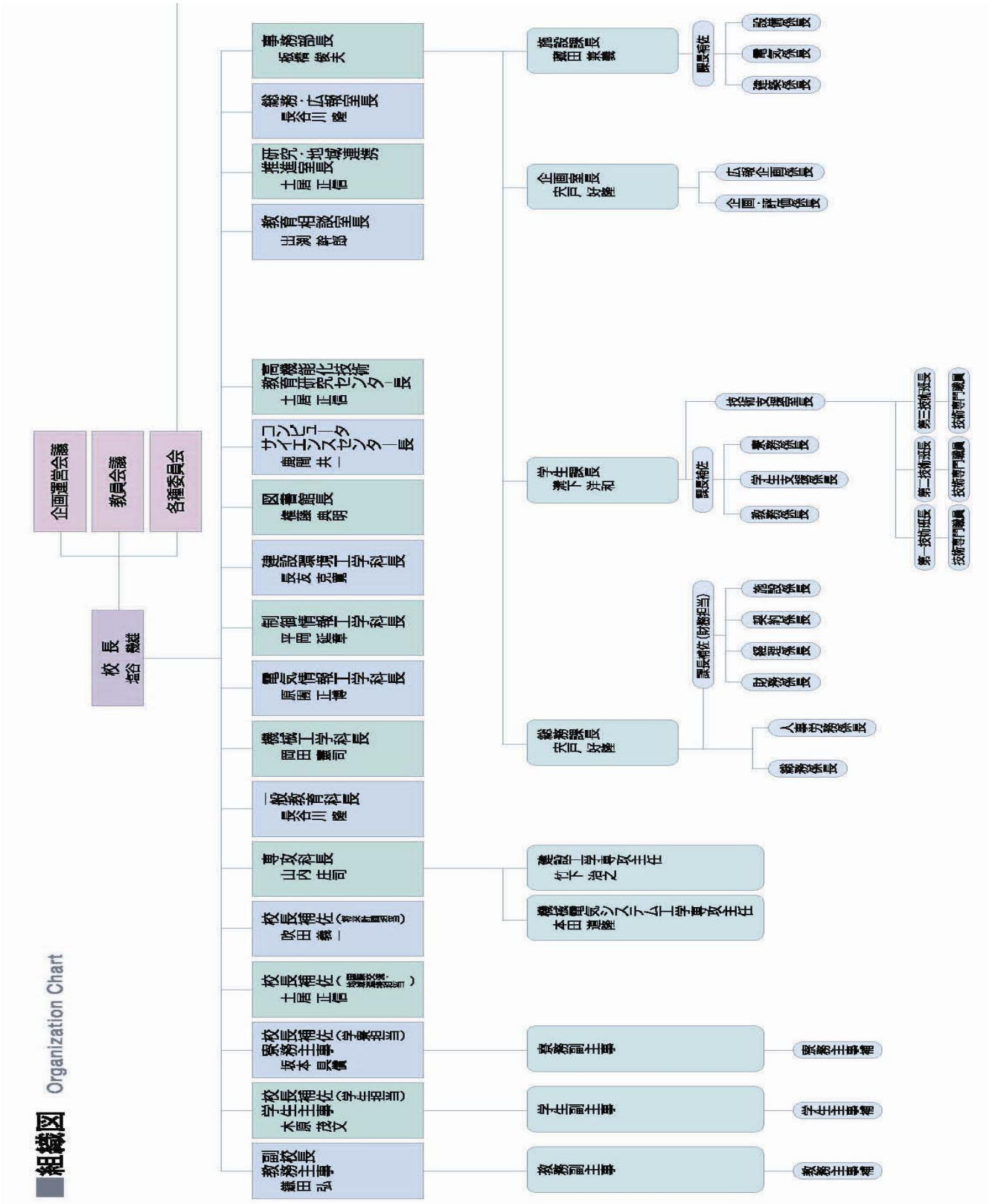
２　高松工業高等専門学校教官会規程（昭和63年２月22日制定）は，廃止する。

附　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－①－６　組織図



（出典：2007 年度版高松高専要覧）

資料１１－１－①－７　委員会規程（例：教務委員会）

高松工業高等専門学校教務委員会規程

平成17年３月10日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　本科教育課程の編成・実施に関すること。

二　本科の科目履修・成績処理に関すること。

三　授業の一環としての学校行事に関すること。

四　本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。

五　大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。

六　入学生の受入に関すること。（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を含む。）

七　研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること。（留学生の教育課程を含む。）

八　学生の授業評価に関すること。

九　その他本科教務に関する必要な事項

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　教務主事

二　教務副主事

三　教務主事補

四　一般教育科及び各学科から選出された各１名の教員

２　委員は，校長が委嘱する。

３　第１項第４号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き，教務主事をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

観点１１－１－②：　管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。

（観点に係る状況）

学校の管理運営に関する組織は、学則（資料１１－１－②－１）及び高松工業高等専門学校内部組織規則（資料１１－１－②－２），事務組織及び事務分掌規程（資料１１－１－②－３），において定められている。管理運営に関する重要事項については，企画運営会議（資料１１－１－②－４）で審議されるが，各種委員会，教員会議等と役割を分担し，校内意見の調整を行い，校長が効率的に意思決定を行えるよう活動している。主要委員会等は，関係主事（副校長及び校長補佐）及び各科等の代表委員等で構成され，教員会議は，校長，専任の教員及び事務部長で構成されているため，関係者の意見を十分くみ取り，各事項についての効率的な意思決定とその周知徹底が図られ，効果的な活動ができる態勢となっている。

事務組織は，事務部長の下に、総務、学生の２課，及び企画室を配置し，各所掌業務を行う体制となっている（前述資料１１－１－②－３）。また，部課長による連絡会を週１回開催，係長以上の職員で構成する事務運営会(資料１１－１－②－５）を月１回開催し(資料１１－１－②－６），管理運営事項の連絡調整と意思疎通を効率的に行える態勢となっている。各委員会規則には担当課が明記され（資料１１－１－②－７），事務職員も委員として参画する等，必要に応じて直接校務を分担し，機能的に活動している。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の管理運営に関する各種委員会等は，その趣旨，目的，組織等が規則に明記され，適切な役割分担と責任体制が確立し，効果的に活動している。

事務組織は，事務部長の下，事務分掌に従い，組織間の意思疎通と連携を保ち，効率的な管理運営を行っている。更に，委員会等の構成員として加わるなどして学校運営に参画し，適切に役割を分担し効果的に活動している。

資料１１－１－②－１　高松工業高等専門学校学則

高松工業高等専門学校学則

昭和 37 年４月１日制定

第１章　本校の目的

第１条　本校は，教育基本法の精神にのつとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（第２条～第８条　省略）

第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４　寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

第 10 条　本校に，その事務を処理するため事務部を置く。
第 11 条　前２条に規定するもののほか，本校の内部組織は，別に定めるところによる。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－②－２　　高松工業高等専門学校内部組織規則

高松工業高等専門学校内部組織規則

平成 16 年４月１日制定

第１章　総則

(目的)
第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条及び高松工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条の規定に基づき，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織（事務部組織を除く。）等に関することについて定め，もつて校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

第２章　教員組織

(教員組織)
第２条　この規則において，教員とは，学則第８条第１項に定める校長，教授，准教授，講師，助教及び助手で，本校に常時勤務するものをいう。
２　本校に，学則第７条第１項に定める学科及び一般教育科（以下「学科」という。）を置き，教員（校長を除く。）は，いずれかの学科に属するものとする。

第３章　校務組織

(副校長及び校長補佐)
第３条　本校に副校長を置き，学則第９条第１項に掲げる教務主事をもつて充てる。
２　副校長は，学則第９条第２項に掲げる職務のほか，校長の命により，校長の職務を補佐し，校長が不在のときは，その職務を代行する。
第４条　本校に校長補佐を置き，学則第９条第１項に掲げる学生主事及び寮務主事をもつて充てる。
２　校長補佐は，学則第９条第３項又は第４項に掲げる職務のほか，校長の命により，校長の職務を補佐する。
(主事)
第５条　教務主事は教授，学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもつて充てる。
２　主事の任命及び任期は，別に定めるところによる。
(副主事及び主事補)
第６条　教務主事，学生主事及び寮務主事のもとに，それぞれ教務副主事，学生副事及び寮務副主事並びに教務主事補，学生主事補及び寮務主事補を置く。
２　副主事は，教授，准教授又は講師，主事補は，教授，准教授，講師，助教又は助手をもつて充て，校長が任命する。
３　副主事は，主事を補佐し，所掌の業務を処理する。
４　主事補は，上司の命を受け，所掌の業務を処理する。
(専攻科長)
第７条　学則第 40 条に定める専攻科に専攻科長を置き，教授又は准教授をもつて充て，校長が任命する。
２　専攻科長は，校長の命を受け，専攻科の管理，運営に関することを処理する。
(専攻主任)
第８条　専攻科に，機械電気システム工学専攻主任及び建設工学専攻主任（以下「専攻主任」という。）を置く。
２　専攻主任は，教授，准教授又は講師をもつて充て，校長が任命する。
３　専攻主任は，専攻科長を補佐し，所掌の業務を処理する。
(学科長)
第９条　第２条第２項に定める各学科に，それぞれ学科長を置く。
２　学科長は，校長の命を受け，それぞれの学科を代表し，当該学科における次の各号に掲げる事項を処理する。
一　教育計画の立案に関すること。
二　教員の研究，勤務の把握に関すること。
三　学生の教育，指導に関すること。
四　学生の就職斡旋に関すること。
五　学科内の連絡，調整に関すること。
六　その他校長の指示する事項
３　学科長は，教授又は准教授をもつて充て，校長が任命する。
(一般科目教科主任)
第 10 条　一般科目の各教科にそれぞれ教科主任を置く。
２　一般科目教科主任（以下「教科主任」という。）は，各教科ごとに，それぞれの教科を担当する教授，准教授又は講師をもつて充て，校長が任命する。
３　教科主任は，校長の命を受け，次の各号に掲げる事項を処理する。
一　教科の指導方針策定に関すること。
二　授業時間割りの作成に関すること。
三　各学科長及び教務委員会との連絡調整に関すること。
四　その他校長の指示する事項
(図書館長)
第 11 条　本校に，図書館を置き，図書館長を置く。
２　図書館長は，教授又は准教授をもつて充て，校長が任命する。
３　図書館長は，校長の命を受け，図書館の管理，運営に関することを処理する。
４　図書館に関する事項は，別に定める。

（教育相談室長）
第 12 条　本校に，教育相談室を置き，教育相談室長を置く。
２　教育相談室長は，教授又は准教授をもつて充て，校長が任命する。
３　教育相談室長は，校長の命を受け学年主任及び学級担任と連絡を密にし，学生の生活指導等に関することを処理する。
４　教育相談室に関する事項は，別に定める。
（専攻科長等の任期）
第 13 条　第７条から第 12 条に掲げる職務の任期について，専攻科長及び学科長は２年，それ以外の職務は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（学級担任及び学年主任）
第 14 条　各学級ごとに，学級担任を置く。
２　学級担任は，教授，准教授，講師又は助教をもつて充て，校長が任命する。
３　学級担任は，校長の命を受け，各主事，学級所属の学科長及び当該学年の学年主任と連絡を密にし，学級における次の各号に掲げる事項を処理する。
一　教務に関すること。
二　学生指導に関すること。
三　特別活動に関すること。
四　管理運営に関すること。
五　その他校長の指示する事項
第 15 条　第１学年，第２学年及び第３学年にそれぞれ学年主任を置く。
２　学年主任は，当該学年の学級担任のうちから校長が任命する。
３　学年主任は，校長の命を受け，各主事及び当該学年の学級担任と連絡を密にし，担当する学年の運営に関することを処理する。
第 16 条　学級担任及び学年主任の任期は，１年とする。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
(学内共同利用施設長)
第 17 条　本校に，学内共同利用施設として，次の施設を置き，それぞれに施設長を置く。
コンピュータサイエンスセンター
高機能化技術教育研究センター
２　学内共同利用施設及び施設長に関する事項は，別に定める。

第４章　会議

第 18 条　本校に，企画運営会議及び教員会議を置く。
２　企画運営会議及び教員会議に関する事項は，別に定める。
３　各学科の運営及び連絡調整等のため，学科会議を置き，各学科長が招集する。

第５章　委員会等

第 19 条　本校に委員会等を置く。
２　委員会等に関する事項は別に定める。

附則
１　この規則は，平成 16 年４月１日から施行する。
２　この規則の施行日の前日に残任期間のある専攻科長及び学科長の任期は，第 13 条の規定にかかわらず，なお従前のとおりとする。
３　高松工業高等専門学校内部組織規則（昭和 63 年２月 22 日制定）は廃止する。

附則
この規則は，平成 19 年４月１日から施行する

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－②－３　高松工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

高松工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

平成１８年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第９条、第１１条及び高松工業高等専門学校学則第１１条の規定に基づき、高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。

（組織）

第２条　本校に事務部を置く。

２　事務部に総務課、学生課、施設課及び企画室を置く。

３　課及び室に係を置く。

４　学生課に技術支援室を置く。

（職制）

第３条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を掌理する。

第４条　課に課長を置く。

２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第５条　課に課長補佐を置くことができる。

２　課長補佐は、課長を補佐し、課の事務を処理する。

第６条　企画室に室長を置く。

２　室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

第７条　技術支援室に技術専門員及び技術専門職員を置くことができる。

２　技術専門員は、上司の命を受け、極めて高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

３　技術専門職員は、上司の命を受け、高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

第８条　係に係長を置く。

２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第９条　課及び室に主任を置くことができる。

２　主任は、上司の命を受け、課又は室の事務を処理する。

第10条　課員又は室員は上司の命を受け、課又は室の事務に従事する。

第11条　技術支援室に室長を置く。

２　室長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

３　室長は、上司の命を受け、技術支援室の事務を処理する。

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－②－４　企画運営会議議題

（第１回）　企　画　運　営　会　議　議　題　等

日　　時　　平成１８年４月３日（月）　　１４：００～

議　　題

前回議事要録の確認

協議・連絡事項

１　奨学寄附金の受入れについて（資料１）

２　校長会議報告について（資料２）

３　ニューサウスウェールズ大学付属語学学校との協定について

４　その他

教員会議報告予定事項

１　教務関係

（１）平成１８年度教務関係重点事項等について（資料電子掲示）

（２）平成１８年度学生数及び学生の去就状況について（教員会議で資料配付）

（３）転科学生について

（４）平成１８年度推薦入学生について（教員会議で資料配付）

（５）評定１・２をもって進級した学生リストについて（教員会議で資料配付）

（６）大掃除実施要領について（教員会議で資料配付）

（７）ＨＲ教室配置図について（資料電子掲示）

（８）その他

２　学生関係

（１）学生指導に関する事項（教員用）について（教員会議で一部資料配布、資料電子掲示）

（２）平成１８年度の定期健康診断等の日程及び担当教員について（教員会議で資料配付）

（３）自転車・バイクの置場について（資料電子掲示）

（４）新入生の中学校クラブ経験歴について（資料電子掲示）

（５）クラブ一斉部会（４月１２日（木））の会場について（資料電子掲示）

（６）平成１７年度卒業生、修了生の進路一覧表について（資料電子掲示）

（７）その他

３　寮務関係

（１）教員の手引き（寮務関係）の一部改定について（手引きの差替え）

（２）平成１８年度寮生数について（資料電子掲示）

（３）その他

４　事務部関係

（１）平成１８年度校務分担表について（資料３）

５　その他

＊１８．４．４（火）の教員会議は９時３０分から開催します。

＊次回の企画運営会議は、１８．４．２７（木）１６時２５分から開催の予定です。

（出典：総務課資料）

資料１１－１－②－５　　事務運営会規程

高松工業高等専門学校事務運営会規程

平成１６年４月１日制定

（設置）

第１条　高松工業高等専門学校に事務の効率的な運営を図ることを目的として高松工業高等専門学校事務運営会（以下「事務運営会」という。）を置く。

（任務）

第２条　事務運営会は、事務部の各課間の連絡を密にし、事務処理上の重要事項について協議する。

（組織）

第３条　事務運営会は、事務部の次に掲げる者をもって組織する。

一　事務部長

二　課長

三　課長補佐、専門員、専門職員、係長並びに技術支援室長及び班長

（運営）

第４条　事務運営会は、事務部長が招集し、その議長となる。

（会議）

第５条　事務運営会は、毎月１回定例会議を開催する。

２　事務部長は、必要があると認めるときは、臨時に会議を開催することができる。

（事務）

第６条　事務運営会の事務は総務課において処理する。

附　則

１　この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

２　高松工業高等専門学校事務運営会規則（昭和６３年４月１日制定）は廃止する。

附　則

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－１－②－６　　事務運営会資料

事　務　運　営　会

平成１９年５月１７日（木）
１６時００分～１７時００分

連絡事項

総　務　課

１　統合再編について

２　環境目的・目標及び実施計画について（資料１）

３　平成１９年度「人間ドック」の実施について（資料２）

４　その他

学　生　課

企　画　室

１　本校の目的等について（資料３）

２　その他

施　設　課

そ　の　他

（出典：総務課資料）

資料１１－１－②－７　委員会規程（例：安全衛生委員会）

高松工業高等専門学校安全衛生委員会規則

平成16年４月１日制定

（趣旨）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第13条の規定に基づき，高松工業高等専門学校安全衛生委員会（以下「委員会」という。）に関し，必要な事項について定めるものとする。

（組織及び任期）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

一　校長

二　事務部長

三　衛生管理者

四　安全管理者

五　産業医

六　教職員で衛生又は安全に関し経験を有するもののうちから校長が指名した者

２　校長は，前項第３号から第６号までの委員の半数については，本校の教職員の過半数を代表する者の推薦に基づき指名する。

３　第１項第６号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。

４　補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第３条　委員会に委員長を置き，第２条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員会は，原則として月１回開催するものとし，委員長が招集する。ただし，委員長が必要と認めたときは，臨時に開催する。

（委員以外の者の出席）

第４条　委員会は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（事務）

第５条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（その他）

第６条　この規則に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附　則

１　この規則は，平成16年４月１日から施行する。

２　高松工業高等専門学校健康安全管理細則（昭和49年４月１日制定）は，廃止する。

附　則

この規則は，平成18年４月１日から施行する。

（出典：高松工業高等専門学校規則）

観点１１－１－③：　管理運営の諸規定が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営については，高松工業高等専門学校学則，高松工業高等専門学校内部組織規則，事務組織及び事務分掌規程，高松工業高等専門学校企画運営会議規程，教員会議規程，各種委員会規程，事務運営会規程等，諸規程が整備されている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

管理運営に必要な諸規定は適切に整備されている。学則を始めとする諸規定、教員の校務分掌及び事務職員の事務分掌についても適切に定められている。

観点１１－２－①：　外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

平成１１年度に本校の現状や将来取り組むべき事柄などについて，外部有識者から意見・提言を求め，今後の学校運営の改革に活かすことを目的として「企業との懇談会」を開催した。１回目の討議を踏まえ，２回目では本校と地域社会との連携について具体的要望が寄せられ，より一層の産学官交流の推進を図ることとなった。

平成１５年度からは「有識者懇話会」（平成１８年度からは「運営懇話会」に改称）（資料１１－２－①－１～４）を開催し，各界の有識者から広く意見要望等を集めるとともに，その提言については，企画運営会議・各種委員会等で実現に向けて改善策を検討している（資料１１－２－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

外部有識者の意見を適切な形で管理運営に反映させるシステムが存在している。

「運営懇話会」等外部有識者からの提言については，企画運営会議，各委員会等で実現に向けて改善策を検討している。

資料１１－２－①－１　高松工業高等専門学校有識者懇話会要項

高松工業高等専門学校有識者懇話会要項

（目的）
第１条　学外有識者の意見・助言を広く求めることにより，本校の学校運営の改善に資
することを目的として高松工業高等専門学校有識者懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

（委員）
第２条　懇話会の委員は，人格見識が高く，かつ，本校の振興発展に関心と理解のある
学外者のうちから，校長が委嘱する。
２　委員の任期は平成１６年３月３１日までとする。

（懇話会の開催）
第３条　懇話会は，必要に応じて開催する。

（事務）
第４条　懇話会に関する事務は，庶務課において処理する。

附　則
この要項は，平成１６年２月１７日から施行する。

（出典：企画室資料）

資料１１－２－①－２　高松工業高等専門学校有識者懇話会報告書

高松工業高等専門学校
有識者懇話会報告書
［第１回・第２回］

高松工業高等専門学校

目　　次

まえがき

頁

1　高松工業高等専門学校有識者懇話会　（ 平成１７年２月３日）

・議事次第　・・・・・・・・・・・・・・・　1

・議事概要　・・・・・・・・・・・・・・・　2

・出席者名簿　・・・・・・・・・・・・・・・　１０

・資料（試行的自己評価書　５６頁　概要レジメ　６頁）

2　高松工業高等専門学校有識者懇話会（平成１６年３月９日）

・議事次第　・・・・・・・・・・・・・・・　１１

・提言及び助言　・・・・・・・・・・・・・・・　１２

・出席者名簿　・・・・・・・・・・・・・・・　１３

・資料（概要レジメ　２５頁）

3　高松工業高等専門学校有識者懇話会要領　・・・・・・・・・・・・・・・　１４

（出典：企画室資料）

資料１１－２－①－３　高松工業高等専門学校運営懇話会要項

高松工業高等専門学校運営懇話会要項

（目的）
第１条　学外有識者の意見・助言を広く求めることにより，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学校運営の改善に資することを目的として，高松工業高等専門学校運営懇話会（以下「運営懇話会」という。）を設置する。

（委員）
第２条　運営懇話会の委員は，高等専門学校の教育研究や運営に関し識見を有する学外者のうちから，校長が委嘱する。

２　委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。

（運営懇話会の開催）
第３条　運営懇話会は，必要に応じて開催する。

（事務）
第４条　運営懇話会に関する事務は，企画室において処理する。

附　則
この要項は、平成１８年５月２６日から施行する。

（出典：企画室資料）

資料１１－２－①－４　平成１８年度高松工業高等専門学校運営懇話会議事次第

平成１８年度高松工業高等専門学校運営懇話会議事次第

期日　平成１９年1月３０日
場所　高松高専第一会議室

１．　開　　会

２．　校長あいさつ

３．　出席者紹介

４．　討　　議

５．　閉　　会

資　料

・運営懇話会説明資料
・高松高専要覧２００６
・研究・技術シーズ（Ｉ）
・高松高専学校案内
・高松高専入学案内
・国立高専の整備について
・現役高専生による高専まとめノート

出　　席　　者

【　委　員　】

香川県教育委員会教育長	和 泉 幸 男
（代理出席　　高校教育課長	平 尾 敏 彦）
高松高専同窓会「高松工業会」会長	古 免 靖 敏
四国経済産業局長	塚 本 芳 昭
（代理出席　　地域経済部長	能 登　　靖）
香川県商工会議所連合会専務理事	中 村　　靖
香川県中学校長会会長	牟 禮 良 典
香川大学工学部長	山 崎 敏 範（座長）
(財)かがわ産業支援財団副理事長	横 井　　聰

【　本　校　】

校　長	塩 谷 幾 雄
副校長（教務主事）	鎌 田　　弘
校長補佐（学生主事）	木 原 茂 文
校長補佐（寮務主事）	坂 本 具 償
校長補佐（国際交流・地域連携担当）	土 居 正 信
校長補佐（将来計画担当）	吹 田 義 一
専攻科長	山 内 庄 司
一般教育科長	権 藤 典 明
機械工学科長	岡 田 憲 司
電気情報工学科長	原 囿 正 博
制御情報工学科長	平 岡 延 章
建設環境工学科長	長 友 克 寛
事務部長	板 橋 俊 夫
総務課長	宍 戸 好 隆
学生課長	米 山 和 行
施設課長	藏 田 兼 義

（出典：企画室資料）

資料１１－２－①－５　有識者懇話会における提言等

有識者懇話会における提言等

１．　入学定員について

２．　推薦入学の基準について

３．　英語力，ボランティア活動，長期インターンシップ等について

４．　理工系離れについて

５．　産学連携について

６．　高松高専のアピールについて

７．　香川大学との連携について

８．　中学校との連携について

９．　今後の高松高専の在り方について

有識者懇話会における提言等

１　入学定員について

・　高専の役割・使命との関連で現行の入学定員について検討してほしい。

（対応）

昨年秋，国立高専機構において「国立高専の整備について」がとりまとめられ，準学士課程（本科）の抑制基調での見直し，専攻科課程の充実等の方向性が示されたところである。これに基づき　各高専において，現在検討を進めているところである。

２　推薦入学の基準について

・　推薦入学の推薦基準（出身中学の学内１割以内）が厳しい。かなり優秀でないと推薦できない。

（対応）

推薦入学における推薦要件については，平成１７年度までは，中学校第２学年及び第３学年の２学期までの総合成績が上位１０％以内である者としていたが，平成１８年度募集からは，中学校第２学年及び第３学年における５教科の５段階評定の合計が４２以上，または音楽，美術，保健体育，技術・家庭を加えた９教科の５段階評定の合計が７６以上である者と改めた。

３　英語力，ボランティア活動，長期インターンシップ等について

・　高専卒業生の質が低下傾向にある。英語力，交渉力についても十分教育してほしい。
・　語学について，学生の能力を引き出す教育をお願いしたい。
・　地域でのボランティア活動の参加，企業での長期インターンシップについて検討願いたい。

（対応）

・　高専教育の質的向上に向けて，教員の指導法改善のための研修・教員相互の授業参観の実施，マルチメディア教室の活用などの工夫を行うとともに，基礎学力定着のために「総合演習」を授業時間割に取り入れるなどの取り組みを行っている。
・　語学教育に関しては，ネイティブスピーカーの活用，少人数教育の実施などにより論理的なコミュニケーション能力の育成に努めている。また，平成１８年度から（株）タダノからの助成を受けて海外語学研修を開始し，１５名がオーストラリアでの語学研修に参加した。
・　ボランティア活動については，学生会の活動など学生の自主的な取り組みにゆだねており，高専として特に関与していない。インターンシップについては，４年生の選択科目「校外実習」（企業で３０時間以上の実習を行う。１単位）として行われている。

４　理工系離れについて

・　理工系離れは深刻な問題。学生の意欲がないといくら教育しようとしても難しい。

（対応）

本校では，学生祭の開催に合わせて小・中学生を対象としたサイエンスフェスタを開催するとともに，市内商店街や小学校でのミニサイエンスフェスタの実施などを通じて身近に科学に接する機会やものづくり体験を提供し，理科離れの防止に資する活動を行うよう努めている。

５　産学連携について

・　産学連携が重要であり，教員が何らかの形で地元産業界とかかわっていくことが，高専の必要性に結びつくのではないか。

（対応）

これまでも，企業との共同研究・受託研究の実施，地域の産業振興を推進するため企業技術者の再教育として，高度技術者養成研修を実施してきたところであるが，企業との協定に基づき企業に出向き研究者・技術者の教育，育成のため指導を行うような活動にも取り組んでいる。

６　高松高専のアピールについて

・　高松高専のがんばりが学外の方々に認知されていない。もっと積極的にアピールする必要がある。

（対応）

本校の人的資源を活用して，共同研究等による産学連携の推進，公開講座の実施，サイエンスフェスタの開催，出前授業を実施するなどにより，高松高専の存在を学外にアピールする取り組みを地道に行っている。ホームページ等による情報発信についても改善をしていきたい。

７　香川大学との連携について

・　地元の工学系教育機関として香川大学と高松高専間も今後連携を深めてはどうか。

（対応）

学生の教育に関しては，平成１６年度から相互単位互換協定に基づき，本校の学生が香川大学の授業科目を履修している。

８　中学校との連携について

・　中学生の状況の把握等のためにも，中学校教員の研究会等への参加を検討いただきたい。

（対応）

本校の教員が，香川県教育センターで行われる中・高校教員対象の研修などに参加することもあり，今後とも情報提供願えれば参加について検討していきたい。

９　今後の高松高専の在り方について

・　高松高専の在り方として，現状（進学率の上昇，半数が進学）をどのように評価し，今後どのような方向をとるのか。これまでの在り方を守るのか，変えるのか

（対応）

「国立高専の整備について」では，専攻科の拡充の方向性が示されており，本校においても将来計画委員会を立ち上げ，検討を開始したところである。

（出典：企画室資料）

観点１１－３－①：　自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成４年度から，教務主事が中心となり３冊の自己点検・評価報告書を作成した。その後，平成７年度に点検・評価委員会が設置され，点検・評価を担当することとなり，８冊の自己点検・評価報告書（資料１１－３－①－１）を作成した。更に，平成１６年度には，学位授与機構の機関別認証評価の評価基準に基づき高松高専の活動に対して総合的な評価を行い，試行的自己評価書（資料１１－３－①－２）を作成した。

上記報告書は，すべて冊子に纏められ公表されている。

平成１５・１６年度には有識者懇話会を開催した。特に平成１６年度に開催した第二回目の懇話会は，前述の試行的自己評価書に基づき，それをより深く掘り下げて外部有識者の声を聞くべく開催されたものである。有識者懇話会については，前述のとおり，有識者懇話会報告書（資料１１－３－①－３）を作成し公表している。平成１８年度には地域連携について学外有識者の意見を伺い，高松高専の更なる活性化に資すべく運営懇話会を開催した（資料１１－３－①－４）。

平成１６年度には，本校専攻科教育の実施状況等について，大学評価・学位授与機構から書類審査を受け，適正な専攻科教育の実施状況が認められた。平成１７年度には，本校の各学科に対応した４つの技術者教育プログラムのうち３プログラムが，第三者の認証機関である日本技術者教育認定機構の審査を受審し，認定を受け，平成１８年度には残りの１プログラムを受審し，認定された。

平成１７年度からは，技術者教育推進委員会が自己点検・評価を担当することとしたが，高松高専の活動に対して更に総合的な自己点検・評価を行うべく，平成１９年度からは，新たに設置された自己点検・評価委員会がこれを担う。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

本校の自己点検・評価（や第三者評価）は、本校の活動の総合的な状況に対して行われ，それらの評価結果は公表されている。

現在までに作成された１１冊の自己点検・評価報告書は，教育研究から学生支援、管理運営の状況にまでわたる総合的なものであり，それらすべては冊子に纏められ公表されている。

平成１６年度に作成した試行的自己評価書は，学位授与機構の機関別認証評価のすべての評価基準に沿って作成され，高松高専の活動状況に対し総合的な点検評価を行ったものであり，結果は冊子に纏められ公表されている。

平成１５年度からは有識者懇話会を，平成１８年度からは運営懇話会を開催し、有識者懇話会報告書を作成し公表している。

資料１１－３－①－１　自己点検・評価報告書 １１

各種委員会の現状と課題

自己点検･評価報告書11

高 松 工 業 高 等 専 門 学 校

目　　次

教務委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

カリキュラム特別委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・　7

厚生補導委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

寮務委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

将来計画委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

入試運営委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

外国人留学生委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

研究委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

図書館情報管理運営委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・　３５

教育相談室点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

専攻科委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

広報委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

公開講座委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

ＪＡＢＥＥ委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５

コンピュータサイエンスセンター運営委員会点検・評価　・・・・　５７

高機能化技術教育研究センター運営委員会点検・評価　・・・・・　６５

施設管理運営委員会点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・　６７

（出典：企画室資料）

資料１１－３－①－２　試行的自己評価書

試行的自己評価書

大学評価・学位授与機構が実施する機関別認証評価の評価基準（基準１～１１）に基づき、平成１７年１月現在の高松高専の現状について試行的自己評価書を作成した。

各基準については、観点ごとに自己評価を実施し、

①観点にかかる状況（現在の状況を分析し、必要に応じて過去にも遡及）

②分析結果（「優れている」、「相応である」、「一部問題がある」、「問題がある」の４段階で自己評価）

③根拠理由（分析結果を導いた理由、根拠資料・データ等）

の３段階で記述した。

平成１７年 １ 月

高松工業高等専門学校

目　　次

評　価　基　準		ページ
【目的】		
基準 １	高等専門学校の目的	１
【教育活動】		
基準 ２	教育組織（実施体制）	４
基準 ３	教　員	８
基準 ４	学生の受入	１２
基準 ５	教育内容及び方法	１５
基準 ６	教育の成果	２４
【教育・学習サポート体制】		
基準 ７	学生支援等	２８
基準 ８	施設・設備	３９
【改善システム】		
基準 ９	教育の質の向上及び改善のためのシステム	４５
【高専全体の運営活動】		
基準１０	財　務	４９
基準１１	管理運営	５１

（出典：企画室資料）

１１－３－①－３　高松工業高等専門学校有識者懇話会報告書

高松工業高等専門学校
有識者懇話会報告書

［第１回・第２回］

高松工業高等専門学校

目　　次

まえがき

頁

1　高松工業高等専門学校有識者懇話会　（ 平成１７年２月３日）

・議事次第　・・・・・・・・・・・・・・　1

・議事概要　・・・・・・・・・・・・・・　2

・出席者名簿　・・・・・・・・・・・・・・　１０

・資料（試行的自己評価書　５６頁　概要レジメ　６頁）

2　高松工業高等専門学校有識者懇話会（平成１６年３月９日）

・議事次第　・・・・・・・・・・・・・・　１１

・提言及び助言　・・・・・・・・・・・・・・　１２

・出席者名簿　・・・・・・・・・・・・・・　１３

・資料（概要レジメ　２５頁）

3　高松工業高等専門学校有識者懇話会要領　・・・・・・・・・・・・・・　１４

（出典：企画室資料）

資料１１－３－①－４　高松工業高等専門学校運営懇話会議事次第

平成１８年度高松工業高等専門学校運営懇話会議事次第

期日　平成１９年1月３０日
場所　高松高専第一会議室

１．　開　　会

２．　校長あいさつ

３．　出席者紹介

４．　討　　議

５．　閉　　会

資　料

・運営懇話会説明資料
・高松高専要覧２００６
・研究・技術シーズ（Ｉ）
・高松高専学校案内
・高松高専入学案内
・国立高専の整備について
・現役高専生による高専まとめノート

出　　席　　者

【　委　員　】

香川県教育委員会教育長	和 泉 幸 男
（代理出席　　高校教育課長	平 尾 敏 彦）
高松高専同窓会「高松工業会」会長	古 免 靖 敏
四国経済産業局長	塚 本 芳 昭
（代理出席　　地域経済部長	能 登　　靖）
香川県商工会議所連合会専務理事	中 村　　靖
香川県中学校長会会長	牟 禮 良 典
香川大学工学部長	山 崎 敏 範（座長）
(財)かがわ産業支援財団副理事長	横 井　　聰

【　本　校　】

校　長	塩 谷 幾 雄
副校長（教務主事）	鎌 田　　弘
校長補佐（学生主事）	木 原 茂 文
校長補佐（寮務主事）	坂 本 具 償
校長補佐（国際交流・地域連携担当）	土 居 正 信
校長補佐（将来計画担当）	吹 田 義 一
専攻科長	山 内 庄 司
一般教育科長	権 藤 典 明
機械工学科長	岡 田 憲 司
電気情報工学科長	原 囿 正 博
制御情報工学科長	平 岡 延 章
建設環境工学科長	長 友 克 寛
事務部長	板 橋 俊 夫
総務課長	宍 戸 好 隆
学生課長	米 山 和 行
施設課長	藏 田 兼 義

（出典：企画室資料）

観点１１－３－②：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

管理運営については，評価結果は，自己点検・評価委員会（資料１１－３－②－１）が中心となり現状分析を行い，各種委員会等の関係する被評価対象部門の責任者へ通知されると共に，企画運営会議へ提出されることとなっている。その後，企画運営会議での審議，各種委員会での検討を経て，改善策が指示される。各種委員会は現状分析を確認し，今後の対応を検討，改善案を作成する。改善案は再度企画運営会議の審議を経た後，改善策が決定され，実行に移される（資料１１－３－②－２）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

評価結果については，校長のリーダーシップの下，企画運営会議での審議，各種委員会での検討を経て，改善策について指示がなされ，改善案が作成される。改善案は，再度企画運営会議での審議を経て決定，実行に移されることとなっており，有効なフィードバックと改善に結び付けるシステムが整備され，有効に運営されている。

資料１１－3－②－１　高松工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程

高松工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程

平成 19 年２月８日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，高松工業高等専門学校内部組織規則第 19 条第２項の規定に基づき，高松工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

２　委員会は，高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究水準の向上を図り，本校の目標及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について自ら点検・評価（以下「自己点検・評価」という。）を行うことに関し必要な事項について審議するものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議するものとする。

一　自己点検・評価の項目に関すること。

二　自己点検・評価の実施に関すること。

三　自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関すること。

四　自己点検・評価の結果の活用に関すること。

五　その他自己点検・評価に関すること。

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　校長が指名した企画運営会議の委員

二　校長が指名した一般教育科及び各学科の教員　若干名

三　校長が指名した職員　若干名

２　委員は，校長が委嘱する。

３　第１項第２号及び第３号の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

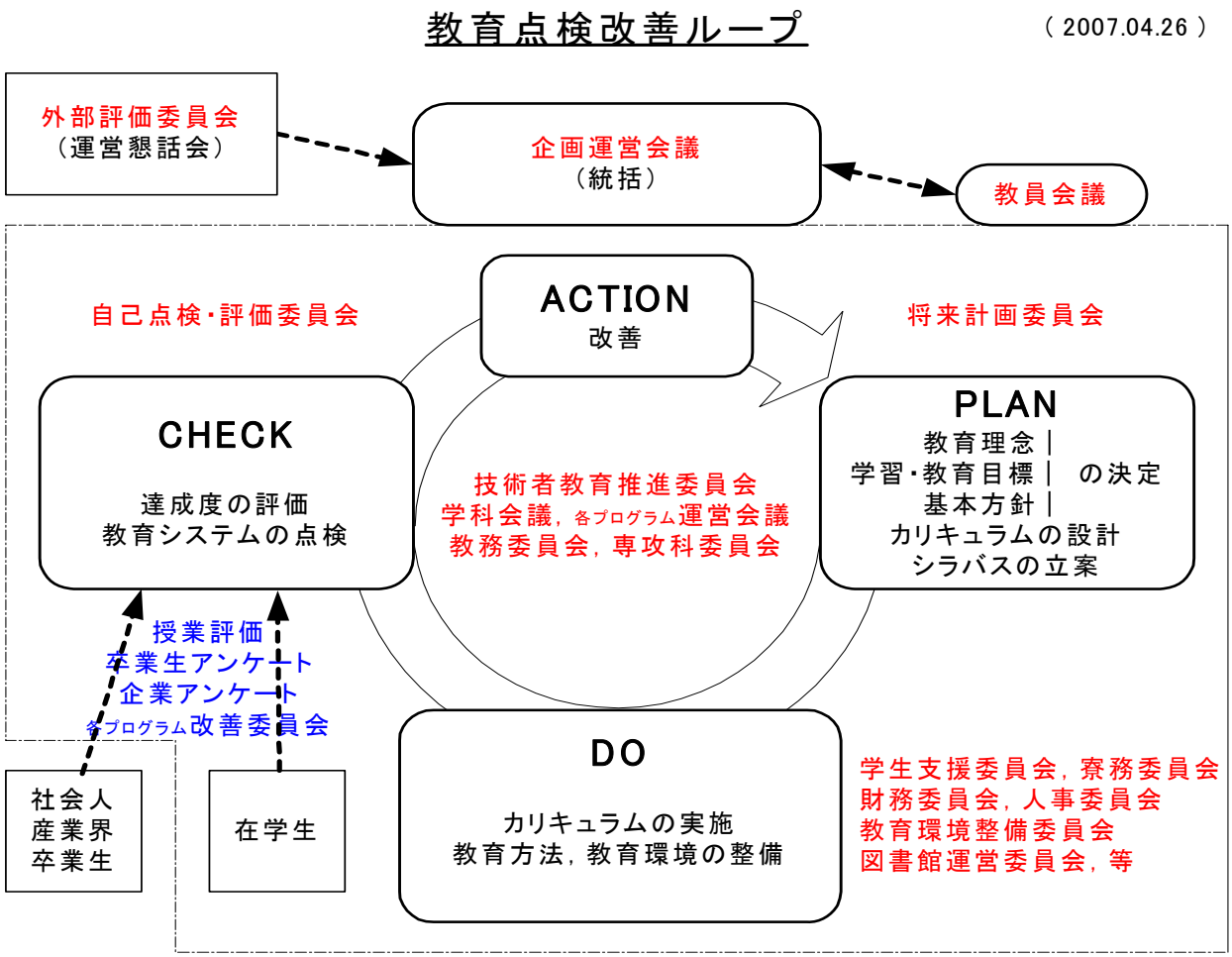
３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

（以下省略）

（出典：高松工業高等専門学校規則）

資料１１－3－②－２　教育点検改善ループ



（出典：2007 年度学校要覧）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

継続して自己点検・評価を行い，現在までに１１冊の報告書を作成している。その評価項目は本校の活動すべてにわたる総合的なものであり，それらすべては冊子に纏められ公表されている。外部評価に関する運営懇話会等も開催している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１１の自己評価の概要

校長，各主事，委員会等の役割を明確に定めており，本校の目的を達成するために，校長のリーダーシップの下，効果的な意思決定が行える態勢となっている。管理運営に関する各種委員会及び事務組織等は，その役割を規則に定め，適切に役割を分担し，効果的に活動している。

運営懇話会等，外部有識者の意見を適切な形で管理運営に反映させるシステムが存在し，評価結果が本校の目的達成のために必要な改善につながるようなフィードバックシステムが整備されている。自己点検・評価及び第三者評価は，本校活動の総合的な状況に対して行われ，印刷物，ホームページ等で公表されている。